

# 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅹ

北 前 田 遺 跡 Ⅰ

北 新 田 遺 跡 Ⅰ

2 0 0 8

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 北陸新幹線関係発掘調査報告書X

きた まえ だ 遺 跡 I  
きた しん でん 遺 跡 I

2 0 0 8

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 序

北陸新幹線は、東京を基点に上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を経て大阪市に至る工事延長600kmの新幹線鉄道です。全線開通により、北陸地方と関東圏・関西圏は短時間で結ばれ、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

本書は、この北陸新幹線建設に伴って実施した上越市大字上中田に所在する北前田遺跡、同じく大字荒町に所在する北新田遺跡の発掘調査報告書です。

発掘調査の結果、北前田遺跡では弥生時代・古墳時代・古代の遺物が出土し、古墳時代・古代の遺構が見つかりました。これらの遺構・遺物から、古墳時代から古代にかけて断続的に小さな村が営まれていたものと思われま

す。また、北新田遺跡では縄文時代から中世までの様々な時期の遺構・遺物が見つかりました。これらの遺構・遺物から古墳時代から、中世にかけての集落遺跡と判明し、7世紀初めから中ごろと9世紀中ごろに集落規模が大きくなることも分かりました。

これらの発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に対し、多大なご協力とご理解を賜りました上越市教育委員会、並びに地元の方々、また発掘調査から本書の作成まで格別なご配慮を賜りました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北陸新幹線建設局、同上越鉄道建設所に対し厚くお礼を申し上げます。

平成20年11月

新潟県教育委員会

教 育 長 武藤 克己

## 例 言

- 1 本報告書は、新潟県上越市大字上中田字北前田472番地ほかに所在する北前田遺跡、同じく大字荒町字北新田313番地ほかに所在する北新田遺跡の発掘調査記録である。
- 2 この調査は北陸新幹線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道運輸機構）から受託したものである。
- 3 発掘調査は県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社ノガミに委託し、埋文事業団の管理・監督のもと平成19年4月から12月にかけて株式会社ノガミが実施した。発掘調査面積は北前田遺跡が3,110m<sup>2</sup>、北新田遺跡が6,550m<sup>2</sup>である。
- 4 整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成19年度に埋文事業団の管理・監督のもと株式会社ノガミがこれにあたった。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含観察データ）は、一括して県教委が保管・管理している。データの有無や閲覧希望者は、県教委に問い合わせ願いたい。
- 6 遺物の注記は北前田遺跡の略記号を「07北マエ」、北新田遺跡の略記号は「07北シン」として、遺構名、出土地点や層位等を併記した。
- 7 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 8 遺物番号は種別に係りなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 9 本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 10 自然科学分析（放射性炭素年代測定・珪藻分析・花粉分析・樹種同定植物珪酸体分析）はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行い、原稿は再編集したものを掲載した。
- 11 遺物実測図のデジタルトレースは、株式会社セビアスに委託した。
- 12 遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してデジタルトレースとDTPソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 13 本書の執筆は高橋保雄（埋文事業団調査課課長代理）の指導のもと、金内 元（株式会社ノガミ埋蔵文化財調査部 調査員）、小村正之（同 調査員）、鈴木文夫（同 調査員）、大谷祐司（同 調査補助員）、秋山泰利（同 調査補助員）、本田仁美（同 調査補助員）、田中一穂（埋文事業団調査課嘱託員）がこれにあたり、編集は金内が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。  
第I章1…高橋、2・3…金内  
第II章1…小村、2…秋山  
第III章1・2…小村、3…金内・小村・鈴木・秋山、4・5…金内  
第IV章1・2…秋山、3…金内・小村・鈴木・大谷・秋山、4A・B…金内、4C～E…本田、5…千葉 博俊・齊藤 崇人・伊藤 良永・馬場 健司・高橋 敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）、6A～D…金内、6E…田中
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々および機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。（敬称略 五十音順）  
相田 泰臣 相羽 重徳 長田 友也 小池 義人 酒井 和男 笹沢 正史 実川 順一  
高浜 信行 長沢 展生 中西 聡 中村 由克 野水 晃子 野村 忠司 秦 繁治  
古沢 妥史 水沢 幸一  
上越市大字上中田町内会 上越市大字大和三丁目町内会 上越市教育委員会 上越市土地開発公社  
上越市都市整備部新幹線建設対策課

# 目 次

第 I 章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査と整理の経過	1
3 調査・整理体制	5
第 II 章 遺跡の位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	9
第 III 章 北前田遺跡	12
1 グリッドの設定	12
2 基本層序	13
3 遺 構	14
A 概 要	14
B 記述方法	14
C A地区遺構各説	16
D B地区遺構各説	19
4 遺 物	21
A 概 要	21
B 土器分類	22
C 土器・陶磁器	28
D 石器・石製品	31
5 小 結 ー北前田遺跡における遺構の変遷ー	32
第IV章 北新田遺跡	37
1 グリッドの設定	37
2 基本層序	38
3 遺 構	39
A 概 要	39
B 遺構各説	39
4 遺 物	71
A 概 要	71
B 土器・土製品・陶磁器	72
C 石器・石製品	80
D 金属製品	82
E 木 製 品	82

5 自然科学分析	82
A 試料	82
B 分析方法	83
C 結果	85
D 考察	88
6 まとめ	92
A 北新田遺跡における遺構の変遷	92
B SI201について	95
C 古墳時代後期の竪穴住居出土土器の機能別構成比率について	96
D 古代の掘立柱建物について	98
E 墨書土器について	101
《要約》	118
《引用・参考文献》	119

## 挿図目次

第1図 北陸新幹線の路線と遺跡の位置	2	第18図 北新田遺跡基本土層図(1)	37
第2図 試掘調査トレンチ位置図	3	第19図 北新田遺跡基本土層図(2)	38
第3図 遺跡とその周辺の地形	8	第20図 北新田遺跡出土土器分布図	73
第4図 遺跡と旧河川流路図	8	第21図 SD1220 2地点模式柱状図	86
第5図 高田平野における遺跡分布	11	第22図 SD1220の主要珪藻化石群集の層位分布	86
第6図 北前田遺跡グリッド設定図	12	第23図 SD1220の花粉化石群集の層位分布	86
第7図 小グリッド模式図	12	第24図 SD1220の植物珪酸体含量の層位的変化	90
第8図 北前田遺跡基本土層図	13	第25図 珪藻化石・植物珪酸体	91
第9図 遺構の平面形状の分類	15	第26図 花粉化石	91
第10図 遺構の断面形状の分類	15	第27図 北新田遺跡における遺構の変遷	93
第11図 覆土の堆積形状の分類	15	第28図 器種構成比率	96
第12図 北前田遺跡出土土器分布図	23	第29図 機能別構成比率	97
第13図 器種分類図(弥生時代後期～古墳時代前期)	24	第30図 古代の掘立柱建物分類図	99
第14図 器種分類図(古墳時代後期)	26	第31図 墨書土器出土分布図	102
第15図 器種分類図(古代)	27	第32図 墨書土器	103
第16図 北新田遺跡グリッド設定図	37		
第17図 小グリッド模式図	37		

## 表目次

第1表 高田平野における遺跡分布	11	第10表 花粉分析結果	90
第2表 北前田遺跡出土土器種類別重量一覧表	22	第11表 植物珪酸体含量	90
第3表 北前田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表	34	第12表 掘立柱建物属性表	100
第4表 北前田遺跡 土器・陶磁器観察表(1)	35	第13表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(1)	105
第5表 北前田遺跡 土器・陶磁器観察表(2) 及び石器・石製品観察表	36	第14表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(2)	106
第6表 北新田遺跡出土土器種類別重量一覧表	71	第15表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(3)	107
第7表 放射線炭素年代測定結果	86		
第8表 暦年較正結果	86		
第9表 珪藻分析結果	87		

第16表	北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(4)	第21表	北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表(1)
	..... 108		..... 113
第17表	北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(5)	第22表	北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表(2)
	..... 109		..... 114
第18表	北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表(6)	第23表	北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表(3)
	..... 110		..... 115
第19表	畑作溝観察表(1)..... 111	第24表	北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表(4)
第20表	畑作溝(2)・溝観察表..... 112		..... 116
		第25表	北新田遺跡 石器・石製品他観察表... 117

## 図版目次

### [図面図版]

図版 1	北前田遺跡 A地区遺構配置図	468・1401・1402・1470・1472、
図版 2	A地区遺構個別図1 SB38・39・40	SD402・403・408・465・484・1475
図版 3	A地区遺構個別図2 SK9・13・14・	図版 27
15・41・45、SX8、SD2・3・4・5		北新田遺跡 遺構分割図5
図版 4	北前田遺跡 B地区遺構配置図	図版 28
図版 5	北前田遺跡 B地区遺構分割図	遺構個別図11 SI1403、SX1418・1419、
図版 6	B地区遺構個別図1 SB98・99・100	SB1408、SD1407
図版 7	B地区遺構個別図2 SK57・60・91・	図版 29
92・105、SX55・59、SD51・54・		北新田遺跡 遺構分割図6
58・87・88、P75		図版 30
図版 8	A地区遺構出土土器・A地区河川跡出土土	遺構個別図12 SI601・833、SX843
器1		図版 31
図版 9	A地区河川跡出土土器2	遺構個別図13 SI1053・1054
図版 10	A地区河川跡出土土器3	図版 32
図版 11	B地区遺構出土土器・遺構外出土土器・石	遺構個別図14 SK821・823・824・
器・石製品		826・1174、SD1009・1010・1011
図版 12	北新田遺跡 遺構配置図	図版 33
図版 13	北新田遺跡 遺構分割図1	北新田遺跡 遺構分割図7
図版 14	北新田遺跡 遺構分割図2	図版 34
図版 15	遺構個別図1 SI1180・P1251、SX1268	遺構個別図15 SI930・931
図版 16	遺構個別図2 SI1058	図版 35
図版 17	遺構個別図3 SI1058・1185	遺構個別図16 SB811・928
図版 18	遺構個別図4 SI1166、SB622・1172・	図版 36
1171		遺構個別図17 SB945・946
図版 19	遺構個別図5 SB1042、SK1059・1112	図版 37
図版 20	遺構個別図6 SB1298、SE1077、	遺構個別図18 SB947・948
SK750・1025・1032・1045・1060		図版 38
図版 21	遺構個別図7 SK1069・1071・1107・	遺構個別図19 SK822・929・951、
1131・1177・1143・1179・1280、		SD555・556・557・558・582・
SX1186、SD605・609・610		782・789・913・914
図版 22	北新田遺跡 遺構分割図3	図版 39
図版 23	遺構個別図8 SI570	北新田遺跡 遺構分割図8
図版 24	遺構個別図9 SB1297・1460、SK613・	図版 40
615、SD616		遺構個別図20 SI201
図版 25	北新田遺跡 遺構分割図4	図版 41
図版 26	遺構個別図10 SB1484、SK466・467・	遺構個別図21 SI202・469・871
468・1401・1402・1470・1472、		図版 42
SD402・403・408・465・484・1475		遺構個別図22 SB1240・1513・1521
図版 27	北新田遺跡 遺構分割図5	図版 43
図版 28	遺構個別図11 SI1403、SX1418・1419、	遺構個別図23 SB937・938
SB1408、SD1407		図版 44
図版 29	北新田遺跡 遺構分割図6	遺構個別図24 SB884・935・936
図版 30	遺構個別図12 SI601・833、SX843	図版 45
図版 31	遺構個別図13 SI1053・1054	遺構個別図25 SE870、SK297・354・
図版 32	遺構個別図14 SK821・823・824・	409・428・885・889・890・915・
826・1174、SD1009・1010・1011		1429、SX886、SD358・406・407・
図版 33	北新田遺跡 遺構分割図7	866・867・868・869・900
図版 34	遺構個別図15 SI930・931	図版 46
図版 35	遺構個別図16 SB811・928	北新田遺跡 遺構分割図9
図版 36	遺構個別図17 SB945・946	図版 47
図版 37	遺構個別図18 SB947・948	遺構個別図26 SI848、SK865・887、
図版 38	遺構個別図19 SK822・929・951、	SD846
SD555・556・557・558・582・		図版 48
782・789・913・914		遺構個別図27 SI847、SB962・1507・
図版 39	北新田遺跡 遺構分割図8	1528
図版 40	遺構個別図20 SI201	図版 49
図版 41	遺構個別図21 SI202・469・871	遺構個別図28 SB1430・1444
図版 42	遺構個別図22 SB1240・1513・1521	図版 50
図版 43	遺構個別図23 SB937・938	遺構個別図29 SK844・857・1420・
図版 44	遺構個別図24 SB884・935・936	1421・1425・1426・SD845
図版 45	遺構個別図25 SE870、SK297・354・	図版 51
409・428・885・889・890・915・		北新田遺跡 遺構分割図10
1429、SX886、SD358・406・407・		
866・867・868・869・900		

- 図版 52 遺構個別図 30 SB1578、SE1564・1574・1575
- 図版 53 遺構個別図 31 SE1552、SK1303・1563、TP1304・1305、SD1302・1551
- 図版 54 北新田遺跡 遺構分割図 11
- 図版 55 遺構個別図 32 SI825、SB842
- 図版 56 北新田遺跡 遺構分割図 12
- 図版 57 遺構個別図 33 SI203・1201、SB250・270
- 図版 58 遺構個別図 34 SB300・370・1580、SE296
- 図版 59 遺構個別図 35 SK206・221・284・286・400・1203、SD312・313・314・315・317・318・319・320・322・323・324・325・326
- 図版 60 北新田遺跡 遺構分割図 13
- 図版 61 遺構個別図 36 SB961・967、SX958
- 図版 62 遺構個別図 37 SE953・954・955・956・957
- 図版 63 遺構個別図 38 SE964・965・966・999・1000
- 図版 64 北新田遺跡 河川跡 (SD1220) セクション図
- 図版 65 北新田遺跡 遺構出土土器 1 (SI)
- 図版 66 北新田遺跡 遺構出土土器 2 (SI)
- 図版 67 北新田遺跡 遺構出土土器 3 (SI)
- 図版 68 北新田遺跡 遺構出土土器 4 (SI)
- 図版 69 北新田遺跡 遺構出土土器 5 (SI)
- 図版 70 北新田遺跡 遺構出土土器 6 (SI,SB)
- 図版 71 北新田遺跡 遺構出土土器 7 (SB,SE)
- 図版 72 北新田遺跡 遺構出土土器 8 (SE,SK)
- 図版 73 北新田遺跡 遺構出土土器 9 (SK,SX,SD)
- 図版 74 北新田遺跡 河川跡出土土器 1
- 図版 75 北新田遺跡 河川跡出土土器 2
- 図版 76 北新田遺跡 河川跡出土土器 3
- 図版 77 北新田遺跡 河川跡・表土出土土器・石器
- 図版 78 北新田遺跡 石製品・金属製品・木製品
- 図版 85 遺構・河川跡出土土器 1
- 図版 86 河川跡出土土器 2
- 図版 87 土器・石器・石製品
- 図版 88 北新田遺跡 全景、基本層序
- 図版 89 SI1180、SX1268、P1251
- 図版 90 SI1058
- 図版 91 SI1058・1166・1185
- 図版 92 SI570
- 図版 93 SI570・1403、SX1418・1419
- 図版 94 SI601・833・1053
- 図版 95 SI930・1053・1054
- 図版 96 SI201・931
- 図版 97 SI201・202
- 図版 98 SI202・469・871
- 図版 99 SI848
- 図版 100 SI847・848
- 図版 101 SI203・825・1201
- 図版 102 SB622・1171・1172
- 図版 103 SB1042、SK1059・1112
- 図版 104 SB1297・1298・1460・1484、SK750、P738・739・746・747・748・749・751・765
- 図版 105 SB811・928・1408
- 図版 106 SB945・946・947
- 図版 107 SB947・948・1240・1513・1521
- 図版 108 SB937・938・1521
- 図版 109 SB935・936・884
- 図版 110 SB884・962・1507・1528
- 図版 111 SB842・1430・1444・1578
- 図版 112 SB250・270・300・842
- 図版 113 SB300・370・961・967
- 図版 114 SE870・1077・1564・1574
- 図版 115 SE296・1552・1575、SB1580
- 図版 116 SE953・954・955・956
- 図版 117 SE957・964・965・966
- 図版 118 SE999・1000、SK1025・1045
- 図版 119 SK1032・1060・1069・1071・1107・1131・1143、SX1186
- 図版 120 SK613・1177・1179・1280
- 図版 121 SK466・467・468・615・1401、SD616
- 図版 122 SK821・823・1402・1470・1472、SD1475、P1473
- 図版 123 SK821・822・823・824・826・1174
- 図版 124 SK297・354・929・951、SD789
- 図版 125 SK409・428・885・889・890・915、SD406・407、P411
- 図版 126 SK844・857・1425・1429
- [写真図版]
- 図版 79 北前田遺跡 A 地区 全景、基本層序、SB38・39・40
- 図版 80 SB39・40、SK9・13・14・15・45
- 図版 81 SK41、SX8、SD2・3・4・5・31
- 図版 82 北前田遺跡 B 地区 全景、基本層序、SB98・99
- 図版 83 SB100、SK57・60・91・92・105、SD58、P86・106・107
- 図版 84 SX55・59、SD51・54、P75

- |       |  |       |                  |
|-------|--|-------|------------------|
| 図版127 | SK1303・1420・1421・1426                              | 図版135 | 遺構出土土器4          |
| 図版128 | SK206・221・286・400・1563                             | 図版136 | 遺構出土土器5          |
| 図版129 | SK284・400・1203、SX886・958、<br>SD900                 | 図版137 | 遺構出土土器6          |
| 図版130 | SX958、SD782・789・913・1302・<br>1551、P784、TP1304・1305 | 図版138 | 遺構出土土器7          |
| 図版131 | SD322・845・866・1220・1302・<br>1551                   | 図版139 | 遺構出土土器8・河川跡出土土器1 |
| 図版132 | 遺構出土土器1  | 図版140 | 河川跡出土土器2         |
| 図版133 | 遺構出土土器2  | 図版141 | 河川跡出土土器3         |
| 図版134 | 遺構出土土器3  | 図版142 | 河川跡・表土出土土器・石器    |
|       |  | 図版143 | 石器・石製品・金属製品・木製品  |
|       |  | 図版144 | 墨書土器             |

# 第 I 章 序 説

## 1 調査に至る経緯

北陸新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設される新幹線鉄道である。上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を經由し、東京都と大阪市を結ぶ路線である。工事延長600kmのうち、高崎・長野間は既に平成9（1997）年10月に開業している。その後、長野市を基点とし、長野県飯山市を経て上越市に至る長野・上越間の延長60kmは、昭和47（1972）年に基本計画が、翌年に整備計画が決定され、平成10年3月に長野・上越間の工事实施計画が認可された。これを受けて、日本鉄道建設公団（以下「鉄建公団」という）北陸新幹線建設局と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の分布調査・試掘確認調査等に関する協議が本格化した。

平成10年9月、鉄建公団から分布調査の依頼を受けた県教委は、平成10年11月に調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の具体的な規模・内容等は不明であるものの、今後、試掘確認調査を実施して取り扱いを判断する必要があると回答した。平成18年3月、鉄道運輸機構から上越市内の試掘確認調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。平成18年11月に上越市上中田地区の試掘確認調査を実施した結果、3区域から遺構・遺物が認められ、新遺跡として「北前田遺跡」「北新田遺跡」「荒町南新田遺跡」とし、それぞれ周知化した。新幹線本線部分、保守基地、消雪基地の建設予定地からなる北前田遺跡は4,850m<sup>2</sup>、北新田遺跡は6,800m<sup>2</sup>、荒町南新田遺跡は12,350m<sup>2</sup>の本発掘調査が必要であるとした。

試掘調査の結果を受けて、鉄道運輸機構は県教委に対して発掘調査の早期実施を要望した。その結果、平成19年3月、鉄道運輸機構から県教委が受託し、同年4月から埋文事業団が本発掘調査に着手することとなった。

なお、調査は工事工程から2か年とし、平成19年度の調査面積は北前田遺跡2,500m<sup>2</sup>、北新田遺跡6,800m<sup>2</sup>とした。

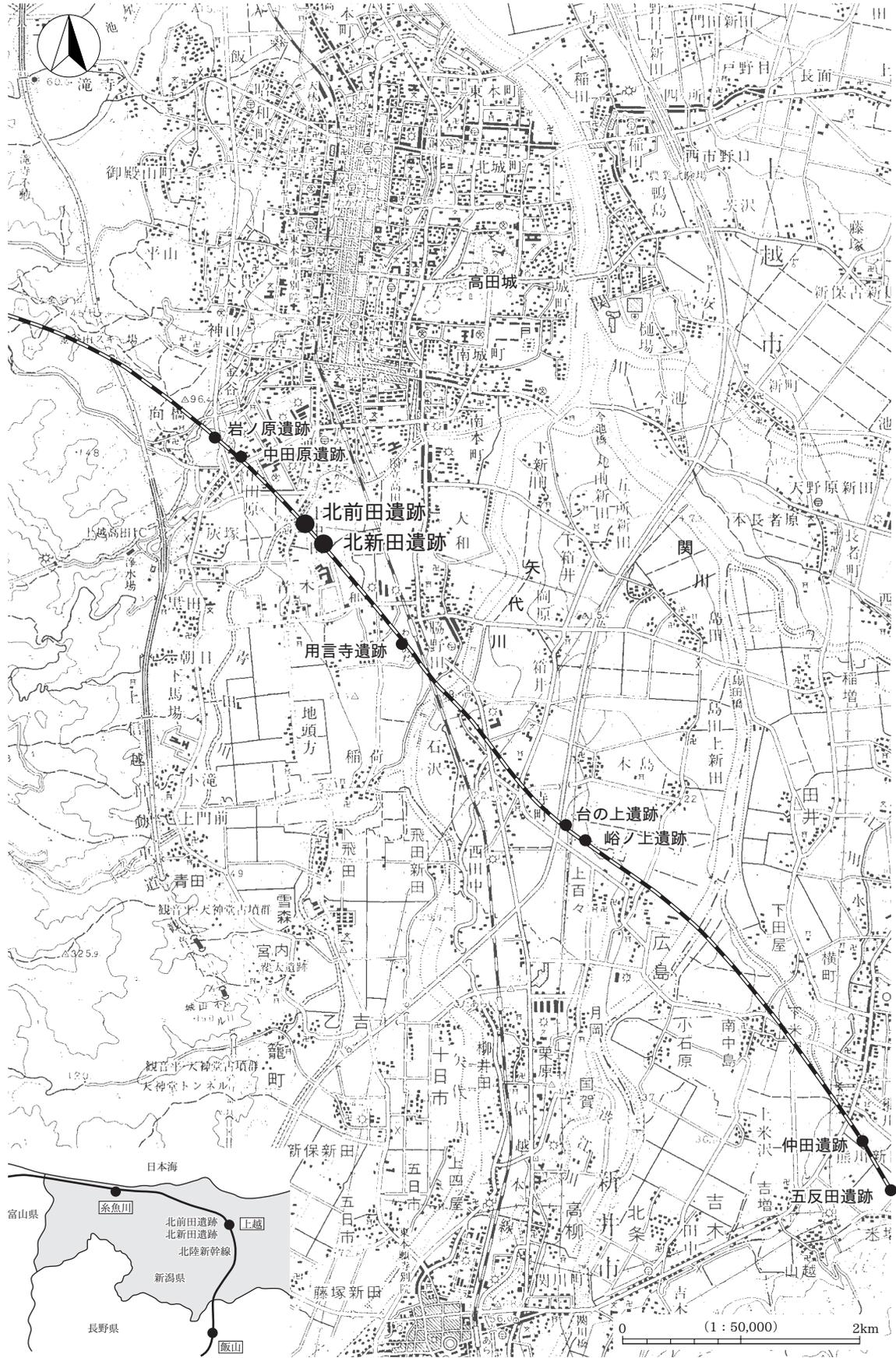
## 2 調査と整理の経過

### A 試掘調査

上中田地区における試掘調査は、面積55,350m<sup>2</sup>を対象に、平成18年11月13～30日までの期間のうち12日間実施した。調査対象範囲にトレンチを任意に設定し（第2図）、バックホー及び人力による掘削・確認を行い、遺構・遺物の有無を調査した。調査の結果、周辺と比べて標高の一段高い約17.5～19.0mの平坦面を中心に遺構・遺物を確認した。これらの平坦面を新遺跡として、北側から「北前田遺跡」「北新田遺跡」「南新田遺跡」と命名した。さらに北前田遺跡と北新田遺跡の間にある平坦面は周知の遺跡である「北田遺跡」の範囲拡大とした。

以下、北前田・北田・北新田遺跡の試掘調査の結果をまとめる。

北前田遺跡 遺構はトレンチ25・28・30・34・37で土坑・溝・ピットを検出し、遺物はトレンチ25



第1図 北陸新幹線の路線と遺跡の位置

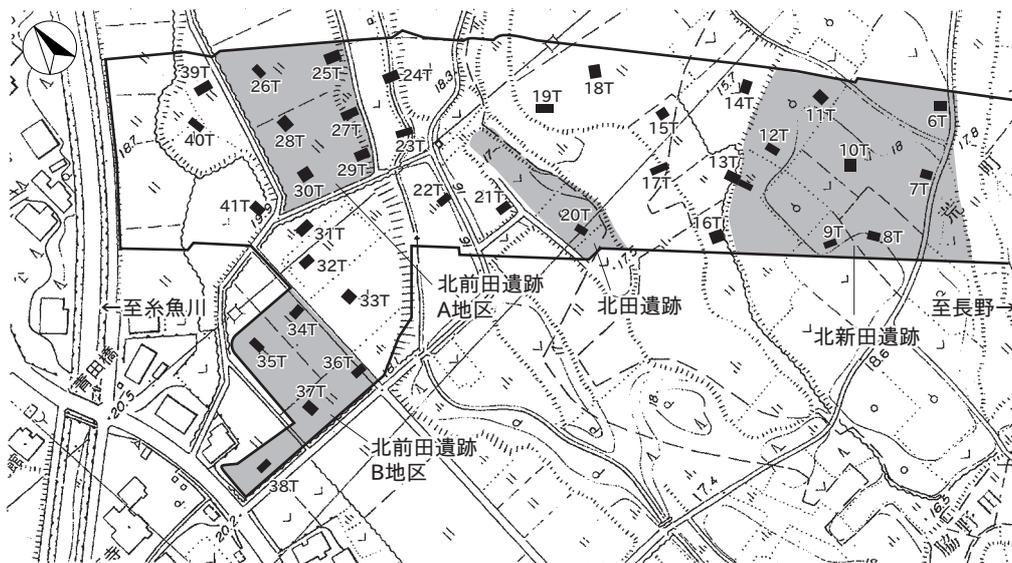
[加藤ほか2006] に加筆改変

[国土地理院発行「高田東部」「高田西部」1：50,000原図]

で平安時代土師器碗、トレンチ30で古墳時代前期の壺や甕、トレンチ38で平安時代の須恵器蓋や杯、砥石などがそれぞれ出土した。2,500m<sup>2</sup> (A地区)と2,350m<sup>2</sup> (B地区)の2か所の発掘調査が必要である。

北田遺跡 遺構はトレンチ20で溝を検出した。遺物は出土しなかった。現況が畑として利用され、試掘調査を行えなかった部分がある。400m<sup>2</sup>の発掘調査が必要であるが、追加の試掘調査を行ったうえで、発掘調査面積を確定することとした。

北新田遺跡 表土層の褐色シルトを20～25cm除去すると、黄土色シルトを主体とした遺構確認面が現われる。遺構はトレンチ6・7・8・9・10・11で土坑、溝、ピットを検出し、遺物はトレンチ7で古墳時代前期～中期の土師器壺や甕が出土したほか、畑表面に古墳時代～古代の土器が散布している。6,800m<sup>2</sup>の発掘調査が必要である。



第2図 試掘調査トレンチ位置図 (S=1/3,000)

## B 本発掘調査

平成19年度の本発掘調査は、北前田遺跡A地区、北田遺跡、北新田遺跡を対象に行った。しかし北陸新幹線の本体工事に伴う機材搬入のため、進入路の拡張が必要となった。故に6～7月にかけて、北前田遺跡B地区の道路拡張部分(610m<sup>2</sup>)を追加調査した。

北田遺跡は調査の結果、遺構・遺物が希薄であった。県教委との協議の上、遺跡として取り扱わず「北田地区」と呼称することにした。

北新田遺跡は調査区域内を横断する農道の真下に水道管が埋設されており、付け替え工事が必要なことから、農道部分を除いた6,550m<sup>2</sup>を対象に調査を行った。以下、本発掘調査の経過を北前田遺跡、北田地区、北新田遺跡に分けて記述する。

北前田遺跡 4月25日午前、上中田公民館にて作業員説明会を行った。午後、A地区南側からバックホーによる表土除去を行う。5月8日、表土除去と並行して作業員を投入し、A地区周辺にサブトレンチを設けて遺跡内容確認を行う。その結果、包含層は残存していないことが明らかとなり、遺構確認面までバックホーで下げることにした。5月14日、A地区表土除去終了。東側から遺構確認を行う。5月23日、A地区遺構確認終了。自然流路(SD2・5)、土坑(SK15・41・45)、溝(SD3・4)等を検出。遺構掘削に着手する。6月20日、SD5調査終了。SD2の下に土坑(SK9・13・14)を検出。B地区周辺にサブト

## 2 調査と整理の経過

レンチを設けて遺跡内容確認を行う。その結果、包含層は残存していないことが明らかとなり、遺構確認面までバックホーで下げることにした。6月25日、B地区西側からバックホーにより表土除去を行う。6月26日、A地区3～4Dグリッドのピット群は、掘立柱建物が3棟重複したものと確認（SB38～40）した。B地区進入路を除く表土除去終了。西側より遺構確認を行う。7月3日、A地区の遺構掘削終了。県教委に終了確認の検査を受ける。7月6日、A地区全景の航空写真撮影。全ての平面測量を終了し、調査を終了する。B地区遺構確認終了。自然流路（SD51）、掘立柱建物（SB98～100）、土坑（SK57・60）等検出。7月13日、SD51調査終了。7月20日、進入路の付け替え。従来の進入路部分の表土除去を行う。7月25日、B地区の遺構掘削終了。7月31日、B地区全景の航空写真撮影。8月1日、県教委に終了確認の検査を受ける。全ての平面測量を終了し、調査を終了する。

**北田地区** 6月4日、調査区域内北側にサブトレンチを設けて遺跡の内容確認を行う。その結果、包含層は残存していないことが明らかとなり、遺構確認面までバックホーで掘り下げることにした。6月6日、調査区域内南側からバックホーにより表土除去を行う。6月7日、表土除去終了。南側から遺構確認を行う。6月14日、遺構確認終了。溝2条を検出。6月18日、遺構掘削終了。遺物は出土しない。6月19日、全景写真撮影。6月20日、遺構が希薄で近年のものだと判断され、遺物も出土しないため、遺跡として取り扱うか否かを県教委の判断に委ねる（後日、遺跡として取り扱わないと決定）。7月11日、調査区域内北側の試掘未了部分にトレンチを設けて遺跡の内容確認を行う。その結果、遺構・遺物共確認できず。7月12日、トレンチ部分の写真撮影をし、調査を終了する。

**北新田遺跡** 7月9～12日、調査区域内東側、中央部、西側にサブトレンチを設けて遺跡の内容確認を行う。その結果、包含層は残存していないことが明らかとなり、遺構確認面までバックホーで掘り下げることにした。7月12日、調査区内を横断する農道から北側を対象にバックホーにより表土除去を行う。7月18日、表土除去と並行して31H～Jグリッドから北側に向かって遺構確認を行う。この結果、古墳時代及び古代の竪穴住居、土坑等の遺構を多数検出した。7月28日、31.32・C～Fグリッド及び調査区域内を横断する農道から南側の未買収地を除く表土除去を終了する。7月30日、30C～Fグリッドから北側に向かって遺構確認を行う。それと並行して31H～Jグリッドから北側に向かって遺構掘削を行う。8月1日、30C～Fグリッドから北側に向かって遺構掘削を行う。8月20日、調査補助員1名追加。8月31日、30C～Fグリッドの遺構掘削終了。9月11～12日、31.32・C～Fグリッドをバックホーにより表土除去を行う。その後、遺構確認を行い、遺構掘削を行う。9月15日、28.29・C～F及び31H～Jグリッドの遺構掘削終了。9月21日、調査補助員1名追加。10月1日、32.33・C～F及び28.30H～Jグリッドの遺構掘削終了。10月12日、28H～Iグリッドにおいて自然流路（SD1220）検出、範囲を確定するため再確認を行う。10月15日、27.31C～F及び29H～J、31.32Gグリッドの遺構掘削終了。SD1220の範囲が確定し、トレンチ設定後掘削を行う。その結果、覆土4層中より古墳時代及び古代の土器が多数出土。10月22日、SD1220対岸部分（23.24・H～Jグリッド）遺構確認を行う。黒色層を遺構確認面とし、土坑、井戸、溝等を検出。10月25日、SD1220覆土1～3層をバックホーにより掘削を行う。その後4層を人力掘削する。11月1日、27G～J及び28～30Gグリッドの遺構掘削終了。11月2日、調査区域内を横断する農道の南側（32.33・G～Jグリッド）買収完了。サブトレンチを設けて遺構の内容確認を行う。23.24・H～Jグリッドの遺構掘削を行う。11月5日、32.33・G～Jグリッドをバックホーにより表土除去を行う。11月7日、32.33・G～Jグリッドの遺構確認を行い、井戸、ピット等を検出。11月8日、25.26・C～Fグリッドの遺構掘削終了。32.33・G～Jグリッドの遺構掘削を行う。出土遺物から井戸

は中世が多くを占めることが判明する。11月13日、SD1220のバックホーにより掘削終了。11月17日、現地説明会を開催。見学者101名。11月24日、32.33・G～Jグリッドの遺構掘削終了。11月27日、県教委に終了確認の検査を受ける。11月28日、調査区域全景の航空写真撮影。11月30日、SD1220の人力掘削終了する。12月1日、SD1220対岸部分(23.24・H～Jグリッド)黒色層をバックホーにより掘削し、掘り残し遺構がないか確認する。結果、縄文時代の陥穴と考えられる溝やピットを確認。12月6日、23.24・H～Jグリッドの遺構掘削終了。全ての平面測量を終了し、調査を終了する。

## C 整 理

平成19年5月から図面・写真の整理及び出土遺物の水洗は現地作業棟で、遺物の注記・接合・復元は株式会社ノガミ亀田営業所で、それぞれ本発掘調査と並行して行った。

本発掘調査終了後の12月から同営業所で、北前田・北新田両遺跡の本格的な整理を実施した。遺構図面図版組み・遺構写真図版作成、遺物実測・遺物図面図版組み・遺物写真撮影・遺物写真図版組みを12月から2月にかけて行い、2月から3月末にかけて原稿執筆、編集・校正を行った。整理作業の主な流れは下記ようになる。

北前田遺跡

内 容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
図面修正		■	■	■	■						
水洗・注記		■	■	■							
接合・復元			■	■							
実測・拓本				■	■						
図版作成								■	■		
遺物写真撮影								■	■		
原稿										■	■
編集・校正											■

北新田遺跡

内 容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
図面修正					■	■	■	■	■	■	
水洗・注記					■	■	■	■	■	■	
接合・復元						■	■	■	■	■	
実測・拓本								■	■	■	■
図版作成									■	■	■
遺物写真撮影									■	■	■
原稿										■	■
編集・校正											■

## 3 調査・整理体制

### A 試掘調査

調査期間 平成18年11月13日～11月30日

調査主体 新潟県教育委員会(教育長 武藤克己)

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管 理 波多 俊二(事務局長)

齋藤 栄(総務課長)

### 3 調査・整理体制

庶務 長谷川 靖（同 班長）  
調査指導 藤巻 正信（調査課長）  
調査担当 田海 義正（同 試掘・確認担当課長代理）  
調査職員 田中 一穂（同 囑託員）

#### B 本発掘調査・整理

調査期間 北前田遺跡：平成19年4月25日～8月1日  
北田地区：平成19年6月4日～7月12日  
北新田遺跡：平成19年7月9日～12月6日

整理期間 北前田遺跡：平成19年12月7日～平成20年3月31日  
北新田遺跡：平成19年12月7日～平成20年3月31日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）

調査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管 理 木村 正昭（事務局長）  
齋藤 栄（総務課長）  
藤巻 正信（調査課長）

庶務 長谷川 靖（総務課班長）

監督 高橋 保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）

調査組織 株式会社ノガミ

現場代理人 伊藤 正紀（埋蔵文化財調査部）  
調査指導 金子 拓男（埋蔵文化財調査部顧問）  
調査担当 金内 元（埋蔵文化財調査部調査員）  
調査員 小村 正之（埋蔵文化財調査部調査員）  
鈴木 文夫（埋蔵文化財調査部調査員）

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

北前田遺跡・北新田遺跡が所在する高田平野は、新潟県の南西部に位置する。

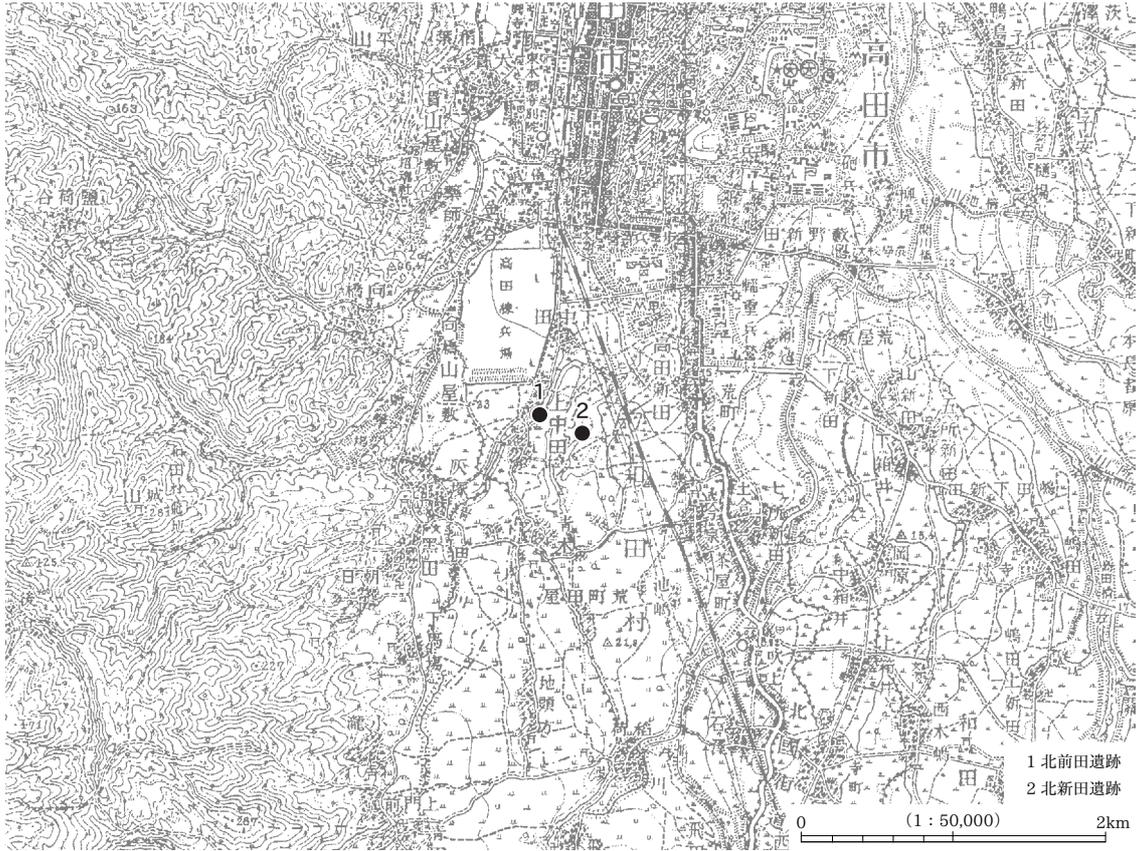
高田平野の周辺を概観すると、北側は海岸砂丘である潟町砂丘を隔てて日本海と接する。北東～南東側は東頸城丘陵を隔てて、標高993mの米山を主峰とする米山山地や、標高1,000m前後の山が連なる関田山脈がある。南側は富士火山帯の北端部にあたる妙高・黒姫・飯縄・焼山の各火山、南西～西側は標高2,462mの火打山から同949mの南葉山（青田難波山）に至る西頸城山地、西～北西側は西頸城丘陵がある。

高田平野で最大の河川である関川は、西頸城山地や信越国境の山々を水源として信越国境沿いを東へ流れ、野尻湖から流れ出た池尻川と合流後、北東に向きを変え、妙高市で平野に入って扇状地を形成し、平野部の西寄りを北へ貫流して直江津で日本海に注ぎ込む。その途中には多くの支流が平野部で扇状地を形成して合流する。そのうち本遺跡が所在する関川の左岸では、西頸城山地を水源とする矢代川が遺跡の南側を流れ、高田城の東側で関川と合流する。本遺跡のすぐ北西側を流れる青田川やさらにその北西に流れる儀明川はいずれも西頸城丘陵から流れ出し、高士町付近で両河川が一本となり、さらに関川に流れ込む。関川・青田川・儀明川は、近世初頭の高田城築城の際に付け替え工事が行われ、関川は現在の稲田橋付近の旧蛇行部分をカットして、外堀として利用され、青田川や儀明川もこの時にほぼ現在の流路となった〔高野2004〕。

高田平野は約80万～1万年前の水河期に形成された洪積台地と、約1万年前以降の完新世に形成された沖積低地に大別される。このうち沖積低地は平野の大部分を占め、標高が高く形成時期が古い面から順に高田面・関川面に分けられる。高田面は、平野の沖積面で最も広い面積を占める。高田面を構成する高田層は、最終氷期であるヴェルム氷期の最盛期（2万～1万8千年前）以降、海面水位の上昇によって低地を埋没させた関川やその支流による堆積物と考えられる。高田層は下位から下部高田層、中部高田層および上部高田層に分けられる。最上位の上部高田層は粘土層とシルト層を主体としている。その堆積時期は約1万年前以降の完新世である〔高野2004〕。その後、約6,000年前をピークとする縄文海進期を経て、海面水位の低下に伴って弥生時代には高田面が段丘化したと考えられる。関川面はその高田面を関川が侵食して一段低い段丘面ができ、その上を氾濫原性堆積物である関川層が覆うことによって、中世末頃に形成された。したがって、その分布域は関川およびその支流に沿っており、ごく狭小である〔高田平野団体研究グループ1981〕。

遺跡は高田平野の西縁部、青田川の右岸、高田面上の標高17～19mに立地する。西側に隣接する上中田集落は標高20m前後の青田川扇状地端部にあり、遺跡よりも1～3m高い。本遺跡を含む約500m四方は大規模なほ場整備が行われなかったこともあり、かつての青田川の流路と考えられる浅い谷状の地形が多く残っている（第4図）。島状に残された高い部分は標高17～19mで主に畑となっている。谷状の低地部分は標高14～16mで関川面に相当し、水田となっている。北前田遺跡は青田川扇状地東端部の旧河道を見下ろす位置にあり、調査前の地目は水田、北新田遺跡は旧河川に囲まれ、島状に取り残された位置にあり、調査前の地目は畑である。

1 地理的環境



第3図 遺跡とその周辺の地形 (大日本陸地測量部発行『高田西部』・『高田東部』1:50,000万、明治44年)



第4図 遺跡と旧河川流路図 (金子拓男氏より提供)

## 2 歴史的環境

北前田遺跡・北新田遺跡からは縄文時代から中世の遺構・遺物が出土した。その中でも、古墳時代前期・後期及び平安時代のもものが主体となる。ここでは上越地方の古墳時代及び奈良・平安時代の代表的な遺跡について記述する。高田平野とその周辺に広がる古墳時代・古代の遺跡分布は、第5図・第1表に示すとおりである。

**古墳時代** 高田平野の古墳は、大別すれば、関川を境として南西部に立地する頸城西部古墳群、南東部に立地する頸城東部古墳群に二分される〔金子1979〕。頸城西部古墳群は中期後半～後期の群集墳である。矢代川左岸の南葉山麓から青田川左岸にかけては灰塚古墳群(3)、黒田古墳群(4)等が分布する。黒田古墳群では、第2支群から箱形木棺が出土した。木棺底部付近からは、県内では初例となる蛇行剣が出土し、ほかにも鐮子状鉄製品、環状鉄製品などが出土している〔尾崎ほか2002〕。

頸城東部古墳群は後期の群集墳である。飯田川・櫛池川によって形成された扇状地を中心に、菅原古墳群(5)・水科古墳群(6)等が分布する。水科古墳群からは金環・銀環・直刀・勾玉・棗玉等の玉類などが出土し、血族関係を示す構造を呈している〔小島2002〕。

このように頸城西部古墳群と頸城東部古墳群では歴史的発生や古墳の造墓母体は相違するものと考えられている〔金子ほか1979〕。

前期の集落遺跡は高田平野の中央部に位置する傾向にある。今池遺跡(7)・子安遺跡(8)・津倉田遺跡(9)・北割遺跡(10)・前田遺跡(11)等が確認されており、一之口遺跡東地区(12)や中島廻り遺跡(13)なども含め、前期から継続的に集落が存続する遺跡もある。

中期の集落遺跡は、井戸を検出し、祭祀の様相の強い高杯・小型丸底壺・甕が出土した月岡遺跡(14)等が確認されるが、遺跡数は減少する〔高橋1985〕。しかし、水科古墳下層遺跡から和泉式土器に併行する土器が出土していることなどから〔金子ほか1979〕、当該期の遺跡が埋没している可能性もある。

後期の集落遺跡は、数が増加し、関川右岸に位置する高田平野南東部の扇状地上に集中する傾向にある。五反田遺跡(15)・宮ノ本遺跡(16)等が確認されており、頸城東部古墳群との関連も考えられる。特に岡嶺遺跡(17)は、菅原古墳群と同一の段丘上に立地し、段丘西側の緩斜面に位置する。そのため、岡嶺遺跡は造墓集団の集落跡である可能性が高いと考えられている〔秦ほか1990〕。

北前田遺跡・北新田遺跡は関川左岸の高田平野南西部に立地する。西側約1.5km先には灰塚古墳群、南西側約2km先には黒田古墳群が存在する。当地域の集落遺跡は南側約2km先に位置する吹上遺跡(18)等が確認されるが、数は少なく、今回の調査で北新田遺跡から古墳時代後期の竪穴住居が検出されていることを踏まえても、古墳群との関連性は言及することはできない。

後期に入ると西頸城丘陵にかわって、東頸城丘陵裾部の扇状地の開発が活発となり〔橋本2003〕、集落遺跡も高田平野南東部に多く分布する傾向にある。北新田遺跡では後期の竪穴住居を多数検出しており、本遺跡は高田平野西部における古墳時代の集落遺跡を考える上で、重要な資料になると考える。

**古 代** 頸城郡には、『和名類聚抄』に「国府在頸城郡」とあるように、国府がおかれ、越後国の政治・経済・文化の中心地として機能していたと考えられている。国府がどこに置かれていたかについては現在でも不確定である。高田平野中央部の今池遺跡周辺に求める意見が強いが、確証はない。また、郡衙についても同様で、妙高市栗原遺跡(19)からは、銚帯や鉞尾、「郡」の墨書土器が出土したことなどから、官衙的性格のもの、或は郡衙官人の居宅的な性格の官衙関連遺跡である可能性が高いとされるが、確

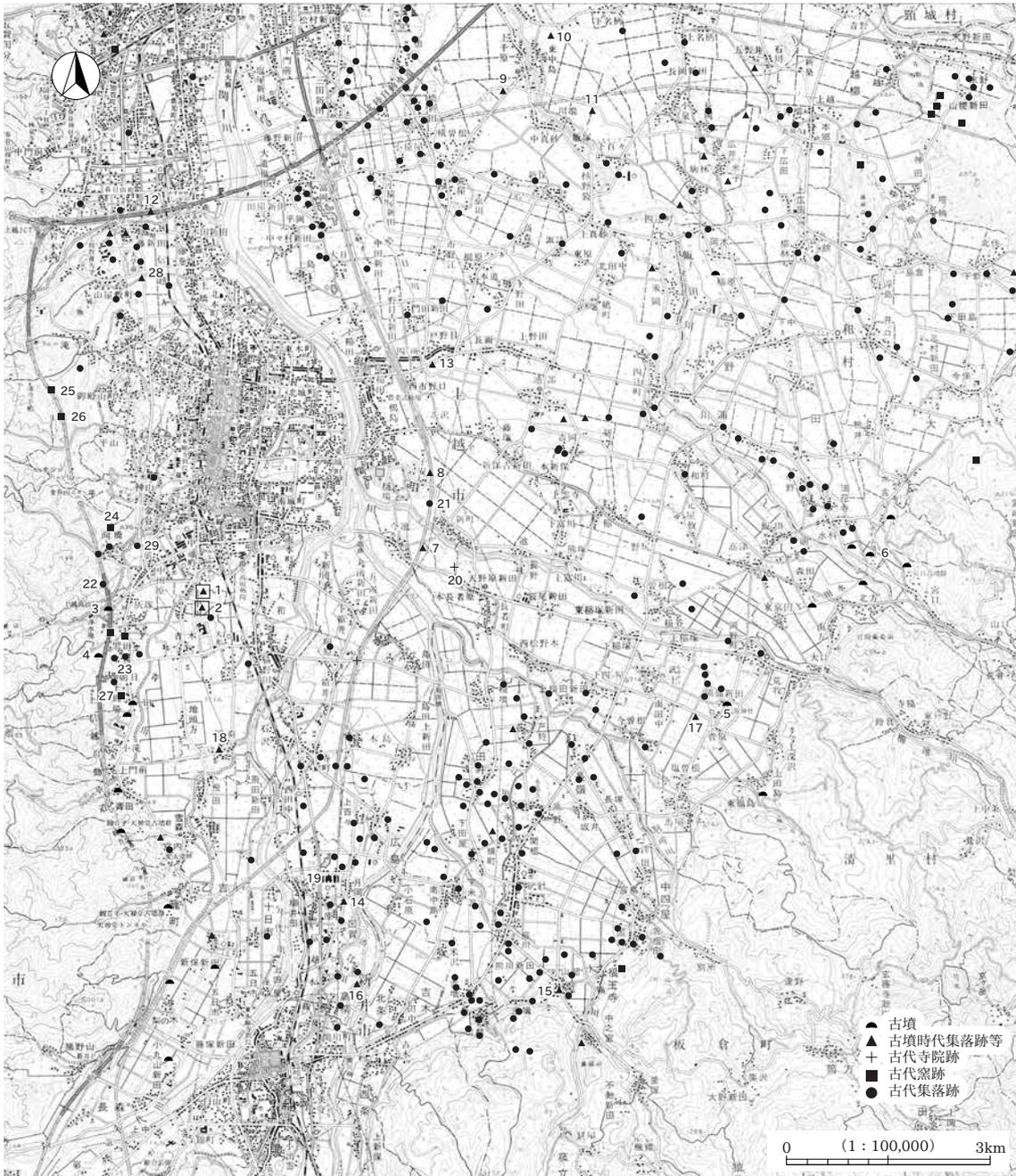
証は得られていない [高橋 1984]。

本長者原廃寺 (20) は、建物基壇の遺構と残痕・国分寺に一般的な伽藍配置とされる点などから国分寺である可能性が指摘されている。更に、寺院建築の築成方法として一般的な「掘り込み地業」の跡が検出され、本長者原廃寺が越後国分寺であった可能性を示唆するものと考えられている [坂井 1983・1993]。また、土地更正図上で仔細な伽藍配置の検討 [金子 1996] などから、海没説を覆した本長者原廃寺の国分寺説は有力視される。本長者原廃寺と同じく関川右岸の沖積地に位置する今池遺跡・下新町遺跡 (21)・子安遺跡は、栗原遺跡と一部時期が併行しており、各遺跡から区画溝を伴い規則的に配置された大規模な掘立柱建物が検出された。今池遺跡は、8世紀末～9世紀前半を中心とする遺跡であり、木製井戸杵をもった大規模な井戸が検出され、円面硯や小型長頸瓶 (平城分類「壺G」) [巽 2006] が出土している。これらは、畿内からの搬入品であり、貢進物を運搬する容器として使用され [巽 1991]、転用品として当該地にもたらされたと考えられており [坂井<sup>ほか</sup> 1984]、本長者原廃寺に隣接していることなどから、越後国府に関わる遺跡ではないかと推定されている。また下新町遺跡からは、規則的に配置された建物が検出され、「東家」という建物名を示すと思われる墨書土器が出土している。このことから、一般の集落とは異なる性格の遺跡であると推測されている [坂井<sup>ほか</sup> 1993]。本遺跡から西方向約 1.3km に位置する蛇谷遺跡 (22) は、8世紀後葉～9世紀初頭・9世紀前葉～中葉の竪穴住居、掘立柱建物、集落を区画する溝が検出された集落遺跡である [土橋 2005]。

北前田遺跡・北新田遺跡は、これらの遺跡が集中する地域から西方向約 3.5km に位置する。その他、掘立柱建物や井戸が検出された 8世紀後半～9世紀後半の集落遺跡である細田遺跡 (23) が南西方向約 1.5km に所在する [尾崎 2005]。

さらに本遺跡の周辺には古窯跡群、荘園関連遺跡が見られる。北西方向約 1.5km には、本長者原廃寺との関係が考えられている向橋古窯跡群 (24)、北西方向約 3.5km には滝寺古窯跡群 (25)・大貫古窯跡群 (26) が位置し、高田平野付近で最も早く操業を開始したと考えられる 7世紀後葉～末頃に位置づけられる下馬場古窯跡群 (27) が南西方向約 2km に位置している [尾崎 2005]。操業時期が 8世紀第 4 四半期頃の滝寺 1 号窯跡では、信濃などの生産遺跡に多く見られる特徴をもった凸帯付四耳壺が出土している [小田<sup>ほか</sup> 2006]。凸帯付四耳壺の生産地の多くが、国府・国分寺に近接し [笹澤 1998]、信濃の影響を多分に受けた須恵器が滝寺古窯跡群を含む西頸城丘陵古窯跡群において生産されていた [笹澤正史 1997・笹澤浩 1986]。ちなみに北前田遺跡・北新田遺跡からは、西頸城丘陵の滝寺・大貫窯産、東頸城丘陵の今熊窯産、佐渡小泊窯産の須恵器が出土している。

荘園関連遺跡では、北方向約 4.5km に位置する 10 世紀を中心とする江向遺跡 (28) がある。四面廂をもつ桁行 7 間以上の掘立柱建物が検出されている。また、「高有私印」と鑄造された青銅印が出土し、西大寺領荘園の関連遺跡と考えられ、古代地域社会における政治経済の変貌を裏付ける遺跡である [北野 2003]。また、北西方向約 1km に所在する 8 世紀末葉～9 世紀後半に位置づけられる岩ノ原遺跡 (29) では、古代を主体とした土器や、柱根、礎盤、木簡などが出土した。掘立柱建物は、北西部の建物群と南東部の建物群に大別される。前者では物資の搬出入のためと推定される倉庫が検出された。後者では、律令官衙とみられる建物が検出された。また、この建物群は全体の配置が並列という規則性がある。木簡には「□□上黒米」と記載されていることから、春米貢進付札と推定されている。また、墨書土器が 100 点出土し、この内 51 点に「石井庄」「石庄」「石」などが認められることから、本遺跡は東大寺領石井荘の荘所ではないかと推定されている [高橋<sup>ほか</sup> 2008]。



第5図 高田平野における遺跡分布  
 [国土地理院発行「高田東部」「高田西部」1：50,000を1/2に縮尺]

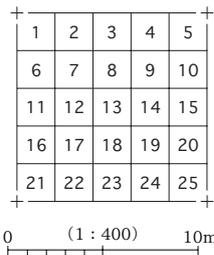
No. 遺跡名	No. 遺跡名	No. 遺跡名	No. 遺跡名
1 北前田遺跡	8 子安遺跡	15 五反田遺跡	22 蛇谷遺跡
2 北新田遺跡	9 津倉田遺跡	16 宮ノ本遺跡	23 細田遺跡
3 灰塚古墳群	10 北割遺跡	17 岡嶺遺跡	24 向橋古窯跡群
4 黒田古墳群	11 前田遺跡	18 吹上遺跡	25 滝寺古窯跡群
5 菅原古墳群	12 一之口遺跡東地区	19 栗原遺跡	26 大貫古窯跡群
6 水科古墳群	13 中島廻り遺跡	20 本長者原廃寺	27 下馬場古窯跡群
7 今池遺跡	14 月岡遺跡	21 下新町遺跡	28 江向遺跡
			29 岩ノ原遺跡

第1表 高田平野における遺跡分布

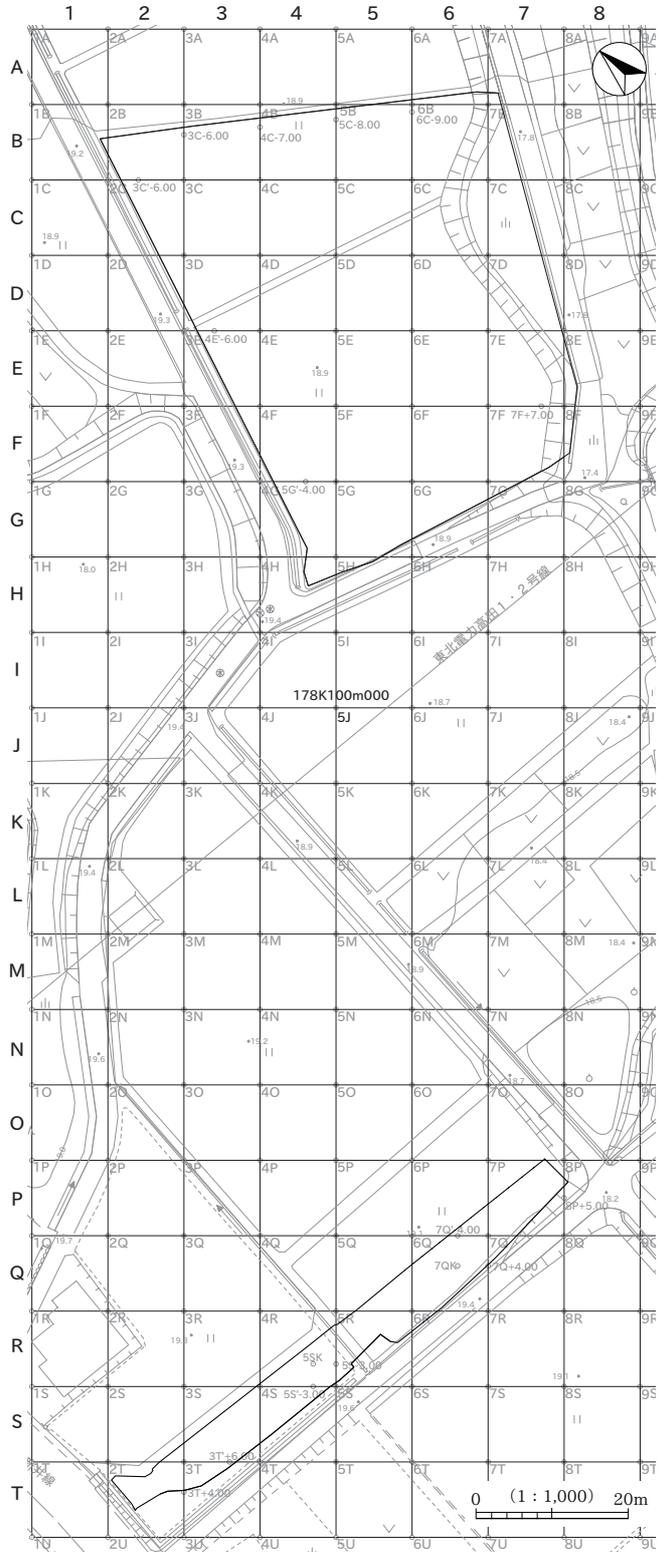
# 第Ⅲ章 北前田遺跡

## 1 グリッドの設定

グリッドは、新幹線中心座標178K100M（世界測地系X=120937.0055:北緯37°05′22.73502″、Y=-23149.5914:東経138°14′22.54033″、5J杭）と同177K900M（世界測地系X=120791.299、Y=-23012.611、25J杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線に北前田遺跡、北田地区および北新田遺跡の調査範囲を覆う形で、縦横10m方眼を組み大グリッドとして、横軸方向の北西側から算用数字、縦軸方向の北東側から大文字のアルファベットを昇順に付し、これを組み合わせて「1A」のように表示した。北前田遺跡A地区は横軸が大グリッド1～8、縦軸が大グリッドA～H、B地区は横軸が大グリッド2～8、縦軸が大グリッドO～Tである(第6図)。小グリッドは第7図のように北隅を基点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「1A1」のように表示した。グリッド縦軸は真北方向に対して46°46′05″東偏する。



第7図 小グリッド模式図

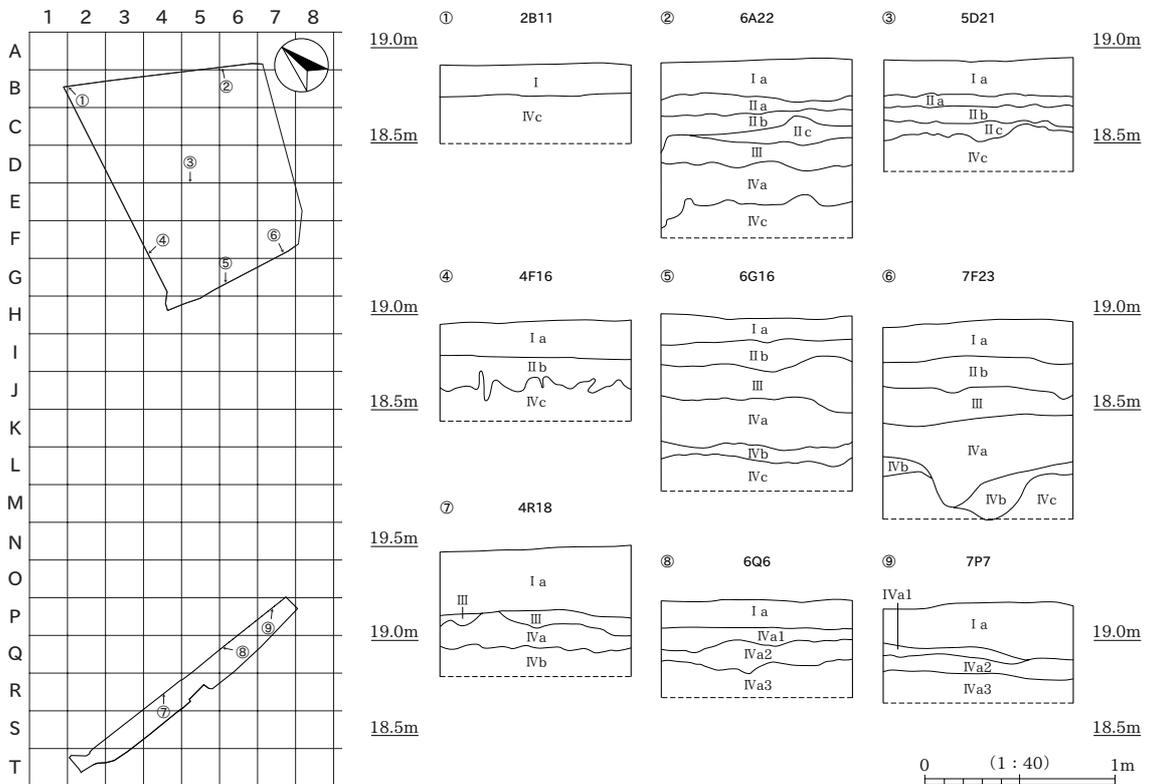


第6図 北前田遺跡グリッド設定図

## 2 基本層序

北前田遺跡は青田川右岸の段丘化した沖積面に立地する。A・B両地区とも南東方向に向かって傾斜しており、その先には旧河道と考えられる帯状の低地がある。この傾斜に沿って、黒色シルト（IVa層）が厚みを増しながら堆積している。これが地山となる。両地区とも北西方向に向かってIVa層が薄くなり、まったく見られないか所もある。その上面に堆積するII・III層は出土遺物が希薄であるため、遺物包含層扱いせず、表土として扱った。以下、基本層序I～IVc層まで説明する（第8図）。

- I 層：灰色粘土（N6/） 現水田耕作土、下層に鉄分の沈着多い。
- II a層：灰色シルト（N4/） しまり中、粘性弱。A地区中央から東側にかけて堆積する。
- II b層：黒色シルト（N2/） しまり中、粘性弱。II a層同様A地区中央から東側にかけて堆積する。
- II c層：灰色シルト（N5/） しまり中、粘性弱。II a層同様A地区中央から東側にかけて堆積する。
- III 層：にぶい黄橙色シルト（10YR6/3） しまり中、粘性弱。A地区東側から南側にかけて堆積する。  
B地区では西側で部分的に確認できる。
- IV a層：黒色シルト（N1.5/） しまり中、粘性弱。遺物は含まれない（地山）。A地区の河川跡（SD2）の北側では見られない。調査区域の南東側では厚く堆積し、特にB地区の東側では色の濃淡で3層に細分できる。
- IV b層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/3） しまり中、粘性弱。遺物は含まれない（地山）。IV a層とIV c層の漸移層である。



第8図 北前田遺跡基本土層図

IVc層：明黄褐色シルト（10YR6/6） しまり中、粘性中。遺物は含まれない（地山）。A地区の河川跡（SD2）の北側で検出され、比較的安定した堆積を示す。B地区では検出できず。掘り下げた深さよりもさらに深い場所にあるものと考えられる。

### 3 遺 構

#### A 概 要

北前田遺跡は基本層序IV層（地山）を遺構確認面として、A地区で掘立柱建物3棟、土坑6基、性格不明遺構1基、溝3条、ピット1基を、B地区で掘立柱建物3棟、土坑5基、性格不明遺構2基、溝4条、ピット20基をそれぞれ検出した。この他に河川跡をA地区で2条、B地区で1条それぞれ検出した。

A地区の遺構分布状況は、調査区域中央部を東西方向に走る河川跡（SD2）をはさんで北側と南側に分かれる。北側の遺構群には掘立柱建物3棟、土坑1基、性格不明遺構1基、溝2条がある。構築時期は遺構内もしくはその周辺から出土する土器の年代から古代の範囲に納まるものと考えられる。南側の遺構群は河川跡の底面で検出したものも含めて土坑5基、溝1条がある。構築時期は土器の年代から土坑は古墳時代前期、溝は古代に比定される。

B地区の遺構分布状況は、いずれも調査区域西側を南北方向に走る河川跡（SD51）の東側に位置する。構築時期は遺構内から若干の古墳時代の土器が出土するものの、その出土状況からいずれも古代の範囲に収まるものと考えられる。

A・B両地区の河川跡からは中世の遺物は検出されず、上層で少量の近世陶磁器が散布しているのみである。このことから河川跡は中世には埋没していたものと考えられる。

#### B 記述方法

遺構の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いた。

遺構名 遺構の種別ごとに略号を用い、番号は遺構の種類に関係なく遺構精査の段階で確認順に、北前田遺跡から北新田遺跡において通し番号を付けた。但し検出段階で遺構番号を付した掘り込みで、調査の結果、攪乱と判断されたものなどは、その遺構番号は欠番とした。従って遺構番号の数は遺構数と一致しない。掘立柱建物、またそれを構成する柱穴・ピットは、それぞれに上記の手順に基づいて略号と番号を付した。遺構の略号は以下の通りである。

SI：竪穴住居、SB：掘立柱建物・井戸の上屋、SE：井戸、SK：土坑、SX：性格不明遺構・焼土遺構、TP：陥穴、SD：溝・自然流路、P：ピット

本文 ほかの遺構との関連が認められない単独のピット、溝状遺構の一部を除き、原則として個別に記述した。遺構各説及び遺構観察表に記載した遺構の平面及び断面の表記は、和泉A遺跡の報告書〔加藤・荒川1999〕に準拠する（第9～11図）。遺構の主軸方向は、長径を基準に真北からの角度を測定し、[N-37°-W]、[N-37°-E]のように記載した。掘立柱建物に関しては、主軸は設定せず長軸を示した。

遺構観察表 掘立柱建物の柱穴及び溝について観察項目を設け記載した。観察項目は、柱穴は位置・平面形・断面形・標高・規模・柱遺存状況・柱間寸法、溝は位置・断面形・規模・主軸方向などである。遺構の新旧関係は、「<」・「>」・「=」の記号を用いた。「A<B」は「AはBより古い」、「A>B」は「A

はBより新しい」、「A = B」は「AとBの切り合い関係は不明」である。

**図面図版** 遺構図面は配置図・分割図・個別図で構成される。遺構個別図は遺構分割図ごとに竖穴住居、掘立柱建物、井戸、土坑、性格不明遺構、陥穴、溝、自然流路の順で掲載した。重複する遺構の表示は、切り合い関係が明確であるものに限り、切っている遺構を実線で表示し、切られる遺構は残存している部分を破線で表示した。

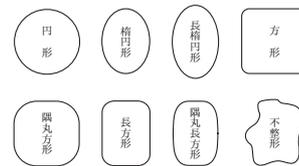
図面の縮尺は、基本的に以下の通りである。

遺構配置図：1 / 300、遺構分割図：1 / 100、竖穴住居の平面図・断面図、自然流路の平面図・断面図：1 / 60、掘立柱建物の平面図・エレベーション図：1 / 80、掘立柱建物の柱穴・井戸・土坑・性格不明遺構・陥穴・溝の断面図：1 / 40 である。但し状況に応じて記述した縮尺でない遺構もある。

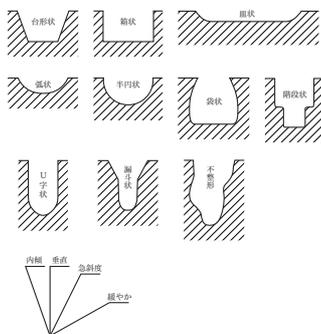
**写真図版** 遺構図面に掲載した遺構を中心に掲載した。竖穴住居は、完掘状況・カマド及びカマド遺物出土状況などを優先し、掘立柱建物は、完掘状況・柱穴の土層断面などを優先的に掲載した。

平面形状

円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角のあるもの。
隅丸方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角に丸みがあるもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角のあるもの。
隅丸長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角に丸みがあるもの。
不整形	凸凹が激しく一定の平面形をもたないもの。但し、およその形状のわかるものは不整形円形、不整形楕円形などと呼ぶ。



第9図 遺構の平面形状の分類 (荒川・加藤1999から転載・一部改変)



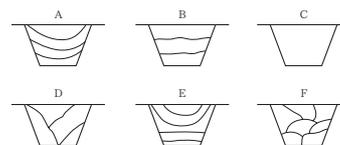
断面形状

台形状	底部に平坦面をもち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
皿状	溝を除いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面をもたない碗状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの。
U字状	平面長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
不整形	凸凹で一定の断面形をもたないもの。

第10図 遺構の断面形状の分類 (荒川・加藤1999から転載・一部改変)

覆土堆積形状

A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積するもの。
B 水平	複数層が水平に堆積するもの。
C 単層	覆土が単一層のもの。
D 斜位	覆土が斜めに堆積するもの。
E 水平レンズ	覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積するもの。
F ブロック状	覆土がブロック状に堆積するもの。



第11図 覆土の堆積形状の分類 (荒川・加藤1999から転載・一部改変)

## C A地区遺構各説

A地区の遺構は古墳時代及び古代のものが確認できるが、数が少ないため遺構種別ごとに記述した。

### 1) 掘立柱建物

#### SB38 (図版2・79)

3C及び3・4Dグリッドに位置する古代の側柱建物である。南西側でSB39・40と重複するが新旧関係は不明である。桁行3間(6.48～6.58m)、梁行2間(4.14～4.36m)の長方形であるが、梁行西側中央の柱穴は検出できなかった。面積は28.17㎡を測る。長軸方向はN-83°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から2.08・2.12・2.36m、南側が西から2.08・2.16・2.34m、梁行が東側で北から2.14・2.00mである。桁行方向は東へ行くほど柱間寸法が長くなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径20～44cm、短径20～32cm、確認面からの深さ12～42cmとばらつきがあるものの、ほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP25に認められ、太さ17cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP19・23から古代の土師器が少量出土している。

#### SB39 (図版2・79・80)

3・4Dグリッドに位置する古代の側柱建物である。北東側でSB38と、南西側でSB40と重複するが新旧関係はいずれも不明である。桁行2間(4.94～5.03m)、梁行2間(3.64～3.85m)の長方形で、面積は18.83㎡を測る。長軸方向はN-82°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から2.50・2.44m、南側で西から2.52・2.51m、梁間が東側で北から1.82・1.82m、西側で北から1.90・1.95mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径26～45cm、短径24～40cm、確認面からの深さ28～41cmとばらつきがあるものの、ほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP16・18・24に認められ、太さ12～18cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP16・18から古代の土師器が少量出土している。

#### SB40 (図版2・79・80)

3D・Eグリッドに位置する古代の側柱建物である。北東側はSB38・SB39と重複するが新旧関係は不明である。桁行2間(4.28～4.50m)、梁行2間(3.02～3.14m)の長方形であるが、梁間西側中央の柱穴は検出できなかった。面積は13.18㎡を測る。長軸方向はN-83°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から2.22・2.28m、南側で西から2.26・2.02m、梁間が東側で北から1.64・1.50mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径24～56cm、短径22～48cm、確認面からの深さ24～41cmとばらつきがあるものの、ほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP33～37に認められ、太さ10～24cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP33から古代の須恵器(1)が出土したほか、P17・36から古代の土師器が少量出土している。時期は出土遺物の年代から9世紀中葉頃と推定される。

### 2) 土 坑

#### SK9 (図版3・80)

5Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。河川跡(SD2)の底面で検出され、これに切られる。平面形は長楕円形を呈し、長径1.26m、短径0.63m、確認面からの深さ0.45mを測る。主軸方向はN-59°-Eを示す。底面は長径沿いに段差を持ち、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒を微量含むシ

ルトで、6層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古墳時代の土師器が少量出土している。

#### SK13 (図版3・80)

5Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。河川跡(SD2)の東壁面で検出され、これに切られている。平面形は長楕円形を呈し、長径1.42m、短径0.82m、確認面からの深さ0.24mを測る。主軸方向はN-56°-Eを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘質シルトの単層である。遺物は古墳時代の土師器が少量出土している。

#### SK14 (図版3・80)

5Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。河川跡(SD2)の東壁面で検出され、これに切られる。平面形は楕円形を呈し、長径0.92m、短径0.74m、確認面からの深さ0.45mを測る。主軸方向はN-12°-Eを示す。底面はおおむね平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒を含む粘土で、3層に識別され、斜位に堆積する。遺物は古墳時代前期の土師器(2・3)が出土している。時期は出土遺物の年代から前期後半と推定される。

#### SK15 (図版3・80)

6Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SK45と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈すると考えられる。長径は0.98m以上、短径0.94m、確認面からの深さ0.24mを測る。底面はおおむね平坦で、断面形は台形状を呈する。遺物は古墳時代前期の土師器(4~8)が出土している。時期は出土土器の年代から前期初頭と推定される。

#### SK45 (図版3・80)

6Eグリッドに位置する古墳時代と推定される土坑である。SK15と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径1.26m、短径0.93m、確認面からの深さ0.7mを測る。主軸方向はN-26°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒を含む粘土またはシルトからなり、6層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

#### SK41 (図版3・80)

3Eグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は隅丸方形を呈し、径0.74~0.86m、確認面からの深さ0.64mを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を含むシルトで、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の土師器(9)が出土したほか、古代の須恵器が少量出土している。時期は出土遺物の年代から10世紀中葉頃と推定される。

### 3) 性格不明遺構

#### SX8 (図版3・81)

4B・Cグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、径0.73~0.87m、確認面からの深さ0.25mを測る。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。断面形は弧状を呈する。覆土は焼土粒を多量に含むシルトで、4層に識別され、ブロック状に堆積する。底面は焼成を受けた痕跡が認められず、外部から焼土を持ち込んで廃棄したものと考えられる。遺物は出土していない。

### 4) 溝

#### SD3 (図版1・3・81)

4D・E及び5D・Eグリッドに位置する。平面形は不整長方形を呈し、長さ6.04m、幅2.4m、確認面か

らの深さ 0.08m を測る。主軸方向は  $N - 61^{\circ} - E$  を示す。底面はわずかに凹凸を持ち、側壁は緩やかに立ち上がる。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。覆土・形態から SD4 とは同一時期に機能していたものと考えられる。遺物は少量ながらも古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器 (10) が混在して出土している。

#### SD4 (図版 1・3・81)

4E・F グリッドに位置する。平面形は不整長方形を呈し、長さ 8.92m、幅 2.36m、確認面からの深さ 0.16m を測る。主軸方向は  $N - 82^{\circ} - E$  を示す。底面は凹凸を持ち、側壁は緩やかに立ち上がる。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトが主体で、2層に識別される。覆土・形態から SD3 とは同一時期に機能していたものと考えられる。遺物は少量ながらも古墳時代の土師器と古代の土師器 (11)・須恵器が混在して出土している。

#### SD31 (図版 1・3・81)

5G グリッドに位置する。西側で河川跡 (SD2) と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 7.8m 以上、幅 0.3m、確認面からの深さ 0.24m を測る。断面形は不整形形状を呈し、急斜度に立ち上がる。覆土は炭化物を微量含む黒褐色粘質シルトの単層である。遺物は古代の土師器・須恵器 (12) が出土している。

### 5) 自然流路

#### SD2 (図版 1・3・81)

4F・G 及び 5C～G グリッドに位置する。調査区域内の中央部を南西から北東にかけて緩やかに蛇行しながら流下する。SK9・13・14 を切り、北東側は後世の削平により消失する。規模は長さ 45m 以上、幅 3.3～6.9m、確認面からの深さ 0.3m を測る。主軸方向は  $N - 65^{\circ} - E$  を示す。底面は凸凹があり、部分的なくぼみも確認できる。側壁は緩やかに立ち上がり、断面形は弧状を呈する。覆土はシルト、粘質シルトで構成され、5層に識別される。レンズ状に堆積する。

遺物は弥生・古墳時代及び古代の土器が覆土 1・2層から大量に出土した。主な土器の内訳は弥生・古墳時代の土器 (13～25)、古代の土師器 (26～28)・須恵器 (29～32) である。このほか灰釉陶器 (33)、剥片石器 (75)、石製紡錘車 (76) が出土している。

#### SD5 (図版 1・3・81)

3～6B 及び 3～6C グリッドに位置する。北側が調査区域外に延び、南側を後世の削平により消失するが、調査区域内の東側を北から南にかけて蛇行しながら流下していたと推定される。規模は長さ 30m 以上、幅 3.0～4.5m、深さ 1.08m を測る。主軸方向は  $N - 2^{\circ} - W$  を示す。底面は凸凹があり、部分的なくぼみも確認できる。側壁は急斜度に立ち上がり、断面形はやや不整な漏斗状を呈する。覆土はシルト、シルト+砂の混合土、粘土で構成され、6層に識別される。レンズ状に堆積する。

遺物は古墳時代及び古代の土器が覆土 1～5層にかけて大量に出土した。SD2 から出土した弥生時代後期及び古墳時代前期の土器がほとんど見られないため、SD2 よりも新しい時期に形成されたものと考えられる。主な土器の内訳は古墳時代の土師器 (46・34・35)・須恵器 (52・55)・古代の土師器 (36～45・47～51)・須恵器 (53・54・56～58) である。

## D B地区遺構各説

B地区の遺構は古代に限定されるので、遺構種別ごとに記述した。

### 1) 掘立柱建物

#### SB98 (図版6・82)

5Q・Rグリッドに位置する古代の側柱建物である。北側は調査区域外に延びるため明らかでないが、検出された柱並びから東西棟と推定される。東西3間(6.10m)、南北1間以上の長方形で、面積は16.06m<sup>2</sup>以上を測る。長軸方向はN-82°-Wを示す。柱間寸法は桁行が南側で西から2.32・1.96・1.82m、梁行が西側で1.84m、東側で1.96mを測る。桁行方向は東へ行くほど柱間距離が短くなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径28~66cm、短径26~54cm、深さ14~47cmとぼらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP52・53・63に認められ、太さ12~15cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP64から古代の土師器が少量出土している。

#### SB99 (図版6・82)

6P・Q及び7P・Qグリッドに位置する古代の側柱建物である。北側は調査区域外に延びるため明らかでないが、検出された柱並びから東西棟と推定される。東西3間(5.72m)、南北1間以上の長方形で、面積は19.77m<sup>2</sup>以上を測る。長軸方向はN-83°-Wを示す。柱間寸法は桁行が南側で西から2.12・1.82・1.78m、梁行が西側で2.76m、東側で2.50mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径49~64cm、短径33~56cm、深さ10~48cmとぼらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP70・72に認められ、太さ15~23cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

#### SB100 (図版6・82・83)

7Pグリッドに位置する古代の側柱建物である。北側は調査区域外に延びるため明らかでないが、検出された柱並びから東西棟と推定される。SD88と重複するが、新旧関係は不明である。東西2間(4.3m)、南北1間以上の長方形で、面積は11.85m<sup>2</sup>以上を測る。長軸方向はN-86°-Wを示す。柱間寸法は桁行が南側で西から2.10・2.20m、梁行が西側で2.02m、東側で1.74mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径40~54cm、短径36~48cm、深さ22~36cmとぼらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

### 2) 土 坑

#### SK57 (図版7・83)

6Qグリッドに位置する。平面形は不整長方形を呈し、長径1.28m、短径0.88m、確認面からの深さ0.08mを測る。主軸方向はN-73°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、側壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

#### SK60 (図版7・83)

7Pグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は不整長楕円形を呈し、長径1.28m、短径0.76m、確認面からの深さ0.20mを測る。主軸方向はN-81°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルト、灰色粘質シルトの2層に識別される。遺物は古代の土師器(59)・須恵

器(60)が出土したほか、古墳時代の土師器が少量出土している。時期は出土土器の年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SK91 (図版7・83)

6Qグリッドに位置する古代の土坑である。SD58・SK92と重複し、これらの遺構を切っている。平面形は円形を呈し、径0.77m、確認面からの深さ0.22mを測る。底面は凹凸を持ち、側壁は急斜度に立ち上がり、断面形は不整形形状を呈する。覆土は暗褐色シルト、暗灰黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の須恵器(61)が出土したほか、古代の土師器が少量出土している。時期は出土土器の年代から8世紀中葉頃と推定される。

#### SK92 (図版7・83)

6Qグリッドに位置する。SK91・SD58・P107と重複し、これらの遺構に切られるため平面形は不明である。規模は遺存値で0.44～0.76m、確認面からの深さ0.1mを測る。断面形は弧状を呈すると推定される。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

#### SK105 (図版7・83)

6Qグリッドに位置する。P106と重複し、これに切られる。平面形はやや不整な方形を呈し、径0.52～0.58m、確認面からの深さ0.07mを測る。底面はやや凹凸を持ち、側壁は緩やかに立ち上がり、断面形は弧状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

### 3) 性格不明遺構

#### SX55 (図版7・84)

6Qグリッドに位置する。西側でSD54と重複し、これを切っている。北側は調査区域外へ延びる。平面形は長楕円形を呈すると考えられる。長径3.93m以上、短径1.65m、確認面からの深さ0.28mを測る。主軸方向はN-13°-Eを示す。底面はやや凹凸を持ち、側壁は急斜度に立ち上がり、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は古墳時代前期の土師器壺(62)と古代の須恵器(63・64)が出土している。時期は出土土器の年代から8世紀中葉頃と推定される。

#### SX59 (図版7・84)

7Qグリッドに位置する。東側でSD58、西側でSD87と重複し、これらを切っている。本遺構の南側は調査区域外へ延びるものの、平面形は楕円形を呈すると考えられる。長径2.9m、短径1.38m以上、確認面からの深さ0.32mを測る。主軸方向はN-83°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は黒色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古墳時代の土師器と古代の土師器(65)・須恵器が混在して出土している。

### 4) 溝

#### SD54 (図版5・7・84)

6Qグリッドに位置する。SX55と重複し、これに切られる。長さ2.2m以上、幅0.24～0.48m、確認面からの深さ0.04mを測る。主軸方向はN-66°-Wを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、側壁は緩やかに立ち上がり、断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトと暗灰黄色シルトの混合土で、単層である。遺物は土師器(66)が出土している。

#### SD58・SD87 (図版5・7・82・83)

6Q及び7P・Qグリッドに位置する。同一の溝と考えられるが、中央部をSX59に切られるため、西側をSD58、東側をSD87と呼称した。SK91・SK92・P107・SX59と重複し、これに切られる。またSD58の南辺の一部に攪乱を受ける。長さ12.4m、幅0.14～0.32m、確認面からの深さ0.05mを測る。主軸方向はN-82°-Wを示し、SD88のそれとほぼ直交する。底面はわずかに凹凸を持ち、側壁は緩やかに立ち上がり、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は古代の土師器が少量出土している。

本遺構の北側約1.5m先にSB99が存在し、主軸方向もほぼ同じである。このことからSB99に関連する区画溝の可能性が考えられる。

#### SD88 (図版5・7・82)

7Pグリッドに位置する。北側は調査区域外に延びる。SB100と重複するが、新旧関係は不明である。長さ2.8m以上、幅0.3～0.36m、確認面からの深さ0.12mを測る。主軸方向はN-12°-Eを示し、SD58・SD87のそれとほぼ直交する。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は半円状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを含む黒色シルトの単層である。

本遺構の西側約5.2m先にSB99が存在し、建物方向にほぼ直交する。このことからSD58・87同様SB99に関連する区画溝の可能性が考えられる。遺物は古代の須恵器(67)が出土したほか、古代の土師器が少量出土している。

### 5) 小ピット

#### P75 (図版7・84)

7Pグリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、径0.39m、確認面からの深さ0.36mを測る。底面は平坦で、側壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色、灰黄褐色シルトで構成され、5層に識別され、レンズ状に堆積する。1・2層は柱痕とも考えられるが、調査区内で建物を組めるピットを検出できなかった。遺物は古代の須恵器(68)が出土している。

### 6) 自然流路

#### SD51 (図版4・7・84)

2～4S及び2・3Tグリッドに位置する。蛇行しながら、調査区域外に延びるため全容は明らかでない。幅7.5m以上、確認面からの深さ0.48mを測る。底面は凹凸を持ち、側壁の立ち上がりも一定しない。断面形は不整形弧状を呈する。覆土は灰褐色、灰白色、灰色シルトの3層に識別される。遺物は覆土1層中より古墳時代及び古代の土師器が出土しているが、A地区の河川跡に比べて出土量は少ない。主な土器の内訳は古墳時代の土師器(69)、古代の土師器・須恵器(70・71)である。

## 4 遺物

### A 概要

北前田遺跡から出土した遺物は土器・陶磁器、石器・石製品がある。土器の時期は弥生～古墳時代及び古代に属する。陶磁器の時期はA地区内の河川跡(SD2)で確認した古代の灰釉陶器1点を除くと、近世に属する。近世陶磁器は表土及び攪乱中から少量出土している。石器・石製品はA地区内の河川跡(SD2)で

出土している。石器は時期不明の剥片石器1点、石製品は古墳時代のものと考えられる紡錘車1点である。

土器・陶磁器の種類別の総重量を第2表にまとめた。弥生土器・古墳時代土師器、古代土師器、須恵器の重量比率は、弥生土器・古墳時代土師器を100とすると、A地区で約100：56：7、B地区で約100：389：170であり、A地区は弥生～古墳時代、B地区は古代の土器がそれぞれ占める割合が高い。

A地区では河川跡から出土した土器の割合が高く、地区内の76%を占める。一方B地区では河川跡から出土した土器の割合は低く、地区内の14%を占めるに過ぎない。

弥生土器・古墳時代土師器はA地区中央部を東西方向に走る河川跡（SD2）から多く出土している。遺構別に見るとSD2の底面で確認したSK14、南側に位置するSK15から多く出土した。また古代土師器及び須恵器はA地区の東側を南北方向に走る河川跡（SD5）から多く出土している。遺構別に見るとB地区で検出した土坑（SK60・91）、性格不明遺構（SX55・59）からの出土が目立つ（第12図）。

以下出土遺物の説明を行うが、土器に関しては分類を示した上で、A地区遺構内、A地区河川跡、B地区遺構内、B地区河川跡、表土・攪乱出土土器の順に説明する。石器・石製品はそれぞれ種類別に説明する。

#### A地区

	弥生土器・古墳時代土師器	古代土師器	須恵器	灰釉陶器	近世陶磁器	合計
遺構内出土	2.899	0.336	0.140	0	0	3.375
河川跡出土	33.396	10.897	2.021	0.002	0.321	46.637
表土・攪乱出土	0.820	9.477	0.580	0	0.792	11.669
合計	37.115	20.710	2.741	0.002	1.113	61.681

(単位はkg)

#### B地区

	弥生土器・古墳時代土師器	古代土師器	須恵器	灰釉陶器	近世陶磁器	合計
遺構内出土	0.392	1.420	0.389	0	0.004	2.205
河川跡出土	0.083	0.234	0.210	0	0.068	0.595
表土・攪乱出土	0.120	0.660	0.413	0	0.114	1.307
合計	0.595	2.314	1.012	0	0.186	4.107

(単位はkg)

第2表 北前田遺跡出土土器種類別重量一覧表

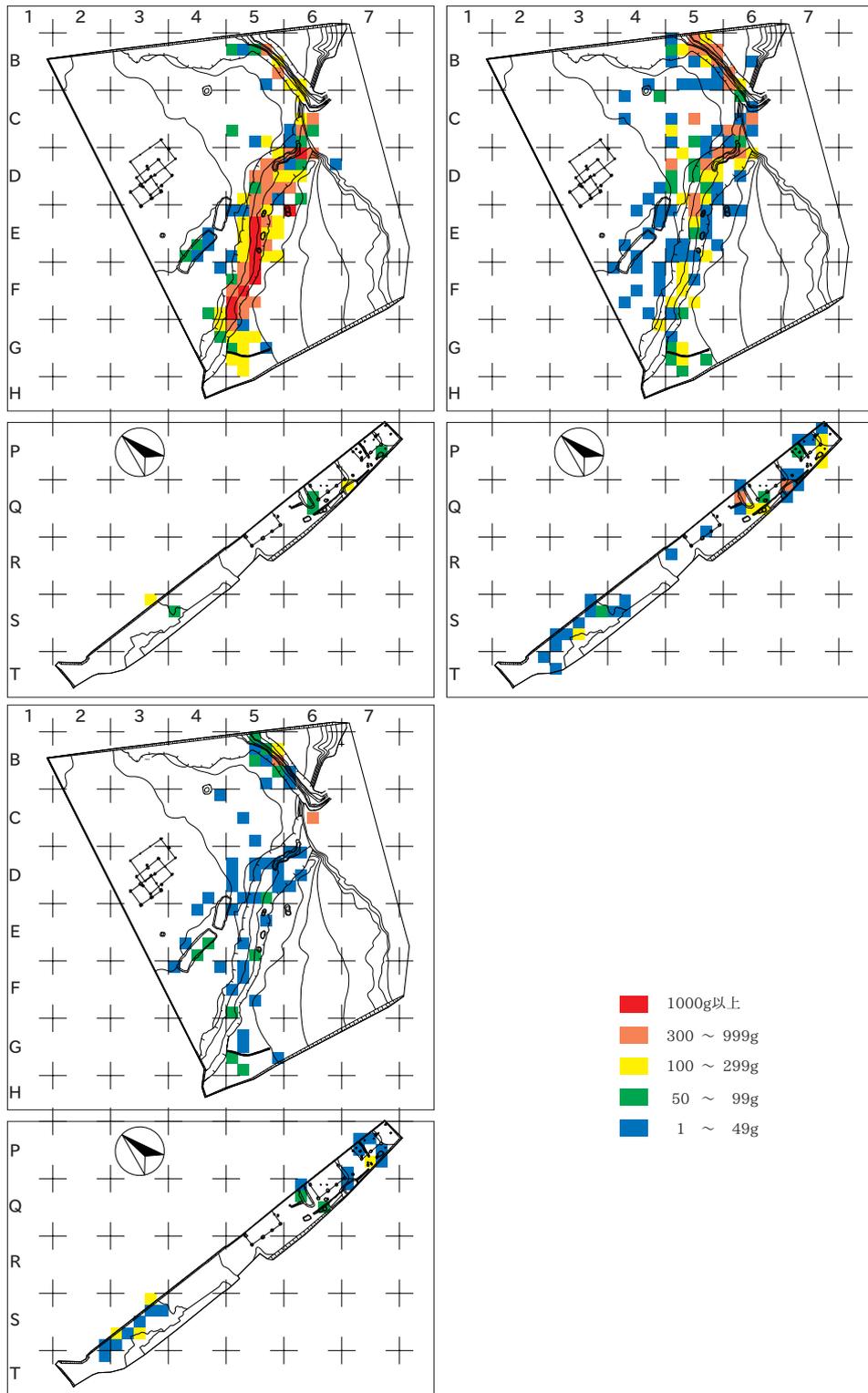
## B 土器分類

土器分類は位置も隣接し、主な土器の時期もほぼ一致していることから、北前田・北新田遺跡共通のものとする。両遺跡から出土した土器・陶磁器は縄文時代～近世のものまで確認した。大多数は弥生～古墳時代及び古代のもので占められるため、分類はその時期のみを対象に行うものとする。まず、時期別に弥生時代後期～古墳時代前期・古墳時代後期・古代に大別した後、種別・器種ごとに中別、器形・法量等による細別を行った。

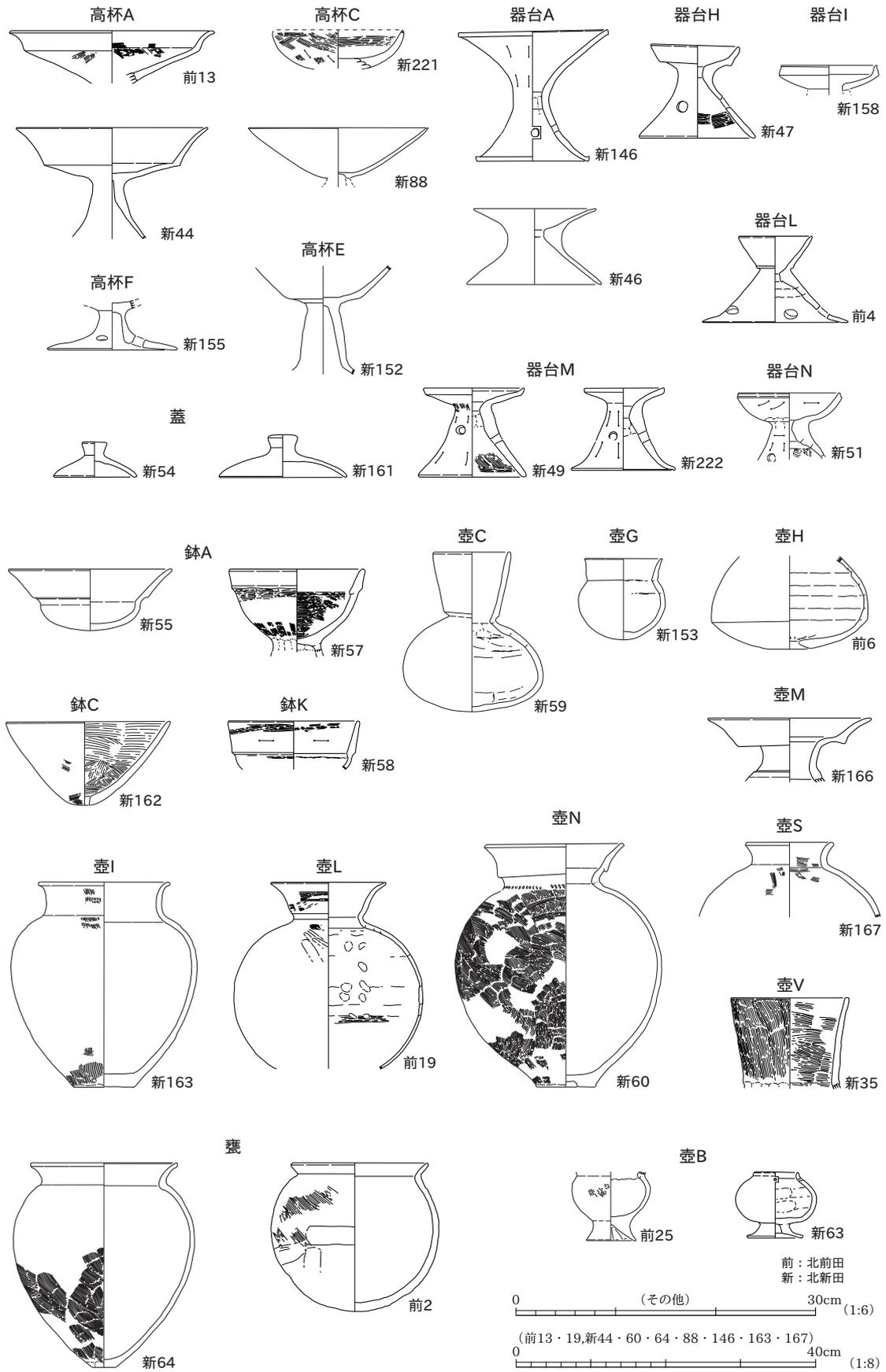
器種分類図（第13～15図）の土器の番号は前→北前田遺跡、新→北新田遺跡出土のもので、数字はそれぞれの掲載番号である。

### 1) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第13図）

分類及び時間軸については、新潟県考古学会シンポジウム「新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」（以下新潟シンポ）で発表された分類・変遷案〔滝沢2005b〕に準じた。従って以下に示すアルファベットもこの分類案と共通のものである。時間軸は「新潟シンポ5～6期」というように新潟シンポで提示された編年案に沿うものとした。



第12図 北前田遺跡出土土器分布図  
 (S=1/1,200、左上：弥生土器・古墳時代土師器、右上：古代土師器、左下：須恵器)



第13図 器種分類図 (弥生時代後期~古墳時代前期)

高杯（北前田13、北新田44・88・152・155・221） 器形ではA：口縁部が有段で、外反・外傾して端部に至るもの、C：東海系高杯と呼ばれる口縁部が内湾気味に立ち上がり碗形を呈するもの、E：畿内系屈折脚を有するもの、F：いわゆる小型高杯に細別した。

器台（北前田4、北新田46・47・49・51・146・158・222） 器形ではA：受部・脚部が無段のもの、H：脚部から大きく外反して有段の口縁部に至る小型器台、I：受部が上端で短く外反する小型器台、L：受部が直線的に開いて立ち上がり受部が深い小型器台、M：受部は直線的に外へ開き上端でわずかにつまみ上げられた小型器台、N：受部が内湾して立ち上がる小型器台に細別した。

蓋（北新田54・161） 体部が笠形のものがある。細別していない。

鉢（北新田55・57・58・162） 器形ではA：有段口縁鉢、C：底部有孔鉢、K：身が深く内湾して立ち上がるものに細別した。

壺（北前田6・19・25、北新田35・59・60・63・153・163・166・167） 器形ではB：小型で脚部を有する無頸壺、C：扁平な体部と直口する細長い口頸部を有するもの、G：畿内系小型罎、H：東海系のひさご壺、I：大型で外反して立ち上がる広口壺、L：細口有段で口縁部下段が短いもの、M：頸部が直立する畿内系二重口縁壺、N：二重に外反する畿内系二重口縁壺、S：短頸直口壺、V：大型の広口長頸壺に細別した。

甕（北前田2、北新田64） 確認できたものはすべて在地系と考えられる。細別していない。

## 2) 古墳時代後期の土器 (第14図)

土師器・須恵器を確認した。分類は一ノ口遺跡東地区の報告書〔鈴木ほか1994〕、春日真実氏、相田泰臣氏の研究で示された分類案〔春日2006・相田2004〕を参考にした。時間軸は「7世紀前半」というように西暦で表した。

### a 土 師 器

高杯（北前田15、北新田1・38・66） 器形ではA：内湾する杯部と外反する口縁部からなるもの、B：内湾する杯部と口縁部からなるものに細別した。杯部内面に黒色処理を施す。

杯（北新田2・31・68・172・173） 器形ではA：内湾する体部と外反する口縁部からなるもの、B：体部に稜を持ち、内湾する体部と上方もしくは外側に延びる口縁部からなるもの、C：内湾する体部が屈曲せずに立ち上がるものに細別した。細別B・Cは内面に黒色処理を施す。

壺（北新田14） 全体の様相を伺えるものは少ない。細別していない。

甕（北新田4・10・17・39・84・123・225） 器形ではA：長胴の体部を持つもの、B：球形の体部を持つものに細別した。また口径によりI：15cm以上、II：12～15cmに細別した。

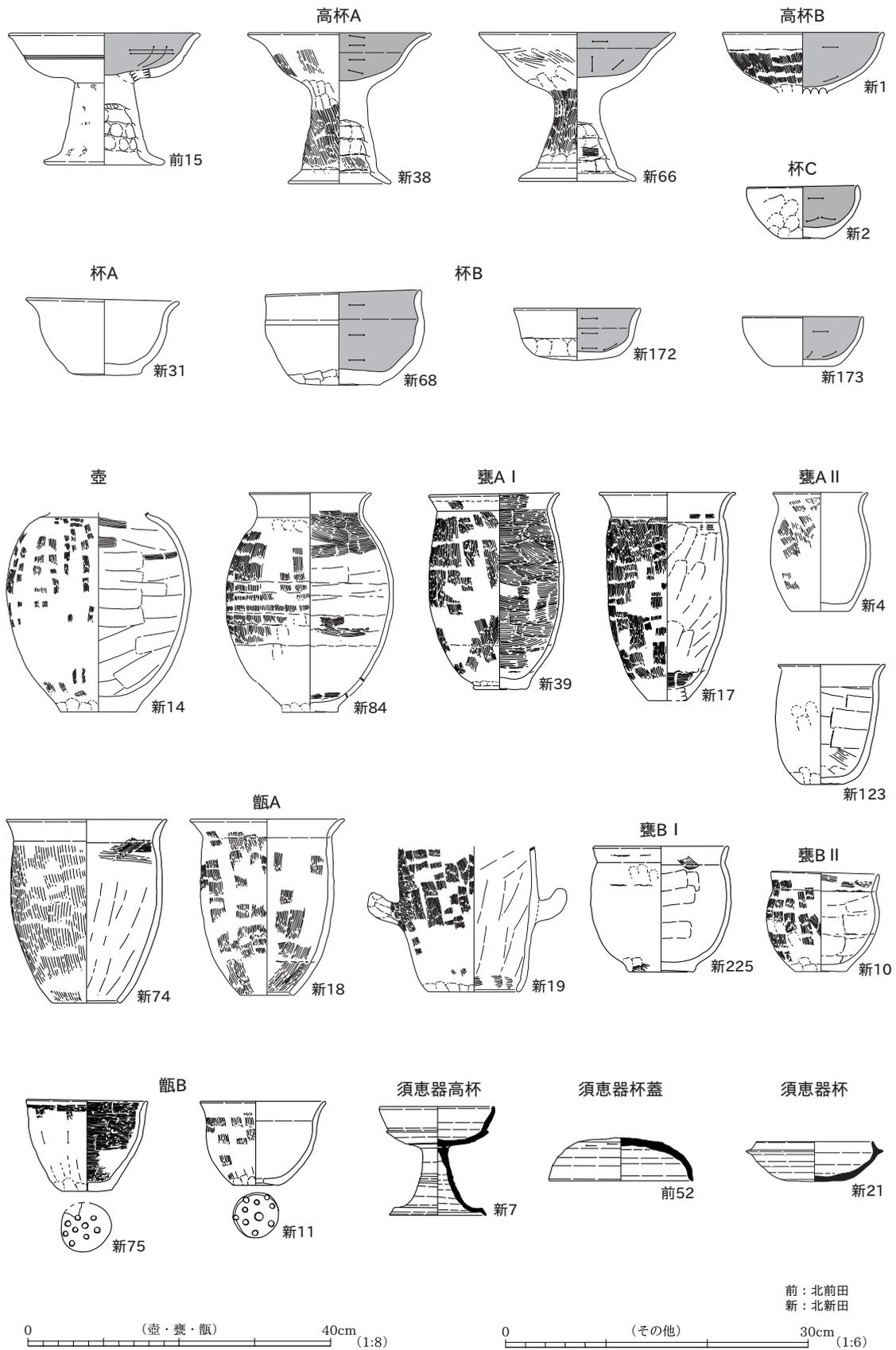
甗（北新田11・18・19・74・75） 器形ではA：底部が筒抜けのもの、B：底部に多孔を穿つものに細別した。口径では細別Aは20cm以上、細別Bは15～20cmの範疇に収まる。

### b 須 恵 器

高杯（北新田7） 北新田遺跡において1点のみ確認された。細別していない。

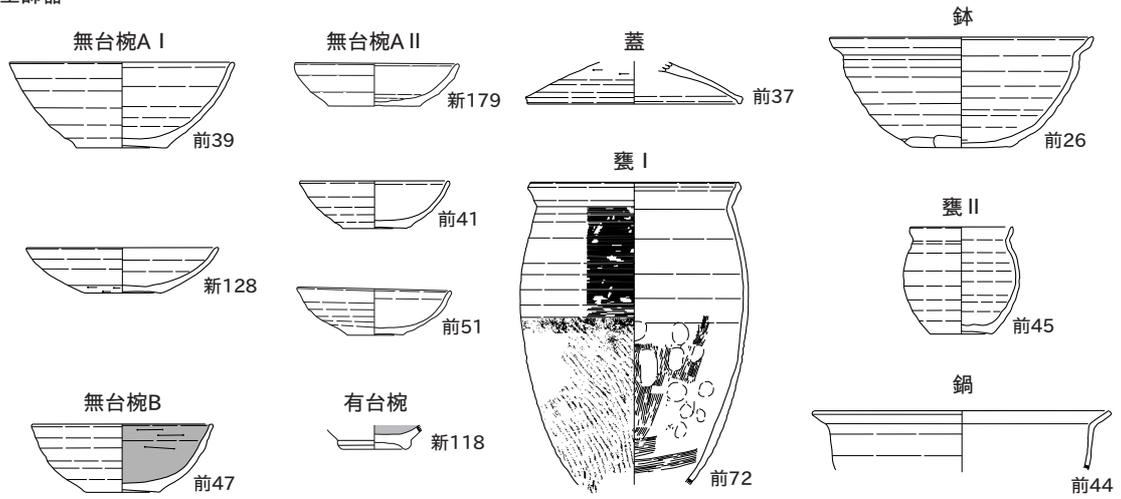
杯蓋（北前田52） 古墳時代中期以来の器形を呈するものがある。細別していない。

杯（北新田21） 古墳時代中期以来の器形を呈するものがある。細別していない。

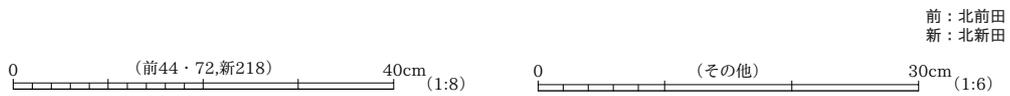
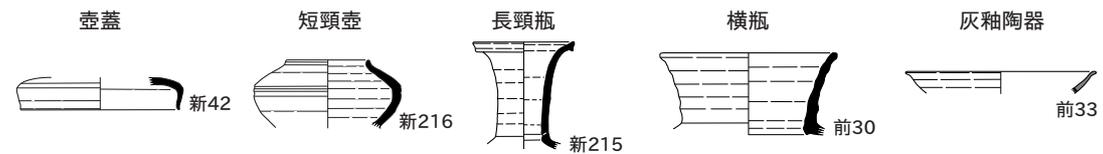
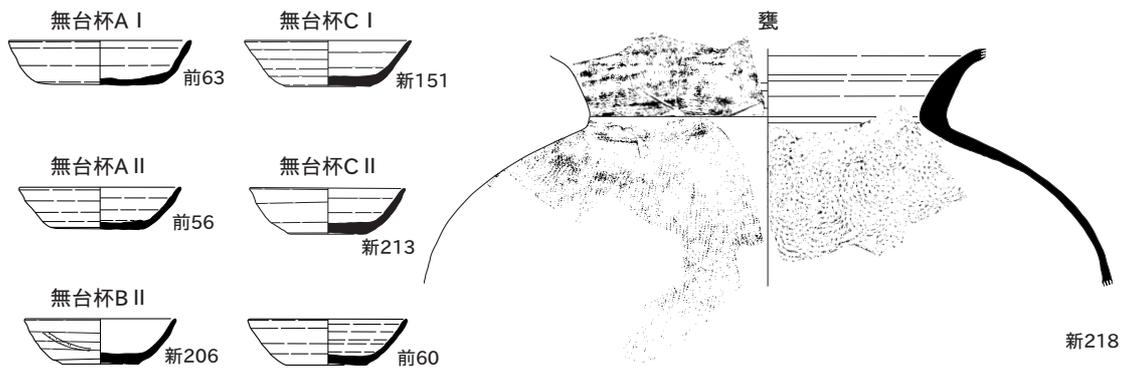
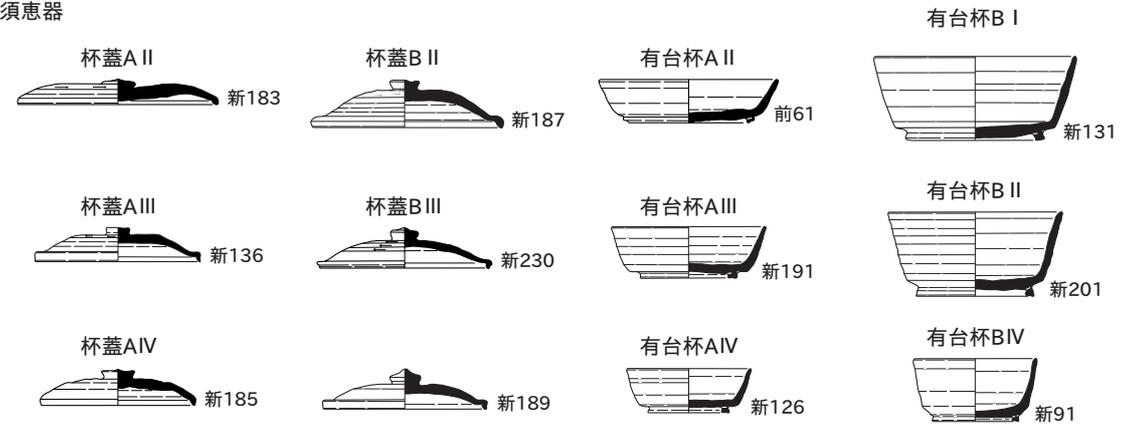


第14図 器種分類図（古墳時代後期）

土師器



須恵器



前：北前田  
新：北新田

第15図 器種分類図(古代)

### 3) 古代の土器 (第15図)

土師器・須恵器・灰釉陶器を確認した。分類は滝寺・大貫古窯群 [小田ほか2006] 及び岩ノ原遺跡 [高橋ほか2008] の各報告書を参考にした。時間軸は「9世紀中葉」というように西暦で表した。

#### a 土 師 器

無台椀 (北前田39・41・47・51、北新田128・179) 器形ではA：内面に黒色処理が施されないものとB：内面に黒色処理を施した後ミガキをかけたものに細別した。また口径によりI：13cm以上、II：11～13cmに細別したが、その境界は曖昧である。

有台椀 (北新田118) 北新田遺跡で1点のみ確認された。内面に黒色処理を施す。細別していない。

蓋 (北前田37) 北前田遺跡A地区で1点のみ確認された。細別していない。

鉢 (北前田26) 北前田遺跡A地区で1点のみ確認された。細別していない。

甕 (北前田45・72) 口径によりI：19cm以上、II：15cm未満に細別した。

鍋 (北前田44) 北前田遺跡A地区で1点のみ確認された。細別していない。

#### b 須 恵 器

杯蓋 (北新田136・183・185・187・189・230) 器形ではA：頂部の径が大きく平坦であり、器高が低い北陸系とB：器形が山笠状を呈し、器高が高い東海系に細別した。また口端部径によりI：17cm以上、II：14～17cm前後、III：12～14cm前後、IV：10～12cm前後に細別した。

有台杯 (北前田61、北新田91・126・131・191・201) 器形ではA：器高の低い箱形とB：器高5cm以上の深身のものに細別した。また口径によりI：16cm以上、II：13～16cm前後、III：11～13cm前後、IV：9～11cm前後に細別した。

無台杯 (北前田56・60・63、北新田151・206・213) 器形ではA：底部の切り離しがへら切りの箱形を呈するものとB：底部の切り離しが糸切りで底部と体部の境に綾を持ち、「二段底」を呈するもの、C：糸切りの椀形を呈するものに細別した。また口径によりI：13cm以上、II：11～13cmに細別した。

壺蓋 (北新田42) 破片資料のみであり、全体の様相を伺えるものは見られない。細別していない。

短頸壺 (北新田216) 破片資料のみであり、全体の様相を伺えるものは見られない。細別していない。

長頸瓶 (北新田215) 破片資料のみであり、全体の様相を伺えるものは見られない。細別していない。

横瓶 (北前田30) 破片資料のみであり、全体の様相を伺えるものは見られない。細別していない。

甕 (北新田218) 破片資料のみであり、全体の様相を伺えるものは見られない。細別していない。

#### c 灰 釉 陶 器 (北前田33)

北前田遺跡A地区で1点のみ確認された。細別していない。

### C 土器・陶磁器

#### 1) A地区遺構内出土

SB40 (図版8-1、図版85)

P33より古代の須恵器杯(1)が出土した。底部は欠損しているものの有台杯と考えられる。比較的薄

手の作りで、時期は9世紀中葉に比定される。

SK14 (図版8-2・3、図版85)

古墳時代前期の甕(2・3)が出土した。2は体部が球形を呈し、底部は丸底である。体部外面にはハケメによる調整が見られる。時期は体部の球形化・丸底化から前期後半(新潟シンボ8～9期)に比定される。3は口縁部から体部上半にかけてハケメによる調整が見られる。

SK15 (図版8-4～8、図版85)

古墳時代前期の器台(4・5)、壺(6)、甕(7)、高杯と考えられる脚部(8)が出土した。4は深身の受部を持つ細別Lに属する。脚部の透穴を5つ確認し、外面には赤彩を施す。6は「ひさご壺」と呼称する東海系土器と考えられる。体部は下膨れになり、底部は穿孔する。7は「く字甕」「コ字甕」と呼称する在来系土器と考えられる。時期はいずれも前期初頭(新潟シンボ5～6期)に比定される。

SK41 (図版8-9、図版85)

古代の土師器無台椀(9)が出土した。体部内面は一部剥落している。長岡市(旧和島村)門新遺跡SD151・152出土土器[田中1995]に類例が見られることから、時期は10世紀中葉に比定される。

SD3 (図版8-10、図版85)

古代の須恵器杯蓋(10)が出土した。頂部・端部共に欠損している。

SD4 (図版8-11、図版85)

古代の土師器(11)が出土した。甕と考えられる。

SD31 (図版8-12、図版85)

古代の須恵器杯(12)が出土した。比較的薄手の作りである。

## 2) A地区河川跡出土

SD2 (図版8-13～18、図版9-19～33、図版85・86)

弥生～古墳時代の土器(13～25)、古代の土器(26～33)が出土した。13～15は高杯である。13は杯部が浅く、口縁部が有段である。口縁端部は丸く処理されている。時期は弥生時代後期(新潟シンボ1期)に比定される。14は脚部のみを確認した。外面に赤彩を施す。時期は古墳時代前期に比定される。15は杯部に2条の沈線を横位に巡らす。内面は黒色処理を施す。脚部は比較的短めである。時期は古墳時代後期(6世紀末～7世紀前半)に比定される。

16～18は器台である。16・17は受部が内湾して立ち上がる細別Nに属する。18は上越地方で多く見られる大き目の透穴を脚部に施す。時期はいずれも古墳時代前期後半(新潟シンボ9～10期)に比定される。

19～21・25は壺である。19は細口有段で、口縁部下段が短い細別Lに属するが、口縁部内面の段部は明瞭でない。新潟市(旧黒埼町)緒立遺跡B地区SI2出土土器[金子ほか1983]に類例が見られることから、時期は古墳時代前期前半(新潟シンボ7期)に比定する。20は細別Iに属する広口壺であるが、口縁部が短く、短頸直口壺(細別S)の様相も見られる。21は細別Nに属する畿内系二重口縁壺である。内面の段部は不明瞭である。時期は新潟シンボ6～7期に比定される。25は口縁部が欠損しているものの、細別Bに属する小型の無頸壺と考えられる。脚部を有する。

22～24は甕である。22は北陸の有段口縁擬凹線甕が形骸化した在地系土器と考えられる。口縁部は長く、外面には擬凹線は見られず、ハケメによる調整が見られる。時期は古墳時代前期初頭(新潟シンボ6期)に比定される。23・24は「く字甕」「コ字甕」と呼称する在地系土器と考えられる。

26は古代の土師器鉢である。北前田・北新田遺跡で確認できたのはこの1点のみである。上越市新田畑遺跡SD38出土土器〔笹沢ほか1994〕に類例が見られることから、時期は9世紀後半～10世紀初頭に比定される。27・28は古代の土師器碗である。28は底部が欠損しているが、無台碗と考えられる。内面に黒色処理を施す。時期はいずれも9世紀後半に比定される。29は古代の須恵器無台杯である。底部切り離しがへら切りで、法量Ⅰに属する。比較的厚手の作りであり、時期は8世紀第2四半期に比定される。30は横瓶、31は長頸瓶である。33は灰釉陶器皿である。時期は9世紀後半に比定される。

SD5 (図版9-34～38・10、図版86・87)

古墳時代前期の土器(46)、古墳時代後期の土器(34・35・52・55)、古代の土器(36～45・47～51・53・54・56～58)が出土した。

34～51は土師器で、このうち34～38は覆土5層から出土した。34は古墳時代後期の高杯の脚部である。35は古墳時代後期の杯である。体部に稜を持ち、口縁部が上方に延びる細別Bに属する。内面に黒色処理を施す。時期は7世紀前半に比定される。37は古代の土師器蓋である。北前田・北新田遺跡で確認できたのはこの1点のみである。上越市岩ノ原遺跡出土土器〔高橋ほか2008〕に類例が見られ、時期は9世紀後半に比定される。38は甌の把手部である。39～44は覆土3層から出土した。このうち39～43は古代の土師器無台碗である。39は口径18cmを測る大型のもので、法量Ⅰに属する。内面にロクロ目が残る。時期は10世紀中葉に比定される。40～43は法量Ⅱに属するものである。いずれも内面に調整が施され、ロクロ目が見られない。上越市今池遺跡SD3出土土器〔坂井ほか1984〕に類例が見られることから、時期はいずれも9世紀後半に比定される。41は底部外面に「山」の墨書が確認できる。44は古代の土師器鍋である。北前田・北新田遺跡で確認できたのはこの1点のみである。45は覆土2層から出土した古代の土師器甕で、法量Ⅱに属する。底部切り離しは糸切りである。時期は9世紀後半に比定される。46～51は覆土1層から出土した。46は古墳時代後期の壺である。47～51は古代の土師器無台碗である。47は法量Ⅰに属するもので、内面に黒色処理を施す。時期は10世紀中葉に比定する。51は底径が4.5cmと小さく、碗化の進んだ器形を呈する。底部切り離しは糸切りで、「三」のへら記号が確認できる。時期は10世紀末～11世紀初頭に比定される。

52～58は須恵器で、このうち52・53は覆土5層から出土した。52は古墳時代後期の杯蓋で、古墳時代中期以来の器形を呈する。胎土に長石を多く含み、能登産と考えられる。時期は6世紀末～7世紀前半に比定され、TK209型式に併行するものと考えられる。53は須恵器甕の体部破片である。54は覆土3層から出土した古代の須恵器有台杯である。器高の低い細別Aに属するもので、高台は内端接地し、比較的厚手の作りとなる。時期は8世紀中葉に比定される。55～58は覆土1層から出土した。55は古墳時代後期の杯身である。時期は6世紀末～7世紀前半に比定される。56は古代の須恵器無台杯で、底部切り離しがへら切りの細別Aに属する。比較的薄手の作りである。胎土から佐渡小泊窯産と考えられ、時期は9世紀第4四半期に比定される。57・58は古代の壺・瓶類と考えられる。

### 3) B地区遺構内出土

SK60 (図版11-59・60、図版87)

古代の土師器無台碗(59)、須恵器無台杯(60)が出土した。60は底部切り離しが糸切りの細別Cに属するものである。底部外面に「毛」の墨書が確認できる。胎土から大貫窯産のものと考えられ、時期は9世紀第2四半期に比定される。

## SK91 (図版11-61、図版87)

古代の須恵器有台杯(61)が出土した。器高の低い細別Aに属するもので、高台は内端接地し、比較的厚手の作りとなる。底部内面には研磨した痕跡が認められる。時期は8世紀第2四半期に比定される。

## SX55 (図版11-62～64、図版87)

古墳時代前期の壺(62)、古代の須恵器無台杯(63・64)が出土した。62は細口有段で、口縁部下段が短い細別Lに属するもので、口径13.2cmの小型品である。北陸系と考えられる。63・64はいずれも底部切り離しがへら切りで、法量Iに属する。比較的厚手の作りであり、時期は8世紀第2四半期に比定される。

## SX59 (図版11-65、図版87)

古代の土師器(65)が出土した。甕と考えられる口縁～体部破片である。

## SD54 (図版11-66、図版87)

土師器(66)が出土した。甕と考えられる口縁部破片である。

## SD88 (図版11-67、図版87)

古代の須恵器(67)が出土した。杯と考えられる口縁部破片である。

## P75 (図版11-68、図版87)

古代の須恵器(68)が出土した。甕と考えられる体部上半の破片である。

## 4) B地区河川跡出土

## SD51 (図版11-69～71、図版87)

古墳時代の土師器(69)、古代の須恵器(70・71)が出土した。69は壺と考えられる底部破片である。時期は前期に比定される。70は有台杯の底部破片で、高台が外端接地する。71は無台杯で、底部切り離しがへら切りである。胎土から佐渡小泊窯産と考えられ、時期は9世紀後半に比定される。

## 5) 表土・攪乱出土(図版11-72～74、図版87)

72はA地区表土中より出土した古代の土師器甕で、法量Iに属する。体部下半外面には平行叩き、内面にはハケメと指頭圧痕が確認できる。時期は9世紀後半に比定される。73はB地区表土中から出土した古代の須恵器杯蓋である。

74はA地区内の攪乱中から出土した近世陶磁器である。大振りの丸形椀で、外面に手書きによる笹の葉が描かれ、見込みに二重圏線とコンニャク印判五弁花文が施される。肥前波佐見焼と考えられ、時期は18世紀後半に比定される。

## D 石器・石製品

## 1) 剥片石器(図版11-75、図版87)

SD2から1点出土した(75)。縦長の剥片を素材とし、両側縁に不連続な剥離の刃部を持つ不定形石器と考えられる。石材はチャートである。

## 2) 紡錘車(図版11-76、図版87)

SD2から1点出土した(76)。形状は円形で、断面はやや扁平気味の作りとなる。中央部に径0.8cmの孔を穿つ。表面の孔の周囲には剥離した痕跡が認められる。石材は凝灰岩である。

## 5 小 結 —北前田遺跡における遺構の変遷—

今回の調査で、北前田遺跡では小規模ながらも古墳時代前期から古代までの間、断続的に生活が営まれた痕跡が確認できた。しかし限られた地域内での調査であることと、遺構・遺物の少なさから、不明な点が多い。今回は遺構の存続時期を伴出する遺物の年代等から5期に区分した。さらに隣接する北新田遺跡の様相も絡めた上で小結とする。

**1期** (古墳時代前期) 当該期の遺構はA地区の土坑4基 (SK9・13・14・15) がある。SK15は新潟シンポ5～6期、SK14は8～9期の土器が出土しており、若干の時期差も考えられる。北新田遺跡における前期の遺構は5～6期併行の竪穴住居 (SI201・825)、9～10期併行の溝 (SD1551) 等があるが、数は少ない。周辺には前期の集落遺跡がほとんど見られないことから、両遺跡の関連は推定できる。

SK9・13・14を切る河川跡 (SD2) の形成時期については、覆土中から古墳時代前期 (新潟シンポ6～7期、9～10期) の土器が見られることから、前期末頃と考えられる。また土坑の形成時期よりも古い弥生時代後期の高杯も出土していることから、これらの土器は河川形成後その場に廃棄されたものではなく、別の場所で廃棄され、流されてきた可能性が考えられる。

**2期** (古墳時代後期) 当該期の遺構は確認できないが、A地区の河川跡 (SD2・5) からこの時期の土器が出土している。北新田遺跡では後期の竪穴住居 (SI570・1058等) や掘立柱建物 (SB1042・1297等)、土坑 (SK826・1179) を多数検出しており、この時期には本格的な集落を営んでいたものと考えられる。

両遺跡で出土した土器を土師器高杯で比較する (第14図)。北前田遺跡から出土したもの (前15) は杯部が浅く、口縁部も伸張していないのに対して、北新田遺跡から出土したもの (新38・新66) は杯部がより深く、口縁部が伸張するという新しい様相 [春日2006] を持ち、前15は6世紀末～7世紀初頭、新38・新66は7世紀前半にそれぞれ比定される。ほかの土器もそれぞれこれらの時期に収まるものと考えられ、北前田遺跡出土土器が北新田遺跡出土土器よりも若干古くなる。

以上の観点から、北前田遺跡出土の古墳時代後期の土器は北新田遺跡の集落で廃棄されたものではなく、別の場所で廃棄され、流されてきた可能性が考えられる。SD5の形成時期については、古墳時代前期の土器は下層では見られず、上層でごく少量しか出土しなかったこと、下層には6世紀末～7世紀初頭の土器が比較的まとまって出土したことから7世紀頃形成されたものと考えられる。

**3期** (8世紀中葉) 当該期の遺構はB地区の土坑 (SK91)、性格不明遺構 (SX55) がある。さらにSK91がSD58を切っていること、SD58はSB99に関連する区画溝の可能性が考えられることから、B地区の掘立柱建物や区画溝もこの時期に位置づけられるものと考えられる。A地区及び北新田遺跡において当該期の遺構は確認できず、河川跡からこの時期の土器が少量出土しているに過ぎない。B地区がこの時期の集落の中心であった可能性もあるが、調査範囲が限られており不明な点が多い。B地区の北側は平成20年度以降の調査が予定されており、調査の結果を待って今後の課題としたい。

**4期** (9世紀中葉～後葉) 当該期の遺構はA地区の掘立柱建物 (SB38～40)、溝 (SD31)、B地区の土坑 (SK60) がある。またA・B両地区の河川跡からもこの時期の土器が出土している。しかし遺構数は希薄で、一時的な生活の場であったと考えられる。

北新田遺跡では古代の竪穴住居 (SI469・871等)、掘立柱建物 (SB937・938等)、土坑 (SK297・1425等) を多数検出し、再び本格的な集落が営まれている。年代は出土土器から9世紀中葉に位置づけられる。

両遺跡を比較すると、隣接しているとはいえ遺構数が違い、SB38～40の規模や柱穴の大きさが北新田遺跡のそれと比べて小さく、貧弱である。このことから関連性を裏付けることはできず、それぞれが性格の異なる集落であった可能性が考えられる。

**5期**（10世紀中葉～11世紀初頭） 当該期の遺構はA地区の土坑（SK41）1基のみである。B地区及び北新田遺跡においてこの時期の遺構は確認できなかった。従って集落の中心は北前田・北新田遺跡以外の場所にあったものと考えられる。

A地区の河川跡から出土した土器の中で最も新しいものは上層でわずかに散布している近世陶磁器を除くと、10世紀末～11世紀初頭に比定される。この時期の直後にSD2・5は埋没したものと考えられる。

観 察 表

A 地区

SB38

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P21	3C25	楕円形	台形状	18.64	18.34	40	28	30		P21-22 : 2.14	
P22	4D1	方形	半円状	18.66	18.54	44	26	12		P22-23 : 2.00	
P23	4D6	円形	U字状	18.64	18.22	32	28	42		P23-28 : 2.34	
P28	3D10	円形	漏斗状	18.64	18.41	26	24	23		P28-25 : 2.16	
P25	3D14	不整形	不整形	18.66	18.50	36	32	16	柱痕有	P25-20 : 2.08	
P20	3D18	不整形	階段状	18.65	18.38	26	24	27		P20-26 : 4.36	
P26	3D7	長方形	U字状	18.64	18.35	26	20	29		P26-19 : 2.08	
P19	3D3	円形	漏斗状	18.64	18.44	22	20	20		P19-42 : 2.12	
P42	3D24	円形	不整U字状	18.62	18.27	20	20	35		P42-21 : 2.36	

SB39

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P16	3D10	方形	U字状	18.64	18.24	45	36	40	柱痕有	P16-28 : 1.82	
P28	3D10	円形	U字状	18.66	18.34	26	24	32		P28-24 : 1.82	
P24	4D11	不整長方形	U字状	18.64	18.36	44	34	28	柱痕有	P24-29 : 2.51	
P29	3D20	円形	台形状	18.62	18.34	44	36	28		P29-30 : 2.52	
P30	3D24	方形	U字状	18.65	18.24	36	32	41		P30-32 : 1.95	
P32	3D18	円形	箱状	18.64	18.30	36	34	34		P32-18 : 1.90	
P18	3D11	不整長方形	箱状	18.64	18.26	38	30	38		P18-27 : 2.50	
P27	3D9	円形	箱状	18.64	18.27	40	40	37		P27-16 : 2.44	

SB40

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P37	3D14	不整長方形	U字型	18.65	18.26	40	32	39	柱痕有	P37-43 : 1.64	
P43	3D19	不整形	台形状	18.64	18.40	24	22	24		P43-33 : 1.50	
P33	3D20	方形	台形状	18.62	18.21	50	48	41	柱痕有	P33-34 : 2.02	
P34	3D24	方形	階段状	18.64	18.40	46	44	24	柱痕有	P34-35 : 2.26	
P35	3E3	方形	台形状	18.63	18.30	50	46	33	柱痕有	P35-36 : 3.02	
P36	3D17	方形	箱状	18.61	18.30	40	34	31	柱痕有	P36-17 : 2.22	
P17	3D18	不整形	台形状	18.62	18.26	56	48	36		P17-37 : 2.28	

B 地区

SB98

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P66	5Q20	不整形	台形状	19.00	18.86	28	26	14		P66-65 : 1.96	
P65	5Q20	不整長方形	台形状	19.01	18.64	54	44	37		P65-64 : 1.82	
P64	5Q25	不整形	台形状	19.03	18.73	50	44	30		P64-63 : 1.96	
P63	5Q4	不整長方形	階段状	19.04	18.75	66	54	29		P63-53 : 2.32	
P53	5R3	不整形	階段状	19.01	18.54	50	48	47		P53-52 : 1.84	
P52	5Q22	不整形	台形状	19.02	18.62	52	48	38		—	

SB99

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P73	6P20	長円形	不整弧状	18.96	18.86	61	33	10		P73-72 : 2.50	
P72	7P1	不整形	台形状	18.94	18.47	53	47	47		P72-71 : 1.78	
P71	6Q5	不整形	台形状	18.95	18.50	49	42	45		P71-70 : 1.82	
P70	6Q4.9	不整円形	台形状	19.00	18.52	64	56	48		P70-69 : 2.12	
P69	6Q8.9	不整円形	台形状	18.98	18.78	58	52	20		P69-68 : 2.76	
P68	6Q3	楕円形	台形状	19.00	18.78	54	39	22		—	

SB100

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ			
P83	7P8.9	不整形	階段状	18.85	18.55	54	48	30		P83-82 : 1.74	
P82	7P9	不整形	箱状	18.86	18.64	47	46	22		P82-81 : 2.20	
P81	7P13	不整長方形	半円状	18.92	18.70	50	40	22		P81-80 : 2.10	
P80	7P17	不整円形	箱状	18.90	18.58	40	40	32		P80-79 : 2.02	
P79	7P12	不整円形	台形状	18.90	18.54	40	36	36		—	

第3表 北前田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成・色調	胎土	切り難し・方向	調整	時期	備考
1	SB40P33	覆土1	須恵器	杯	口縁部～底部破片 完形	13.5	15	15	還元炎・灰色	長		ロクロナデ	9世紀中葉	
2	SK14	覆土1	土師器	甕					酸化炎・浅黄褐色	礫・角		外面ハケメ	古墳時代前期 (8～9期)	外部外面スス付着
3	SK14	覆土	土師器	甕	口縁部～底部破片	20			酸化炎・灰黄褐色	石・白・赤		外面ハケメ、内面指頭圧痕・ハケメ・ヘラナデ	古墳時代前期 (8～9期)	外面スス付着
4	SK15	覆土1	土師器	器台L	口縁部～裾部1/3	7.4	14.6	8.7	酸化炎・にぶい褐色	石・白・赤・長・礫		内面輪積み痕	古墳時代前期 (5～6期)	外面赤彩、脚部透穴5
5	SK15	覆土1	土師器	器台N	口縁部～裾部1/3	7.8			酸化炎・褐色	赤・長・礫		内面輪積み痕	古墳時代前期 (5～6期)	脚部透穴1痕
6	SK15	覆土1	土師器	壺H	底部～底部1/3		4.3		酸化炎・淡黄色	石・赤・長		内面輪積み痕	古墳時代前期 (5～6期)	東海系ひさご壺
7	SK15	覆土1	土師器	甕	口縁部～底部破片	14.9			酸化炎・にぶい褐色	礫		内面輪積み痕、内面ハケメ	古墳時代前期 (5～6期)	
8	SK15	覆土1	土師器	高杯	脚部破片	20			酸化炎・オリーブ黒色	石・白		外面輪積み痕、内面ハケメ	古墳時代前期 (5～6期)	内面剥落
9	SK41	覆土3	土師器	無台碗A II	口縁部～底部2/3	12	5.4	3.8	酸化炎・にぶい褐色	石・赤・長・骨・礫		ロクロナデ	10世紀中葉	
10	SD3	覆土1	須恵器	杯蓋	底部破片		6.2		還元炎・灰白色	長		外面上半ロクロケズリ	古代	
11	SD4	覆土1	土師器	甕	底部破片				酸化炎・明赤褐色	石・白・赤・礫		ロクロナデ	9世紀中葉?	
12	SD31	覆土1	須恵器	杯	口縁部～底部破片	13.4			還元炎・灰色	長		ロクロナデ	弥生時代後期 (1期)	
13	SD2 (5G1.6.8)	覆土1	土師器	高杯A	杯部破片	26.7			酸化炎・褐色	赤・長・礫		内外面ハケメ	古墳時代前期	杯部内外面及び脚部外面赤彩
14	SD2 (5E13)	覆土1	土師器	高杯	脚部1/2		8.2		酸化炎・にぶい黄褐色	石・白・雲・礫			古墳時代前期	
15	SD2 (5D9.10.14.19.20) SD2 (5D18)	覆土1 覆土2	土師器	高杯A	口縁部～裾部2/3	19	12	13.3	酸化炎・浅黄褐色	石・赤・礫		杯部外面沈線2本、脚部外面ハケメ、杯部内面黒色処理後ミガキ、脚部内面輪積み痕・指頭圧痕	6世紀末～7世紀前半	
16	SD2 (5F12.21)	覆土1	土師器	器台N	口縁部～裾部2/3	9.5	12	8	酸化炎・灰白色	石・白・赤			古墳時代前期 (9～10期)	脚部透穴3
17	SD2 (6D3)	覆土1	土師器	器台N	口縁部～裾部2/3	8	11.1	7.1	酸化炎・褐色	石・白・赤・角			古墳時代前期 (9～10期)	
18	SD2 (5E8)	覆土1	土師器	器台	脚部1/3		12		酸化炎・褐色	石・赤・長・礫			古墳時代前期	脚部透穴4
19	SD2 (5F3.8)	覆土1	土師器	壺L	口縁部～底部1/3	15.1			酸化炎・浅黄褐色	赤・雲・礫		外面ハケメ後下半ミガキ、内面指頭圧痕・ハケメ	古墳時代前期 (7期)	
20	SD2 (5E8.13)	覆土1	土師器	壺I	口縁部～底部破片	13			酸化炎・浅黄褐色	石・赤・長		内外面ハケメ	古墳時代前期	
21	SD2 (5F7.8)	覆土1	土師器	壺N II	口縁部破片	19			酸化炎・浅黄褐色	石・赤・雲・礫			古墳時代前期 (6～7期)	
22	SD2 (5F7.21)	覆土1	土師器	甕	口縁部～底部破片	12			酸化炎・にぶい褐色	石・礫		口縁部外面ハケメ、体部外面ミガキ、体部内面ハケメ	古墳時代前期 (6期)	
23	SD2 (4G5)	覆土1	土師器	甕	口縁部～底部破片	20			酸化炎・淡褐色	石・赤・長・礫		外面ハケメ	古墳時代前期	
24	SD2 (5E23)	覆土1	土師器	甕	口縁部～底部破片	15			酸化炎・浅黄褐色	赤・礫			古墳時代前期	風化著しい
25	SD2 (5E18)	覆土1	土師器	壺B	体部～底部2/3		5		酸化炎・浅黄褐色	石・赤・長		外面ハケメ	古墳時代前期	
26	SD2 (5E3)	覆土2	土師器	鉢	口縁部～底部3/4	20.7	7.8	8.8	酸化炎・浅黄褐色	石・赤・長・礫		内外面ロクロナデ、外面下半ハケズリ	9世紀後半～10世紀初頭	
27	SD2 (6D3)	覆土1	土師器	無台碗A II	完形	11.8	5.2	3.9	酸化炎・淡褐色	石・赤・長		ロクロナデ	9世紀後半	
28	SD2 (5D13)	覆土1	土師器	碗B I	口縁部破片	13.8			酸化炎・浅黄褐色	赤・礫		ロクロナデ、内面黒色処理後ミガキ	9世紀後半	
29	SD2 (5G11.16.22)	覆土1	須恵器	無台碗A I	口縁部～底部2/3	13.4	8.9	3.6	還元炎・灰白色	石・長		ロクロナデ	8世紀第2四半期	
30	SD2 (5G17)	覆土1	須恵器	横瓶	口縁部破片	14			還元炎・灰色	黒・長		ロクロナデ	9世紀	内外面自然釉・溶着物
31	SD2 (5D24.6D12) 5D6.8.15	覆土1 II	須恵器	長頸瓶	頸部～底部破片				還元炎・灰オリーブ色	黒・長		ロクロナデ	9世紀	内外面自然釉・溶着物
32	SD2 (5E17) 4F3	覆土1 II	須恵器	壺	体部～底部破片		5.8		還元炎・暗青灰色	長		ロクロナデ	9世紀	内面自然釉
33	SD2 (5E13)	覆土1	灰陶器	皿	口縁部破片	15						ロクロ成形、施釉	9世紀後半	
34	SD5 (5B9.6B21)	覆土5	土師器	高杯	脚部破片		11		酸化炎・浅黄褐色	赤・礫		脚部外面ハケメ、杯部内面黒色処理後ミガキ、脚部内面輪積み痕・指頭圧痕	6世紀末～7世紀前半	
35	SD5 (5B20) SD5 (5B15)	覆土3 覆土5	土師器	杯B	口縁部～底部破片	12.7			酸化炎・淡赤褐色	石		内面黒色処理後ミガキ	7世紀前半	
36	SD5 (5B20)	覆土5	土師器	無台碗A II	口縁部～底部2/3	12.5	5.8	4.1	酸化炎・浅黄褐色	石・赤・長・礫		ロクロナデ	9世紀後半	
37	SD5 (6C2.13)	覆土5	土師器	蓋	体部～端部1/2	17			酸化炎・淡褐色	石・赤・長・骨		外面上半ロクロケズリ	9世紀後半	
38	SD5 (6C1.3)	覆土5	土師器	甕	体部破片				酸化炎・灰白色	赤・長・礫		外面ハケメ	古代?	
39	SD5 (5B15)	覆土3	土師器	無台碗A I	口縁部～底部3/4	18	7.2	6.8	酸化炎・淡赤褐色	石・赤・長		ロクロナデ	10世紀中葉	

第4表 北前田遺跡 土器・陶磁器観察表 (1)

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
40	SD5 (5B9)	覆土3	土師器	無台碗A II	完形	11.6	5	4.2	酸化炎・褐色	石・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	
41	SD5 (5B10)	覆土3	土師器	無台碗A II	完形	11.6	5	3.8	酸化炎・浅黄色	石・赤・雲	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	墨書：底部外面「山」
42	SD5 (5B10)	覆土3	土師器	無台碗A II	完形	11.5	5	4.4	酸化炎・褐色	赤・長	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	
43	SD5 (5B9)	覆土3	土師器	無台碗A II	口縁部～底部1/4	11	4.8	3.5	酸化炎・褐色	赤・長・礫	糸切り・右?	ロクロナデ	9世紀後半	
44	SD5 (3B8) SD5 (3B12)	覆土3 覆土1	土師器	鍋	口縁部～体部破片	31			酸化炎・浅黄褐色	石・白・赤	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	風化著しい
45	SD5 (5B15)	覆土2	土師器	甕II	口縁部～底部1/3	8	5	8.5	酸化炎・灰黄褐色	石・赤・長	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	体部外面スス附着
46	SD5	覆土1	土師器	壺?	口縁部破片	9.8			酸化炎・淡褐色	赤・礫	糸切り・右	ロクロナデ	古墳時代前期	内面赤彩
47	SD5 (5B9)	覆土1	土師器	無台碗B I	口縁部～底部1/4	14.4	5.8	5.4	酸化炎・にぶい黄褐色	白・赤	糸切り・右	ロクロナデ	10世紀中葉	
48	SD5 (5B7)	覆土1	土師器	無台碗A II	口縁部～底部3/4	11.8	4.4	3.8	酸化炎・浅黄色	石・赤・長・雲	糸切り・右?	ロクロナデ	9世紀後半	
49	SD5 (5B3)	覆土1	土師器	無台碗A II	口縁部～底部2/3	11.3	5.6	4.2	酸化炎・褐色	石・白・赤	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	
50	SD5 (6B16)	覆土1	土師器	無台碗A II	口縁部～底部2/3	11.3	5.6	4.2	酸化炎・浅黄色	礫	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀後半	内外面スス附着
51	SD5 (6B16)	覆土	土師器	無台碗A II	完形	12	4.5	3.9	酸化炎・浅黄色	石・赤・長・礫	糸切り・右	ロクロナデ	10世紀末～11世紀初頭	ヘラ記号：「三」。口縁内面スス附着
52	SD5 (5B9.10.15.20)	覆土5	須恵器	杯蓋	頂部～端部2/3	14.4		4.3	還元炎・暗青灰色	長・礫	ヘラ切り・右	外面上半ロクロケズリ	6世紀末～7世紀前半	TK209型式併行。能登産か
53	SD5 (6C13)	覆土5	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰白色	赤・礫		外面平行叩き後ハケメ、内面同心円当て具	古代?	
54	SD5 (3B8.9)	覆土3	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部1/4	11	8	3.3	還元炎・灰白色	長	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀中葉	
55	SD5	覆土1	須恵器	杯身	口縁部～体部	12			還元炎・青灰色	長		ロクロナデ	6世紀末～7世紀前半	TK209型式併行
56	SD5 (6B16.21)	覆土1	須恵器	無台杯A II	完形	12.8	6.8	3.3	還元炎・灰色	長	ヘラ切り・右?	ロクロナデ	9世紀第4四半期	佐渡小泊産
57	SD5 (5B3) 4C5-4E19	覆土1 II	須恵器	壺	体部破片				還元炎・暗灰色	長・礫		ロクロナデ	古代	外面自然釉
58	SD5 (4B8)	覆土1	須恵器	壺	体部～底部破片		11		還元炎・灰色	黒・長		ロクロナデ	古代	外面自然釉
59	SK60	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部1/2	15.4	6.5	5.5	酸化炎・にぶい褐色	石・白・赤	ヘラ切り?	ロクロナデ	9世紀第2四半期	
60	SK60	覆土1	須恵器	無台杯C II	完形	12.4	6.5	3.7	還元炎・灰色	長	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「毛」
61	SK91	覆土1	須恵器	有台杯A II	口縁部～底部1/4	13.8	9.4	3.5	還元炎・灰色	長		ロクロナデ	8世紀第2四半期	外面自然釉。底部内面研磨
62	SX55	覆土1	土師器	壺L	口縁部破片	13.2			酸化炎・浅黄褐色	石・赤・長		外面ハケメ	古墳時代前期	細口有段口縁。北陸系
63	SX55	覆土1	須恵器	無台杯A I	口縁部～底部2/3	14.4	10.4	3.6	還元炎・灰白色	長・礫	ヘラ切り・右	ロクロナデ	8世紀第2四半期	
64	SX55	覆土1	須恵器	無台杯A I	口縁部～底部1/2	14	10	3.3	還元炎・灰白色	白・長	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第2四半期	
65	SX59	覆土1	土師器	甕	口縁部破片	20.6			酸化炎・にぶい黄褐色	赤・雲・礫		外面ハケメ	古墳時代?	外面赤彩
66	SD54	覆土1	土師器	甕?	口縁部破片	15.6			酸化炎・褐色	石・赤・礫		ロクロナデ	古墳時代?	
67	SD88	覆土1	須恵器	杯	口縁部破片	14			還元炎・灰白色	長		外面平行叩き、内面同心円当て具	古代	
68	P75	覆土1	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白・長		ロクロナデ	古代	
69	SD51 (4S6)	覆土1	須恵器	壺	底蓋破片	7			酸化炎・明赤褐色	長		ロクロナデ	古墳時代前期	
70	SD51 (2S25)	覆土	須恵器	有台杯	底蓋破片	12			還元炎・灰色	長		ロクロナデ	古代	
71	SD51 (2T5)	覆土1	須恵器	無台杯A	底蓋破片	8.2			還元炎・オリーブ灰色	長	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀後半	佐渡小泊産
72	5C13	II	土師器	甕I	口縁部～体部破片	21.8			酸化炎・にぶい黄褐色	白・赤・礫		外面上半ロクロナデ後カキメ、下半平行タタキ、内面下半ハケメ・指環圧痕	9世紀後半	
73	3S16	I	須恵器	杯蓋II	端部破片	16			還元炎・青灰色	長		ロクロナデ	古代	
74	5F21	カクラン	磁器	碗	口縁部～底部3/4	11	4.2	5.9		長		ロクロ成形、施釉	18世紀後半	波佐見焼

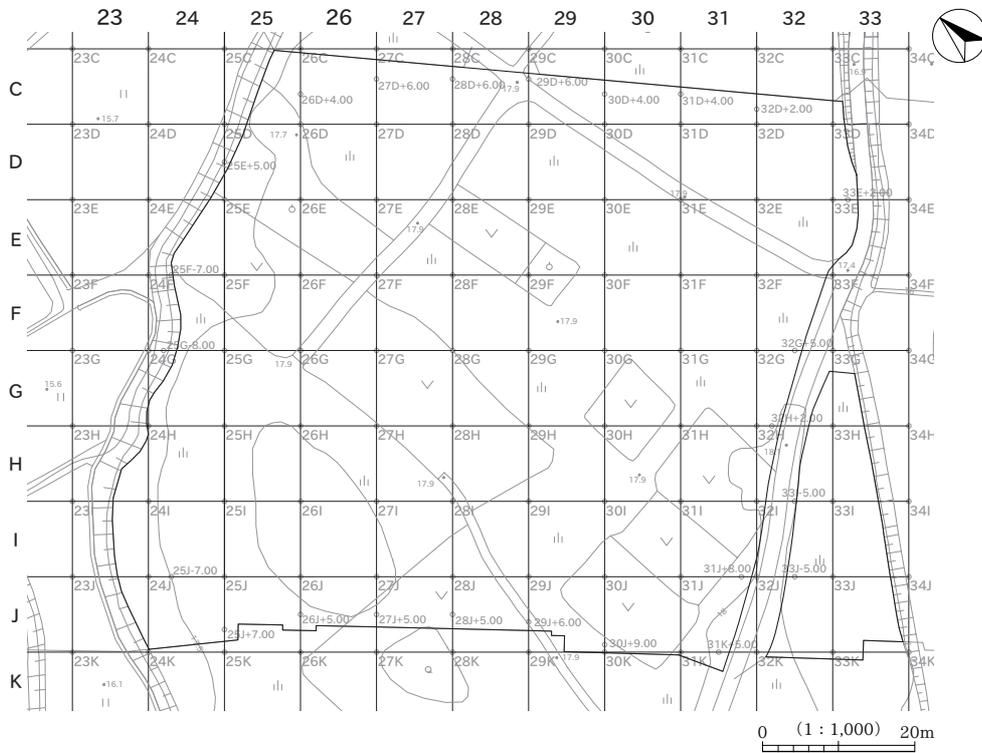
第5表 北前田遺跡 土器・陶磁器観察表 (2) 及び石器・石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種	依存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
75	SD2 (5G12)	覆土1	剥片石器		不定形石器	1.8	1.2	0.4	1	チャート	
76	SD2 (5F2)	覆土1	石製品	紡錘車	完形	4.8	4.8	1.3	32.35	凝灰岩	孔径0.8cm

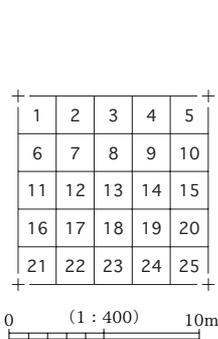
# 第IV章 北新田遺跡

## 1 グリッドの設定

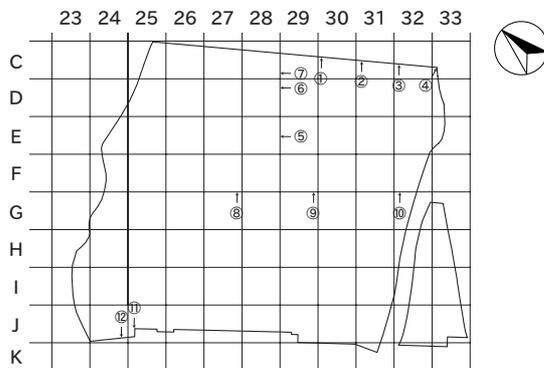
北新田遺跡のグリッドは、北前田遺跡のグリッドを延長して設定した。大グリッドは一辺10mで、横軸が大グリッド23～33、縦軸が大グリッドC～Kである（第16図）。両者を組み合わせて「28G」のように表記した。小グリッドは第17図のように北隅を基点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて、「28G15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して、 $46^{\circ}46'05''$  東偏する。



第16図 北新田遺跡グリッド設定図



第17図 小グリッド模式図



第18図 北新田遺跡基本土層図(1)

## 2 基本層序

北新田遺跡は青田川右岸の沖積面に立地する。調査前現況標高17.5～18m、確認面標高17.5～17.0mを測る。遺構確認面は基本的に平坦であるが、調査区西側では東から西方向に向かって比高差50cmの傾斜が見られる。北前田遺跡で確認された黒色シルト（IVa層）は、河川跡を挟んで西側においてのみ確認され、河川跡より東側はIVc層を遺構確認面とする。

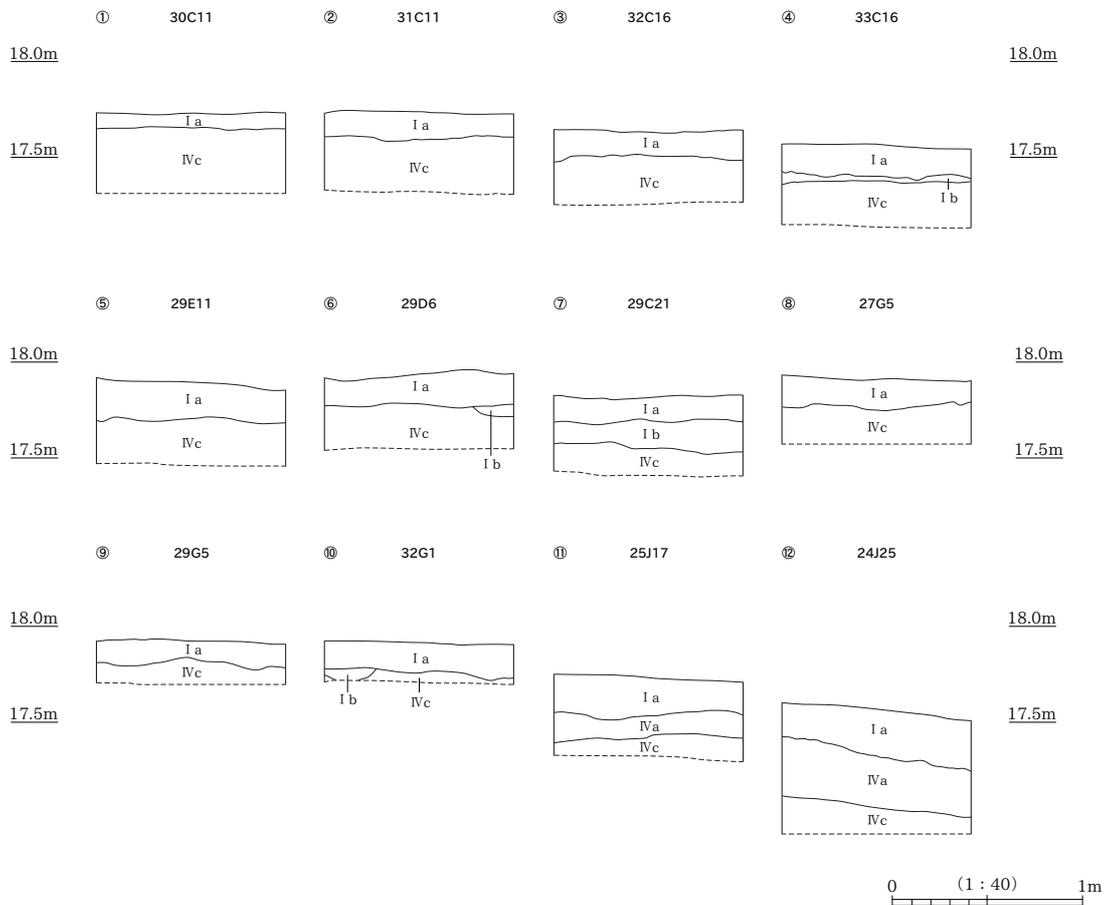
本遺跡は耕作土直下で遺構確認面となるため、北前田遺跡のⅡ・Ⅲ層は存在しない。またIVa層とIVc層の漸移層であるIVb層も確認できなかった。以下、基本層序Ⅰ・Ⅳa・Ⅳc層を説明する（第18・19図）。

Ⅰa層：黒褐色砂質シルト（10YR3/1）しまり中、粘性中。炭化物微量含む。（現畑耕作土）

Ⅰb層：灰色シルト（5Y5/2）+明黄褐色シルト（10YR6/6）しまり中、粘性中。

Ⅳa層：黒色シルト（N1.5/）しまり中、粘性中。遺物は含まれない（地山）。河川跡を挟んで西側においてのみ確認できる。調査区域内西側の傾斜面では厚く堆積する。

Ⅳc層：明黄褐色シルト（10YR6/6）しまり中、粘性中。遺物は含まれない（地山）。河川跡の東側で検出され、比較的安定した堆積を示す。



第19図 北新田遺跡基本土層図(2)

### 3 遺 構

#### A 概 要

北新田遺跡は基本層序IV層（地山）を遺構確認面として、竪穴住居 21 軒、掘立柱建物 36 棟（柱穴 333 基）、井戸の上屋 1 棟（柱穴 4 基）、井戸 17 基、土坑 59 基、性格不明遺構（SX を付した住居内焼土は除く）3 基、陥穴 2 基、溝 142 条、焼土（住居内焼土を含む）11 基、ピット 871 基を検出した。このほかに河川跡 1 条を検出した。

遺構の構築時期は、その形態や遺構内及び周辺から出土した遺物の年代から判断できるものを以下に列挙する。

縄 文 時 代：陥穴 2 基。

古墳時代前期：竪穴住居 3 軒、性格不明遺構 1 基、溝 1 条。

古墳時代後期：竪穴住居 14 軒、掘立柱建物 5 棟、性格不明遺構 1 基。

古 墳 時 代：土坑 30 基（竪穴住居・掘立柱建物に関連するものを含む）。

古 代：竪穴住居 4 軒、掘立柱建物 27 棟、井戸の上屋 1 棟、井戸 9 基、土坑 19 基、性格不明遺構 1 基、溝 4 条。

中 世：井戸 5 基。

遺構の記述方法に関しては基本的に北前田遺跡と共通のものとし、第III章 3B に準ずる。古墳時代前期及び古代の竪穴住居に関しては主軸は設定せず長軸を示した。古墳時代後期の竪穴住居はカマドを持つものが多く、その大部分が東側に位置していることから、東西方向を主軸とした。

溝に関しては区画溝や時期の判別できるものを個別に記述し、畑作溝は群単位で記述した。個々の畑作溝及びその他の溝のデータは観察表にまとめた。

#### B 遺 構 各 説

##### 1) 縄文時代の遺構

###### a 陥 穴

調査区西側より陥穴 2 基を検出した。いずれも黒色シルトの遺構確認面である IV a 層では様相を捉えられず、IV c 層まで下げた段階で確認した。そのため実際の深さは、確認面からの深さよりも 20～30cm 程深いものと考えられる。遺構内から遺物が出土していないが、形状から縄文時代のものと考えられる。

TP1304（図版 51・53・130）

24J グリッドに位置する。SD1551 と重複し、これに切られる。平面形は長楕円形を呈し、長径 3.56m、短径 0.26m、確認面からの深さ 0.40m を測る。主軸方向は N - 28° - W を示す。底面は丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は U 字状を呈する。覆土は炭化物を微量に含む暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

TP1305（図版 51・53・130）

24・25I グリッドに位置する。SB1578 の柱穴 P1572 と重複し、これに切られる。平面形は長楕円形を呈し、長径 3.62m、短径 0.32m、確認面からの深さ 0.54m を測る。主軸方向は N - 6° - W を示す。

断面形は漏斗状を呈する。覆土は炭化物を含む暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

## 2) 古墳時代前期の遺構

### a 竪穴住居

古墳時代前期の竪穴住居は3軒検出した。いずれも調査区中央部の河川跡の近くに位置している。面積は36～38m<sup>2</sup>の範疇に収まる。炉を持つものは確認できなかった。

#### SI1054 (図版29・31・95)

26・27Fグリッドに位置する竪穴住居である。南東側でSI1053と、北西隅でSD1220と重複し、これらに切られる。平面形は方形を呈し、長軸6.93m、短軸5.82m、確認面から床面までの深さ0.30m、面積は37.36m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-87°-Eを示す。覆土は褐灰色、にぶい黄褐色シルトなどからなり、3層に識別され、レンズ状に堆積する。床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝・柱穴・カマド・炉は確認できなかった。

遺物は覆土から弥生時代後期の器台(34)、壺(35)と古墳時代前期の土師器甕(36・37)が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の新しい物の年代から古墳時代前期と推定される。

#### SI201 (図版39・40・96・97)

29G・H及び30G・Hグリッドに位置する古墳時代前期の竪穴住居である。SB1240の柱穴P1209・1236・1241・1243・1242・1235・1239・1210と重複し、これらに切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸6.60m、短軸6.36m、確認面から床面までの深さ0.25m、面積は38.18m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-2°-Eを示す。覆土は黒色シルト、にぶい黄褐色シルトの2層に識別され、水平堆積である。周溝は北壁付近で確認され、規模は幅0.18～0.3m、床面からの深さ0.10mを測る。

柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する(北東側から時計回りにP902・904・903・901)。いずれも掘形を持ち、規模は長径42～63cm、短径42～56cm、床面からの深さ60～65cmを測る。柱痕は認められず、覆土は褐灰色シルト・黄橙色シルトで、2～4層に識別され、水平に堆積する。このことから住居廃絶後に柱を抜き取り、掘形を人為的に埋め戻した可能性が高い。

壁際で焼土ブロックと炭化材を多く検出した。焼土ブロックは北東側のコーナーに広く分布しており、北壁、西壁付近でも確認できる。炭化材は長さ20～70cm、幅4～25cm程で、壁を巡るように点在する。樹種はケヤキと考えられる。いずれも床面付近で検出されたが、床面が被熱した痕跡は確認できなかった。

出土土器の総重量は18.24kgで全て前期に比定される。北東側の焼土ブロック周辺で多く出土し、高杯(44)、器台(45～53)、蓋(54)、鉢(57・58)、壺(60)、甕(64)を確認した。さらに住居西側でも鉢(55・56)、壺(59・61～63)が出土した。土器以外にも磨石類(239・240)、勾玉(244)が出土した。

遺構の存続時期は出土する遺構の年代から古墳時代前期初頭(新潟シンポ6期)頃と推定される。

#### SI825 (図版34・55・101)

28H・I及び29Hグリッドに位置する古墳時代前期の竪穴住居である。SB842の柱穴P831・832と重複し、これに切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸6.32m、短軸6.16m、確認面からの深さ0.20～0.22m、面積は36.25m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-18°-Eを示す。覆土は褐色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは緩やかである。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する。(北東側から時計回りにP828・830・829・827)いずれも掘形を持ち、規模は長径60～68cm、短径48～56cm、床面からの深さ44～58cmを測る。周溝・カマド・炉は確認できなかった。

遺物は覆土から古墳時代前期の土師器（88・89）が出土している。

#### b 性格不明遺構

SX958（図版60・61・129・130）

31Iグリッドに位置する。SB967の柱穴P1364と重複し、これに切られる。平面形は不整形を呈し、長径5.44m、短径3.16m、確認面からの深さ0.04～0.26mを測る。底面は所々に凸凹があり、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整な弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代前期の土師器（146・147）と古代の須恵器が出土している。

規模の大きさや遺物の出土状況から古墳時代前期の竪穴住居の可能性も考えられるが、平面形が不整形で、壁面の立ち上がりが確認できなかったこと、柱穴や炉などの付帯施設も検出できなかったことから性格不明遺構とした。

#### c 溝

SD1551（図版51・53・131）

24I・J及び25Jグリッドに位置する古墳時代の溝である。TP1304と重複し、これを切っている。平面形は24I23.24グリッド及び24J10.15グリッドで東方向に屈折するため、コ字状となる。長さ13.25m、幅0.76m、確認面からの深さ10cmを測る。方向はN-5°-Eを示し、両端はN-81°～93°-Wに折れる。断面形は弧状を呈する。覆土は炭化物を含む暗青灰色砂質シルトの単層である。

遺物は覆土から古墳時代前期の土師器（152・153）が出土している。時期は出土土器の年代から前期後半（新潟シンボ9～10期）頃と推定されるが、周辺に同時期の遺構が見られないため、その性格は不明である。

### 3) 古墳時代後期の遺構

#### a 竪穴住居

古墳時代後期の竪穴住居は14軒検出した。主軸方向によってI・II二つのグループに区分できるものと考えられるが、両者の新旧関係は不明である。

Iグループ SI1180・1058・1185・1166・601・833・1053・930・931が該当し、主軸が南東方向に寄り、N-104～129°-Eを示す。河川跡の近く、調査区北東側から中央部にかけて南北方向に並ぶように位置している。カマドを持つものが大部分であるが、15m<sup>2</sup>前後の小型のものの中には中央に炉を持つものが見られる（SI601・833）。

IIグループ SI570・1403・202・848・203が該当し、主軸が東側を向き、N-81～97°-Eを示す。河川跡から20m以上離れた、調査区中央部の東側に位置している。東側が調査区外に延びるSI203以外は、カマドを確認した。

SI1180（図版13・15・89）

25・26Dグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。北東側でP1251と重複し、これに切られる。西側が削平されて残存していないが、平面形は不整形もしくは長方形を呈すると考えられる。残存部は長軸3.74m、短軸3.24m以上、確認面から床面までの深さ0.05～0.15m、面積は11.83m<sup>2</sup>以上を測る。主軸方向はN-123°-Eを示す。覆土は炭化物粒を少量含んだ黒褐色シルトの単層である。

床面は若干の凹凸があり、硬化面は認められない。周溝・柱穴は確認できなかった。カマドは東辺の南隅に存在する。焚口・袖・煙道は削平を受けて消失している。火床部は長径50cm、短径40cmを測る。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

SI1058 (図版14・16・17・90・91)

SI1058は27C・Dグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。北西側でSB1172の柱穴P1084・1132・1087、南西側でSK1107・1131、南側でSB1042の柱穴P1076・1256と重複し、これらに切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸5.60m、短軸4.81m、確認面から床面までの深さ0.15～0.18m、面積は23.77m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-124°-Eを示す。覆土は黒褐色、暗褐色、灰黄色のシルトからなり、6層に識別される。このうち、1層は住居本体の覆土、2～5層は住居内土坑であるSK1255の覆土、6層は貼床と考えられる。

床面は平坦で、炭化物粒を少量含む暗褐色と黒褐色シルトの混合土を用いた貼床を3～8cmの厚さで検出した。しまりは強いが、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は確認できなかった。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する(北東側から時計回りにP1259・1260・1291・1258)。いずれも掘形を持ち、規模は長径41～62cm、短径36～48cm、床面からの深さ74～100cmを測る。柱痕はP1258・1259・1260に認められ、太さ20cm程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。南側袖部をSB1042の柱穴P1256に切られる。煙道部分は検出できなかった。袖は残存せず、北側袖部の芯材として使用したと考えられる石がカマド内側に倒れる形で出土している。火床部は長径51cm以上、短径46cmを測る。焼けて赤化し、わずかに掘りくぼめる程度で、その上に焼土粒と炭化物粒を少量含む、にぶい黄橙色シルトが5cm程堆積している。

遺物は土器と土製品があり、全て古墳時代後期に比定される。須恵器高杯(7)が本住居の北東隅から出土したほかは、カマド周辺から出土している。このうち火床部付近からは土師器高杯(1)、甕(3・4)、土製支脚(8)が、カマド右側からは土師器杯(2)、甕(5)、甑(6)がそれぞれ出土している。

SK1255はSI1058のほぼ中央部で検出された土坑である。平面形は円形を呈し、径1.13～1.18m、床面からの深さ0.38mを測る。底面は平坦で、側壁は急傾斜に立ち上がり、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色、暗褐色、灰黄色のシルトからなり、4層に識別され、レンズ状に堆積する。SK1255の覆土最上層の上面は弧状にくぼみ、その上をSI1058の覆土1層が覆っている。貼床層であるSI1058の覆土6層はSK1255の上に存在しない。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。土層堆積から、SI1058と同時期であり、貯蔵穴と推定される。SI1058・SK1255の存続時期は出土する遺物の年代から7世紀前半頃と推定される。

SI1185 (図版14・17・91)

26・27Eグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。中央部でSK1143と重複し、これに切られる。また焼土(SX1186)が中央部で確認されるが、新旧関係は不明である。平面形は方形を呈し、長軸7.05m、短軸6.56m、確認面から床面までの深さ0.05m、面積は43.26m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-114°-Eを示す。覆土はほとんど残存していなかった。

床面は削平や攪乱を受けていたため、詳細は不明であるが、平坦であったと考えられる。壁面も削平や攪乱を受けて、遺存状況がよくないため、立ち上がり角度は不明である。周溝は北東隅～北壁、北西隅、西～南壁中央付近で断続的に確認され、規模は幅0.20～0.80m、床面からの深さ0.05mを測る。南壁東寄りには削平を受けているため消失しているものと考えられる。

柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する（北東側から時計回りにP1254・1055・1145・1133）。いずれも掘形を持ち、規模は長径41～58cm、短径33～53cm、床面からの深さ65～75cmを測る。柱痕はP1055・1254に認められ、太さ20cm程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の中央やや北寄りに存在する。焚口・袖・煙道は削平や攪乱を受けて消失している。火床部は長径97cm、短径53cmを測る。

遺物は南西隅から土製支脚（12）、磨石類（238）、P1133から土師器甕（9・10）、甑（11）が完形で出土した。住居内の覆土がほとんど残っていない割に遺物の遺存状況がよく、住居廃絶後にこれらの遺物を一括廃棄している可能性が高い。

#### SI1166（図版14・18・91）

27Cグリッドに位置する竪穴住居である。北側でSB1171の柱穴P1095・1097と重複し、これらに切られる。遺構の北東側は調査区域外に延び、南東側は削平を受け消失しているが、検出された部分から方形もしくは長方形を呈していたと推定される。規模は南北3.98m、東西3.49m以上、確認面から床面までの深さ0.02～0.14m、残存する面積は8.88m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-104°-Eを示す。覆土は暗褐色シルト及び黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面はほとんど残存していないため、その立ち上がり等は不明である。周溝・柱穴・カマド・炉は確認できなかった。

遺構の存続時期は遺物は出土していないものの、主軸方向と周辺状況から古墳時代後期と推定される。

#### SI570（図版22・23・92・93）

29D・Eグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。東側で畑作溝（SD571～577）と重複し、これに切られる。また北側でP1371を切っている。平面形は不整形を呈し、長軸7.50m、短軸7.02m、確認面から床面までの深さ0.20m、面積は48.62m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-88°-Eを示す。覆土は黒褐色シルト及び褐灰色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は西壁・南壁付近で確認され、規模はいずれも幅0.18～0.24m、床面からの深さ0.06mを測る。南壁付近の周溝は中央でP817と重複するが新旧関係は不明である。

柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する（北東側から時計回りにP820・816・815・813）。いずれも掘形を持ち、規模は長径60～78cm、短径54～66cm、床面からの深さ56～64cmを測る。柱痕はP820・816に認められ、太さ20cm程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の中央やや北寄りに存在する。上部を畑作溝（SD574）に切られる。焚口から煙道の先端まで2.4m程あり、煙道部分は住居外に延びる。袖は北側のみ残存しており、その付近には芯材として使用したと考えられる石が確認された。火床部はわずかに掘りくぼめる程度で、その上に焼土粒を多量に含む橙色シルトが18cm程堆積している。そのほか柱穴以外に住居に伴うと考えられるピット3基（P1296・817・814）を検出した。

出土土器・土製品の総重量は26.374kgで、古墳時代前期の甕（15）1点を除くと全て後期に比定される。カマド周辺から多く出土し、煙道に向かってカマドの右側で土師器壺（13・14）、土師器甕（16・17）が、左側で甑（18～20）、土製支脚（22～24）、カマド芯材と考えられる円筒形土製品（25）がそれぞれ出土した。円筒形土製品はカマド内もしくは付近にあるピット（P1296）からも出土した（26～28）。煙道内からは須恵器杯（21）が出土したが二次焼成痕が認められず住居廃絶後に廃棄したものと考えられる。

南東側のコーナーから楕円形の自然礫が15点まとまって出土した。法量は長さ10.5～14cm、幅5.5～7.5cm、厚さ4.5～7cm、重さ402～714gを測る。明確な使用痕は確認できないものの、法量から「編物用石錘」〔吉井2007〕として使用された可能性が考えられる。

遺構の存続時期は出土する遺物の年代から7世紀前半頃と推定される。

#### SI1403 (図版27・28・93)

SI1403は31C・Dグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。平面形は不整長方形を呈する。規模は長軸4.68m、短軸3.86m、確認面から床面までの深さ0.04～0.16m、面積は16.65m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-81°-Eを示す。覆土は黒褐色シルトの単層である。

床面には細かい凹凸があり、硬化面は認められない。壁面は遺存状況が良くないため、斜度は不明である。周溝・柱穴は確認できなかった。遺物は覆土から古墳時代後期の土師器(29)が少量出土している。

本住居東側コーナーと中央部で焼土を検出した。東コーナーの焼土(SX1419)は、長径104cm、短径85cmを測る。わずかに掘りくぼめられた上に炭化物を少量含む赤褐色と黒褐色シルトが2～8cm堆積している。中央部で検出された焼土(SX1418)は長径64cm、短径40cmを測る。地面を掘りくぼめた形跡はなく、炭化物を少量含む暗赤褐色シルトが厚さ4cm程広がっている。カマドまたは地床炉の可能性を検討したが、その性格は不明である。

#### SI601 (図版29・30・94)

28E・Fグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。平面形は方形を呈し、長軸4.50m、短軸4.13m、確認面から床面までの深さ0.05～0.08m、面積は17.39m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-124°-Eを示す。覆土は黒色、にぶい赤褐色、にぶい黄橙色のシルトからなり、4層に識別される。このうち覆土2層は炉、覆土3層は周溝、覆土4層は貼床のものと考えられる。したがって住居本体の覆土は1層の黒色シルトのみである。

床面は平坦で、にぶい黄橙色シルトを用いた貼床が3～7cmの厚さで検出された。しまりは中程度で、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は南西隅以外の壁付近で確認され、規模は幅0.22～0.60m、床面からの深さ0.05～0.12m程を測る。周溝が途切れていたか所は入り口施設があった可能性もある。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する(北東側から時計回りにP1039・1040・1041・1312)。いずれも掘方を持ち、規模は長径41～54cm、短径34～40cm、床面からの深さ28～41cmである。柱痕は認められなかった。

炉は中央部付近で1基検出した。地床炉で掘り込みはなく、径57～62cmを測り、平面形は円形を呈する。その範囲内が被熱して赤化している。

遺物は西側隅覆土上面から、古墳時代後期の土師器(30・31)が完形で出土した。

#### SI833 (図版29・30・94)

SI833は27・28Gグリッドに位置する竪穴住居である。北側が削平されて残存していないが、平面形は不整長方形を呈すると考えられる。規模は長軸推定4.28m、短軸3.68m、確認面からの深さ0.06～0.10m、面積は推定14.06m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-121°-Eを示す。覆土は炭化物を少量含む褐色シルトの単層である。床面はやや凹凸があるがほぼ平坦で、硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは緩やかである。周溝、柱穴は確認できなかった。

SX843はSI833の中央で検出された。平面形は円形を呈し、径30～32cm、床面からの深さ13cmを測る。覆土は炭化物を多量に含む黒褐色、黄橙色、にぶい赤褐色シルトからなる。3層に識別され、レン

ズ状に堆積する。

遺物は覆土から古墳時代の土師器に混じって韃の羽口(32・33)、鉄滓(260)が出土している。

遺構の存続時期は出土遺物と主軸方向から古墳時代後期と推定される。

#### SI1053 (図版29・31・94・95)

27Fグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。北西側でSI1054・SK1174と重複し、前者を切り、後者に切られる。西側は削平を受けているため、壁は残存していない。平面形は方形を呈し、長軸5.72m、短軸推定5.27m、確認面から床面までの深さ0.05～0.08m、面積は推定29.81m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-129°-Eを示す。覆土は褐灰色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は北東壁付近で確認され、規模は長さ2.56m、幅0.20～0.35m、床面からの深さ0.10mを測る。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する(東側から時計回りにP1300・1175・1148・1176)。いずれも掘形を持ち、規模は長径36～56cm、短径31～47cm、床面からの深さ55～73cmを測る。柱痕は認められなかった。

カマドは南東辺に存在する。北東寄りと南西寄りの2か所で確認され、作り替えられたものと考えられる。北東寄りのカマドは火床部が長径39cm、短径32cmを測る。南西寄りのカマドは火床部が長径34cm、短径32cmを測る。2か所とも火床部の掘り込みはほとんど見られず、袖や煙道部は残存していなかった。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。

#### SI930 (図版33・34・95)

28・29Gグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。南東側でSI931と重複し、これを切っている。また北東側でSK929、南西側でSK822と重複し、これらに切られる。平面形は方形を呈し、長軸5.59m、短軸5.15m、確認面から床面までの深さ0.06～0.22m、面積は27.19m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-111°-Eを示す。覆土は褐灰色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で、貼床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は北東壁付近で確認され、規模は幅0.18～0.68m、確認面から床面までの深さ0.04～0.12mを測る。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する(北側から時計回りにP941・942・944・943)。いずれも掘形を持ち、規模は長径41～48cm、短径32～38cm、床面からの深さ58～64cmを測る。

カマドは、東辺のやや北寄りに存在する。火床部から煙道の一部をSK929に切られる。焚口から煙道の先端まで1.96m程あり、煙道部分は住居外に延びる。袖は南側のみが残存している。遺物は覆土から古墳時代後期の土師器(38)が出土した。

遺構の存続時期は出土する遺物の年代から7世紀前半頃と推定される。

#### SI931 (図版33・34・96)

29Gグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。北東側でSI930と重複し、これに切られる。削平や攪乱を受け、南西側と南東コーナーは消滅しているが、平面形は方形もしくは長方形を呈していると推定される。規模は南北4.61m以上、東西2.17m以上、確認面から床面までの深さ0.06mを測る。主軸方向はN-111°-Eを示す。覆土は褐灰色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は遺存状況が悪いため、その立ち上がり斜度は不明である。周溝は北壁付近で確認され、規模は幅0.30～0.55m、床面からの深さ0.31mを測る。柱穴は確認できなかった。カマドは、東辺のやや北寄りに存在する。袖は南側のみが残存している。火床部直上の焼土中から土製支脚(43)が正位で出土した。

遺物は覆土から古墳時代の土師器 (39～41) と古代の土師器・須恵器 (42) が混在して出土しているが、カマド周辺から出土した土器の年代と SI930 との切り合い関係から古墳時代後期の住居と推定される。

SI202 (図版39・41・97・98)

SI202は31G・Hグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。北西側でSK297・SD358と重複し、これに切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸4.24m、短軸4.00m、確認面から床面までの深さ0.20～0.22m、面積は18.50m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-97°-Eを示す。覆土は炭化物を含む黒褐色シルトが主体で2層に識別され、水平に堆積する。

床面はやや凹凸があり、硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは急斜度である。周溝は、北・東・西壁付近で確認される。規模は幅0.30～0.42m、床面からの深さ0.12mを測る。南壁では周溝が途切れ、この部分に出入口等の施設があった可能性が考えられる。柱穴は確認できなかった。

カマドは、北西コーナーに存在する。本遺跡で北西側にカマドを据えている竪穴住居は、ほかに見られない。SK297によって切られているため、煙道は残存せず、焚口・袖も確認できなかった。火床部は径40～48cmを測る。掘りくぼめられた形跡は見られず、その上ににぶい赤褐色、明赤褐色、焼土ブロックを多量に含む黒褐色シルトが12cm程堆積している。

出土土器・土製品の総重量は23.486kgで、全て古墳時代後期に比定される。その多くはカマド周辺から出土している (66～76)。土器以外にも管玉 (245) が出土した。

SK1238はSI202の中央部で検出された土坑である。平面形は不整形を呈し、長径1.44m、短径1.08m、床面からの深さ0.23mを測る。底面はやや凹凸があり、側壁の立ち上がりも一定ではなく、断面形は不整形を呈する。覆土は焼土ブロックや炭化物を含む黒褐色、褐灰色シルトの4層に識別され、水平に堆積する。遺物は古墳時代の土師器が少量出土している。土層堆積から、SI202と同時期であり、貯蔵穴と推定される。このほかに北東コーナーの床面でピット1基 (P1237) を検出した。平面形は楕円形を呈し、長径92cm、短径66cm、床面からの深さ15cmを測る。覆土は暗褐色シルトの単層である。

SI202・SK1238の存続時期は出土する遺物の年代から7世紀前半頃と推定される。

SI848 (図版46・47・99・100)

SI848は31・32Gグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。SK865・SD846と重複し、これらに切られる。平面形は西側が攪乱を受けて消失しているが、隅丸方形を呈し、長軸7.50m、短軸7.32m、確認面から床面までの深さ0.06m、残存する面積は46.08m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-88°-Eを示す。覆土は褐灰色シルトの単層である。床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは緩やかである。周溝は確認できなかった。

柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する (北東側から時計回りにP859・860・862・861)。いずれも掘形を持ち、規模は長径42～60cm、短径42～54cm、床面からの深さ90cmを測る。柱痕はP860・862に認められ、太さ18cm程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。袖は両側共残存しており、その付近には円筒形土製品 (87) が確認された。火床部はわずかに掘りくぼめる程度で、その上に焼土粒を多量に含む赤灰色シルトが6cm程堆積している。また住居の中央部で地床炉が1基検出された。径54cmの不整形円形を呈し、その範囲内が焼成により赤褐色に変色する。

出土土器・土製品の総重量は6.733kgで、全て古墳時代後期に比定される。その多くはカマド周辺で出土している (83～86)。

SK887はSI848カマドの右脇の床面で検出される土坑である。平面形は円形を呈し、径80～90cm、床面からの深さ52cmを測る。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルト・黄橙色シルトからなり、4層に識別され、上層はレンズ状、下層は斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土した。土層堆積から、SI848と同時期であり、貯蔵穴と推定される。

SI203 (図版56・57・101)

32H・Iグリッドに位置する古墳時代後期の竪穴住居である。SD217・218・219と重複し、これらに切られる。平面形は遺構の南東側が調査区域外に延びるが、検出された部分から方形もしくは隅丸方形を呈していたと推定される。長軸・短軸はいずれも残存値で4.00～6.32m以上、確認面から床面までの深さ0.28m、面積は38.18m<sup>2</sup>以上を測る。主軸方向は南北でN-86°-Eを示す。覆土は褐灰色・灰黄褐色シルトの3層に識別され、水平に堆積する。覆土3層は周溝の覆土である。

床面はやや凹凸があり、硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは急斜度である。周溝は北壁から西壁付近にわたり確認され、規模は幅0.4～0.6m、床面からの深さ0.06～0.12mを測る。柱穴は北・西壁のコーナー付近に1基ずつ、合計2基確認した(北東側から時計回りにP364・360)。いずれも掘形を持ち、規模は長径58～60cm、短径48～50cm、床面からの深さ78～84cmを測る。カマド・炉は確認できなかった。遺物は覆土から古墳時代の土師器(90)が出土している。

## b 掘立柱建物

古墳時代後期の掘立柱建物は5棟検出した。調査区北東側に位置しており、周囲には同時期の竪穴住居が多く見られる。桁行は2～6間、梁行は1～2間と建物ごとのばらつきが大きく、長軸方向も一定ではない。柱穴の掘形の径は大部分が30～50cmと小さく、柱間寸法も等間隔ではない。

SB622 (図版14・18・102)

27C・D及び28C・Dグリッドに位置する古墳時代後期の側柱建物である。桁行3間(5.96～6.30m)、梁行1間(3.08～3.24m)の長方形で、面積は19.04m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-78°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.88・2.08・2.00m、南側で西から1.96・2.12・2.22m、梁行が西側で3.08m、東側で3.24mと等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径40～58cm、短径32～42cm、確認面からの深さ14～41cmとばらつきがあり、北西隅のP1102が北側柱穴列より若干内側に入るほかは、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP771・1102から古墳時代の土師器が少量出土している。

SB1172 (図版14・18・102)

26・27Dグリッドに位置する古墳時代後期の側柱建物である。P1087・1132・1084がSI1058と重複し、これを切っている。桁行2間(2.72～2.94m)、梁行1間(1.50～1.58m)の長方形で、面積は4.45m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-73°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.40・1.32m、南側で西から1.48・1.52m、梁行が西側で1.58m、東側で1.50mと桁行南側が長くなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径30～42cm、短径26～36cm、確認面からの深さ10～30cmで、南側中間のP1084が柱穴列よりも若干外側に出るほかは、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP1085から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SB1042 (図版14・19・103)

SB1042は27D・E及び28Dグリッドに位置する古墳時代後期の側柱建物である。P1076・1256がSI1058と、P652がSK1045とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行6間(9.58～9.86m)、梁行2間(4.16～4.32m)の長方形で、面積は40.85m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-88°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.44・1.34・2.28・1.60・1.36・1.84m、南側で西から1.24・2.04・1.86・1.64・1.28・1.52m、梁行が西側で北から2.60・1.72m、東側で北から2.08・2.08mであり、梁行東側以外は等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径28～84cm、短径28～68cm、確認面からの深さ18～60cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP1061・1062・1063・1076・1115に認められ、P1113はSK1059との関係から柱痕の可能性が考えられる。太さ12～22cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP631・745・1061・1068・1070・1113・1115・1256から古墳時代の土師器が少量出土している。

SK1059は27D・Eグリッドに位置する。P1113と重複し、覆土2・3層は切られているが、覆土1層は切られておらず、P1113を埋めるように堆積している。そのためP1113は柱痕、SK1059は掘形の可能性が高く、SB1042と併記することとした。東側でSK1112と重複し、これらを切っている。平面形は不整形を呈し、長径1.84m、短径1.42m、確認面からの深さ0.26mを測る。底面はほぼ平坦で、側壁は急斜度に立ち上がり、断面は台形状を呈する。覆土は4層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。

## SB1298 (図版14・20・104)

27D・E及び28D・Eグリッドに位置する古墳時代後期の側柱建物である。P738がSB1297の柱穴P746と、P747がSB1297の柱穴P748と重複し、これらを切っている。桁行4間(5.02～5.24m)、梁行2間(2.48～2.57m)の長方形であるが、梁行西側中央の柱穴は検出できなかった。面積は13.06m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-66°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.00・1.54・0.94・1.54m、南側で西から0.76・1.64・0.80・2.04m、梁行が西側で2.48m、東側で北から1.37・1.20mとなり、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～130cm、短径24～88cm、確認面からの深さ8～60cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP659・660・738から古墳時代の土師器が出土している。

## SB1297 (図版22・24・104)

28D・Eグリッドに位置する古墳時代後期の側柱建物である。P746がSB1298の柱穴P738・SK750と重複し、前者に切られ、後者を切っている。P748はSB1298の柱穴P747と重複し、これに切られる。桁行5間(5.88～6.00m)、梁行2間(3.58～4.00m)の長方形を呈するが桁行東側の柱穴1か所と梁行南側中央の柱穴は検出できなかった。面積は22.49m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-23°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から1.24・0.90・1.72・0.98・1.16m、東側が北から1.28・1.94・1.50・1.16m、梁行が北側で西から2.08・1.92m、南側で3.58mとなり、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～82cm、短径26～48cm、確認面からの深さ25～53cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP746から古墳時代の土師器が出土している。

### c 性格不明遺構

SX1268 (図版13・15・89)

26C・Dグリッドに位置する。中央部の不整形の落ち込みとその周囲をめぐるピット4基(北東側から時計回りでP1196・1122・1275・1274)からなる。長径4.07m、短径3.84m、確認面からの深さ0.07mを測る。覆土は褐灰色シルトの単層である。南側には長径41cm、短径20cmの範囲で、焼土が確認される。遺物は覆土から古墳時代と古代の土師器が出土しているが、古代の土師器は微量で、後世の混入と考えられる。

ピットはP1122を除いて、長径53～68cm、短径44～64cm、確認面からの深さ43～84cmを測る。P1122は長径25cm、短径24cm、確認面からの深さ8cmと、規模もほかの柱穴より小さく浅い。柱穴列の主軸方向はN-10°-Eを示す。遺物は、P1122・1274から古墳時代の土師器が出土しており、P1274からは磨石類(237)が出土した。

規模の大きさや遺物の出土状況から古墳時代後期の竪穴住居の可能性も考えられるが、焼土が柱穴列より内側に入ることと、柱穴の配列がほかの住居に比べ不整であることから性格不明遺構とした。

## 4) 古墳時代の遺構

### a 土 坑

古墳時代の土坑に関しては、出土土器が細片であり、前期及び後期の区別が困難であることから、細別せず一括した。本遺跡では30基検出し、このうち4基は竪穴住居・掘立柱建物に関連するものであり、それらと一緒に記述した。ここでは残り26基を個別に記述する。調査区北東側～東側に多く見られる。形状は大型のものは長方形(SK826・1179)、小型のものは不整形(SK1421・1426等)が目立つ。

SK1112 (図版14・19・103)

27Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SK1059と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈し、長径0.84m、短径0.60m、確認面からの深さ0.08mを測る。主軸方向はN-21°-Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SK750 (図版14・20・104)

28Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SB1298の柱穴P738・765及びSB1297の柱穴P746と重複し、これらに切られる。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1045 (図版14・20・118)

27・28Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SB1042の柱穴P652と重複し、これに切られる。平面形は不整形長方形を呈し、長径1.56m、短径0.74m、確認面からの深さ0.46mを測る。主軸方向はN-79°-Wを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色、褐灰色、暗灰黄色シルトの3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

SK1032 (図版14・20・119)

27・28Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形を呈し、径1.00～1.08m、確認面からの深さ0.18mを測る。底面は凹凸を持ち、壁面の立ち上がりも一定でない。したがって断面形は不整形を呈する。覆土は褐灰色、にぶい黄褐色シルトの2層に識別され、ほぼ水平に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1107** (図版14・21・119)

27Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SK1131と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径1.36m、短径1.04m、確認面からの深さ0.36mを測る。主軸方向はN-78°-Wを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗褐色シルト主体で、4層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1131** (図版14・21・119)

27Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SK1107・SI1058と重複し、前者に切られ、後者を切っている。平面形は長楕円形を呈していると推定され、長径1.80m、短径推定1.08m、確認面からの深さ0.44mを測る。主軸方向はN-8°-Eを示す。断面形は半円状と推定される。覆土は暗褐色シルト主体で5層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1179** (図版13・21・120)

25D・E及び26D・Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は長方形を呈し、長辺4.12m、短辺2.80m、確認面からの深さ0.36mを測る。主軸方向はN-30°-Eを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は皿状を呈する。覆土は炭化物粒を含むシルトで構成され、7層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土から古墳時代後期の土師器(121~123)が出土している。

**SK1177** (図版12・21・120)

26Eグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長径2.66m、短径1.56m、確認面からの深さ0.12mを測る。主軸方向はN-87°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルト主体で2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK613** (図版22・24・120)

28Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形を呈し、径1.42~1.68m、確認面からの深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色、灰黄褐色、暗褐色シルトの4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。

**SK615** (図版24・121)

28Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SD616と重複し、これに切られる。平面形は不整形を呈すると推定される。確認面からの深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK468** (図版26・121)

30Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形長楕円形を呈し、長径1.50m、短径0.56m、確認面からの深さ0.08mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK467** (図版25・26・121)

30・31Dグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形長楕円形を呈し、長径4.34m、短径1.20m、確認面からの深さ0.14mを測る。底面は凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK466** (図版 25・26・121)

30・31Cグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SD465と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈し、径0.96～1.12m、確認面からの深さ0.12mを測る。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1402** (図版 25・26・122)

31Cグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は楕円形を呈し、長径0.95m、短径0.70m、確認面からの深さ0.10mを測る。主軸方向はN-73°-Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黄褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトなど2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1470** (図版 25・26・122)

31E・Fグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SD1474・1475と重複し、これに切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長径1.75m、短径1.35m、確認面からの深さ0.32mを測る。主軸方向はN-5°-Eを示す。底面は凹凸を持ち、側壁は急斜度に立ち上がり、断面形は不整台形状を呈する。覆土は炭化物を含む暗青灰色シルトなど3層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。

**SK823** (図版 32・123)

28Gグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は円形を呈し、径0.92～1.04m、確認面からの深さ0.08mを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK824** (図版 29・32・123)

28Hグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は円形を呈し、径1.08～1.24m、確認面からの深さ0.07mを測る。底面はやや凹凸を持つがほぼ平坦で、断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK826** (図版 29・32・123)

27・28Hグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は長方形を呈し、長辺3.88m、短辺2.76m、確認面からの深さ0.24mを測る。主軸方向はN-47°-Eを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器(124)が出土している。

**SK915** (図版 39・45・125)

30Gグリッドに位置する古墳時代の土坑である。SK889と重複し、これに切られる。確認面からの深さ0.12mを測る。断面形は弧状と推定される。覆土は黄橙色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

**SK1426** (図版 50・127)

31・32Fグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形を呈し、長径1.76m、短径1.40m、確認面からの深さ0.32mを測る。底面は凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は炭化物を含む暗褐色シルト、暗褐色シルトと黄橙色シルトの混合土の2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK1421 (図版46・50・127)

32Fグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形を呈し、長径2.02m、短径1.68m、確認面からの深さ0.17mを測る。底面は凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は炭化物を含む暗褐色シルト、暗褐色シルトと黄橙色シルトの混合土の2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK1420 (図版46・50・127)

32F・Gグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形を呈し、径1.48～1.52m、確認面からの深さ0.31mを測る。底面はくぼみを持ち、壁面の立ち上がりは一定でなく、断面形は不整形を呈する。覆土は炭化物を含む暗褐色シルト、暗褐色シルトと黄褐色シルトの混合土の2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK857 (図版46・50・126)

32Gグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は南辺が調査区域外に延びるため不明、確認面からの深さ0.14mを測る。底面は凹凸を持ち、断面形は不整形を呈する。覆土は炭化物・橙色シルト焼土ブロックを含むぶい褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK206 (図版56・59・128)

31Hグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形長楕円形を呈し、長径1.20m、短径0.44m、確認面からの深さ0.38mを測る。主軸方向はN-12°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物、焼土を含む黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK286 (図版56・59・128)

31Hグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は不整形長楕円形を呈し、長径1.16m、短径0.36m、確認面からの深さ0.32mを測る。主軸方向はN-11°-Eを示す。底面はほぼ平坦で断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## SK1203 (図版56・59・129)

30Iグリッドに位置する古墳時代の土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長径1.16m、短径0.56m、確認面からの深さ0.15mを測る。主軸方向はN-25°-Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が少量出土している。

## 5) 古代の遺構

## a 竪穴住居

古代の竪穴住居は4軒検出した。調査区中央部に位置しており、周囲には同時期の掘立柱建物が多く見られる。面積は10m<sup>2</sup>以下の小型のものが多く、カマド・炉・周溝を持つものは確認できなかった。

## SI871 (図版39・41・98)

30・31Gグリッドに位置する古代の竪穴住居である。SB937の柱穴P895・896、SB938の柱穴P548・905とそれぞれ重複し、これらを切っている。平面形は長方形を呈し、長軸3.90m、短軸3.03m、確認面から床面までの深さ0.12～0.24m、面積は10.91m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-5°-Wを示す。覆土は炭化物・焼土粒を多量に含む黒褐色シルトと褐灰色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。西側約3m先に存在するSX886の覆土1・2層は本住居の覆土1・2層と同一である。

床面は南側で若干凹凸がある以外ほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。柱穴は北東・北西のコーナーに1基ずつ、合計2基（北東がP892、北西がP891）確認された。いずれも掘形を持ち、規模は長径31～39cm短径30～32cm、床面からの深さ40～52cmを測る。周溝・カマド・炉は確認できなかった。

遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（77～79）が出土しているが、79は二次焼成を受けた痕跡が確認され、炭化物・焼土粒を多量に含む覆土との関連があるものと推定される。

SI469（図版39・41・98）

30Fグリッドに位置する古代の竪穴住居である。SB811の柱穴P530・569、SD484と重複し、これらに切られる。平面形は西側が攪乱を受けて消失しているが、長方形を呈すると考えられる。長軸5.46m以上、短軸1.96m以上、確認面から床面までの深さ0.24m、残存する面積は9.00m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-10°-Eを示す。覆土は灰褐色シルト、灰色シルトで2層に識別され、水平に堆積する。

壁面は急斜度に立ち上がる。また、覆土の2層は水平堆積を示し、しまりも強いことから貼床の可能性も考えられる。周溝、柱穴・カマド・炉は確認できなかった。

遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（80～82）が出土している。そのほか鉄滓（259）が出土した。

SI847（図版46・48・100）

32Gグリッドに位置する古代の竪穴住居である。南西側でSD846と重複し、これに切られる。平面形は遺構の南側が調査区域外に延びるが、検出された部分から方形もしくは長方形を呈していたと推定される。東西2.50m以上、南北1.67m以上、確認面から床面までの深さ0.04～0.10m、残存する面積は2.86m<sup>2</sup>を測る。覆土は灰褐色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は遺存状況が良くないため、その立ち上がりは不明である。周溝・柱穴・カマド・炉は確認できなかった。遺物は古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（91）が出土している。

SI1201（図版56・57・101）

31Iグリッドに位置する古代の竪穴住居である。SD1369と重複し、これに切られる。またP1227と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、長軸3.12m、短軸3.04m、確認面から床面までの深さ0.16m、面積は8.07m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-14°-Wを示す。覆土は褐灰色・にぶい黄褐色・灰黄褐色シルトの3層に識別され、レンズ状に堆積する。床面はやや凹凸があり、硬化面は認められない。側壁の立ち上がりは緩やかである。周溝・柱穴・カマド・炉は確認できなかった。

遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（92）が出土している。

## b 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は27棟検出した。調査区全域で確認され、特に中央部に多く見られる。桁行は2～4間、梁行はSB1460が5間であることを除くと、1～3間の範囲に収まる。長軸方向も大部分が東西方向、南北方向を意識しているものと考えられる。柱穴の掘形の径は大部分が50cm以上で、なかには1mを超えるものも見られる。

SB1171（図版14・18・102）

26・27Cグリッドに位置する古代の側柱建物である。東側は調査範囲外に延びるため明らかではない

が、検出された柱穴並びから東西棟と推定される。南東側でSI1166と重複し、これを切っている。桁行4間(4.17m)以上、梁行2間(3.20m)の長方形で、面積は13.94m<sup>2</sup>以上を測る。長軸方向はN-73°-Eを示す。柱間寸法は桁行が北側で西から1.30・1.54m、南側で西から1.42・1.42・1.28m、梁行が西側で北から1.50・1.70mと等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径52～76cm、短径48～64cm、確認面からの深さ24～60cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP1075・1078・1088・1097・1101から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(93)が混在して出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB1460 (図版22・24・104)

29C・D及び30Dグリッドに位置する古代の側柱建物である。南北4間(5.65～5.7m)、東西5間(5.29～5.29m)であるが、西側は4間となる。平面形は南北方向の内側の柱穴がやや外側に張り出すため不整形長方形になる。面積は32.95m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-38°-Eを示す。柱間寸法は桁行が北側で西から1.66・0.96・0.92・1.72m、南側で西から1.52・0.92・0.84・2.06m、梁行が西側で北から1.20・1.60・1.62・1.24m、東側で北から1.24・1.00・1.50・0.88・1.08mとなり、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径28～68cm、短径26～48cm、確認面からの深さ11～72cmとばらつきがある。柱痕はP1452・1453・1456・1457・1458・1459に認められ、太さ10～24cm程度の柱が据えられていたものと推定される。建物から南東側約1.7m先には、南北3間(4.94m)の柱穴列がある。柱間寸法は北から1.50・1.64・1.80mとなる。南北方向に平行する扉の可能性が高い。

遺物はP592・476・479・482・1452・1456・1459から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(94)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB1408 (図版27・28・105)

32・33Dグリッドに位置する総柱建物である。P1410・1411がSD1407と重複し、これに切られる。東西2間(3.64～3.67m)、南北2間(3.58～3.66m)で、南北中央の柱穴が若干外に張り出すものの、ほぼ正方形となる。面積は14.02m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は東側が北から1.84・1.68m、中央が北から2.12・1.96m、西側が北から1.75・1.90m、北側が西から1.76・1.80m、中央が西から2.02・1.60m、南側が西から1.88・1.74mとなり、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘方を持つ。規模は長径50～94cm、短径42～80cm、確認面からの深さ23～61cmとばらつきがある。

P1415から古代と推定される土師器が出土している。総柱建物であることと、建物が集中する地域から離れた場所に位置していることから、倉庫と考えられる。

#### SB811 (図版35・105)

29E・F及び30Fグリッドに位置する側柱建物である。P448がSD406、P411がSK409とそれぞれ重複し、これらに切られる。P569・530がSI467と重複し、これを切っている。桁行3間(7.36～7.50m)、梁行2間(4.28～4.44m)の長方形を呈するが、梁行南側中央の柱穴は検出できなかった。面積は32.32m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-7°-Wを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から2.84・2.46・2.26m、東側で北から2.74・1.96・2.66m、梁行が北側で西から1.88・2.56m、南側で4.28mとなり、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は北側中央のP806が径20cm、確認面からの深さ20cmと小さい。そのほかの柱穴も、長径42～68cm、短径36～56cm、確認面からの深さ37～76cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

P448・529から古代と推定される土師器が出土している。

**SB928** (図版33・35・105)

28G及び29G・Hグリッドに位置する古代の側柱建物である。P918がSB842の柱穴P840と重複しているが新旧関係は不明である。桁行3間(4.00～4.64m)、梁行2間(3.48～3.60m)の長方形で、面積は15.17m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-2°-Wを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から1.72・1.32・1.60m、東側で北から1.38・1.36・1.26m、梁行が北側で西から1.84・1.76m、南側で西から1.80・1.68mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径60～100cm、短径52～84cm、確認面からの深さ29～62cmとぼらつきはあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP917に認められ、太さ25cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP917・918・919・924・850から、古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(95)が出土している。

**SB945** (図版33・36・106)

28F及び29F・Gグリッドに位置する古代の側柱建物である。東側はP526がSB947の柱穴P547と重複するが、新旧関係は不明である。桁行2間(5.84m)、梁行3間(4.39～4.50m)で、梁行中央の柱穴がわずかに外へ張り出すため亀甲形を呈するが、梁行西側の柱穴1か所は検出できなかった。面積は27.81m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-87°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から3.22・2.62m、南側で西から3.36・2.48m、梁行が西側で北から1.56・2.84m、東側で北から1.88・1.76・0.88mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径40～96cm、短径36～78cm、確認面からの深さ18～63cmとぼらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP526に認められ、太さ24cm程度の柱が据えられていたと推定される。

遺物はP524・526・528・539・595・787から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(96)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SB946** (図版33・36・106)

28・29Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。P527がSB947の柱穴P1359、P544がSB947の柱穴P583とそれぞれ重複するが、新旧関係は不明である。桁行2間(5.92～6.24m)、梁行3間(4.32～4.33m)で、梁行中央の柱穴がわずかに外へ張り出すため亀甲形を呈するが、梁行西側の柱穴1か所は検出できなかった。面積は29.26m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-86°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から2.86・3.06m、南側で西から3.08・3.16m、梁行が西側で北から1.78・2.56m、東側で北から1.72・1.12・1.52mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径56～92cm、短径50～84cm、確認面からの深さ26～80cmとぼらつきがあるものの桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP525・527・552・587・600から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(97)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SB947** (図版33・37・106・107)

29E・Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。P547がSB945の柱穴P526と、P1359がSB946の柱穴P527と、P583がSB946の柱穴P544とそれぞれ重複するが、新旧関係は不明である。桁行3～4間(6.25～6.40m)、梁行3間(4.10～4.44m)の長方形である。面積は27.42m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-85°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.46・2.26・1.84・

0.80m、南側で西から1.66・2.08・2.72m、梁行が西側で北から1.84・1.16・1.10m、東側で北から2.16・2.28mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径42～82cm、短径32～70cm、深さ29～68cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP537に認められ、太さ20cm程度の柱が据えられていたと推定される。

遺物はP536・537・547・565・566・594から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が出土している。

**SB948** (図版33・37・107)

28E・F及び29E・Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。桁行3間(5.08～5.24m)、梁行2間(3.80～3.84m)の長方形で、面積は19.49m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-85°-Eを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.60・1.72・1.72m、南側で西から1.76・1.52・1.96m、梁行が西側で北から2.06・1.76m、東側で2.18・1.60mとなる。梁行も中央の柱穴が中心より東側にずれる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径62～104cm、短径56～98cm、確認面からの深さ28～62cmとばらつきがあるものの、桁行方向は直線状に並ぶ。

遺物はP581・596・599・779・780・781・802・804から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が出土している。

**SB1240** (図版39・42・107)

29H及び30G・Hグリッドに位置する古代の側柱建物である。P1209・1236・1241・1243・1242・1235・1239・1210がSI201と重複し、これを切っている。桁行4間(7.08～7.12m)、梁行2間(4.44～4.48m)の長方形で、面積は32.40m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-16°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から1.94・1.48m・1.58・2.08m、東側で北から1.92・1.68・1.54・2.00m、梁行が北側で西から2.16・2.32m、南側で西から2.28・2.16mと、等間隔ではない。柱穴はいずれも掘形を持つ。長径36～124cm、短径36～68cm、確認面からの深さ38～94cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP309・1206・1208・1210・1235・1242から古墳時代と古代の土師器が出土している。

**SB1513** (図版39・42・107)

30・31Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。P1517がSB1528の柱穴P1531と重複し、これを切っている。またP435がSB938の柱穴P437と、P1519がSB938の柱穴P1536と重複するものの、新旧関係は不明である。桁行2間(5.07～5.21m)、梁行2間(3.77～4.13m)の長方形で、面積は20.50m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-3°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から2.70・2.44m、東側で北から2.50・2.56m、梁行が北側で西から2.08・2.00m、南側で西から1.95・1.80mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模はP1520が径22～26cm、確認面からの深さ16cmと浅い。そのほかの柱穴も、長径62～80cm、短径60～72cm、確認面からの深さ28～60cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP1514・1515・1517・1518・1519から、古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(98)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SB938** (図版39・43・108)

30F・G及び31Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。P905・P548がSI871と重複し、これに切られる。またP437がSB1513の柱穴P435と、P1536がSB1513の柱穴P1519とそれぞれ重複

するものの、新旧関係は不明である。桁行4間(7.44～7.64m)、梁行西側2間(5.28～5.56m)の長方形であるが、梁行東側中央の柱穴は検出できなかった。面積は41.62m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-88°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.96・1.92・1.80・1.76m、南側で西から1.80・2.08・1.84・1.92m、梁行が西側で北から2.76・2.80m、東側で5.28mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。平面形は方形もしくは長方形である。規模は長径92～132cm、短径80～128cm、確認面からの深さ38～94cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP909・939に認められ、太さ35cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP437・439・519・548・893・905・933・934・1536・1538から古墳時代の土師器と古代の土師器(99)・須恵器(100・101)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB937 (図版39・43・108)

30F・G、31F・Gグリッドに位置する古代の側柱建物である。P895・896がSI871と重複し、これに切られる。桁行3間(5.80～6.04m)、梁行1間(5.00～5.24m)の長方形で、面積は31.09m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-88°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.56・1.88・2.36m、南側で西から1.56・2.08・2.40m、梁行が西側で5.24m、東側で5.00mと、桁行方向は東側へ向かい柱間距離が長くなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。平面形は方形もしくは隅丸方形である。規模は長径80～140cm、短径82～124cm、確認面からの深さ57～75cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP895・896・908に認められ、太さ24～34cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP533・895・896・908・1535・1537から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が出土している。

#### SB936 (図版39・44・109)

29・30Gグリッドに位置する古代の側柱建物である。P1356がSK890と、P1357がSK889と、P910がSB935の柱穴P1355とそれぞれ重複するが、新旧関係は不明である。東西2間(3.94～4.00m)、南北2間(3.96～4.36m)の方形で、面積は16.78m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は西側で北から1.90・2.10m、東側で北から1.98・1.96m、北側で西から3.00・1.36m・南側で西から2.02・1.94mと、北側以外はほぼ等間隔である。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径42～72cm、短径38～72cm、確認面からの深さ31～47cmで、いずれも直線状に並ぶ。

遺物はP888・898・912から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(102)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB935 (図版39・44・109)

30F・Gグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。P1358がSB884の柱穴P881と、P1355がSB936の柱穴P910とそれぞれ重複するが、新旧関係は不明である。東西2間(4.56～4.66m)、南北2間(3.92m～4.04m)の方形を呈するが、北側中央の柱穴は検出できなかった。面積は18.35m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は西側で北から2.12・2.44m、東側で北から2.30・2.36m、北側で4.40m、南側で西から2.08・1.84mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径48～80cm、短径40～72cm、確認面からの深さ31～71cmとばらつきがあるものの、いずれも直線状に並ぶ。

遺物はP808・877から土師器が出土しているが、微量なため時期は不明である。

## SB884 (図版39・44・110)

30G・Hグリッドに位置する古代の側柱建物である。P881がSB935の柱穴P1358と重複するが、新旧関係は不明である。桁行3間(5.80～6.12m)、梁行2間(4.96～5.08m)の長方形で、面積は30.21m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-88°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から1.68・1.88・2.24m、南側で西から1.96・2.08・2.08m、梁行が西側で北から2.48・2.60m、東側で北から3.32・1.64mと梁行東側の北寄りが長くなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。平面形は方形もしくは隅丸方形・長方形である。規模は長径72～132cm、短径72～100cm、確認面からの深さ43～60cmとばらつきはあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。柱痕はP881・882・883・872・873・874・875に認められ、太さ20～36cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP878・880・881・882・883から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が出土している。

## SB962 (図版46・48・110)

33Gグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。東側は河川跡と考えられる窪地によって削平されているが、検出された柱並びから南北棟と推定される。南北2間(4.18m)以上、東西1間(2.14m)以上で、面積は8.94m<sup>2</sup>以上を測る。長軸方向はN-4°-Wを示す。柱間寸法は2.1m前後と、ほぼ等間隔となる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径40～52cm、短径35～50cm、確認面からの深さ50～68cmとなる。

遺物はP982・984から土師器が出土しているが、微量なため時期は不明である。

## SB1528 (図版46・48・110)

31Fグリッドに位置する古代の側柱建物である。P1531がSB1513の柱穴P1517と重複し、これに切られる。桁行2間(4.96～5.03m)、梁行1間(3.44～3.56m)で、桁行中央の柱穴がわずかに外へ張り出すため不整な長方形となり、面積は17.98m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-81°-Eを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から2.24・2.76m、南側で西から2.32・2.64mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径52～82cm、短径32～58cm、確認面からの深さ39～58cmとばらつきがあるものの、桁行方向は直線状に並ぶ。

遺物はP1529・1530・1531・1532・1533・1534から古墳時代と古代の土師器が出土している。

## SB1444 (図版46・49・111)

31・32Fグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。P1449がSK1425と重複し、これに切られる。P1445がSD1428と重複し、これを切っている。東西3間(4.72m)、南北3間(3.95～3.98m)と推定されるが、東側中央の柱穴は確認できなかった。西側中央の柱穴がわずかに外に張り出すため、不整な長方形となり、面積は19.56m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-5°-Wを示す。柱間寸法は西側で北から2.20・1.08・1.48m、北側で西から1.28・1.32・1.40m、南側で西から1.28・1.32・1.32mとなり、北側・南側はほぼ等間隔である。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～60cm、短径24～50cm、確認面からの深さ13～42cmとばらつきがある。

遺物はP1503・1545・1569・1570から土師器が出土しているが、微量なため時期は不明である。

## SB1430 (図版46・49・111)

31F・G及び32F・Gグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。東西3間(4.9～5.12m)、南北3間(4.32～4.44m)と考えられ、内側の柱が外側にやや張り出し不整長方形となり、面積は24.05m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-36°-Wを示す。柱間寸法は西側で北から1.48・2.08・1.56m、東

側で北から1.40・2.08・1.52m、梁行が北側で西から1.12・2.08・1.24m、南側で西から2.20・0.96・1.16mとなり、南側を除くと、中央が長い。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径30～56cm、短径28～44cm、確認面からの深さ20～62cmとばらつきがあり、弧状に並ぶ。

遺物はP1424から土師器が出土しているが、微量なため時期は不明である。

#### SB1578 (図版51・52・111)

24H・I及び25Iグリッドに位置する古代の側柱建物である。P1572がTP1305と重複し、これを切っている。SE1575はその位置から西側の柱穴を切って構築されたものと考えられる。桁行3間(7.56～7.64m)、梁行2間(4.85～5.06m)の長方形であるが、桁行東側中央の柱穴と西側の柱穴1か所は検出できなかった。面積は38.03m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-0°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は梁行北側が西から2.48・2.36m、南側が西から2.54・2.50mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径56～98cm、短径44～76cm、深さ22～44cmとばらつきがある。

遺物はP1572・1573から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(103)が出土している。

#### SB842 (図版54・55・111・112)

28H及び29H・Iグリッドに位置する古代の側柱建物である。P831・832がSI825と重複し、これを切っている。またP840がSB928の柱穴P918と重複しているが新旧関係は不明である。桁行3間(5.30～5.36m)、梁行2間(4.00～4.14m)の長方形で、面積は22.28m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-2°-Eを示し南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から2.00・1.60・1.76m、東側で北から2.20・1.44・1.66m、梁行が北側で西から2.12・1.88m、南側で西から2.36・1.78mと桁行の北側が他に比べて若干広く、梁行も西側が広い。いずれの柱穴も掘形を持つ。梁行中央の柱穴(P836・841)の規模は径36～46cm、確認面からの深さ13～16cmと浅い。ほかの柱穴の規模は長径96～136cm、短径72～100cm、確認面からの深さ30～57cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP831・837・838・839・840から古墳時代と古代の土師器が出土している。

#### SB270 (図版56・57・112)

30・31Iグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。東西3間(3.92m)、南北2間(3.98～4.08m)の方形であるが、西側中央の柱穴は検出できなかった。面積は15.45m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は桁行が東側で北から1.48・1.36・1.08m、北側で西から1.96・2.12m、南側で西から2.02・1.96mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。平面形はほぼ方形である。規模は長辺40～66cm、短辺36～58cm、確認面からの深さ38～72cmとばらつきがある。柱痕は全ての柱穴に認められ、太さ16～24cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP267では縄文土器(104)と剥片石器(234)が古墳時代の土師器及び古代の須恵器が出土している。ほかにはP259・260・261・267・268から古墳時代の土師器と古代の須恵器が出土している。

#### SB250 (図版56・57・112)

31Hグリッドに位置する古代と推定される側柱建物である。桁行2間(3.40～3.48m)、梁行2間(2.56～2.64m)で、桁行西側中央の柱穴がわずかに外に張り出すため、不整な長方形となり、面積は9.41m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-33°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から1.72・1.84m、東側で北から1.72・1.62m、梁行が北側で西から1.20・1.36m、南側で西から1.36・1.28mと、ほぼ等間隔である。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～64cm、短径28～56cm、確認面からの深さ18～58cmとばらつきがある。

### 3 遺 構

遺物はP222・223・225・227・228・229から土師器が出土しているが、微量なため時期は不明である。

#### SB300 (図版56・58・112・113)

30H・Iグリッドに位置する古代の側柱建物である。東西2間(4.42～4.52m)、南北2間(4.48～4.54m)の方形で、面積は20.11m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は西側で北から2.18・2.24m、東側で北から2.20・2.32m、北側で西から2.12・2.36m、南側で西から2.42・2.12mで、ほぼ等間隔である。柱穴はいずれも掘形を持つ。平面形は方形もしくは長方形である。規模は長辺70～96cm、短辺58～92cm、確認面からの深さ52～75cmとぼらつきがある。柱痕はP304以外の全ての柱穴で認められ、太さ22～30cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物は全ての柱穴から出土している。古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(105)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB370 (図版56・58・113)

31H・Iグリッドに位置する古代の側柱建物である。P369がSE296と重複し、これに切られる。東西2間(4.00m)、南北2間(3.72～3.94m)の方形で、面積は15.65m<sup>2</sup>を測る。柱間寸法は西側で北から2.44・1.56m、東側で北から2.08・1.92m、北側で西から1.76・1.96m、南側で西から1.98・1.96mと、西側以外はほぼ等間隔である。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径22～56cm、短径22～48cm、確認面からの深さ20～78cmとぼらつきがある。柱痕はP258に認められ、太さ20cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP231・232・248・269・277・369から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(106)が出土している。時期は出土土器の中で最も新しい年代から9世紀中葉頃と推定される。

#### SB961 (図版60・61・113)

32・33Hグリッドに位置する古代の側柱建物である。桁行3間(4.83～4.92m)、梁行2間(3.58～3.86m)で、梁行中央の柱穴がわずかに外へ張り出すため不整長方形を呈するが、梁行東側中央の柱穴は検出できなかった。面積は19.20m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-62°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行北側が西から1.50・1.58・1.86m、南側が西から1.54・1.62・1.76m、梁行西側が北から2.26・1.72mとなり、桁行は東側、梁行は北側が広がる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径30～64cm、短径29～62cm、確認面からの深さ13～38cmとぼらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP960・991・992・993・994・995・996から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(107)が出土している。

### c 井 戸

古代の井戸は9基検出した。調査区北東側から中央部の住居・建物集中域から離れた調査区西側と南側で6基、住居・建物集中域からは3基それぞれ確認している。

#### SE1077 (図版14・20・114)

27Cグリッドに位置する古代の井戸である。平面形は不整円形を呈し、径1.00～1.10m、確認面からの深さ1.14mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は黒褐色・暗褐色シルト、灰白色・褐灰色・暗灰色粘土などの8層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土1・3・4・7層から古墳時代の土師器及び古代の土師器・須恵器(108・109)が混在して出土している。ほかに底面を中心に搬入礫が31個(計12.9kg)出土している。

SE870(図版39・45・114)

31Gグリッドに位置する古代の井戸である。SD869と重複し、これに切られるものの、平面形は楕円形を呈する。長径1.20m、短径(推定)1.00m、確認面からの深さ1.40mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は灰黄褐色シルト、褐灰色シルト、黒褐色シルトの3層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土3層から古代の須恵器と搬入礫が9個(計6.5kg)が出土している。

SE1564(図版51・52・114)

24Iグリッドに位置する古代の井戸である。SD1302と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径0.94～0.98m、確認面からの深さ0.68mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒を含むにぶい黄褐色砂質シルトと暗青灰色砂質シルトを基調とし、5層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土2・3・5層から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が出土している。また覆土3層から搬入礫が28個(計31.3kg)出土している。その中には縄文時代早期～前期に多出する特殊磨石(241)が1点含まれる。

SE1574(図版51・52・114)

25Jグリッドに位置する古代の井戸である。平面形は不整円形を呈し、径1.00～1.05m、確認面からの深さ1.00mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト、黄橙色砂質シルト、暗青灰色シルトを基調とし、6層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土1・3層から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が混在して出土している。

SE1575(図版51・52・115)

24Iグリッドに位置する古代の井戸である。平面形は不整楕円形を呈し、長径1.51m、短径1.04m、確認面からの深さ1.44mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は炭化物を含む黄褐色シルトを基調とし、5層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土1・2・3層から古墳時代と古代の土師器が出土している。また底面から搬入礫が15個(計15kg)出土している。その中に砥石(246)が1点含まれる。

SE1552(図版51・53・115)

24Iグリッドに位置する古代の井戸である。南東側はSD1551と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈し、径0.87～0.92m、確認面からの深さ0.86mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒を含む砂質シルトを基調とし、10層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土1・2層から古代の土師器・須恵器が少量出土している。また搬入礫が7個(計4.5kg)出土している。

SE296・SB1580(図版56・58・115)

SE296は31Hグリッドに位置する。SB370の柱穴P369と重複し、これを切っている。平面形は長方形、断面形は箱状を呈する。規模は長辺1.16m、短辺0.96m、確認面からの深さ2.20mを測り、主軸方向はN-86°-Eを示す。覆土は黒褐色シルト、灰黄褐色シルト、黒褐色粘質シルトを基調とし、6層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器が少量出土し

ている。また底面から搬入礫が8個(計131.6kg)出土している。

SB1580は4基のピットが長方形に並ぶ遺構である。SB250、SB370と重複するが、新旧関係は不明である。南北1間(1.6~2.0m)、東西1間(2.2m)、面積3.9m<sup>2</sup>を測る。主軸方向はN-84°-Eを示す。ピットは長径24~28cm、短径20~28cm、確認面からの深さ24~38cmを測り、本遺跡の一般的な掘立柱建物の柱穴に比べると小規模である。遺物はP1202で古墳時代の土師器が少量出土している。

SB1580はSE296を覆うような位置で検出されたこと、主軸方向がほぼ一致すること、ピットが掘立柱建物の柱穴に比べると小規模であることからSE296の上屋と考えられる。

#### SE953 (図版60・62・116)

33Iグリッドに位置する古代の井戸である。平面形は円形を呈し、径1.10~1.14m、確認面からの深さ1.56mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は褐灰色シルト、黒褐色シルトを基調とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の須恵器(110)が出土している。

#### SE957 (図版60・62・117)

33Iグリッドに位置する古代の井戸である。平面形は楕円形を呈し、長径1.03m、短径0.83m、確認面からの深さ1.05mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は褐灰色シルト、黒褐色シルト、灰色シルト、暗灰色シルトを基調とし、5層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は覆土から古墳時代と古代の土師器が出土している。

### d 土 坑

古代の土坑は19基検出した。調査区中央部に多く見られる。形状は大型のものは不整形( SK821・1143)、小型のものは円形・楕円形( SK844・1425等)が目立つ。

#### SK1060 (図版14・20・119)

27Dグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長径2.00m、短径1.20m、確認面からの深さ0.08mを測る。主軸方向はN-53°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代と古代の土師器が出土している。

#### SK1025 (図版20・118)

28Eグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は不整形長方形を呈し、長径2.18m、短径1.32m、確認面からの深さ0.24mを測る。主軸方向はN-78°-Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を含む黄褐色シルトを主体に、4層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古墳時代と古代の土師器が出土している。

#### SK1071 (図版14・21・119)

27Cグリッドに位置する古代の土坑である。SK1069と重複し、これを切っている。平面形は不整形楕円形を呈し、長径0.88m、短径0.64m、確認面からの深さ0.40mを測る。主軸方向はN-89°-Wを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、壁面は南壁で急斜度、北壁では内傾しながら立ち上がり、断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色・灰褐色シルトの2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代と古代の土師器が出土している。

#### SK1143 (図版14・21・119)

26・27Eグリッドに位置する古代の土坑である。SI1185と重複し、これを切っている。SX1186と

の重複関係は不明である。平面形は不整形を呈し、径2.76～3.18m、確認面からの深さ0.18mを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルト、炭化物を含む黒褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古墳時代と古代の土師器が少量出土している。

**SK821** (図版29・32・123)

28Dグリッドに位置する古代の土坑である。SD1367と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、径2.20～2.52m、確認面からの深さ0.10mを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の須恵器が出土している。

**SK822** (図版33・38・123)

28Gグリッドに位置する古代の土坑である。SI930と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、径1.60～1.64m、確認面からの深さ0.08mを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器・須恵器が少量出土している。

**SK929** (図版33・38・124)

28・29Gグリッドに位置する古代の土坑である。SI930カマド・煙道部を切っており、SD789に切られる。平面形は遺存部を見る限り長方形を呈する。長径1.92m、短径1.20m、確認面からの深さ0.30mを測る。主軸方向はN-14°-Eを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黄橙色シルトブロックを含む褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(125～127)が出土している。古墳時代の土師器はSI930を切った際に混入したものと考えられる。時期は出土する遺物の年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SK297** (図版39・45・124)

30・31G及び30・31Hグリッドに位置する古代の土坑である。SI202・SD358と重複し、これらを切っている。平面形は隅丸方形を呈し、径1.08～1.10m、確認面からの深さ0.19mを測る。断面形は不整な漏斗状を呈する。覆土は炭化物・焼土を含む黒褐色シルト、にぶい黄橙色シルトを含む灰黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器(128～130)・須恵器(131・132)が出土している。古墳時代の土師器はSI202を切った際に混入したものと考えられる。時期は出土する遺物の年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SK1429** (図版39・45・126)

31Fグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は不整形を呈し、径1.40～1.52m、深さ0.34mを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は炭化物を含む暗灰褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器が少量出土している。

**SK354** (図版39・45・124)

30Hグリッドに位置する古代の土坑である。SD358と重複し、これを切っている。平面形は隅丸方形を呈し、径0.86～0.92m、確認面からの深さ0.28mを測る。断面形は階段状を呈する。覆土は炭化物・焼土を含む黒褐色シルト、にぶい黄橙シルトを含む灰黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(133)が出土している。

**SK889** (図版39・45・125)

30Gグリッドに位置する古代の土坑である。SK890・SK915と重複し、これらを切っている。平面形は不整形長方形を呈し、長径2.50m、短径1.80m、確認面からの深さ0.33mを測る。主軸方向はN-6°-Wを示す。底面はやや凹凸を持ち、断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。

遺物は覆土から古墳時代の土師器（134）と古代の須恵器が出土している。

**SK890**（図版39・45・125）

30Gグリッドに位置する古代の土坑である。SK889と重複し、これに切られる。確認面からの深さ0.20mを測る。断面形は弧状と推定される。覆土は黄橙色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が少量出土している。

**SK865**（図版39・47）

31Gグリッドに位置する古代の土坑である。SI848と重複し、これを切っている。平面形は不整形円形を呈し、径0.92～1.08m、確認面からの深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の須恵器が出土している。

**SK844**（図版46・50・126）

31・32Gグリッドに位置する古代の土坑である。SD845と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径1.00～1.08m、確認面からの深さ0.22mを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は炭化物・灰色シルトブロックを含む褐灰色シルトで構成され、3層に識別され、水平に堆積する。遺物は古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（142・143）が出土している。時期は出土する遺物の年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SK1425**（図版46・50・126）

31・32Fグリッドに位置する古代の土坑である。SB1444の柱穴P1449と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径1.22m、短径0.96m、確認面からの深さ0.10mを測る。主軸方向はN-46°-Wを示す。底面は凹凸を持つがほぼ平坦で、断面形は皿状を呈する。覆土は炭化物を含む暗褐色シルトと暗褐色シルト・明黄褐色シルトの混合土の2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器（135）・須恵器（136～141）が多量に出土している。時期は出土する遺物の年代から9世紀中葉頃と推定される。

**SK1563**（図版51・53・128）

24Iグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は円形を呈し、径0.88～0.92m、確認面からの深さ0.48mを測る。底面はくぼみを持ち、断面形は半円状を呈する。覆土は炭化物を含むにぶい黄褐色、明黄褐色、暗青灰色砂質シルトの5層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器が少量出土している。

**SK1303**（図版51・53・127）

24Iグリッドに位置する古代の土坑である。平面形はやや不整形な方形を呈し、径0.80～0.90m、確認面からの深さ0.46mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器が少量出土している。

**SK221**（図版56・59・128）

31Hグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は長方形を呈し、長径1.36m、短径0.64m、確認面からの深さ0.44mを測る。主軸方向はN-83°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を含む黒褐色シルト、にぶい黄橙色粘質シルトなど3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器（144・145）・須恵器が出土している。

**SK284**（図版56・59・129）

31Iグリッドに位置する古代の土坑である。平面形は不整形円形を呈し、径1.08～1.20m、確認面から

の深さ0.16mを測る。主軸方向はN-11°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物粒・焼土を含む褐灰色、黒褐色シルトなど3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺構の中心から北側寄りに長径76cm、短径32cm、厚さ8cmの範囲で焼土を確認した。底面に焼成を受けた痕跡は見られず、焼土を廃棄したものと考えられる。遺物は古墳時代と古代の土師器が少量出土している。

#### e 性格不明遺構

SX886・SD900 (図版39・45・129)

SX886は30Gグリッドに位置する。SD900と重複するが、新旧関係は不明である。SX886の平面形は方形を呈し、一辺1.50～1.60m、確認面からの深さ0.54mを測る。断面形は階段状を呈する。覆土は炭化物と焼土粒を多量含む黒褐色シルトと褐灰色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器・須恵器が少量出土している。

SD900は長さ2.43m以上、幅0.32～0.42m、確認面からの深さ0.18mを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は炭化物と焼土粒を多量含む黒褐色シルトの単層で、SX886の覆土1層と同一である。遺物は出土していない。

なお、東側約3m先に存在するSI871の覆土1・2層はSX886の覆土1・2層と同一であり、周辺の遺構からは、このような特徴を有する覆土は確認できなかった。覆土の共通性から両者はほぼ同時期に存在していたものと考えられるが、その関係は不明である。

#### f 掘立柱建物の区画溝

SD406・789・913の3条が該当する。いずれも掘立柱建物に近接した場所に位置しており、主軸方向もほぼ同じである。時期は建物の構築時期から9世紀中葉頃と推定される。

SD406 (図版39・45・125)

29G及び30F・Gグリッドに位置する古代の溝である。SK409・SB811の柱穴P448と重複しこれらを切っている。長さ21.41m、幅0.36m、確認面からの深さ0.10mを測る。長軸方向はN-88°-Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器(150)が出土している。

本遺構の南側にSB935・936・937・938・884・1513・1521が存在し、主軸方向もほぼ同じである。このことから、これらの掘立柱建物に関連する区画溝と推定される。

SD789 (図版33・38・130)

28F・G及び29F・Gグリッドに位置する古代の溝である。SD782と重複し、これに切られる。またSK929・951と重複し、これらを切っている。平面形は28F14・15グリッドで東方向に屈折するため、L字状となる。長さ9.92m、幅0.67m、確認面からの深さ0.24～0.55mを測る。方向はN-9°-EからN-81°-Eに折れる。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし4層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(148・149)が出土している。

本遺構の南東側にSB945・946・947が存在し、主軸方向とほぼ平行・直交する。このことから、これらの掘立柱建物に関連する区画溝と推定される。

SD913 (図版33・38・130)

29Gグリッドに位置する古代の溝である。平面形は29G9グリッドで北方向に屈折するため、L字状と

### 3 遺 構

なる。長さ5.82m、幅0.72m、確認面からの深さ0.08mを測る。方向はN-84°-WからN-20°-Wに折れる。断面形は弧状を呈する。覆土は黄橙色シルトブロックを含む褐色灰シルトの単層である。遺物は出土していない。

本遺構の北側約5.5m先にSB945・946・947が存在し、主軸方向とほぼ平行・直交する。このことから、SD789同様これらの掘立柱建物に関連する区画溝と推定される。

#### g 溝

SD845 (図版46・50・131)

32Gグリッドに位置する古代の溝である。SK844と重複し、これに切られる。また南側が調査区域外に延びる。長さ4.74m以上、幅0.66m、確認面からの深さ0.20mを測る。長軸方向はN-3°-Eを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は黄橙色シルトブロックを含む褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(151)が出土している。

SD1302 (図版51・53・131)

24・25I及び25Jグリッドに位置する。SE1564と重複し、これに切られる。両端は後世の削平を受け消失している。長さ10.83m以上、幅1.23m、確認面からの深さ0.22mを測る。長軸方向はN-5°-Wを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

### 6) 中世の遺構

#### a 井 戸

中世の井戸は5基検出した。全て調査区南側に位置している。本遺跡における中世の遺構はこれに限定される。

SE956 (図版60・62・116)

33Iグリッドに位置する中世の井戸である。平面形は不整形円形を呈し、径0.89~1.06m、確認面からの深さ1.60mを測る。断面形は東側下層の壁面が崩落して膨らむため、不整形を呈する。覆土は褐灰色シルトと黒褐色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は古墳時代の土師器と中世の珠洲焼(111)が出土している。また底面より搬入礫が5個(計15.1kg)出土している。時期は出土する遺物の年代から14世紀頃と推定される。

SE965 (図版60・63・117)

33Jグリッドに位置する中世の井戸である。平面形は楕円形を呈し、長径1.00m、短径0.70m、深さ1.60mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は灰色シルト、青灰色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土2層から古墳時代の土師器と中世の珠洲焼(112・113)が混在して出土している。底面には湧水を浄化させるための拳から人頭位の大きさの搬入礫が、厚さ約20cmにわたって敷き詰められている。搬入礫は247個(計95kg)出土している。その中に磨石類(242)1点、石臼(250)1点が含まれる。時期は出土する遺物の年代から14世紀末~15世紀頃と推定される。

SE966 (図版60・63・117)

33Jグリッドに位置する中世の井戸である。平面形は楕円形を呈し、長径0.97m、短径0.76m、確認面からの深さ1.26mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は青灰色シルトの単層である。

遺物は覆土から中世の青磁（114）と珠洲焼（115～117）が出土している。また搬入礫が34個（計61.9kg）出土している。その中に石臼（251）1点、五輪塔の地輪（252）1点が含まれる。時期は出土する遺物の年代から15世紀後半頃と推定される。

SE999（図版60・63・118）

32H・Iグリッドに位置する中世の井戸である。平面形は不整形円形を呈し、径1.72～1.76m、確認面からの深さ1.90mを測る。西側の下半は崩落のため大きく膨らんでおり、断面形は袋状を呈する。覆土は炭化物を含むシルトと粘土で、5層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土から古代の土師器（118）と中世の珠洲焼（119）が出土しているほか、底面付近より曲物の底板（261）が出土した。底面を中心に搬入礫が460個（計177.1kg）出土している。その中に五輪塔の火輪（253・256）、水輪（254・257）、地輪（255・258）が2点ずつ含まれる。時期は出土する遺物の年代から15世紀後半頃と推定される。

SE1000（図版60・63・118）

32H・I及び33Hグリッドに位置する中世の井戸である。平面形は不整形円形を呈し、径1.60～1.78m、確認面からの深さ1.70mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は炭化物を少量含むシルトで構成され、6層に識別され、斜位に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は覆土から古墳時代・古代の土師器と中世の珠洲焼（120）が出土している。また搬入礫が7個（計11kg）出土している。時期は出土する遺物の年代から13世紀後半頃と推定される。

## 7) 時期不明の遺構

### a 掘立柱建物

遺物が出土していない、もしくは微量のため時期不明とした掘立柱建物を4棟検出した。いずれも1間×1間もしくは1間×2間の細長い長方形を呈する。規模や柱穴の掘形が小さく、小屋風の倉庫を想定している。

SB1484（図版25・26・104）

30Dグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間（2.70～2.86m）、梁行1間（1.88～2.12m）の長方形で、面積は5.61m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-87°-Eを示し、東西棟となる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径44～61cm、短径32～50cm、確認面からの深さ28～54cmとばらつきがある。柱痕はP1468・1469・1478に認められ、太さ15～20cm程度の柱が据えられていたものと推定される。

遺物はP429・1468から古代の土師器・須恵器が、P1469・1478から古墳時代の土師器がいずれも少量出土している。

SB1521（図版39・42・107・108）

31E・Fグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間（4.59～4.85m）、梁行1間（1.84m）の長方形で、面積は8.98m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-4°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行が西側で北から2.56・2.28m、東側で北から2.26・2.28mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径44～60cm、短径40～44cm、確認面からの深さ20～76cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP1522・1524・1525・1526・1527から古墳時代と古代の土師器が出土している。

## SB1507 (図版46・48・110)

31・32Fグリッドに位置する側柱建物である。P1446がSK1426と重複し、これを切っている。桁行2間(5.85～6.25m)、梁行1間(1.69～1.72m)の長方形で、面積は10.1m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-75°-Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行が北側で西から3.08・2.72m、南側で西から3.12・3.12m、梁行が西側で1.69m、東側で1.72mとなる。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～48cm、短径24～36cm、確認面からの深さ20～54cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。

遺物はP1511から土師器が出土しているが微量なため時期は不明である。

## SB967 (図版60・61・113)

32・33Iグリッドに位置する側柱建物である。SX958と重複し、これを切っている。桁行2間(6.46～6.50m)、梁行1間(3.00m)の長方形で、面積は19.81m<sup>2</sup>を測る。長軸方向はN-2°-Eを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行東側が北から3.16・3.36m、西側が北から2.90・3.44mである。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は長径32～70cm、短径30～64cm、深さ14～55cmとばらつきがあるものの、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

## b 井 戸

遺物が出土していない。もしくは微量のため時期不明とした井戸は3基検出した。

## SE954 (図版60・62・116)

33Iグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.05m、短径0.86m、確認面からの深さ0.97mを測る。断面形は袋状を呈する。覆土は褐灰色シルト、黄橙色シルト、灰白色シルトを基調とし、5層に識別され、水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は古墳時代の土師器が少量出土しているが、堆積の際の混入と考えられる。

## SE955 (図版60・62・116)

33Iグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、径1.38～1.44m、確認面からの深さ2.00mを測る。断面形は袋状を呈する。覆土は褐灰色シルト、灰色シルト、暗灰色シルトを基調とし、6層に識別され、ほぼ水平に堆積する。人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺物は出土していない。

## SE964 (図版60・63・117)

33Jグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.07～1.13m、確認面からの深さ1.26mを測る。断面形は箱状を呈し、覆土は暗橙灰褐色シルトと暗灰褐色シルトの混合土の単層で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺物は出土していない。

## c 土 坑

遺物が出土していないため時期不明とした土坑は、10基検出した。

## SK1069 (図版14・21・119)

27Cグリッドに位置する。SK1071と重複し、これに切られる。平面形は楕円形と推定される。確認面からの深さ0.20mを測る。主軸方向はN-44°-Eを示す。覆土は暗褐色、黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積するものと推定される。遺物は出土していない。

**SK1280** (図版13・21・120)

26C・Dグリッドに位置する。平面形は不整長方形を呈し、長径2.88m、短径2.28m、確認面からの深さ0.12mを測る。主軸方向はN-23°-Eを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は皿状を呈する。覆土は暗灰褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

**SK1401** (図版25・26・121)

30Cグリッドに位置する。平面形は東辺が調査区域外に延びるため不明で、確認面からの深さ0.05mを測る。底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈すると推定される。覆土は灰褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

**SK1472** (図版25・26・122)

31Dグリッドに位置する。P1473と重複しこれに切られる。平面形は楕円形を呈し、長径1.00m、短径0.80m、確認面からの深さ0.12mを測る。主軸方向はN-49°-Eを示す。底面はわずかに凹凸を持ち、断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を含む暗青灰色シルトなど2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

**SK1174** (図版29・32・123)

27Fグリッドに位置する。SI1053と重複し、これを切っている。平面形は不整楕円形を呈し、長径1.20m、短径0.92m、確認面からの深さ0.20mを測る。主軸方向はN-65°-Wを示す。側壁は急斜度に立ち上がり、断面形は階段状を呈する。覆土は炭化物を含むシルトを中心に4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

**SK951** (図版33・38・124)

28F・Gグリッドに位置する。SD789と重複し、これに切られる。平面形は不明で、確認面からの深さ0.28mを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

**SK409** (図版39・45・125)

30Fグリッドに位置する。P411を切り、SD406に南辺を切られる。平面形は円形を呈するものと推定され、確認面からの深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈するものと推定される。覆土は黄灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

**SK428** (図版39・45・125)

30Fグリッドに位置する。SD407に南側が切られる。平面形は遺存する形状から円形を呈するものと推定され、確認面からの深さ0.30mを測る。断面形は半円状を呈するものと推定される。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

**SK885** (図版39・45・125)

30Fグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、径0.74~0.82m、確認面からの深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色、黄橙色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

**SK400** (図版56・59・128・129)

30Iグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径1.20m、短径0.52m、確認面からの深さ0.16mを測る。主軸方向はN-25°-Eを示す。底面はやや凹凸を持ち、断面形は半円状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

## d 畑作溝

本遺跡では69条を検出した。主に調査区域北東部に位置する「畑作溝Ⅰ群」と中央部に位置する「畑作溝Ⅱ群」に大別され、前者は3グループ、後者は4グループの小群に細別される。細分したそれぞれの溝群は、等間隔で平行し、深さがほぼ均一する。長軸方向はほぼ東西方向を示し、 $N-74^{\circ}\sim 104^{\circ}-E$ に収まる。時期は畑作溝Ⅱ群が河川埋没後に形成されていることから、中世以降と考えられる。

## 畑作溝Ⅰ群 (図版14・21・22)

I - 1群 (SD602～610)、I - 2群 (SD571～580・584)、I - 3群 (SD619～621・736) に細別する。I - 1群は27・28C及び28Dグリッドに位置する。長さ2.68～5.91m以上、幅0.25～0.6m、深さ0.05～0.15mを測る。断面は弧状を主体とするが、半円状、台形状、不整形のものも見られる。長軸方向は、 $N-80^{\circ}\sim 100^{\circ}-E$ を示す。

I - 2群は29・30D及び29Eグリッドに位置する。SI570と重複し、これを切っている。長さ4.51～7.43m、幅0.2～0.34m、深さ0.03～0.06mを測る。断面は弧状を呈する。長軸方向は $N-80^{\circ}\sim 83^{\circ}-E$ を示す。

I - 3群は28・29D及び28・29Eグリッドに位置する。長さ7.28～8.97m、幅0.24～0.39m、深さ0.06～0.09mを測る。断面は弧状、半円状、台形状を呈する。長軸方向は、 $N-91^{\circ}\sim 100^{\circ}-E$ を示す。

## 畑作溝Ⅱ群 (図版54・56・59)

Ⅱ - 1群 (SD316～SD320)、Ⅱ - 2群 (338・348～350・377～384・389～393・395・397・398)、Ⅱ - 3群 (SD321～326・331～337・1222)、Ⅱ - 4群 (SD310～315) に細別する。

Ⅱ - 1群は31I及び30・31Jグリッドに位置する。SI203と重複し、これを切っている。長さ7.38～17.03m以上、幅0.22～0.35m、深さ0.04～0.08mを測る。断面は弧状を呈する。長軸方向は、 $N-85^{\circ}\sim 91^{\circ}-E$ を示す。

Ⅱ - 2群は29・30I及び29・30Jグリッドに位置する。長さ0.83～6.09m、幅0.23～0.48m、深さ0.03～0.18mを測る。断面は弧状、半円状、台形状、不整形を呈する。長軸方向は $N-74^{\circ}\sim 104^{\circ}-E$ を示す。

Ⅱ - 3群は29・30Jグリッドに位置する。長さ1.53～9.64m以上、幅0.28～0.64m、深さ0.04～0.30mを測る。断面は弧状、半円状、台形状、不整形を呈する。長軸方向は $N-80^{\circ}\sim 99^{\circ}-E$ を示す。

Ⅱ - 4群は30・31J及び30・31Kグリッドに位置する。長さ4.87～11.62m以上、幅0.28～0.48m、深さ0.06～0.10mを測る。断面は半円状、台形状、不整形を呈する。長軸方向は、 $N-76^{\circ}\sim 79^{\circ}-E$ を示す。遺物はSD312より珠洲焼(154)が出土している。

## 8) 自然流路

## SD1220 (図版12・64・131)

24D～I・25C～J・26E～J・26E～J・27F～J・28H～J・29I～J・30～33Jグリッドに位置する。調査区域の中央～西側を南から北にかけて蛇行しながら流下する。SI1054の北西側を切り、埋没後SE965・966に切られる。北側・南側ともに調査区域外に延びる。長さ110m以上、幅30m前後、確認面からの深さ1.98mを測る。流下方向は $N-17^{\circ}-E$ を示す。底面は部分的にくぼみが見られる。

河岸は急斜度に立ち上がり、断面形は不整形形状を呈する。

覆土は7層に識別され、レンズ状に堆積する。下層の覆土5～7層は炭化物を微量に含む粘土～シルトで構成され、部分的に多量の自然木が確認できる。覆土4層は炭化物を微量に含む紫灰色シルトで、古墳時代・古代の土器が大量に出土するため、この時期における堆積が推定できる。上層の覆土1～3層は砂混じりのシルトで構成され、洪水堆積層と考えられる。

遺物は覆土4層から古墳時代の土師器（155～174）・須恵器（175）、古代の土師器（176～182）・須恵器（183～219）が出土した。このほか不定形石器（235）が1点出土している。出土する遺物の年代を考慮すると、存続時期は古墳時代前期初頭～9世紀後半に収まるものと考えられる。

## 4 遺物

### A 概要

出土した遺物は土器・土製品・陶磁器、石器・石製品、金属製品、木製品がある。土器を時期別に見ると、縄文時代～中世まで確認できるが、大部分は古墳時代及び古代のものである。古墳時代の土器は前期・後期が確認され、中期は確認できなかった。古代の土器の大半は9世紀中葉に比定されるが、8世紀代のもも少量確認できる。縄文土器は後期・晩期、弥生土器は後期に属するものが少量ながらも出土した。中世の土器は、井戸の中から珠洲焼が出土した。

土製品はカマドに伴う土製支脚と芯材に使われたと考えられる円筒形土製品がある。いずれも古墳時代後期に比定される。ほかに鞆の羽口が出土した。

陶磁器は表土中から出土したものが大部分で、中世の井戸から出土した朝鮮青磁皿1点を除くと全て近世陶磁器である。

石器は石鏃のほか不定形石器、磨石類を確認した。磨石類は古墳時代のもが多く、ほかには縄文時代と推定される特殊磨石や中世の凹石がある。石製品は古墳時代の紡錘車、勾玉、管玉、中世の砥石、石臼、五輪塔（火輪・水輪・地輪）がある。金属製品は鉄滓、木製品は中世の曲物底板をそれぞれ確認した。

土器・陶磁器・土製品の種類の総重量を第3表にまとめた。土製品を含む弥生土器・古墳時代土師器の割合が約8割を占め、弥生土器・古墳時代土師器、古代土師器、須恵器の重量比率は弥生土器・古墳時代土師器を100とすると100：6：17である。

弥生土器・古墳時代土師器の遺構内出土：河川跡出土：表土・攪乱層出土の重量比率は、遺構内出土土器を100とすると100：37：31である。遺構内では特に竪穴住居（SI201・202・570・1058）、27D・E及び28D・Eグリッドの掘立柱建物（SB1042・1298・1297）の周辺から多く出土した。河川跡では調査区域内南西側の川縁から川底にかけての出土が目立つ。

古代土師器の重量比率は遺構内出土土器を100とすると、100：133：68、須恵器の重量比率は

	縄文土器	弥生土器・古墳時代土師器 (支脚・土製品含む)	古代土師器	須恵器	珠洲焼	中・近世陶磁器	合計
遺構内出土	0.154	160.585	5.484	8.317	4.457	0.056	179.053
河川跡出土	0	59.543	7.310	29.897	0	0	96.750
表土・攪乱出土	0.050	49.561	3.702	8.005	0	0.634	61.952
合計	0.204	269.689	16.496	46.219	4.457	0.690	337.755

(単位はkg)

第6表 北新田遺跡出土土器種類別重量一覧表

100 : 359 : 96 で共に河川跡から多く出土した。須恵器は調査区域内中央の川縁から川底にかけて多く出土し、器種は甕が多い。遺構別に見ると、古代土師器・須恵器共に調査区中央から南側にかけての土坑 (SK297・1425等) からの出土が多く、器種は杯・碗が大多数を占める。掘立柱建物の柱穴からの出土は希薄である (第20図)。

以下出土遺物の説明を行うが、土器・土製品・陶磁器は遺構内、河川跡、表土・攪乱層の順に記述する。弥生・古墳時代及び古代の土器は第三章4Bの土器分類に基づき説明を行う。石器・石製品、金属製品、木製品は、それぞれ種類別に説明を行うものとする。

## B 土器・土製品・陶磁器

### 1) 遺構内出土

SI1058 (図版65-1～8、図版132)

古墳時代後期の土師器高杯 (1)、杯 (2)、甕 (3～5)、甌 (6)、須恵器高杯 (7)、中実の土製支脚 (8) が出土した。1・2は共に内面に黒色処理を施す。1は内湾する杯部と口縁部からなる細別Bで、本遺跡ではこの1点のみを確認した。2は内湾する体部が屈曲せずに立ち上がる細別Cである。3・4は長胴の体部をもつ細別Aで、外面にハケによる調整痕が見られる。5は球形の体部を持つ細別Bである。6は底部多孔の細別Bで、孔を6個確認した。

7は杯部に稜を持ち、口縁部が若干内湾する。胎土は長石を多く含み、北前田遺跡SD5から出土した杯蓋 (北前田52) の胎土に類似する。石川県の能登産と考えられる。上越市津倉田遺跡SI417出土土器 [笹沢ほか1999] に類例が見られ、時期は7世紀前半に比定される。

SI1185 (図版65-9～12、図版132・133)

古墳時代後期の土師器甕 (9・10)、甌 (11)、中実の土製支脚 (12) が出土した。9・10は細別Bで、内外面にハケによる調整痕が見られる。11は底部多孔の細別Bで、底部の孔が10個確認できる。

SI570 (図版65-13・14、図版66-15～28、図版133)

古墳時代前期の甕 (15) 及び後期の土師器壺 (13・14)、甕 (16・17)、甌 (18～20)、須恵器杯 (21)、中実の土製支脚 (22～24)、円筒形土製品 (25～28) が出土した。15は口縁端部が尖り、頸部直上の隆帯にはキザミが入る。北陸南西部の月影式の系譜を引くものと考えられ、時期は新潟シンポ5～6期に比定される。出土状況から後世の混入と考えられる。

13・14は内外面共へラケズリを施す。16・17は細別Aで、口縁部と体部の境に段差が見られる。17の口縁端部は外反し、丸く収まる。18・19は底部が筒抜けの細別Aである。18は口縁部が屈曲し、把手が見られない。19・20は体部に把手が付く。21は口縁部にカエリを持つ杯身で、本遺跡ではこの1点のみを確認した。胎土は7のそれとは異なる。時期は7世紀前半に比定される。

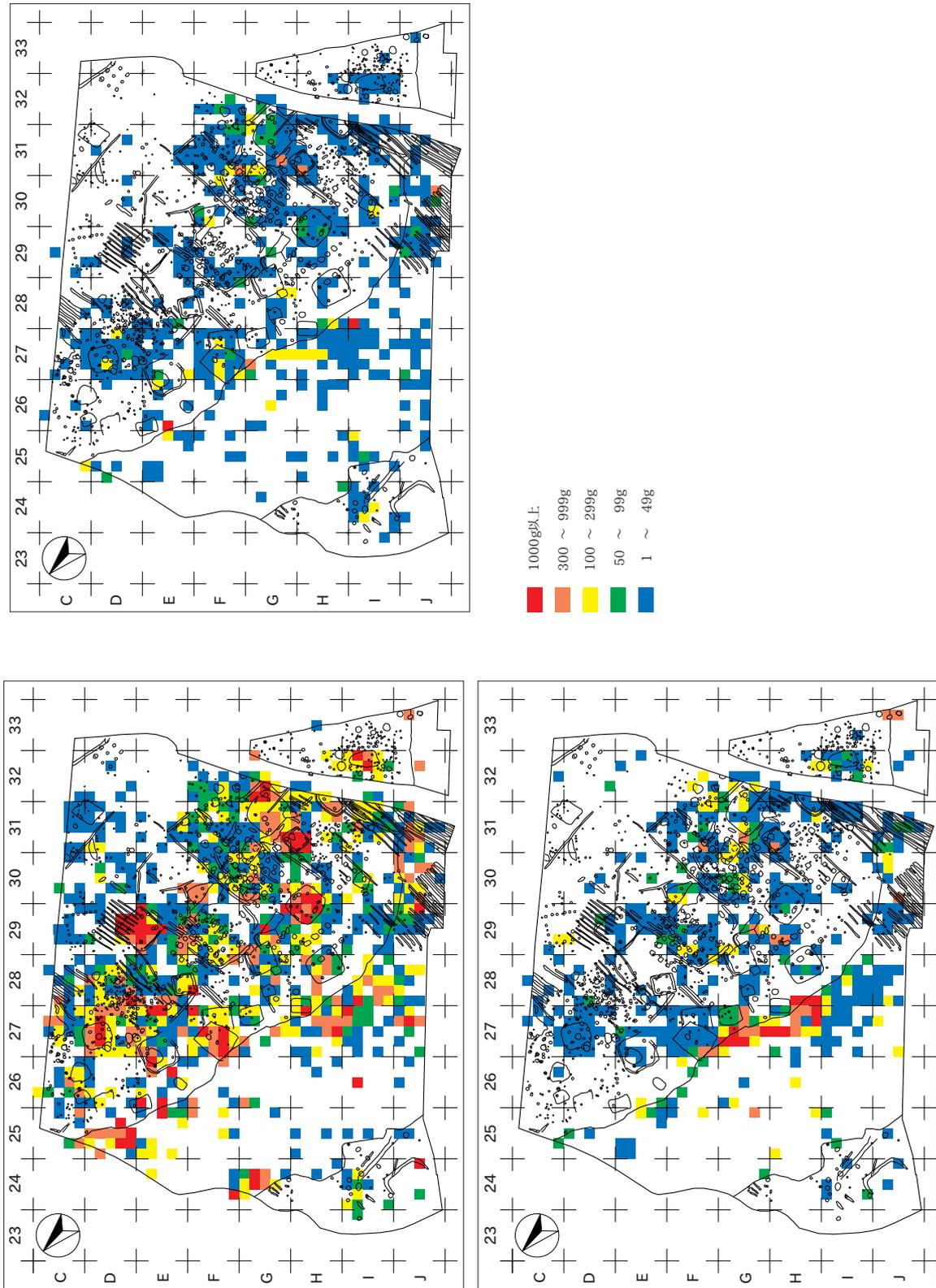
25～28は上越市一之口遺跡SI168 [鈴木ほか1994] より出土したものに類例が見られる。カマドの芯材と考えられる。外面はハケによる調整痕が見られ、内面は輪積み痕が確認できる。

SI1403 (図版66-29、図版133)

古墳時代後期の甌 (29) が出土した。細別Bの底部破片で、孔は4個以上あったものと考えられる。

SI601 (図版66-30・31、図版133)

古墳時代後期の土師器甕 (30)、杯 (31) が出土した。31は内湾する体部と外反する口縁部からなる細別Aで、本遺跡ではこの1点のみを確認した。内面の黒色処理は施されない。



第20図 北新田遺跡出土土器分布図  
 (S=1/1200、左上：弥生土器・古墳時代土師器、右上：古土師器、左下：須惠器)

## SI833 (図版66-32・33、図版133)

韃の羽口(32・33)が出土した。32・33は同一個体で、外径は7cm程と推測される。先端部には鉄滓の付着が見られる。

## SI1054 (図版67-34～37、図版133)

弥生時代後期の器台(34)、壺(35)及び古墳時代前期の甕(36・37)が出土した。34は脚部しか確認されないが、形態から受部・脚部が無段の細別Aに属するものと考えられる。35は大型の広口長頸壺の口縁部と考えられ、細別Vに属する。単口縁で、端部付近までハケによる調整痕が見られる。時期はいずれも新潟シンポ2期に比定される。

36・37はいずれも在地系の「く字甕」「コ字甕」と呼称されるものである。36の口縁端部は面取りが行われており、体部は球胴になる。37の口縁端部は丸く収まり、体部は長胴になるものと考えられる。時期はいずれも新潟シンポ5期以降に比定される。

## SI930 (図版67-38、図版134)

古墳時代後期の土師器高杯(38)が出土した。内湾する杯部と外反する口縁部からなる細別Aに属するもので、杯部内面は黒色処理を施す。杯部は深く、口縁部は伸長しているため、6世紀後半から7世紀前半にかけての比較的新しい様相〔春日2006〕が見られる。時期は7世紀前半に比定される。

## SI931 (図版67-39～43、図版134)

古墳時代後期の土師器甕(39～41)、中実の土製支脚(43)及び古代の須恵器壺蓋(42)が出土した。39～41はいずれも細別Aであるが、39・41は頸部が屈曲し、体部の張りがあるのに対して、40は頸部の屈曲が弱く、体部の張りが弱い。

42は端部の破片のみが確認された。本遺跡で壺蓋と確認できたものはこの1点のみである。後世の混入と考えられる。

## SI201 (図版67-44～50、図版68-51～65、図版134・135)

古墳時代前期の高杯(44)、器台(45～53)、蓋(54)、鉢(55～58)、壺(59～63)、甕(64)、器種不明の脚部(65)が出土した。時期はいずれも新潟シンポ6期に比定される。

44は北陸北東部の大型の有稜高杯で、細別Aに属する。口縁部は比較的長めで、外反して端部に至る。脚部は短めで、ハの字に開く。45・46は受部・脚部が無段の細別Aに属するもので、共に受部・脚部・裾部の境界は不明瞭である。47～53はいわゆる小型器台で、47は脚部から大きく外反し有段の口縁部に至る細別Hに属する。外面に赤彩を施す。48～50は受部が直線的に外へ開き、上端でわずかにつまみ上げられた細別Mに属する。51は受部が内湾して立ち上がる細別Nに属する。

54は下端内面にカエリを持たず、体部が笠状を呈する。本遺跡で確認した前期の蓋は全てこの器形である。55～57は有段口縁鉢で、細別Aに属する。55は器高に比べて身が浅く、口縁部が長く延びる。津倉田遺跡SX104出土土器〔笹沢ほか1999〕に類例が見られる。56・57は脚付のもので、体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。58も体部から口縁部にかけて内湾して立ち上がり、身が深い。細別Kに属する。

59は扁平な体部と直口する細長い口頸部を有する細別Cに属する。北陸北東部の台付装飾壺が形骸化したものと考えられる。60は畿内系の二重に外反する二重口縁壺で、細別Nに属する。内面の段部は不明瞭で、頸部にはキザミを巡らす。胎内市(旧中条町)西川内南遺跡SD1218出土土器〔野水ほか2005〕に類例が見られる。63は口縁がわずかに直口して立ち上がる「無頸壺」と呼称されるもので、細別Bに属する。口縁部直下で穿孔される。

64は在地系の「く字甕」「コ字甕」と呼称されるものである。体部は長胴で、底部は平底である。

SI202 (図版69-66～76、図版135・136)

古墳時代後期の土師器高杯(66)、杯(67・68)、甕(69～73)、甗(74・75)、中実の土製支脚(76)が出土した。66～68は内面に黒色処理を施す。66は細別Aに属する。38と同様、杯部は深く、口縁部は伸長している。時期は7世紀前半に比定される。67・68は体部に稜を持ち、内湾する体部と上方もしくは外側に延びる口縁部からなる細別Bに属する。

74は底部筒抜けの細別Aで、口縁部が屈曲し体部に把手が付かない。75は底部多孔の細別Bで、孔は9個確認できる。

SI871 (図版69-77～79、図版136)

古代の須恵器杯蓋(77・78)、有台杯(79)が出土した。77は器形が山笠状を呈し、器高が高い東海系で、細別Bに属する。体部外面に「丁」カ「力」の墨書が確認できる。胎土から滝寺窯産と考えられる。78は77と比べて器高が低く、平坦である。胎土から佐渡小泊窯産と考えられる。79は器高の低い箱型を呈する細別Aに属するもので、高台は内端接地する。風化が激しく二次焼成を受けた痕跡が認められる。時期はいずれも9世紀中葉に比定される。

SI469 (図版69-80～82、図版136)

古代の須恵器杯蓋(80)、有台杯(81)、甕(82)が出土した。いずれも破片であるが、81は細別Aに属する。80・81は胎土から滝寺窯産と考えられる。時期はいずれも9世紀中葉に比定される。

SI848 (図版70-83～87、図版136)

古墳時代後期の土師器甕(83～85)、甗(86)、円筒型土製品(87)が出土した。83～85はいずれも細別Aに属するが、83は頸部の屈曲が弱く、体部の張りが弱い。84は頸部が屈曲し、体部の張りがほかの細別Aと比べても強い。いずれも内外面に輪積み痕が見られ、ハケによる調整が十分には行われていない。

87は長さ30cm以上、径10.8cmとSI570出土の円筒型土製品と比べて大型である。内外面には輪積み痕が見られるが、風化が激しく、ハケによる調整は確認できなかった。カマドの近くより出土したので、これに関連するものと考えられる。

SI825 (図版70-88・89、図版136)

古墳時代前期の高杯(88)、甕(89)が出土した。88は口縁が内湾気味に立ち上がる東海系高杯で、細別Cに属する。89は在地系と考えられる。時期は新潟シンボ5～6期に比定される。

SI203 (図版70-90、図版136)

古墳時代後期の土師器甕(90)が出土した。細別Aと考えられ、内外面にハケによる調整を施す。

SI847 (図版70-91、図版136)

古代の須恵器有台杯(91)が出土した。器高が5cmで、深身の細別Bに属するが、口径が9.8cmとほかの細別Bと比べて小さい。高台は外端接地する。胎土から滝寺窯産と考えられ時期は9世紀中葉に比定される。

SI1201 (図版70-92、図版136)

古代の須恵器杯蓋(92)が出土した。端部破片で、胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

SB1171 (図版70-93、図版136)

P1075から古代の須恵器杯(93)が出土した。口縁部破片で、胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考え

られ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB1460** (図版70-94、図版136)

P592から古代の須恵器杯蓋(94)が出土した。端部破片で、胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB928** (図版70-95、図版136)

P918から古代の須恵器甕(95)が出土した。体部破片で、外面に平行タタキ、内面に同心円当て具痕が見られる。外面には自然釉が確認できる。

**SB945** (図版70-96、図版137)

P787から古代の須恵器有台杯(96)が出土した。底部破片で、高台は外端接地する。

**SB946** (図版70-97、図版137)

P600から古代の須恵器杯(97)が出土した。有台杯と考えられる口縁部破片で、胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB1513** (図版70-98、図版137)

P1518から古代の須恵器杯蓋(98)が出土した。端部は欠損しているものの、頂部の径は大きく、平坦である。胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB938** (図版71-99～101、図版137)

P1538から古代の土師器甕(99)が、P1536から古代の須恵器杯蓋(100)、甕(101)がそれぞれ出土した。99はロクロ成形後、体部にナデを施したものと考えられる。100は胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB936** (図版71-102、図版137)

P888から古代の須恵器長頸瓶(102)が出土した。体部がソロバン玉状を呈し、風船技法と呼ばれる体部を風船状態にして内部の空気圧を利用して成形し、加圧変形した後に別作りした口縁部を接合したものと考えられる[北野2001]。頸部の割れ口から、意図的に口縁部を欠損させ、廃棄したものと考えられる。時期は9世紀第2四半期に比定される。

**SB1578** (図版71-103、図版137)

P1573から古代の須恵器甕(103)が出土した。頸部～体部に至る破片で、外面に自然釉が確認できる。

**SB270** (図版71-104、図版137)

P267から縄文土器(104)が出土した。単節の羽状縄文を施文し、3条の横位の沈線で文様区画した後、一部を磨消する。時期は後期中葉に比定される。遺構の様相、出土状況から遺構に直接伴うものではなく、覆土堆積の際混入したものと考えられる。

**SB300** (図版71-105、図版137)

P304から古代の須恵器杯蓋(105)が出土した。口端部径17.2cmで、法量Iに属する。胎土から滝寺窯産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SB370** (図版71-106、図版137)

P277から古代の須恵器無台杯(106)が出土した。底部の切り離しが糸切りの細別Cに属する。

**SB961** (図版71-107、図版137)

P992から古代の須恵器有台杯(107)が出土した。底部破片で、高台は内端接地する。

**SE1077** (図版 71-108・109、図版 137)

古代の須恵器甕 (108・109) が出土した。いずれも体部破片で、外面に平行タタキ、内面に同心円当て具痕が見られるが別個体である。

**SE953** (図版 71-110、図版 137)

古代の須恵器甕 (110) が出土した。体部破片で、外面に平行タタキ、内面に同心円当て具痕が見られる。外面には自然釉が確認できる。

**SE956** (図版 71-111、図版 137)

中世の珠洲焼播鉢 (111) が出土した。口縁部破片で、口縁端部は面取りされる。時期は珠洲IV期 (14世紀) に比定される。

**SE965** (図版 71-112・113、図版 137)

中世の珠洲焼播鉢 (112・113) が出土した。いずれも体部内面に太めの卸し目が刻まれる。112の口縁は内面に若干肥厚する。時期はいずれも珠洲V～VI期 (14世紀末～15世紀) に比定される。

**SE966** (図版 72-114～117、図版 137)

中世の青磁皿 (114)、珠洲焼甕 (115・116)、播鉢 (117) が出土した。114は緩やかな波状口縁を呈する。青磁を模した朝鮮青磁といわれるものであろう。

115の口頸部は短く、体部上半は撫で肩となる。時期は珠洲V期 (14世紀末～15世紀前半) に比定される。117は体部破片で、内面の卸し目は太く多条に入り組む。時期は珠洲VI期 (15世紀後半) に比定される。

**SE999** (図版 72-118・119、図版 137)

古代の土師器有台椀 (118) 及び中世の珠洲焼播鉢 (119) が出土した。118は底部破片で、内面に黒色処理を施す。時期は10世紀末～11世紀初頭に比定される。遺構に直接伴うものではなく、覆土堆積の際混入したものと考えられる。

119は体部破片で、内面の卸し目は太く多条に入り組む。時期は珠洲VI期に比定される。

**SE1000** (図版 72-120、図版 138)

中世の珠洲焼播鉢 (120) が出土した。体部～底部破片で、内面の卸し目は細く底部付近で入り組む。時期は珠洲III期 (13世紀後半) に比定される。

**SK1179** (図版 72-121～123、図版 138)

古墳時代後期の土師器高杯 (121)、甕 (122・123) が出土した。121は細別Aに属し、外面がヘラミガキ、内面に黒色処理を施した後、ミガキがかけられる。

122・123共細別Aに属する。共に頸部の屈曲が弱く、体部の張りが弱い。

**SK826** (図版 72-124、図版 138)

古墳時代後期の土師器高杯 (124) が出土した。脚部のみが確認され、外面にハケメ、内面に輪積み痕が確認される。

**SK929** (図版 72-125～127、図版 138)

古代の須恵器杯蓋 (125)、有台杯 (126)、無台杯 (127) が出土した。126は器高の低い細別Aで、口径9.8cmの法量IVに属する。127は底部切り離しが糸切りの細別Cで、口径12.6cmの法量IIに属する。いずれも胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀第3四半期に比定される。

**SK297** (図版 72-128～132、図版 138)

古代の土師器無台椀 (128～130)、須恵器有台杯 (131)、須恵器無台杯 (132) が出土した。131は器

高が6.7cmの細別Bで、口径16cmの法量Iに属する大型のものである。高台は内端接地する。132は底部の切り離しが糸切りで、底部と体部の境に稜を持ち、「二段底」を呈する細別Bに属する。いずれも胎土から滝寺窯産と考えられ、時期は9世紀前半に比定される。

**SK354** (図版 72-133、図版 138)

古代の須恵器長頸瓶(133)が出土した。口縁部が大きく外反する。時期は9世紀中葉に比定される。

**SK889** (図版 73-134、図版 138)

土師器甕(134)が出土した。古墳時代のものと考えられる。

**SK1425** (図版 73-135～141、図版 138)

古代の土師器椀(135)、須恵器杯蓋(136・137)、須恵器有台杯(138～141)が出土した。136・137は共に北陸系の細別Aに属する。138～141は細別Aに属し、口径が11cm前後と小型で、比較的薄手の作りである。138～140は高台が外端接地、141は内端接地する。時期はいずれも9世紀第3四半期に比定される。

**SK844** (図版 73-142・143、図版 138)

古代の須恵器杯蓋(142)、有台杯(143)が出土した。143は細別Aで、口径が10.6cmの法量IVに属する。小型で比較的薄手の作りである。時期は9世紀第3四半期に比定される。

**SK221** (図版 73-144・145、図版 138)

古代の土師器無台椀(144)、甕(145)が出土した。いずれも風化が激しく、調整痕が確認できない。時期は9世紀第2四半期に比定される。

**SX958** (図版 73-146・147、図版 138)

古墳時代前期と考えられる器台(146)、甕(147)が出土した。146は受部・脚部が無段の細別Aに属する。大型で受部が非常に深い。脚部と裾部の境は不明瞭である。147は在地系の有段口縁無文甕と考えられる。

**SD789** (図版 73-148・149、図版 138)

古代の須恵器杯蓋(148)、有台杯(149)が出土した。148は東海系の細別Bに属する。149は深身の有台杯と考えられる。いずれも胎土から西頸城丘陵の古窯跡産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。

**SD406** (図版 73-150、図版 138)

土師器椀(150)が出土した。古代のものと考えられる。

**SD845** (図版 73-151、図版 139)

古代の須恵器無台杯(151)が出土した。底部が糸切りの細別Cで、口径が13.2cmの法量Iに属する。時期は9世紀第3四半期に比定される。

**SD1551** (図版 73-152・153、図版 139)

古墳時代前期の高杯(152)、壺(153)が出土した。152は畿内系屈折脚を有する細別Eに属する。脚部は短脚である。153は畿内系小型埴で細別Gに属する。底部は丸底で、口径に比べて器高が若干高い。時期はいずれも新濤シンポ9～10期に比定される。

**SD312** (図版 73-154、図版 139)

中世の珠洲焼播鉢(154)が出土した。口縁部破片で、端部は面取りされる。時期は珠洲Ⅱ期(13世紀前半)に比定される。

## 2) 河川跡 (SD1220) 出土

## 古墳時代前期の土器 (図版 74-155～170、図版 139)

高杯 (155)、器台 (156～160)、蓋 (161)、鉢 (162)、壺 (163～169)、甕 (170) が出土した。時期はいずれも新潟シンポ 5～6 期に比定される。

155 は東海系小型高杯で、細別 F に属する。脚部から裾部にかけて大きく外反する。

156 は受部・脚部が無段の細別 A に属する。157～160 は小型器台で、157 は北陸系の脚部から大きく外反して有段の口縁部に至る細別 H、158 は受部が上端で短く外反する細別 I に属する。159・160 は脚部で、160 は透穴が上下 2 段に並び、計 6 個確認できる。

161 は体部が笠形で下端内面にカエリを持たない。162 は底部有孔鉢で、細別 C に属する。身は浅く、口縁部の立ち上がりは内湾する。

163・164 は大型で外反して立ち上がる広口壺で細別 I に属する。163 は口縁部が比較的短く、164 は長い。165 は細口有段で、口縁部下段が短い細別 L に属する。口径 15cm の小型品で、口縁部内面の段部は明瞭である。166 は頸部が直立する畿内系二重口縁壺で細別 M に属する。口縁端部や口縁有段部は無文である。167 は短頸直口壺で細別 S に属する。体部の張り出しは強い。169 は無頸壺の脚部と考えられる。

170 は有段口縁無文甕で、有段部が未発達である。体部は球胴を呈する。

## 古墳時代後期の土器 (図版 74-171～175、図版 139)

土師器杯 (171～174)、須恵器杯蓋 (175) が出土した。171～174 は共に内面に黒色処理を施す。

171・172 は体部に稜を持ち、内湾する体部と上方もしくは外側に延びる口縁部からなる細別 B に属する。172 の底部はハケ状の工具による調整が見られる。173 は内湾する体部が屈曲せずに立ち上がる細別 C に属する。

175 は杯蓋である。上越市津倉田遺跡 SI417 出土土器 [笹沢<sup>ほか</sup>1999] に類例が見られ、時期は 7 世紀前半に比定される。

## 古代の土器 (図版 75-176～200、図版 76-201～218、図版 77-219、図版 140・141・142)

土師器碗 (176～182)、須恵器杯蓋 (183～190)、須恵器有台杯 (191～204)、須恵器無台杯 (205～214)、須恵器壺・瓶類 (215～217)、須恵器甕 (218・219) が出土した。

176 は底部外面に「井」カ「井」の墨書が確認できる。時期は 9 世紀中葉に比定される。

183～185 は北陸系の細別 A に属する。183・184 は器高が低く、扁平である。胎土から 183 は東丘陵、184 は西丘陵の窯産と考えられ、時期はそれぞれ 8 世紀第 2 四半期、8 世紀第 1 四半期に比定される。185 は 183・184 と比べると器高が高い。時期は 9 世紀第 3 四半期に比定される。186～190 は東海系の細別 B に属する。細別 A と比べて器高が高く、山笠状を呈する。時期はいずれも 9 世紀中葉に比定される。190 は体部外面に「丁」カ「力」の墨書が確認できる。

191～200 は器高の低い細別 A に属する。口径は全て 11～13cm の範囲に収まり、法量Ⅲになる。時期はいずれも 9 世紀第 3 四半期に比定される。191～194 は底部外面に墨書を確認し、191・192 が「丁」カ「力」、193 が「田」カ「口」、194 が「口」である。195 は底部外面に墨痕を確認し、転用硯として使用されたものと考えられる。胎土から東頸城丘陵の今熊窯産のものと考えられる。201～204 は器高が高く、深身の細別 B に属する。口径は全て 13～16cm の範囲に収まり、法量Ⅱになる。時期はいずれも 9 世紀第 2 四半期に比定される。201 は底部外面に「丁」カ「力」の墨書が確認できる。

205は底部の切り離しがヘラ切りの細別Aに属する。口径は12cmで法量Ⅱになる。比較的薄手の作りである。胎土から佐渡小泊窯産と考えられ、時期は9世紀中葉に比定される。206～210は底部の切り離しが糸切りで二段底を呈する細別Bに属する。口径の判別できるものは全て法量Ⅱになる。206は体部外面に火だすき痕が見られる。208～210は底部外面に「丁」カ「力」の墨書が確認できる。時期は全て9世紀中葉に比定される。211～214は底部切り離しが糸切りの細別Cに属する。全て法量Ⅱである。211は内外面に火だすき痕が見られる。214は胎土から今熊窯産と考えられる。

215は長頸瓶、216は短頸壺である。共に滝寺窯産で、時期は9世紀第3四半期に比定される。218は口縁端部が欠損しているが、口径45cm程度の大甕と考えられる。219も口径39.6cmの大甕である。共に頸部外面に櫛描波状文を描く。

### 3) 表土・攪乱層出土

縄文土器 (図版77-220、図版142)

鉢(220)が出土した。波状口縁を呈し、体部上半にLR縄文を施文した後3条の沈線を横位に描く。時期は晩期後半に比定される。

古墳時代前期の土器 (図版77-221・222、図版142)

高杯(221)、器台(222)が出土した。221は口縁部が内湾して立ち上がる東海系高杯で、細別Cに属する。222は受部が直線的に外に開き、上端でわずかにつまみ上げられた小型器台で、細別Mに属する。

古墳時代後期の土器 (図版77-223～227、図版142)

土師器高杯(223)、壺(224)、甕(225・226)、甑(227)が出土した。223は細別Aに属する。杯部内面に黒色処理を施す。224は内外面にハケによる調整が見られる。225は細別Bに属する体部が球胴のものである。

古代の土器 (図版77-228～233、図版142)

須恵器杯蓋(228～230)、有台杯(231)、無台杯(232・233)が出土した。228は端部内面が肥厚する。時期は7世紀末～8世紀初頭に比定される。229～233は9世紀中葉に比定される。233は体部外面に「戌」か「成」の墨書が確認できる。

## C 石器・石製品

### 1) 剥片石器 (図版77-234～236、図版142)

234・235は不定形石器である。234はSB270の柱穴P267から出土した。P267からは縄文時代後期中葉の土器(104)も出土していることから、この時期のものと考えられる。縄文土器同様遺構に直接伴うものではなく、覆土堆積の際混入したものと考えられる。横長剥片を素材とし、下端に不連続な剥離が認められる。石材は凝灰質頁岩である。

235は河川跡(SD1220)から出土した。縦長剥片を素材とし、両側縁には刃部の二次調整が認められないものの、刃こぼれ状の微細剥離・磨耗が認められる。石材は安山岩である。

236は石鏃の茎部である。28E18グリッドの表土中から出土した。石材は凝灰質頁岩である。

### 2) 磨石 (図版77-237～242、図版142・143)

237はSX1268に付随するP1274から出土した。全面に磨痕が認められる。石材は安山岩である。

238はSI1185の覆土中から出土した。半分欠損しているが、表面に敲打痕が認められ、凹んでいる。石材は安山岩である。

239・240はSI201から出土した。239は表面に磨痕が認められる。磨痕面中央には長さ9cm、幅0.5cm程の線状の凹みが見られる。石材は角閃石安山岩である。240は表裏面及び上下端に敲打痕が認められる。石材は安山岩である。

241はSE1564から出土した。断面が三角形を呈し、表面及び右側面に磨痕が認められる。石材は安山岩である。形状から縄文時代早期～前期に多出する特殊磨石に含められるが、出土状況から遺構に直接伴うものではなく、覆土堆積の際混入したものと考えられる。

242はSE965から出土した。表面に敲打痕が認められ、凹んでいる。上部側縁は欠損している。石材は角閃石安山岩である。

### 3) 紡 錘 車 (図版 78-243、図版 143)

P1251から1点出土した(243)。形状は円形で、断面は台形を呈する。中央部に径0.8mmの孔を穿つ。全体に研磨痕等の加工痕が見られる。石材は滑石である。

### 4) 玉 (図版 78-244・245、図版 143)

244は勾玉で、SI201から出土した。時期は共伴する土器の年代から古墳時代前期と推定される。孔は貫通している。石材は凝灰岩である。

245は管玉で、SI202から出土した。時期は共伴する土器の年代から古墳時代後期と推定される。孔は貫通している。石材は緑色凝灰岩である。

### 5) 砥 石 (図版 78-246～249、図版 143)

246はSE1575から出土した。一部欠損しているが、表面と左側面、及び右側面に磨痕が認められる。石材は砂岩である。247はSE999から出土した。表面に磨痕が認められる。石材は砂岩である。

248は28E24グリッドの表土中から出土した。半分以上欠損しているが、下部は面取りされ、角に丸みを持つ。表面・右側面・左側面・下部の四面に磨痕が認められ、左側面・右側面・下部の三面には線条痕が確認できる。石材は凝灰岩である。249は28H20グリッドの表土中から出土した。表面中央に線状の溝が確認できる。石材は砂岩である。

### 6) 石 臼 (図版 78-250・251、図版 143)

250はSE965から、251はSE966から出土した。共に上臼の破片で、磨面は磨耗している。石材は安山岩である。

### 7) 五 輪 塔 (図版 78-252～258、図版 143)

252はSE966から出土した。地輪部分で、石材は角閃石安山岩である。253～258はSE999から出土した。火輪部分(253・256)、水輪部分(254・257)、地輪部分(255・258)がある。253・256共上部に空風輪を受けるホゾ穴が認められるが、空風輪部分は出土していない。254・257は共に上辺部と下辺部が若干内側へ凹んでいる。また各個体において種子等は陰刻されていない。石材は全て角閃石安

山岩である。

## D 金属製品

### 1) 鉄 滓 (図版 78-259・260、図版 143)

259はSI469から出土した。重さは99.7gを測る。260はSI833から出土した。SI833は小鍛冶関連の遺構と考えられ、鍛冶滓と推定される。重さは97.8gを測る。

## E 木製品

### 1) 曲 物 (図版 78-261、図版 143)

SE999から1点出土した(261)。曲物の底板である。木取りは柾目板材で、三か所に穿穴がある。一度割れた後、竹釘などで繋ぎ合わせて再利用した痕跡と推定される。

# 5 自然科学分析

本報告では、本遺跡で検出された住居跡や流路跡の年代、流路跡の堆積環境、古植生の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

## A 試 料

試料は、流路跡(SD1220)から出土した自然木と同流路埋積物から採取した土壌、SI201・SI871から出土した炭化物である。以下に、各試料の概要を示す。

### 1) SD1220

堆積物の観察は、SD1220のセクション確認のために設定された東西ベルト南面を対象に行った。以下に、SD1220埋積物の観察所見を示す。5a層下位の堆積物は、水没のため現地での観察は不可能であったことから、採取した柱状の土壌試料の室内観察所見を記す。

5層下位は、灰色の砂混じりシルトであり、上方に向かって細粒化および暗色化し、上部は明紫灰色シルト-粘土となる。明灰色シルト-粘土上位には、極細粒砂を挟在し、明灰色の砂混じりシルト、粗粒砂～細礫混じりの細粒砂が堆積し、いずれも葉理構造や粒径の変化が認められる。これらの上位の堆積物では、5層は塊状の明紫灰色粘土、4層は塊状の紫灰色粘土、3層は葉理が認められる灰白色シルトおよび極細粒砂がレンズ状に挟在する明灰色砂質シルトからなり、4・5層は管状酸化鉄等の発達による擾乱が顕著である。3層上位は、細粒砂～シルトからなる級化構造を有する堆積物が互層をなし、観察地点付近では4・5層を削剥するチャンネルが観察される。

試料採取は、セクション中央やや東側(1地点)と同西側(2地点)を対象とし、地点からは3～5層より層位試料(1地点試料番号9・11・12)、2地点からは3～5層下位を対象に柱状の土壌試料を採取している。さらに、2地点試料からは、上記した観察所見に基づき分析試料の採取を行っている(第21図・2地点試料番号1～9)。また、SD1220埋積物からは自然木が多数出土しており、分析用として取上げられた芯持丸木の自然木の辺材部より木片(湿重量3.43g)を採取している。

これらの試料のうち、1・2地点より採取した土壌試料を対象に、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、

自然木を対象に放射性炭素年代測定を行う。分析対象とした土壌試料の詳細は、結果とともに表に示す。

## 2) SI201・SI871

### SI201

SI201からは、炭化物が3点(No.1~3)採取されている。各試料の観察では、No.1は炭化材、No.2・3は微細な炭化物片が混じる土壌であった。

### SI871

SI871は、覆土1層から採取された柱状の土壌試料1点である。試料の観察では、角~亜角状の焼土とみられる褐色土が混じる暗褐色土からなり、炭化物とみられる黒色物質が散見されるほか、根痕と推定される灰色土の落ち込みが観察された。そのため、灰色土を除去しながら試料をほぐし、水洗選別によって炭化物の抽出を行った。その結果、木材組織が観察されない黒色物質や、5mm角程度の炭化材5点と微細な炭化物片が回収された。

これらの試料のうち、SI201は遺存状況の最も良好なNo.1について観察範囲内における外側の年輪部分より採取した炭化材(乾燥重量0.6g)、SI871は回収された炭化物のうち樹種が明らかとなった炭化材(乾燥重量0.13g)を対象に放射性炭素年代測定を行う。なお、放射性炭素年代測定試料とした木材・炭化材については、試料の由来に関わる情報を得るため樹種(炭化材)同定を合わせて行っている。

## B 分析方法

### 1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてσ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)の北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

## 2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではないが、1プレパラートあたり50個体以上の試料については2枚検鏡する）。種の同定は、[原口ほか1998]、[Krammer1992]、[Krammer & Lange-Bertalot1986, 1988, 1991a, 1991b]、[渡辺ほか2005]、[小林ほか2006]などを参照し、分類体系は[Round, Crawford & Mann1990]に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、[柳沢2000]に従う。

同定結果は、中心類 (Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱 Coscinodiscophyceae) と羽状類 (Pennate diatoms) に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類 (Araphid pennate diatoms; 広義のオピケイソウ綱 Fragilariophyceae) と有縦溝羽状珪藻類 (Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱 Bacillariophyceae) に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、[Vos & de Wolf1993]を参考とするほか、塩分濃度に対する区分は[Lowe1974]に従い、真塩性種 (海水生種)、中塩性種 (汽水生種)、貧塩性種 (淡水生種) に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、真塩性種～中塩性種については[小杉1988]、貧塩性種については[安藤1990]、陸生珪藻については[伊藤・堀内1991]、汚濁耐性については[Asai & Watanabe1995]、[渡辺2005]の環境指標種を参考とする。

## 3) 花粉分析

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛, 比重2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス (無水酢酸9, 濃硫酸1の混合液) 処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類を対象に200個体以上同定・計数する (化石の少ない試料ではこの限りではない)。また、花粉・胞子量のほかに、試料中に含まれる微粒炭量も求める。炭片は20  $\mu$  m以上を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の層位分布図として表示する。微粒炭量は、堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表・図として示す。この際、有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

#### 4) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、[近藤2004]の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の分類群と植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は、有効数字を考慮し10の位を四捨五入し100単位として表記する。合計は、各分類群の本来の値を合計した後に100単位として表記する。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化から古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

### C 結 果

#### 1) 放射性炭素年代測定

結果を第7・8表に示す。下記した年代は、同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）であり、括弧内に併記した年代は暦年較正結果（測定誤差 $\sigma$ ）である。また、第7表には、各試料の樹種同定結果を示す。放射性炭素年代測定の結果、SD1220 自然木（ヤナギ）は $1,590 \pm 30\text{BP}$  (calAD425-533)、SI201No.1 炭化材（ケヤキ）は $1,880 \pm 30\text{BP}$  (calAD72-205)、SI871 1層 炭化材（クリ）は $1,310 \pm 30\text{BP}$  (calAD 664-766)を示す。

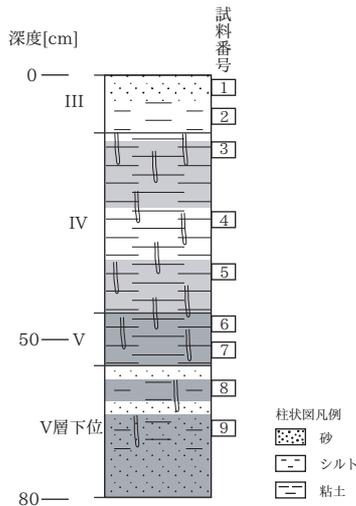
#### 2) 珪藻分析

結果を第9表、第22図に示す。珪藻化石の産出頻度は全般的に少なく、2地点 試料番号3において100個体を越えた程度である。化石が産出した試料は、完形殻の出現率は約30%前後と低く、化石の保存状態も不良である。産出分類群数は、合計で22属30分類群である。

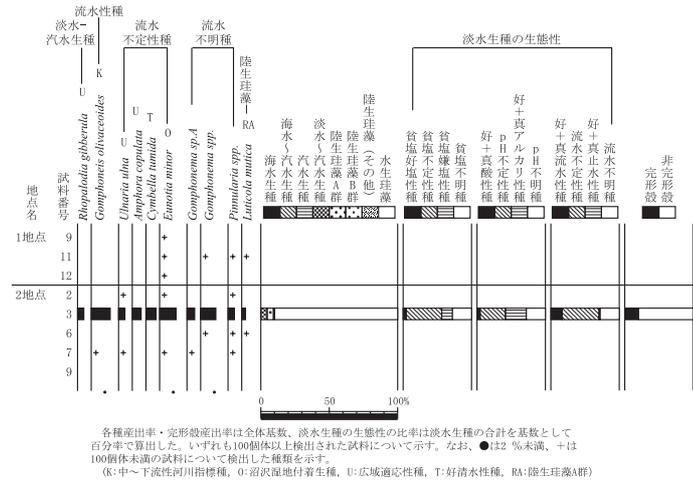
珪藻化石が産出した2地点 試料番号3は、淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻と言う）が全体の約90%を占め優占する。これに付随して、淡水～汽水生種、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好氣的環境に耐性のある陸生珪藻が少量産出する。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種、pH不定性種と真+好アルカリ性種、流水不定性種と真+好流水性種が優占あるいは多産する。主要種は、流水性で中～下流性河川指標種の *Gomphoneis olivaceoides* が約15%産出し、これに次いで流水不定性で沼沢湿地付着生種の *Eunotia minor* が約10%、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula*、流水不定性の *Cymbella tumida*、*Ulnaria ulna*、*Amphora copulata*、それに陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の *Luticola mutica* 等を伴う。

珪藻化石の産出が少なかった1地点 試料番号9・11・12、2地点 試料番号2・6・7・9では、2地点 試料番号3から産出したような水生珪藻や陸生珪藻等が散見された程度である。

5 自然科学分析



第21図 SD1220 2地点模式柱状図



各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。  
(K:中〜下流河川指標種、O:沼沢湿地付着種、U:広域適応種、T:好清水性種、RA:陸生珪藻A群)

第22図 SD1220の主要珪藻化石群集の層位分布

遺構名	層名	試料名	試料の質	樹種	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.	測定機関番号
SD1220		自然木	木材	ヤナギ	1,590 ± 30	-26.40 ± 0.52	1,620 ± 30	9882-1	IAAA-71961
SI201		No.1	炭化材	ケヤキ	1,880 ± 30	-25.14 ± 0.51	1,890 ± 30	9882-2	IAAA-71962
SI871	1層		炭化材	クリ	1,310 ± 30	-22.26 ± 0.48	1,260 ± 30	9882-3	IAAA-71963

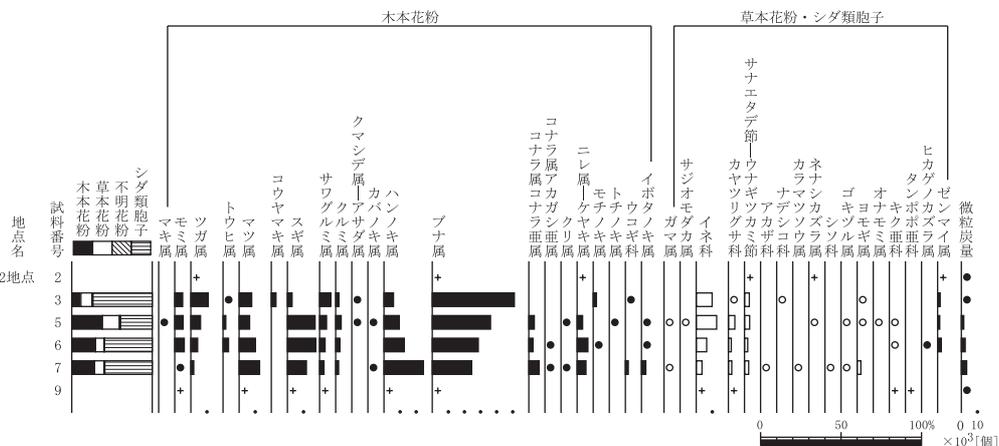
- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1,950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第7表 放射性炭素年代測定結果

試料	補正年代 (BP)	$\sigma$	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
			cal AD	cal AD	cal AD	cal AD	cal BP	cal BP		
SD1220 自然木	1,592 ± 28	$\sigma$	cal AD 425	-	cal AD 443	cal BP 1,525	-	1,507	0.218	9882-1
			cal AD 449	-	cal AD 462	cal BP 1,501	-	1,488	0.139	
			cal AD 483	-	cal AD 533	cal BP 1,467	-	1,417	0.643	
SI201 No.1 炭化材	1,884 ± 28	$\sigma$	cal AD 72	-	cal AD 137	cal BP 1,878	-	1,813	0.962	9882-2
			cal AD 199	-	cal AD 205	cal BP 1,751	-	1,745	0.038	
			cal AD 65	-	cal AD 217	cal BP 1,885	-	1,733	1.000	
SI871 1層 炭化材	1,306 ± 30	$\sigma$	cal AD 664	-	cal AD 708	cal BP 1,286	-	1,242	0.702	9882-3
			cal AD 747	-	cal AD 766	cal BP 1,203	-	1,184	0.298	
			cal AD 658	-	cal AD 730	cal BP 1,292	-	1,220	0.684	
		$2\sigma$	cal AD 735	-	cal AD 772	cal BP 1,215	-	1,178	0.316	

1)RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。

第8表 暦年較正結果



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。また、微粒炭量は、堆積物1ccあたりに含まれる個数で示す。●は1000個以下を示す。

第23図 SD1220の花粉化石群集の層位分布

種 類	生態性			環境 指標種	1地点			2地点				
	塩分	pH	流水		III層	IV層	V層	III層 下部	IV層 上部	V層		V層下位
					9	11	12	2	3	6	7	9
Bacillariophyta (珪藻植物門)												
Araphid Pennate Diatoms (無縱溝羽狀珪藻類)												
Araphidineae (無縱溝類)												
<i>Fragilaria perminuta</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	6	-
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	1	-	-	1	1	2	-
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch) Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	5	-	1	-
<i>Ulnaria</i> spp.					1	-	-	-	-	-	-	-
Raphid Pennate Diatoms (有縱溝羽狀珪藻類)												
Raphidineae (有縱溝類)												
Monoraphid Pennate Diatoms (單縱溝羽狀珪藻類)												
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	2	-	-	-
Biraphid Pennate Diatoms (雙縱溝羽狀珪藻類)												
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.) Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	7	-	-	-
<i>Amphora</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	8	-	-	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Cymbopleura naviculiformis</i> (Auerswald) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Encyonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Gomphonema olivaceoides</i> (Hust.) Carter et Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	-	-	15	-	2	-
<i>Gomphonema pseudokunoi</i> Tuji	Ogh-ind	ind	ind	K,T	-	-	-	-	1	-	1	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	1	1	-	1	-
<i>Gomphonema</i> sp.A	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	6	-	1	-
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	12	1	-	-
<i>Reimeria sinuata</i> (W.Greg.) Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Gyrosigma</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	1	-
<i>Craticula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	1	-	-
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2	2	-	1	-
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	-	1	-	-	3	1	-	-
<i>Caloneis angustivalva</i> Boye P.	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	1	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	-	-	-	-	1	1	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>brevicostata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia substatatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	1	5	1	2	-
管縱溝類												
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	5	1	-	1	1	1	1
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	5	-	-	-
短縱溝類												
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-bi	ind	U	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia biseriatoidea</i> H.Kobayasi,K.Ando & T.Nagumo	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Eunotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	1	1	1	-	-
<i>Eunotia incisa</i> W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O,U	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	1	5	1	1	13	-	4	-
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	1	-	-	-	1	-	-
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	4	-	-	-	1	5	-
海水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0	5	0	0	0
淡水生種					4	22	2	9	103	10	28	1
珪藻化石總數					4	22	2	9	108	10	28	1

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Ogh-Meh 淡水～汽水生種	al-bi 真アルカリ性種	l-bi 真止水性種
Ogh-hil 貧塩好塩性種	al-il 好アルカリ性種	l-ph 好止水性種
Ogh-ind 貧塩不定性種	ind pH不定性種	ind 流水不定性種
Ogh-hob 貧塩嫌塩性種	ac-il 好酸性種	r-ph 好流水性種
Ogh-unk 貧塩不明種	ac-bi 真酸性種	r-bi 真流水性種
	unk pH不明種	unk 流水不明種

環境指標種群

K:中～下流性河川指標種,O:沼沢湿地付着生種(安藤,1990)、S:好汚濁性種,U:広域適応性種,T:好清水性種(Asai and Watanabe,1995)、R:陸生珪藻(RA:A群,RB:B群,RI:未区分,伊藤・堀内,1991)

第9表 珪藻分析結果

### 3) 花粉分析

結果を第10表、第23図に示す。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。また、木本花粉総数が100個体未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあることから、出現した種類を「+」で表示するに留めている。

2地点 試料番号7・5・3からは花粉化石が検出されるが、全体的に産出状況は不良であり、保存状態も比較的不良なものが多い。また、全体的にシダ類孢子が多産する傾向が認められる。花粉化石群集組成は、木本花粉ではブナ属やハンノキ属が多く産出し、この他にモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、サワグルミ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属等を伴う。上位に向かって、ブナ属が増加し、ハンノキ属が減少する傾向が認められる。草本花粉では、イネ科が多く産出し、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。わずかではあるが、ガマ属やサジオモダカ属、ゴキヅル属等の水湿地生植物に由来する花粉も検出される。

2地点 試料番号9・2では花粉化石の産出状況が悪く、定量解析に有効な個体数は検出されない。検出された種類は、木本花粉ではモミ属やツガ属、マツ属、スギ属、サワグルミ属、ブナ属、コナラ亜属が、草本花粉ではイネ科やカヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ネナシカズラ属、キク亜科、タンポポ亜科が、1～数個体検出されるのみである。

各試料の微粒炭量は、試料番号2は約200個/cc、試料番号3は約200個/cc、試料番号5は約1,500個/cc、試料番号6は2,400個/cc、試料番号7は3,300個/cc、試料番号9は約500個/ccである。

### 4) 植物珪酸体分析

結果を第11表、第24図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるなど保存状態は不良である。

植物珪酸体含量は、2地点 試料番号5は約3.7万個/gと最も多く、2地点 試料番号7・3は1.2万個/g前後、2地点 試料番号2は約2,600個/gと最も少ない。各試料に認められた分類群は、いずれも同様であり、タケ亜科やヨシ属、ススキ属などを含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科等が検出され、全体的にヨシ属の産出が目立つ。特に、2地点 試料番号5では、ヨシ属の植物珪酸体含量が多い。また、各試料からは栽培植物のイネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出される。ただし、その含量は少なく、2地点 試料番号3は機動細胞珪酸体が約700個/g、同試料番号5は短細胞珪酸体が約500個/g、この他の試料では200個/g程度である。

## D 考 察

### 1) 遺構の年代観

放射性炭素年代測定の結果、SD1220は5世紀前半～6世紀前半、SI201は1世紀後半～3世紀初頭、SI871は7世紀中頃～8世紀中頃の年代を示した。なお、SD1220から出土した自然木は5層～5層下位より出土していること、4層からは古墳時代～古代の遺物が出土するとされていることから、概ね整合する結果と言える。一方、SI201およびSI871の年代については、出土遺物や調査所見等との比較検討から、評価する必要がある。

## 2) 河川跡の堆積環境

1地点 5～3層（試料番号12・11・9）は、珪藻化石の産出が少なく、珪藻化石の生態的特徴から堆積環境について検討することは困難であった。珪藻化石の産出が少なかった要因としては、堆積速度が速かったことにより相対的に堆積物中に含まれる化石が希釈されてしまった、あるいは、化石の保存状態が悪かったことから堆積後に溶解してしまった可能性がある。これらの試料から、少量ながら検出された珪藻化石の生態性を検討すると、流水指標種や湿地や沼沢地に生育するもの、それに陸生珪藻など生育環境を異にする様々な種類の混在が認められた。このような生育環境の異なる種類が混在する群集は混合群集とされ、河川の氾濫などにより短期間に堆積した一過性の堆積物中に顕著に認められる〔堀内ほか1996〕。

2地点では、4層（試料番号3）から堆積環境を検討するのに有意な量の珪藻化石が産出した。珪藻化石群集は、中～下流性河川指標種を含む流水性種や沼沢湿地付着生種を含む流水不定性種が多産し、陸生珪藻も伴うことを特徴とする。このような生育環境を異にする種が混在する組成は、上記した混合群集に近く、完形殻の割合も低いことから、河川の氾濫等により流水域や沼沢湿地、好気的環境などの様々な土壌が運搬され堆積したことが推定される。珪藻化石の産出が少なかった5層下位（試料番号9・7）や5層（試料番号6）、3層（試料番号2）も珪藻化石の産出状況・保存状態は不良であったが、4層と同様の群集が認められることから、基本的には、いずれの堆積物も氾濫等に伴う堆積物と推定される。

## 3) 古植生

SD1220内の堆積物のうち、定量解析に有効な花粉化石が得られた5層下位（試料番号7）、5層（試料番号6）、4層（試料番号5・3）における花粉化石群集は、木本類では、いずれもブナ属の多産が認められた。ブナ属は、コナラ属コナラ亜属等とともに冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、後背の西頸城丘陵等にブナ属を主体とする落葉広葉樹林が存在し、部分的にモミ属やツガ属等の温帯性針葉樹も林分を形成していたと考えられる。マツ属は極端な陽樹であり、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。このことから、扇状地上や林縁部～低地部にかけて生育していたと考えられる。

比較的多産したハンノキ属やスギ属のうち、ハンノキ属は河畔や低湿地などの適湿地に林分を形成する種類であり、サワグルミ属やクルミ属、クマシデ属ーアサダ属、コナラ亜属、ニレ属ーケヤキ属、モチノキ属、トチノキ属、SD1220より出土した自然木に認められたヤナギも同様の生育環境を示す。したがって、矢代川や青田川等の周辺河川沿いの河畔や周辺の低湿地には、これらの木本類からなる河畔・湿地林が形成されていたと考えられる。SI201やSI871の炭化材に認められたケヤキやクリも、ともに河畔林を構成する種類であることから、上記した種類と同様に遺跡周辺に生育していたと考えられ、入手可能な木材が採取・利用されたと推測される。

一方、スギ属は、本来の生育地は不明であるが、人工林では山腹斜面下に出現し、水分・養分の供給が十分で、水はけの良い土壌でもっともよく生育するとされている。日本海沿岸地域では、約1,800～1,300年前頃とされる富山県魚津市の埋没林の分析調査結果〔魚津埋没林博物館1992〕や、黒部川扇状地扇端付近にみられる杉沢の沢杉の事例などから、周辺の扇状地斜面や扇端の湧水や低湿地等に部分的にスギ属が林分を形成していた可能性がある。わずかではあるが、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属等も検出されることから、低地部にはこれらの常緑広葉樹も生育していたことが窺われる。本遺跡南東約

種 類	2地点					
	III層	IV層	IV層	V層	V層	V層下位
	下部	上部	下部	上部	下部	
	2	3	5	6	7	9
木本花粉						
マキ属	-	-	1	-	-	-
モミ属	-	5	12	7	1	3
ツガ属	3	11	14	5	2	-
トウヒ属	-	1	4	4	-	-
マツ属複雑管束亜属	-	2	3	1	1	-
マツ属(不明)	-	6	12	11	13	3
コウヤマキ属	-	3	-	-	-	-
スギ属	-	3	40	21	13	4
サワグルミ属	-	7	10	4	3	1
クルミ属	-	2	8	3	2	-
クマシデ属-アサダ属	-	1	1	-	-	-
カバノキ属	-	-	2	-	1	-
ハンノキ属	-	6	22	15	27	2
ブナ属	1	52	84	34	27	2
コナラ属コナラ亜属	-	-	8	3	7	-
コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	1	1	-
クリ属	-	-	1	-	1	-
ニレ属-ケヤキ属	2	-	8	8	6	-
モチノキ属	-	2	-	1	-	-
トチノキ属	-	-	1	-	-	-
ウコギ科	-	1	-	-	2	-
イボタノキ属	-	-	1	1	3	-
草本花粉						
ガマ属	-	-	1	-	1	-
サゾオモダカ属	-	-	1	-	-	-
イネ科	-	88	76	26	14	3
カヤツリグサ科	-	7	24	7	8	2
サナエタデ属-ウナギツカミ属	9	27	19	8	10	-
アカザ科	-	-	-	-	1	-
ナデシコ科	-	1	-	-	-	-
カラマツソウ属	-	-	-	-	1	-
ネナシカズラ属	5	-	1	-	-	-
シソ科	-	-	-	-	1	-
ゴキツル属	-	-	2	-	1	-
ヨモギ属	-	2	1	-	9	-
オナモミ属	-	-	2	-	-	-
キク亜科	-	-	1	1	-	1
タンポポ亜科	-	-	-	-	-	1
不明花粉	2	9	8	3	3	2
シダ類胞子						
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	1	-	-
ゼンマイ属	6	14	8	9	-	-
他のシダ類胞子	209	651	232	228	229	54
合 計						
木本花粉	6	102	232	119	110	15
草本花粉	14	125	128	42	46	7
不明花粉	2	9	8	3	3	2
シダ類胞子	215	665	240	238	229	54
総計(不明を除く)	235	892	600	399	385	76
1ccあたりの微粒炭量 [個]	200	200	1500	2400	3300	500

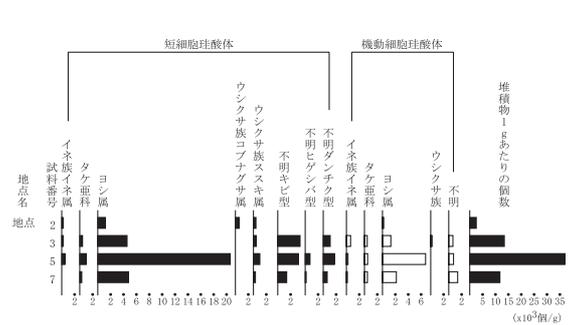
1) 微粒炭量は、10の位を四捨五入し、100単位として表記している。

第10表 花粉分析結果

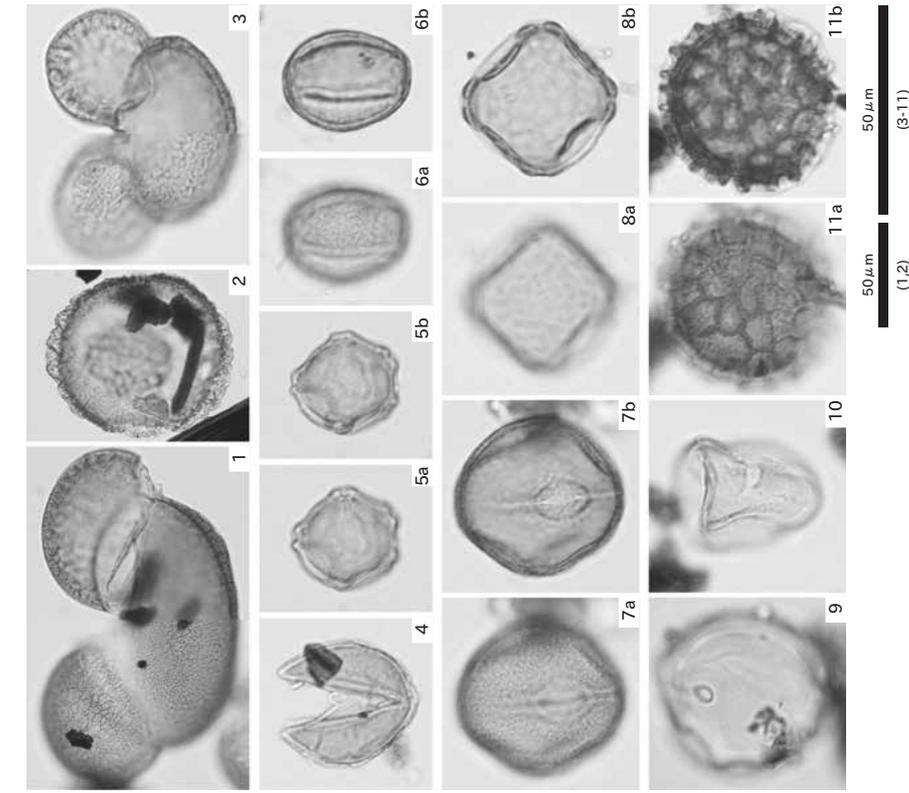
種 類	2地点			
	III層	IV層	IV層	V層
	下部	上部	下部	下部
	2	3	5	7
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	200	200	500	-
タケ亜科	-	400	1,000	300
ヨシ属	1,200	4,600	20,600	4,800
ウシクサ族コブナグサ属	600	-	-	-
ウシクサ族ススキ属	400	400	1,000	300
不明キビ型	-	3,500	3,200	1,400
不明ヒゲシバ型	-	-	700	200
不明ダンテク型	-	1,100	1,700	600
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	-	700	200	200
タケ亜科	-	400	500	500
ヨシ属	200	1,300	6,700	2,200
ウシクサ族	-	200	-	-
不明	-	700	700	1,400
合 計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	2,400	10,200	28,800	7,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	200	3,300	8,200	4,200
総 計	2,600	13,400	36,900	11,700

1) 含量は、10の位を四捨五入し、100単位として表記している。  
2) 合計は、各分類群の本来の含量を合計した後、100単位として表記している。

第11表 植物珪酸体含量

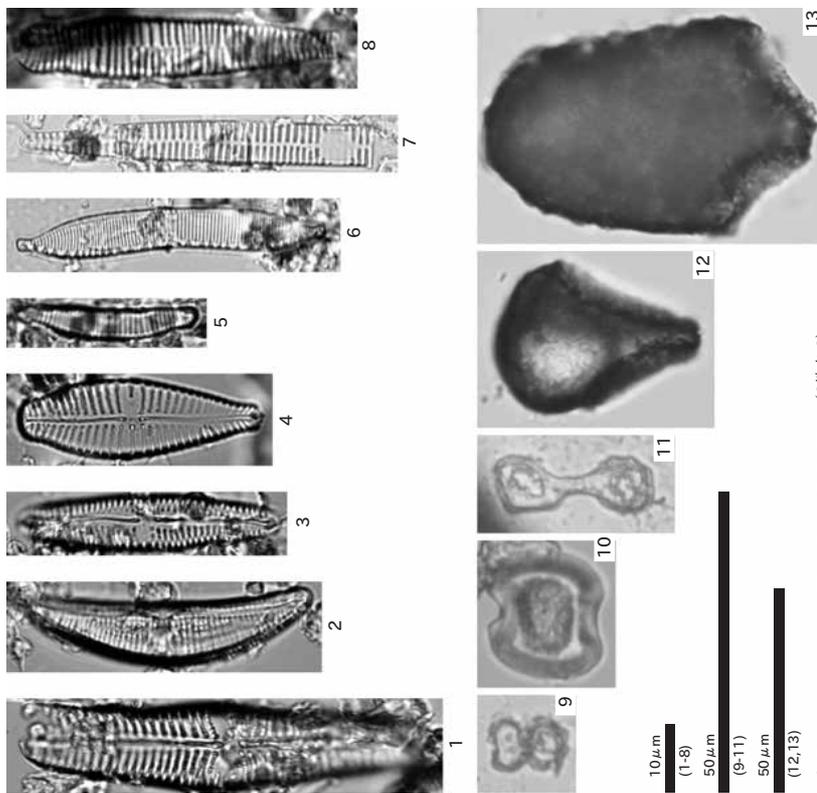


第24図 SD1220の植物珪酸体含量の層的变化



- 1. モミ属(2地点;5)
- 2. ツガ属(2地点;3)
- 3. マツ属(2地点;5)
- 4. スギ属(2地点;5)
- 5. ハンノキ属(2地点;3)
- 6. コナラ属コナラ亜属(2地点;5)
- 7. ブナ属(2地点;5)
- 8. ニレ属-ケヤキ属(2地点;5)
- 9. イネ科(2地点;5)
- 10. カヤツリグサ科(2地点;5)
- 11. サナエタデ属-ウナギツカミ属(2地点;5)

第26図 花粉化石



- 1. *Gomphonopsis olivaceoides* (Hust.) Carter et Bailey-Watts (2地点;3)
- 2. *Amphora copulata* (Kuetz.) Schoeman et R.E.M. Archibald (2地点;3)
- 3. *Gomphonopsis olivaceoides* (Hust.) Carter et Bailey-Watts (2地点;3)
- 4. *Gomphonema* sp. A (2地点;3)
- 5. *Eunotia minor* (Kuetz.) Grunow (2地点;3)
- 6. *Hantzschia amphioxys* (Ehren.) Grunow (2地点;3)
- 7. *Ulnaria ulna* (Nitzsch) Compere (2地点;3)
- 8. *Meridion circulae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (2地点;3)
- 9. イネ属短細胞珪酸体(2)
- 10. ヨシ属短細胞珪酸体(2地点;2)
- 11. ススキ属細胞珪酸体(地点;)
- 12. イネ属機械細胞珪酸体(2地点;7)
- 13. ヨシ属機械細胞珪酸体(2地点;2)

第25図 珪化石・植物珪酸体

2kmの沖積段丘の上位面に相当する高田面と段丘下の低地に立地する用言寺遺跡の古代～中世の包含層に相当する2層では、ブナ属が多産し、ハンノキ属やブナ属が多産し、ツガ属、トウヒ属、マツ属、スギ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属等を伴う花粉化石群集が検出され、後背山地・丘陵に落葉広葉樹林と針葉樹が分布し、河畔や低湿地にはハンノキ属等からなる湿地林が存在したとされており [パリノ・サーヴェイ株式会社2007]、今回の分析結果と調和する。

5～3層の花粉化石群集では、ブナ属の増加が示唆された。これらの試料では、比較的花粉の生産量や飛散量が多いとされるスギ属やハンノキ属が上位の試料で減少する傾向が認められることから、相対的にブナ属が増加したとみられる。高田平野におけるこれまでの分析調査では、古代～中世のハンノキ属が減少し、草本類が増加する傾向 [パリノ・サーヴェイ株式会社2007など] が確認されている。本遺跡では、草本類の増加は認められなかったが、スギ属やハンノキ属の減少は、当該期における古植生の変化を反映している可能性がある。

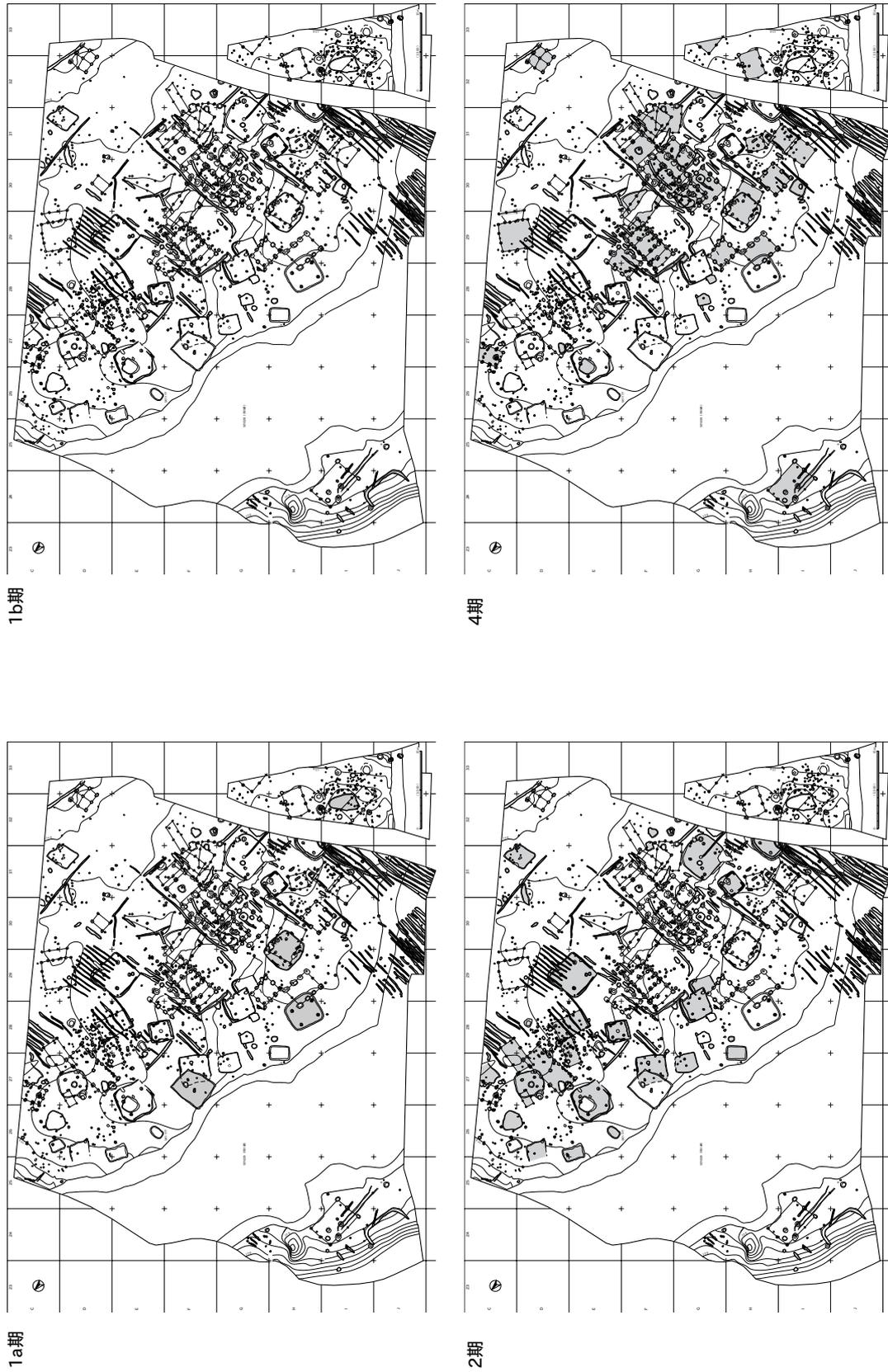
草本類では、花粉化石ではイネ科が多く産出し、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出され、植物珪酸体ではヨシ属が多産したほか、タケ亜科、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが検出された。このうち、植物珪酸体で産出が目立つヨシ属は、湿潤な場所に生育する種類であり、カヤツリグサ科の一部、ガマ属、サジオモダカ属、ゴキヅル属等も同様であることから、周囲にこれらの草本類が生育する水湿地の存在が指摘される。また、SD1220 4・5層では比較的大径の管状酸化鉄や、イネ科の根茎とみられる植物遺体が多く観察されていることから、SD1220内の植生を反映している可能性もある。また、SD1220 3層～5層下位の各層より栽培植物のイネ属の植物珪酸体が検出された。堆積物の観察所見やイネ属の植物珪酸体含量を考慮すると、稲作の可能性は低く、これらの堆積物の形成過程におけるイネ属の混入、すなわち、集水域における稲作等を反映しているとみられる。本地域における稲作については、前述した用言寺遺跡の古墳時代～奈良時代とされるIVa層下位の堆積物 (IVb層) よりイネ属の植物珪酸体が検出されており、周辺での稲作あるいはイネの利用の開始が示唆されている [パリノ・サーヴェイ株式会社2007]。

## 6 ま と め

### A 北新田遺跡における遺構の変遷

今回の調査で、北新田遺跡は古墳時代前期から中世にかけての集落遺跡であることが判明した。特に7世紀前半から中葉、及び9世紀中葉に集落規模が大きくなるものと考えられる。ここでは古墳時代から古代までを対象に遺構の存続時期を伴出する遺物の年代から4時期に区分して、それらの変遷を記述する。時期区分は第三章5と共通のものとしたが、1期 (古墳時代前期) は出土土器の年代から1a・1b期に細分した。そして北前田遺跡では遺構・遺物共に確認されたものの、北新田遺跡では遺構を確認できず、河川跡から遺物のみを確認した3期 (8世紀中葉) と遺構・遺物共に確認できなかった5期 (10世紀中葉～11世紀初頭) については本稿では記述しないこととした。

**1a期** (古墳時代前期初頭: 新潟シンボ5～6期) 当該期の遺構は河川跡 (SD1220) の東側で検出した竪穴住居3軒 (SI201・825・1054)、竪穴住居の可能性が考えられる性格不明遺構1基 (SX958) がある。この時期の北新田遺跡は小規模な集落を形成していたものと考えられる。またSD1220東側斜面から底面にかけて、この段階に比定される土器が出土している。故に1a期にSD1220は形成され、土器はこの



第27図 北新田遺跡における遺構の変遷 (S=1/1,200)

集落から廃棄されたものと考えられる。ただし SI1054 の北西側のコーナーが SD1220 に切られているため、当時の河川は今回の調査で検出したものよりも幅が狭かった可能性もある。竪穴住居の周辺にはそれに伴う土坑等は検出されなかった。北前田遺跡 A 地区の土坑 (SK15) からはこの段階に比定される土器が出土しており、この集落との関係が推定できる。

**1b 期** (古墳時代前期後半:新潟シンボ 9~10 期) 当該期の遺構は SD1220 の西側で検出した溝 1 条 (SD1551) のみである。この段階に比定される土器は、SD1220 からは確認できなかった。北前田遺跡 A 地区の河川跡 (SD2) から、この段階に比定される土器が出土しており、その壁面から 1b 期よりも若干古い新潟シンボ 8~9 期の土器を伴う土坑 (SK14) を検出した。しかし、両遺跡における当該期の遺構・遺物は少なく、1b 期の集落の中心は北前田・北新田遺跡以外の場所にあったものと考えられる。

**2 期** (古墳時代後期:7 世紀前半~中葉) 当該期の遺構は竪穴住居 14 軒、掘立柱建物 5 棟、竪穴住居の可能性が考えられる性格不明遺構 1 基があり、この時期の土器を伴う土坑 (SK1179・826) もある。いずれも SD1220 の東側で確認され、西側では確認できなかった。集落規模は 1a 期と比べて大きくなるが、出土する土器の年代が 7 世紀前半~中葉に限定され、その前後の土器が見られないことから、集落の存続期間は約半世紀程の短い期間であったものと推定される。

ここでは当該期の竪穴住居について 7 世紀前半に位置づけられるものを 31 軒検出した上越市山畑遺跡 [小島 1979]、6 世紀前半~7 世紀後半に位置づけられるものを 21 軒検出した同一之口遺跡東地区 [鈴木ほか 1994] との比較を中心に検討したい。北新田遺跡の竪穴住居の面積は確定できるもの 10 軒のなかで最も小さいものが 14.06m<sup>2</sup> (SI833)、大きなものは 48.62m<sup>2</sup> (SI570) を測る。65m<sup>2</sup> 以上の大型住居は確認できず、30~65m<sup>2</sup> を測る中型住居が 3 軒 (SI1185・570・848)、それ以外の 7 軒は 30m<sup>2</sup> 以下の小型住居である。ちなみに山畑遺跡では大型が 4 軒、中型が 17 軒、小型が 10 軒であり、一之口遺跡東地区では大型が 2 軒、中型が 7 軒、小型が 10 軒である。本遺跡の竪穴住居は両遺跡と比べて小型住居の占める割合が高く、一回り小さい傾向がうかがえる。

竪穴住居の分布については、中型住居を中心としたグループ構成が考えられる。第 IV 章 3B3) で概述した主軸方向による区分を適用すると、SI1185 は I グループの中心的な住居となり、II グループに関してはその位置関係から SI570・1403 と SI848・202・203 とに二分され、SI570・848 がそれぞれの中心的な住居となることが想定できる。

カマドの配置については、中央に炉を持つ SI601・833 と住居の一部が調査区外にあるためカマドの存在が確認できない SI1166・203 を除く全ての竪穴住居で確認したところ、SI202 を除く全てが東辺に位置している。山畑遺跡や一之口遺跡東地区も同様の傾向が見られる。煙道部は SI570・930 のように住居外に大きく張り出すものも見られるが、大半は張り出しが短いか、持たない。ただし北新田遺跡の遺構確認面は地表下約 20cm と浅く、竪穴住居を含め遺構の上面はかなりの削平を受けている。故に煙道部が削平されたため、張り出し部が短いように見えている可能性も考えられる。カマドの芯材と考えられる円筒形土製品と石は SI570・848 で出土している。また SI848 カマドの袖付近には土器が集中して出土しており、これらの土器も芯材として使用された可能性がある。土製支脚が出土した竪穴住居は SI1058・1185・570・931・202 があるが、使用時の位置を留めているものと考えられるものはカマド中央部に 1 本直立して立っている状況が確認できた SI931 のみである。

柱穴は中型住居全てが各コーナーに 4 本確認される一方、小型住居は 4 本確認できるもの (SI1058・601・1053・930) と柱穴がないもの (SI1403・833・202) に二分される。また周溝も中型、小型の区

別なくSI601がほぼ全周しているのを除くと、存在していないか、壁際に部分的に存在しているのみである。これらの特徴も山畑遺跡や一之口遺跡東地区とほぼ共通している。

以上の点から北新田遺跡の当該期の竪穴住居は、山畑遺跡や一之口遺跡東地区のそれと比べて際立った違いは見受けられなかった。ただし上記の遺跡では確認されていないカマドと炉を併用した竪穴住居(SI848・1403)の存在が本遺跡の特徴を有している可能性がある。カマドと炉の併用は北陸地方に於いて7世紀前半まで一般的であり、炉からカマドへと移行する過渡的様相を示す事例〔鈴木<sup>ほか</sup>前掲・渡邊<sup>ほか</sup>2005〕と考えられているが、新潟県内では上越市<sup>がけ</sup>ノ上遺跡〔渡邊<sup>ほか</sup>前掲〕等に類例が見られる程度で、その様相は判然としない。北新田遺跡に隣接する荒町南新田遺跡は平成20年度の調査が予定されており、この集落の続きが確認されるものと思われる。今後の課題としてこれらの調査の成果を待ちたい。

**4期**(古代：9世紀中葉) 当該期の遺構は竪穴住居4軒、掘立柱建物27棟、井戸の上屋1棟、井戸9基、土坑19基、性格不明遺構1基、溝4条がある。これらの遺構から出土する土器の年代が9世紀中葉に限定されることから、集落の存続期間は2期と同様に約半世紀程度であったものと推定される。

遺構の分布範囲を見ると、SD1220の西側では掘立柱建物1棟(SB1578)と井戸4基(SE1552・1564・1574・1575)、土坑2基(SK1303・1563)が確認される。それ以外は東側で確認され、特に29～31・F～Gグリッド内の狭い範囲に集中して見られる。そのため遺構、特に掘立柱建物同士の重複が多く見られる。なおこの区域内では1期・2期の遺構は少なく、かつての住居区域を避けて建物等を構築した可能性も考えられる。(当該期の掘立柱建物の分類や変遷試案、他遺跡との比較については第IV章6Dで後述する)SD1220からは9世紀中葉以降の土器は確認されていない。北新田遺跡の集落が廃絶した直後にSD1220は埋没したものと考えられる。

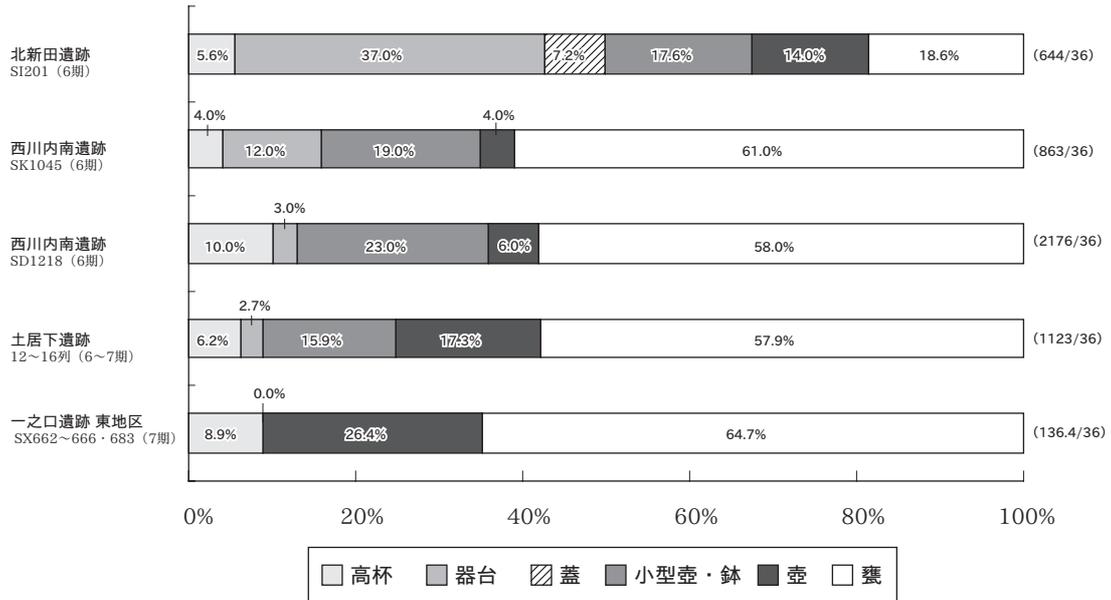
## B SI201について

本遺跡で検出した遺構の中でもSI201は、多量の焼土ブロック・炭化材の出土等で際立った特徴を有する。また出土土器は時期的にも一括性が高く、器種も多様である。ここでは出土土器の器種構成比率を口縁部残存率計測法〔宇野1992〕を用いて計測した。確認できた器種は高杯、器台、蓋、鉢、壺、甕である。一之口遺跡東地区の報告書で示された分類案〔春日1994〕に基づくため、小型壺と考えられる壺Bは鉢と同じ種類とし、「小型壺・鉢」とした。

器種別では、器台の比率が37%で、全体の中で最も多い。次いで甕、小型壺・鉢、壺、蓋、高杯の順に比率が低くなる。特徴としては器台の比率が高く、甕が低い(第28図)。

比較対象として、胎内市(旧中条町)西川内南遺跡〔野水<sup>ほか</sup>2005〕、同 土居下遺跡〔細井<sup>ほか</sup>2006〕、上越市一之口遺跡東地区〔鈴木<sup>ほか</sup>1994〕で示された器種構成比率を使用した。SI201出土土器の編年は前期初頭(新潟シンポ6期)に位置づけられるため、6期及び7期のものを掲載した。いずれも甕の比率が60%前後で、全体の中で最も多い。器台の比率は0～12%となり、SI201出土土器の比率が他遺跡とは大きく異なることが分かる。

時期が8期と異なるものの、西川内南遺跡SD1115出土土器は甕の比率が30%と低く、高杯、器台、小型壺・鉢の比率がそれぞれ22.0、11.0、24.0%と高いことが特徴である。西川内南遺跡では祭祀遺物である舟形木製品と小型銅鏡が出土し、それらを用いた祭祀が行われていたと推測されている〔野水<sup>ほか</sup>2005〕。そのことが器種構成の上でも影響を及ぼしていることと想定される〔細井<sup>ほか</sup>2006〕ため、SI201出土土器の器種構成比率は日常の生活が反映したものとは考えにくく、むしろ特殊な事情による



第 28 図 器種構成比率

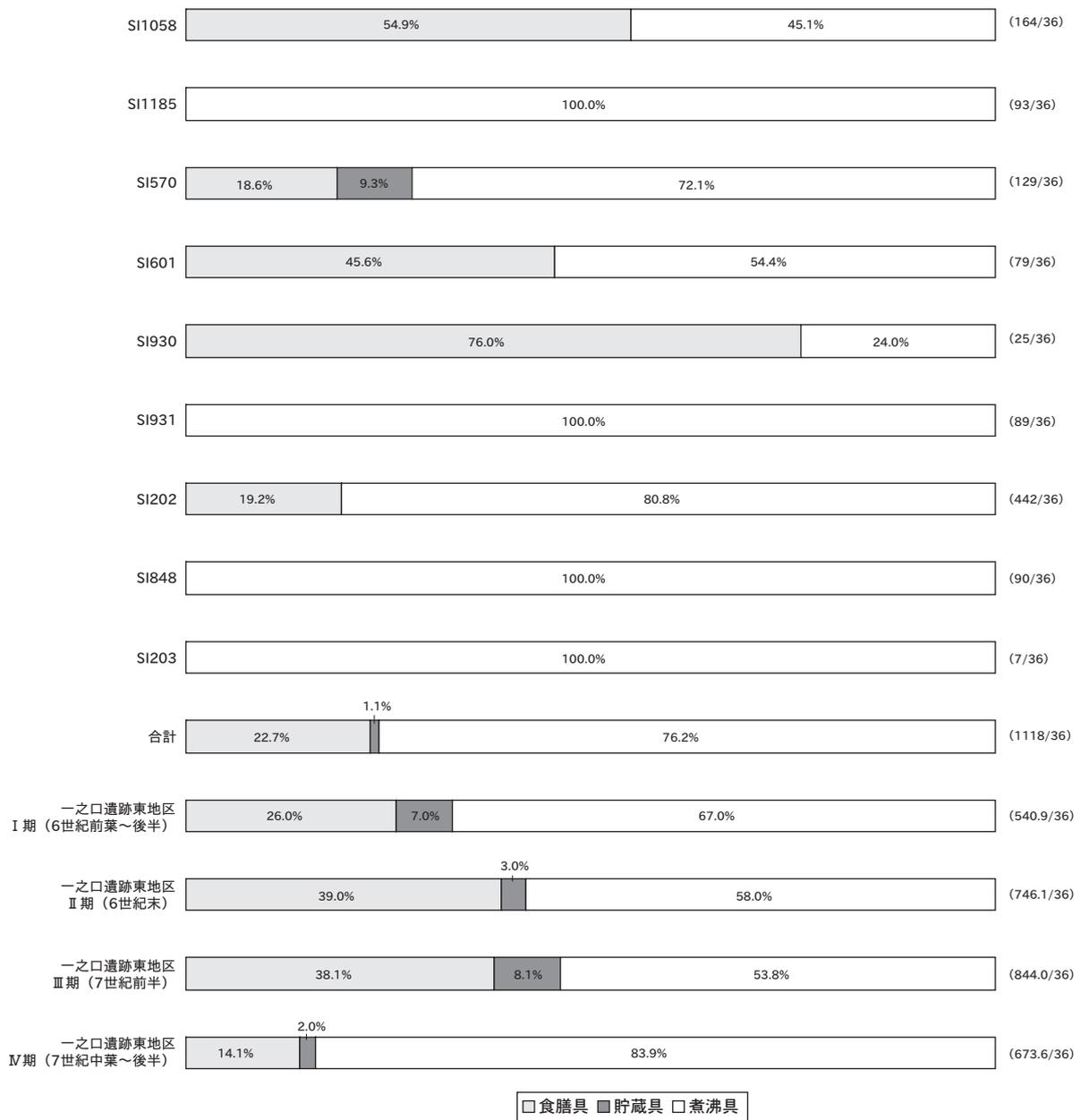
ものと想定される。

SI201 に関しては、先述したように壁際で多量の焼土ブロックと炭化材を検出したことから、当初は火災住居（消失家屋）の可能性を想定した。しかし、①床面自体が焼成を受けた痕跡が確認できない。②焼土ブロックや炭化材に混じって出土した土器に二次焼成を受けているものは確認できない。③時期は異なるが、火災住居と考えられる上越市津倉田遺跡 SI67 の柱穴には、柱根が遺存していた [北野 2003] のに対し、SI201 の柱穴には柱根が見られず、覆土が水平に堆積している。したがって住居廃絶後に柱を抜き取り、掘形を人為的に埋め戻したことが考えられる。④器種構成比率が日常生活を反映している可能性が低く、日常生活の様相が比較的残ると考えられる火災住居の性格とは合わない。以上の点から SI201 はいわゆる火災住居とは考えにくい。そのため焼土ブロックと炭化材は住居廃絶後、別の場所から運ばれ、廃棄されたものと推測される。出土土器も住居廃絶後、その場に置かれたものと考えられるが遺構内及びその周辺から祭祀遺物と考えられるようなものは出土していない。何かの理由がそこにあったものと考えられるが、今度の検討課題として類例を待ちたい。

### C 古墳時代後期の竪穴住居出土土器の機能別構成比率について

本遺跡から出土した古墳時代後期の土器の時期は、須恵器の年代等から 7 世紀前半～中葉（春日編年 I 2～II 1 期）の範疇に収まるものと考えられる。しかし須恵器の出土数が少なく、出土土器の大半が型式変化の追いにくい土師器甕・甑であるため、編年を組むことができず、遺構ごとの時期的な変遷も追うことができなかった。ここでは竪穴住居出土土器を対象として、口縁部残存率計測法による機能別構成比率を提示する。

対象とする竪穴住居は、一定の出土量を持つ SI1058・1185・570・601・930・931・202・848・203 である。出土土器は後世の混入と考えられる時期の異なるものを省いた上で、一之口遺跡東地区の報告書で示された分類案 [春日 1994] に基づき、土器の機能を「食膳具」・「貯蔵具」・「煮沸具」に分類して構成比率を示した（第 29 図）。第三章 4B2) の土器分類との対応関係は以下のとおりである。



第29図 機能別構成比率

食膳具：土師器高杯・土師器杯・須恵器高杯・須恵器杯

貯蔵具：土師器壺

煮沸具：土師器甕・土師器甌

住居別に見ると比率のばらつきが大きく、SI1185・931・848・203では煮沸具以外は確認できなかったのに対し、SI1058・601・930は食膳具の比率がそれぞれ54.9、45.6、76.0%と高く、逆に煮沸具の比率が低い。貯蔵具はSI570でのみ確認され、比率は9.3%である。それらを合計した比率は食膳具22.7%、貯蔵具1.1%、煮沸具76.2%となる。これを一之口遺跡東地区の機能別構成比率（第28図）と比較する。

一之口遺跡東地区出土の古墳時代後期の土器は、6世紀前半から7世紀中葉もしくは後半を中心とするもので、報告書では4期に区分されている。時期ごとの機能別構成比率を見ると、食膳具がI期（6世紀

前葉～後半) からⅢ期(7世紀前半)にかけて増加傾向にあり、Ⅳ期(7世紀中葉～後半)には大幅に減少する。煮沸具はその逆で、Ⅰ期からⅢ期にかけて減少するが、Ⅳ期には増加する[春日1994]。

本遺跡出土の後期の土器は先述したように7世紀前半～中葉に位置づけられ、一之口遺跡東地区ではⅢ期及びⅣ期前半に対応するものと考えられる。食膳具と煮沸具の構成比率はおおよそⅢ期とⅣ期の中間に位置するもので、比率の傾向に大幅な違いはないものと考えられる。

7世紀前半から中葉にかけての食膳具の比率の低下については、木器の食膳具の普及が可能性として考えられているが[春日1994]、本遺跡では古墳時代の木器・木製品は確認できなかったため、この可能性を裏付けることはできなかった。

## D 古代の掘立柱建物について

本遺跡で検出した古代の掘立柱建物は27棟で、所属時期は出土土器の年代から9世紀第2四半期～第3四半期に収まるものと推定できる。ここでは建物群の属性を第12表にまとめてみた。属性の中から長軸方向によりA～Eの5つのグループに分けることが可能である(第30図)。ただし長軸方向が90°ずれる「南北棟」と「東西棟」は同じグループに含めた。

**Aグループ** 建物の南北方向が0～10°西寄りにずれ、N-0～10°-W、もしくはN-80～90°-Eを示すもの。SB1578・948・928・811・1528・270・370・300・1444・1408・962の11棟が該当する。

特徴としては以下の点が挙げられる。①調査区域内中央部を中心に広範囲で見られる。②同じグループ同士での重複は少ないものの、建物群はまとまりを持たず規則性は認められない。③梁行・桁行共直線状に並び、方形・長方形を呈するものがある一方で、中央の柱が外に張り出し、不整形・長方形を呈するもの(SB1528・1444・1408)がある。類例は上越市岩ノ原遺跡SB049・058に見られる。柱間寸法に規則性が少なく、等間隔にならない。在地的な建築様式と考えられている[高橋2008]。④桁行・梁行共2～3間のものが大部分である。桁行4～5間、梁行2間で、掘形を持つ律令官衙的な建物は見られない。

Bグループとの新旧関係についてはSB1528の柱穴P1531がSB1513の柱穴P1517に切られており、SB811の柱穴P448がBグループの建物群の区画溝と推定されるSD406に切られていることから、AグループよりもBグループのほうが新しいことが考えられる。

**Bグループ** 建物の南北方向が0～10°東寄りにずれ、N-0～10°-E、もしくはN-80～90°-Wを示すもの。SB1578・947・946・945・842・936・935・884・938・937の10棟が該当する(SB1578はAグループと重なる)。

特徴としては以下の点が挙げられる。①河川跡西側に位置するSB1578を除くと、28～31・F～Hグリッドの極めて狭い範囲内に収まる。②建物の配列は重複しているものの、東西棟の3列のまとまり(北からSB947・946・945、SB938・935・936、SB937・884)が確認され、さらにその東側にSB1513、西側にSB842の南北棟が見られる。規模が小さく、数も少ないが、荘園関連遺跡とされる石川県横江荘遺跡[吉岡1983]、富山県じょうべのま遺跡[富山県教委1975]などで見られる「コ」の字配置を意識したことも想定される。③SB945・946が棟持柱を持ち、亀甲形を呈する以外は桁行・梁行共直線状に並び、方形・長方形を呈する。Aグループに見られるような在地的な建築様式を持つものは見られない。④桁行・梁行共2～3間のものが大部分で、律令官衙的な建物はSB938の1棟のみである。



第30図 古代の掘立柱建物分類図 (S=1/500)

**Cグループ** 建物の南北方向が11～20°西寄りにずれ、N-11～20°-W、もしくはN-70～79°-Eを示すもの。SB1171・1240の2棟が該当する。直線距離にして約50m離れた場所に位置しているものの、両者とも桁行4間以上、梁行2間で掘形を持つ。律令官衙的な建物と考えられるが、掘形はA・Bグループのそれと比べて小さい。

**Dグループ** 建物の南北方向が21～40°東寄りにずれ、N-21～40°-E、もしくはN-50～69°-Wを示すもの。SB1460・250・961の3棟が該当する。いずれも中央の柱が外に張り出し、不整長方形を呈する。在地的な建物と考えられる。

**Eグループ** A～Dのいずれのグループにも属さないもの。長軸方向がN-36°-Wを示すSB1430が該当する。中央の柱が外に張り出し、不整長方形を呈する。在地的な建物と考えられる。

以上の分類を基に、北西側約1km先に位置し、時期も9世紀第2四半期～第3四半期とほぼ同時期である岩ノ原遺跡南東部の建物群と比較した上で、本遺跡建物群に関して検討してみたい。

岩ノ原遺跡南東部からは13棟の掘立柱建物が検出された。出土した墨書土器から東大寺領石井荘の荘所と推定される。地形に直交する形で3列に分布し、並列に配置する。長軸方向と建物の特徴からN-5～17°-Eを示し、在地的な建築様式のaグループ、N-72～79°-Wを示し、律令官衙的なbグループ、N-83～86°-Wを示し、律令官衙的なcグループに分けられ、a→b→cと時期的に変遷するものと推定している〔高橋前掲〕。

長軸方向のみで比較すると、本遺跡のA・C・D・Eグループは岩ノ原遺跡南東部では確認できず、BグループがSB049を除くa・cグループに相当する。Bグループではaグループの特徴である在地的な建物が見られず、cグループの律令官衙的な建物も1棟しか確認できない。このことから長軸方向による両遺跡の建物群の単純な比較はできない。

建物の特徴をみると、A・D・Eグループは在地的な建築様式が残る建物群、Cグループは律令官衙的

建物名	分類	位置	規模	桁行×梁行 (m)	面積 (㎡)	方位	平面形	形態	柱穴	新旧関係・備考
1578	AorB	24H・I.25I	3×2	7.64×5.06	38.03	N-0°	長方形	側柱	掘方	
948	A	28E・F.29E・F	3×2	5.24×3.84	19.49	N-85°-E	長方形	側柱	掘方	
928	A	28G.29G・H	3×2	4.64×3.60	15.17	N-2°-W	長方形	側柱	掘方	
811	A	29E・F.30F	3×2	7.50×4.44	32.32	N-7°-W	長方形	側柱	掘方	
1528	A	31F	2×1	5.03×3.56	17.98	N-81°-E	不整長方形	側柱	掘方	古SB1528→SB1513新
270	A	30・31I	3×2	3.92×4.08	15.45	N-85°-E	方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
370	A	31H・I	2×2	4.00×3.94	15.65	N-82°-E	方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
300	A	30H・I	2×2	4.52×4.54	20.11	N-86°-E	方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
1444	A	31・32F	3×3	4.72×3.98	19.56	N-5°-W	不整長方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
1408	A	32・33D	2×2	3.67×3.66	14.02	N-83°-E	不整方形	総柱	掘方	倉庫。東西方向を主軸とする
962	A	33G	2～×1～	4.18～×3.28～	6.55～	N-4°-W	長方形?	側柱	掘方	
947	B	29E・F	2×3	6.40×4.44	27.42	N-85°-W	長方形	側柱	掘方	
946	B	28・29F	2×3	6.24×4.33	29.26	N-86°-W	亀甲形	側柱	掘方	
945	B	28F.29F・G	2×3	5.84×4.50	27.81	N-87°-W	亀甲形	側柱	掘方	
938	B	30F・G.31F	4×2	7.64×5.56	41.62	N-88°-W	長方形	側柱	掘方	律令官衙的
935	B	30F・G	2×2	4.66×4.04	18.35	N-88°-W	方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
936	B	29・30G	2×2	4.00×4.36	16.78	N-88°-W	方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする
937	B	30F・G.31F・G	3×1	6.04×5.24	31.09	N-88°-W	長方形	側柱	掘方	
884	B	30G・H	3×2	6.12×5.08	30.21	N-88°-W	長方形	側柱	掘方	
842	B	28H.29H・I	3×2	5.36×4.14	22.28	N-2°-E	長方形	側柱	掘方	
1513	B	30・31F	2×2	5.21×4.13	20.50	N-3°-E	長方形	側柱	掘方	古SB1528→SB1513新
1171	C	26・27C	4～×2	4.17～×3.20	13.94～	N-73°-E	長方形?	側柱	掘方	律令官衙的?
1240	C	29H・30G.H	4×2	7.12×4.48	32.40	N-16°-W	長方形	側柱	掘方	律令官衙的
1460	D	29C・D.30D	4×5	5.70×5.29	32.95	N-38°-E	不整長方形	側柱	掘方	南北方向を主軸とする
250	D	31H	2×2	3.48×2.64	9.41	N-33°-E	不整長方形	側柱	掘方	
961	D	32・33H	3×2	4.92×3.86	19.20	N-62°-W	不整長方形	側柱	掘方	
1430	E	31F・G.32F・G	3×3	5.12×4.44	24.05	N-36°-W	不整長方形	側柱	掘方	東西方向を主軸とする

第12表 掘立柱建物属性表

な建物群となり、Bグループはその中間に位置するものと推定される。岩ノ原遺跡と同じ変遷を想定すると、A・D・E→B→Cという変遷が考えられる。

先述したように、石井荘の荘所と推定される岩ノ原遺跡とは場所や時期が近似しているため、本遺跡は石井荘と何らかの関係があった可能性が想定できる。しかし建物群を比較すると、長軸方向がずれること、律令官衙的な建物が少なく、規模も一回り小さいなど相違点が目立つ。

## E 墨書土器について

出土した墨書土器は13点である。その大半が自然流路SD1220の4層からの出土である。しかも遺構が密集する右岸（集落）側に集中している（第31図）。墨書土器の中でも78の1点だけは集落内のSI871から、同一文字が出土していることから、墨書土器は集落の人々によって使用された後に、流路内に廃棄された可能性が推測される。

墨書土器の年代は笹沢編年〔笹沢2003〕V-2～VI-1期に相当し、9世紀中葉を中心とする。この時期に関連して注目されるのは、本遺跡から直線距離で約1km離れた岩ノ原遺跡との関係である。この遺跡では越後国東大寺領荘園「石井荘」関連の墨書土器が出土して同荘園の荘所と推定されている〔高橋ほか2008〕。墨書土器の文字内容からは直接的に両遺跡は関係しないものの、本遺跡が東大寺領石井荘と何らかの関係があった可能性が想定できる。

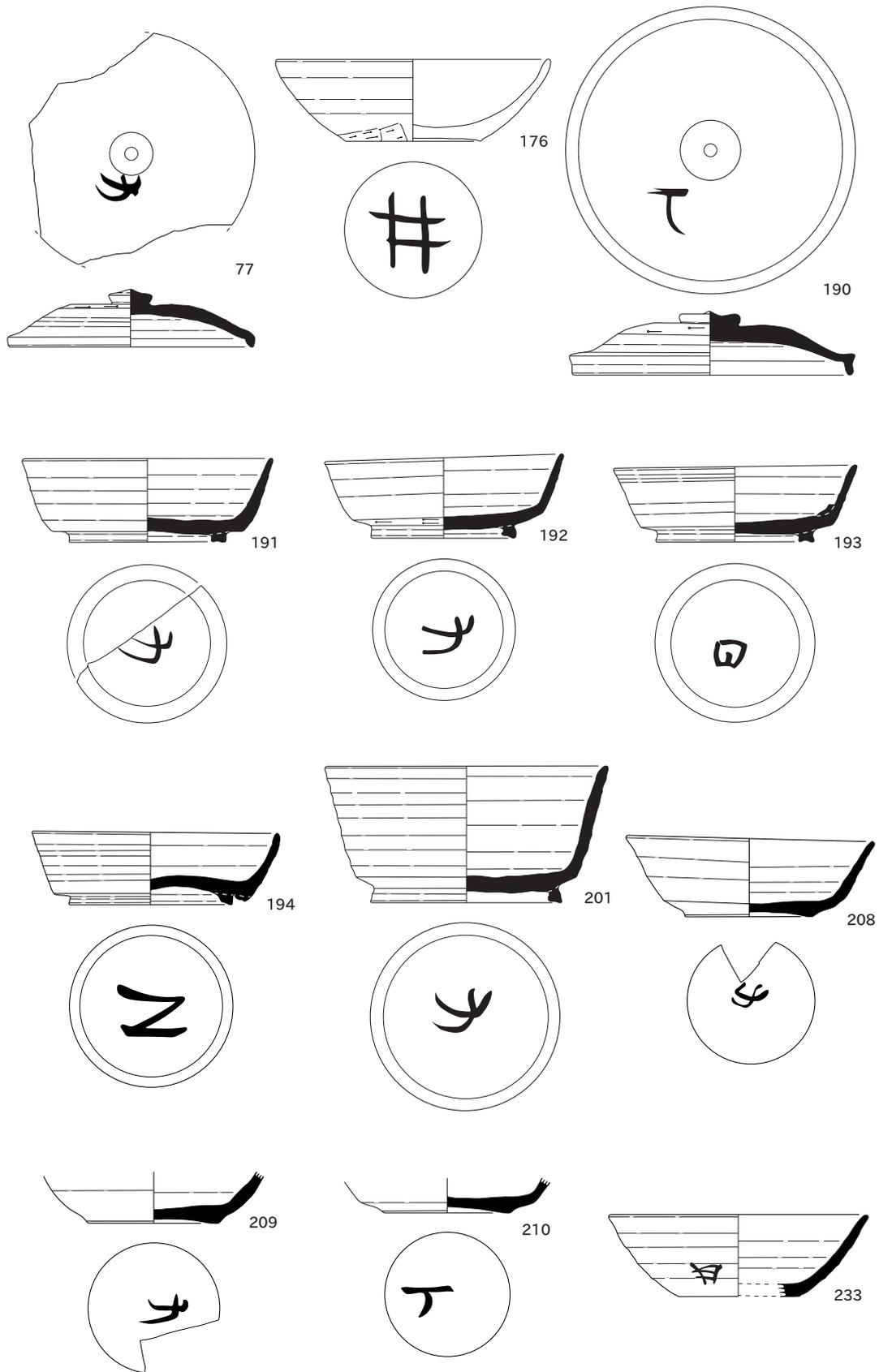
判読できた文字内容で最も点数の多いのが「丁」もしくは「力」の可能性のある8点である。筆の入りや止めを入念に検討したものの、墨痕からはいずれか特定することはできなかった。また、文字内容からも確定できていない<sup>1)</sup>。確かに字体としては「力」に近いようにも思われるが、「力」とした場合、県内には類例が見出せない。むしろ、新発田市桑ノ口遺跡で「力」と「加」が一緒に出土している〔鶴巻ほか2003〕例を見ると、墨書土器としては「加」の左半分だけを独立して墨書されたとも考えられる。他方、「丁」とした要因としては、190に比較的しっかりとした筆致で「丁」の左文字が見出せるためである。左文字の例としては田上町田上館跡〔小林ほか2004〕に見出せるほかに、新潟市近郊では「七」の左文字を中心に散見する。判読を決することはできないものの190の事例を勘案すると、後者の「丁」の方が可能性と高いと考えている。

233は、「戌」もしくは「成」の可能性が考えられる。いずれにしても最終画の点に相当する墨痕はない。墨痕のみでは判別しがたいので文字内容からも勘案すると、「戌」は単に干支というだけでなく、時刻や方角を示す可能性が推測される。この墨書土器の出土地点は古代の遺構が集中する付近から見て北西の方向に当たり、「戌」の示す西北西の方角に近いが、「戌」は一文字墨書土器に記される文字としては決して多くないことが問題となる。対して、土器に墨書される事例では「成」は非常に多く、新潟県内では新潟市の場遺跡〔小池ほか1993〕などで出土例がみられる。的場遺跡の場合は、ほかに出土した墨書土器の「廣成」（人名カ）の一文字が選択されたものと考えられる。流路内からの出土という状況の点でも「成」とすれば、秋田県厨川谷地遺跡〔秋田県教委2005〕や、東京都下宿内山遺跡〔東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会1986〕に類例がみられる。こうした共通性の観点から、判読としては「成」の可能性が高いと考えられる。

1) 以下、本稿において墨書土器の検索は、吉村武彦氏による「全国墨書・刻書土器データ」（平成11～13年度科学研究費補助金（基盤研究B2）「古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究」による研究成果）による。新潟県内の検索に関しては『新潟県内出土古代文字資料集成』も参照した〔小林ほか2004〕。



第31図 墨書土器出土分布図



第32図 墨書土器 (S=1/3)

ほかにも1点だけながら176の「井」もしくは「井」と書かれた墨書土器や193の「田」の可能性がある墨書土器がある。193は周囲の「口」の墨痕は明瞭なもの、その内側の墨痕が不明瞭なため判読まではいたらなかった。176の「井」もしくは「井」は本遺跡では数少ない土師器への墨書であるが、具体的なことは不明である。ただ、墨書が「井」であれば、平川南氏が指摘するように魔除け記号としての性格が推定される〔平川2000〕。最後に194は「乙」字状の墨痕が明瞭に残る。何らかの字体が変化したと考えられるが、不明である。

墨書された文字内容や伴遺物に特徴は見られず、この方面から墨書土器の使用目的について言及することは難しい。ただ、流路底部付近からの出土という状況に着目するならば、厨川谷地遺跡が祭祀具を伴することや、下宿内山遺跡でも墨書されていない土器と一緒に使用された祭祀的な目的が報告されていることから、同じく祭祀に関わる使用目的が推測される。さらに集落遺跡という性格も含めて勘案するならば、下宿内山遺跡で飲用も含めた河川の水の祭祀との関係が指摘されていることが注目される。ここの文字内容は「加」「成」「臣」「玉」といった点数の多い墨書土器の他に、「井」や「酒」といった墨書土器が少ないながらも出土している。報文では「井」や「酒」の墨書土器に着目し、「当時の人々が飲料水を得た場所、あるいは農耕に不可欠な湧水に関した字であろう」と報告されている〔東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会前掲〕。本遺跡でも井戸と思われる遺構が少なく、ここに集落があった古墳時代と古代には自然流路に水を依存していた可能性が高いことを考慮すると<sup>1)</sup>、下宿内山遺跡と同様に水に関わる祭祀においてこうした墨書土器が使用された可能性が一つ考えられる。しかし本遺跡では墨書土器以外に祭祀的な遺物は出土していないことから、どのような場面で使用され、廃棄されたかは今後検討すべき課題であろう。

こうした墨書土器の考察から青田川の旧流路と推定される自然流路SD1220の埋没などに関して以下のような試案を提示しておきたい。墨書土器が水の祭祀に関わるとすれば、SD1220は少なくとも本遺跡の古代に当たる9世紀中葉までは流れていたことは確実である。ところが、本遺跡の南端付近の調査地点では中世の井戸がいくつか検出されている。東側に所在する荒町南新田遺跡でも試掘調査において中世の井戸が検出されている状況を考慮すると、中世段階では飲料水をはじめとする水をSD1220に依存することが難しくなった可能性が考えられる。それでも、旧流路近くは湧水の確保が容易なためか、流路に近接して多くの井戸が掘削されたのであろう。このように井戸が旧流路の直近にあるということは、すでに中世段階ではSD1220が埋没していた可能性が推測される。さらに、南端付近の井戸が荒町南新田遺跡と連続する一部であるならば、両者の間にある旧流路の痕跡と思われる現在の水田部分は、中世以降＝近世の流路の可能性が考えられる<sup>2)</sup>。以上のように墨書土器と南端付近の遺構を考え合わせると、SD1220に関しては9世紀中葉～中世の間に埋没したと考えられ、さらにその後、現在水田となる流路痕跡が中世から近世に形成された可能性を示唆する。

1) 本遺跡では、古代の井戸が9基確認されているが、一方で流路も水を確保する上で一つの重要な手段であったと考え、流路からも取水したと推測した。一方、近接する荒町南新田遺跡（中世）の試掘調査では井戸状の遺構が確認されており、本遺跡でも荒町南新田遺跡に近い南端付近では中世の井戸が検出されている。こうした状況から推測すると、中世では一層水の確保に井戸が重要性を増していた可能性が推測される。

2) この推測では、荒町南新田遺跡と本遺跡の南端付近の遺構は連続していたが、遺跡廃絶後に何らかの理由で水田部分が掘削・削平されて喪失したと考える。

SB622

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P623	28C16	方形	漏斗状	17.54	17.14	48	42	40		P623-624:3.24m	
P624	28C22	長方形	階段状	17.59	17.18	58	42	41		P624-625:2.22m	
P625	28D1	長方形	台形状	17.54	17.24	50	40	30		P625-626:2.12m	
P626	27D5・10	方形	台形状	17.57	17.24	44	40	33		P626-771:1.96m	
P771	27D9	楕円形	半円状	17.44	17.18	42	32	26		P771-1102:3.08m	
P1102	27D4	長方形	階段状	17.50	17.30	48	32	20		P1102-627:1.88m	
P627	27C24	楕円形	半円状	17.46	17.32	52	36	14		P627-628:2.08m	
P628	27C20・25	円形	半円状	17.46	17.26	40	36	20		P628-623:2.00m	

SB1172

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1087	27D1・2	円形	半円状	17.64	17.46	42	36	18		P1087-1132:1.50m	
P1132	27D2	楕円形	台形状	17.64	17.44	34	28	20		P1132-1084:1.52m	
P1084	27D6	長方形	半円状	17.64	17.34	40	30	30		P1084-1083:1.48m	
P1083	27D6	方形	半円状	17.66	17.52	30	26	14		P1083-1085:1.58m	
P1085	26D5	方形	半円状	17.60	17.44	32	28	16		P1085-1086:1.40m	
P1086	27D1	楕円形	弧状	17.60	17.50	34	26	10		P1086-1087:1.32m	

SB1171

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1097	27C8	方形	漏斗状	17.52	17.02	76	64	50		P1097-1095:1.28m	
P1095	27C12・13	円形	箱状	17.58	17.26	52	52	32		P1095-1075:1.42m	
P1075	27C12・17	楕円形	台形状	17.58	17.04	68	54	54		P1075-1372:1.42m	
P1372	27C17	長方形	半円状	17.78	17.18	62	50	60		P1372-1078:1.70m	
P1078	27C16	円形	半円状	17.58	17.12	52	48	46		P1078-1101:1.50m	
P1101	26C15・20、27C11・16	円形	半円状	17.62	17.38	56	48	24		P1101-1098:1.30m	
P1098	27C11	方形	階段状	17.58	17.30	62	56	28		P1098-1088:1.54m	
P1088	27C6	楕円形	階段状	17.54	17.18	60	50	36			

SB1042

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P647	27D5	不整形	台形状	17.60	17.34	70	68	26		P647-631:2.08m	
P631	27D10、28D6	円形	半円状	17.66	17.36	46	44	30		P631-681:2.08m	
P680	28D6・11・12	方形	台形状	17.65	17.16	56	48	49		P681-648:1.52m	
P648	28D11	方形	階段状	17.60	17.42	60	56	18		P648-652:1.28m	
P652	27D20	方形	U字状	17.57	17.20	28	28	37		P652-633:1.64m	
P633	27D20	方形	階段状	17.60	17.12	56	48	48		P633-1115:1.86m	
P1115	27D24	方形	台形状	17.62	17.10	44	40	52	柱痕有	P1115-1070:2.04m	
P1070	27E3・4	長方形	U字状	17.65	17.13	44	30	52		P1070-1068:1.24m	
P1068	27E3	不整形	台形状	17.66	17.20	84	64	46		P1068-1113:1.72m	
P1113	27E2	長方形	U字状	17.70	17.21	36	28	49		P1113-1061:2.60m	
P1061	27D21・22	方形	階段状	17.68	17.40	74	68	28	柱痕有	P1061-1062:1.44m	
P1062	27D17	方形	台形状	17.68	17.38	50	48	30	柱痕有	P1062-1063:1.34m	
P1063	27D17・18	方形	漏斗状	17.67	17.30	62	58	37	柱痕有	P1063-1076:2.28m	
P1076	27D13	円形	階段状	17.60	17.00	66	56	60	柱痕有	P1076-1256:1.60m	
P1256	27D9	楕円形	台形状	17.57	17.22	76	62	35		P1256-745:1.36m	
P745	27D9	方形	階段状	17.54	17.10	56	52	44		P745-647:1.84m	

SB1298

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P738	28D16・17・21・22	楕円形	階段状	17.62	17.38	130	88	24		P738-747:1.37m	
P747	28D22	長方形	台形状	17.52	17.16	42	34	36		P747-671:1.20m	
P671	28E2	円形	台形状	17.66	17.26	42	36	40		P671-640:2.04m	
P640	28E1	方形	弧状	17.66	17.14	40	38	52		P640-670:0.80m	
P670	28E1	楕円形	階段状	17.64	17.04	56	44	60		P670-775:1.64m	
P775	27E10	方形	弧状	17.62	17.54	32	30	8		P775-700:0.76m	
P700	27E10	円形	台形状	17.64	17.38	46	44	26		P700-757:2.48m	
P757	27E4	楕円形	台形状	17.60	17.38	32	24	22		P757-659:1.00m	
P659	27D25	円形	弧状	17.62	17.50	72	68	12		P659-660:1.54m	
P660	27D25	円形	台形状	17.62	17.42	38	36	20		P660-663:0.94m	
P663	28D2	方形	箱状	17.64	17.36	48	48	28		P663-738:1.54m	

SB1297

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P675	28D18	長方形	台形状	17.60	17.08	36	28	52		P675-753:1.28m	
P753	28D19	円形	台形状	17.62	17.26	36	36	36		P753-692:1.94m	
P692	28D24	方形	U字状	17.62	17.22	36	34	40		P692-678:1.50m	
P678	28E4・5	方形	U字状	17.58	17.20	36	36	38		P678-755:1.16m	
P755	28E5・10	円形	U字状	17.60	17.16	36	34	44		P755-732:3.58m	
P732	28E8	方形	U字状	17.66	17.19	36	34	47		P732-729:1.16m	
P729	28E8	不整形	台形状	17.60	17.24	40	38	36		P729-742:0.98m	
P742	28E3	円形	弧状	17.64	17.39	34	32	25		P742-671:1.72m	
P671	28E2	円形	台形状	17.64	17.24	42	36	40		P671-748:0.90m	
P748	28D22	不整形	U字状	17.60	17.14	32	26	46		P748-746:1.24m	
P746	28D21・22	不整形	階段状	17.49	17.23	82	44	26		P746-638:2.08m	
P638	28D7・8	円形	U字状	17.62	17.09	50	48	53		P638-675:1.92m	

第13表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (1)

( ) は現存値

観 察 表

SB1460

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P478	29C20	円形	半円状	17.60	17.34	42	36	26		P478-477:1.50m	P478-482:1.98m
P477	29C20・25	円形	半円状	17.60	17.32	42	36	28		P477-476:1.64m	
P476	29C25・30C21	円形	半円状	17.68	17.36	38	36	32		P476-1451:1.80m	
P1451	30C1	円形	半円状	17.60	17.28	44	40	32	柱痕有		P1451-1457:1.90m
P482	29C19	楕円形	U字状	17.67	17.09	50	40	58		P482-480:1.24m	
P480	29C19	円形	半円状	17.60	17.22	48	44	38		P480-479:1.00m	
P479	29C19	円形	半円状	17.64	17.29	44	44	35		P479-1452:1.50m	
P1452	29D5	円形	半円状	17.63	17.39	48	44	24	柱痕有	P1452-1456:0.88m	
P1456	29D5	円形	階段状	17.60	17.10	48	42	50	柱痕有	P1456-1457:1.08m	
P1457	29D10	円形	U字状	17.60	16.88	44	44	72	柱痕有	P1457-591:2.06m	
P591	29D9	方形	半円状	17.57	17.40	36	32	17		P591-590:0.84m	
P590	29D8	円形	半円状	17.57	17.35	30	30	22		P590-1583:0.92m	
P1583	29D8	円形	半円状	17.56	17.32	38	34	24		P1583-1581:1.52m	
P1581	29D7	方形	半円状	17.60	17.25	38	34	35		P1581-1582:1.24m	
P1582	29D2・7	不整形	半円状	17.45	17.19	68	42	26		P1582-592:1.62m	
P592	29C22・29D2	楕円形	箱状	17.55	17.23	58	48	32		P592-1459:1.60m	
P1459	29C22	円形	半円状	17.52	17.14	38	35	38	柱痕有	P1459-1458:1.20m	
P1458	29C17	円形	階段状	17.53	16.95	42	40	58	柱痕有	P1458-1453:1.66m	
P1453	29C 17・18	方形	半円状	17.64	17.31	44	40	33	柱痕有	P1453-483:0.96m	
P483	29C18	円形	半円状	17.52	17.41	28	26	11		P483-481:0.92m	
P481	29C18	円形	半円状	17.55	17.37	44	44	18		P481-482:1.72m	

SB1484

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1468	30D18	長方形	半円状	17.63	17.09	62	50	54	柱痕有	P1468-1410:1.88m	
P1469	30D19	楕円形	半円状	17.59	17.19	44	36	40	柱痕有	P1410-1411:2.86m	
P1478	30D23	楕円形	漏斗状	17.61	17.23	44	32	38	柱痕有	P1478-1484:2.12m	
P429	30D17・22	円形	台形状	17.55	17.27	52	50	28		P1484-1468:2.70m	

SB1408

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1409	32D5・10	円形	階段状	17.30	16.97	94	80	33		P1409-1410:1.75m	
P1410	33D6	楕円形	階段状	17.39	17.11	84	68	28		P1410-1411:1.90m	
P1411	33D6・7・11・12	方形	階段状	17.14	16.66	68	56	48		P1411-1414:1.74m	
P1414	33D11	方形	台形状	17.39	17.12	70	60	27		P1414-1417:1.88m	
P1417	32D20	不整形	箱状	17.43	16.88	83	50	55		P1417-1416:1.68m	
P1416	32D15・20	不整形	箱状	17.45	17.10	56	48	35		P1416-1415:1.84m	
P1415	32D14	長方形	階段状	17.42	16.81	70	54	61		P1415-1412:1.76m	
P1412	32D9	方形	箱状	17.30	17.06	50	42	24		P1412-1409:1.80m	
P1413	32D15	方形	箱状	17.34	17.11	52	52	23		P1412-1413:2.12m	
										P1413-1414:1.96m	
										P1416-1413:2.02m	
										P1413-1410:1.60m	

SB811

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P529	29E25・25F5	長方形	台形状	17.69	17.02	68	56	67		P529-569:2.74m	
P569	30F1	方形	台形状	17.40	17.03	44	38	37		P569-530:1.96m	
P530	30F7	円形	U字状	17.52	16.87	50	48	65		P530-411:2.66m	
P411	30F13	方形	台形状	17.68	17.28	50	48	40		P411-448:4.28m	
P448	30F17・22	方形	階段状	17.72	17.00	48	46	72		P448-450:2.26m	
P450	30F16	長方形	階段状	17.72	16.96	56	44	76		P450-517:2.46m	
P517	29F15	方形	階段状	17.68	17.10	48	46	58		P517-515:2.84m	
P515	29F9	方形	階段状	17.68	16.98	42	36	70		P515-806:1.88m	
P806	29F9	方形	台形状	17.63	17.43	20	20	20		P806-529:2.56m	

SB928

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P925	29G16	方形	台形状	17.78	17.17	78	72	61		P925-924:1.38m	
P924	29G17	方形	台形状	17.75	17.15	66	60	60		P924-922:1.36m	
P922	29G22	方形	台形状	17.75	17.13	80	72	62		P922-920:1.26m	
P920	29G23	方形	台形状	17.74	17.14	80	68	60		P920-919:1.68m	
P919	29H2・3	方形	台形状	17.77	17.24	84	84	53		P919-918:1.80m	
P918	29H2・7・6	楕円形	階段状	17.72	17.28	100	72	44		P918-917:1.60m	
P917	29H1	円形	台形状	17.84	17.23	84	72	61		P917-1351:1.32m	
P1351	28H5・29G21・29H1	長楕円形	台形状	17.80	17.51	114	52	29		P1351-850:1.72m	
P850	29G25	円形	U字状	17.78	17.33	60	60	45		P850-926:1.84m	
P926	28G20・25・29G16・21	長楕円形	台形状	17.83	17.27	80	74	56		P926-925:1.76m	

第14表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (2)

( ) は現存値

SB945

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P564	29F7	方形	台形状	17.72	17.13	66	(58)	59		P564-545:1.88m	
P545	29F8	方形	台形状	17.70	17.28	68	68	42		P545-539:1.76m	
P539	29F13・14	長方形	台形状	17.70	17.07	72	58	63		P539-528:0.88m	
P528	29F13・14・18・19	長方形	弧状	17.72	17.54	64	52	18		P528-526:2.48m	
P526	29F18	方形	台形状	17.74	17.24	68	58	50	柱痕有	P526-524:3.36m	
P524	29F21・22、29G1・2	不整形	台形状	17.75	17.24	78	76	51		P524-788:2.84m	
P788	28F20・25	円形	台形状	17.70	17.32	40	36	38		P788-787:1.56m	
P787	28F15・20	長方形	階段状	17.68	17.08	96	78	60		P787-595:3.22m	
P595	29F6・11	長方形	台形状	17.70	17.23	64	52	47		P595-564:2.62m	

SB946

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P544	29F2・3	長方形	台形状	17.68	17.20	92	82	48		P544-543:1.72m	
P543	29F3・4・8・9	円形	台形状	17.58	17.26	60	56	32		P543-542:1.12m	
P542	29F9	長方形	台形状	17.57	17.31	56	52	26		P542-552:1.52m	
P552	29F9・14	方形	台形状	17.62	17.08	86	84	54		P552-527:3.16m	
P527	29F18	長方形	台形状	17.73	17.32	68	-50	41		P527-525:3.08m	
P525	29F22	長方形	台形状	17.75	17.22	88	62	53		P525-587:2.56m	
P587	29F16	方形	階段状	17.72	17.18	80	70	54		P587-600:1.78m	
P600	28F15、29F11	長方形	階段状	17.68	16.88	84	70	80		P600-562:2.86m	
P562	29F6・7	円形	台形状	17.70	17.33	56	52	37		P562-544:3.06m	

SB947

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P566	29E23、29F3	長方形	階段状	17.68	17.00	82	70	68		P566-535:2.16m	
P535	29F4	楕円形	台形状	17.68	17.39	42	32	29		P535-949:2.28m	
P949	29F10	長方形	台形状	17.66	17.02	66	60	64		P949-541:2.72m	
P541	29F14	楕円形	半円状	17.68	17.23	(56)	(40)	45		P541-1359:2.08m	
P1359	29F13・18	方形	台形状	17.70	17.20	60	60	50		P1359-547:1.66m	
P547	29F17	長方形	階段状	17.62	17.08	76	64	54		P547-536:1.10m	
P536	29F17	長方形	階段状	17.62	17.15	76	56	47		P536-537:1.16m	
P537	29F12	方形	階段状	17.64	17.11	68	68	53	柱痕有	P537-594:1.84m	
P594	29F6・11	方形	台形状	17.64	17.24	68	60	40		P594-561:1.46m	
P561	29F6・7	方形	階段状	17.70	17.22	60	(54)	48		P561-565:2.26m	
P565	29F2・7	楕円形	階段状	17.70	17.22	68	54	48		P565-583:1.84m	
P583	29F3	長方形	台形状	17.68	17.24	70	58	44		P583-566:0.80m	

SB948

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P599	28E20、29E16	長方形	階段状	17.68	17.16	104	80	52		P599-596:2.18m	
P596	29E21・22	方形	台形状	17.64	17.26	104	98	38		P596-804:1.60m	
P804	29E22	方形	箱状	17.64	17.04	80	78	60		P804-581:1.96m	
P581	29F1・2	円形	階段状	17.64	17.16	88	84	48		P581-802:1.52m	
P802	29F6	方形	階段状	17.68	17.28	76	72	40		P802-785:1.76m	
P785	28F10、29F6	長方形	台形状	17.64	17.14	92	68	50		P785-791:1.76m	
P791	28F10	方形	台形状	17.74	17.46	62	56	28		P791-781:2.06m	
P781	28F4	長方形	台形状	17.72	17.16	92	72	56		P781-780:1.60m	
P780	28E24・25、28F4・5	長方形	箱状	17.70	17.24	74	56	46		P780-779:1.72m	
P779	28E25	方形	箱状	17.68	17.06	88	74	62		P779-599:1.72m	

SB1240

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1241	29G25、29H5	円形	階段状	17.71	16.92	50	46	79		P1241-1236:1.92m	
P1236	30H1	長楕円形	階段状	17.70	16.92	120	56	78		P1236-1209:1.68m	
P1209	30H2	円形	U字状	17.78	17.40	36	34	38		P1209-1204:1.54m	
P1204	30H7・8	円形	U字状	17.78	17.08	48	44	70		P1204-309:2.00m	
P309	30H8・9	円形	U字状	17.78	17.12	44	44	66		P309-1205:2.16m	
P1205	30H13	円形	U字状	17.80	17.11	50	44	69		P1205-1206:2.28m	
P1206	30H17	長方形	U字状	17.82	16.88	46	36	94		P1206-1208:2.08m	
P1208	30H16・17	円形	U字状	17.82	16.96	46	42	86		P1208-1210:1.58m	
P1210	30H11	円形	階段状	17.76	17.05	44	40	71		P1210-1235:1.48m	
P1235	29H15	長楕円形	階段状	17.66	17.02	124	68	64		P1235-1242:1.94m	
P1242	29H9・14	円形	U字状	17.70	17.16	38	36	54		P1242-1243:2.16m	
P1243	29H5・10	長方形	階段状	17.70	16.98	56	38	72		P1243-1241:2.32m	

SB1513

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1515	31E21、31F1	方形	階段状	17.66	17.12	80	72	54		P1515-1516:2.50m	
P1516	31F2・7	方形	階段状	17.66	17.32	72	70	34		P1516-1517:2.56m	
P1517	31F8・13	方形	台形状	17.68	17.30	64	60	38		P1517-1518:1.80m	
P1518	31F12・13	方形	階段状	17.66	17.18	70	66	48		P1518-1519:1.95m	
P1519	31F17	方形	階段状	17.68	17.40	68	62	28		P1519-1520:2.44m	
P1520	31F11	長方形	半円状	17.62	17.46	26	22	16		P1520-435:2.70m	
P435	30F10	円形	台形状	17.78	17.18	62	60	60		P435-1514:2.08m	
P1514	30F5・10、31F1・6	長方形	半円状	17.68	17.20	72	60	48		P1514-1515:2.00m	

第15表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (3)

( ) は現存値

観 察 表

SB1521

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1522	31E 22・23	楕円形	U字状	17.64	16.88	57	40	76		P1522-1523:2.26m	
P1523	31F3	長方形	半円状	17.62	17.42	58	40	20		P1523-1524:2.28m	
P1524	31F9	楕円形	半円状	17.60	17.34	48	40	26		P1524-1527:1.84m	
P1527	31F8	円形	U字状	17.63	17.10	44	40	53		P1527-1526:2.28m	
P1526	31F 2・3	楕円形	漏斗状	17.66	17.22	60	44	44		P1526-1525:2.56m	
P1525	31F22	方形	台形状	17.66	17.14	48	42	52		P1525-1522:1.84m	

SB938

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P437	30F 9・10・14・15	隅丸方形	半円状	17.58	17.00	(88)	(76)	58		P437-1536:5.28m	
P1536	31F16・17	隅丸形	階段状	17.54	16.60	88	73	94		P1536-1538:1.92m	
P1538	30F25、31F21	不整形	漏斗状	17.52	16.71	132	130	81		P1538-548:1.84m	
P548	30F25、30G5	長方形	U字状	17.56	16.86	128	92	70		P548-905:2.08m	
P905	30G4・5・9・10	方形	台形状	17.60	16.86	104	92	74		P905-893:1.80m	
P893	30G9	(方形)	台形状	17.68	16.80	(92)	88	88		P893-909:2.80m	
P909	30G3	方形	台形状	17.60	17.22	92	82	38	柱痕有	P909-519:2.76m	
P519	30F22	長方形	半円状	17.62	17.10	100	80	52		P519-933:1.96m	
P933	30F 17・18・23	長方形	階段状	17.64	16.22	112	88	42	柱痕有	P933-934:1.92m	
P934	30F13・14・18・19	方形	階段状	17.62	16.72	132	128	90		P934-439:1.8m	
P439	30F14	長方形	台形状	17.62	16.94	104	80	68		P439-437:1.76m	

SB937

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1535	30F15・20、31F11・16	方形	階段状	17.64	16.98	140	124	66		P1535-1537:5.00m	
P1537	31F22・23、31G2・3	方形	台形状	17.66	17.04	98	82	62		P1537-896:2.40m	
P896	31G 1・2・7	方形	台形状	17.65	16.90	108	96	75	柱痕有	P896-895:2.08m	
P895	31G6	方形	階段状	17.60	16.98	112	104	62	柱痕有	P895-908:1.56m	
P908	30G10・15、31G11	方形	階段状	17.76	17.19	128	112	57	柱痕有	P908-533:5.24m	
P533	30G3・4	隅丸方形	階段状	17.62	16.98	80	(36)	64		P533-521:1.56m	
P521	30F24	(方形)	U字状	17.62	16.90	(80)	78	72		P521-441:1.88m	
P441	30F20・25	方形	階段状	17.61	16.98	104	88	63		P441-1535:2.36m	

SB936

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1356	30G2	方形	半円状	17.62	17.45	(48)	(44)	(17)		P1356-910:1.98m	
P910	30G2・3・7・8	方形	U字状	17.71	17.38	62	(56)	33		P910-1354:1.96m	
P1354	30G8	方形	台形状	17.79	17.48	60	58	31		P1354-888:1.94m	
P888	30G12・13	長方形	台形状	17.79	17.44	64	52	35		P888-1352:2.02m	
P1352	30G12・17	方形	台形状	17.76	17.20	72	64	56		P1352-898:2.10m	
P898	30G11	方形	階段状	17.78	17.40	64	60	38		P898-912:1.90m	
P912	29G10	円形	台形状	17.76	17.29	72	72	47		P912-1357:3.00m	
P1357	30G1	方形	U字状	17.66	17.22	42	38	44		P1357-1356:1.36m	

SB935

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P808	30F22、30G2	楕円形	台形状	17.70	17.39	48	40	31		P808-1355:2.30m	
P1355	30G3	隅丸形	U字状	17.77	17.21	(52)	(34)	56		P1355-877:2.36m	
P877	30G8・9	円形	台形状	17.77	17.37	80	72	40		P877-897:1.84m	
P897	30G13	方形	台形状	17.78	17.33	66	64	45		P897-1353:2.08m	
P1353	30G12・17	隅丸形	台形状	17.76	17.32	66	50	44		P1353-1358:2.44m	
P1358	30G11	隅丸方形	U字状	17.77	17.06	(38)	(32)	71		P1358-911:2.12m	
P911	29G10、30G6	方形	台形状	17.76	17.22	64	58	54		P911-808:4.04m	

SB884

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P883	30G3・8	方形	階段状	17.77	17.20	108	96	57	柱痕有	P883-876:3.32m	
P876	30G9・14	方形	台形状	17.77	17.28	84	80	49		P876-875:1.64m	
P875	30G15	方形	階段状	17.78	17.18	84	76	60	柱痕有	P875-874:2.08m	
P874	30G19	隅丸方形	階段状	17.74	17.16	82	80	58	柱痕有	P874-873:2.08m	
P873	30G18・19・23・24	隅丸方形	階段状	17.75	17.20	88	88	55	柱痕有	P873-872:1.96m	
P872	30H3、30G22・23	隅丸方形	階段状	17.75	17.20	72	72	55	柱痕有	P872-878:2.60m	
P878	30G17・22	方形	階段状	17.74	17.30	78	72	44		P878-880:2.48m	
P880	30G11・16	隅丸形	台形状	17.77	17.34	132	92	43		P880-881:1.68m	
P881	30G11・12	隅丸方形	階段状	17.77	17.24	104	100	53	柱痕有	P881-882:1.88m	
P882	30G7・12	隅丸方形	階段状	17.78	17.20	108	96	58	柱痕有	P882-883:2.24m	

SB962

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P963	33G22	(円形)	U字状	17.36	16.86	40	35	50		P963-984:2.10m	
P984	33G16・17・21・22	隅丸方形	階段状	17.61	16.93	46	44	68		P984-983:2.08m	
P983	33G16	円形	階段状	17.60	17.10	48	42	50		P983-982:2.14m	
P982	33G11	方形	階段状	17.55	17.03	52	50	52			

第16表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (4)

( ) は現存値

SB1528

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1529	31F3・4	隅丸方形	階段状	17.66	17.08	63	58	58		P1529-1530:3.56m	
P1530	31F10	円形	階段状	17.62	17.10	60	56	52		P1530-1532:2.64m	
P1532	31F14・15・19・20	長楕円形	半円状	17.66	17.16	52	32	50		P1532-1534:2.32m	
P1534	31F19	不整形	階段状	17.67	17.22	60	36	45		P1534-1533:3.44m	
P1533	31F12・17	長楕円形	階段状	17.65	17.26	82	42	39		P1533-1531:2.24m	
P1531	31F8・13	方形	不整形	17.68	17.12	65	(59)	56		P1531-1529:2.76m	

SB1507

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1539	32F2	楕円形	U字状	17.63	17.28	32	24	35		P1539-1540:1.72m	
P1540	32F3	楕円形	台形状	17.62	17.32	34	24	30		P1540-1511:3.12m	
P1511	32F12	楕円形	U字状	17.60	17.10	36	26	50		P1511-1446:3.12m	
P1446	31F15	長楕円形	台形状	17.56	17.36	48	28	20		P1446-1508:1.69m	
P1508	31F10	楕円形	半円状	17.64	17.37	44	36	27		P1508-1509:3.08m	
P1509	32F1	方形	U字状	17.64	17.10	36	32	54		P1509-1539:2.72m	

SB1444

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1445	31F9	楕円形	台形状	17.67	17.39	48	40	28		P1445-1447:4.72m	
P1447	32F16	楕円形	半円状	17.68	17.38	60	50	30		P1447-1449:1.32m	
P1449	31F20	楕円形	U字状	17.70	17.28	36	28	42		P1449-1502:1.32m	
P1502	31F25	長方形	U字状	17.68	17.32	32	24	36		P1502-1506:1.28m	
P1506	31F24・25	楕円形	台形状	17.68	17.40	56	39	28		P1506-1505:1.48m	
P1505	31F24	楕円形	半円状	17.70	17.40	45	36	30		P1505-1504:1.08m	
P1504	31F23	方形	半円状	17.68	17.50	32	28	18		P1504-1503:2.20m	
P1503	31F18	楕円形	半円状	17.70	17.38	52	40	32		P1503-1501:1.28m	
P1501	31F13	方形	弧状	17.68	17.55	36	32	13		P1501-1448:1.32m	
P1448	31F13・14	不整形	台形状	17.68	17.28	52	44	40		P1448-1445:1.40m	

SB1430

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1431	31F18	円形	漏斗状	17.64	17.22	46	44	42		P1431-1432:1.40m	
P1432	31F19	円形	半円状	17.63	17.37	30	28	26		P1432-1433:2.08m	
P1433	31F20	円形	半円状	17.68	17.40	38	34	28		P1433-1434:1.52m	
P1434	32F16	方形	半円状	17.66	17.32	32	28	34		P1434-1436:1.16m	
P1436	32F21	楕円形	半円状	17.69	17.28	54	38	41		P1436-1424:0.96m	
P1424	32F21	長方形	台形状	17.70	17.26	56	40	44		P1424-1441:2.20m	
P1441	32G1	円形	U字状	17.66	17.19	38	36	47		P1441-1440:1.56m	
P1440	31G5	方形	半円状	17.62	17.36	40	38	26		P1440-1439:2.08m	
P1439	31G4	円形	半円状	17.60	17.30	32	30	30		P1439-1438:1.48m	
P1438	31G3	方形	半円状	17.64	17.02	32	28	62		P1438-1437:1.12m	
P1437	31F23	円形	半円状	17.62	17.36	38	30	26		P1437-1435:2.08m	
P1435	31F18	楕円形	半円状	17.64	17.44	46	36	20		P1435-1431:1.24m	

SB1578

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1562	24H19・24	方形	台形状	17.56	17.34	48	44	22		P1562-1573:7.56m	
P1573	25I6・7	楕円形	弧状	17.73	17.37	98	76	36		P1573-1572:2.50m	
P1572	24I15、25I11	楕円形	台形状	17.67	17.35	92	66	32		P1572-1569:2.54m	
P1569	24J20	楕円形	弧状	17.60	17.32	82	60	28		P1569-1579:2.92m	
P1579	24I14	円形	U字状	17.55	17.22	32	30	33		P1579-1560:4.72m	
P1560	24I2	円形	階段状	17.54	17.10	56	54	44		P1560-1561:2.48m	
P1561	24H23	楕円形	漏斗状	17.56	17.17	58	46	39		P1561-1562:2.36m	

SB842

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P840	29H6・7	長方形	台形状	17.74	17.24	136	90	50		P840-839:2.20m	
P839	29H7・12・13	長方形	台形状	17.80	17.36	120	100	44		P839-838:1.44m	
P838	29H13・18	方形	台形状	17.79	17.32	96	90	47		P838-837:1.66m	
P837	29H18・19	長方形	台形状	17.80	17.25	110	88	55		P837-836:1.78m	
P836	29H23	円形	弧状	17.81	17.68	46	40	13		P836-835:2.36m	
P835	29H22、29I2	方形	台形状	17.82	17.25	96	92	57		P835-834:1.76m	
P834	29H21・22	長方形	台形状	17.74	17.24	88	72	50		P834-832:1.60m	
P832	29H16	長方形	台形状	17.60	17.30	96	76	30		P832-831:2.00m	
P831	29H15・20	長方形	台形状	17.50	17.18	128	98	32		P831-841:2.12m	
P841	29H11	円形	階段状	17.75	17.59	38	36	16		P841-840:1.88m	

第17表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (5)

( ) は現存値

観 察 表

SB270

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P266	31I1	方形	U字型	17.80	17.26	48	44	54	柱痕有	P226-265:1.48m	
P265	31I6・7	方形	階段状	17.80	17.30	44	40	50	柱痕有	P265-263:1.36m	
P263	31I7	方形	階段状	17.82	17.44	40	36	38	柱痕有	P263-261:1.08m	
P261	31I7・8・12・13	長方形	階段状	17.80	17.42	48	40	38	柱痕有	P261-260:1.96m	
P260	31I12	方形	階段状	17.80	17.40	56	56	40	柱痕有	P260-259:2.02m	
P259	31I16・17	方形	階段状	17.82	17.30	50	48	52	柱痕有	P259-268:3.92m	
P268	30I15	方形	階段状	17.78	17.06	66	58	72	柱痕有	P268-267:1.96m	
P267	30I10、31I6	方形	階段状	17.80	17.10	52	48	70	柱痕有	P267-266:2.12m	

SB250

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P224	31H7・8	円形	台形状	17.78	17.28	62	56	50	柱痕有	P224-223:1.72m	
P223	31H13	楕円形	台形状	17.78	17.36	42	32	42		P223-222:1.62m	
P222	31H18	方形	階段状	17.80	17.34	52	50	46	柱痕有	P222-230:1.28m	
P230	31H17	楕円形	U字状	17.78	17.50	44	32	28		P230-229:1.36m	
P229	31H17	楕円形	台形状	17.80	17.32	64	50	48	柱痕有	P229-228:1.84m	
P228	31H11・16	円形	台形状	17.80	17.45	36	32	35		P228-226:1.72m	
P226	31H11	方形	階段状	17.80	17.22	54	48	58	柱痕有	P226-225:1.20m	
P225	31H7・12	円形	半円状	17.76	17.58	32	28	18		P225-224:1.36m	

SB300

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P304	30H13・14・18・19	方形	階段状	17.82	17.30	92	84	52		P304-305:2.20m	
P305	30H19	方形	階段状	17.82	17.16	96	92	66	柱痕有	P305-306:2.32m	
P306	30H25	長方形	階段状	17.80	17.31	70	58	49	柱痕有	P306-307:2.12m	
P307	30H413・14・18・195	方形	階段状	17.82	17.22	76	72	60	柱痕有	P307-308:2.42m	
P308	30I4・8・9	方形	階段状	17.85	17.26	82	82	59	柱痕有	P308-301:2.24m	
P301	30I3	方形	階段状	17.82	17.26	88	80	56	柱痕有	P301-302:2.18m	
P302	30H22	方形	階段状	17.82	17.28	76	72	54	柱痕有	P302-303:2.12m	
P303	30H17・18・22・23	長方形	階段状	17.84	17.09	92	76	75	柱痕有	P303-304:2.36m	

SB370

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P369	31H22	方形	U字状	17.80	17.26	40	36	54		P369-231:2.08m	
P231	31H23	円形	台形状	17.80	17.31	56	48	49		P231-232:1.92m	
P232	31I4	楕円形	U字状	17.80	17.08	56	44	72		P232-248:1.96m	
P248	31I3・8	楕円形	台形状	17.82	17.32	56	40	50		P248-258:1.98m	
P258	31I8・13	方形	階段状	17.80	17.20	44	38	60	柱痕有	P258-277:1.56m	
P277	31I7	方形	台形状	17.82	17.62	22	22	20		P277-269:2.44m	
P269	31I1	長方形	台形状	17.80	17.22	56	40	58		P269-237:1.76m	
P237	31H22	方形	U字状	17.80	17.02	48	44	78		P237-369:1.96m	

SB961

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P991	33H6	円形	箱状	17.62	17.39	64	56	23		P991-994:3.58m	
P994	33H11・16	円形	台形状	17.62	17.40	50	44	22		P994-995:1.76m	
P995	32H20	円形	階段状	17.66	17.46	52	47	20		P995-996:1.62m	
P996	32H19・20	円形	階段状	17.66	17.28	54	53	38		P996-997:1.54m	
P997	32H19	円形	階段状	17.65	17.51	48	41	14		P997-1373:1.72m	
P1373	32H18	円形	半円状	17.72	17.57	30	29	15		P1373-960:2.26m	
P960	32H8・13	円形	階段状	17.65	17.37	51	47	28		P960-993:1.50m	
P993	32H9	円形	半円状	17.64	17.47	53	52	17		P993-992:1.58m	
P992	32H10	円形	半円状	17.58	17.45	63	62	13		P992-991:1.86m	

SB967

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P1365	32I9	円形	半円状	17.55	17.30	32	30	25		P1365-1364:3.16m	
P1364	32I15	長方形	台形状	17.60	17.28	42	32	32		P1364-1363:3.36m	
P1363	33I21	方形	半円状	17.63	17.28	36	32	35		P1363-1362:2.32m	
P1362	32I5	円形	半円状	17.66	17.32	52	44	34		P1362-1361:3.44m	
P1361	32I19・24	方形	半円状	17.60	17.05	70	64	55		P1361-1360:2.90m	
P1360	32I13	方形	弧状	17.54	17.40	52	48	14		P1360-1365:3.00m	

SB1580

柱穴 番号	位置 (グリッド)	平面形	断面形	標高 (m)		規模 (cm)			柱遺存 状況	柱間寸法 (m)	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ			
P365	31H18	楕円形	半円状	17.80	17.56	24	20	24		P365-1202:1.60m	
P1202	31H18	円形	U字状	17.80	17.51	24	24	29		P1202-236:2.22m	
P236	31H23	円形	半円状	17.80	17.52	28	28	28		P236-367:2.04m	
P367	31H17・22	方形	U字状	17.80	17.42	24	24	38		P367-365:2.18m	

第18表 北新田遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 (6)

( ) は現存値

畑作溝 I-1 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
602	22	-	28C~D	5.63	0.50	6	台形状	単層	N-83° -E		
603	22	-	28C~D	2.68	0.28	10	台形状	単層	N-80° -E		
604	22	-	28D	2.86	0.29	15	半円状	単層	N-96° -E		
605	14	21	28C	5.91以上	0.60	11	弧状	単層	N-80° -E		調査区外に延びる
606	14	-	28C	5.05以上	0.51	12	不整形	単層	N-84° -E		調査区外に延びる
607	14	-	28C	3.72以上	0.43	5	弧状	単層	N-81° -E		調査区外に延びる
608	14	-	28C	3.63以上	0.52	7	弧状	単層	N-81° -E		調査区外に延びる
609	14	21	27~28C	3.44以上	0.40	11	弧状	単層	N-84° -E	SD609<SD610	調査区外に延びる
610	14	21	27~28C	4.53	0.25	11	弧状	単層	N-100° -E	SD609<SD611	

畑作溝 I-2 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
571	22	-	29D~E・30D	5.64	0.27	6	弧状	単層	N-81° -E	SI570・P816<SD571	
572	22	-	29D~E・30D	6.68	0.27	4	弧状	単層	N-82° -E	SI570<SD572	
573	22	-	29D~E・30D	7.00	0.34	4	弧状	単層	N-82° -E	SI570<SD573	
574	22	-	29D	6.41	0.26	3	弧状	単層	N-81° -E	SI570<SD574	
575	22	-	29D	7.34	0.32	3	弧状	単層	N-82° -E	SI570・P820<SD575	
576	22	-	29D	6.84	0.25	6	弧状	単層	N-82° -E	SI570<SD576	
577	22	-	29D	6.85	0.25	4	弧状	単層	N-83° -E	SI570<SD577	
578	22	-	29D	7.43	0.24	6	弧状	単層	N-82° -E	P591<SD578	
579	22	-	29D	5.49	0.20	5	弧状	単層	N-80° -E	P1583<SD579	
580	22	-	29D	4.51	0.20	6	弧状	単層	N-82° -E		
584	22	-	29D	6.91	0.24	6	弧状	単層	N-82° -E	P1582<SD584	

畑作溝 I-3 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
619	22	-	28D~E	7.49	0.36	6	台形状	単層	N-91° -E	P618・P646・P735・P753・P754<SD619	
620	22	-	28D~E	8.97	0.24	7	半円状	単層	N-90° -E	P644・P742・P752<SD620	
621	22	-	28D~E	7.28	0.39	9	半円状	単層	N-97° -E		
736	22	-	28E・29D~E	7.91	0.32	6	弧状	単層	N-100° -E	SI570・P737・P755<SD736	

畑作溝 II-1 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
316	56	-	31I~J	10.19以上	0.35	8	弧状	単層	N-91° -E		調査区外に延びる
317	56	59	31I	12.41以上	0.27	6	弧状	単層	N-87° -E		調査区外に延びる
318	56	59	31I	14.04	0.28	5	弧状	単層	N-85° -E	SI203<SD217・219<SD318	
319	56	59	31I~J	17.03	0.22	5	弧状	単層	N-89° -E	SI203<SD217・219<SD319	
320	56	59	30~31J・31I	7.380	0.22	4	弧状	単層	N-90° -E	SK284<SD320	

畑作溝 II-2 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
338	54	-	29J	2.23以上	0.37	8	弧状	単層	N-94° -E		調査区外に延びる
348	54	-	29J	4.17	0.36	18	不整形	単層	N-97° -E		
349	54	-	29J	3.41	0.48	8	半円状	単層	N-93° -E		
350	54	-	29J	3.89	0.34	4	弧状	単層	N-91° -E		
377	54	-	29J	3.51	0.42	7	不整形	単層	N-88° -E		
378	54	-	29J	2.25	0.34	11	台形状	単層	N-93° -E		
379	54	-	29J	2.19	0.34	5	半円状	単層	N-98° -E		
380	54	-	29J	3.94	0.29	5	半円状	単層	N-95° -E		
381	54	-	29J	3.26	0.32	9	半円状	単層	N-96° -E	P385<SD381	
382	54	-	29J	5.40	0.37	12	不整形	単層	N-89° -E		
383	54	-	29~30I	0.97	0.35	8	弧状	単層	N-104° -E		
384	54	-	29I	2.18	0.29	6	弧状	単層	N-96° -E		
389	54	-	29I~J	5.63	0.29	11	台形状	単層	N-95° -E		
390	54	-	29I~J	6.09	0.23	4	弧状	単層	N-88° -E		
391	54	-	29I	2.17	0.24	4	弧状	単層	N-89° -E		
392	54	-	29I	4.28	0.34	3	弧状	単層	N-94° -E		
393	54	-	29I	2.86	0.29	15	半円状	単層	N-97° -E		
395	54	-	29J	0.83	0.32	8	弧状	単層	N-97° -E		
397	54	-	29J	2.10	0.34	8	半円状	単層	N-91° -E		
398	56	-	30J	1.72	0.30	9	台形状	単層	N-74° -E		

第19表 畑作溝観察表 (1)

観 察 表

畑作溝Ⅱ-3群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
321	56	-	30J	2.52以上	0.64	18	不整形	単層	N-80° -E		調査区外に延びる
322	56	59	30J	3.47以上	0.56	19	不整形	単層	N-91° -E		調査区外に延びる
323	56	59	30J	1.53	0.28	9	半円状	単層	N-83° -E		
324	56	59	30J	4.76以上	0.53	22	不整形	単層	N-92° -E	SD324 < P340	調査区外に延びる
325	56	59	30J	5.42以上	0.39	23	不整形	単層	N-92° -E		調査区外に延びる
326	56	59	30J	6.46以上	0.55	28	半円状	単層	N-93° -E		調査区外に延びる
331	56・54	-	29～30J	7.90以上	0.51	4	弧状	単層	N-94° -E	SD331 = P342	調査区外に延びる
332	56・54	-	29～30J	5.07以上	0.42	11	台形状	単層	N-90° -E	SD332 = SD333	調査区外に延びる
333	56・54	-	29～30J	5.64以上	0.43	30	不整形	単層	N-90° -E	SD333 = SD332	調査区外に延びる
334	56・54	-	29～30J	6.65以上	0.32	9	半円状	単層	N-92° -E		調査区外に延びる
335	56・54	-	29～30J	9.64以上	0.32	9	半円状	単層	N-93° -E		調査区外に延びる
336	56・54	-	29～30J	7.09	0.38	9	半円状	単層	N-93° -E		
337	56・54	-	29～30J	9.27以上	0.50	15	不整形	単層	N-94° -E		調査区外に延びる
1222	56	-	30J	3.05	0.31	7	半円状	単層	N-99° -E		

畑作溝Ⅱ-4群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
310	56	-	31J～K	4.87以上	0.33	10	半円状	単層	N-78° -E		調査区外に延びる
311	56	-	31J～K	6.99以上	0.48	10	台形状	単層	N-79° -E		調査区外に延びる
312	56	59	31J～K	10.16以上	0.48	6	不整形	単層	N-77° -E	SK615 < SD616	調査区外に延びる
313	56	59	31J～K	7.15以上	0.39	10	不整形	単層	N-76° -E	攪乱されている	調査区外に延びる
314	56	59	31J～K	11.62以上	0.28	6	半円状	単層	N-76° -E		調査区外に延びる
315	56	59	30J～K・31J～K	9.85以上	0.44	10	不整形	単層	N-77° -E		調査区外に延びる

溝 (SD) 観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)					
358	39・56	45	30H	8.50	0.23	12	半円状	単層	N-83° -E	P297・P303・P304・P354 < SD358	
402	25	26	30E	4.74	0.30	8	弧状	単層	N-174° -E	SD402 = SD403	
403	25	26	30E	4.37	0.28	5	弧状	単層	N-137° -E	SD402 = SD403	
407	39	45	30F	7.34	0.49	10	台形状	単層	N-95° -E	SD407 < P410、SK428 < SD407、P809 < SD407、P810 < SD407、P812 = SD407、P933 < SD407	
408	25	26	30E～F	6.88	0.37	8	弧状	単層	N-29° -E	SD408 = SD484	
465	25	26	30C・31D	14.62	0.38	8	弧状	単層	N-176° -E	SK466 < SD465	
484	25	26	30E～F・31C	2.40	0.41	15	台形状	単層	N-110° -E	SD484 < P485、SD408 = SD484	
554	33	36	29E～F	3.16	0.43	19	半円状	単層	N-89° -E		
555	33	38	29E	1.21	0.44	34	半円状	単層	N-91° -E		
556	22・33	38	29E	4.30	0.45	10	弧状	単層	N-77° -E		
557	22・33	38	29E	1.56	0.38	10	弧状	単層	N-77° -E	SD557 = SD558	
558	22・33	38	29E	3.93	0.50	13	弧状	単層	N-76° -E	SD557 = SD558	
582	22・33	38	29F	1.29	0.60	20	半円状	単層	N-85° -E		
616	22	24	28D	1.32	0.25	13	半円状	単層	N-91° -E	SK615 < SD616	
782	33	38	28～29F	6.06	0.35	10	弧状	単層	N-84° -E	SD789 < SD782、P783 < SD782	
846	46	47・48	31～32G	6.32以上	0.40	14	半円状	2層水平	N-178° -E	SI848 < SD846、SI847 < SD846	調査区外に延びる
866	39	45	31G	2.54	0.55	30	半円状	単層	N-92° -E		
867	39	45	30G	2.56	0.27	16	半円状	単層	N-92° -E		
868	39	45	30G	3.22	0.48	11	不整形	単層	N-89° -E		
869	39	45	31G	1.19	0.52	25	半円状	単層	N-95° -E	SE870 < SD869	
914	33	38	29G	1.42	0.72	28	不整形	2層水平	N-97° -E		
1009	29	32	28F	5.81	0.46	26	漏斗状	3層レンズ状	N-90° -E		
1010	29	32	27～28F	6.01	0.34	12	不整形	単層	N-90° -E		
1011	29	32	27～28E・28F	7.41	0.59	13	台形状	単層	N-177° -E		
1407	27	28	32C～D・33D	8.18以上	0.44	5	不整形	単層	N-12° -E	P1410・P1411 < SD1407	調査区外に延びる
1475	25	26	31E～F	5.56	0.39	13	半円状	単層	N-7° -E	SK1470 < SD1475	

第20表 畑作溝 (2)・溝観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り差し・方向	調整	時期	備考
1	SI1058 カマド	覆土	土師器	高杯 B	杯部 1/3	16	4.2	5.3	酸化炭・褐色	石・白・黒		外面ハケケス、内面黒色処理後ミガキ	7世紀前半	
2	SI1058 カマド	覆土	土師器	杯 C	完形	11	7	32.1	酸化炭・褐色	石・白・黒		外面下平ヘラケズリ	7世紀前半	
3	SI1058 カマド	覆土	土師器	罍 A I	口縁部～底部 2/3	19	7.6	15.9	酸化炭・淡黄褐色	石・白・赤・黒		外面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	風化激しい
4	SI1058 カマド	覆土	土師器	罍 A II	口縁部～底部 3/4	12.6	7.7	14.3	酸化炭・褐色	石・白・黒		外面ハケケス	7世紀前半	風化激しい
5	SI1058 カマド	覆土	土師器	罍 B	口縁部～底部 2/3	13.8	5.5	12.1	酸化炭・褐色	石・赤・黒・礫		外面ハケケス、内面ハケケス	7世紀前半	風化激しい
6	SI1058 カマド	覆土	土師器	高杯	完形	11.4	9.6	10.9	還元炭・暗青灰色	石・白・黒・角		外面輪積み痕、内面ハケケス	7世紀前半	底部多孔 (6穴)
7	SI1058 カマド	覆土	土師器	須臾器	完形	5.3	6.6	7	酸化炭・淡黄褐色	黒・礫		外面外縁 2本	7世紀前半	能登流か
8	SI1058 カマド	覆土	土師器	支脚	口縁部～底部 1/2	15.4	14.3	15.7	酸化炭・褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	内面スス付着
9	SI1855P133	覆土	土師器	罍 B II	完形	16.6	6	11.2	酸化炭・灰白色	石・赤・黒・礫		外面ハケケス、下平ヘラケズリ、輪積み痕	7世紀前半	
10	SI1855P133	覆土	土師器	罍 B	完形	16.6	5	13.3	酸化炭・淡黄褐色	石・赤・黒		外面ハケケス、下平ヘラケズリ	7世紀前半	底部多孔 (10穴)
11	SI1855P133	覆土	土師器	支脚	完形	5	12	7	酸化炭・淡黄褐色	石・白・黒		内外面ハケケズリ	7世紀前半	中実
12	SI1855P133	覆土 1.1.2	土師器	壺	体部～底部 1/3	10	6.6	4	酸化炭・褐色	石・白・黒		内外面ハケケス、ヘラケズリ	7世紀前半	
13	SI1855P133	覆土 1.1.2	土師器	壺	体部～底部 1/3	10	6.6	4	酸化炭・褐色	石・白・黒		内外面ハケケス、ヘラケズリ	7世紀前半	
14	SI202 (31G21)	覆土 1	土師器	罍	口縁部破片	22	16.8	20	酸化炭・淡黄褐色	石・白・赤		口縁部削文	古墳時代前期 (5～6期)	風化激しい、北陸精西部分影系
15	SI670 (29E13)	覆土 2	土師器	罍	口縁部破片	22	6	20	酸化炭・淡黄褐色	石・白・赤		内外面ハケケス	7世紀前半	
16	SI670 (29D19.24・29E9.13)	覆土 2	土師器	罍 A I	口縁部～底部 2/3	18	5	27.8	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・角		内外面ハケケス、内面ヘラケズリ	7世紀前半	
17	SI670 カマド	覆土 2	土師器	罍 A I	口縁部～底部 1/2	20.4	7	23.5	酸化炭・褐色	石・白・黒・角		内外面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	底部単孔
18	SI670 (29D23)	覆土 2	土師器	罍 A	体部～底部 1/3	20.4	7	23.5	酸化炭・褐色	石・白		内外面ハケケス、内面ヘラケズリ	7世紀前半	底部単孔
19	SI670 (29D23)	覆土 2	土師器	罍 A	体部～底部 1/3	20.4	7	23.5	酸化炭・褐色	石・白		内外面ハケケス、ヘラケズリ	7世紀前半	底部単孔
20	SI670 (29D18)	覆土 2	土師器	須臾器	体部破片	11.6	6.6	4	還元炭・灰色	石・白・角		口縁部ナデ	7世紀前半	右地か
21	SI670 カマド	覆土	土師器	支脚	一部欠損	4.9	3.7	9.5以上	酸化炭・明黄褐色	石・白		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
22	SI670 カマド	覆土	土師器	支脚	一部欠損	3.7	4.2	10以上	酸化炭・明黄褐色	石・白		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
23	SI670 (29D23)	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
24	SI670 (29D18)	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
25	SI670 (29D18)	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
26	SI670 カマド	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
27	SI670 カマド	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
28	SI670 カマド	覆土 2	土師器	支脚	一部欠損	4.2	8.4	20	酸化炭・にぶい黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	中実
29	SI4403	覆土	土師器	罍 B	底部破片	7	7	7.8	酸化炭・淡黄褐色	石・白・黒・雲		外面ハケケス、内面輪積み痕	7世紀前半	底部多孔
30	SI601	覆土 1	土師器	罍 A I	完形	18.2	15.2	7	酸化炭・淡黄褐色	石・白・黒・雲		外面ハケケス、下平ヘラケズリ、内面ハケケス	7世紀前半	底部多孔
31	SI601	覆土 1	土師器	杯 A	完形	17.3	7	26.3	酸化炭・淡黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、下平ヘラケズリ、内面ハケケス	7世紀前半	底部多孔
32	SI833 (27G10)	覆土	土師器	杯 A	完形	17.3	7	26.3	酸化炭・淡黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、下平ヘラケズリ、内面ハケケス	7世紀前半	底部多孔
33	SI833 (27G9)	覆土	土師器	杯 A	完形	17.3	7	26.3	酸化炭・淡黄褐色	石・白・雲		外面ハケケス、下平ヘラケズリ、内面ハケケス	7世紀前半	底部多孔
34	SI1054 (27F78)	覆土 1	土師器	器台 A	口縁部 1/3	11.8	17.8	9.8	酸化炭・褐色	石・白・黒・角		内外面ハケケス	古墳時代後期 (2期)	風化激しい
35	SI1054 (27F78)	覆土 1	土師器	器台 A	口縁部 1/3	11.8	17.8	9.8	酸化炭・褐色	石・白・黒・角		内外面ハケケス	古墳時代後期 (2期)	風化激しい
36	SI1054 (27F77)	覆土 1	土師器	器台 A	口縁部～体部破片	17	17	15.1	還元炭・明黄褐色	石・白・黒・雲		外面ハケケス	古墳時代前期 (5期以降)	風化激しい
37	SI1054 (27F76)	覆土 1	土師器	器台 A	口縁部～体部破片	17	17	15.1	還元炭・明黄褐色	石・白・黒・雲		外面ハケケス	古墳時代前期 (5期以降)	風化激しい
38	SI930	覆土	土師器	高杯 A	口縁部～器部 3/4	18.2	10.2	15.1	還元炭・淡褐色	石・赤・黒・雲・礫		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	7世紀前半	
39	SI931 カマド	覆土	土師器	罍 A I	完形	17.3	7	26.3	酸化炭・淡黄褐色	石・白		内外面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	
40	SI931 カマド	覆土	土師器	罍 A I	口縁部～底部 2/3	20.2	7	23.8	還元炭・灰白色	石・白		内外面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	
41	SI931 (29G13)	覆土	土師器	罍 A II	口縁部～底部 2/3	14.8	12.4	9.8	還元炭・灰白色	石・白・黒		外面ハケケス、内面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	外面スス付着
42	SI931 カマド	覆土	土師器	須臾器	体部～底部破片	12.4	5.2	9.8	還元炭・灰白色	石・白・黒		外面ハケケス、内面ハケケス、輪積み痕	7世紀前半	
43	SI931 カマド	覆土	土師器	支脚	完形	5.2	5.2	9.8	還元炭・明黄褐色	石・白・赤		口縁部ナデ	9世紀?	
44	SI201 (29H4.5)	覆土 2	土師器	高杯 A I	口縁部～器部 3/4	25.6	10.2	15.1	還元炭・明黄褐色	石・白・赤		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	7世紀前半	中実
45	SI201 (29H4.5.10)	覆土 2	土師器	器台 A	口縁部～器部 1/2	14.2	14.2	7.7	還元炭・淡黄褐色	石・白		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
46	SI201 (30H6)	覆土 2	土師器	器台 A	口縁部～器部 1/2	12.2	13.4	7.7	還元炭・明黄褐色	石・黒・角		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	北陸北東部大型有稜高杯
47	SI201 (29G25)	覆土 2	土師器	器台 H	完形	8.9	10.6	9.5	還元炭・灰白色	石・白・黒		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
48	SI201 (29G25)	覆土 2	土師器	器台 H	完形	8.9	10.6	9.5	還元炭・灰白色	石・白・黒		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
49	SI201 (29H5)	覆土 2	土師器	器台 M	完形	10.1	10.8	9	還元炭・褐色	石・白・黒		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
50	SI201 (29H4.5)	覆土 2	土師器	器台 M	完形	8.2	12.2	9	還元炭・褐色	石・白・黒		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
51	SI201 (29G25)	覆土 2	土師器	器台 N	口縁部～器部 2/3	8.2	10.2	9	還元炭・褐色	石・白・黒・角		杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	脚部透孔 3
52	SI201 (30H1)	覆土 2	土師器	器台	脚部 1/2	11.2	11.2	3.6	還元炭・淡黄褐色	石・白・赤・黒		杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	脚部透孔 3
53	SI201 (29H5)	覆土 2	土師器	器台	脚部 1/2	12.6	12.6	3.6	還元炭・淡黄褐色	石・白		杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	脚部透孔 3
54	SI201 (30H6)	覆土 2	土師器	器台	完形	8.4	8.4	6.2	還元炭・淡黄褐色	石・白・角		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	外面赤彩
55	SI201 (29H15)	覆土 2	土師器	鉢 A	口縁部～底部 1/4	16.4	2	6.2	還元炭・淡黄褐色	石・白・黒		外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面黒色処理後ミガキ、杯部内面輪積み痕・指印圧痕	古墳時代前期 (6期)	外面赤彩
56	SI201 (29H9)	覆土 2	土師器	鉢 A	杯部 1/3	13.6	13.6	6.2	還元炭・淡黄褐色	石・白・黒		内外面ハケケス	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
57	SI201 (30H1)	覆土 2	土師器	鉢 A	杯部 1/3	13.2	13.2	6.2	還元炭・淡黄褐色	石・白・角		内外面ハケケス	古墳時代前期 (6期)	杯部内外面赤彩
58	SI201 (29H5)	覆土 2	土師器	鉢 K	口縁部破片	13.2	7.8	16.1	還元炭・褐色	石・白・角		内外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面輪積み痕	古墳時代前期 (6期)	内外面赤彩
59	SI201 (29H15)	覆土 2	土師器	器 C	完形	7.8	4	16.1	還元炭・褐色	石・白・黒・雲		内外面ハケケス、ヘラケズリ、杯部内面輪積み痕	古墳時代前期 (6期)	風化激しい

第 21 表 北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表 (1)

観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り差し・方向	調整	時期	備考
60	SI201 (29H5)	覆土2	土師器	甕N	口縁部~底部1/2	18.2	7.8	32.7	酸化赤・浅黄褐色	石・白・礫		頸部外面のみ目、外部外面ハケメ	古墳時代前期 (6期)	畿内系二重口縁甕
61	SI201 (30H11)	覆土2	土師器	甕	体部~底部1/2	4			酸化赤・浅黄褐色	石・白・角		外面ハラミガキ	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
62	SI201 (29H15)	覆土2	土師器	甕	体部~底部1/2	2			酸化赤・明赤褐色	石・白・礫		外面ハラミガキ?	古墳時代前期 (6期)	外面赤彩
63	SI201 (29H11)	覆土2	土師器	甕B	完形	4.4	5.4	6.7	酸化赤・浅黄褐色	石・白・赤		内外面ハケメ	古墳時代前期 (6期)	風化激しい
64	SI201 (29G25・29H15)	覆土2	土師器	甕	口縁部~底部1/2	19.6	3	27.6	酸化赤・浅黄褐色	石・白・礫		内外面ハケメ	古墳時代前期 (6期)	底面外面コガ付着
65	SI201 (29H9)	覆土2	土師器	?	胴部1/2	9.2			酸化赤・浅黄褐色	石・白・礫		内外面ハケメ	古墳時代前期 (6期)	外面赤彩
66	SI202 (31H6)	覆土2	土師器	高杯A	口縁部~底部3/4	19.6	11.6	14.9	酸化赤・浅黄褐色	石・白・赤・黒		外面ハラミガキ、 内部内面黒色処理後ミガキ、 胴部内面輪積み痕・指面圧痕	7世紀前半	
67	SI202 (31H6)	覆土2	土師器	杯B?	口縁部~体部破片	16.4			酸化赤・浅黄褐色	石		内面黒色処理後ミガキ	7世紀前半	
68	SI202 (31H1)	覆土	土師器	杯B	完形	15.5	8	9.5	酸化赤・浅黄褐色	石・白・黒・雲		外面ハラミガキ	7世紀前半	
69	SI202カマド	覆土	土師器	甕A I	口縁部~体部1/3	15.2			酸化赤・浅黄褐色	石・白・雲		外面ハラミガキ	7世紀前半	
70	SI202カマド	覆土	土師器	甕A I	口縁部~体部破片	18.8			酸化赤・明赤褐色	石・白		内外面ハケメ	7世紀前半	外面スス付着
71	SI202 (31H1)	覆土2	土師器	甕A II	口縁部~体部破片	14.5			酸化赤・褐色	石・白・角		内外面ハケメ	7世紀前半	風化激しい
72	SI202カマド	覆土	土師器	甕B I	口縁部~体部破片	16.6			酸化赤・浅黄褐色	石・白・赤		内外面ハケメ	7世紀前半	風化激しい
73	SI202 (31H1)	覆土2	土師器	甕B	体部1/3				酸化赤・褐色	石・白・黒		内外面ハケメ	7世紀前半	風化激しい、底面穿孔
74	SI202 (31H6)	覆土2	土師器	甕A	口縁部~底部1/2	21.2	9	24.5	酸化赤・浅黄褐色	石・白・雲・角		外面ハラミガキ、内面ハケメ	7世紀前半	底面多孔 (9穴)
75	SI202 (31H1)	覆土2	土師器	甕B	完形	16	6.6	12.3	酸化赤・浅黄褐色	石・白		外面ハラミガキ	7世紀前半	中美
76	SI202カマド	覆土	土師器	支脚	完形	3.9		8.2	酸化赤・明赤褐色	石・白		外面ハラミガキ	7世紀前半	草書：体部外面「丁」カ「力」
77	SI871 (30G5)	覆土	須恵器	杯蓋BIV	頂部~底部2/3	11.9	2.8	2.2	還元赤・灰色	石・白		外面上半口コケズリ	9世紀中葉	小注窯産
78	SI871 (31G6.10)	覆土	須恵器	杯蓋A III	頂部~底部破片	12.8		2.2	還元赤・灰色	石・白		外面上半口コケズリ	9世紀中葉	小注窯産
79	SI871 (31G5)	覆土	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部3/4	12	8.6	3.6	還元赤・浅黄褐色	白・黒		口コケナデ?	9世紀中葉	風化激しい
80	SI469 (30F6)	覆土1	須恵器	杯蓋I	体部~底部破片	16.8			還元赤・浅黄褐色	白		口コケナデ	9世紀中葉	流寺窯産
81	SI469 (30F1)	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部破片	11.4	6.8	3.6	還元赤・灰色	白		口コケナデ	9世紀中葉	流寺窯産
82	SI469 (30F6)	覆土1	須恵器	甕	体部破片	22			還元赤・灰色	白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	流寺窯産
83	SI848カマド	覆土	土師器	甕A I	口縁部~体部1/3	16	7.4	29.4	還元赤・褐色	石・白・雲・礫		内外面ハケメ、輪積み痕	7世紀前半	風化激しい
84	SI848 (32G10.12)	覆土	土師器	甕A I	口縁部~底部2/3	16	8.4		還元赤・褐色	石・雲・礫		内外面ハケメ、輪積み痕、内面輪積み痕	7世紀前半	風化激しい
85	SI848カマド	覆土	土師器	甕A	体部~底部2/3	19.6			還元赤・浅黄褐色	黒・雲・礫		内外面ハケメ、輪積み痕、内面輪積み痕	7世紀前半	風化激しい
86	SI848カマド	覆土	土師器	甕?	口縁部~体部1/3	10.8		30以上	還元赤・浅黄褐色	石・白・角		内外面輪積み痕	7世紀前半	風化激しい
87	SI848 (25H10.14)	覆土	土師器	カマド芯材?	口縁部~体部2/3	23.8			還元赤・浅黄褐色	石・白・角		外面ヨコナデ	古墳時代前期 (5~6期)	円筒形、風化激しい
88	SI825 (25H20)	覆土	土師器	高杯C	杯蓋破片	17.8			還元赤・浅黄褐色	石・白・礫		外面ヨコナデ	古墳時代前期 (5~6期)	風化激しい、東海系
89	SI203 (32H1)	覆土	土師器	甕A I?	口縁部破片	18			還元赤・浅黄褐色	石・白・礫		内外面ハケメ	古墳時代前期 (5~6期)	風化激しい
90	SI847 (32G17)	覆土	須恵器	有台杯BIV	口縁部~底部破片	9.8	6.8	5	還元赤・灰色	石・白・黒	糸切り・右	口コケナデ	9世紀中葉	流寺窯産
91	SI1201 (30I7)	覆土	須恵器	杯蓋II	口縁部~底部破片	12.7			還元赤・灰色	石・白		口コケナデ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
92	SI1171P1075	覆土1	須恵器	杯	体部~底部破片	13.8			還元赤・灰色	石・白		口コケナデ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
93	SI1460P592	覆土	須恵器	杯蓋II	体部~底部破片	15			還元赤・青灰色	石・白		口コケナデ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
94	SI828P18	覆土	須恵器	甕	体部~底部破片	15			還元赤・浅黄褐色	石・白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	外面自然釉
95	SI828P18	覆土	須恵器	甕	体部破片	15			還元赤・浅黄褐色	石・白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	外面自然釉
96	SI845P757	覆土1	須恵器	有台杯	底面破片	6.6			還元赤・灰色	石・白		口コケナデ	9世紀中葉	輪積み痕?
97	SI846P600	覆土	須恵器	杯	口縁部破片	13.8			還元赤・青灰色	石・白		口コケナデ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
98	SI1513P1518	覆土	須恵器	杯	口縁部破片	13.8			還元赤・青灰色	石・白		外面上半口コケズリ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
99	SI838P1538	覆土	土師器	杯蓋	頂部~体部1/2	22			還元赤・褐色	石・白		口コケナデ?	9世紀中葉	風化激しい
100	SI838P1536	覆土	土師器	杯蓋II	口縁部~底部破片	12.8			還元赤・褐色	石・白		口コケナデ?	9世紀中葉	風化激しい
101	SI838P1536	覆土	須恵器	杯蓋II	体部~底部破片	12.8			還元赤・褐色	石・白	糸切り・右?	口コケナデ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
102	SI838P1536	覆土	須恵器	杯蓋II	体部破片	12.8			還元赤・褐色	石・白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
103	SI838P1536	覆土	須恵器	長頸甕	胴部~底部3/4	7.5			還元赤・褐色	白・黒		口コケナデ、体部外面コケズリ	9世紀中葉	西丘陵の窯産 (流寺窯か)
104	SI827P267	覆土1	須恵器	甕	体部破片				還元赤・褐色	石・白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	外面自然釉
105	SI300P304	覆土	須恵器	深鉢	体部破片				還元赤・褐色	白・角		羽状縄文回輪施文後沈線、一部磨消	縄文時代後期中葉	遺構には伴わない、混入か。
106	SI370P277	覆土	須恵器	杯蓋I	体部~底部破片	17.2			還元赤・褐色	白		口コケナデ	9世紀中葉	流寺窯産
107	SI896P1992	覆土1	須恵器	有台杯	体部~底部破片	6.1		6.1	還元赤・褐色	石・白		口コケナデ?	9世紀中葉	流寺窯産
108	SE1077	覆土1	須恵器	甕	底面破片	8			還元赤・灰白色	石・白		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	流寺窯産
109	SE1077	覆土1	須恵器	甕	体部破片				還元赤・灰白色	白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	流寺窯産
110	SE1077	覆土1	須恵器	甕	体部破片				還元赤・灰白色	白・黒		外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	流寺窯産
111	SD1220 (28H11)	覆土4	須恵器	甕	体部破片				還元赤・褐色	白・黒		口コケナデ	14世紀	珠洲IV期
112	SE956	覆土2	珠洲焼	深鉢	口縁部破片	28.4			還元赤・灰白色	石・白・礫		口コケナデ	15世紀後半	珠洲VI期
113	SE965	覆土2	珠洲焼	深鉢	口縁部~底部破片	14	13.9		還元赤・褐色	石・白・骨		口コケナデ	14世紀末~15世紀	珠洲V~VI期
114	SE966	覆土2	珠洲焼	深鉢	体部~底部1/2				還元赤・褐色	石・白		口コケナデ	14世紀末~15世紀	青磁を模した朝鮮産か
115	SE966	覆土	珠洲焼	甕	口縁部破片				還元赤・青灰色	石・白・骨		口コケナデ	14世紀末~15世紀前半	珠洲V期
116	SE966	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元赤・青灰色	白・黒		外面平行タタキ、内面無文当て具	14世紀末~15世紀前半	外面スス付着、珠洲V期
117	SE966	覆土	珠洲焼	深鉢	体部破片				還元赤・青灰色	石・白・骨		口コケナデ	15世紀後半	珠洲VI期
118	SE999	覆土5	土師器	有台杯	底面破片	4.9			還元赤・浅黄褐色	石・白		内面黒色処理後ミガキ	10世紀末~11世紀初頭	

第22表 北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表 (2)

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り難し・方向	調整	時期	備考
119	SE999	覆土1	珠洲焼	榑鉢	榑鉢				還元赤・明青灰色	右・白・骨		ロクロナデ	15世紀後半	珠洲V1期
120	SE1000	覆土1	珠洲焼	榑鉢	榑鉢		10		還元赤・灰色	右・白・骨		ロクロナデ	13世紀後半	珠洲III期
121	SK1179	覆土1	土師器	高杯A	杯部破片	17			酸化赤・にぶい黄褐色	右・白		外面ヘラミガキ、内面黒色処理後ミガキ	7世紀前半	
122	SK1179	覆土1	土師器	高杯A I	口縁部～底部破片	19.2			酸化赤・褐色	右・白・骨		内外面ハケメ、内面ヘラナデ	7世紀前半	
123	SK1179	覆土1	土師器	高杯A II	口縁部～底部破片	14.1			酸化赤・褐色	右・白		内外面ハケメ	7世紀前半	
124	SK826	覆土1	土師器	高杯A III	口縁部～底部破片	12.2			酸化赤・褐色	右・白		内外面ハケメ、内面輪痕み痕	7世紀前半	
125	SK929	覆土1	須恵器	有台杯A IV	口縁部～底部破片	9.8	6.4	3.5	還元赤・黒褐色	右・白		外面上半ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
126	SK929	覆土1	須恵器	有台杯A V	口縁部～底部破片	12.6	6.4	3.3	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
127	SK929	覆土1	須恵器	有台杯A VI	口縁部～底部破片	15.2	6	3.6	還元赤・灰褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
128	SK297	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	13	6.4	3.8	還元赤・にぶい褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀前半	酸化激しい
129	SK297	覆土1	土師器	無台碗A II	口縁部～底部破片	12.6	4.8	3.3	還元赤・淡褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀前半	酸化激しい
130	SK297	覆土1	土師器	無台碗A III	口縁部～底部破片	16	11	6.7	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀前半	酸化激しい
131	SK297	覆土1	須恵器	有台杯B I	口縁部～底部破片	12	7.4	3.3	還元赤・灰褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀前半	還元赤産
132	SK297	覆土1	須恵器	有台杯B II	口縁部～底部破片	12	7.4	3.3	還元赤・灰褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀前半	還元赤産
133	SK354	覆土1	須恵器	長頸瓶	口縁部破片				還元赤・灰褐色	右・白・骨		ロクロナデ	古瀬時代	酸化激しい
134	SK889	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	17.2	6.7	4	還元赤・褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	酸化激しい
135	SK1425	覆土1	土師器	無台碗A II	口縁部～底部破片	13.2	6.7	4	還元赤・褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	酸化激しい
136	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部破片	13		2.7	還元赤・灰褐色	右・白・骨		外面上半ロクロナデ	西丘段の窯産(滝寺窯か)	
137	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部破片	12		2.7	還元赤・灰褐色	右・白・骨		外面上半ロクロナデ	西丘段の窯産(滝寺窯か)	
138	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部破片	12		2.7	還元赤・灰褐色	右・白・骨		外面上半ロクロナデ	西丘段の窯産(滝寺窯か)	
139	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部破片	11.6	8.4	3.4	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
140	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A III	口縁部～底部破片	11.8	7.8	3.5	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
141	SK1425	覆土1	須恵器	有台杯A IV	口縁部～底部破片	11	7.4	3.6	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
142	SK844	覆土1	須恵器	有台杯A IV	口縁部～底部破片	10.6	7.3	3.9	還元赤・灰褐色	右・白		外面上半ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
143	SK844	覆土1	須恵器	有台杯A IV	口縁部～底部破片	10.6	7.6	3.5	還元赤・灰褐色	右・白		外面上半ロクロナデ	9世紀第3/4半期	西丘段の窯産(滝寺窯か)
144	SK221	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	13.2	6.6	3.8	還元赤・褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀第2/4半期	酸化激しい
145	SK221	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	21.2			還元赤・褐色	右・白・骨		ロクロナデ	9世紀第2/4半期	酸化激しい
146	SK958	覆土1	土師器	器台A	口縁部～底部破片	20	15	17.7	還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		外面ヘラミガキ	古瀬時代前期?	酸化激しい
147	SK958	覆土1	土師器	器台A	口縁部～底部破片	14.8			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		外面ヘラミガキ	古瀬時代前期?	酸化激しい
148	SD789 (28F25.29G1)	覆土1	須恵器	有台杯B III	口縁部～底部破片	12.6		2.9	還元赤・灰褐色	右・白		外面上半ロクロナデ	9世紀前半	西丘段の窯産(大塚窯か)
149	SD789 (28F25.29G1)	覆土1	須恵器	有台杯B III	口縁部～底部破片	8.9			還元赤・灰褐色	右・白・骨		外面上半ロクロナデ	9世紀前半	西丘段の窯産(大塚窯か)
150	SD406 (30G1)	覆土1	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	5.7			還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀前半	酸化激しい
151	SD845 (32G7)	覆土1	須恵器	無台碗A I	口縁部～底部破片	13.2	6.7	3.7	還元赤・灰褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3/4半期	酸化激しい
152	SD1551 (24J15)	覆土1	土師器	高杯E	杯部～底部破片				還元赤・褐色	右・白・骨		ロクロナデ	古瀬時代前期 (9～10期)	酸化激しい
153	SD1551 (24J15)	覆土1	土師器	器G	口縁部破片	7.8	2	8.2	還元赤・黄褐色	右・白・骨		内面輪痕み痕	古瀬時代前期 (9～10期)	酸化激しい
154	SD312 (31J18)	覆土1	珠洲焼	榑鉢	口縁部破片				還元赤・青灰色	右・白・骨		ロクロナデ	13世紀前半?	珠洲II期?
155	SD1220 (24G8)	覆土4	土師器	高杯F	口縁部破片		12.8		還元赤・青灰色	右・白・骨		ロクロナデ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい、東海系小型器
156	SD1220 (24G8)	覆土4	土師器	器台A	口縁部～底部破片				還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
157	SD1220 (27H15)	覆土4	土師器	器台H	口縁部～底部破片	9.6			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
158	SD1220 (25D3.25E3)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	9.6			還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
159	SD1220 (25D3)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	9.6			還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
160	SD1220 (25E6.7)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	12.6			還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
161	SD1220 (27I5)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	12.8		4.3	還元赤・褐色	右・白・骨		外面ミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
162	SD1220 (28H)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	16.4	2.5	8.5	還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
163	SD1220 (24E8)	覆土4	土師器	器台I	口縁部～底部破片	17.6	8	27.7	還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
164	SD1220 (24F22)	覆土4	土師器	器台I	口縁部～底部破片	16.8			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
165	SD1220 (24G13)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	15			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
166	SD1220 (27I5)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	16.4			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
167	SD1220 (30J13)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	11.8			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
168	SD1220 (30J13)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	11.8			還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
169	SD1220 (30I17)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	5.3			還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
170	SD1220 (30I13)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	14			還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
171	SD1220 (29I15)	覆土4	土師器	器台I	口縁部破片	15			還元赤・淡黄褐色	右・赤		外面ヘラミガキ	古瀬時代前期 (5～6期)	酸化激しい
172	SD1220 (27H11)	覆土4	土師器	杯B	口縁部～底部破片	12.6	7.6	5.2	還元赤・にぶい黄褐色	右・白・骨		外面ヘラミガキ	7世紀前半	酸化激しい
173	SD1220 (27H19)	覆土4	土師器	杯C	口縁部～底部破片	12	6	5	還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		外面ヘラミガキ	7世紀前半	酸化激しい
174	SD1220 (27H13)	覆土4	土師器	杯	口縁部～底部破片	13.4	8		還元赤・淡黄褐色	右・白		内外面ヘラミガキ	7世紀前半	酸化激しい
175	SD1220 (27G23)	覆土4	須恵器	杯	口縁部～底部破片	13.4	4.1	4.1	還元赤・灰褐色	右・白・骨		外面上半ヘラミガキ	7世紀前半	酸化激しい
176	SD1220 (27G2)	覆土4	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	13.4	6.6	4	還元赤・淡黄褐色	右・白・骨		外面上半ヘラミガキ	9世紀前半	酸化激しい
177	SD1220 (27G13)	覆土4	土師器	無台碗A I	口縁部～底部破片	13.2	5.6	4.4	還元赤・褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀前半	酸化激しい

第23表 北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表 (3)

観 察 表 番 号	遺 跡 名、出 土 地 点	層 位	種 類	器 種・細 分	遺 存 部 位、遺 存 率	口 径	底 径	器 高	焼 成・色 調	胎 土	切 り 難 し・方 向	調 整	時 期	備 考
178	SD1220 (30I19)	覆土4	土師器	無台碗A II	完形	12.7	6.1	3.6	酸化炎・褐色	白		ロクロナデ	9世紀中葉	風化激しい
179	SD1220 (27F21)	覆土4	土師器	無台碗A II	口縁部~底部2/3	12.8	7.3	3.4	酸化炎・褐色	右・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀中葉	風化激しい
180	SD1220 (27G18)	覆土4	土師器	無台碗A II	完形	12.4	5.7	4.2	酸化炎・褐色	右・白		ロクロナデ?	9世紀中葉	風化激しい
181	SD1220 (25E)	覆土4	土師器	無台碗A II	口縁部~底部2/3	11.6	6.8	3	酸化炎・浅黄褐色	右・白・赤		ロクロナデ	9世紀中葉	東丘陵の窯跡か
182	SD1220 (25E15.26E11)	覆土4	土師器	無台碗A II	口縁部~底部1/2	12.2	6.8	4.1	還元炎・褐色	右・白・黒・雲		ロクロナデ	8世紀末~9世紀初葉	東丘陵の窯跡か
183	SD1220 (26G6)	覆土4	須恵器	杯蓋A II	口縁部~底部2/3	15.7		2	還元炎・灰色	右・白・黒		外面上半ロクロケズリ	8世紀末~9世紀初葉	東丘陵の窯跡か
184	SD1220 (28I)	覆土4	須恵器	杯蓋A III	完形	12.9		2.1	還元炎・青灰色	右・白・黒		外面上半ロクロケズリ	8世紀末~9世紀初葉	西丘陵の窯跡か
185	SD1220 (27F21)	覆土4	須恵器	杯蓋A IV	口縁部~底部1/3	12.1		2.9	還元炎・灰色	右・白・黒		外面上半ロクロケズリ	9世紀第3~4半期	外面自然釉、西丘陵の窯跡か
186	SD1220 (29I)	覆土4	須恵器	杯蓋B II	口縁部~底部2/3	15.5		3.1	還元炎・灰色	右・白・黒		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
187	SD1220 (26F)	覆土4	須恵器	杯蓋B II	完形	14.9		3.8	還元炎・灰白色	右・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
188	SD1220 (26E)	覆土4	須恵器	杯蓋B II	口縁部~底部2/3	15.4		3.2	還元炎・灰白色	右・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
189	SD1220 (26E11)	覆土4	須恵器	杯蓋B III	口縁部~底部1/2	12.8		3.2	還元炎・褐色	右・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	縮み欠損
190	SD1220 (25H1)	覆土4	須恵器	杯蓋B III	完形	13.5		4.1	還元炎・青灰色	右・白・黒		外面上半ロクロケズリ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
191	SD1220 (27H3)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部1/2	12.2	7.6	3.1	還元炎・青灰色	白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
192	SD1220 (27G23.27H8)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部3/4	11.6	7	4.1	還元炎・青灰色	白・黒	糸切り	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
193	SD1220 (30I19)	覆土2	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部2/3	11.8	7.7	3.8	還元炎・青灰色	白・黒	糸切り	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
194	SD1220 (27F21.27G2)	覆土4	須恵器	有台杯A III	完形	12	7.9	3.6	還元炎・灰色	白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
195	SD1220 (27G18)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部3/4	11.8	7.8	4.1	還元炎・灰色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3~4半期	底部墨書、転用祝か、今熊窯跡か
196	SD1220 (25G30)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部2/3	11.8	7.3	4	還元炎・灰色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
197	SD1220 (27H13)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部1/2	11.4	7.6	3.9	還元炎・灰色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
198	SD1220 (26E11)	覆土4	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部2/3	11.1	7.3	3.6	還元炎・灰色	右・白	糸切り	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
199	SD1220 (27G23)	覆土4	須恵器	有台杯A III	完形	12	8	4	酸化炎・褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
200	SD1220 (27G18)	覆土4	須恵器	有台杯A III	完形	11.7	5.7	4	還元炎・灰白色	右・白・黒		ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
201	SD1220 (27H8)	覆土4	須恵器	有台杯B II	口縁部~底部1/3	13.8	9.3	6.7	還元炎・青灰色	右・白	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
202	SD1220 (28H21)	覆土4	須恵器	有台杯B II	口縁部~底部1/3	14.8	8.2	6.8	還元炎・灰色	右・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第2~4半期	西丘陵の窯跡か
203	SD1220 (27H13)	覆土4	須恵器	有台杯B II	口縁部~底部2/3	14.6	8.8	6.1	還元炎・灰色	白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第2~4半期	西丘陵の窯跡か
204	SD1220 (27F21.27G12)	覆土4	須恵器	有台杯B II	口縁部~底部2/3	14.3	9.6	5.6	還元炎・土赤い褐色	右・白		ロクロナデ	9世紀第2~4半期	西丘陵の窯跡か
205	SD1220 (27G12.17)	覆土4	須恵器	無台杯B II	完形	12	8.3	3	還元炎・灰色	右・白		ロクロナデ	9世紀中葉	佐渡小川窯跡
206	SD1220 (27G2)	覆土4	須恵器	無台杯B II	完形	12	6	3.6	還元炎・土赤い黄褐色	白・黒		ロクロナデ	9世紀中葉	外面火だき痕
207	SD1220 (27G2)	覆土4	須恵器	無台杯B II	口縁部~底部1/3	12.2	5.6	3.9	還元炎・灰色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀中葉	
208	SD1220 (25E20.26E11)	覆土4	須恵器	無台杯B II	口縁部~底部2/3	12	6	3.9	還元炎・灰色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀中葉	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
209	SD1220 (25C21)	覆土4	須恵器	無台杯B II	底部破片	6.4	6.2		還元炎・灰白色	右・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀中葉	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
210	SD1220 (25D3)	覆土4	須恵器	無台杯B II	底部破片	11.5	7	3.5	還元炎・灰白色	右・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	墨書：外部外面「丁」カ「力」。
211	SD1220 (26G23)	覆土4	須恵器	無台杯C II	口縁部~底部2/3	12.5	7	3.6	還元炎・灰白色	右・白	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	内外面火だき痕
212	SD1220 (25G30)	覆土4	須恵器	無台杯C II	完形	12.3	6	3.7	還元炎・灰白色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	
213	SD1220 (27G18)	覆土4	須恵器	無台杯C II	完形	12.3	6	4	還元炎・灰色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	今熊窯跡か
214	SD1220 (27F21.27G18)	覆土4	須恵器	長頸壺	口縁部~底部2/3	11.5	6	4	還元炎・灰色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第3~4半期	渡寺窯跡
215	SD1220 (27G23)	覆土4	須恵器	短頸壺	口縁部~底部破片	8			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	9世紀第3~4半期	外面自然釉
216	SD1220 (27G23)	覆土4	須恵器	壺	口縁部~底部破片	6.4	6		還元炎・青灰色	右・白・黒		ロクロナデ	9世紀中葉	外面自然釉
217	SD1220 (26E11)	覆土4	須恵器	壺	口縁部~底部破片				還元炎・黄褐色	右・白・黒		外面自然釉	9世紀中葉	外面自然釉
218	SD1220 (27H15.24.25・28H16)	覆土4	須恵器	壺	頸部~底部破片				還元炎・灰色	右・白・黒		頸部外面半行タタキ、内面同心円当て具	9世紀中葉	外部外面自然釉
219	SD1220 (27G23・28H16.21)	覆土4	須恵器	壺	口縁部破片	39.6			還元炎・灰色	白・黒		外面前部波状文	9世紀中葉	内外面自然釉
220	31J8	I	縄文土器	鉢	口縁部破片	19			酸化炎・浅黄褐色	右・白・雲・角		L&R編文?回転施文後残線3条	縄文時代晩期後半	風化激しい
221	31I9	I	土師器	高杯C	杯部1/2				酸化炎・浅黄褐色	右・白・角		内外面ハケメ	古墳時代前期	古墳時代前期
222	31H17	I	土師器	器台M	口縁部~底部3/4	8	10.4	8.3	酸化炎・褐色	右・白・角		外面ハラミヤギ	古墳時代前期	古墳時代前期
223	26D12	I	土師器	高杯A	杯部破片	17.6			酸化炎・土赤い黄褐色	右・白		内面黒色地埋後ミマガキ	古墳時代後期	古墳時代後期
224	25C15	I	土師器	壺	頸部~底部破片				酸化炎・浅黄褐色	右・白・黒・角		内外面ハケメ、内面輪郭みズリ	古墳時代後期	古墳時代後期
225	31G9	I	土師器	壺B I	口縁部~底部1/4	17.6	8.6	16.8	還元炎・褐色	右・白・黒・雲		外面輪郭みズリ、下半ハラミヤギ、内面ハケメ?	古墳時代後期	古墳時代後期
226	30G22	I	土師器	壺	口縁部~底部破片	14.8			酸化炎・浅黄褐色	白・角		口縁部外面ハケメ、外部内面ハケメ	古墳時代後期?	古墳時代後期?
227	29D18	I	土師器	壺A	口縁部~底部破片	3.6			還元炎・褐色	白・黒		外面上半ロクロケズリ	7世紀末~8世紀初葉	風化激しい、底部穿孔
228	28G1.11	I	須恵器	杯蓋B IV	口縁部~底部2/3	9.8		3.1	還元炎・灰白色	右・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
229	32D11	I	須恵器	杯蓋A III	口縁部~底部2/3	12.6		2.7	還元炎・灰色	白・黒		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
230	31G15	I	須恵器	杯蓋B III	口縁部~底部2/3	13.4		3.2	還元炎・灰白色	右・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀中葉	
231	31G15	I	須恵器	有台杯A III	口縁部~底部1/2	12.2	8.2	4.9	還元炎・灰白色	白・黒	糸切り	ロクロナデ	9世紀中葉	
232	31G15	I	須恵器	無台杯C II	口縁部~底部1/3	11	6.6	3.5	還元炎・灰白色	右・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀中葉	
233	26F20	I	須恵器	無台杯C II	口縁部~底部破片	12.6	5.8	4	還元炎・灰色	右・白・黒		ロクロナデ	9世紀中葉	墨書：外部外面「戊」カ「力」カ

第24表 北新田遺跡 土器・土製品・陶磁器観察表 (4)

北新田遺跡 石器・石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
234	SB270 P267	覆土	剥片石器	不定形石器		2.85	2.9	0.6	4.66	凝灰質頁岩	縄文後期。後世の混入か。
235	SD1220 (25E 15)	覆土4	剥片石器	不定形石器		3.8	2.6	0.5	3.76	安山岩	
236	28G18	I	剥片石器	石鎌	茎部	1.4	0.7	0.3	0.23	凝灰質頁岩	
237	SI1268 P1274	覆土1	礫石器	磨石	完形	8.8	7.8	6.8	810	安山岩	
238	SI1185 (26F20)	覆土1	礫石器	磨石	半分欠損	6.9	10.6	5.6	409	安山岩	
239	SI 201 (29H9)	覆土1	礫石器	磨石	完形	14.7	10.2	6.9	1000	角閃石安山岩	
240	SI 201 (30H1)	覆土1	礫石器	磨石	完形	14.1	10.5	7.7	1854	安山岩	
241	SE1564	覆土3	礫石器	磨石	一部欠損	12.4	6.45	7.35	796	安山岩	縄文早期～前期。特殊磨石。後世の混入か。
242	SE965	覆土2	礫石器	磨石	一部欠損	9.9	10.7	4.7	400	角閃石安山岩	
243	P1251	覆土1	石製品	紡錘車	完形	4.8		2.35	64	滑石	
244	SI201 (30H1)	覆土1	石製品	勾玉	完形	2.25		0.6	2.26	凝灰岩	穿孔
245	SI202 (31H1)	覆土1	石製品	管玉	完形	3.0			0.14	緑色凝灰岩	光沢有する。穿孔。
246	SE1575	覆土5	石製品	砥石	一部欠損	11.3	8.3	3.8	600	砂岩	
247	SE999	覆土2	石製品	砥石	完形	11.2	4.35	5.5	400	砂岩	
248	28E 24	I	石製品	砥石	一部欠損	9.35	6.3	4.0	239	凝灰岩	面取
249	28H20	I	石製品	砥石	完形	11.6	10.0	6.7	800	砂岩	
250	SE965	覆土2	石製品	石臼	破片	26.1	17.4	14.6	21300	安山岩	
251	SE966	覆土2	石製品	石臼	破片	15.2	13.1	9.5	25400	安山岩	
252	SE966	覆土2	石製品	五輪塔・地輪	完形	42.2		18.7	26600	角閃石安山岩	
253	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・火輪	完形	31.1		29.9	29700	角閃石安山岩	
254	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・水輪	完形	31.1		21.7	21300	角閃石安山岩	
255	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・地輪	完形	24.3		19.3	13700	角閃石安山岩	
256	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・火輪	完形	22.1		13.7	7100	角閃石安山岩	
257	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・水輪	完形	26.4		14.8	6500	角閃石安山岩	
258	SE999	覆土5	石製品	五輪塔・地輪	完形	27.6		15.3	9500	角閃石安山岩	

北新田遺跡 金属製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
259	SI469 (30F6)	覆土1	金属製品	鉄滓		7.45	4.4	3.0	99.7	
260	SI833 (27G5)	覆土	金属製品	鉄滓		5.3	4.4	4.0	97.8	

北新田遺跡 木製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	木取り	備考
261	SE999	覆土5	木製品	曲物	底板	18.2	18.4	0.65		柾目	

第25表 北新田遺跡 石器・石製品他観察表

## 要 約

### 北前田遺跡

- 1 北前田遺跡は、新潟県上越市大字上中田字北前田472番地ほかに所在する。遺跡は高田平野の西縁部、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約19mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成19年4月25日～8月1日まで実施した。調査面積はA地区2,500m<sup>2</sup>、B地区610m<sup>2</sup>である。
- 3 調査の結果、古墳時代・古代の遺構、弥生時代・古墳時代・古代・近世の遺物を検出した。
- 4 遺構のほかに河川跡3条を検出した。存続時期は古墳時代前期末～古代と推測される。
- 5 出土土器の総重量は66kgである。その中の約7割は河川跡から出土した。
- 6 古墳時代の遺構は土坑4基である。いずれも前期に比定され、中・後期の遺構は見られない。
- 7 古代の遺構は掘立柱建物6棟、土坑7基、性格不明遺構3基、溝7条である。出土遺物から判断すると、8世紀中葉・9世紀中葉～後半・10世紀中葉と断続的ながらも多時期のものがある。
- 8 土器以外の遺物は河川跡から出土した弥生時代と考えられる剥片石器と古墳時代の石製紡錘車がある。
- 9 古墳時代前期から古代にかけて、断続的に小規模な集落を形成していた可能性が高い。

### 北新田遺跡

- 1 北新田遺跡は新潟県上越市大字荒町字北新田313番地1ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約18mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成19年7月9日～12月6日まで実施した。調査面積は6,550m<sup>2</sup>である。
- 3 調査の結果、縄文時代～中世の遺構・遺物を検出した。
- 4 遺構のほかに河川跡1条を検出した。存続時期は古墳時代前期初頭～古代と推測される。
- 5 出土土器の総重量は338kgである。その中の約5割は遺構内、約3割は河川跡から出土した。
- 6 縄文時代の遺構は陥穴2基である。遺物は早～前期の特殊磨石、後期と晩期の土器がある。
- 7 弥生時代の遺構は検出されないものの、後期の土器がある。
- 8 古墳時代の遺構は竪穴住居17軒、掘立柱建物5棟、土坑30基、性格不明遺構2基、溝1条である。前期と後期に二分され、後期が主体となる。遺物は土師器・須恵器のほか磨石、勾玉、管玉、石製紡錘車がある。
- 9 古代の遺構は竪穴住居4軒、掘立柱建物27棟、井戸の上屋1棟、井戸9基、土坑19基、性格不明遺構1基、溝4条である。遺物は土師器・須恵器がある。時期は9世紀中葉に限定できる。
- 10 中世の遺構は井戸5基である。遺物は珠洲焼・青磁皿のほか砥石、石臼、五輪塔、曲物がある。
- 11 古墳時代前期～中世にかけての集落遺跡で、特に7世紀前半～中葉、及び9世紀中葉に集落規模が大きくなるものと推定できる。

## 引用・参考文献

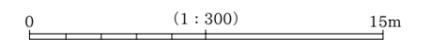
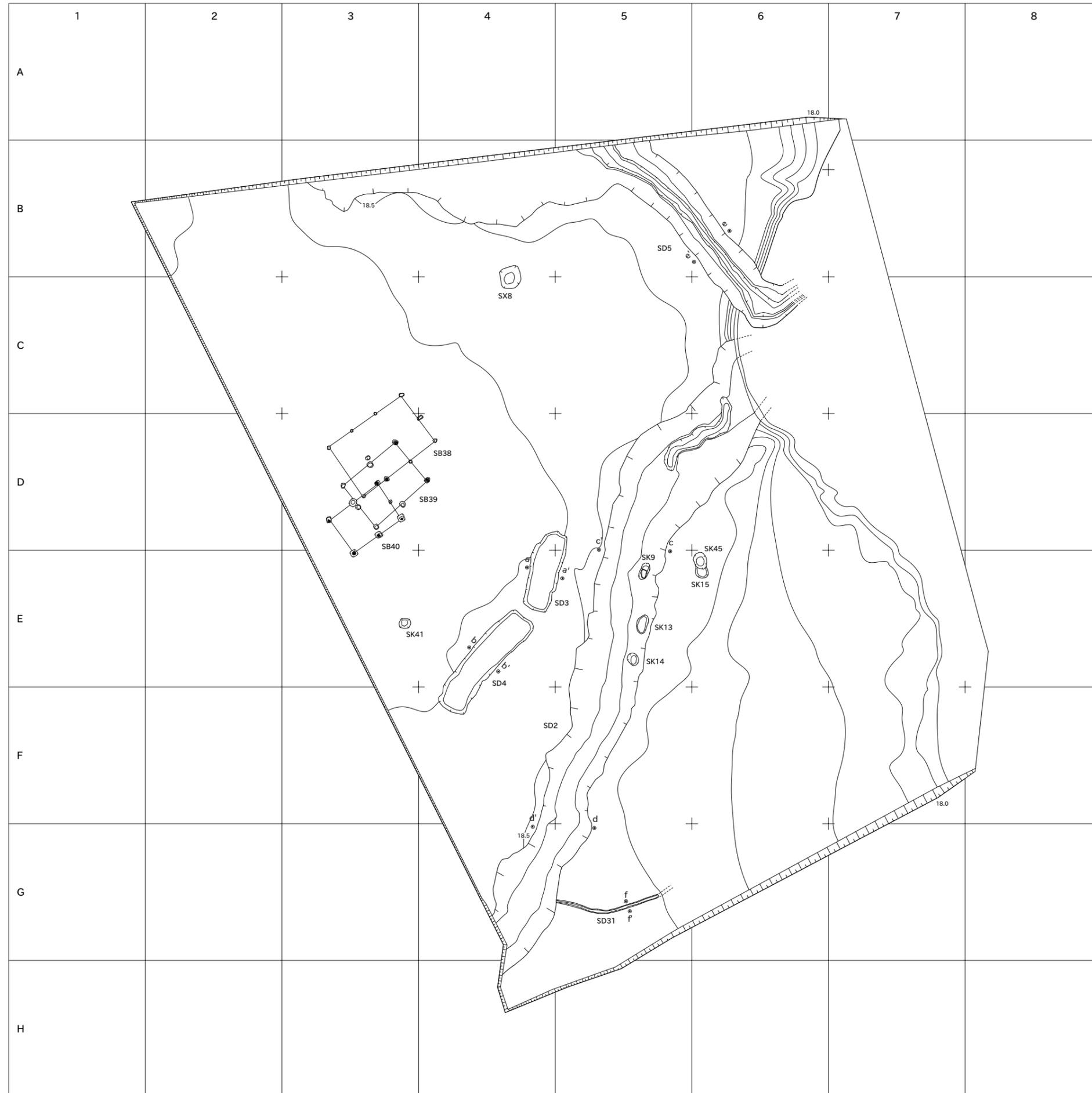
- 相田泰臣 2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相 ―頸城・魚沼地域の土師器を中心として―」『新潟考古』第15号 新潟県考古学会
- 青木 学<sup>ほか</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第168集 中曽根遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 秋田県教育委員会 2005 『厨川谷地遺跡』
- 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 23-45.
- 魚津埋没林博物館 1992 「埋没林のはなし―埋没林研究の歴史を中心として―」富山県魚津市教育委員会
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民族博物館 研究報告 第40集』国立歴史民俗博物館
- 岡本郁栄 1979 「Ⅲ古墳群の位置と地理的環境」『水科古墳群発掘調査報告書』新潟県三和村教育委員会
- 尾崎高宏<sup>ほか</sup> 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第111集 黒田古墳群』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 尾崎高宏<sup>ほか</sup> 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第152集 下馬場遺跡・細田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子<sup>ほか</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第149集 滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1994 「まとめ 古墳時代後期の土器・古墳時代前期の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 一之口遺跡東地区』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2006 「越後における7世紀の土器編年」『新潟考古』第17号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学<sup>ほか</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第159集 用言寺遺跡Ⅰ』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学<sup>ほか</sup> 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第183集 用言寺遺跡Ⅱ』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子拓男 1979 「総括 水科古墳群の頸城古墳群における位置」『水科古墳群発掘調査報告書』新潟県三和村教育委員会
- 金子拓男 1990 「第二節 越後国の成立」『柏崎市史 上巻』新潟県柏崎市
- 金子拓男 1996 「越後国分寺の寺地の所在とその変遷について」『新潟考古』7 新潟県考古学会
- 金子拓男・高橋 保・秦 繁治 1979 『水科古墳群発掘調査報告書』新潟県三和村教育委員会
- 金子拓男<sup>ほか</sup> 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』新潟県黒崎町教育委員会
- 小島幸雄 1979 『岩木地区遺跡発掘調査報告書』新潟県上越市教育委員会
- 小島幸雄 2002 「第四章 古墳とその時代」『上越市史 通史編1 自然・原始・古代』新潟県上越市
- 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27 1-20.
- 小林昌二<sup>ほか</sup> 2004 『新潟県内出土古代文字資料集成』新潟大学
- 小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田啓五 2006 「小林弘珪藻図鑑 第1巻」『(株)内田老鶴園』
- 近藤鍊三 2004 「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト』48 46-64.
- 北野博司 2001 「須恵器の風船技法」『北陸古代土器研究―つぼとかめのつくり方―』第9号 北陸古代土器研究会
- 北野博司 2003a 「津倉田遺跡」『上越市史 資料編2 考古』新潟県上越市
- 北野博司 2003b 「江向遺跡」『上越市史 資料編2 考古』新潟県上越市
- 小池邦明<sup>ほか</sup> 1993 『新潟市の場遺跡』新潟県新潟市教育委員会
- 坂井秀弥 1983 「新潟県上越市本長者原廃寺の再検討―越後国分寺推定地の一例―」『新潟史学』16 新潟史学会
- 坂井秀弥 1993 「上越市今池遺跡国府説・本長者原廃寺国分寺説の現状」『新潟考古学談話会会報』11 新潟考

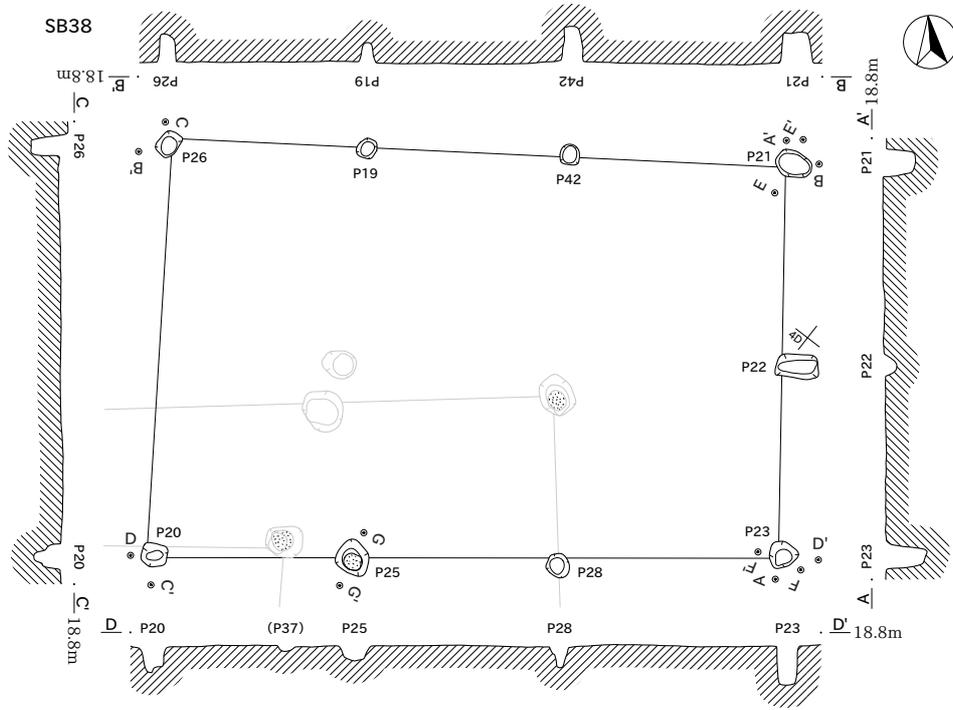
古学談話会

- 坂井秀弥<sup>ほか</sup> 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 笹澤 浩 1986 「凸帯付四耳壺考」『長野県考古学会誌』51 長野県考古学会
- 笹澤正史 1997 「越後頸城郡内の須恵器生産の推移と技術系譜の問題について」『北陸古代土器研究』6 北陸古代土器研究会
- 笹澤正史 1998 「上越市滝寺1号窯跡出土の凸帯付四耳壺」『上越市史研究』3 新潟県上越市
- 笹沢正史<sup>ほか</sup> 1994 『新田畑遺跡発掘調査概要』 新潟県上越市教育委員会
- 笹沢正史<sup>ほか</sup> 1999 『津倉田遺跡』 新潟県上越市教育委員会
- 笹沢正史 2003 「第5章古代 第1節時代概説」『上越市史 資料編2 考古』 新潟県上越市
- 佐藤甲二 2000 「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題—仙台市域の調査事例をととして—」『はたけの考古 日本考古学協会2000年度鹿児島大会資料集』第1集 日本考古学協会
- 鈴木俊成<sup>ほか</sup> 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高田平野団体研究グループ 1981 「高田平野の第四系とその形成史—新潟県の第四系・そのX X IV—」『研究紀要』第25号 新潟大学教育学部高田分校
- 高野武男 2004 「第1部 自然 第1章 大地の生い立ち 第4節 原始・古代・中世の地形と環境の変化」『上越市史 通史編1 自然・原始・古代』 新潟県上越市
- 高橋 勉 1984 『栗原遺跡 第7次・第8次発掘調査報告書』 新潟県新井市教育委員会
- 高橋 勉 1985 『月岡遺跡 範囲確認緊急調査報告書』 新潟県新井市教育委員会
- 高橋保雄<sup>ほか</sup> 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第182集 岩ノ原遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄 2008 「まとめ 遺構について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第182集 岩ノ原遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢規朗 2005a 「越後・佐渡における弥生時代後期～古墳時代前期の「く」字甕について」『三面川流域の考古学』第4号 奥三面を考える会
- 滝沢規朗 2005b 「土器の分類と変遷 —いわゆる北陸系を中心に—」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』 新潟県考古学会
- 巽淳一郎 1991 「12 都の焼物の特質とその変容」『新版 [古代の日本] 第六巻 近畿II』 角川書店
- 巽淳一郎 2006 「近畿地方の8世紀後半の土器」『日本土器事典』 雄山閣
- 田中 靖 1995 『和島村埋蔵文化財調査報告書 第4集 門新遺跡』 新潟県和島村教育委員会
- 鶴巻康志<sup>ほか</sup> 2003 『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』 新潟県新発田市教育委員会
- 東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会 1986 『下宿内山遺跡』
- 東京都清瀬市下宿内山遺跡発掘調査会 1981 『下宿内山遺跡発掘調査概報 No.5』
- 土橋由理子 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第151集 蛇谷遺跡・炭山遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 富山県教育委員会 1975 『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概要(3)』 富山県入善町教育委員会
- 野水晃子<sup>ほか</sup> 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第146集 西川内北遺跡・西川内南遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 橋本博文 2003 「第1節 時代概説」『上越市史 資料編2 考古』 新潟県上越市
- 秦 繁治・植木 宏 1990 『岡嶺遺跡発掘調査報告書』 新潟県清里村教育委員会
- 原口和夫・三友清史・小林 弘 1998 「埼玉の藻類 珪藻類」『埼玉県植物誌』 埼玉県教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2007 「用言寺遺跡の自然科学分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第183集 用言寺遺跡II』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 平川 南 2000 「墨書土器とその字形」『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- 細井佳浩<sup>ほか</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第166集 土居下遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫 1996 「珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について —混合群集の認定と堆積環境の解釈—」日本文化財科学会 第13回大会研究発表要旨集

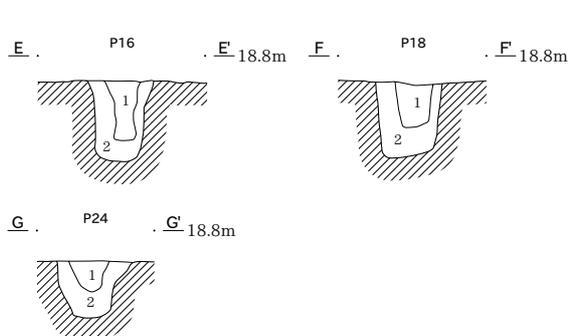
- 松井 健・近藤鳴雄 1992 『土の地理学—世界の土・日本の土—』 朝倉書店
- 柳沢幸夫 2000 「Ⅱ -1-3-2- (5) 計数・同定. 化石の研究法—採集から最新の解析法まで—」『化石研究会』 共立出版株式会社
- 吉井雅勇 2007 「荒川町道端遺跡出土の楕円礫について—古墳時代中後期の編物用石錘の出土例—」『新潟考古学談話会会報』第33号 新潟考古学談話会
- 吉岡康暢 1983 『東大寺領横江庄遺跡』 石川県松任市教育委員会・石川考古学研究会
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 2005 『淡水珪藻生態図鑑』 内田老鶴圃
- 渡邊裕之ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第138集 台の上遺跡 峪ノ上遺跡・五反田遺跡』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10, 35-47.
- Hustedt, F.,1937-1939,Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java,, Bali und Sumatra. Archiv für Hydrobiologie, Supplement, 15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,16:274-394.
- Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHECADIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988, Bacillariophyceae.2.Teil:Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnantheaceae,Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4. Gustav Fischer Verlag,
- Lowe, R.L,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- Vos, P.C. & H. de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects.Hydrobiologica,269/270,285-296.

# 図 版

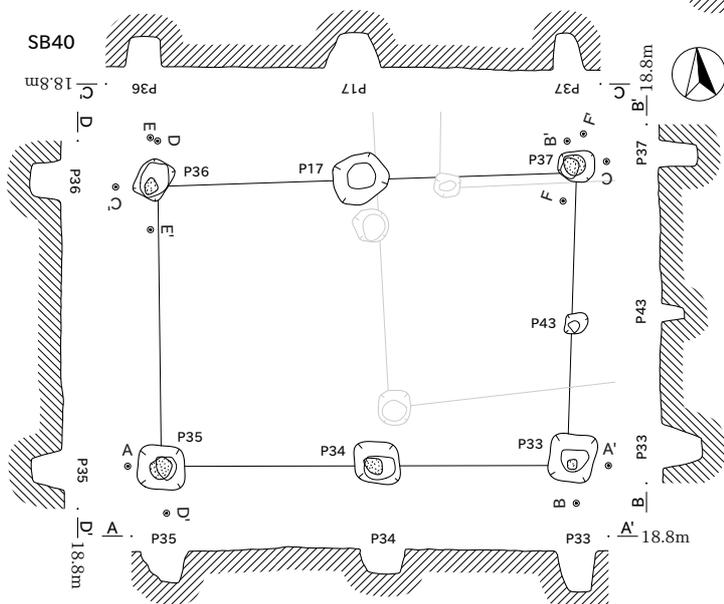
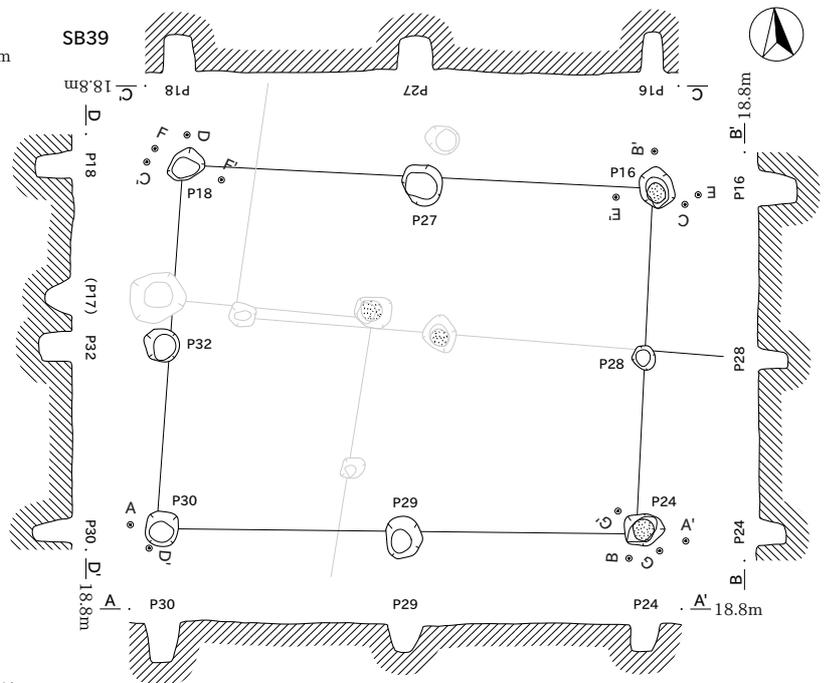




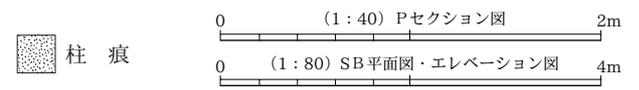
- E . P21 . E 18.8m
- F . P23 . F 18.8m
- G . P25 . G 18.8m
- P21  
1 灰色粘質シルト+灰黄褐色シルト しまりやや強、粘性やや強。灰白色シルトブロック多量含む。
- P23  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや強。浅黄色シルトブロック中量含む。
- P25  
1 褐灰色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。灰白色シルトブロック少量含む。  
2 灰色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強。

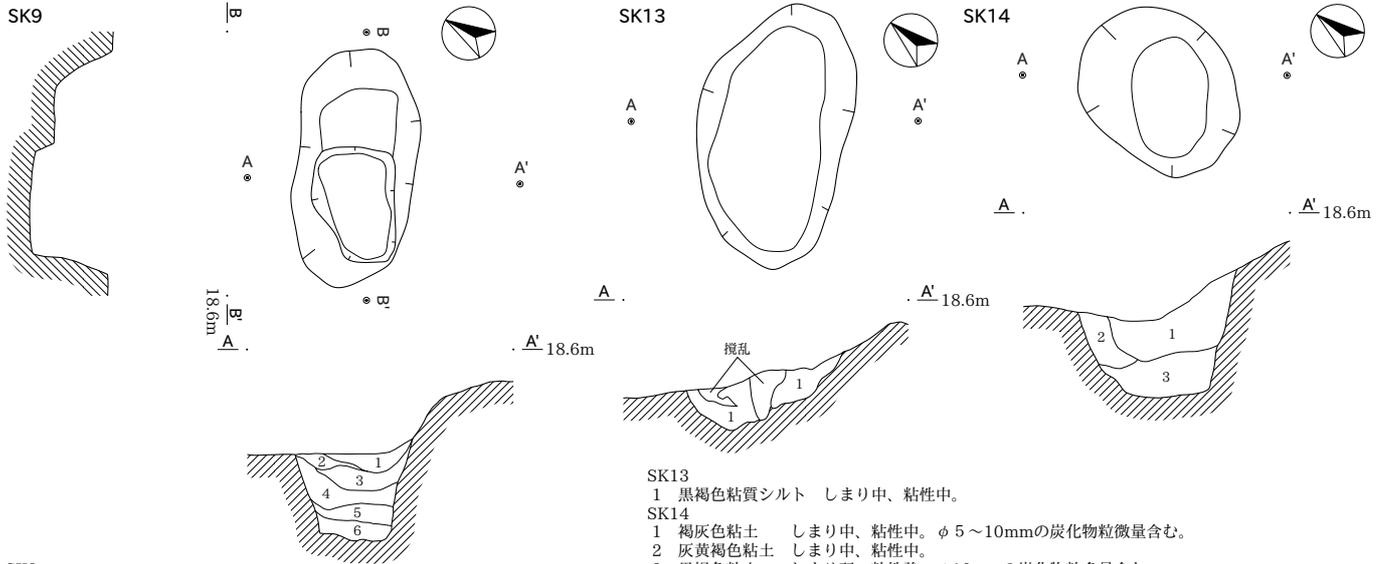


- P16  
1 灰白色シルト しまり弱、粘性やや強。灰白色シルトブロック多量含む。  
2 灰白色シルト しまりやや強、粘性やや弱。
- P18  
1 灰黄褐色シルト+灰色粘質シルト しまりやや弱、粘性やや強。灰白色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物粒少量含む。  
2 灰白色粘質シルト+灰黄褐色シルト しまりやや強、粘性やや強。灰白色シルトブロック少量含む。
- P24  
1 褐灰色粘質シルト しまりやや弱、粘性やや強。灰白色シルトブロック多量含む。  
2 灰白色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強。灰黄褐色シルトブロック多量含む。



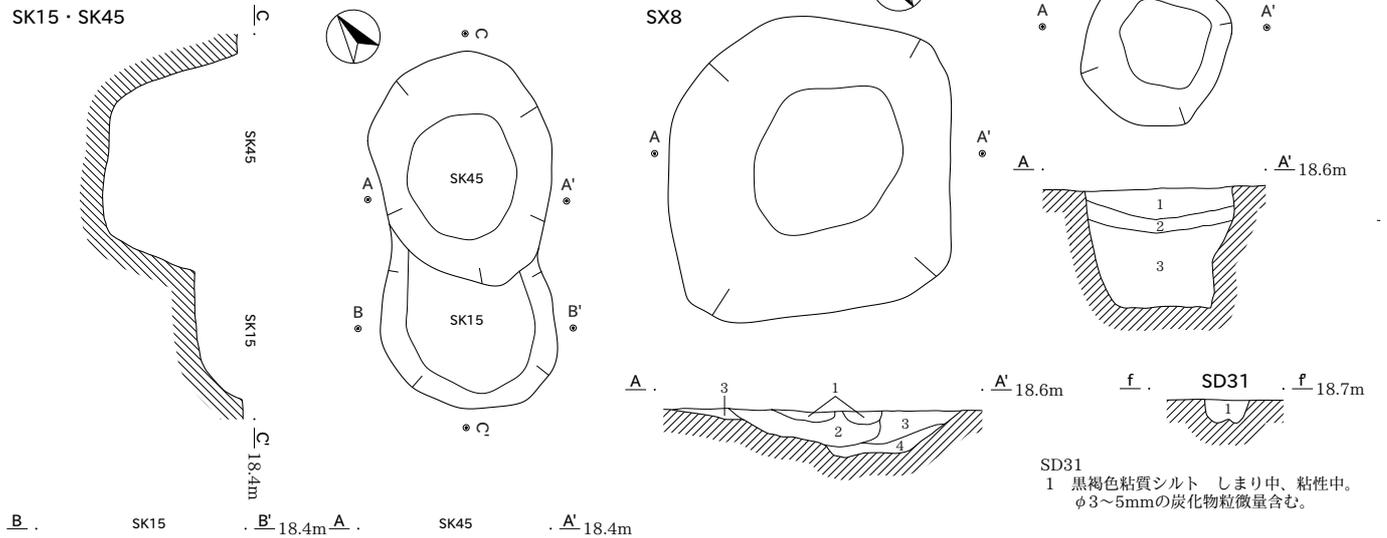
- E . P36 . E 18.8m
- F . P37 . F 18.8m
- P36  
1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。灰白色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物粒少量含む。  
2 灰黄褐色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強。灰白色シルトブロック中量、φ1mm以下の炭化物粒少量含む。
- P37  
1 褐灰色シルト しまりやや弱、粘性中。φ2mm以下の炭化物粒少量含む。  
2 灰黄褐色シルト しまり強、粘性中。





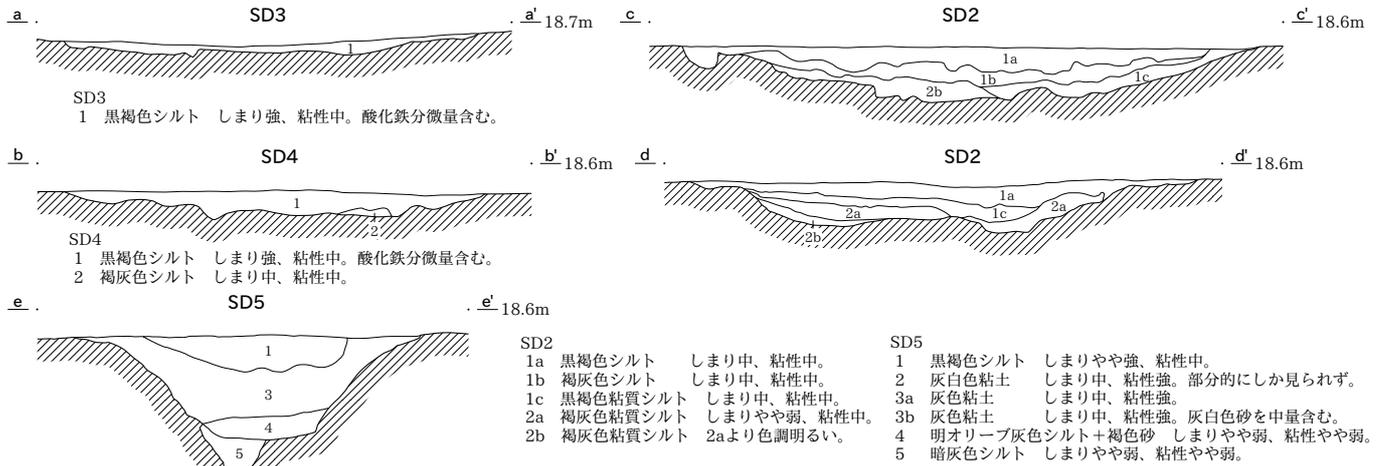
- SK9
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物粒微量含む。
  - 2 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物粒微量含む。
  - 3 褐灰色粘質シルト しまりやや弱、粘性強。
  - 4 明黄褐色砂質シルト しまり中、粘性やや弱。φ3~5mmの炭化物粒微量含む。
  - 5 にぶい黄褐色砂質シルト しまり弱、粘性やや弱。
  - 6 黒褐色粘質シルト しまり弱、粘性強。φ3~5mmの炭化物粒多量含む。

- SK13
- 1 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性中。
- SK14
- 1 褐灰色粘土 しまり中、粘性中。φ5~10mmの炭化物粒微量含む。
  - 2 灰黄褐色粘土 しまり中、粘性中。
  - 3 黒褐色粘土 しまり弱、粘性強。φ10mmの炭化物粒多量含む。



- SK45
- 1 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性中。φ5~10mmの炭化物粒微量含む。
  - 2 褐灰色粘土 しまり中、粘性やや強。
  - 3 灰黄褐色粘土 しまり中、粘性中。
  - 4 灰黄褐色粘土 しまり中、粘性中。明黄褐色土ブロック中量含む。
  - 5 明黄褐色シルト しまり中、粘性弱。壁崩落土。
  - 6 灰黄褐色粘土 しまり中、粘性強。φ5~10mmの炭化物粒多量、明黄褐色シルト中量含む。

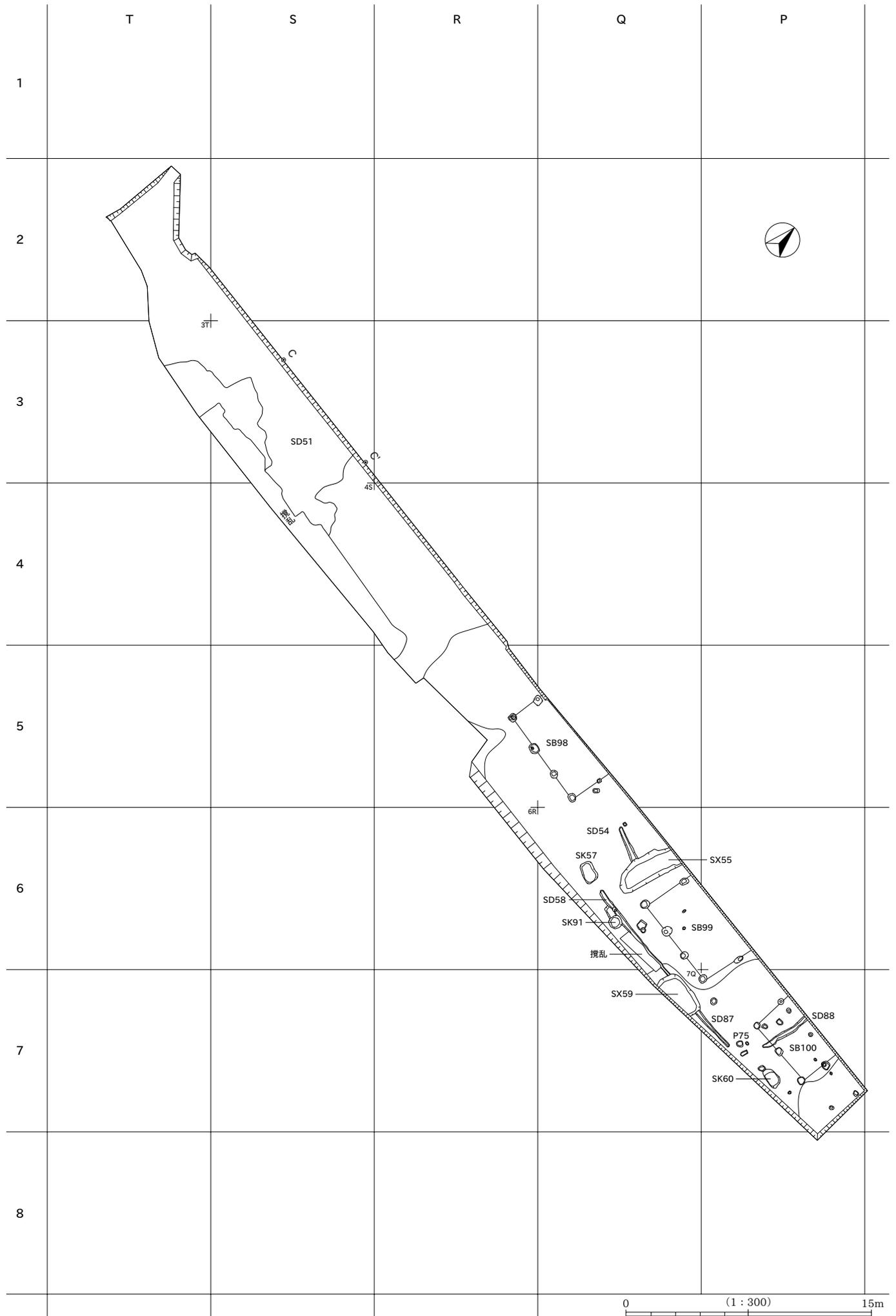
- SK41
- 1 褐灰色シルト しまりやや弱、粘性やや強。φ1mm前後の炭化物粒微量含む。
  - 2 明オリブ灰色シルト+褐灰色シルト しまりやや強、粘性やや強。
  - 3 褐灰色シルト+明黄褐色シルト しまりやや弱、粘性やや強。φ2mm以下の炭化物粒少量含む。



- SD3
- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性中。酸化鉄分微量含む。

- SD4
- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性中。酸化鉄分微量含む。
  - 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

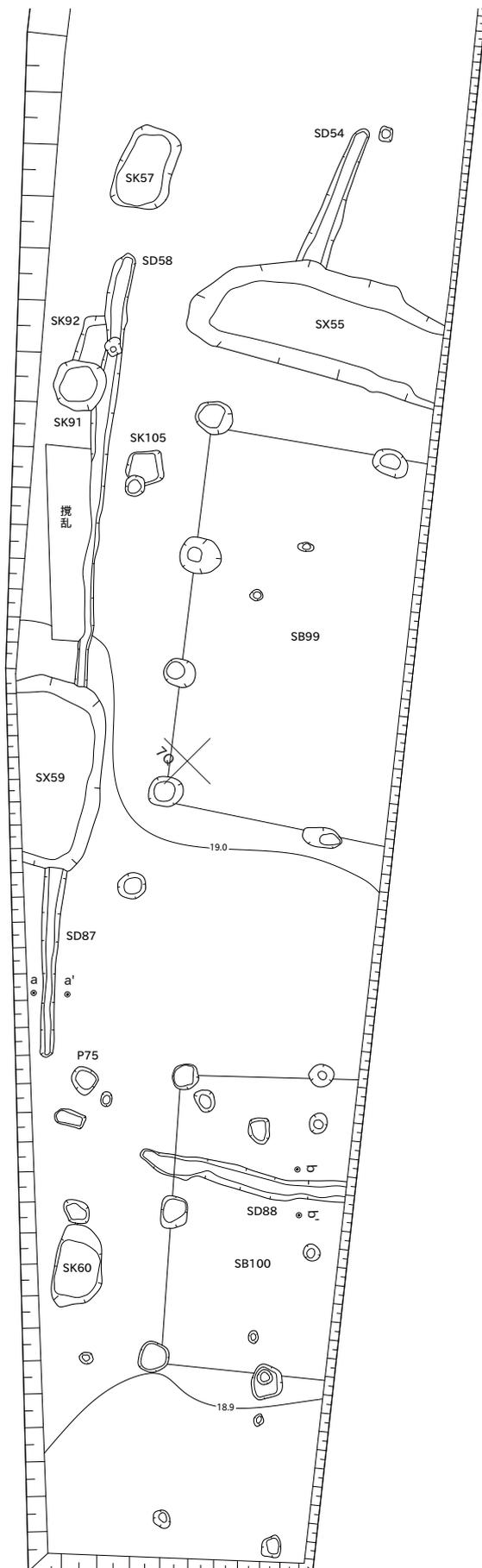
- SD5
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 1a 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 1b 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
  - 1c 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性中。
  - 2a 褐灰色粘質シルト しまりやや弱、粘性中。
  - 2b 褐灰色粘質シルト 2aより色調明るい。
  - 2 灰白色粘土 しまり中、粘性強。部分的にしか見られず。
  - 3a 灰色粘土 しまり中、粘性強。
  - 3b 灰色粘土 しまり中、粘性強。灰白色砂を中量含む。
  - 4 明オリブ灰色シルト+褐色砂 しまりやや弱、粘性やや弱。
  - 5 暗灰色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。





7R

6Q

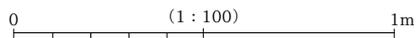


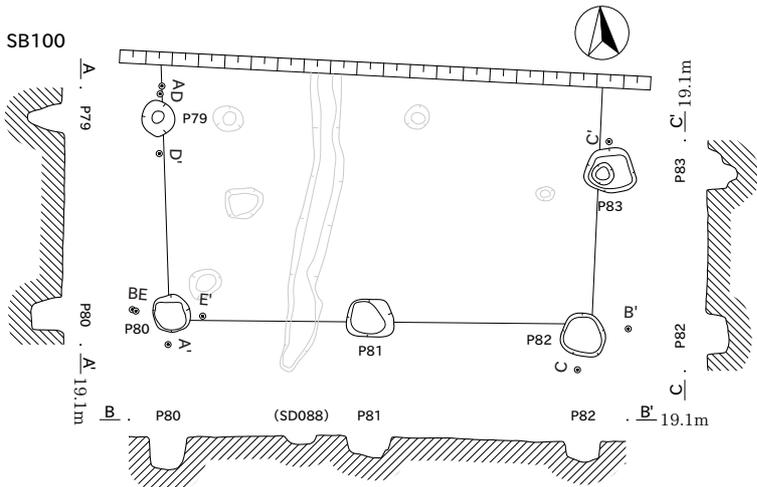
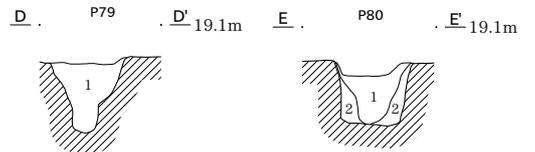
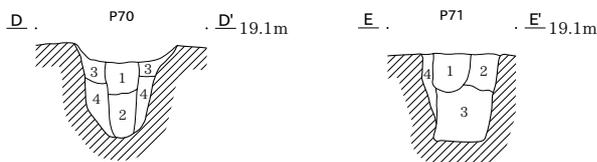
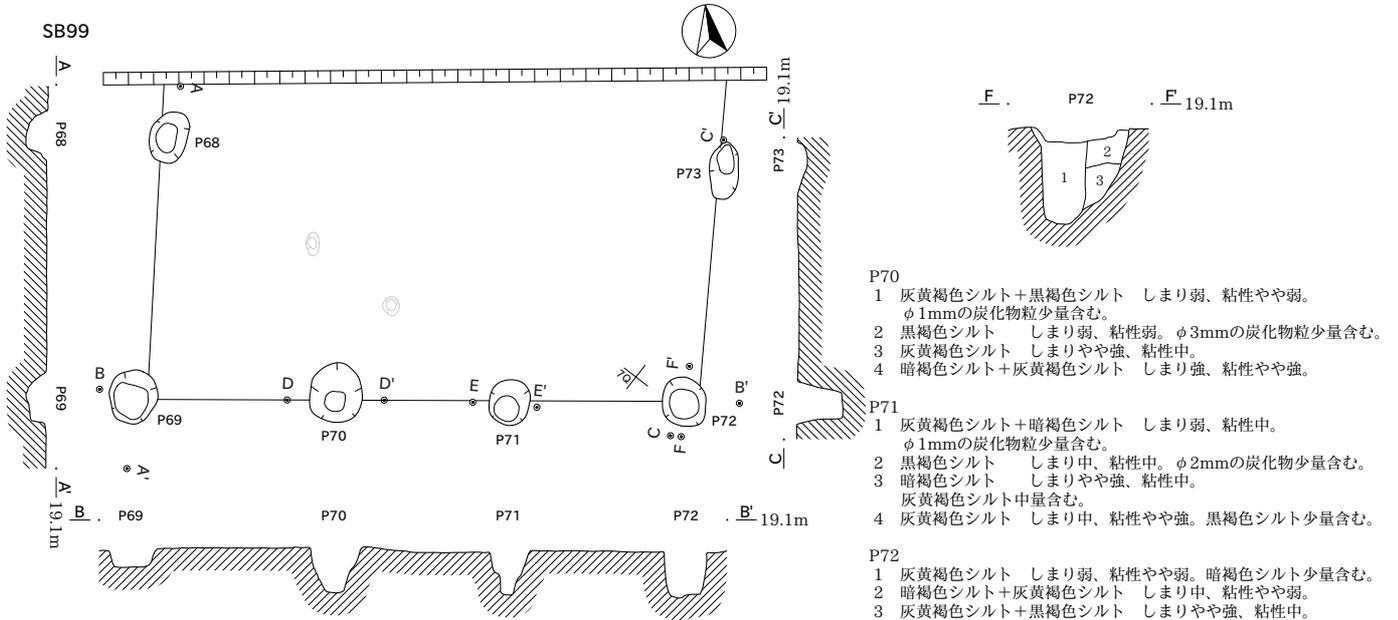
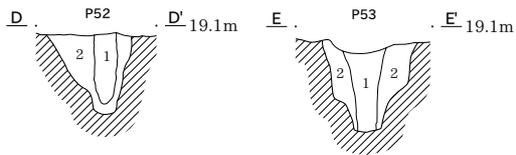
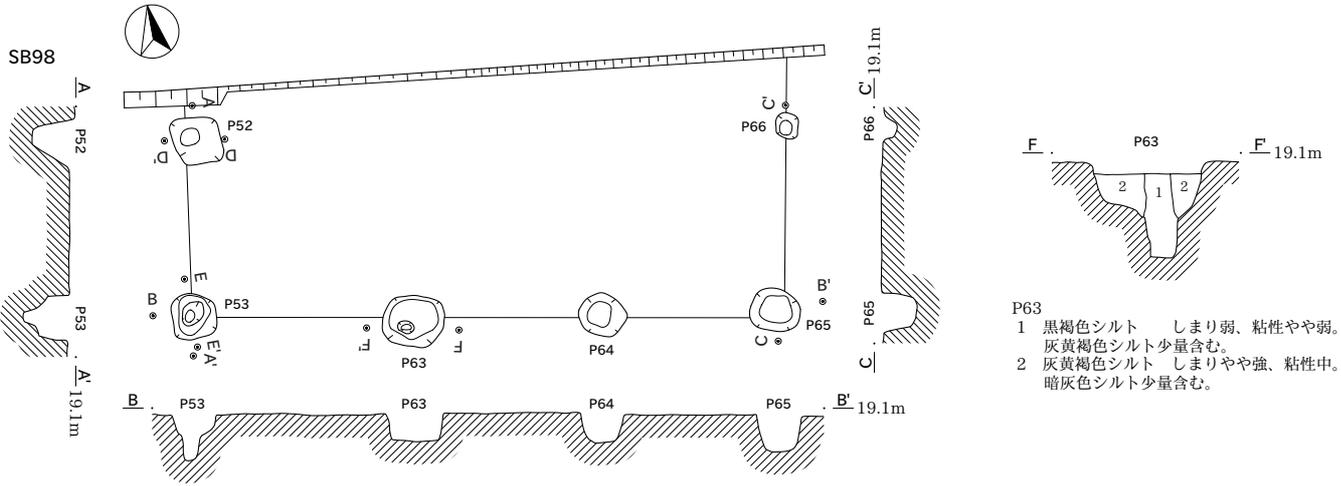
8Q

7P

8P

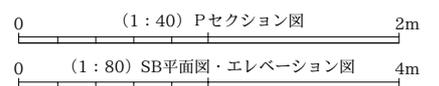
	T	S	R	Q	P
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

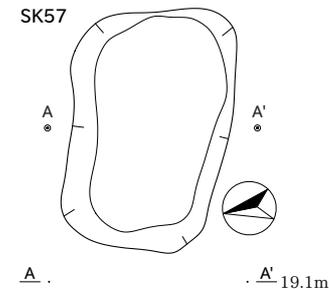




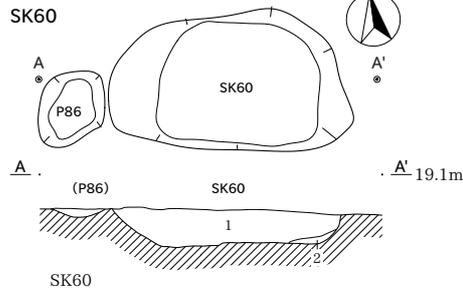
**P79**  
 1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルト少量含む。

**P80**  
 1 灰黄褐色シルト しまりやや弱、粘性中。  
 黒褐色シルト少量、黄褐色シルト粒少量含む。  
 2 暗褐色シルト しまりやや強、粘性やや弱。

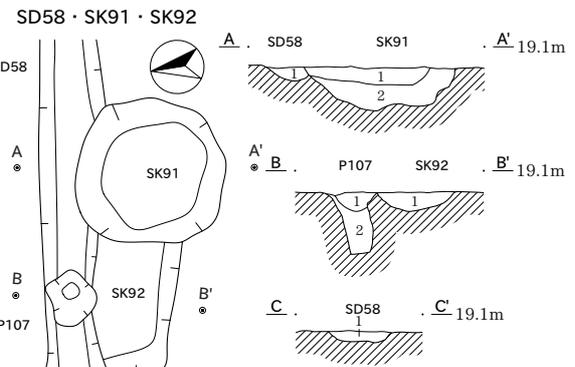




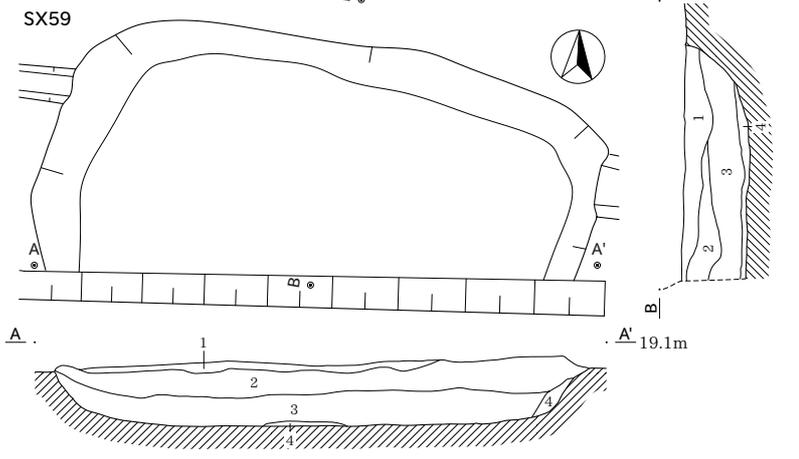
SK57  
1 黒色シルト しまりやや弱、粘性やや強。  
にぶい黄褐色シルトブロック少量含む。



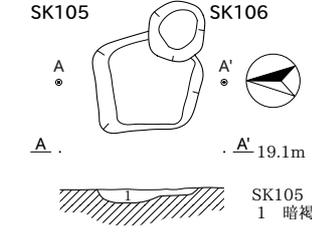
SK60  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。  
にぶい黄褐色シルトブロック中量含む。  
2 灰色粘質シルト しまりやや弱、粘性やや強。  
黒褐色シルトブロック少量含む。  
P86  
1 黒色シルト+暗灰黄色シルト  
しまり弱、粘性やや弱。



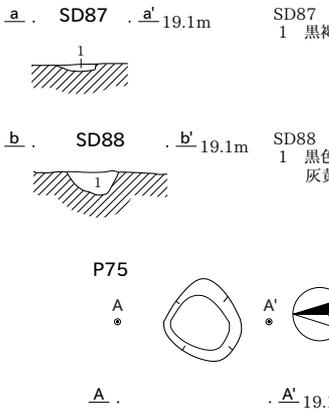
SK91  
1 暗褐色シルト しまりやや弱、粘性中。  
2 暗灰黄褐色シルト しまり弱、粘性やや弱。  
SK92  
1 暗褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。  
P107  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性中。  
SD58  
1 褐灰色シルト+黒褐色シルト しまり弱、粘性中。



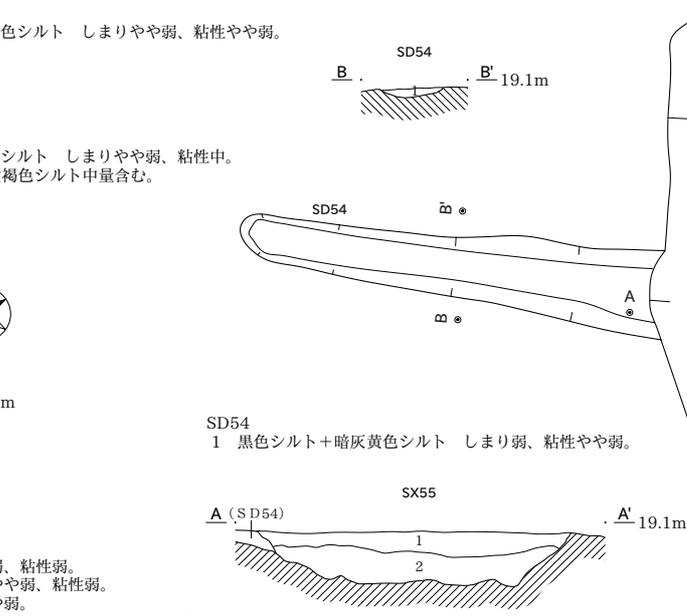
SX59  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。にぶい黄褐色シルト中量含む。  
2 黒色シルト しまり弱、粘性中。にぶい黄褐色シルト少量含む。  
3 黒色シルト しまり弱、粘性中。にぶい黄褐色シルト多量含む。  
4 灰黄褐色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強。



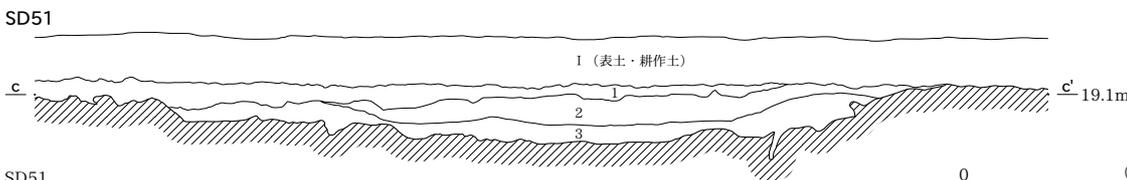
SK105  
1 暗褐色シルト しまりやや弱、粘性中。



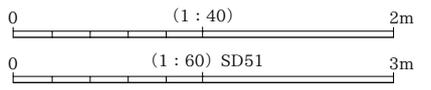
SD87  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。  
SD88  
1 黒色シルト しまりやや弱、粘性中。  
灰黄褐色シルト中量含む。  
P75  
1 灰黄褐色シルト+黒褐色シルト しまり弱、粘性弱。  
2 黒褐色シルト+灰黄褐色シルト しまりやや弱、粘性弱。  
3 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。  
灰黄褐色シルトブロック少量含む。  
4 灰黄褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。  
5 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。



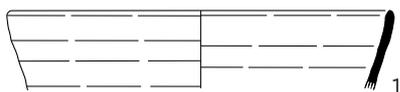
SD54  
1 黒色シルト+暗灰黄色シルト しまり弱、粘性やや弱。  
SX55  
1 黒褐色シルト しまりやや弱、粘性やや弱。にぶい黄褐色シルトブロック中量、黒色シルトブロック少量含む。  
2 黒色粘質シルト しまりやや弱、粘性やや強。にぶい黄褐色シルトブロック中量含む。



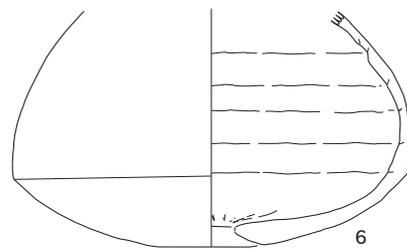
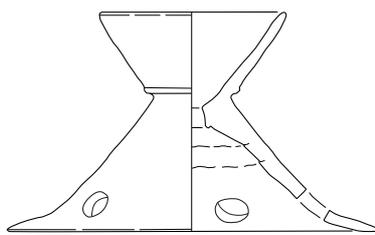
SD51  
1 灰褐色シルト しまり中、粘性中。遺物微量含む。  
2 灰白色シルト しまり中、粘性中。  
3 灰色シルト しまり中、粘性中。



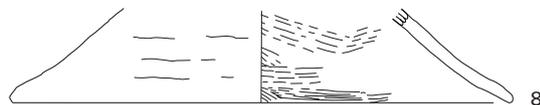
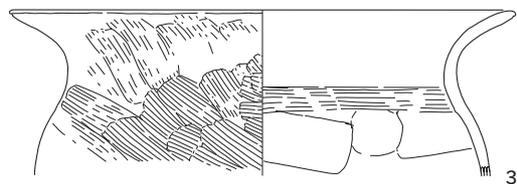
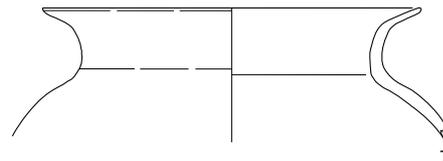
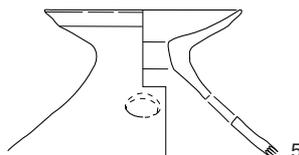
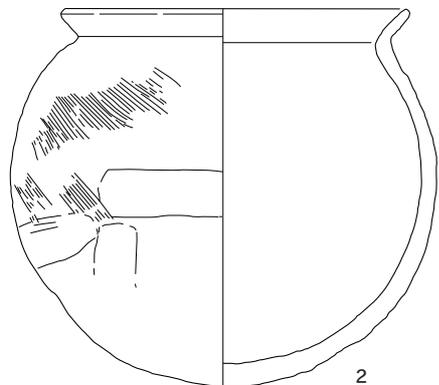
SB40



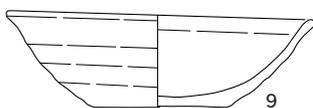
SK15



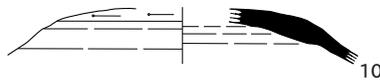
SK14



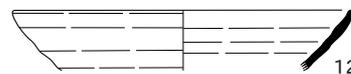
SK41



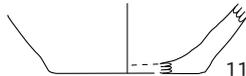
SD3



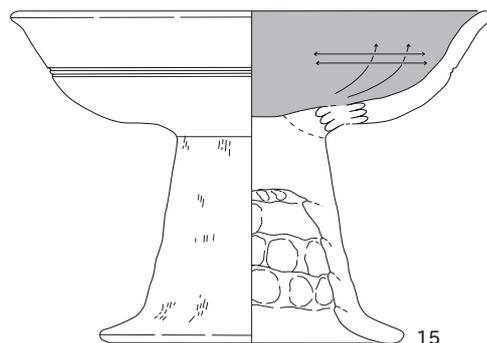
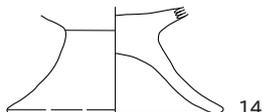
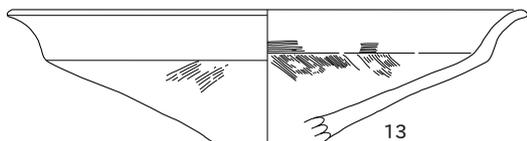
SD31



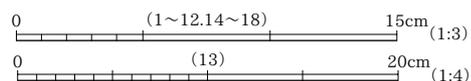
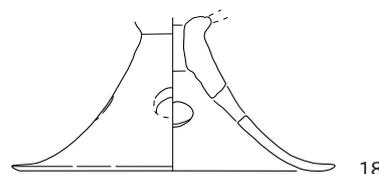
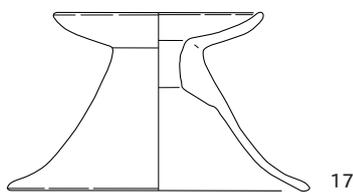
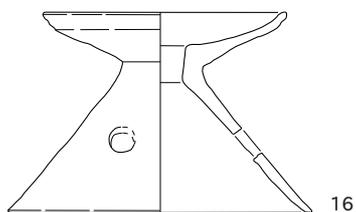
SD4



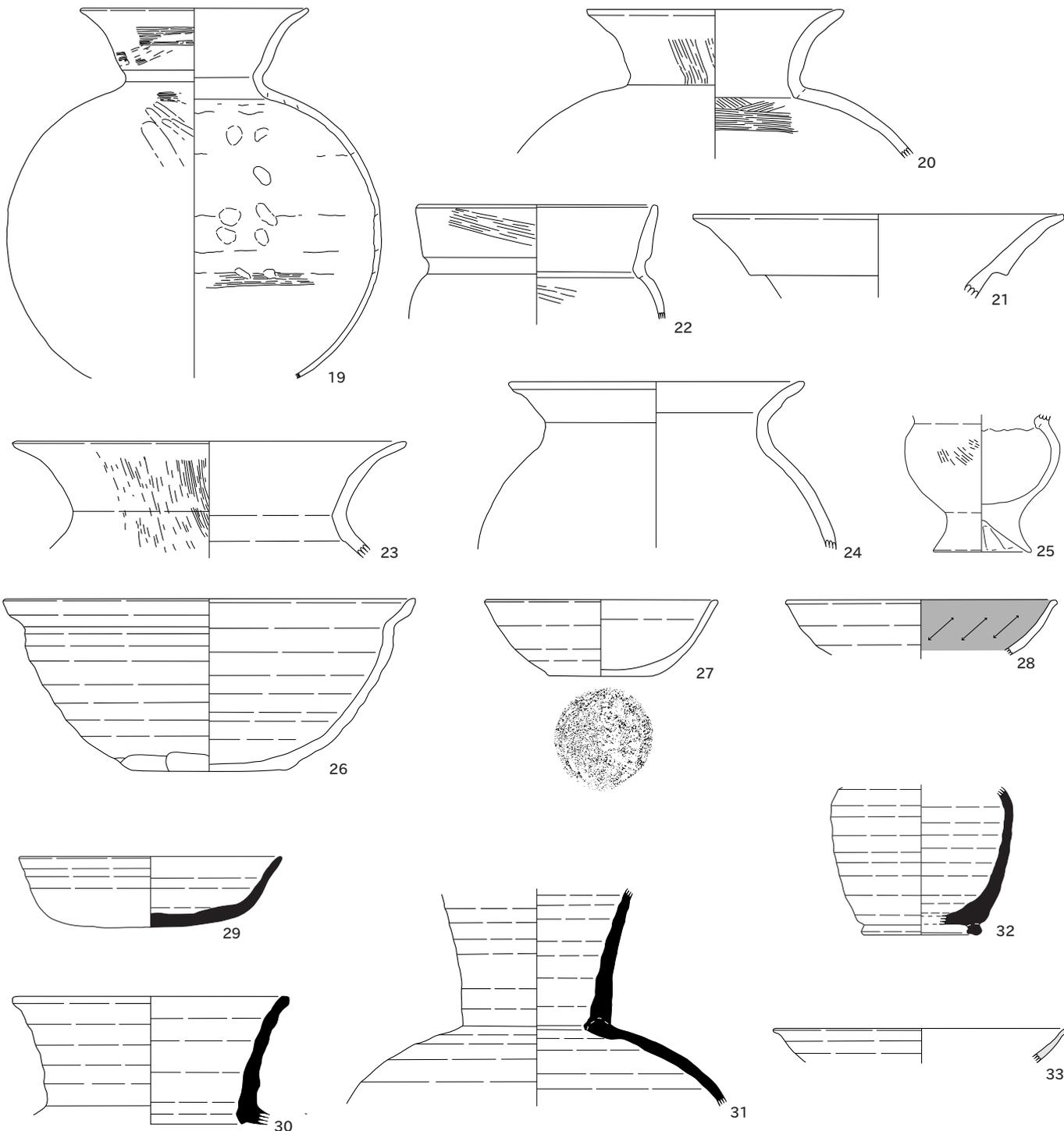
SD2



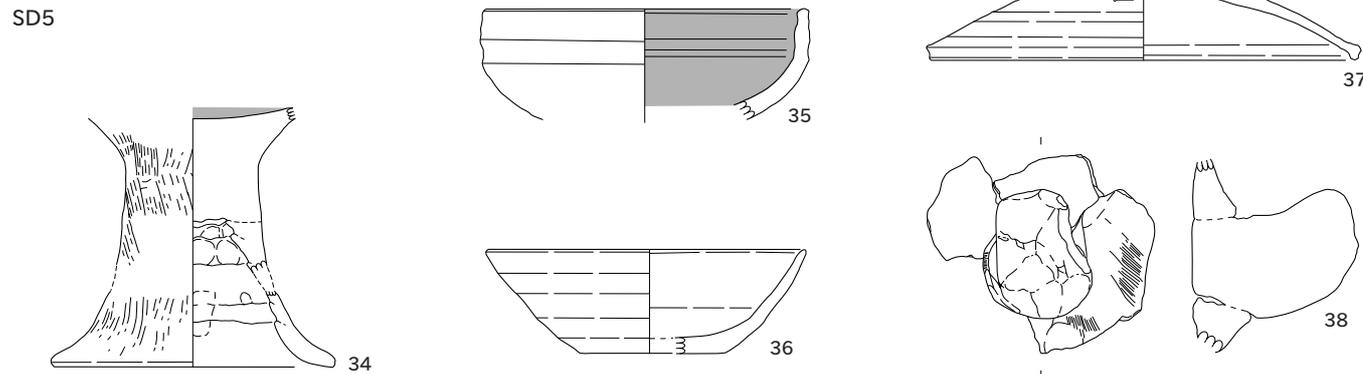
■ 黑色処理



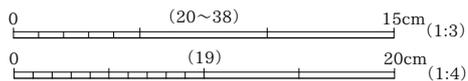
SD2



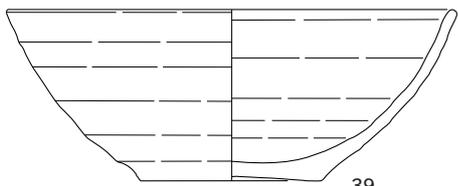
SD5



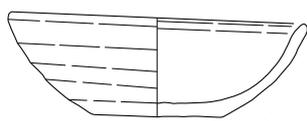
黑色处理
  灰釉陶器 (断面)



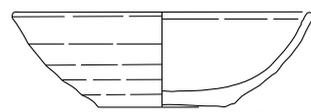
SD5



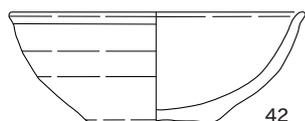
39



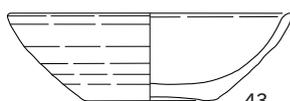
40



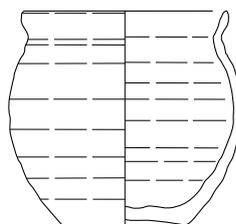
41



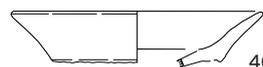
42



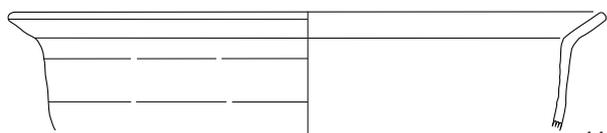
43



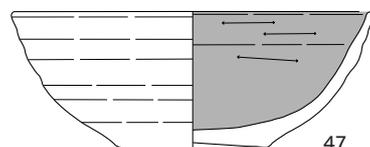
45



46

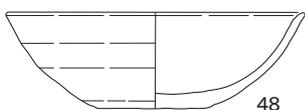


44

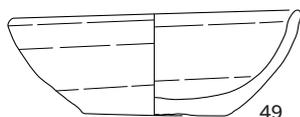


47

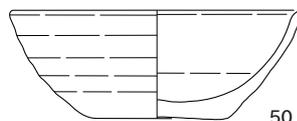
■ 黑色処理



48



49



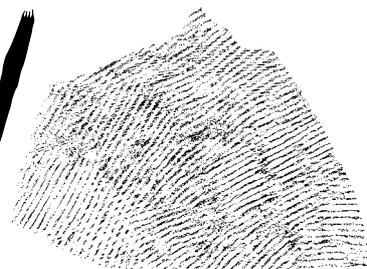
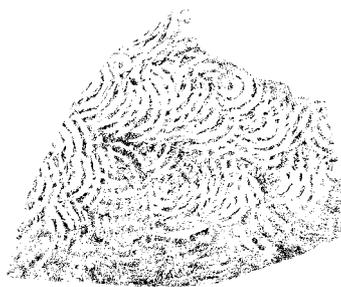
50



51



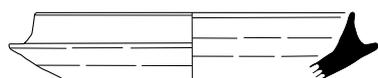
52



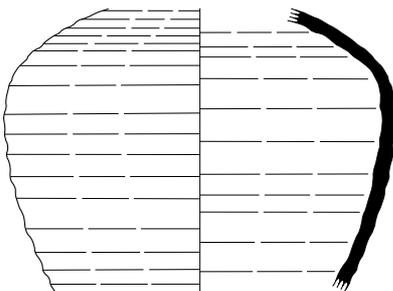
53



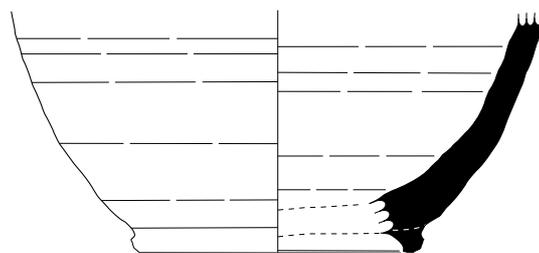
54



55



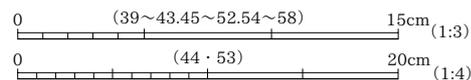
57



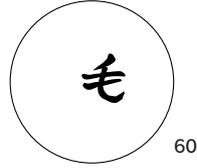
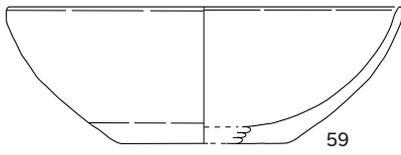
58



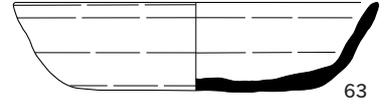
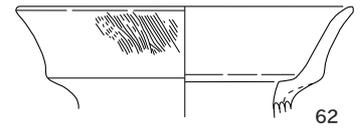
56



SK60



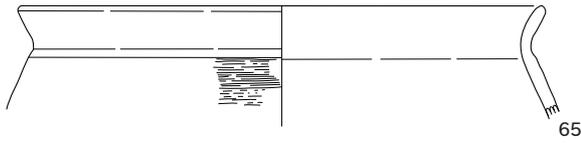
SX55



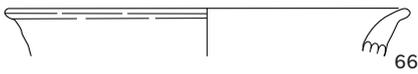
SK91



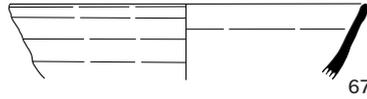
SX59



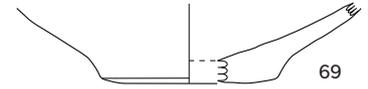
SD54



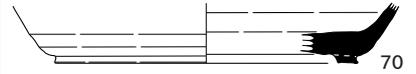
SD88



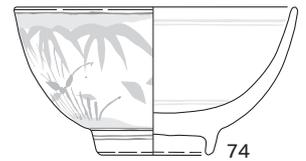
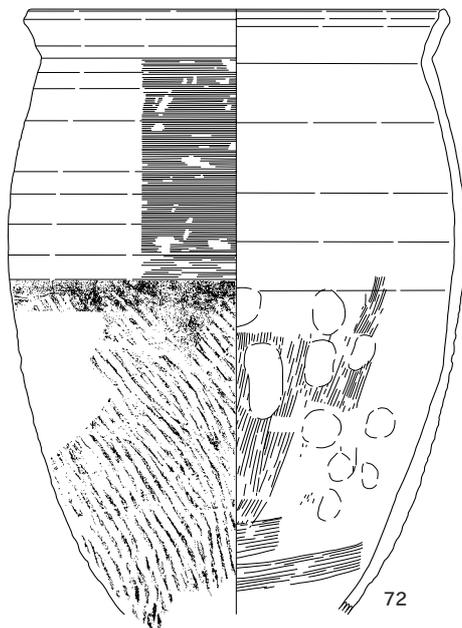
SD51



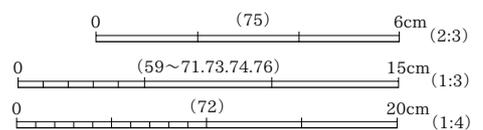
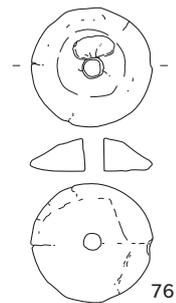
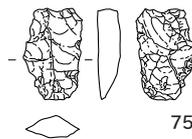
P75



表土・攪乱



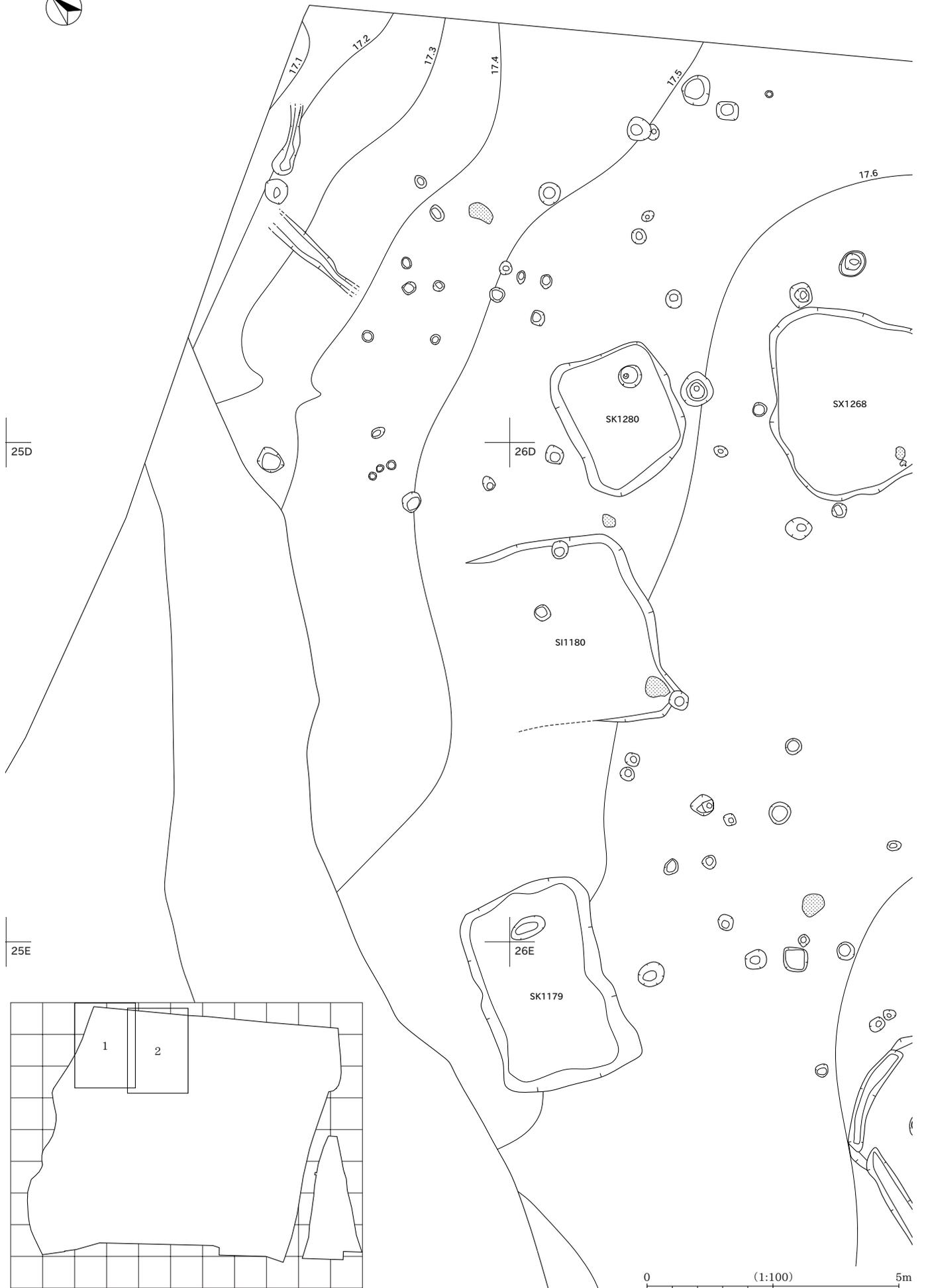
石器・石製品 (SD2)





25C

26C



25D

26D

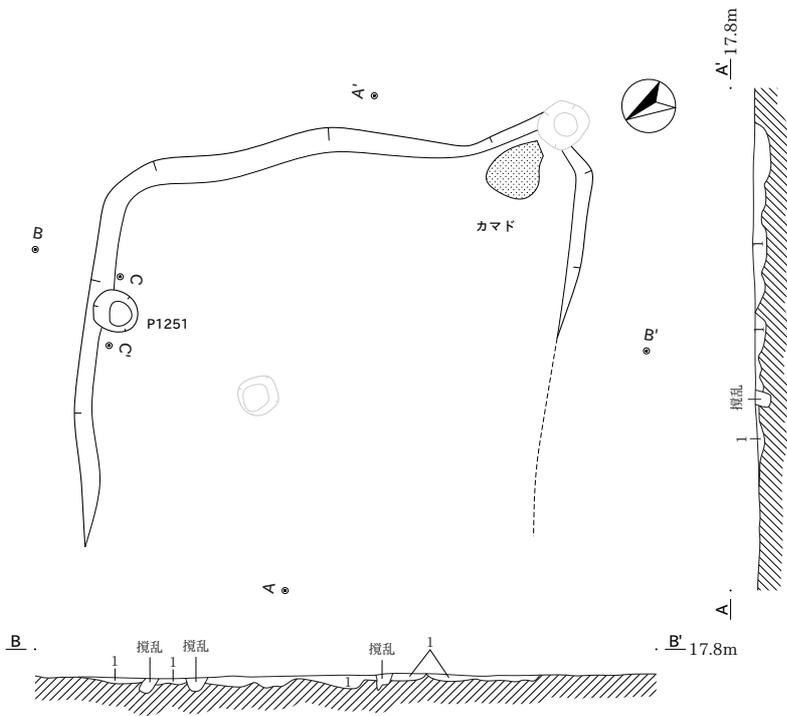
25E

26E

0 (1:100) 5m

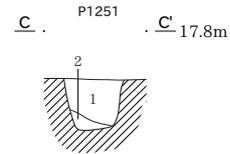


SI1180・P1251



SI1180

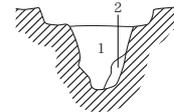
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。



P1251

1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 褐色シルト しまり中、粘性中。

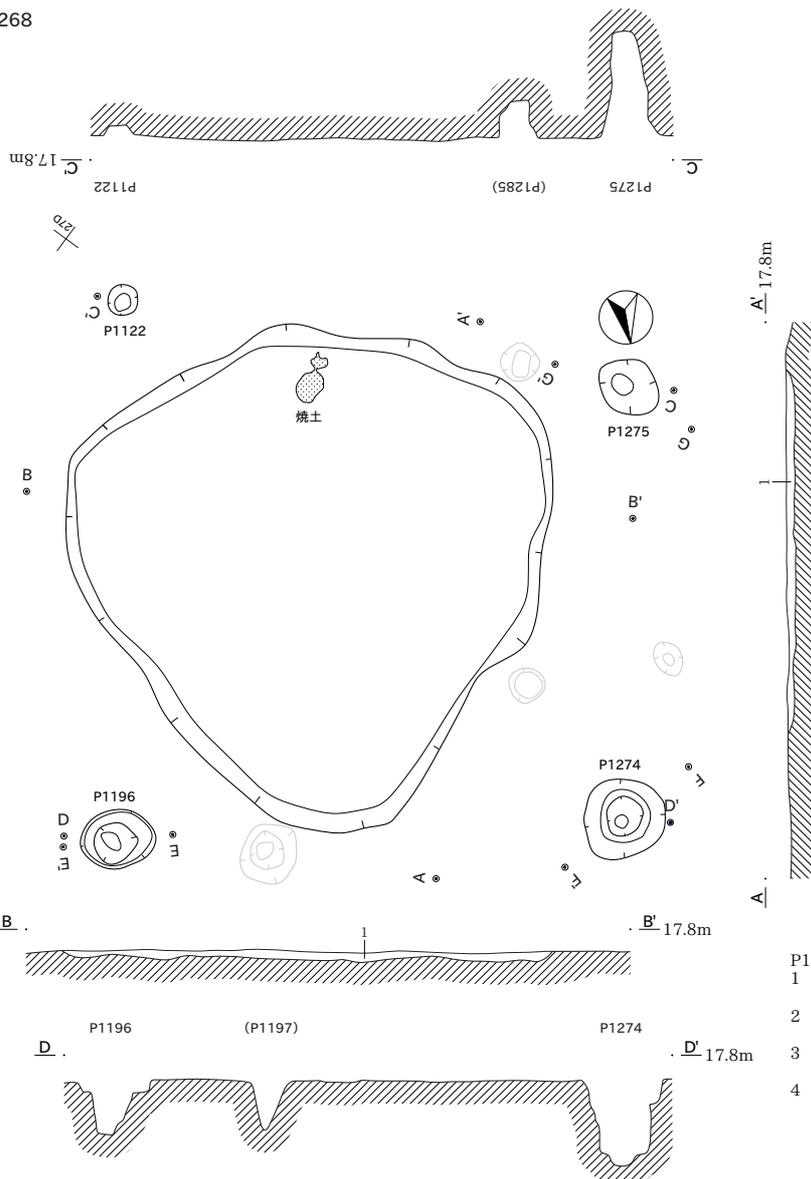
P1196



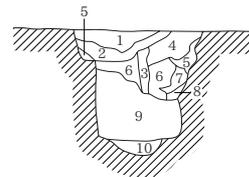
P1196

1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ20~30mmの黄褐色シルトブロック多量、φ1~10mmのII層粒多量含む。  
2 暗褐色シルト しまり強、粘性中。黄褐色シルトを含む。

SX1268



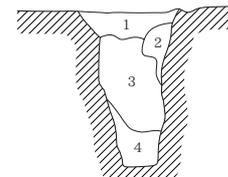
P1274



P1274

1 黄灰色シルト しまり中、粘性中。  
2 灰黄褐色シルト しまり強、粘性中。  
3 褐色シルト しまり弱、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。  
4 オリーブ褐色シルト しまり中、粘性中。  
5 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。  
6 黒褐色シルト しまり中、粘性弱。  
7 暗褐色シルト しまり中、粘性中。  
8 褐色シルト しまり中、粘性中。  
9 褐色シルト しまり中、粘性中。  
10 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

P1275



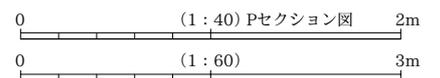
P1275

1 暗褐色シルト+黒褐色シルト しまり強、粘性弱。黄褐色シルトがマーブル状に含む。φ1~5mmの炭化物粒少量含む。  
2 黄褐色粘土 しまり強、粘性中。φ1~5mmの暗褐色シルト粒少量、φ1~10mmの黒褐色シルト粒少量含む。  
3 暗灰橙色シルト しまり強、粘性中。φ20~30mmの暗褐色シルトブロック少量含む。  
4 灰褐色粘土 しまり強、粘性弱。φ1~2mmの褐色粘土粒少量含む。

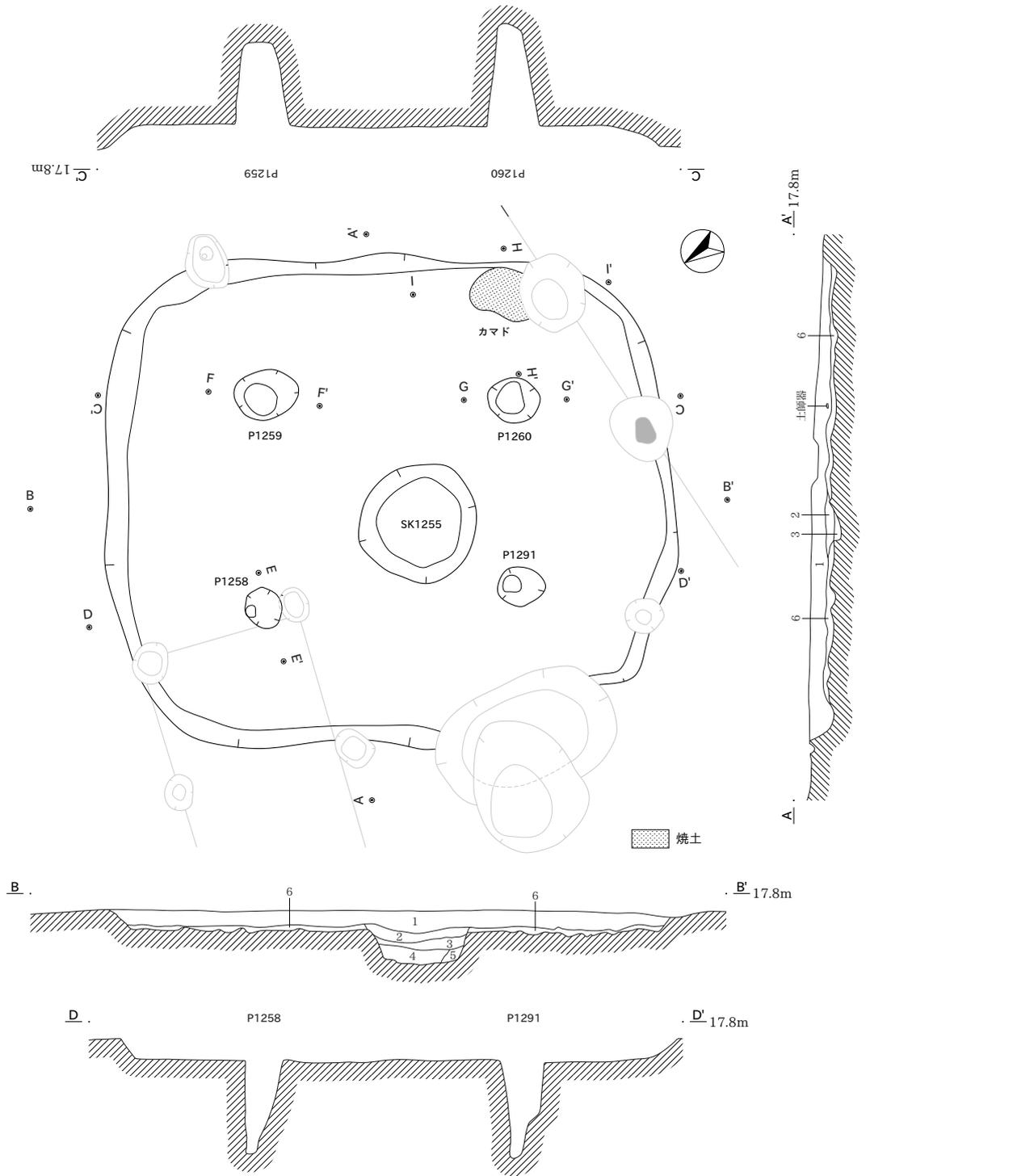
焼土

SX1268

1 褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物少量含む。



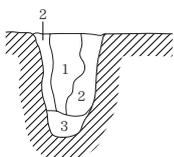
SI1058



SI1058・SK1255

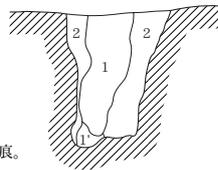
- 1 黒褐色シルト+褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ3mm前後の浅黄橙色粒少量、炭化物粒少量含む。
- 2 黒褐色シルト+褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ3mm前後の浅黄橙色粒中量、炭化物粒少量含む。
- 3 暗褐色シルト+褐灰色シルト+黄橙色粒子シルト しまり中、粘性中。炭化物粒少量含む。
- 4 暗褐色シルト しまり中、粘性中。黄橙色ブロック中量、炭化物粒少量含む。
- 5 灰黄粘質シルト しまり強、粘性強。炭化物粒微量含む。
- 6 暗褐色シルト+黒褐色シルト しまり強、粘性中。炭化物粒少量含む。

E. P1258 E' 17.8m



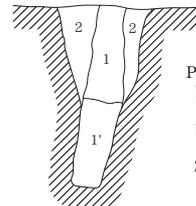
- P1258
- 1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。炭化物粒少量含む。柱痕。
  - 2 浅黄橙色粘質シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 3 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

F. P1259 F' 17.8m

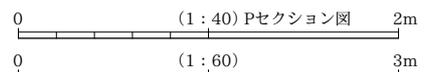


- P1259
- 1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。炭化物粒少量含む。柱痕。
  - 1' 灰白色粘質シルト+灰白色粘土 しまり中、粘性中。柱痕。
  - 2 浅黄橙色粘質シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。

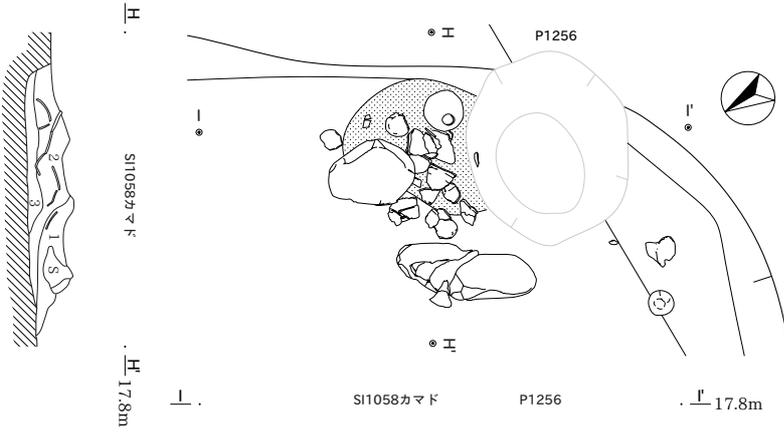
G. P1260 G' 17.8m



- P1260
- 1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。炭化物粒少量含む。柱痕。
  - 1' 灰白色粘質シルト+灰白色粘土 しまり中、粘性中。柱痕。
  - 2 浅黄橙色粘質シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。



SI1058カマド

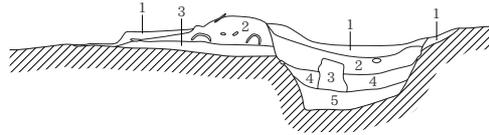


SI1058カマド

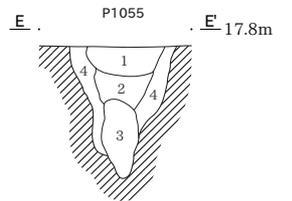
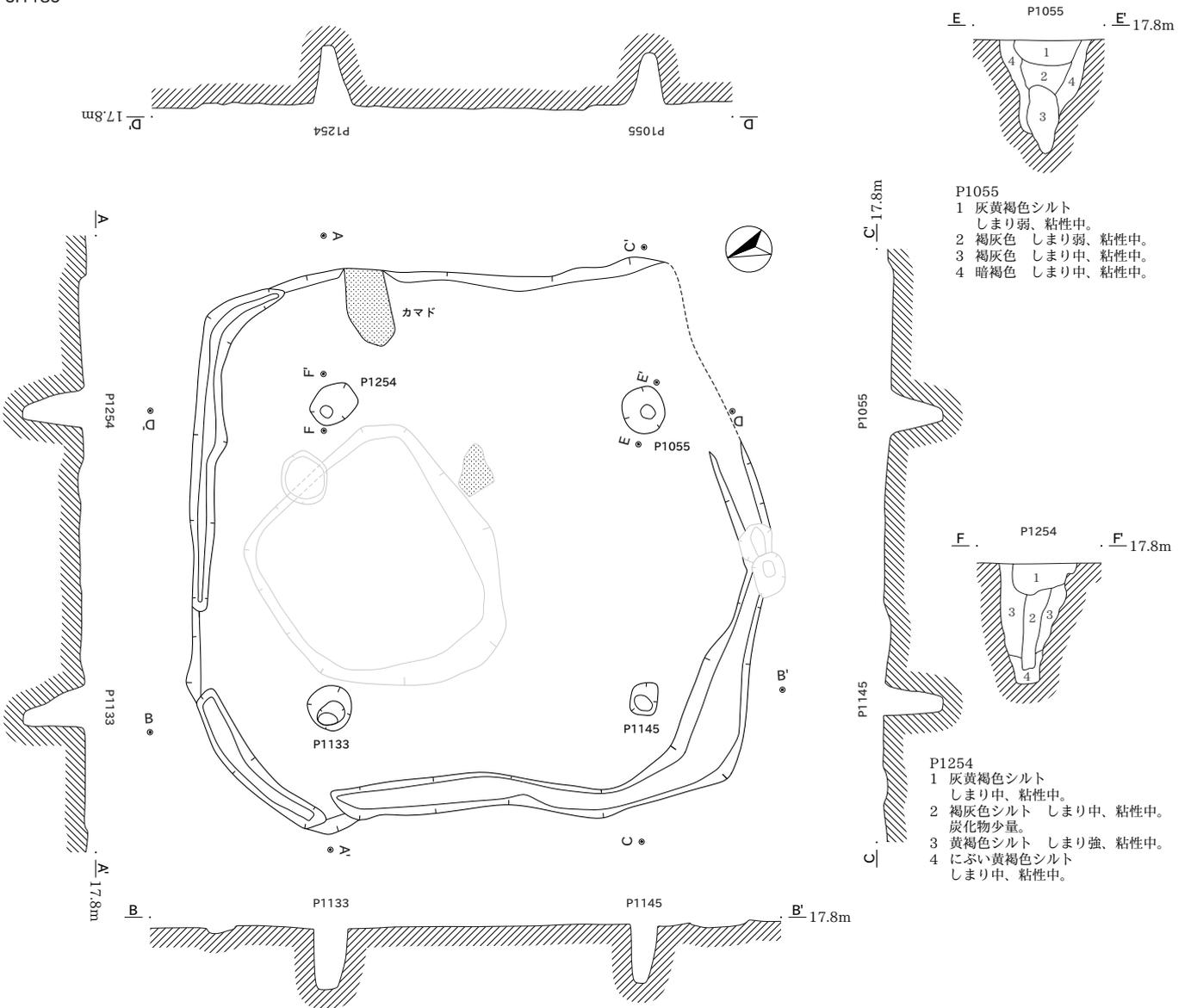
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
- 3 にぶい黄褐色 しまり中、粘性強。焼土少量、炭化物少量含む。

P1256

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、焼土微量含む。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
- 3 暗褐色シルト しまり弱、粘性弱。
- 4 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- 5 暗灰黄色シルト しまり中、粘性中。

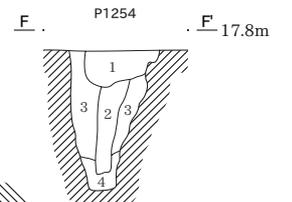


SI1185



P1055

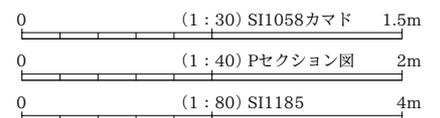
- 1 灰黄褐色シルト しまり弱、粘性中。
- 2 褐灰色 しまり弱、粘性中。
- 3 褐灰色 しまり中、粘性中。
- 4 暗褐色 しまり中、粘性中。



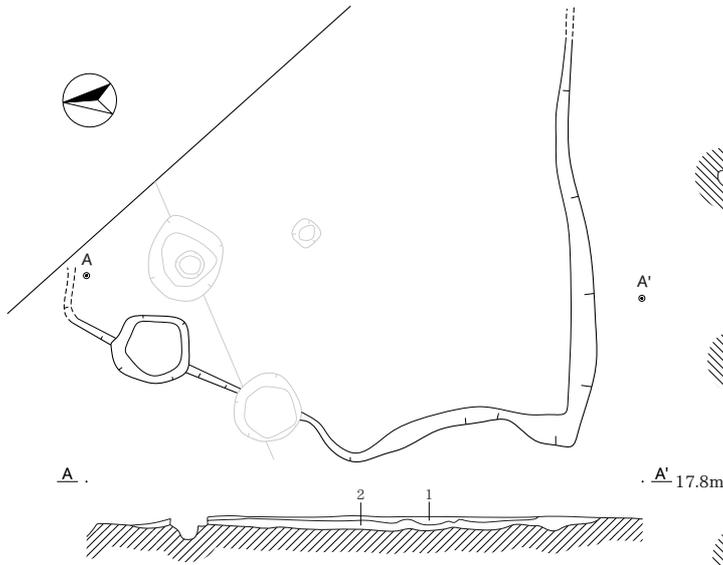
P1254

- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量。
- 3 黄褐色シルト しまり強、粘性中。
- 4 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

焼土

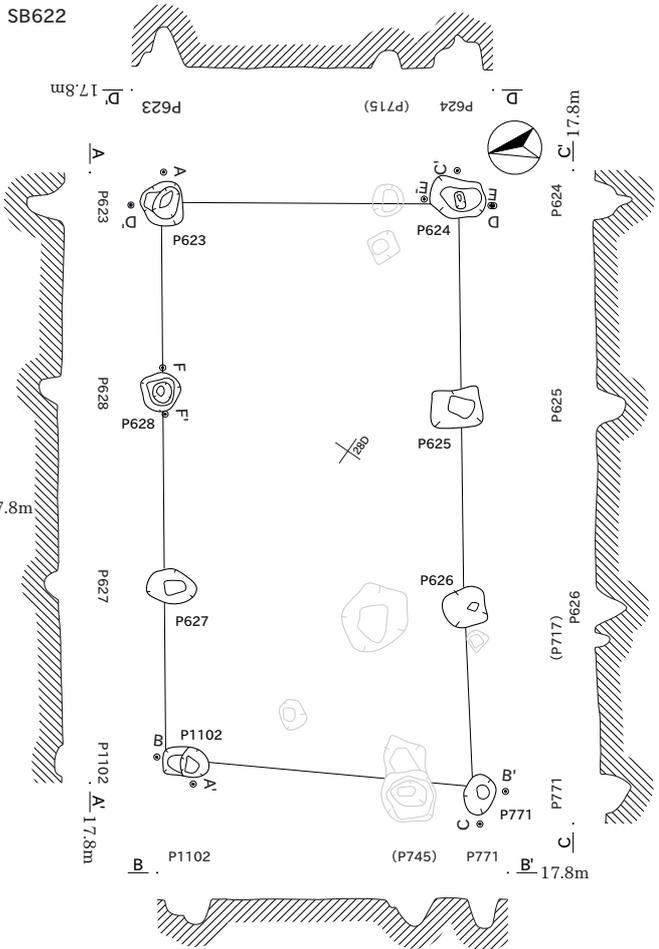


SI1166

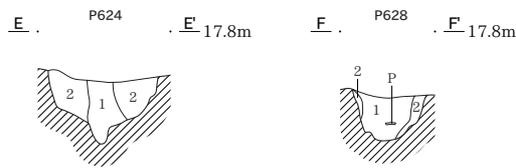


SI1166  
 1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ1~2mmの黄褐色シルト粒少量含む。  
 2 黄褐色シルト しまり強、粘性中。φ20~50mmの暗褐色シルトブロック含む。

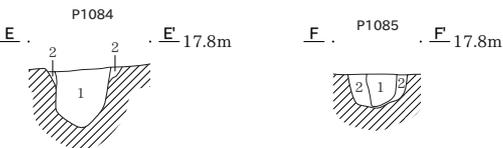
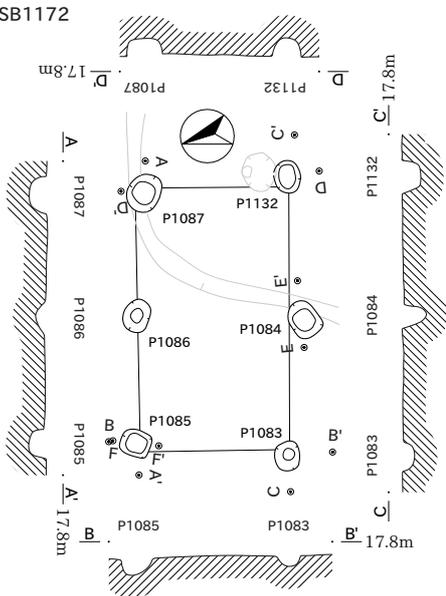
SB622



P624・P628共通  
 1 褐色シルト しまり弱、粘性弱。  
 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。

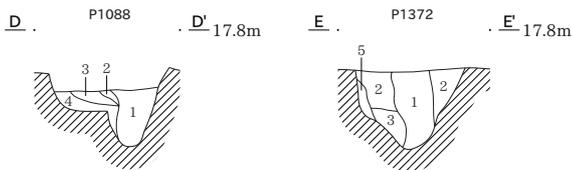


SB1172



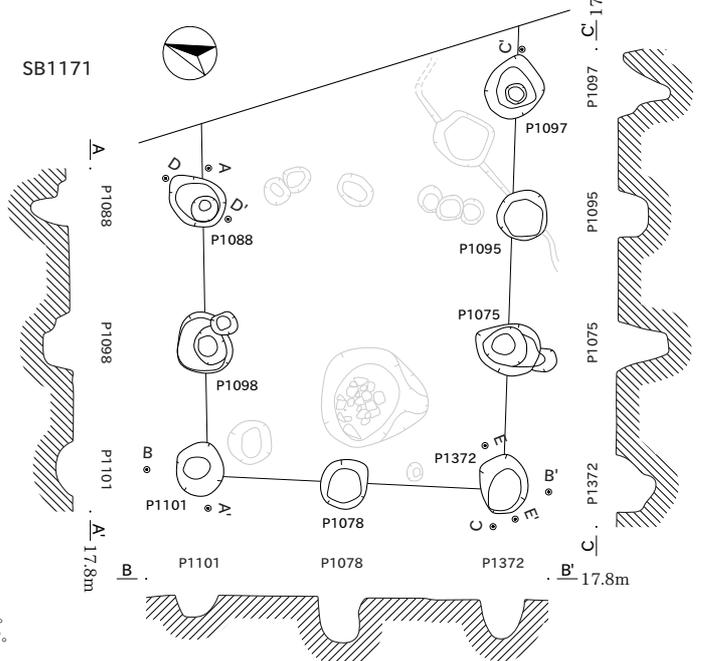
P1084  
 1 暗褐色シルト しまり強、粘性中。  
 φ10~20mmのふい黄褐色シルトブロック少量含む。  
 2 褐色シルト しまり強、粘性弱。

P1085  
 1 暗褐色シルト しまり中、粘性弱。φ1~5mmの黄褐色シルト粒少量、  
 φ10~20mmの黄褐色シルトブロック少量含む。  
 2 暗褐色シルト しまり強い、粘性弱。



P1088・P1372共通  
 1 暗灰褐色シルト しまり強、粘性中。φ10mm前後の黄褐色シルトがマーブル状に含む。  
 2 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ10~30mmの黄褐色シルトがブロック状に含む。  
 3 暗灰褐色シルト しまり強、粘性弱。黄褐色シルト少量含む。  
 4 暗褐色シルト しまり強、粘性強。  
 5 暗褐色シルト しまり強、粘性中。

SB1171

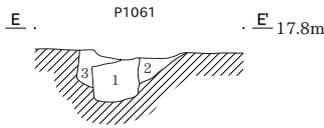
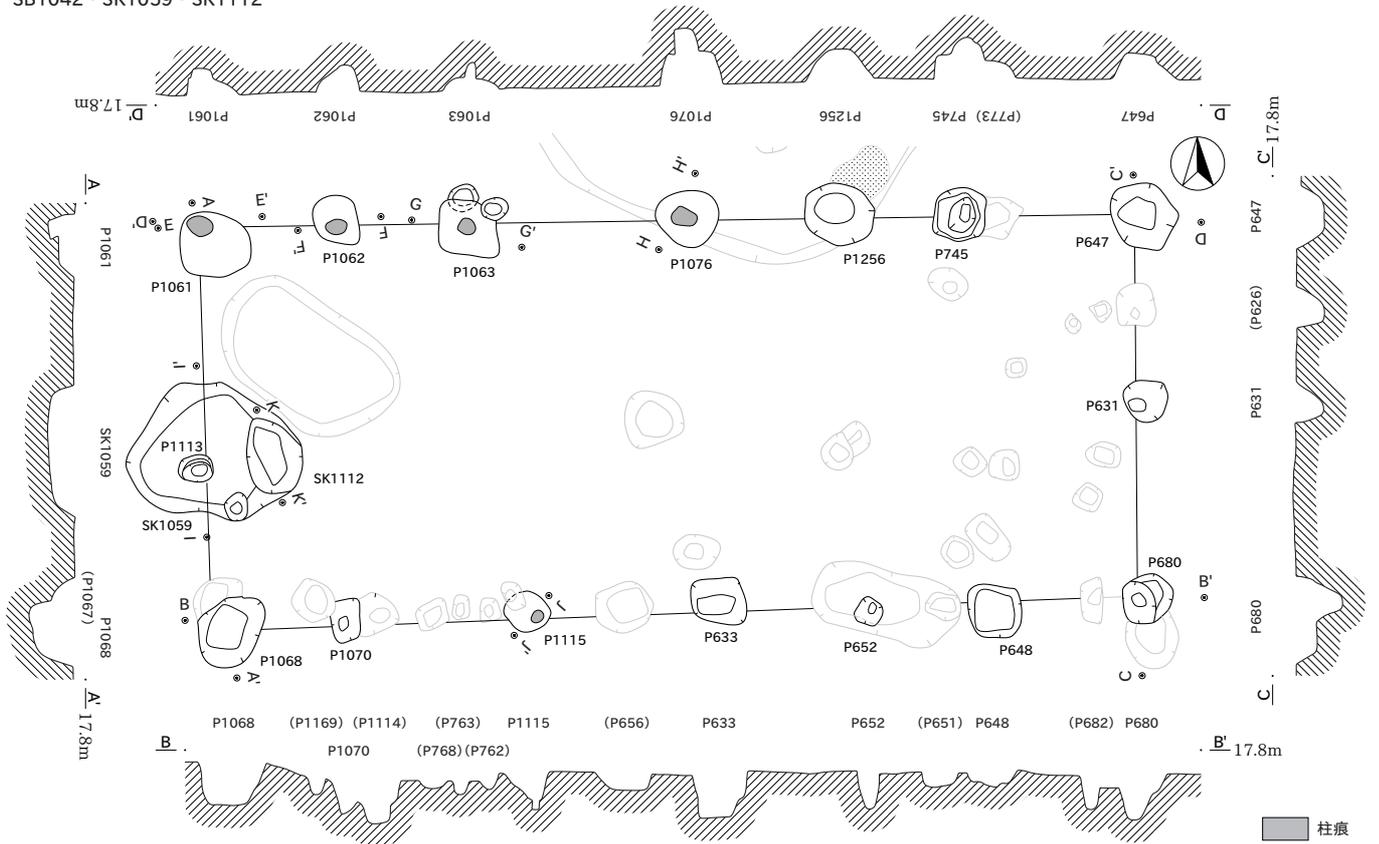


0 (1:40) Pセクション図 2m

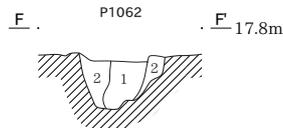
0 (1:60) SI 3m

0 (1:80) SB 4m

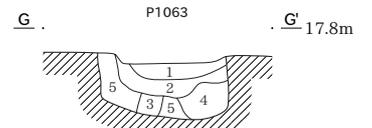
SB1042・SK1059・SK1112



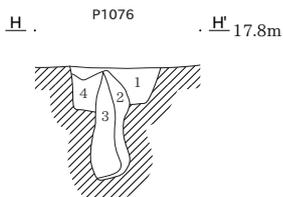
- P1061**
- 1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。焼土中量、炭化物中量含む。
  - 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
  - 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。



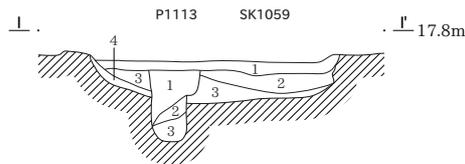
- P1062**
- 1 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。焼土中量、炭化物中量含む。
  - 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。



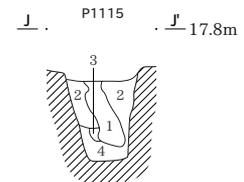
- P1063**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
  - 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 3 褐灰色シルト しまり弱、粘性中。焼土中量、炭化物中量含む。
  - 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
  - 5 黄灰色シルト しまり中、粘性中。



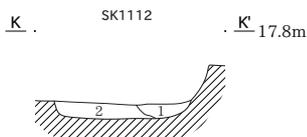
- P1076**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。
  - 2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物少量含む。
  - 3 黒褐色シルト しまり弱、粘性中。φ2mmの炭化物中量含む。
  - 4 暗褐色シルト しまり強、粘性中。



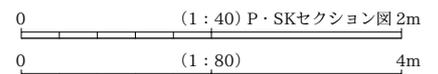
- P1113**
- 1 黄灰色シルト しまり中、粘性中。
  - 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- SK1059**
- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 3 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 4 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。灰白色粒少量含む。



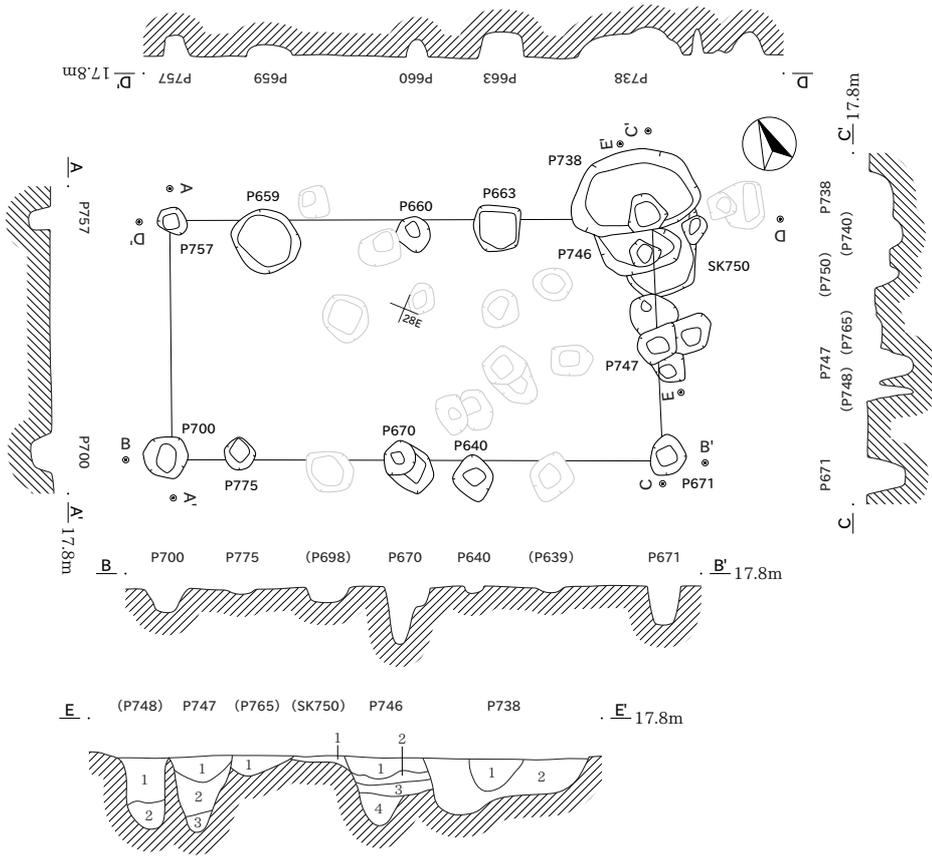
- P1115**
- 1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量含む。
  - 2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
  - 4 黒褐色シルト しまり中、粘性中。



- SK1112**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
  - 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。

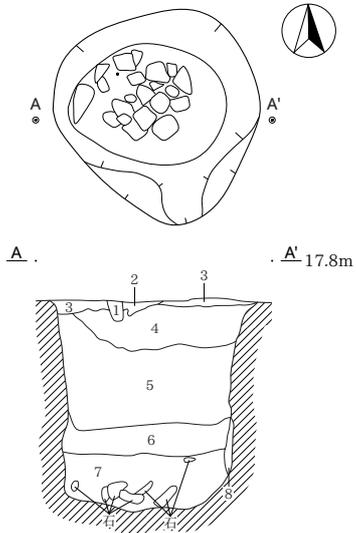


SB1298・SK750



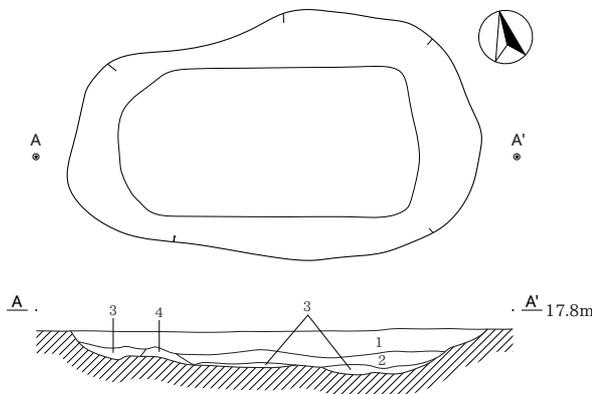
- SK750**  
 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
 褐灰色シルトブロック中量。
- P738**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
- P746**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 灰白色シルトブロック少量含む。  
 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 灰白色シルトブロック中量含む。  
 3 灰褐色シルト しまり中、粘性中。  
 4 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- P747**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 2 灰褐色シルト しまり中、粘性中。  
 灰白色シルトブロック中量。  
 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
- P748**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 灰白色シルトブロック少量含む。  
 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
 褐灰色シルトブロック少量含む。
- P765**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 灰黄褐色シルトブロック中量。

SE1077



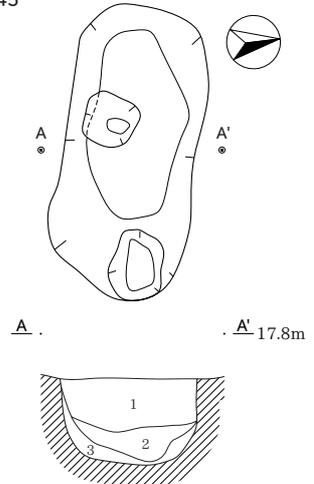
- SE1077**  
 1 暗褐色シルト しまり強、粘性なし。  
 φ40~50mmの褐色シルトブロック多量含む。  
 2 黒褐色シルト しまり強、粘性なし。  
 炭化物少量含む。  
 3 暗褐色シルト しまり強、粘性なし。  
 土師器片を含む。  
 4 暗褐色シルト しまり強、粘性中。  
 φ1~3mmの炭化物少量。  
 φ1~5mmの褐色シルト少量、土師器片含む。  
 5 暗褐色シルト しまり強、粘性中。  
 φ3mm前後の炭化物少量。  
 φ10~50mmの褐色シルトブロック少量。  
 6 灰白色粘土 しまり中、粘性強。  
 φ20~30mmの褐灰色粘土ブロック少量含む。  
 7 褐灰色粘土 しまり中、粘性強。  
 φ10~20mmの褐色粘土ブロック少量含む。  
 須恵器片、礫含む。  
 8 暗灰色粘土 しまり中、粘性中。

SK1025



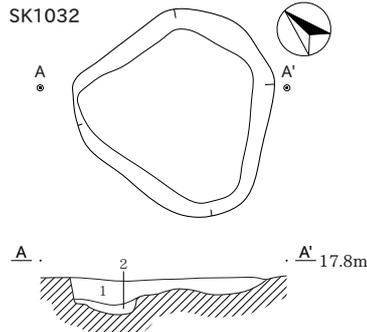
- SK1025**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。  
 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物少量含む。  
 3 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
 4 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1045



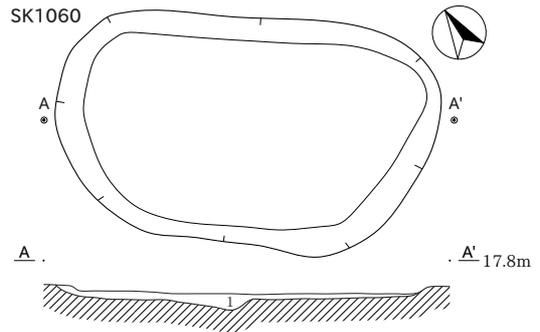
- SK1045**  
 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 3 暗灰黄色シルト しまり中、粘性中。

SK1032

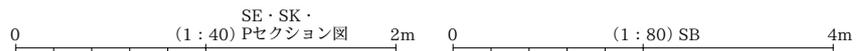


- SK1032**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

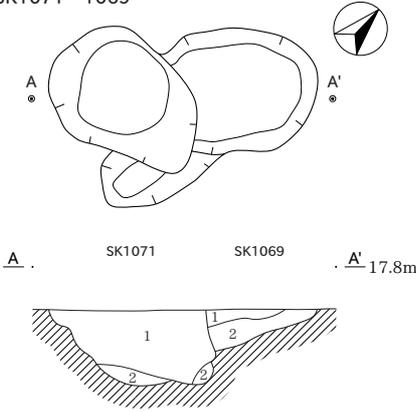
SK1060



- SK1060**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。



SK1071・1069

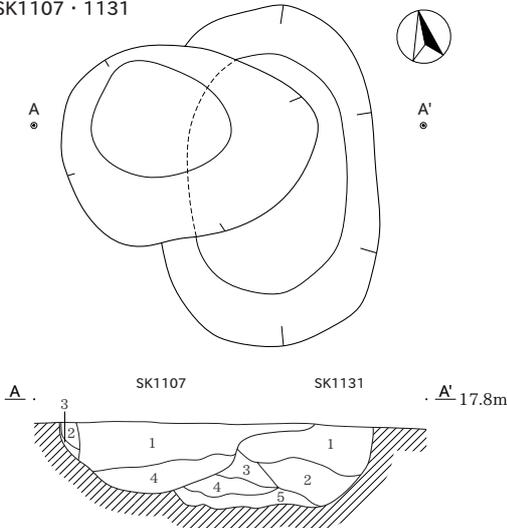


- SK1071  
 1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ1~5mmの黄褐色シルト少量含む。  
 2 灰褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1069

- 1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。黄褐色シルトブロック少量含む。  
 2 黄褐色シルト+暗褐色シルト しまり強、粘性弱。

SK1107・1131

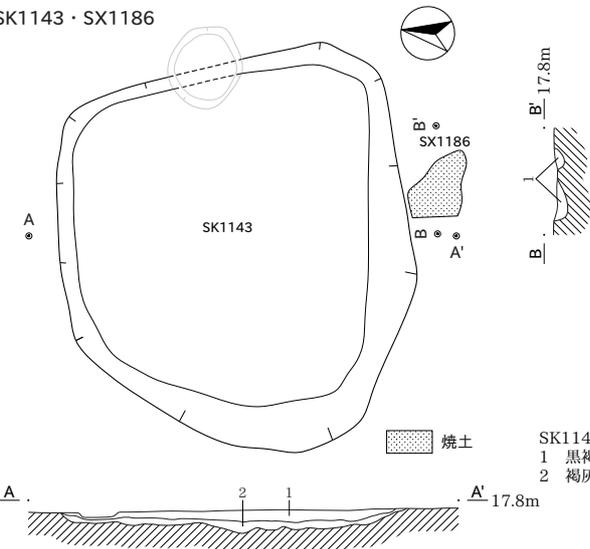


- SK1107  
 1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ20~50mmの灰黄褐色シルトブロック少量含む。土師器片含む。  
 2 暗褐色シルト しまり強、粘性中。φ10~20mmの灰黄褐色シルトブロック少量含む。  
 3 暗褐色シルト しまり強、粘性中。  
 4 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ20~50mmの黄褐色シルト少量含む。

SK1131

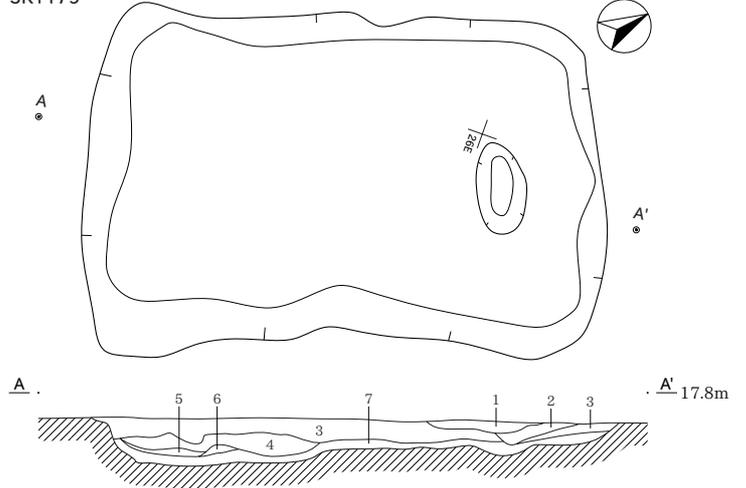
- 1 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ10~30mmの黄褐色シルトブロック多量含む。  
 2 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ10~30mmの黄褐色シルトブロック少量含む。  
 3 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。φ5~10mmの黄褐色シルトブロック多量含む。  
 4 黄褐色シルト+暗褐色シルト しまり強、粘性中。  
 5 暗褐色シルト しまり強、粘性中。φ10~30mmの黄褐色シルトブロック少量、土師器片含む。

SK1143・SX1186



- SK1143  
 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物微量含む。  
 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

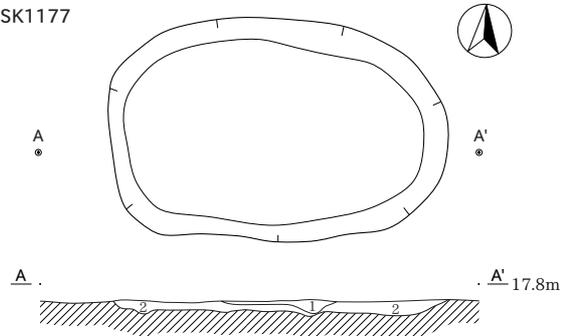
SK1179



SK1179

- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物微量、φ2mmの浅黄褐色シルト少量含む。  
 2 灰黄褐色シルト+浅黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
 3 灰黄褐色シルト+褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、浅黄褐色シルト中量、土師器片含む。  
 4 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。浅黄褐色シルトブロック多量含む。  
 5 褐灰色粘質シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、浅黄褐色シルトブロック中量含む。  
 6 黒褐色シルト しまり中、粘性中。浅黄褐色シルトブロック少量含む。  
 7 灰色粘質シルト しまり強、粘性中。炭化物微量、灰白色シルト少量含む。

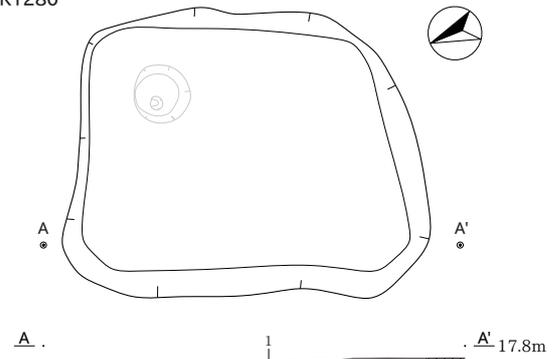
SK1177



SK1177

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
 2 黒褐色シルト しまり中、粘性強。

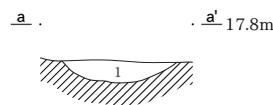
SK1280



SK1280

- 1 暗灰褐色シルト しまり強、粘性なし。φ10~20mmの黄褐色シルト少量含む。

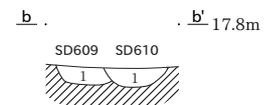
SD605



SD605・SD609

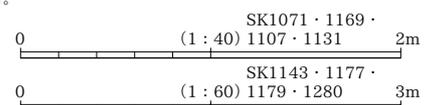
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

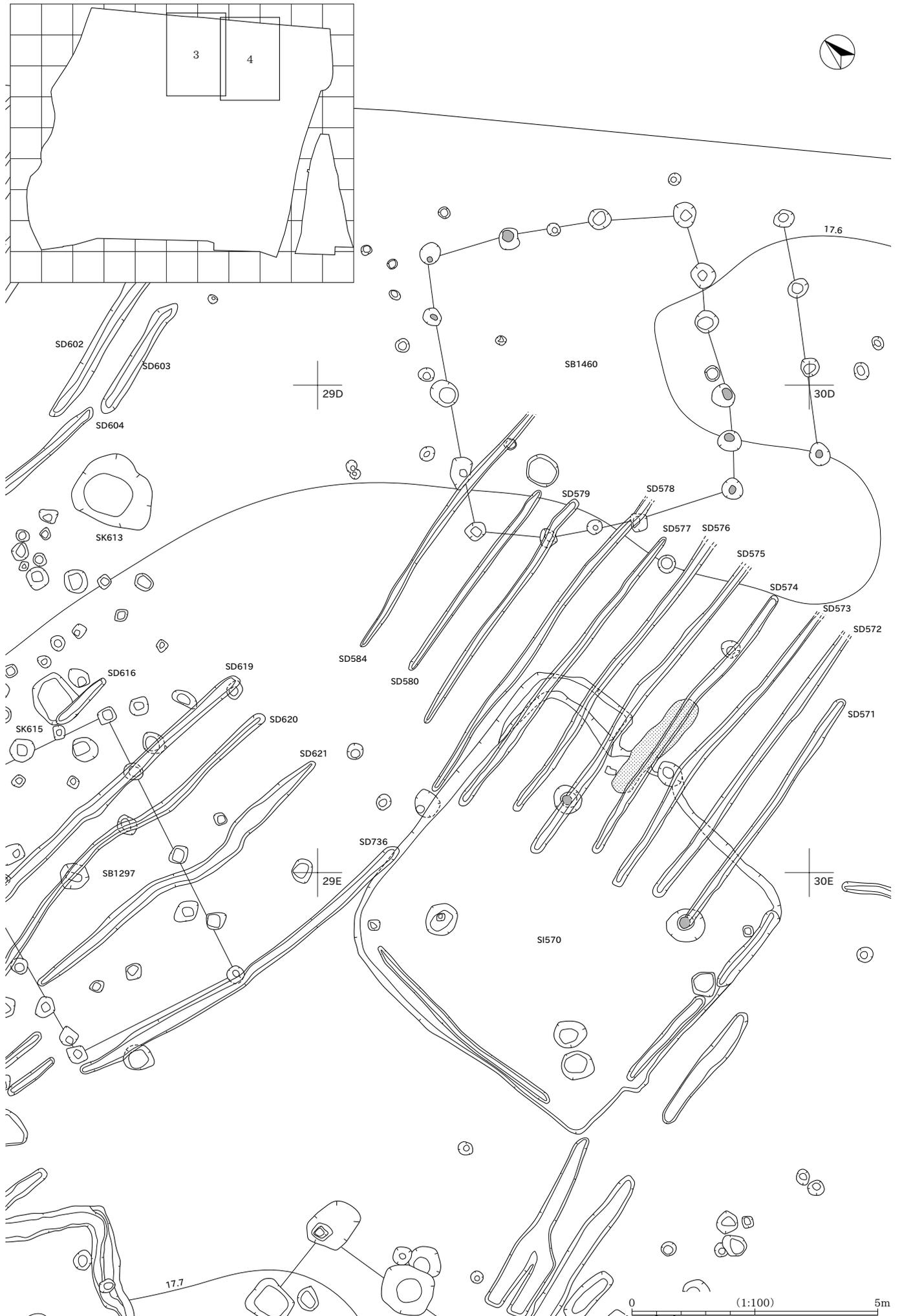
SD609・610



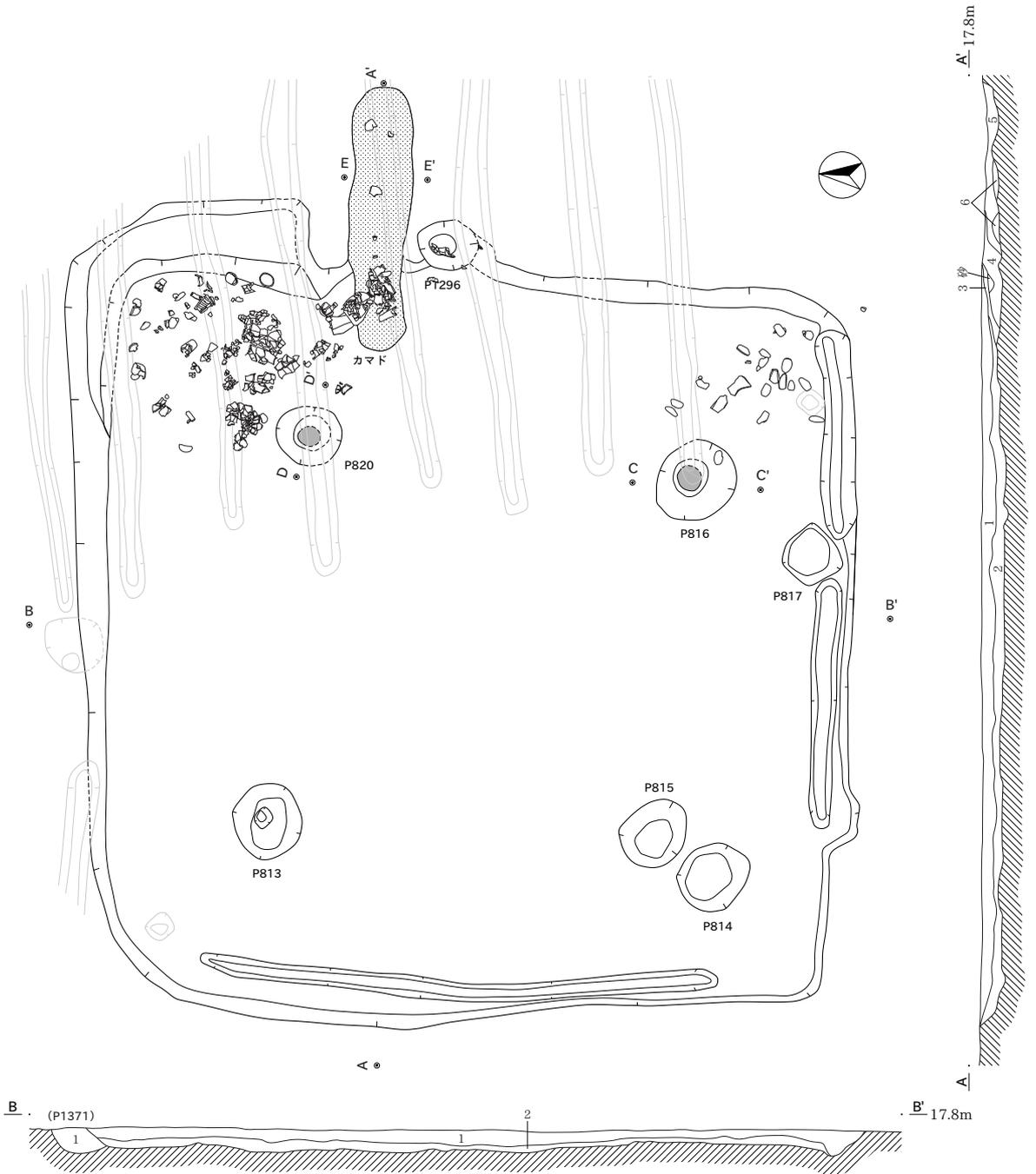
SD610

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。





SI570



SI570

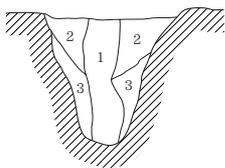
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。焼土粒多量含む。
- 4 橙色シルト しまり中、粘性中。焼土粒多量含む。
- 5 褐灰色シルト しまり中、粘性中。焼土粒多量含む。
- 6 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトがブロック状に含む。

P1371

- 1 黒色シルト しまり中、粘性中。

焼土 柱痕

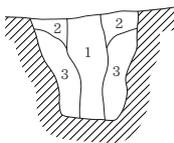
C . P816 . C' 17.8m



P816

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトがブロック状に含む。
- 3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。2より褐灰色シルトブロックの割合が多い。

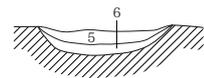
D . P820 . D' 17.8m



P820

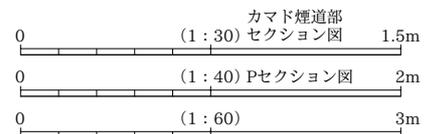
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトがブロック状に含む。
- 3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。2より褐灰色シルトブロックの割合が多い。

E . カマド煙道部 . E' 17.8m

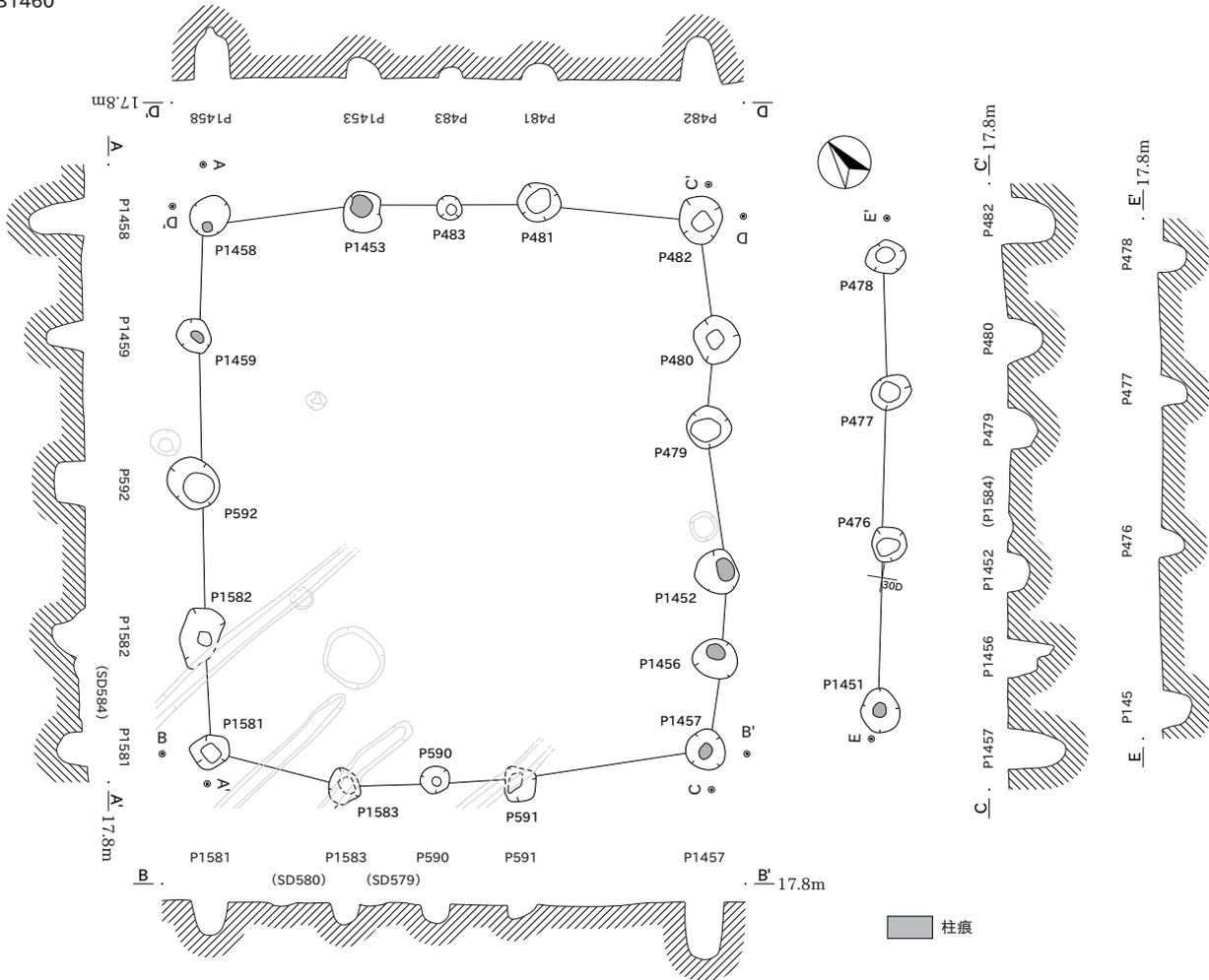


カマド煙道部

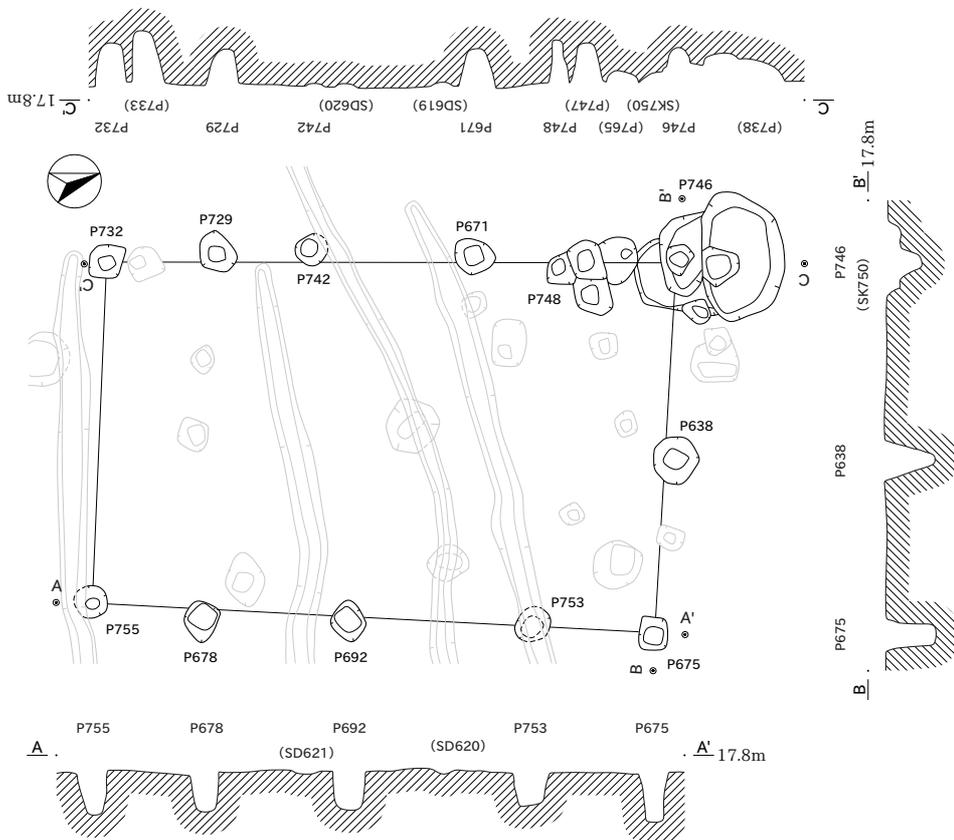
- 5 褐灰色シルト しまり中、粘性中。焼土粒多量含む。
- 6 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトがブロック状に含む。



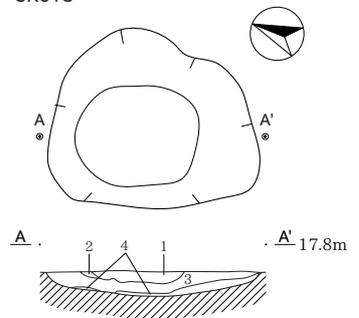
SB1460



SB1297

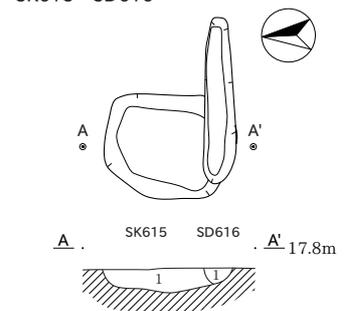


SK613



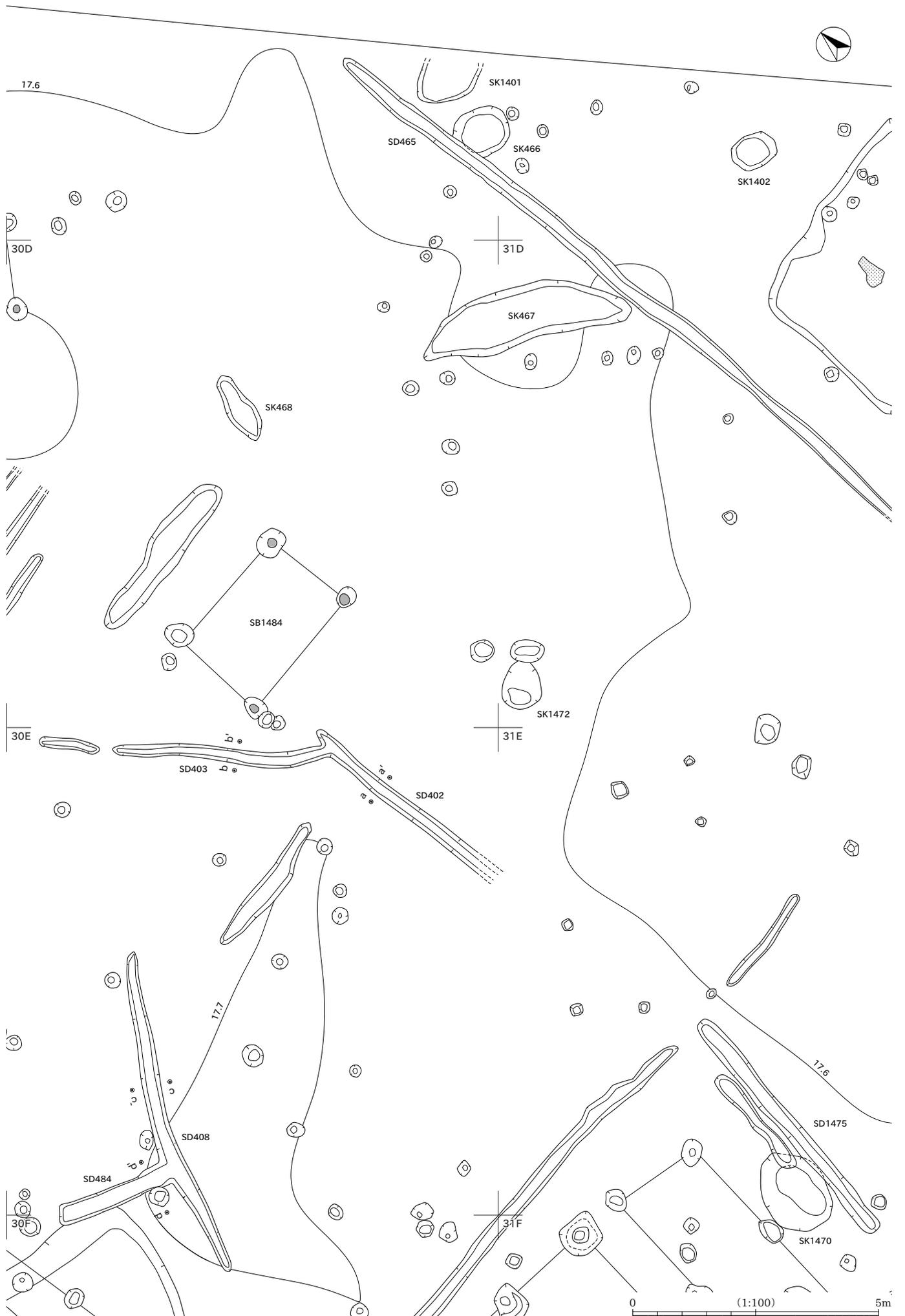
- SK613  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
 3 暗褐色シルト しまり中、粘性中。  
 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SK615・SD616

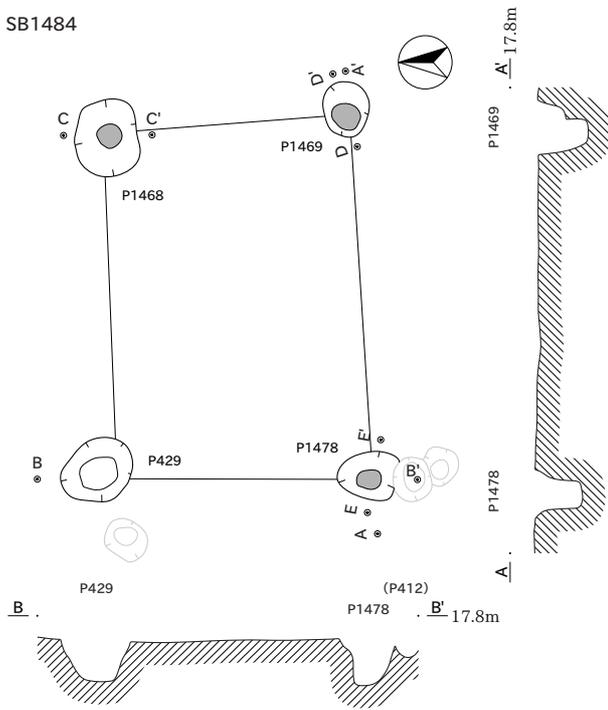


- SK615  
 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。

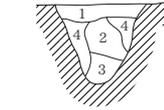
- SD616  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。



SB1484



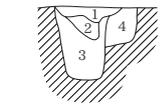
C . P1468 . C' 17.7m



P1468

- 1 青灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~4mmの炭化物微量含む。
- 2 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。φ3~19mmの炭化物微量含む。
- 3 にぶい黄橙色シルト+灰白色シルト しまり中、粘性中。
- 4 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ1~5mmの炭化物微量含む。

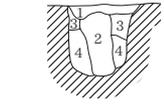
D . P1469 . D' 17.7m



P1469

- 1 青灰砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~17mmの炭化物を微量含む。
- 2 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。φ1~6mmの炭化物微量含む。
- 3 青灰シルト+灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~6mmの炭化物微量含む。
- 4 青灰砂質シルト+灰色シルト しまり中、粘性中。

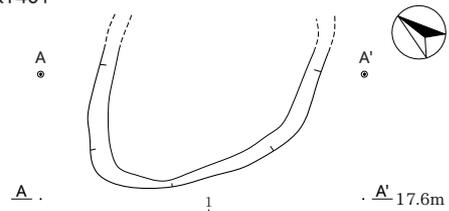
E . P1478 . E' 17.7m



P1478

- 1 暗青灰シルト しまり中、粘性中。
- 2 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量含む。
- 3 暗青灰シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
- 4 暗青灰シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。

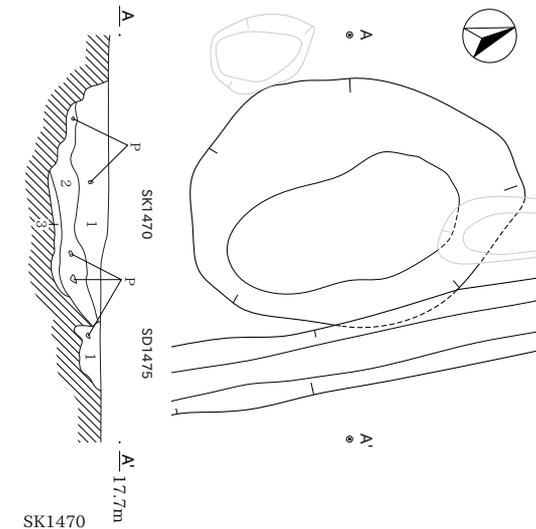
SK1401



SK1401

- 1 灰褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1470・SD1475



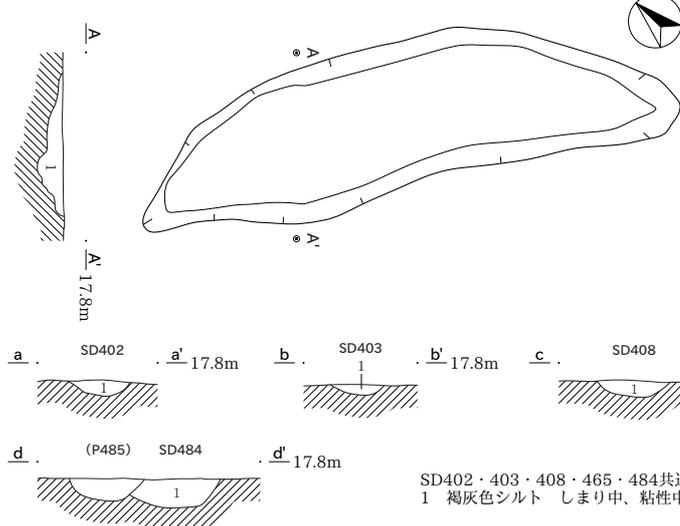
SK1470

- 1 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ1~5mmの炭化物微量含む。
- 2 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ2~38mmの炭化物少量含む。
- 3 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ4~20mmの炭化物極多量含む。

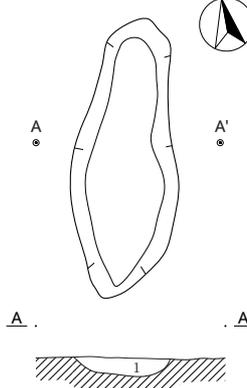
SD1475

- 1 暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性中。

SK467



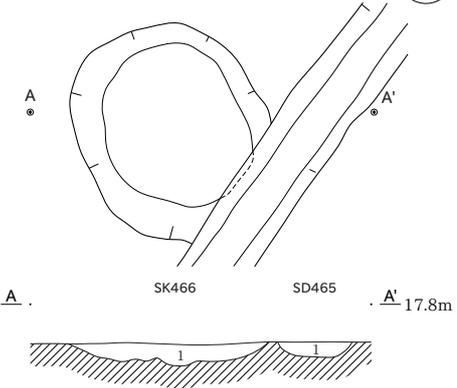
SK468



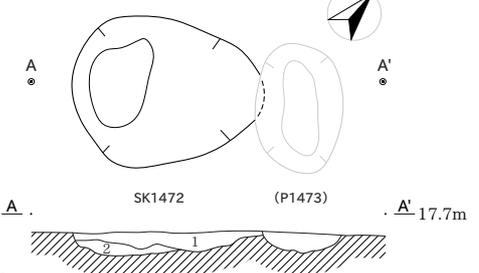
SK466・467・468共通

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SK466・SD465



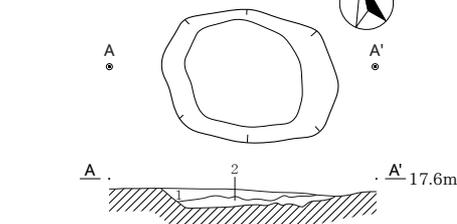
SK1472



SK1472

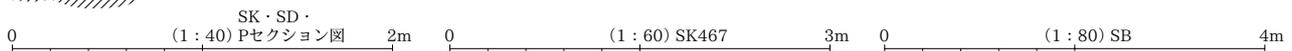
- 1 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ1~8mmの炭化物を微量含む。
- 2 暗青灰シルト しまり中、粘性中。φ7~30mmの炭化物を多量含む。

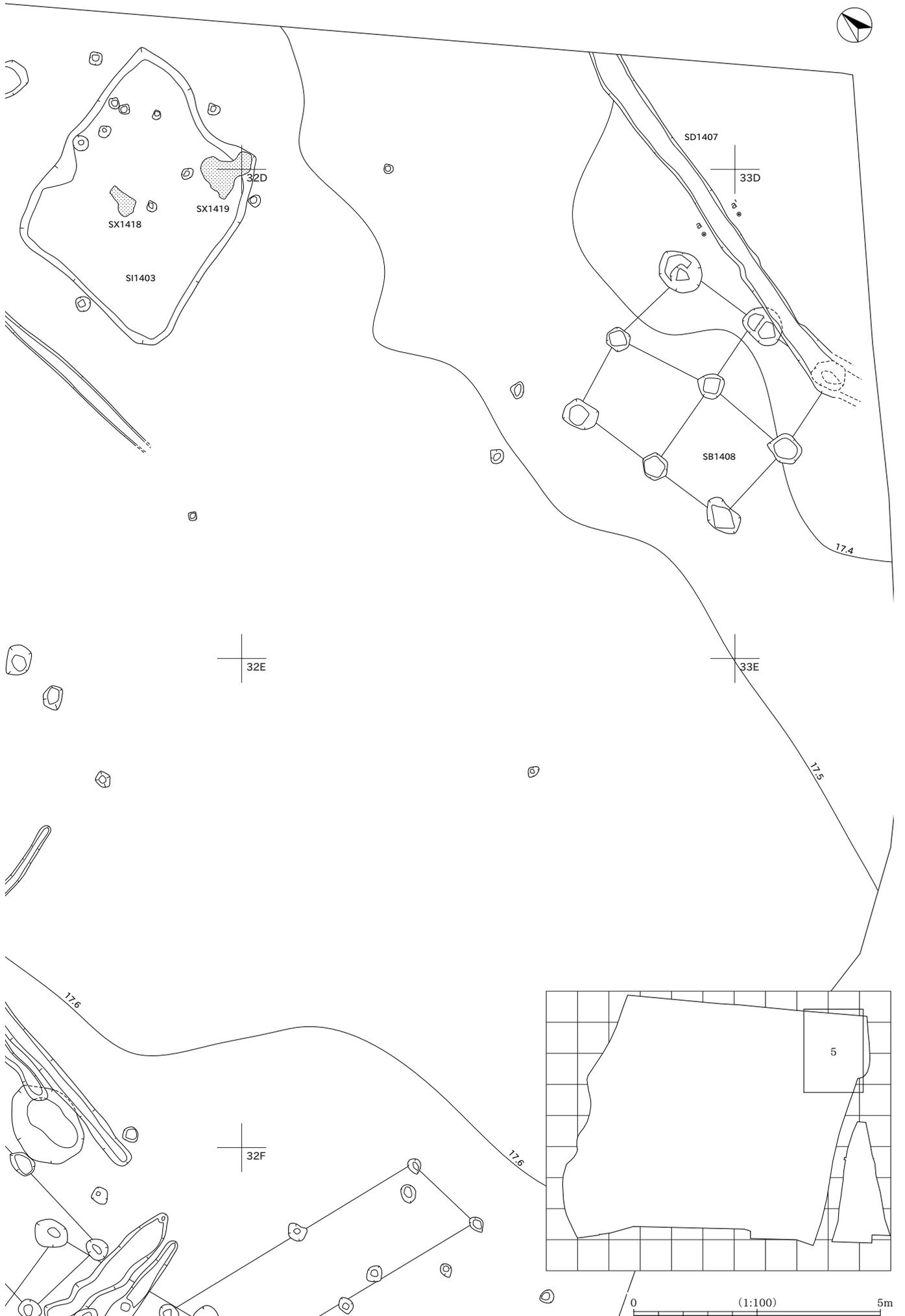
SK1402

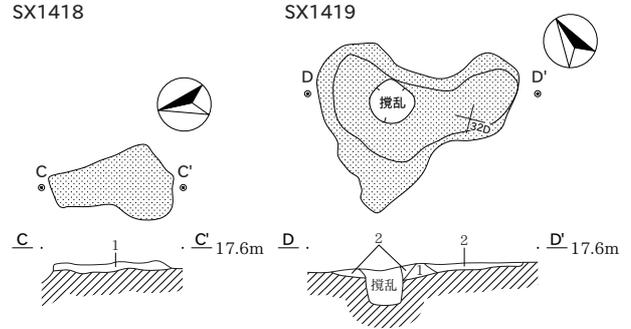
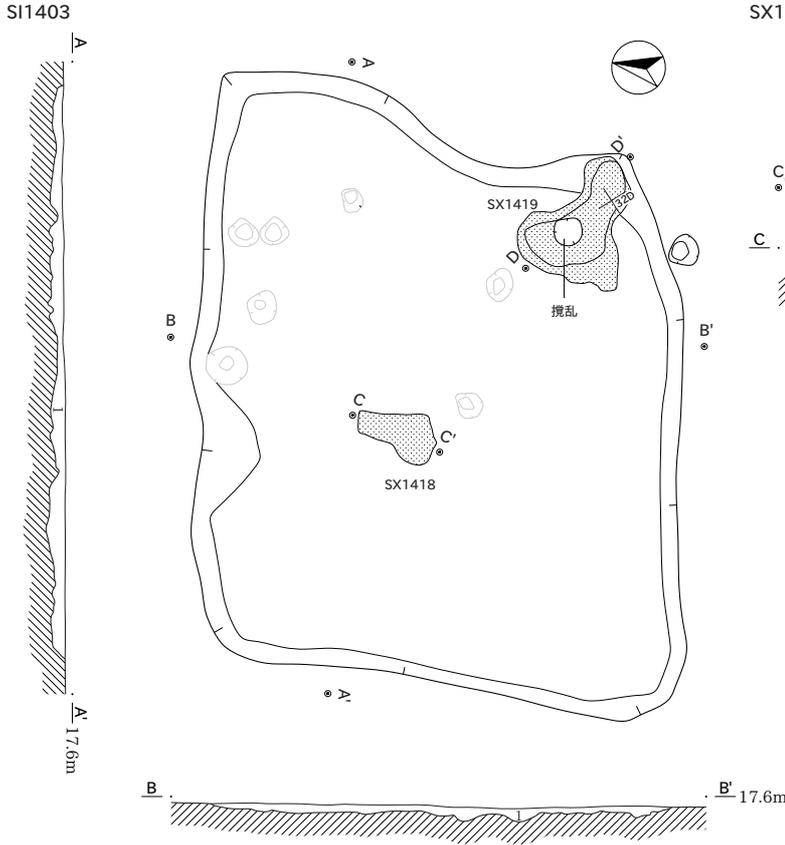


SK1402

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。







SI1403

1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。灰褐色シルト+黄褐色シルト含む。

SX1418

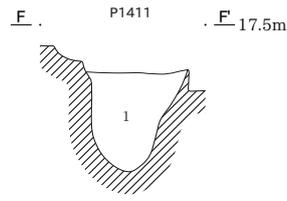
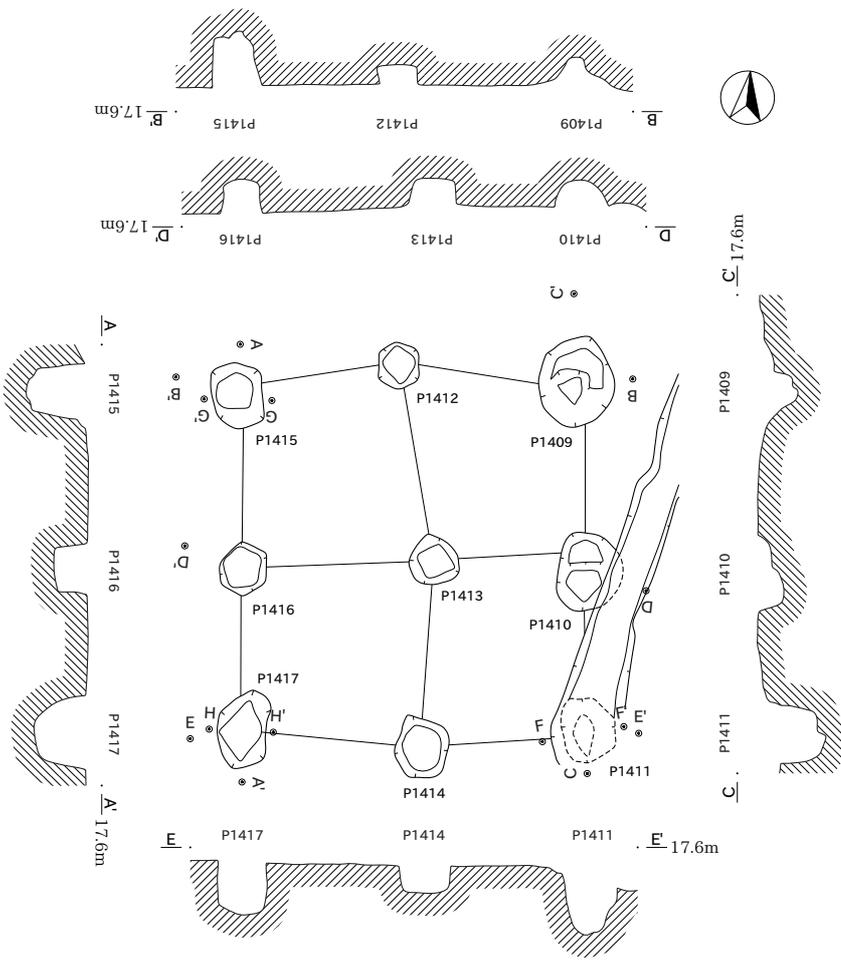
1 暗赤褐色シルト焼土 しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

SX1419

1 にぶい赤褐色シルト焼土 しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 にぶい赤褐色シルト+黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

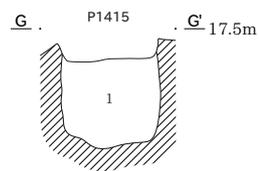


SB1408



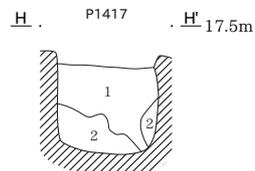
P1411

1 黒褐色シルト+浅黄橙色シルト+にぶい褐色シルト しまり中、粘性中。



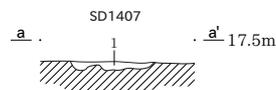
P1415

1 黒褐色シルト+浅黄橙色シルト+にぶい褐色シルト しまり中、粘性中。  
浅黄橙色シルトとにぶい褐色シルトの割合が多い。



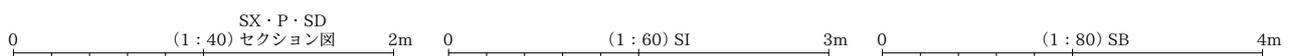
P1417

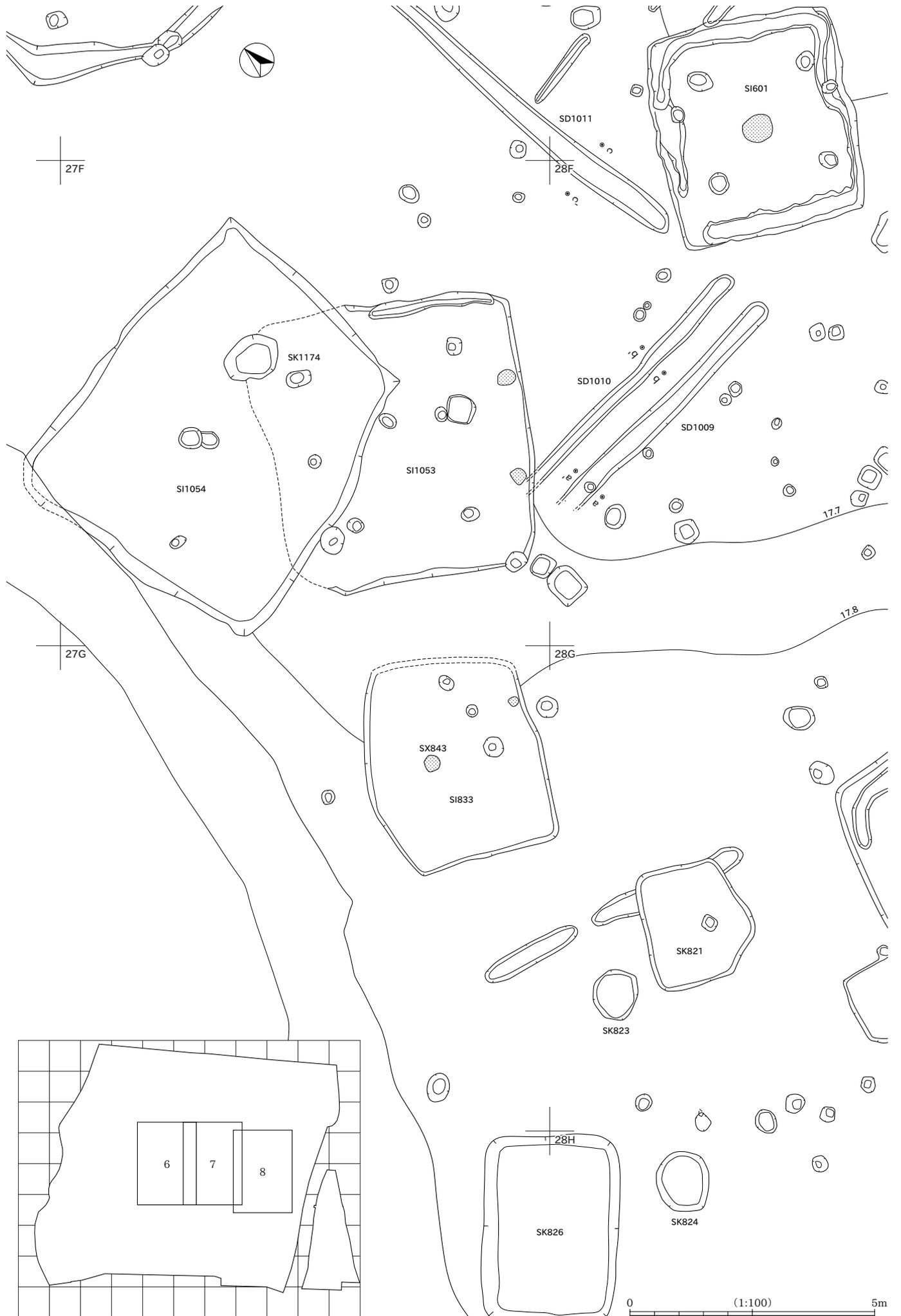
1 黒褐色シルト+浅黄橙色シルト+にぶい褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 黒褐色シルト+浅黄橙色シルト+にぶい褐色シルト しまり中、粘性中。黒褐色シルトの割合が多い。

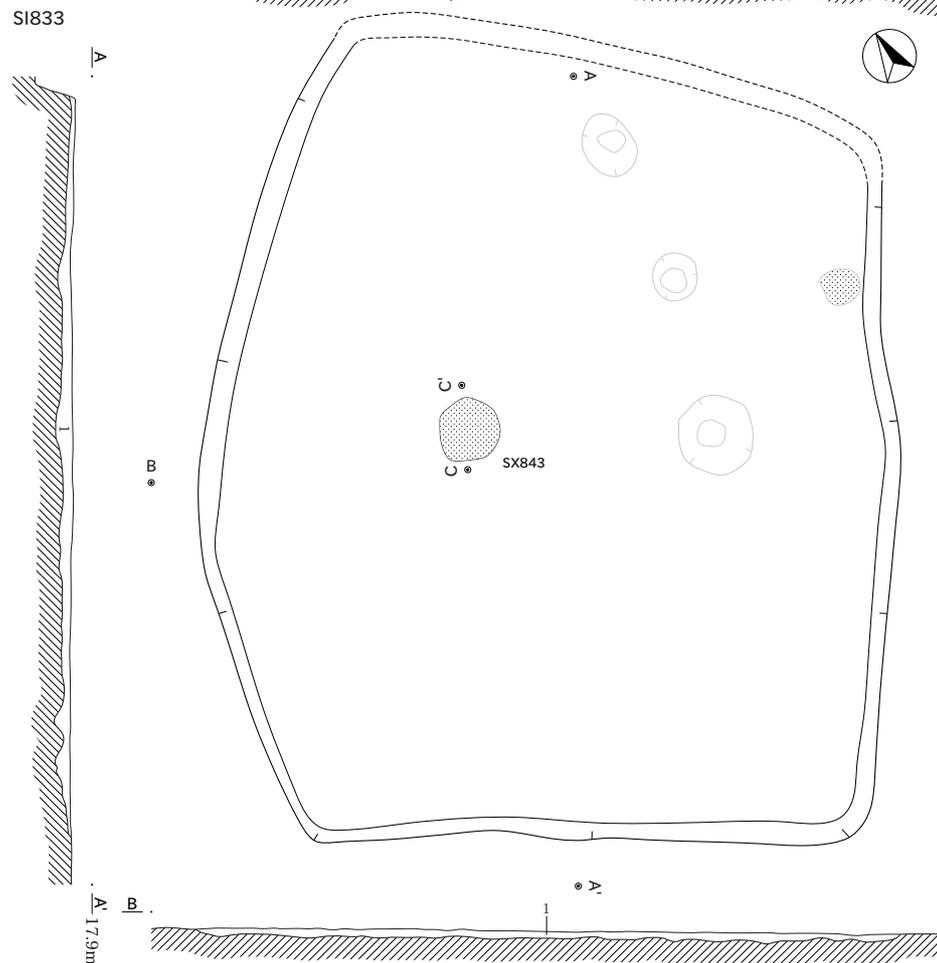
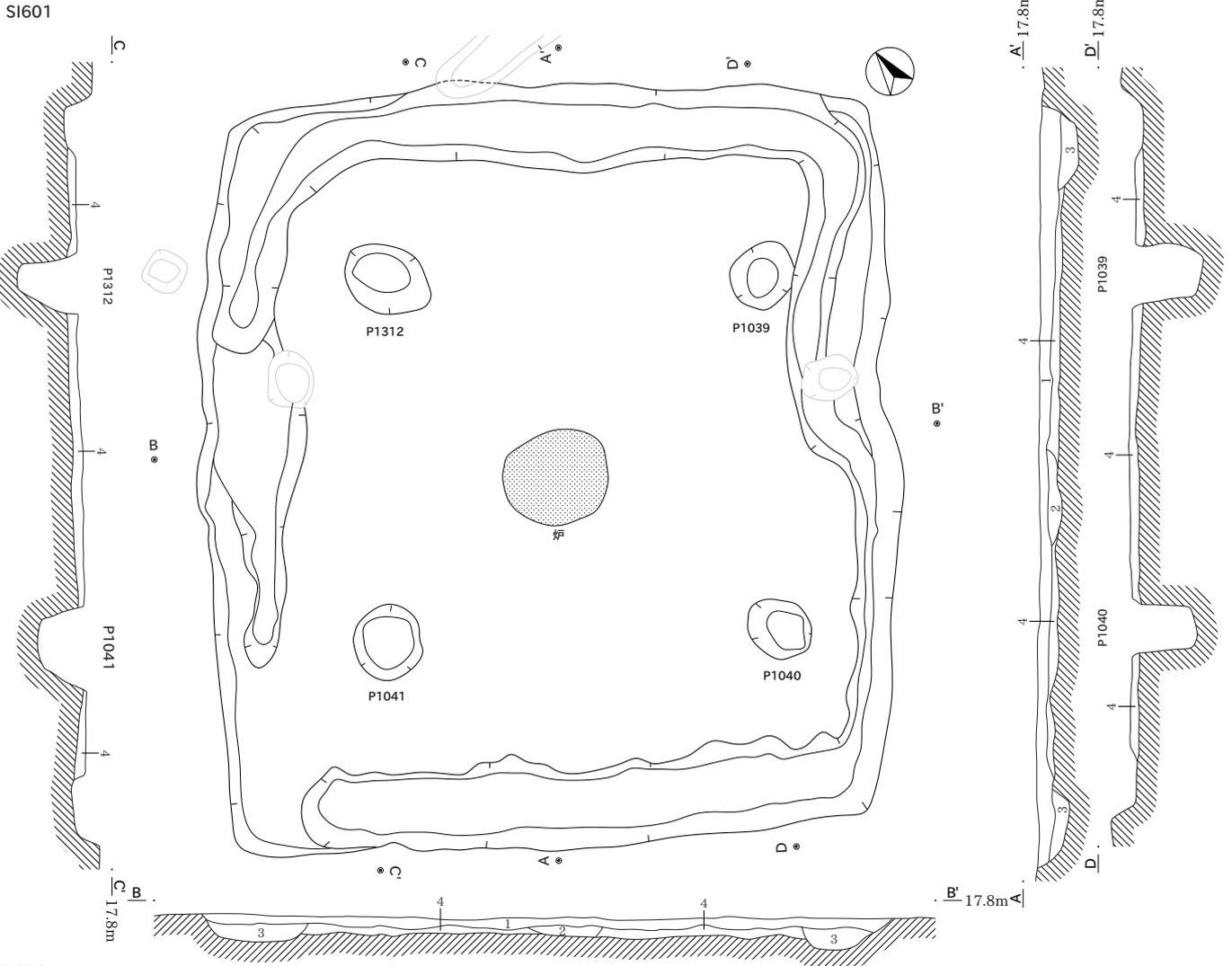


SD1407

1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。  
φ1~10mm前後の炭化物少量含む。







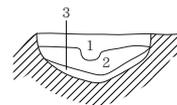
SI601

- 1 黒色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルト中量、焼土含む。
- 2 にぶい赤褐色シルト しまり中、粘性中。焼土含む。炉跡。
- 3 にぶい黄橙色粘質シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック+暗褐色シルトブロック含む。(周溝堆積土)
- 4 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック中量含む。

SI833

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

B' SX843 C' 17.9m



SX843

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物多量、黄橙色シルト+灰色シルトブロック含む。
- 2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。
- 3 にぶい赤褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルト+黄橙色シルトブロック含む。

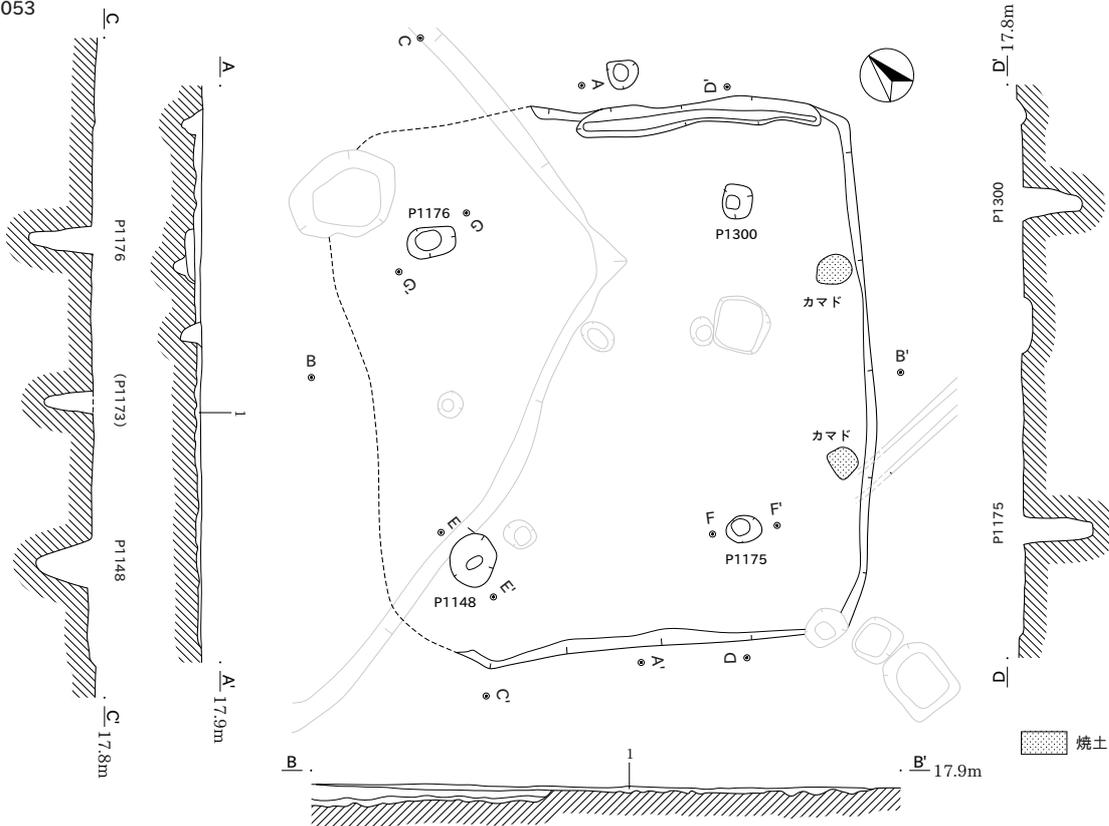
0 (1:20) SX843 1m

0 (1:40) SI 2m

B' 17.9m

焼土

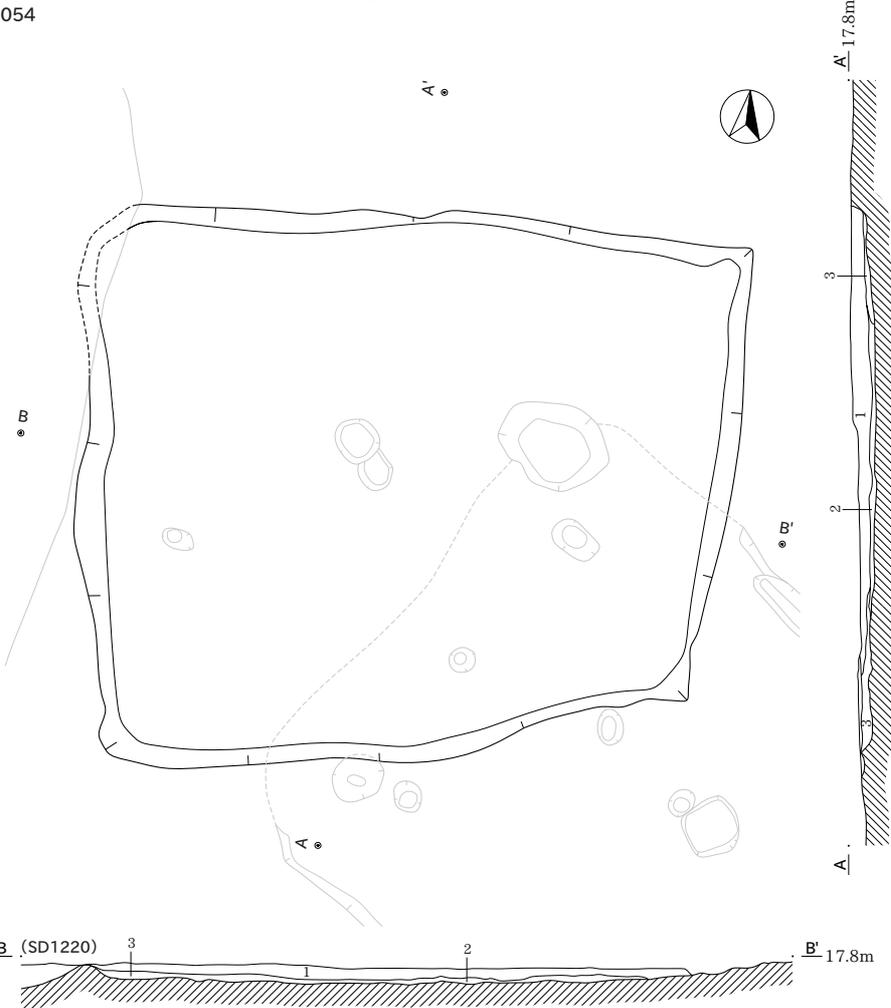
SI1053



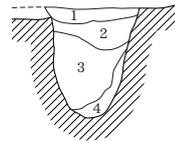
SI1053

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物少量含む。

SI1054

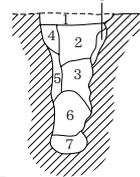


P1148 E-E' 17.8m



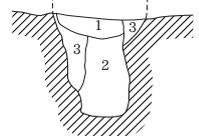
P1148  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
2 灰黄褐色シルト しまり弱、粘性中。  
3 暗褐色シルト しまり中、粘性中。  
4 暗褐色シルト しまり中、粘性中。  
黄褐色シルトブロック含む。

P1175 F-F' 17.8m



P1175  
1 黄灰色シルト しまり中、しまり中。  
2 灰黄褐色シルト しまり弱、粘性中。  
φ1mmの炭化物を少量含む。  
3 褐灰色シルト しまり弱、粘性弱。  
φ1mmの炭化物少量含む。  
4 暗灰黄色シルト しまり中、粘性中。  
5 黄灰色シルト しまり中、粘性中。  
6 黒褐色シルト しまり中、粘性弱。  
7 灰白色粘質シルト しまり中、粘性中。

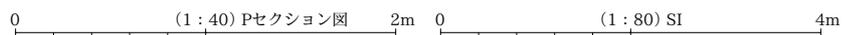
P1176 G-G' 17.7m



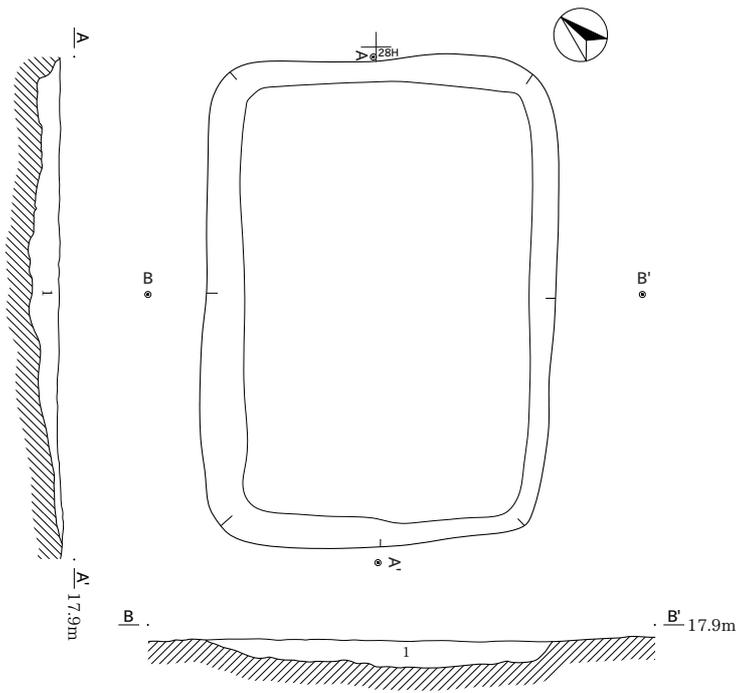
P1176  
1 黄灰色シルト しまり中、しまり中。  
2 褐灰色シルト しまり弱、粘性弱。  
φ1mmの炭化物少量含む。  
3 暗灰黄色シルト しまり中、粘性中。

SI1054

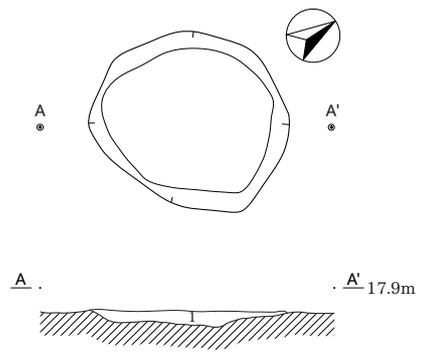
1 黄灰色シルト しまり中、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性弱。φ1~2mmの炭化物少量含む。  
3 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。



SK826

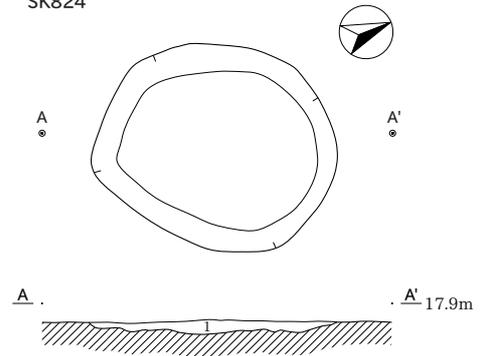


SK823



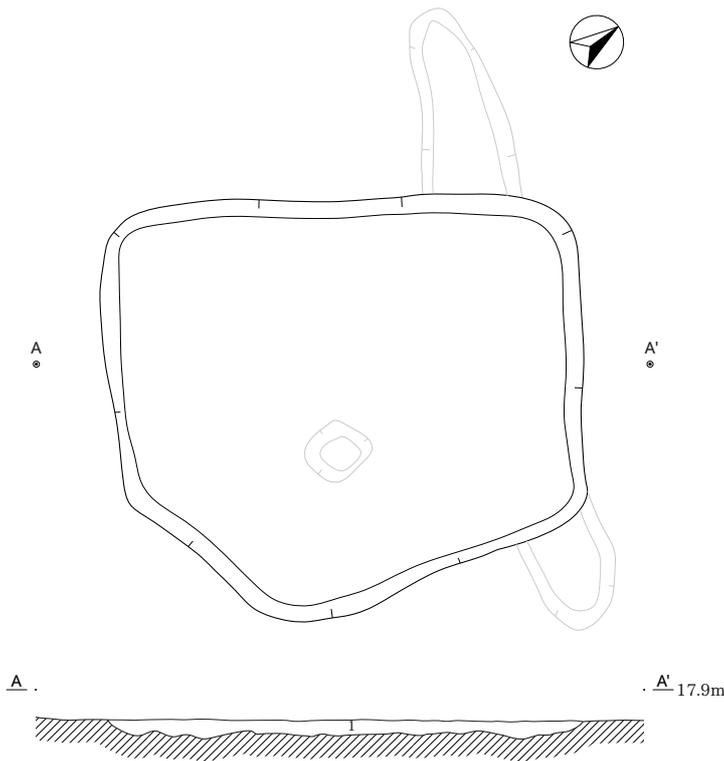
SK823・SK826共通  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SK824



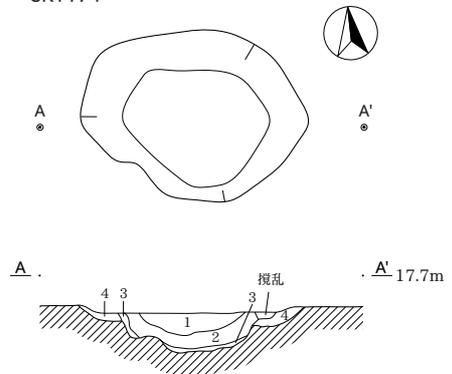
SK824  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SK821

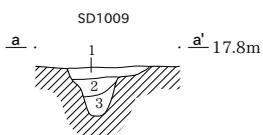


SK821  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

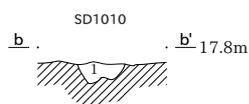
SK1174



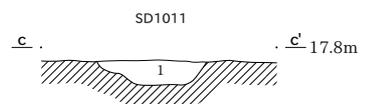
SK1174  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ1mmの炭化物少量含む。  
2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック少量含む。  
3 暗褐色シルト しまり中、粘性中。φ1mm未満の炭化物微量含む。  
4 黄灰色シルト しまり中、粘性中。



SD1009  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック多量含む。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック中量含む。  
3 黒褐色シルト しまり弱、粘性中。



SD1010  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック多量含む。



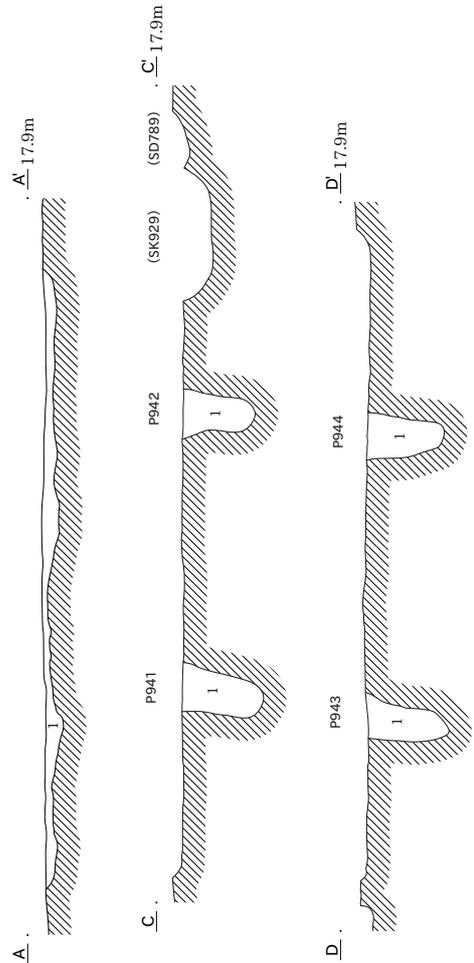
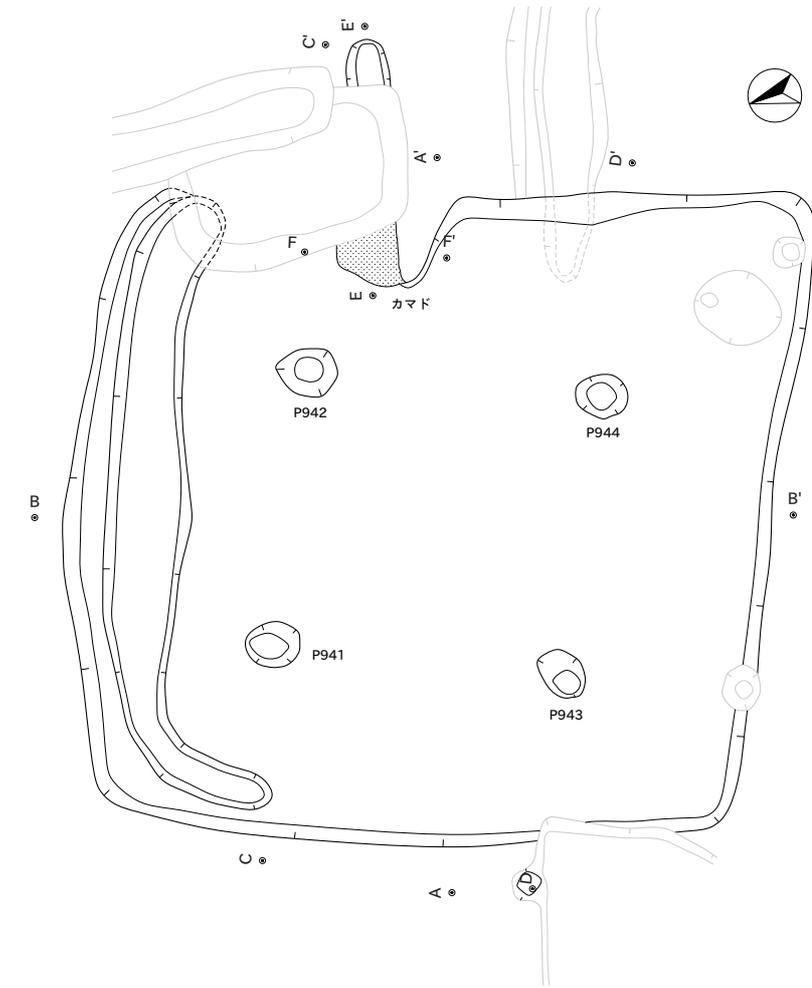
SD1011  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック少量含む。

0 (1 : 40) SK 2m

0 (1 : 60) SK826 3m



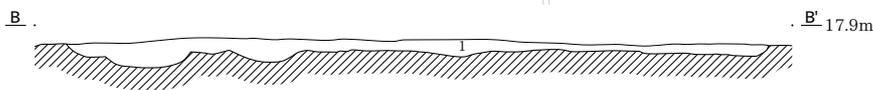
SI930



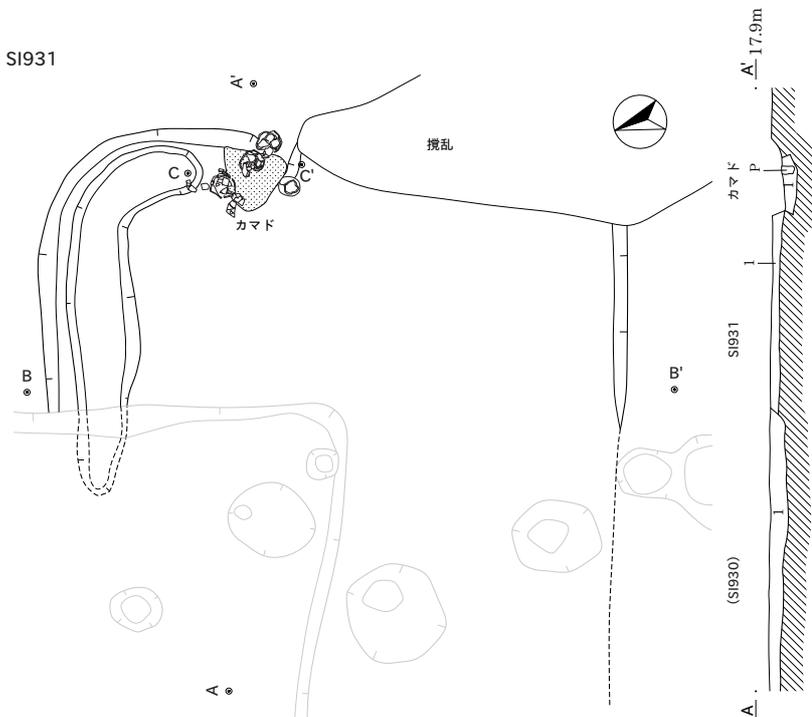
SI930

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
黄褐色シルトブロック含む。

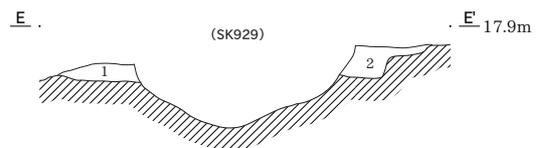
P941・P942・P943・P944共通  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。



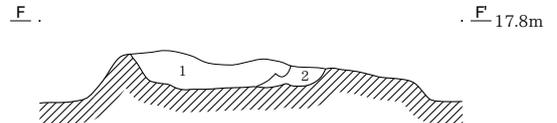
SI931



SI930カマド

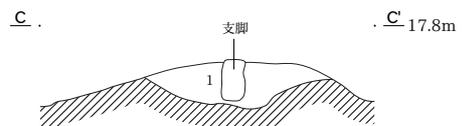


SI930カマド



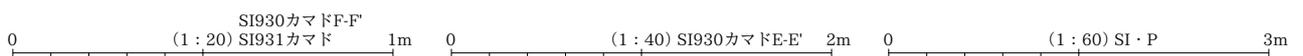
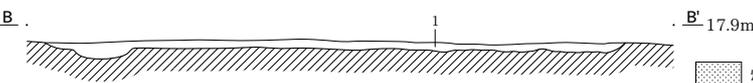
SI930カマド  
1 橙色シルト しまり中、粘性中。  
2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SI931カマド

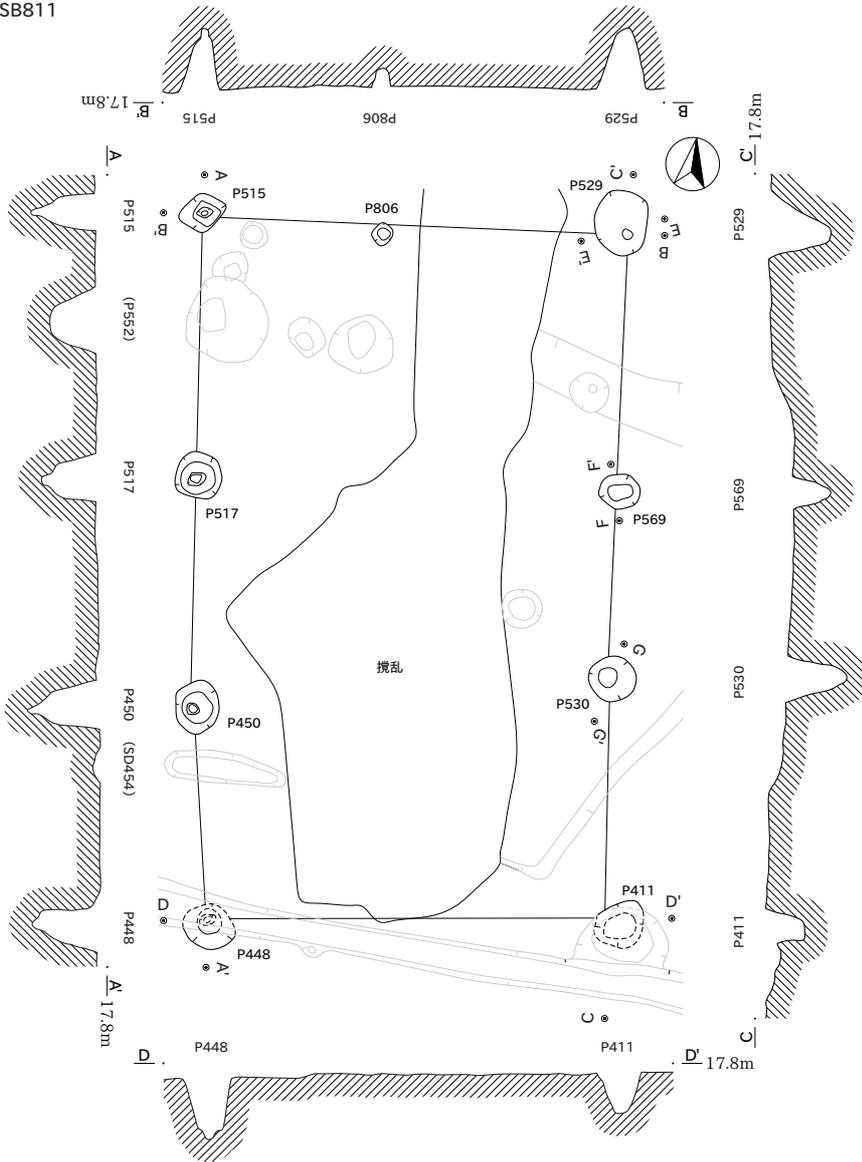


SI931カマド  
1 橙色シルト しまり中、粘性中。にぶい橙色シルトブロック含む。

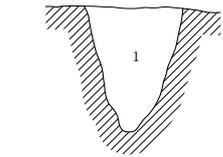
SI931  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。



SB811



P529 E E 17.8m



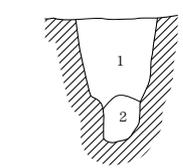
P529  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

P569 F F 17.5m



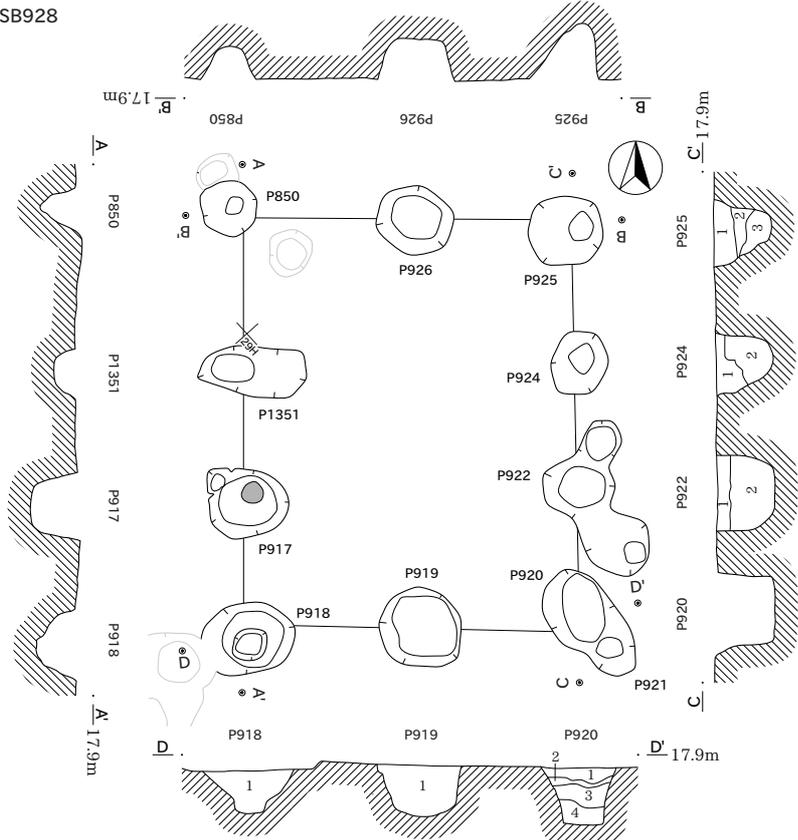
P569  
1 灰白色シルト しまり中、粘性中。  
褐灰色シルトブロック含む。

P530 G G 17.7m



P530  
1 黄灰色シルト しまり中、粘性中。  
黄色シルトブロック含む。  
2 灰色シルト しまり中、粘性中。

SB928



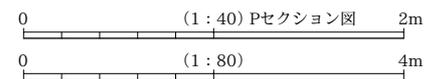
P918・P919共通  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

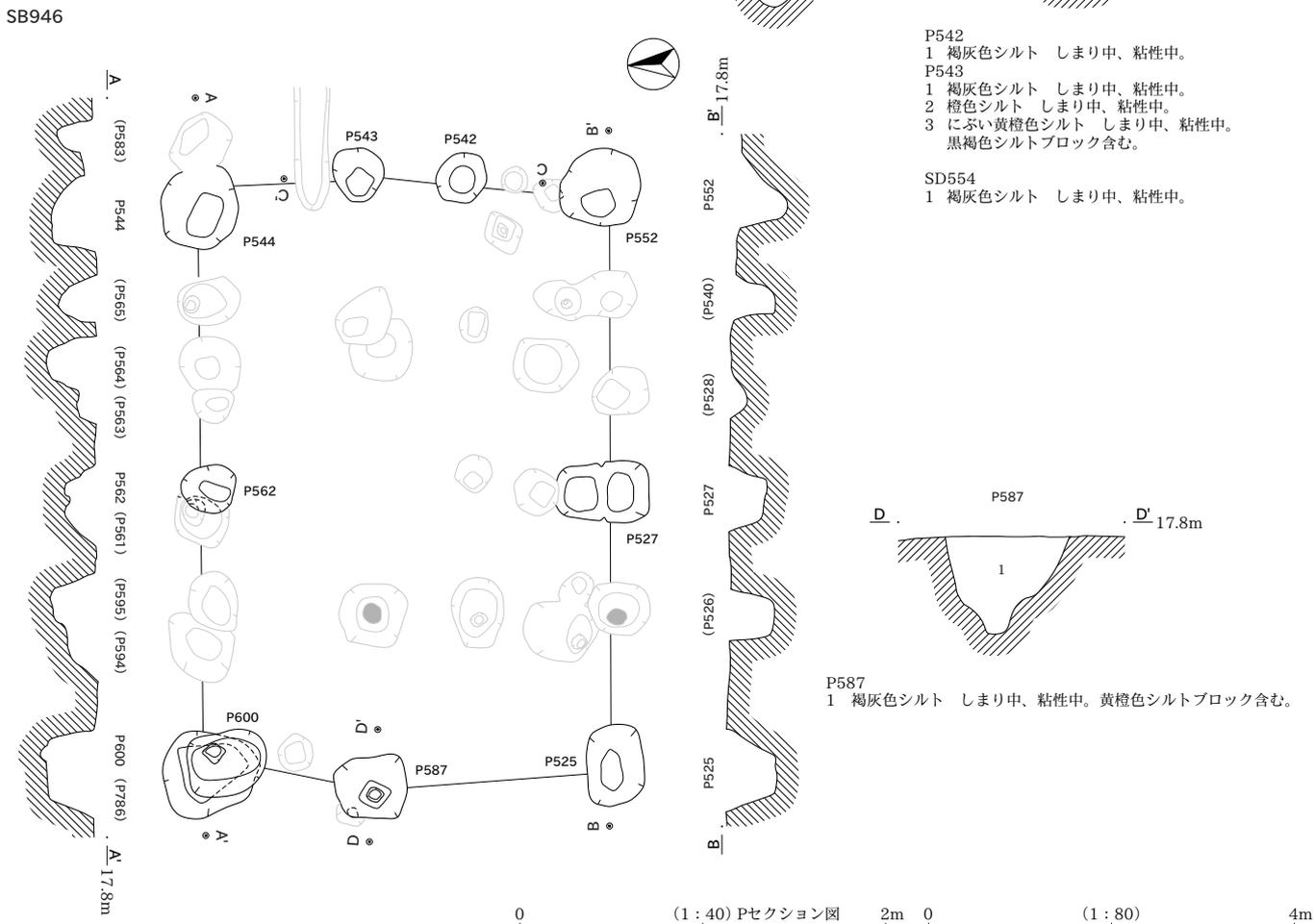
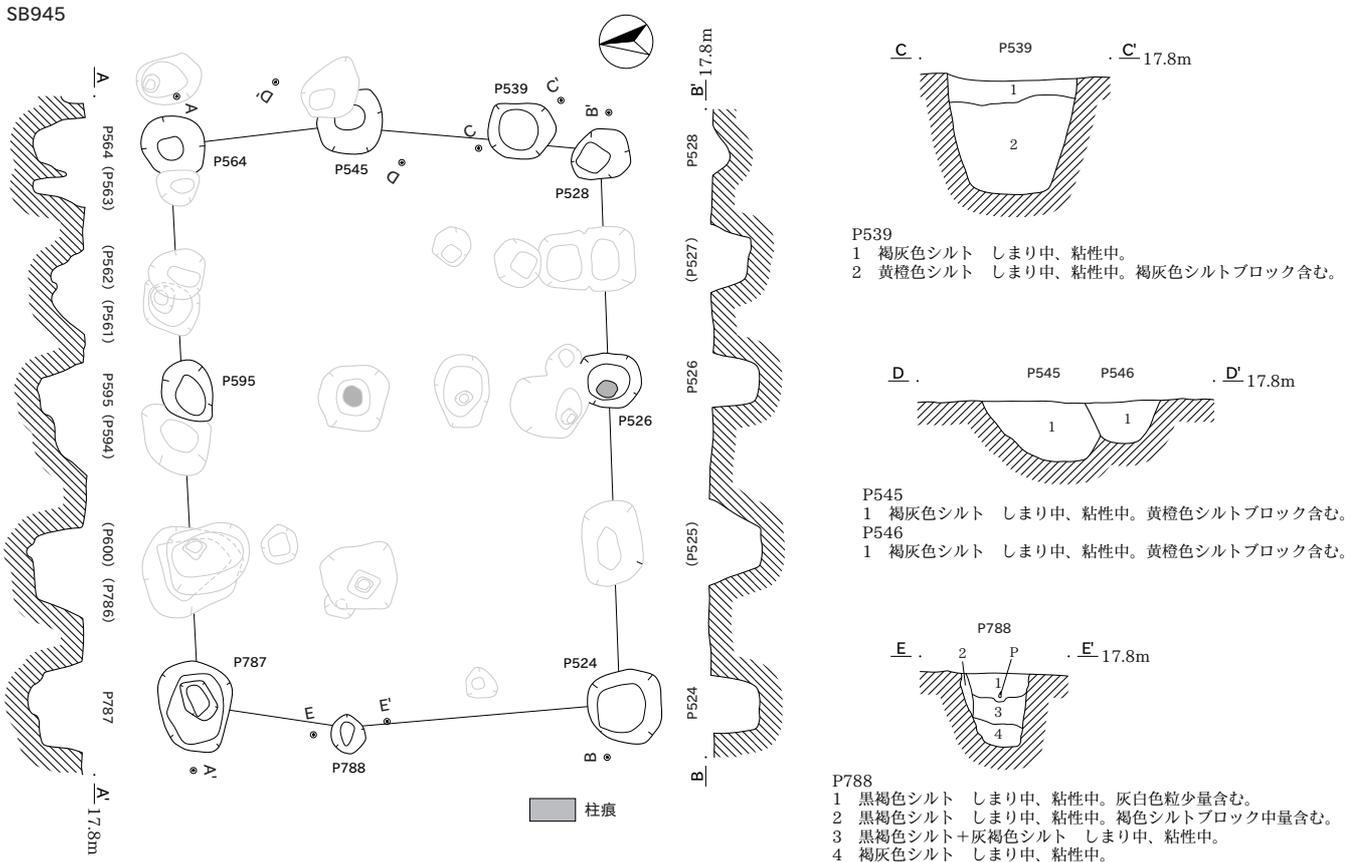
P920  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。  
3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。  
4 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P922  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

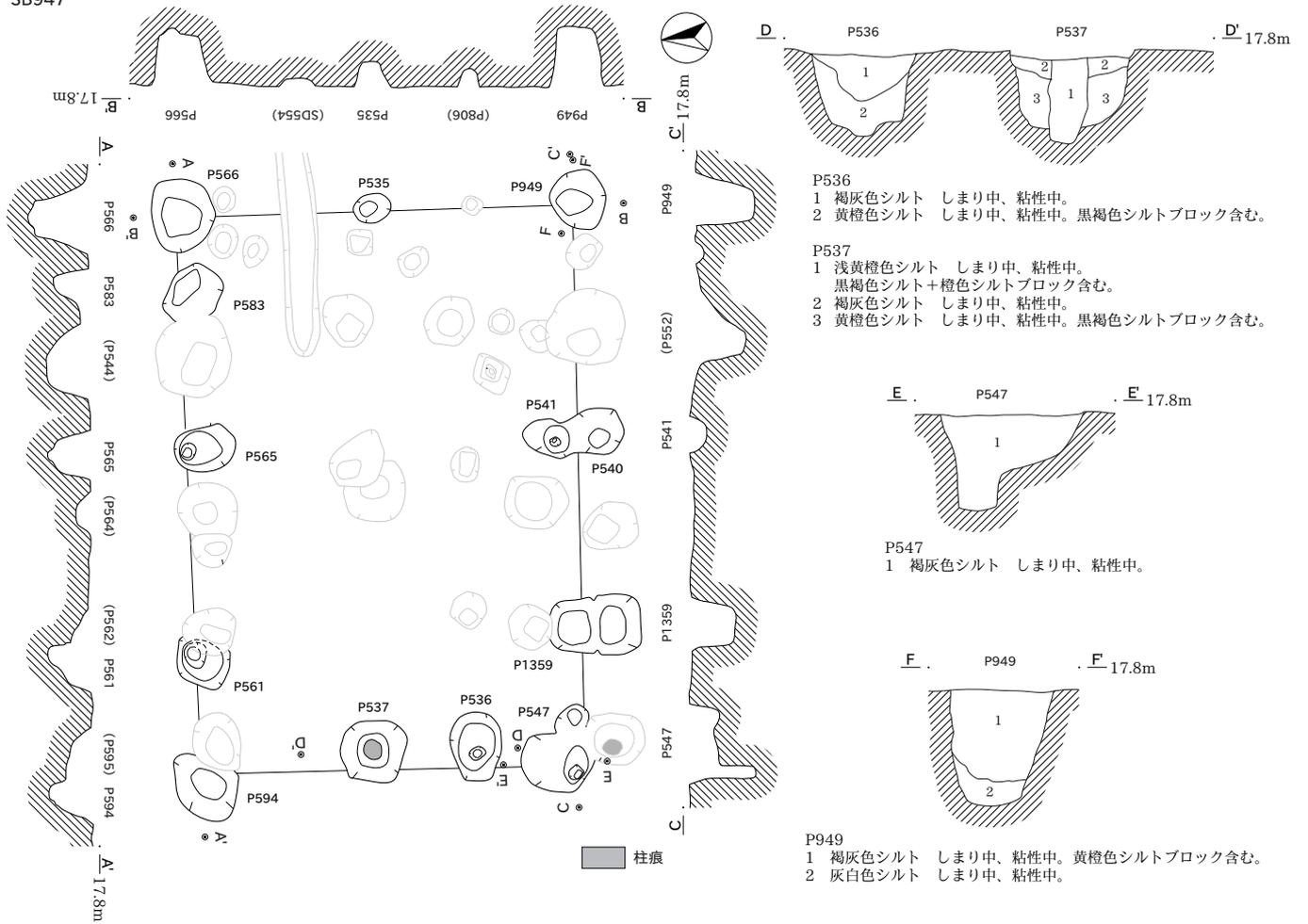
P924  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P925  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。  
3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐色シルトマール状に含む。

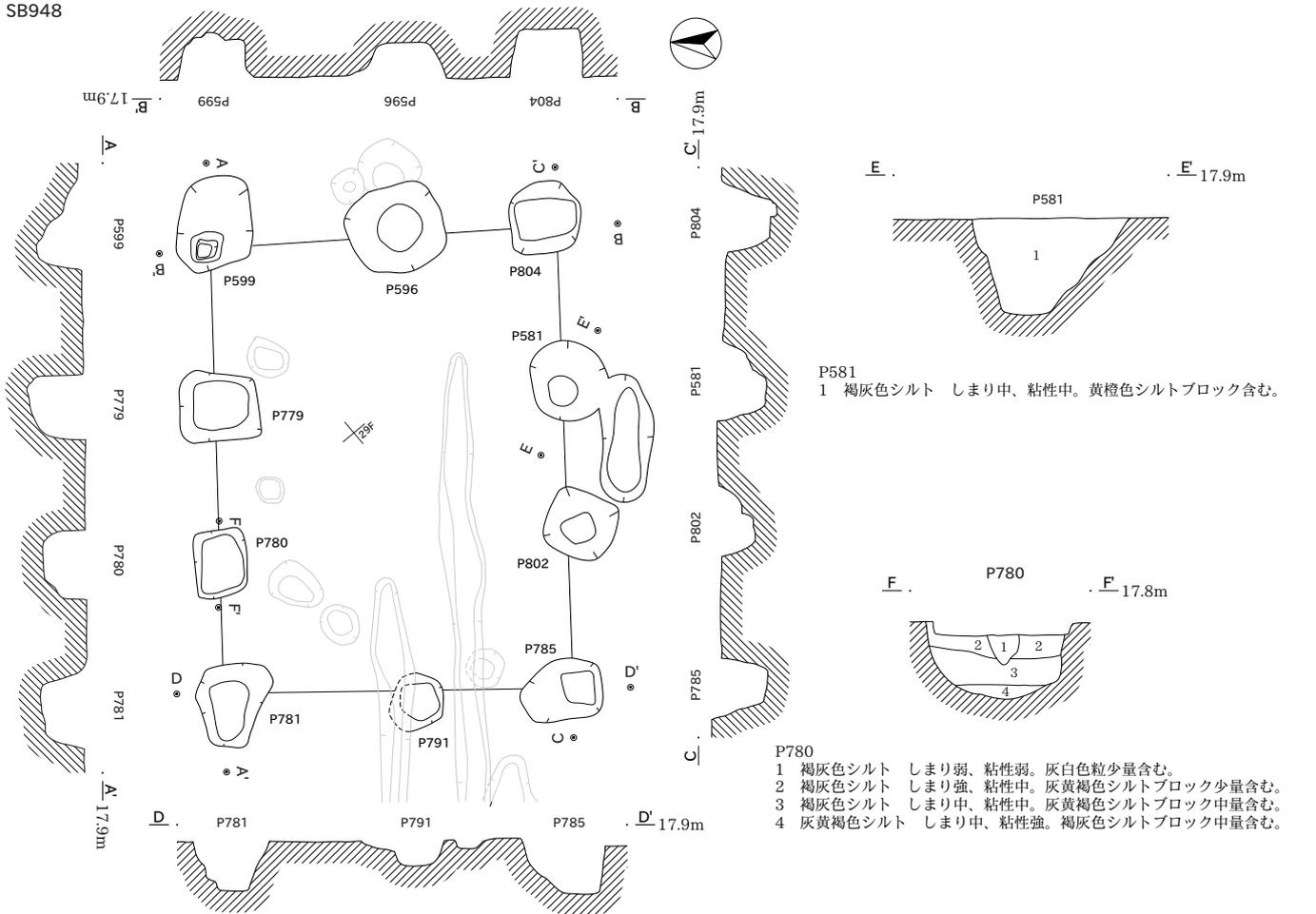




SB947

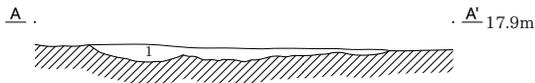
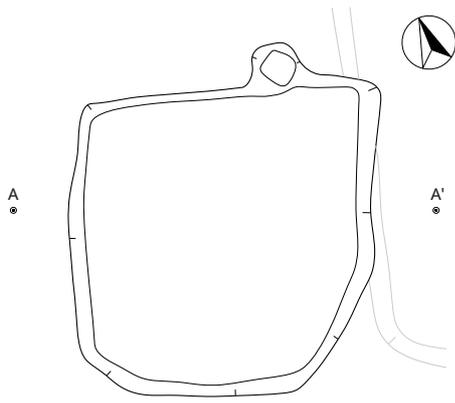


SB948

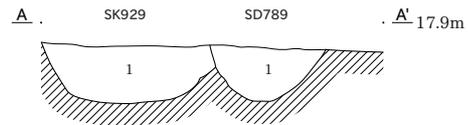
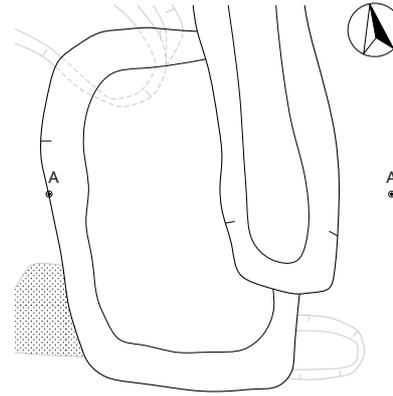


SK822

SK929・SD789

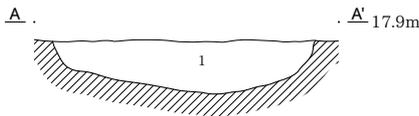
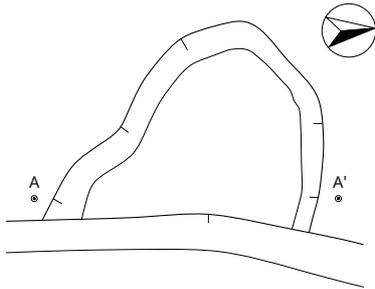


SK822  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。



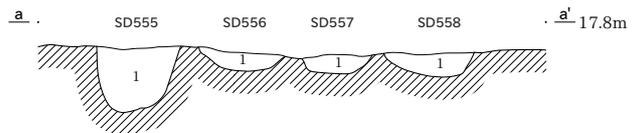
SK929  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

SK951



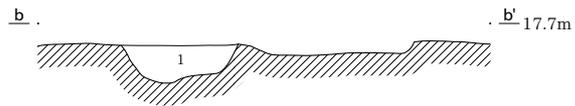
SK951  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SD555・556・557・558



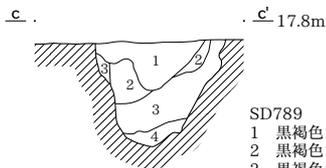
SD555  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
SD556・SD557・SD558共通  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SD582



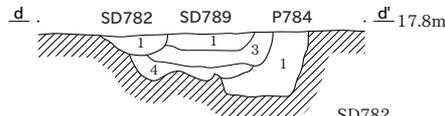
SD582  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

SD789



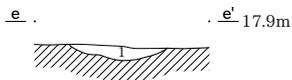
SD789  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック少量含む。  
2 黒褐色シルト しまり強、粘性中。にぶい赤褐色シルトブロック多量含む。  
3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい橙色シルトブロック多量含む。  
4 にぶい橙色シルト しまり強、粘性強。褐色シルトブロック少量含む。

SD782・P784・SD789



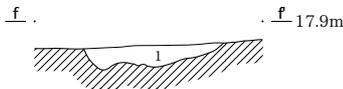
SD782  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
P784  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SD913

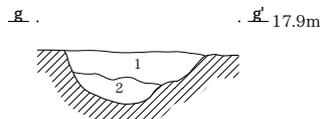


SD913  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

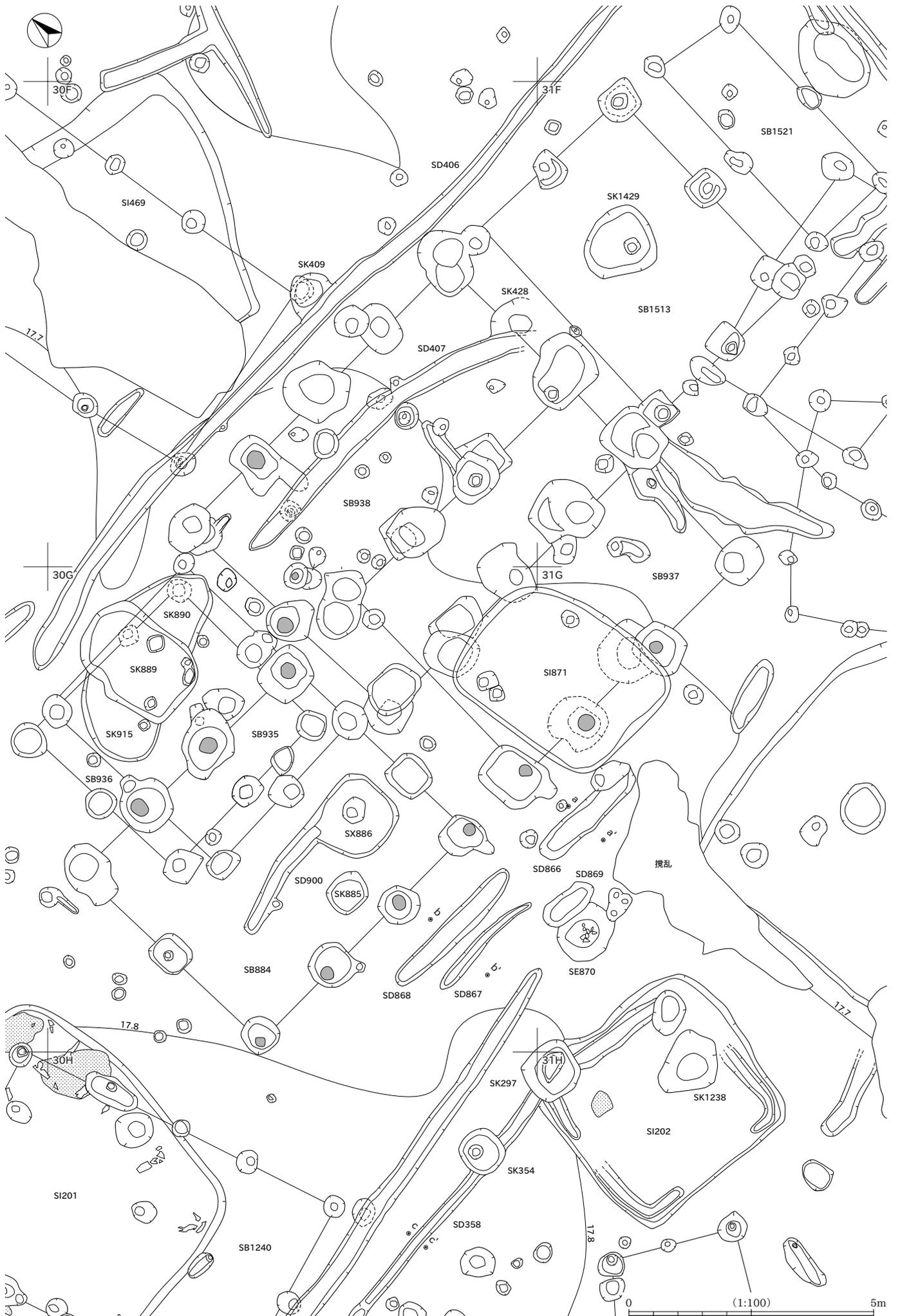
SD913



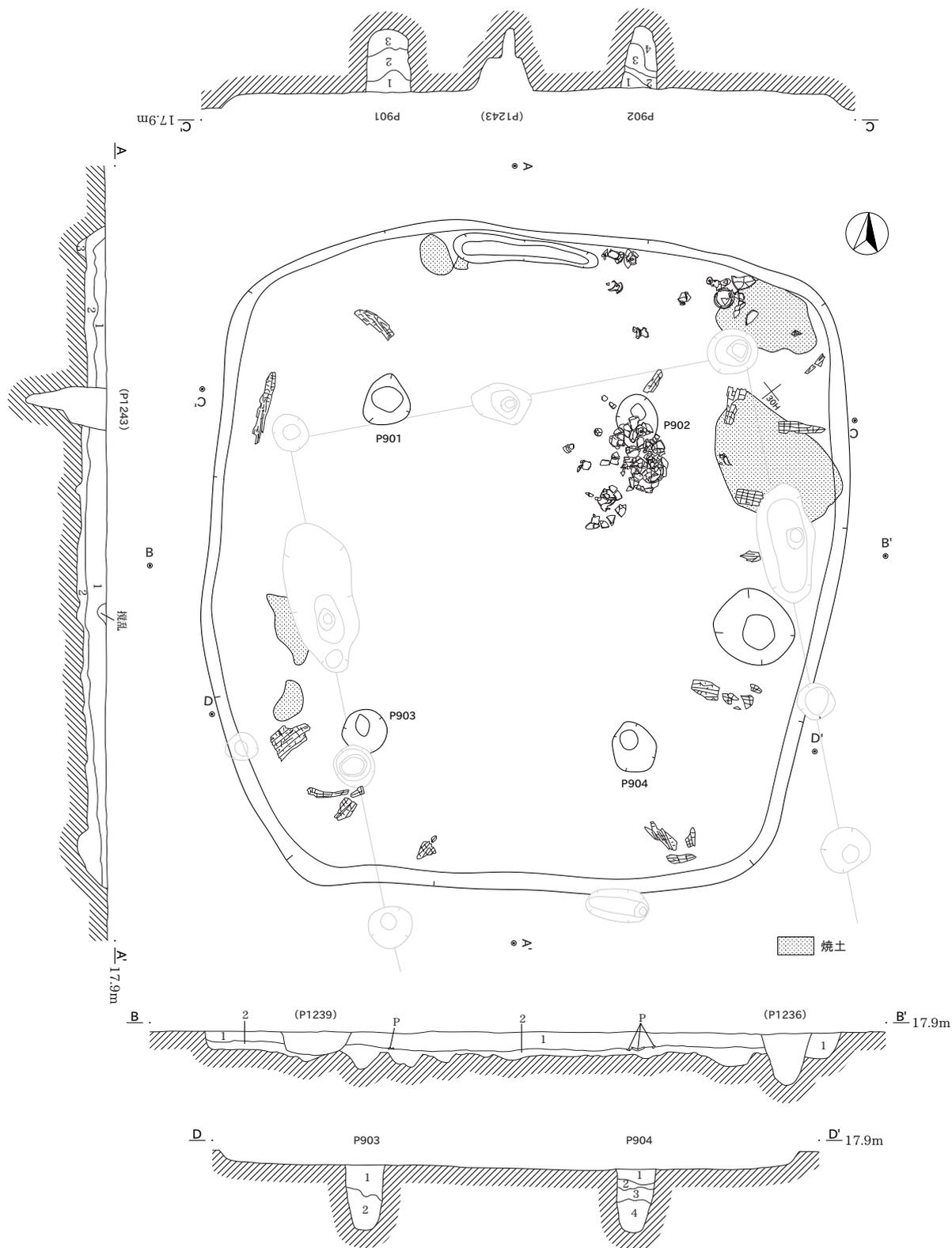
SD914



SD914  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。



SI201



SI201

- 1 黒色シルト しまり中、粘性中。炭化物多量、黒褐色シルト含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物多量、焼土少量、黒褐色シルト含む。
- 3 にぶい黄褐色 しまり中、粘性中。(周溝堆積土)

P901

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。上部に炭化材含む。
- 2 黄褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
- 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

P902

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黄褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
- 3 黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ5mm以下の炭化物含む。
- 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

P903

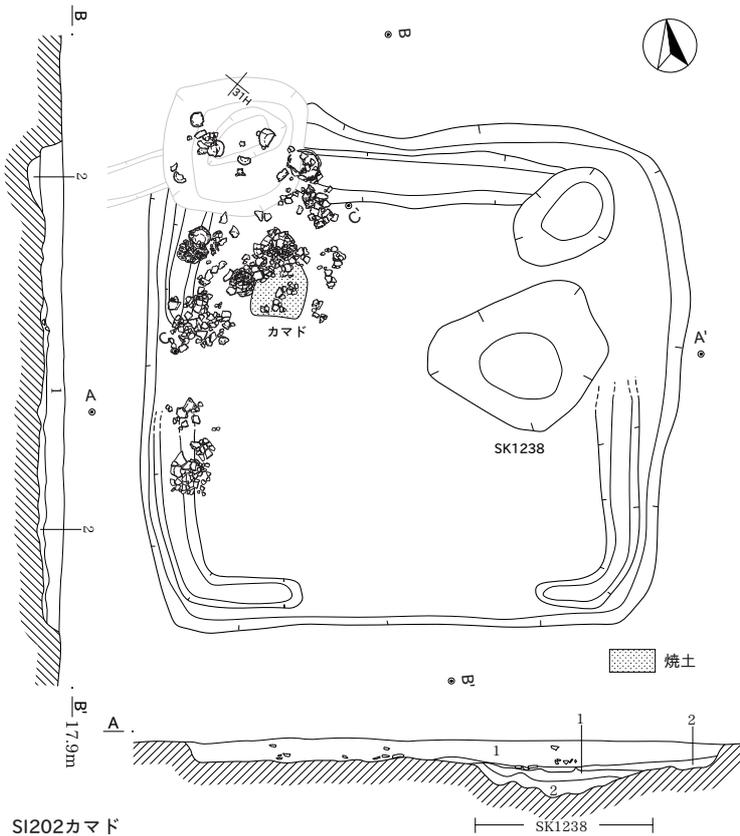
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

P904

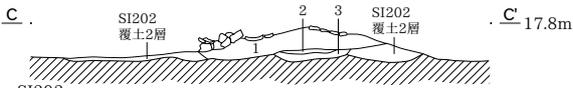
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黄褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
- 3 黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ5mm以下の炭化物含む。
- 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

0 (1 : 60) 3m

SI202



SI202カマド



- SI202
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性なし。φ3~5mmの炭化物中量含む。
  - 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物中量含む

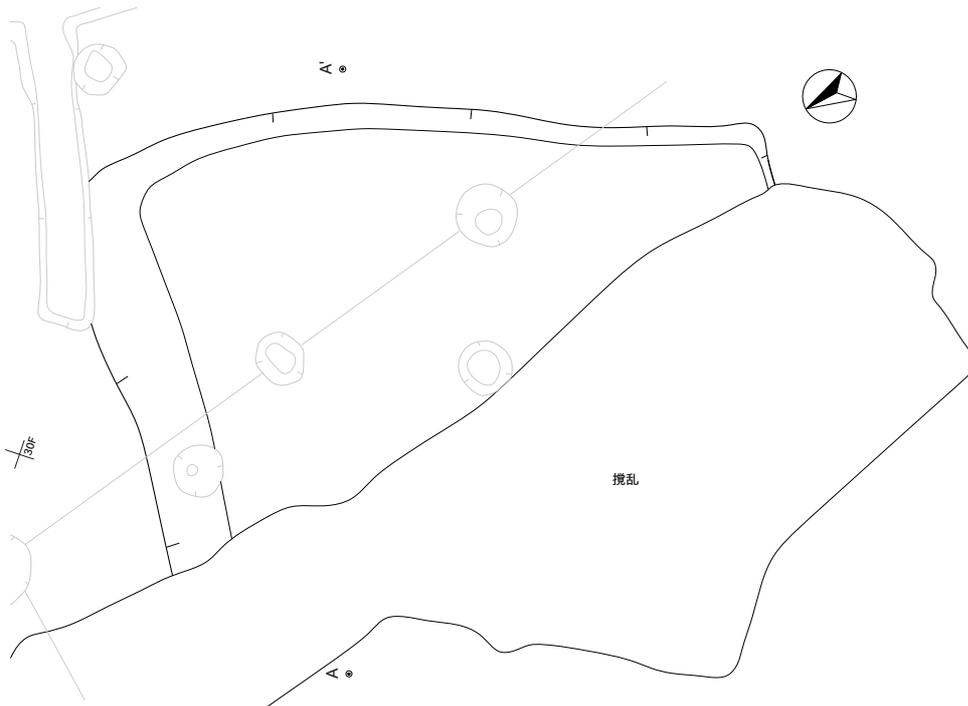
SI202カマド

- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性中。焼土ブロック多量含む。
- 2 明赤褐色焼土 しまり強、粘性中。
- 3 にぶい赤褐色焼土 しまり強、粘性中。

SK1238

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物少量、明黄褐色シルトブロック含む。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物中量、焼土粒少量、明黄褐色シルトブロック含む。

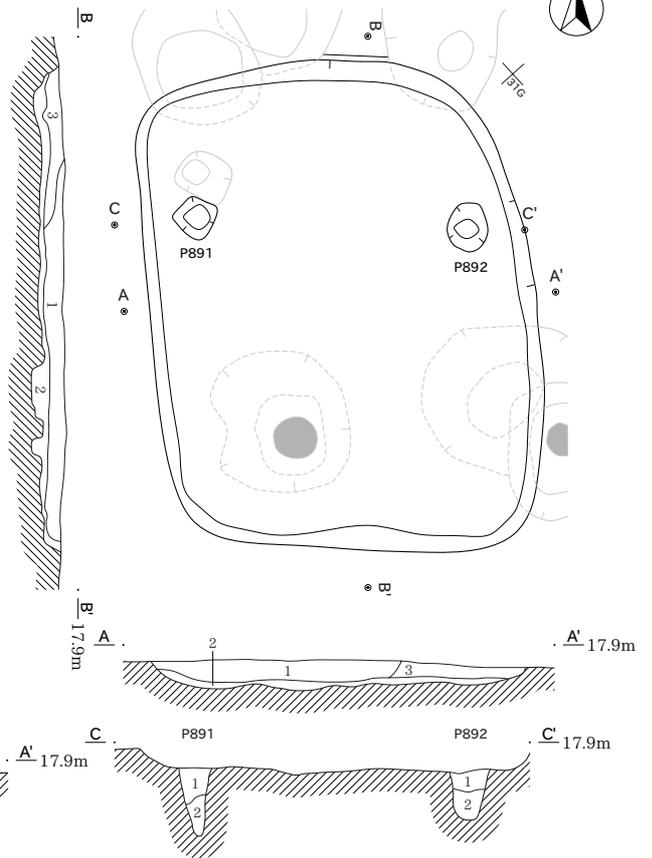
SI469



SI469

- 1 灰褐色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
- 2 灰色シルト しまり強、粘性中。

SI871

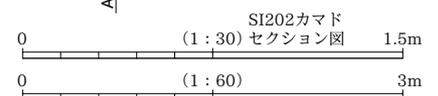


SI871

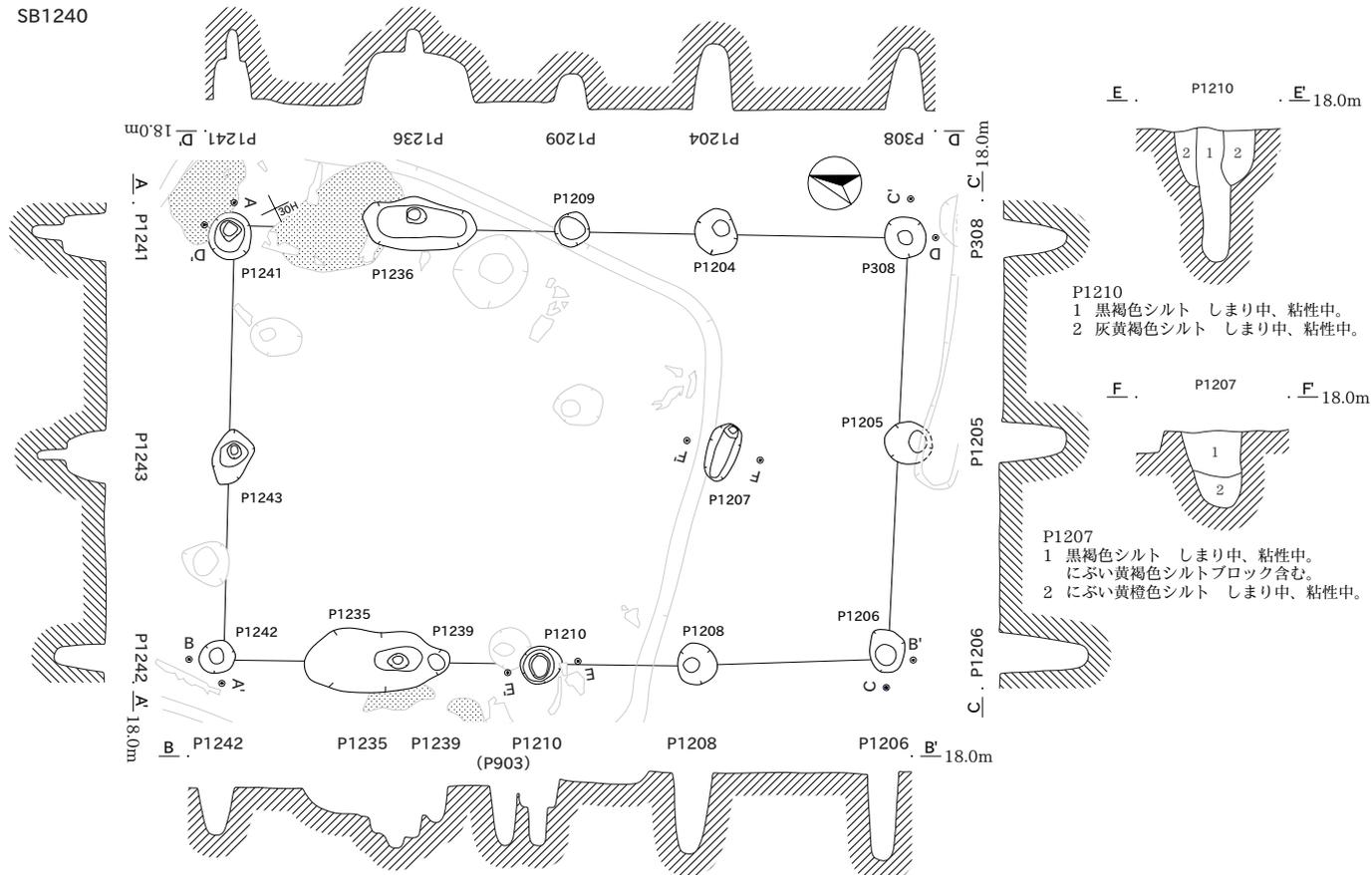
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物多量含む。
- 2 褐灰色シルト しまり強、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
- 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルト含む。

P891・P892共通

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物・焼土、黄褐色シルトブロック含む。
- 2 灰白色粘質シルト しまり強、粘性強。



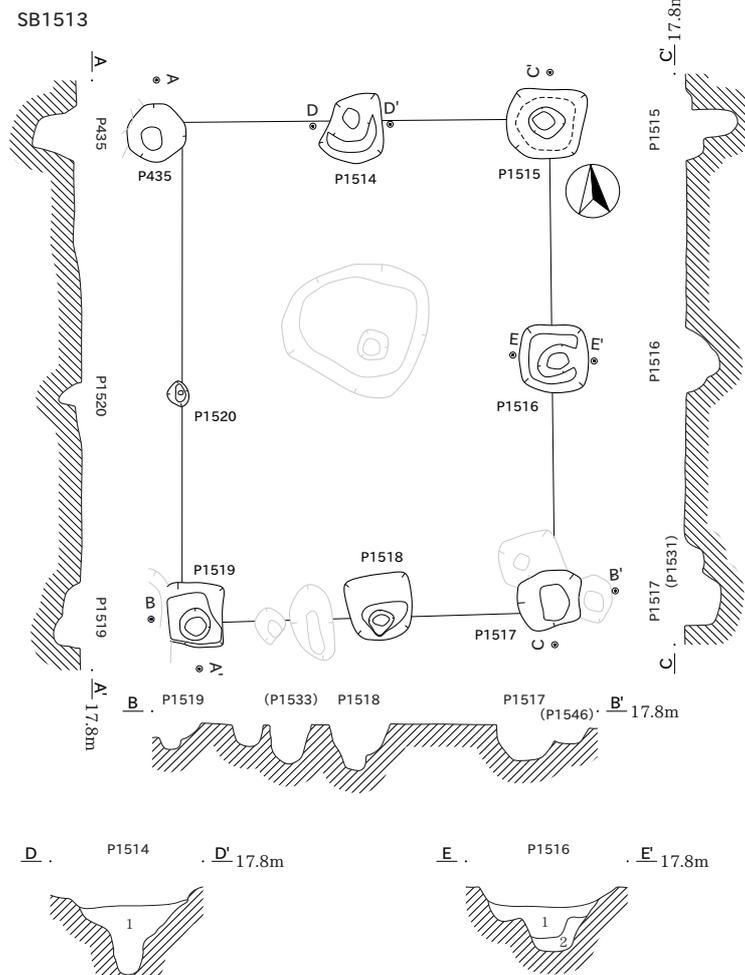
SB1240



P1210  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。

P1207  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
にぶい黄褐色シルトブロック含む。  
2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

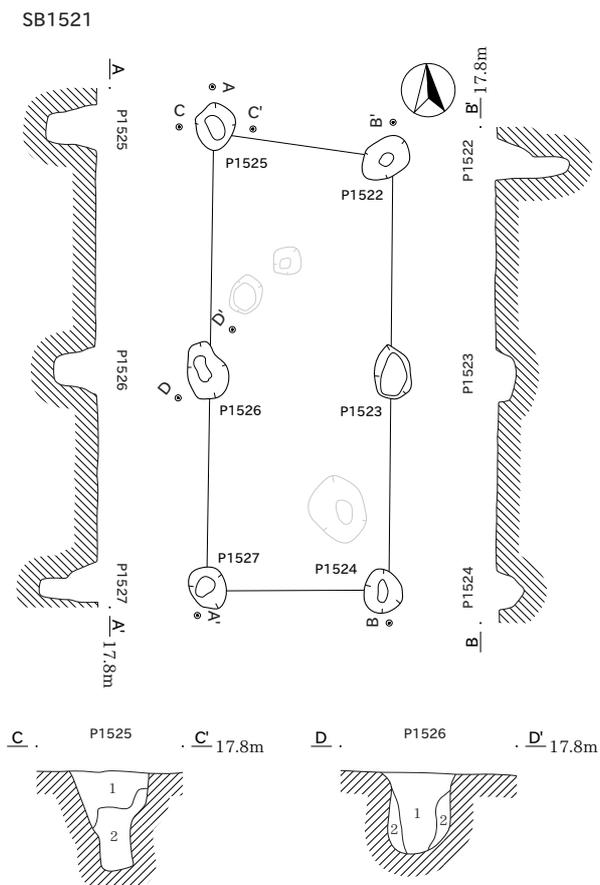
SB1513



P1514  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

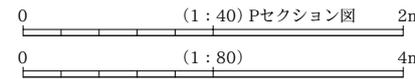
P1516  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、黄褐色シルト含む。

SB1521

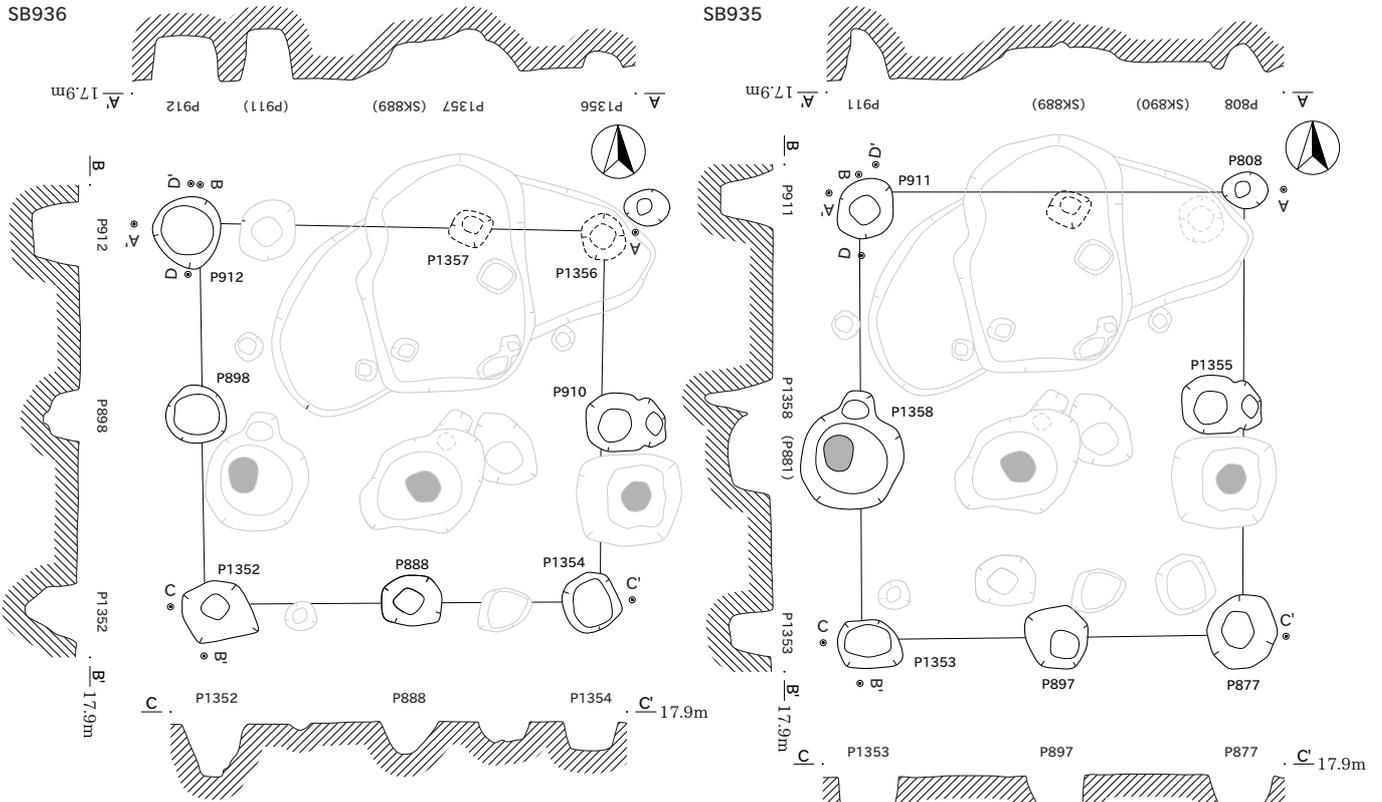


P1525  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック。  
2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

P1526  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 黄褐色シルト しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック含む。

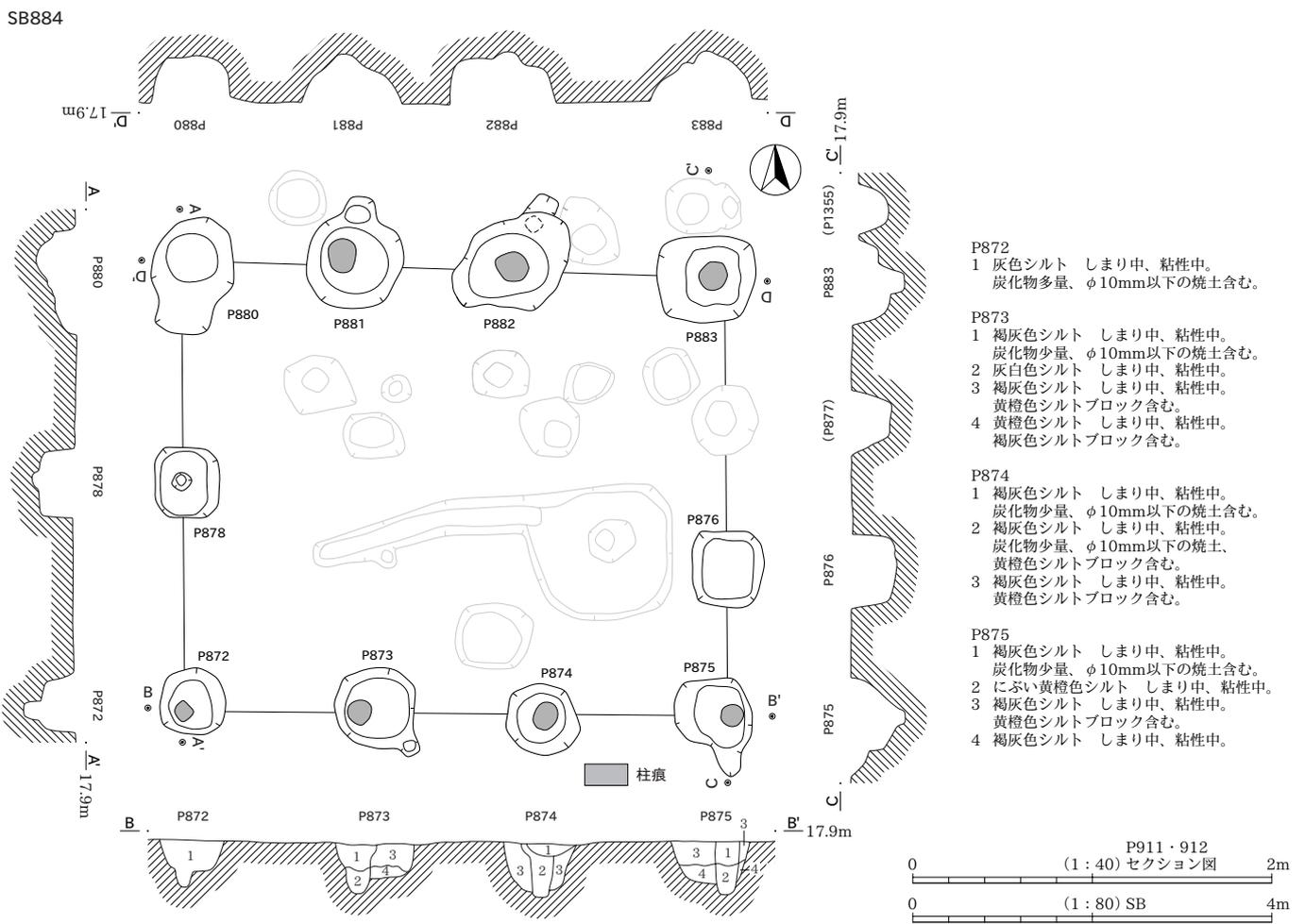






**P912**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
 2 灰白色粘質シルト しまり強、粘性強。

**P911**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
 2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。



**P872**  
 1 灰色シルト しまり中、粘性中。  
 炭化物多量、φ10mm以下の焼土含む。

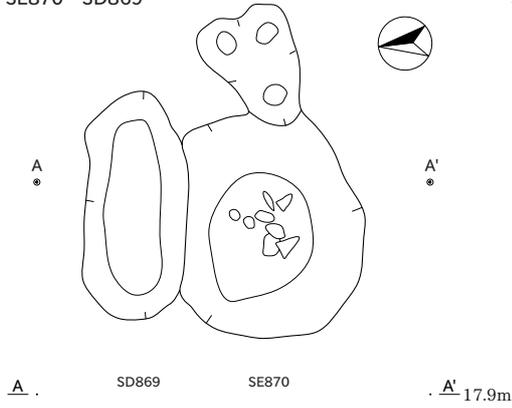
**P873**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中、炭化物少量、φ10mm以下の焼土含む。  
 2 灰白色シルト しまり中、粘性中。  
 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
 4 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

**P874**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、φ10mm以下の焼土含む。  
 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、φ10mm以下の焼土。黄橙色シルトブロック含む。  
 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

**P875**  
 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量、φ10mm以下の焼土含む。  
 2 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。  
 3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。



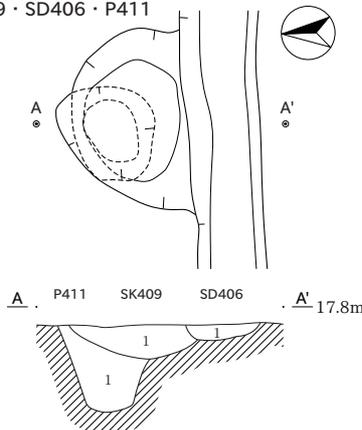
SE870・SD869



SD869  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SE870  
1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SK409・SD406・P411

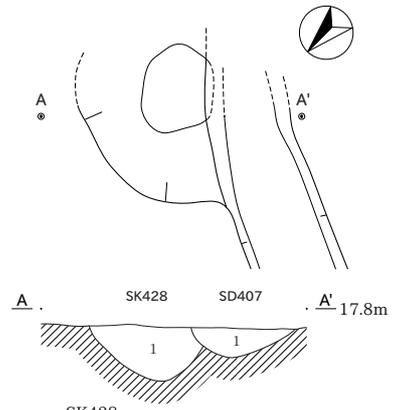


P411  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

SK409  
1 黄灰色シルト しまり中、粘性中。

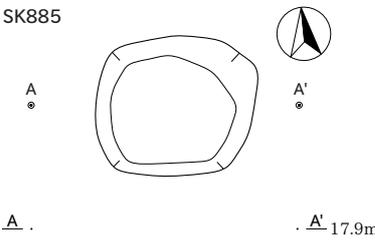
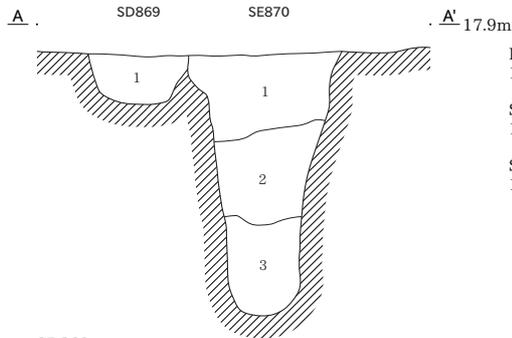
SD406  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SK428・SD407

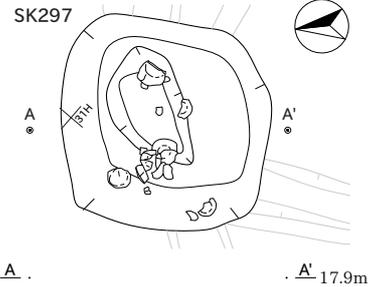


SK428  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
淡黄色シルトブロック含む。

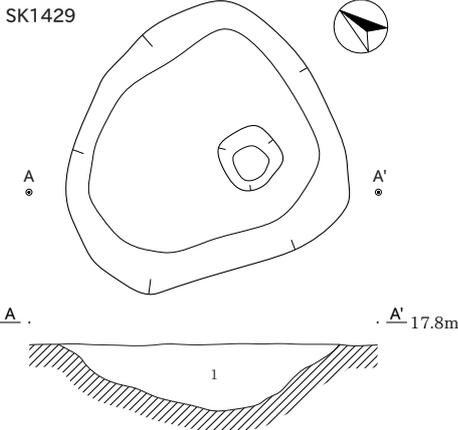
SD407  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。



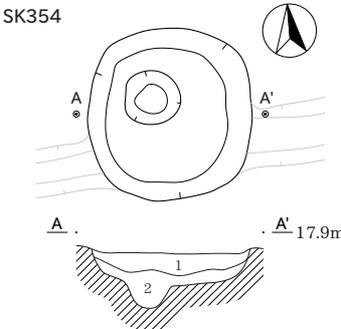
SK885  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。



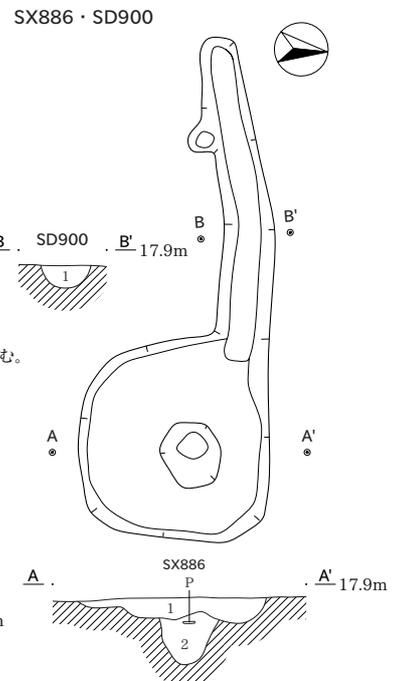
SK297  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
φ1~3mmの炭化物少量、焼土含む。



SK1429  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

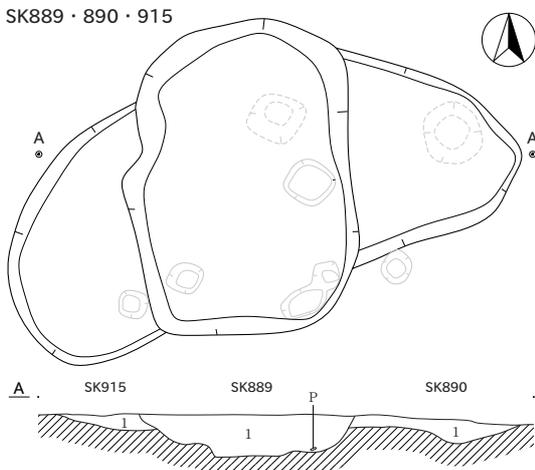


SK354  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
φ3~5mmの炭化物中量、φ1~3mmの焼土少量含む。  
2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
にぶい黄橙色シルト含む。



SX886  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
φ10mm以下の炭化物多量、焼土粒多量含む。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
灰白色シルトブロック含む。

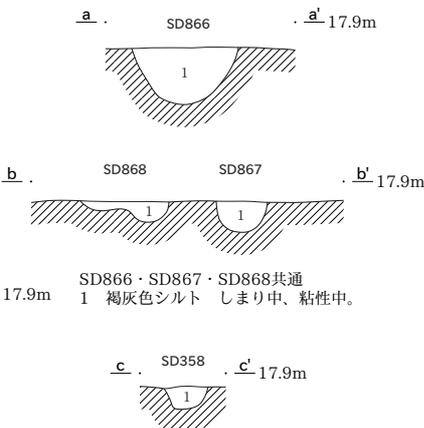
SD900  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
φ10mm以下の炭化物多量、焼土粒多量含む。



SK889  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

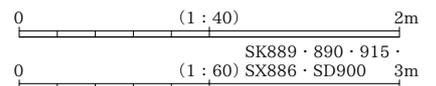
SK890  
1 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

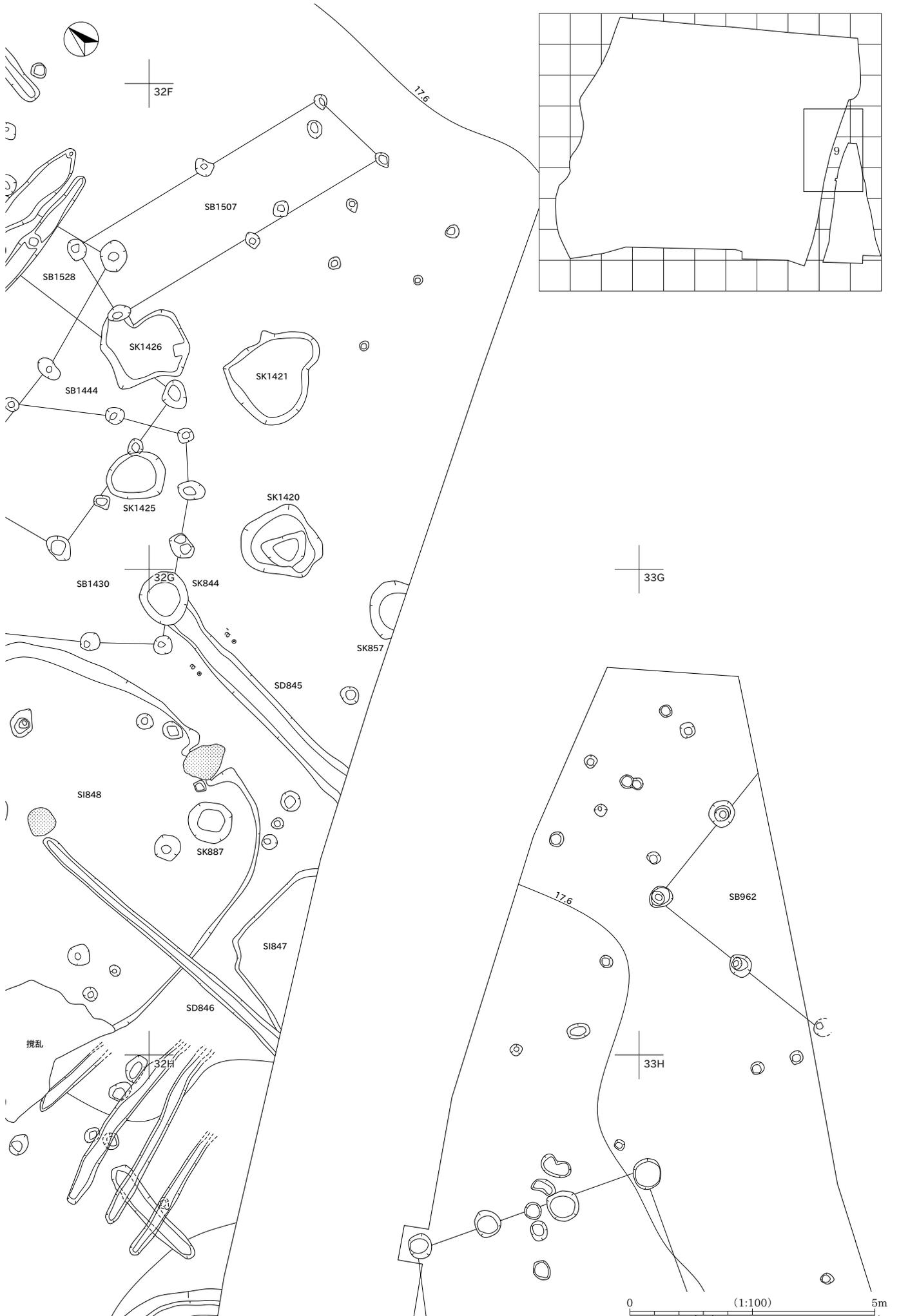
SK915  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。



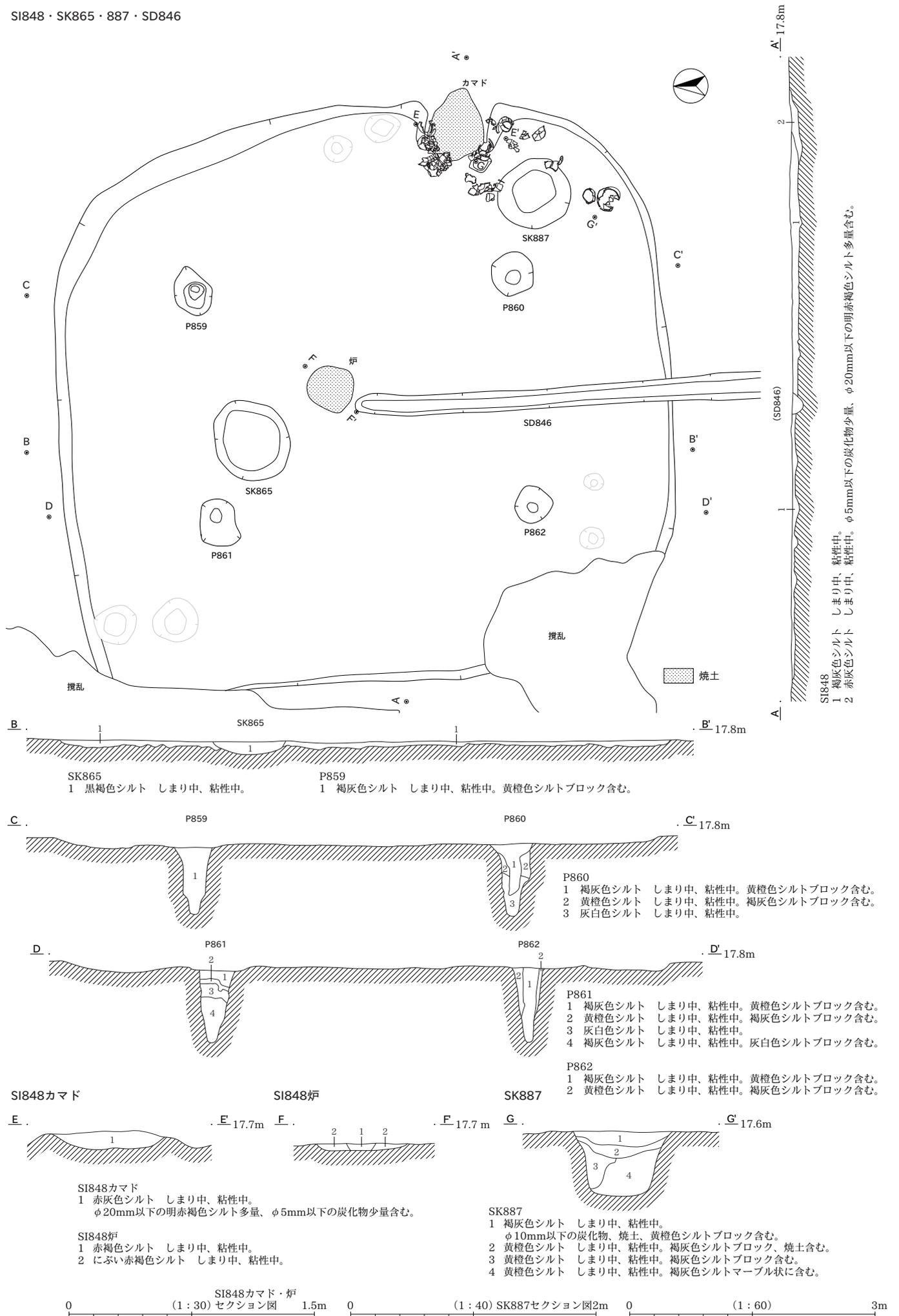
SD866・SD867・SD868共通  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SD358  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
φ3~5mmの炭化物中量含む。

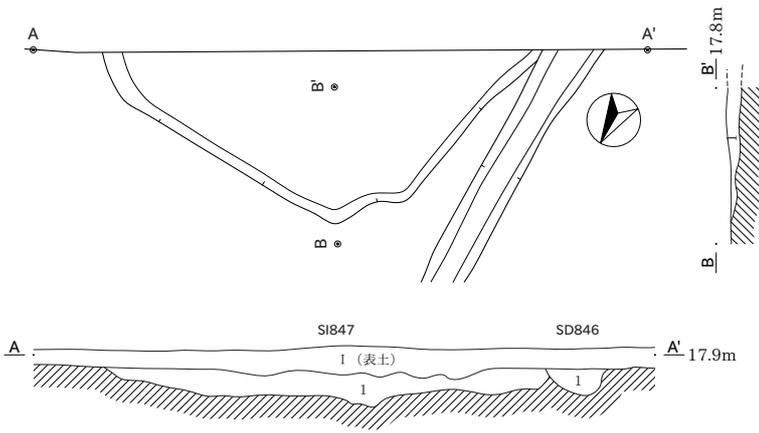




SI848・SK865・887・SD846

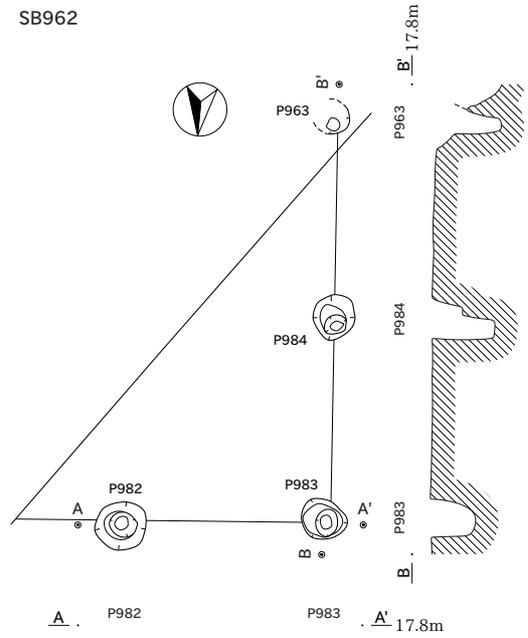


SI847

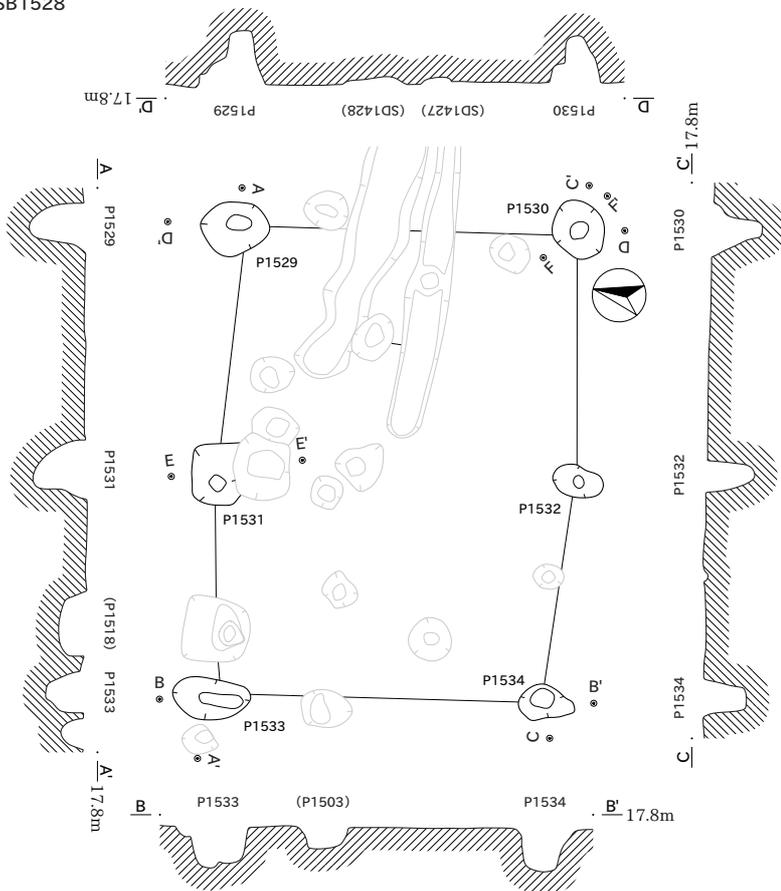


SI847  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ5mm以下の炭化物含む。

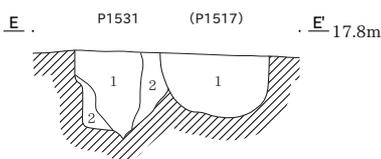
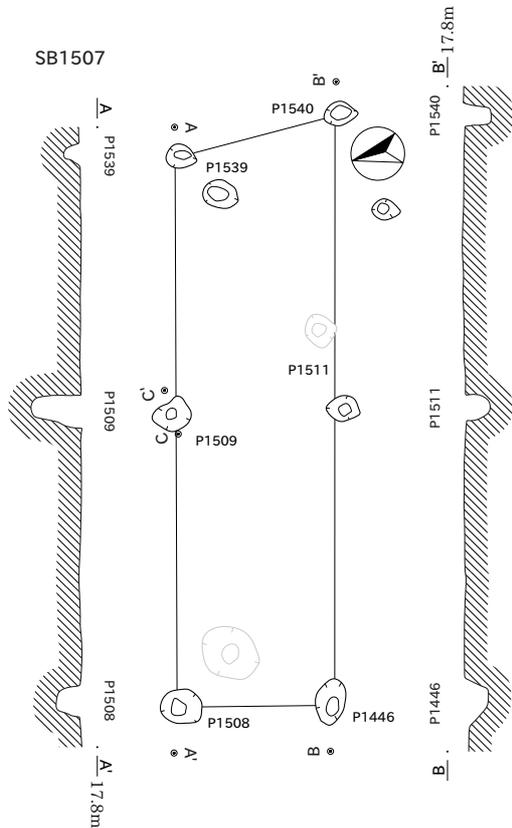
SB962



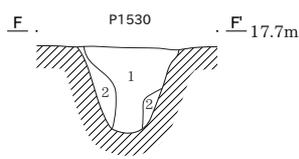
SB1528



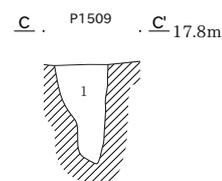
SB1507



P1517  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

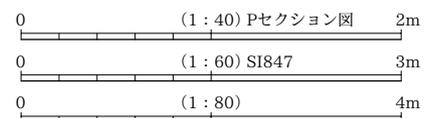


P1530  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。  
2 黒褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。

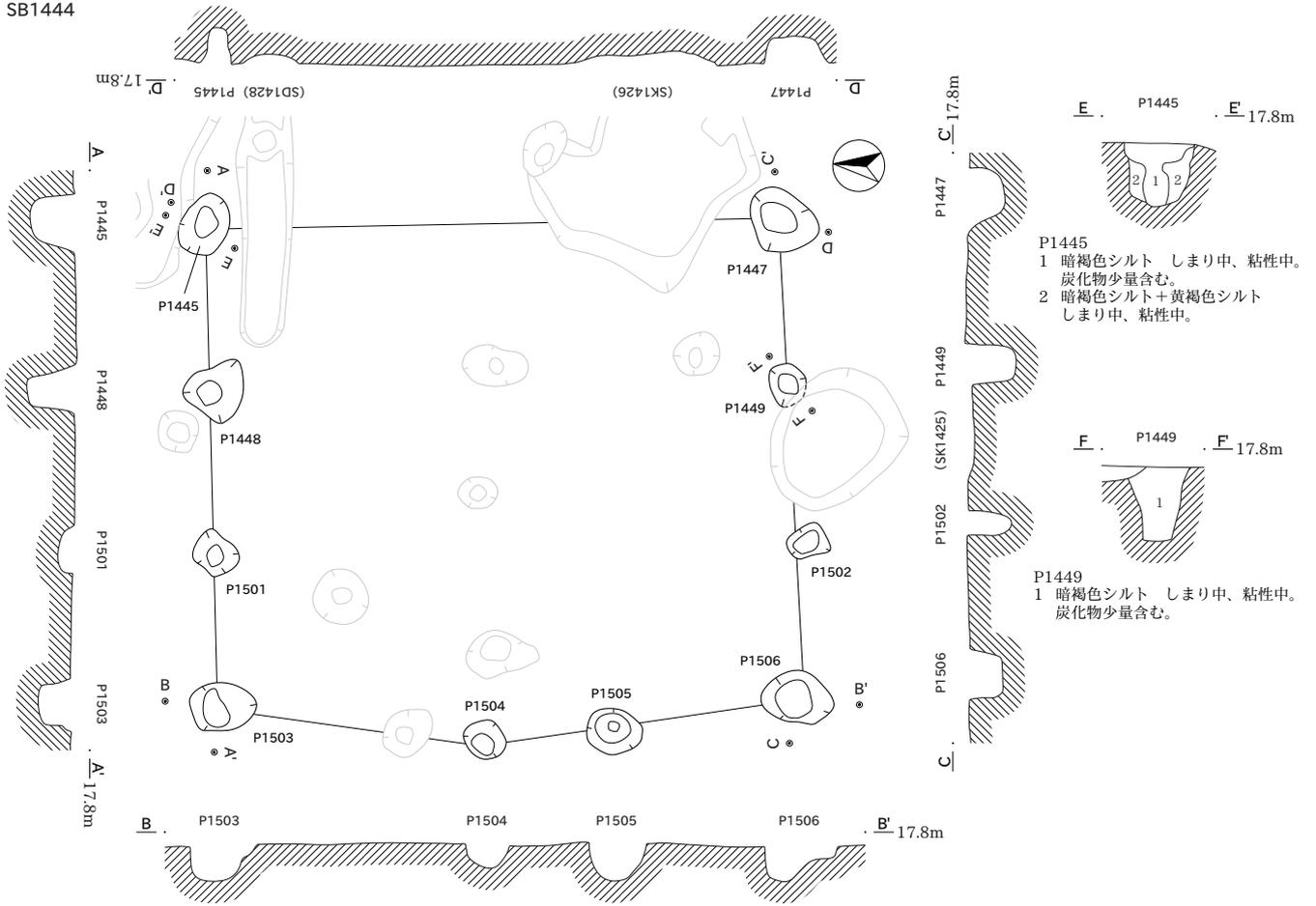


P1509  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。

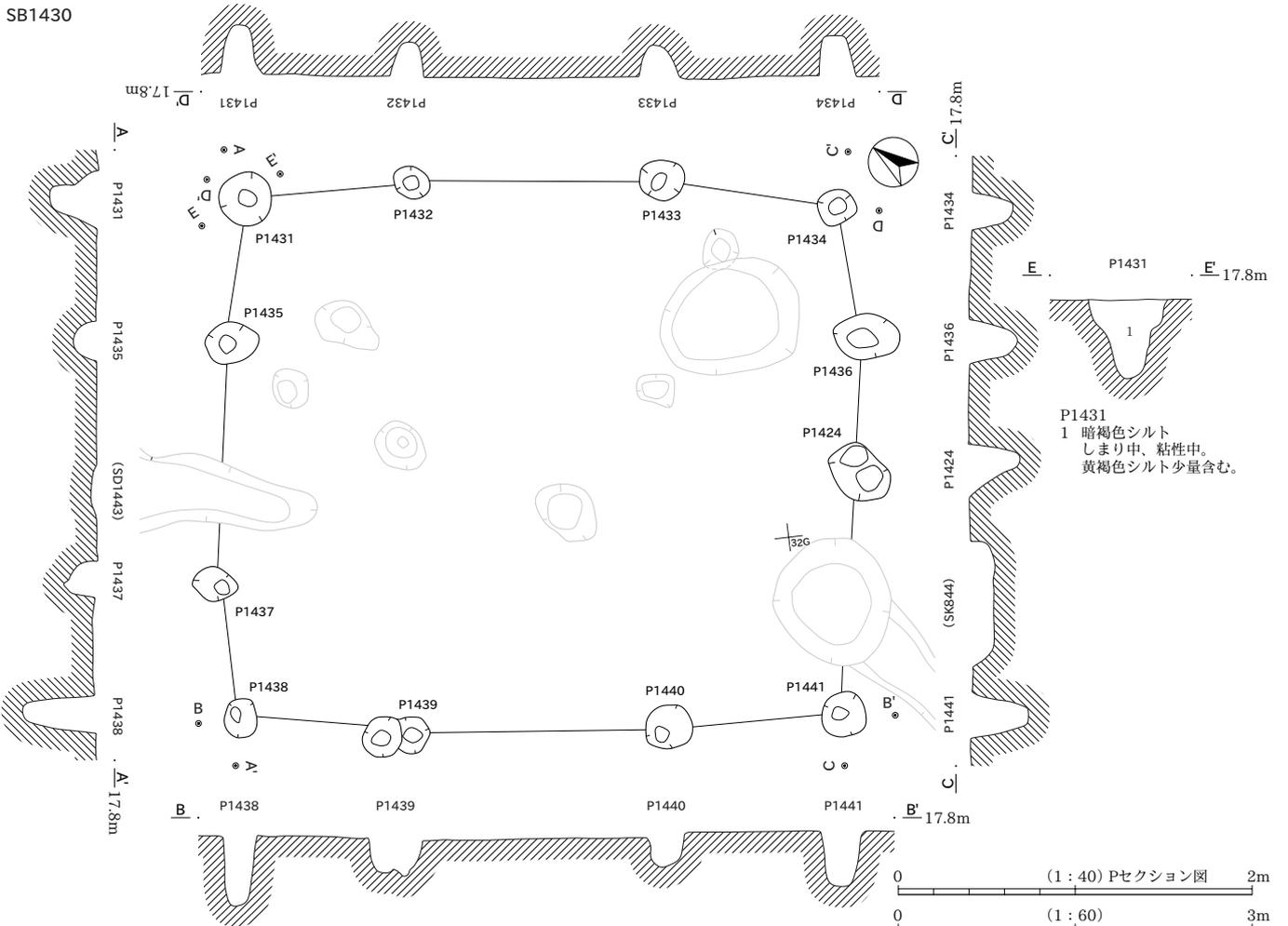
P1531  
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。  
2 黒褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。



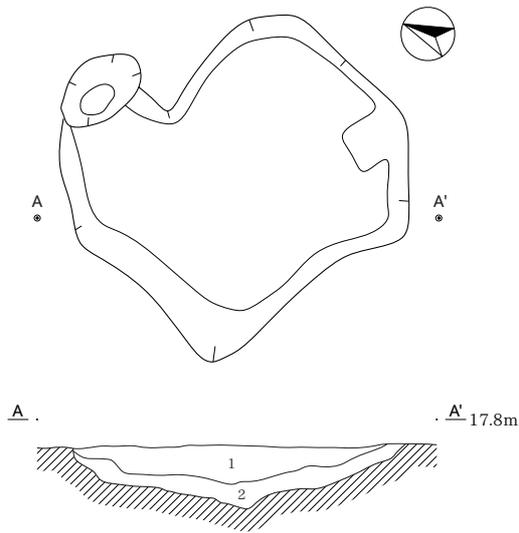
SB1444



SB1430

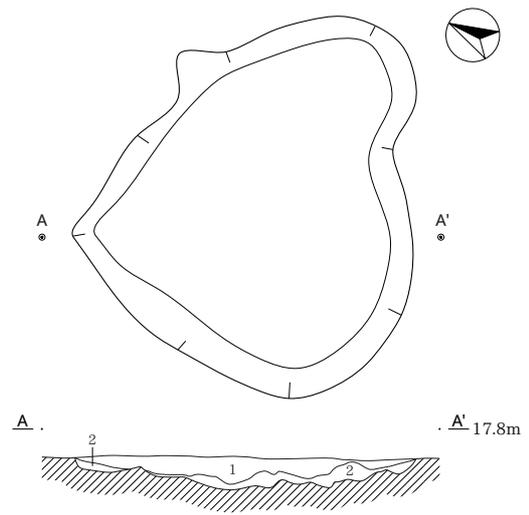


SK1426



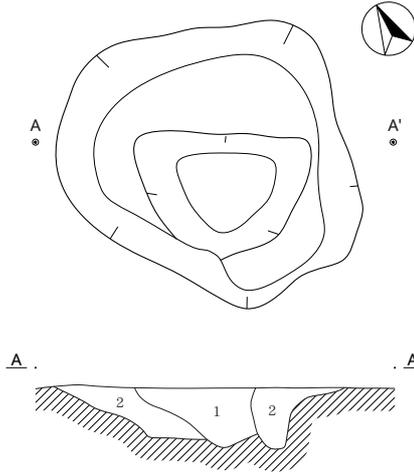
SK1426  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 暗褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1421



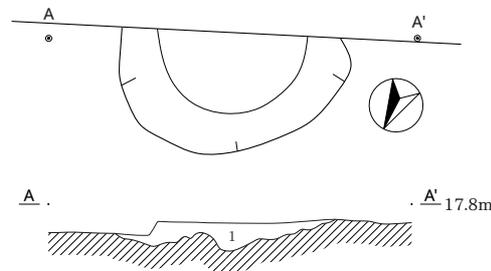
SK1421  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 暗褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1420



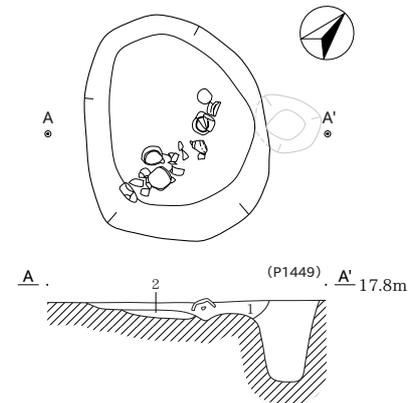
SK1420  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 暗褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性中。

SK857



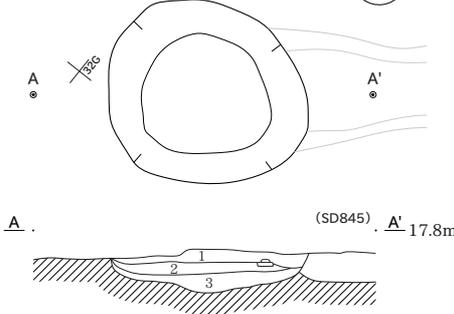
SK857  
1 にぶい褐色シルト、しまり中、粘性中。  
φ5mm以上の炭化物、橙色シルト焼土ブロック含む。

SK1425



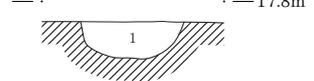
SK1425  
1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。炭化物少量含む。  
2 暗褐色シルト+明黄褐色シルト しまり中、粘性中。

SK844

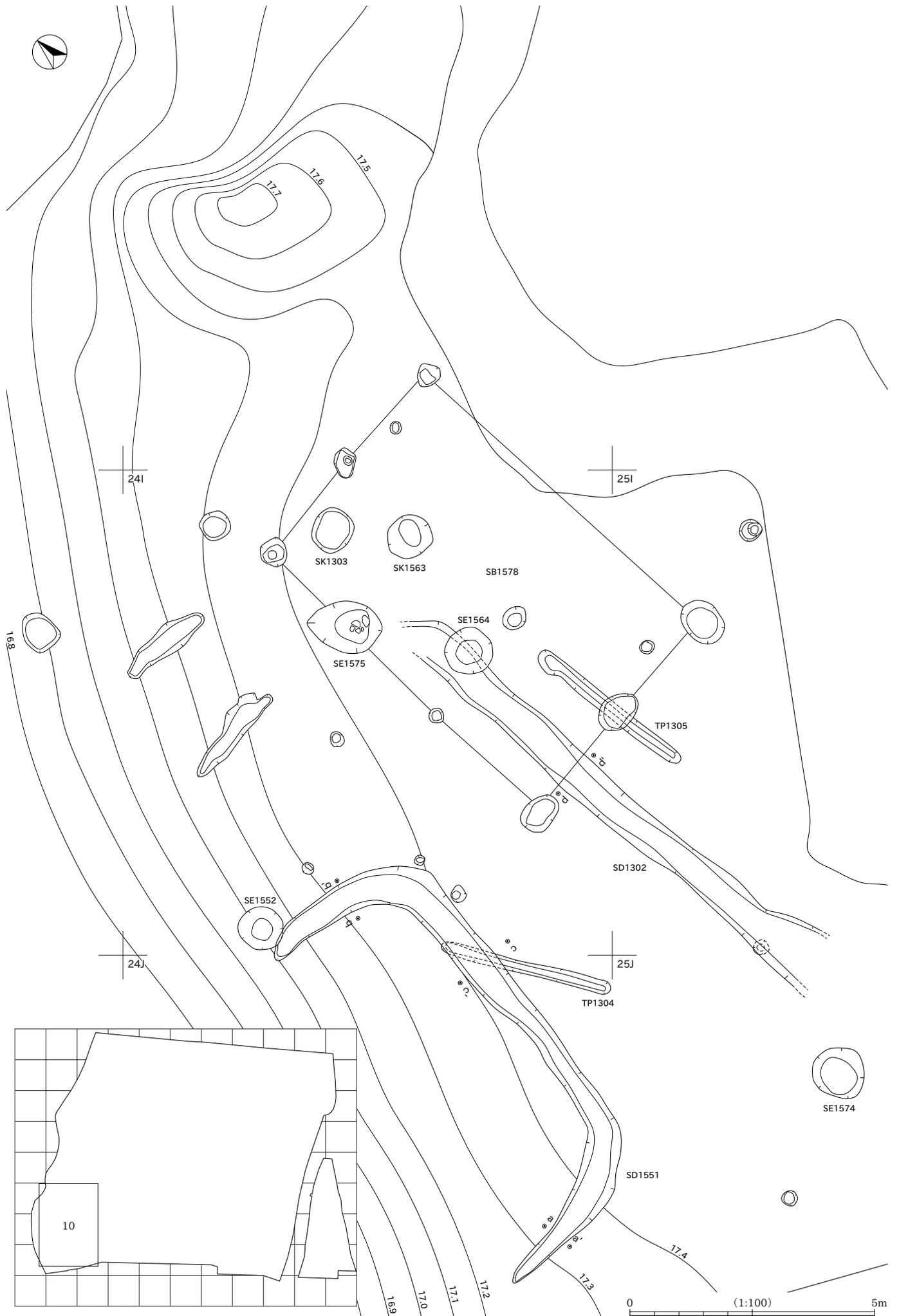


SK844  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物含む。  
2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰色シルトブロック含む。

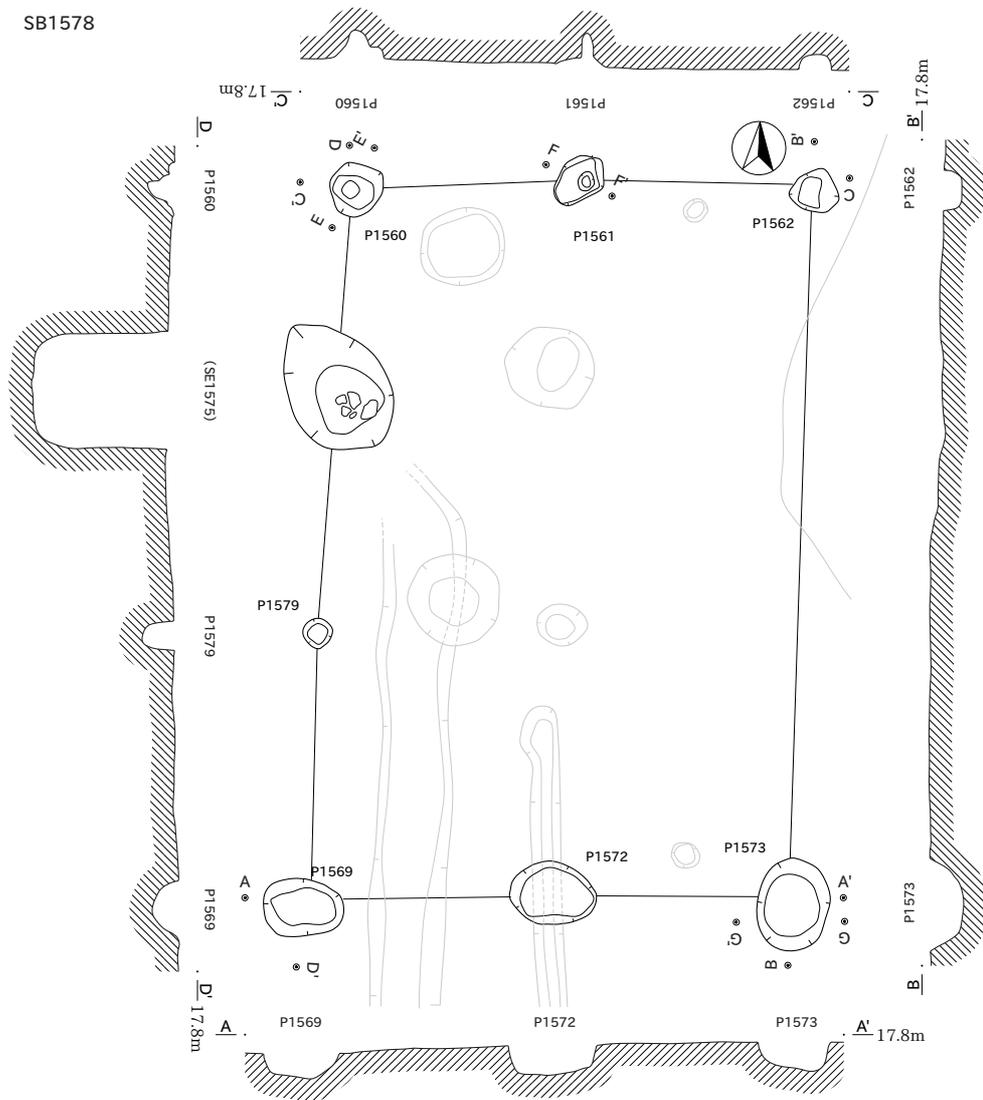
SD845



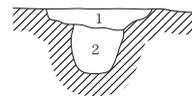
SD845  
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
黄褐色シルトブロック含む。



SB1578

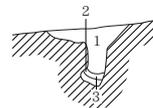


E . P1560 . E' 17.8m



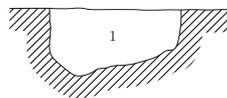
P1560  
1 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
2 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。

F . P1561 . F' 17.8m



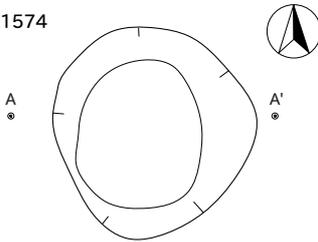
P1561  
1 明黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
2 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
3 にぶい黄褐色砂質シルト+暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性強。

G . P1573 . G' 17.8m

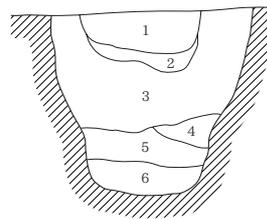


P1573  
1 暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性中。  
炭化物φ1~21mmの微量、斑状に黄褐色砂質シルト+灰白色砂質シルト含む。

SE1574

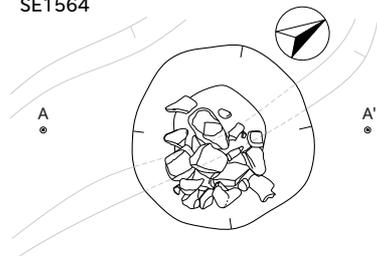


A . . A' 17.8m

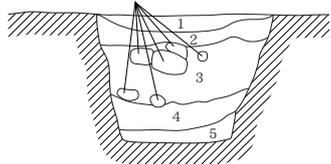


SE1574  
1 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
φ1~13mmの炭化物微量含む。  
2 黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
φ1~2mmの炭化物微量含む。  
3 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。  
4 暗青灰色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性強。  
5 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。  
6 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。

SE1564

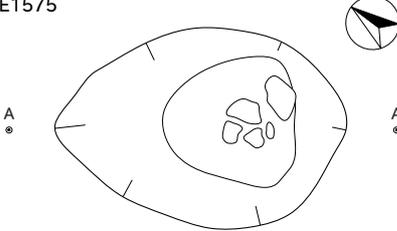


A . . A' 17.7m

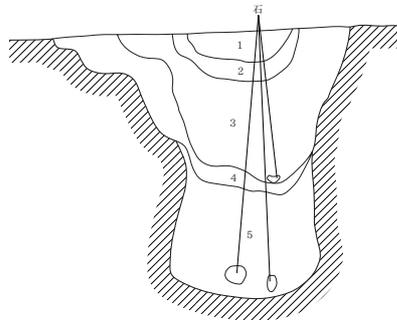


SE1564  
1 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
φ1~3mmの炭化物微量含む。  
2 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
φ1~28mmの炭化物微量含む。  
3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。  
φ1~13mmの炭化物微量含む。  
4 暗青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。  
φ1~13mmの炭化物微量、斑状にぶい黄褐色砂質シルト含む。  
5 暗青灰色砂質シルト しまり弱、粘性中。

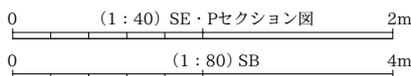
SE1575



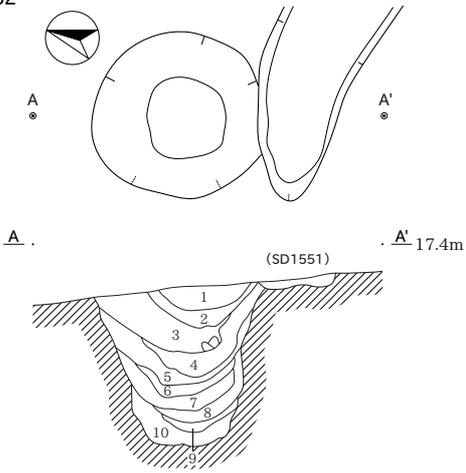
A . . A' 17.7m



SE1575  
1 黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~9mmの炭化物微量含む。  
2 黄褐色シルト しまり中、粘性弱。φ1~3mmの炭化物微量含む。  
3 黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~9mmの炭化物微量含む。  
4 黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~11mmの炭化物微量含む。  
5 黒褐色シルト+黄褐色シルト しまり中、粘性強。φ1~3mmの炭化物微量含む。



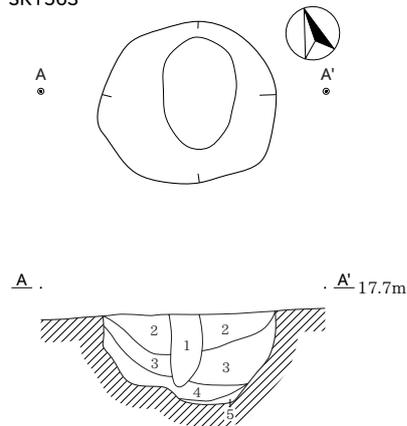
SE1552



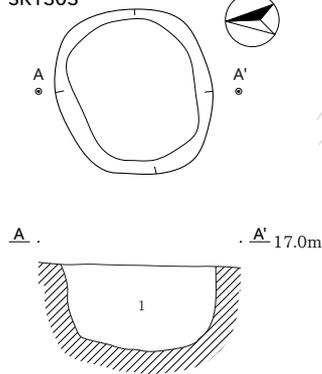
SE1552

- 1 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~8mmの炭化物少量含む。
- 2 暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~12mmの炭化物少量含む。
- 3 青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~51mmの少量、黄褐色シルトブロック状に含む。焼土含む。
- 4 暗青灰色砂質シルト+黄褐色砂質シルト しまり弱、粘性強。φ1~3mmの炭化物微量含む。
- 5 暗青灰色砂質シルト+青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~3mmの微量、にぶい黄褐色砂質シルト含む。
- 6 明青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~5mmの微量、斑状に暗青灰色砂質シルト含む。
- 7 青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~3mmの微量、斑状に暗青灰色砂質シルト含む。
- 8 明青灰色砂質シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~2mmの微量、暗青灰色砂質シルト含む。
- 9 明青灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~2mmの炭化物微量含む。
- 10 青灰色シルト しまり弱、粘性強。炭化物φ1~11mmの微量、黄褐色シルト+明緑灰シルト含む。

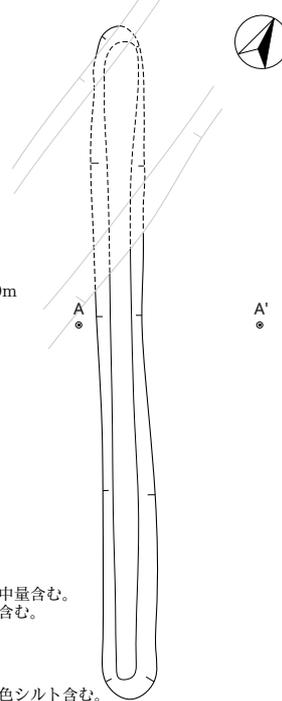
SK1563



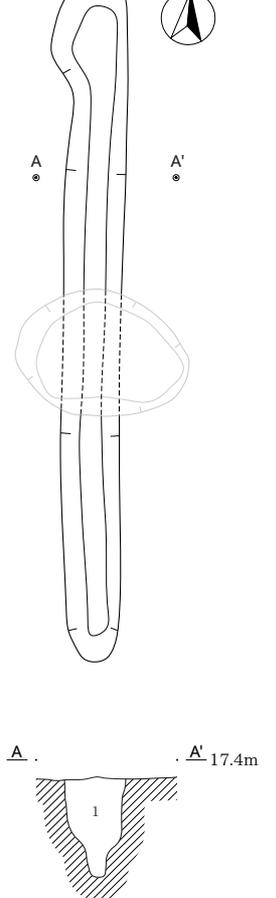
SK1303



TP1304



TP1305



SK1563

- 1 にぶい黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~22mmの炭化物少量含む。
- 2 明黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~50mmの炭化物微量含む。
- 3 明黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~9mmの炭化物微量、暗青灰色砂質シルトが斑状に中量含む。
- 4 明黄褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物微量、暗青灰色砂質シルトブロック含む。
- 5 暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量含む。

SK1303

- 1 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~4mmの炭化物多量、青灰色シルト+暗灰色シルト+橙色シルト含む。

TP1304

- 1 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量、黄褐色シルトブロック含む。

TP1305

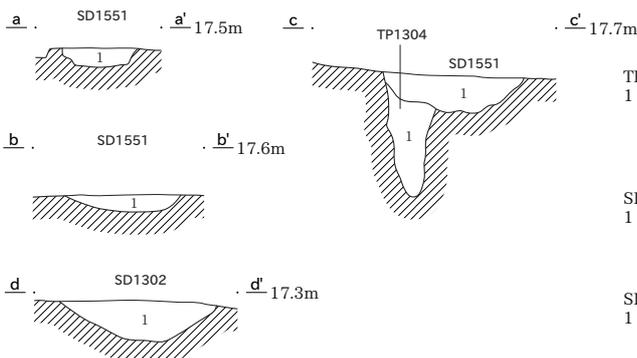
- 1 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量、黄褐色シルトブロック含む。

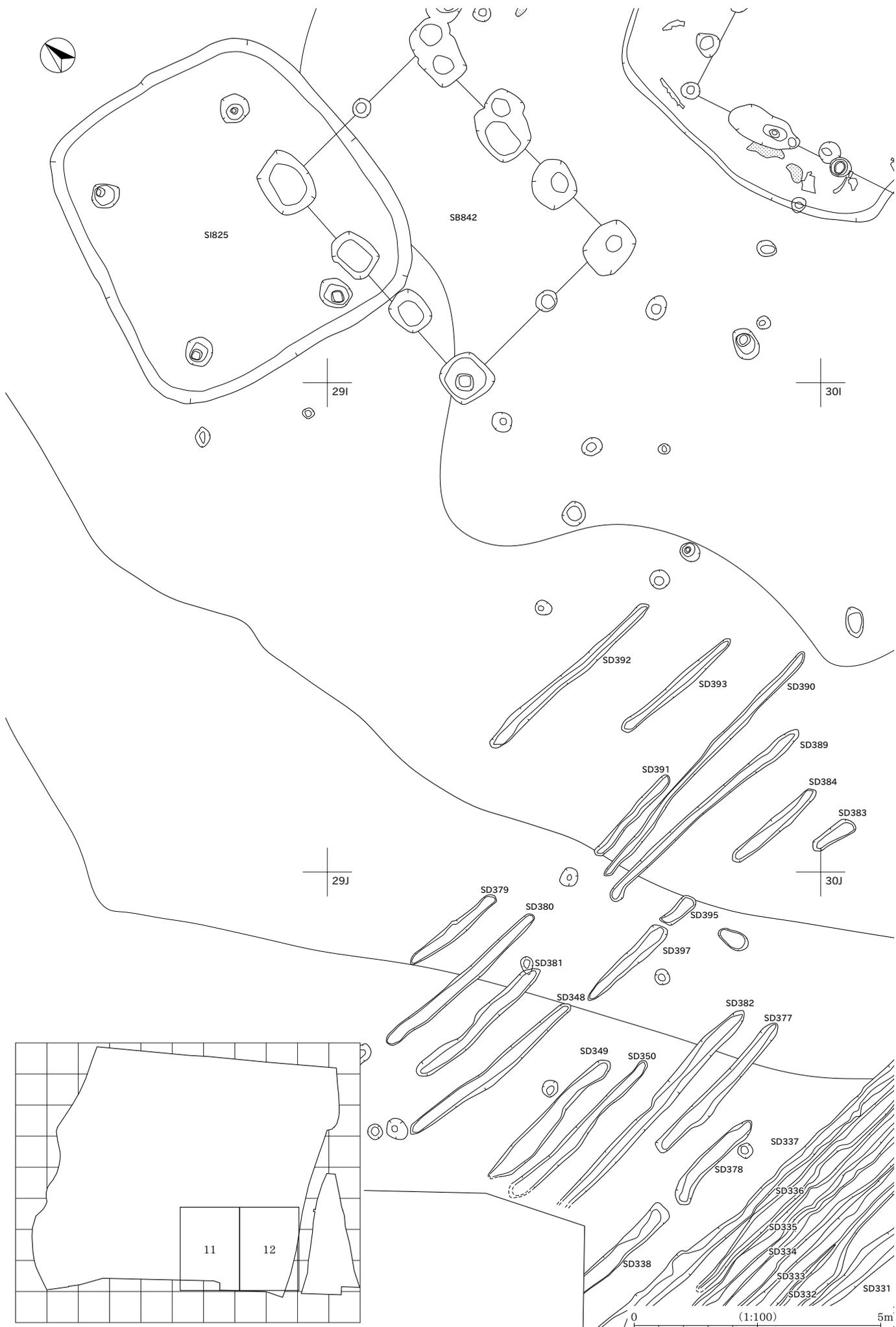
SD1551

- 1 暗青灰色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~4mmの炭化物微量、赤黒色砂質シルト少量含む。

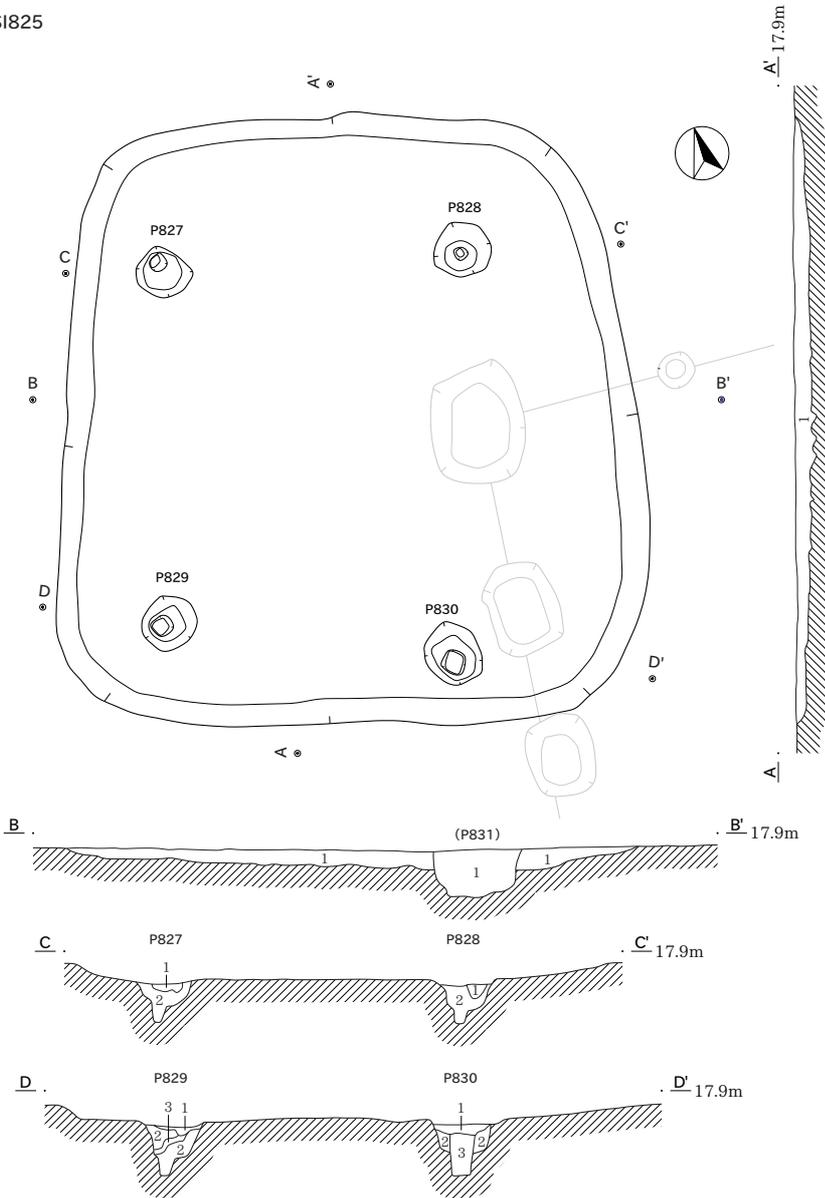
SD1302

- 1 暗青灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~5mmの炭化物微量含む。





SI825



SI825

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

P827・P828共通

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P829

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。  
3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

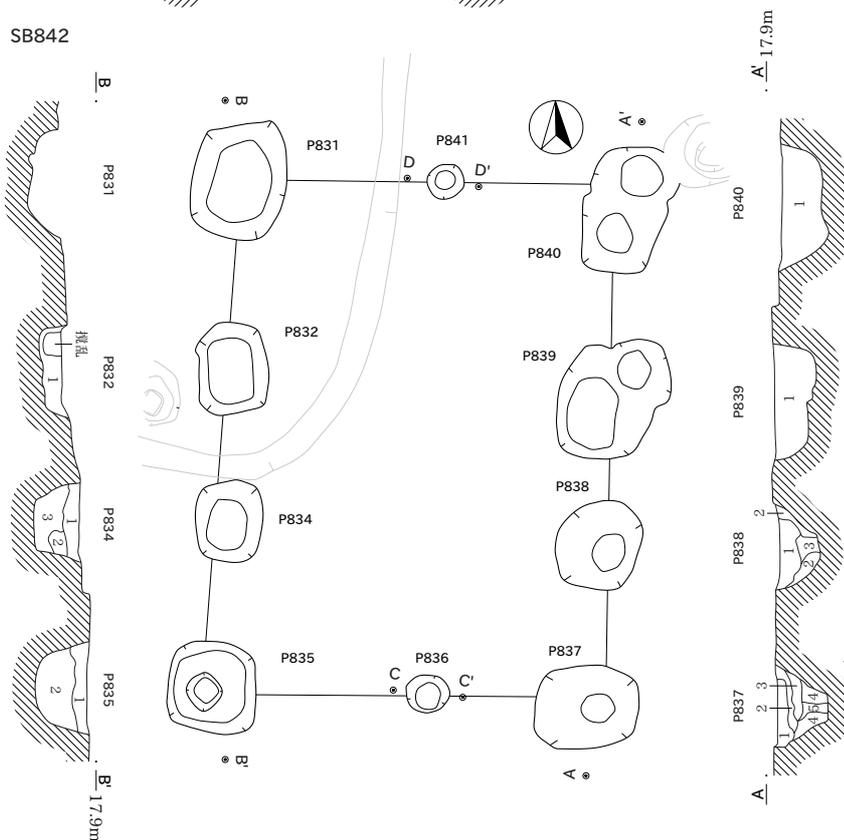
P830

1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。  
3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック含む。

P831

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

SB842



P837

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 明黄褐色シルト しまり中、粘性中。  
3 褐灰色シルト しまり中、粘性中。  
4 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。  
5 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P838

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。  
3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P839・P840・P841共通

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

P832

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

P834

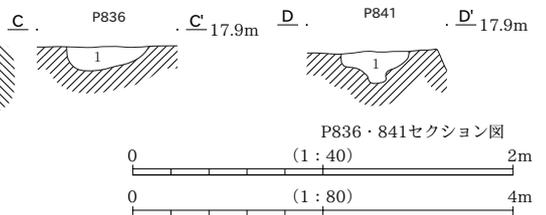
1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 灰白色シルト しまり中、粘性中。  
3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P835

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。  
2 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

P836

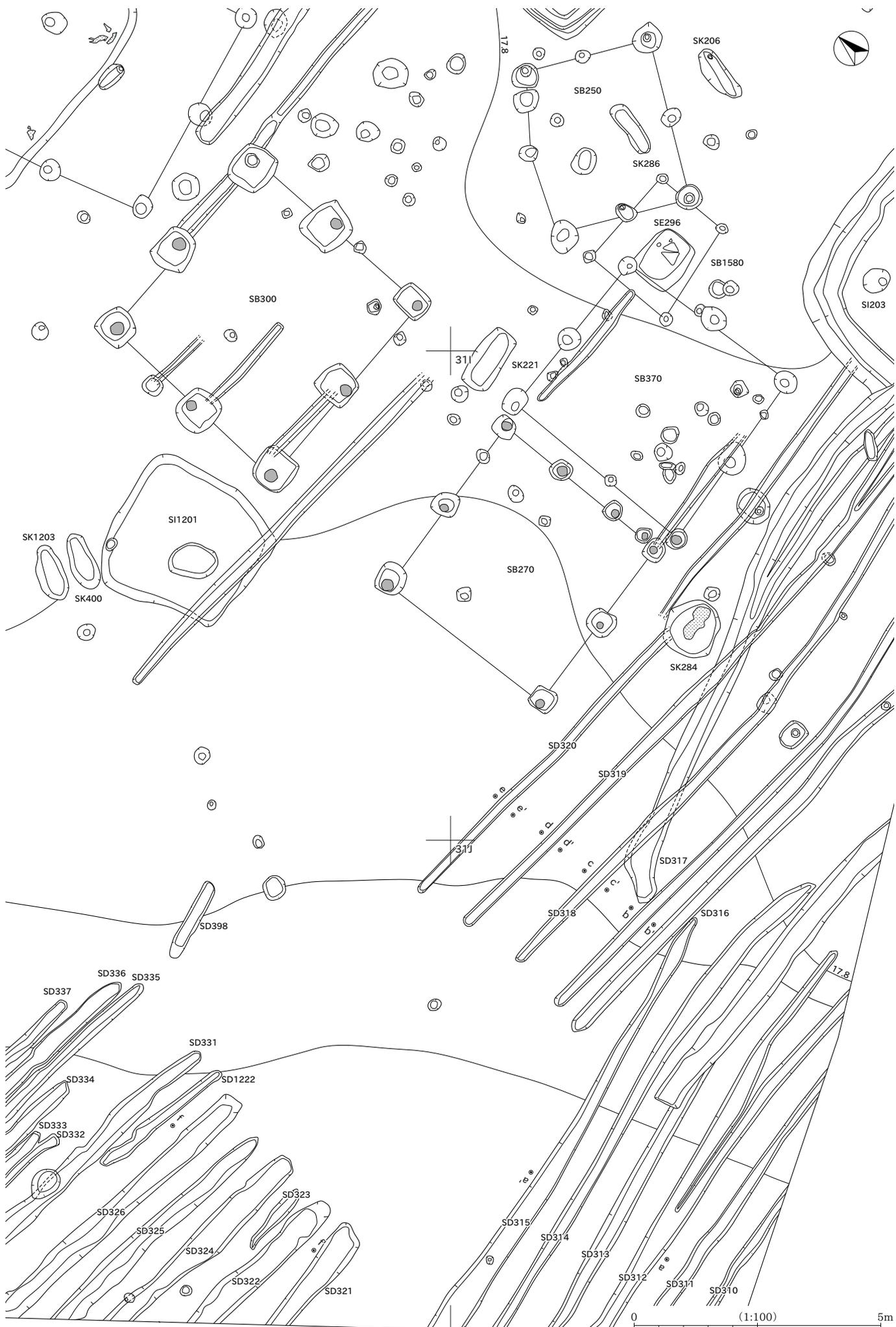
1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。



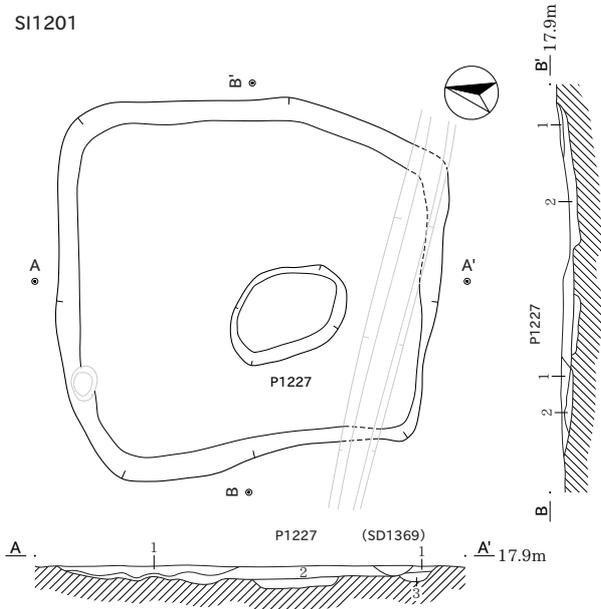
P836・841セクション図

(1:40) 2m

(1:80) 4m



SI1201



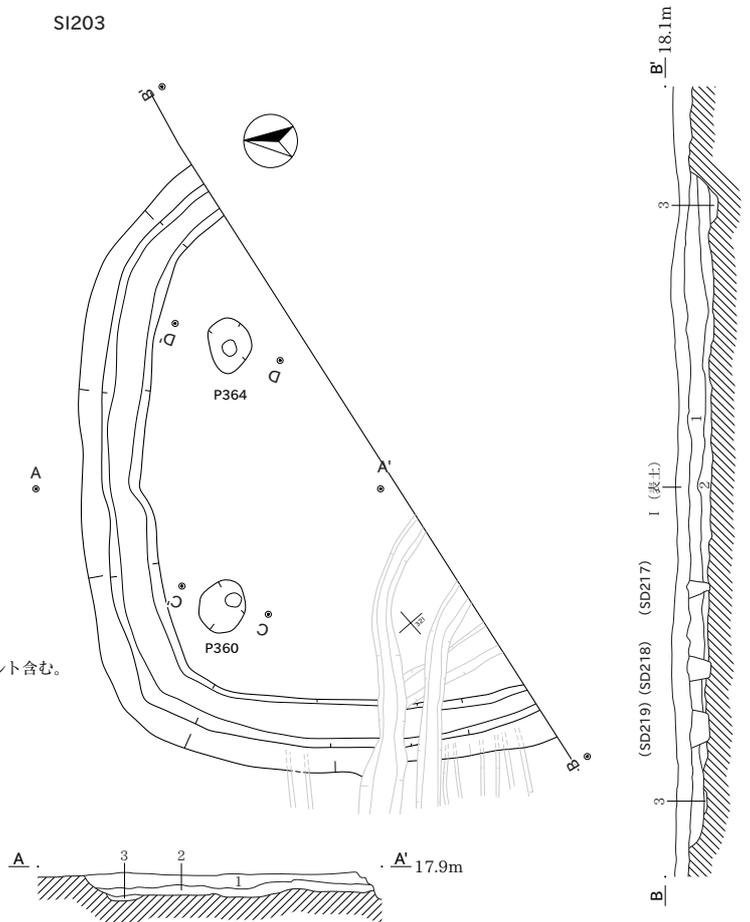
SI1201

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物少量含む。
- 2 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物少量、褐灰色シルト含む。
- 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物少量含む。

P1227

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ3~5の炭化物多量含む。

SI203



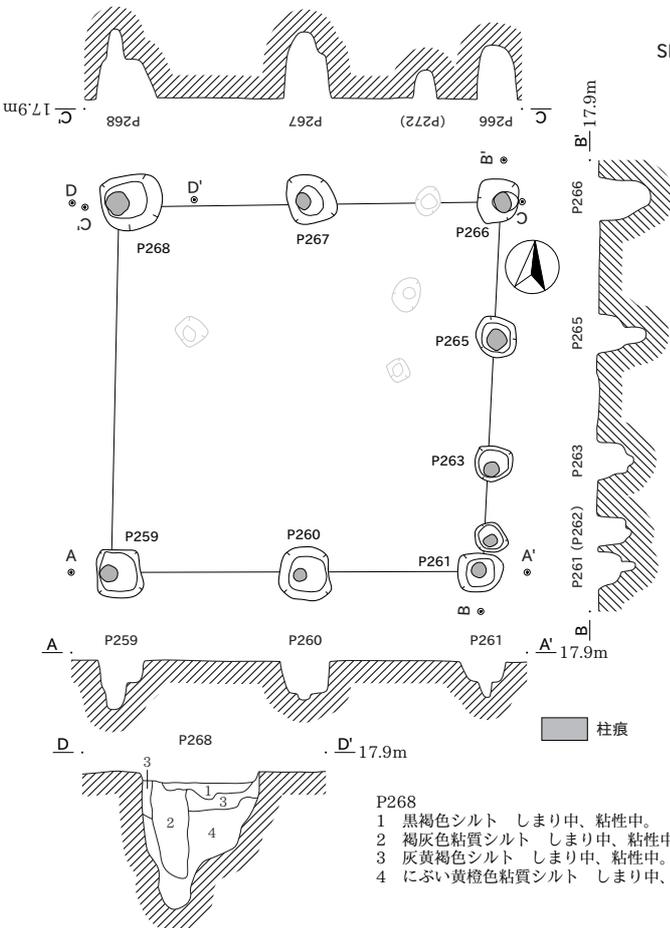
SI203

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。明黄褐色シルト含む。
- 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物少量含む。

P364

- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄橙色シルト含む。
- 2 褐灰色粘質シルト しまり弱、粘性強。
- 3 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック含む。
- 4 にぶい黄橙色粘質シルト しまり弱、粘性中。砂質シルト含む。

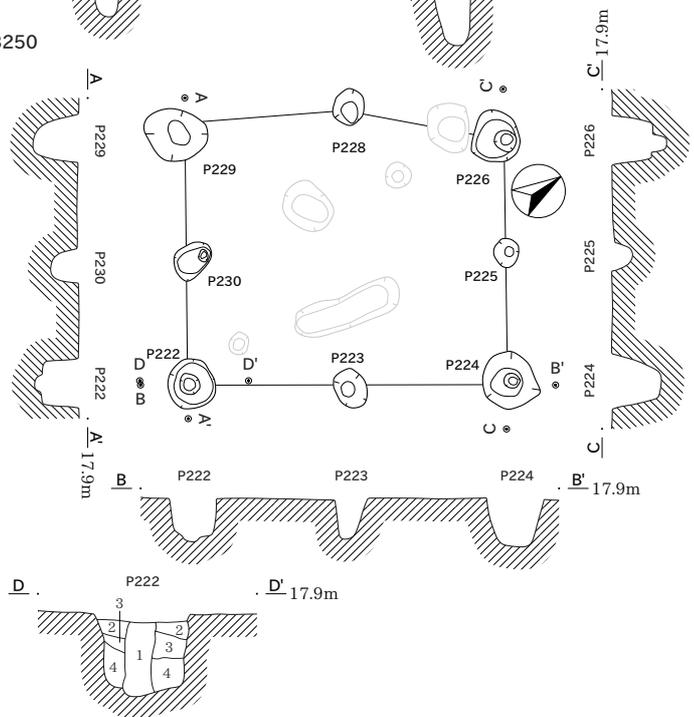
SB270



P268

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色粘質シルト しまり中、粘性中。
- 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
- 4 にぶい黄橙色粘質シルト しまり中、粘性中。

SB250



P222

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物少量含む。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄橙色シルトブロック含む。
- 4 にぶい黄橙色シルト しまり中、粘性強。黒褐色シルトブロック含む。

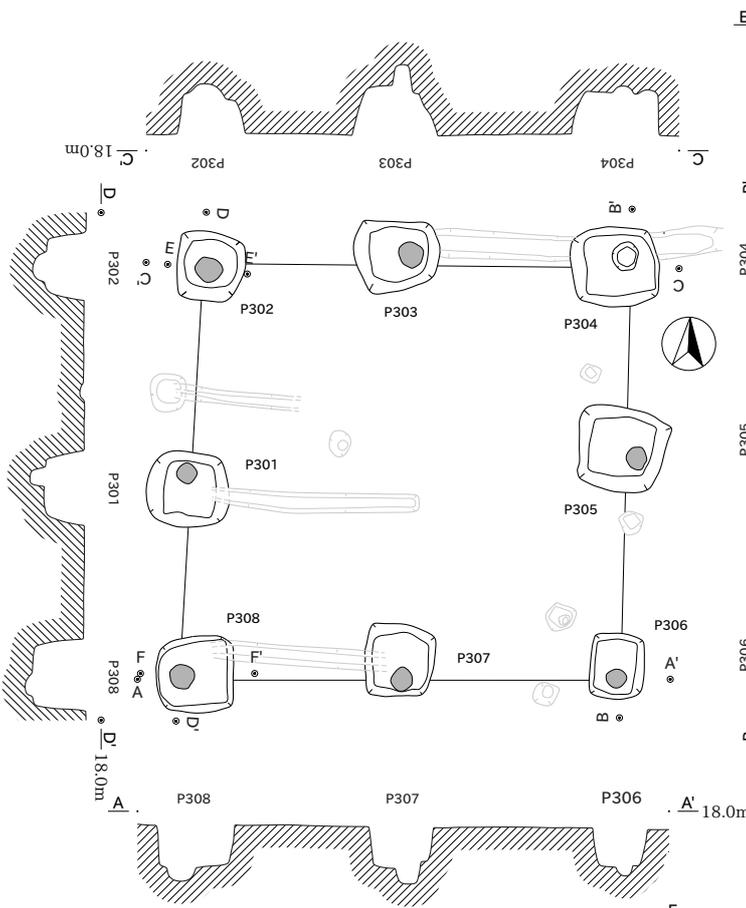
0 (1:40) Pセクション図 2m

0 (1:60) SI1201 3m

0 (1:80) SI203・SB 4m

柱痕

SB300



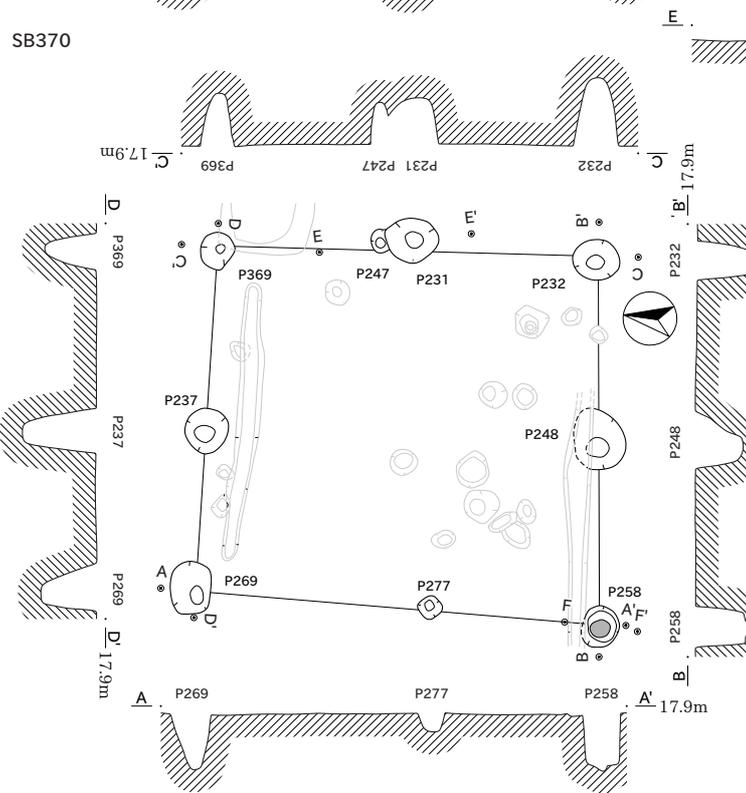
E . P302 . E 18.0m F . P308 . F 18.0m



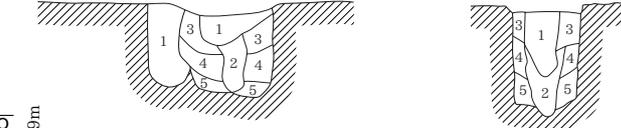
- P302**
- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 4 黒褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルト含む。
  - 5 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。
  - 6 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。

- P308**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルトまだら状に含む。
  - 2 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルト含む。
  - 3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 4 褐灰色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 5 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
  - 6 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。
  - 7 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SB370



E . P247 P231 . E' 17.9m F . P258 . F 17.9m



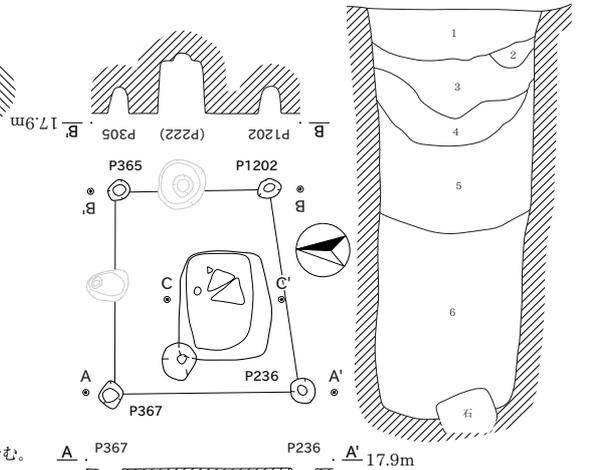
- P231**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。
  - 2 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルト含む。
  - 3 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルト含む。
  - 4 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。褐灰色+灰黄褐色シルト含む。
  - 5 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性強。

- P247**
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

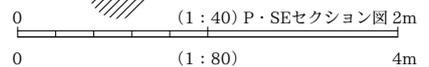
- P258**
- 1 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物少量含む。
  - 2 褐灰色砂質シルト しまり中、粘性中。
  - 3 灰黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 4 にぶい黄褐色シルト しまり中、粘性中。
  - 5 にぶい黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。

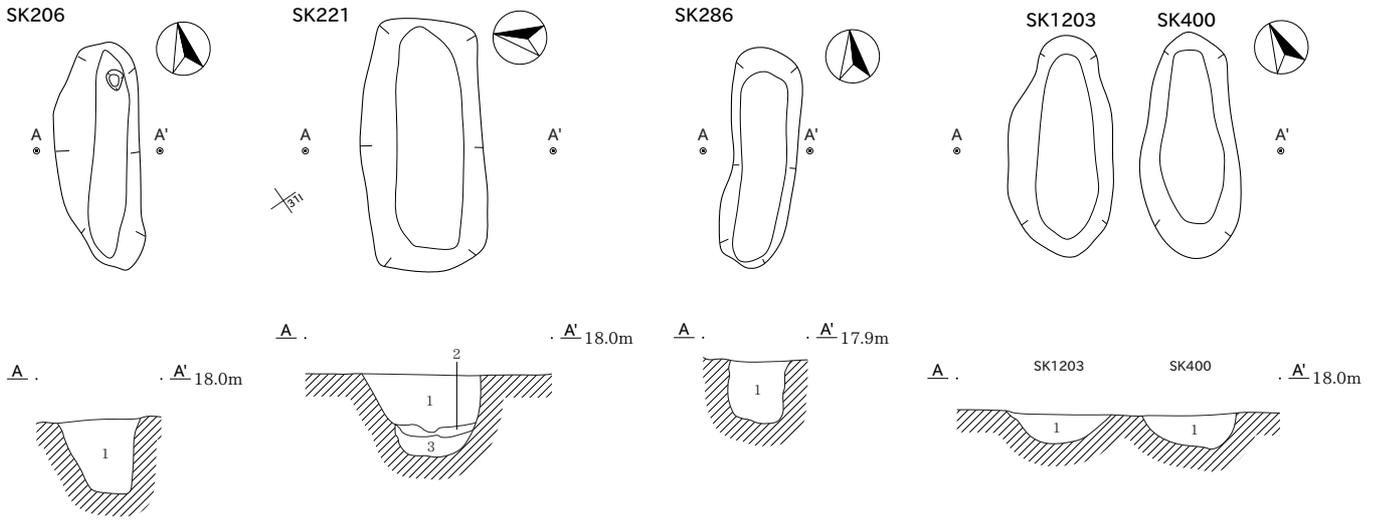
17.9m C . SE296 . C

SB1580・SE296



- SE296**
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
  - 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
  - 3 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性中。明黄褐色シルト含む。
  - 4 灰黄褐色粘質シルト しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック多量含む。
  - 5 黒褐色粘質シルト しまり中、粘性強。
  - 6 黒褐色粘質シルト しまり弱、粘性強。





SK206

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ5~10mmの炭化物中量、φ3~5mmの焼土中量、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。にぶい黄褐色シルト含む。

SK221

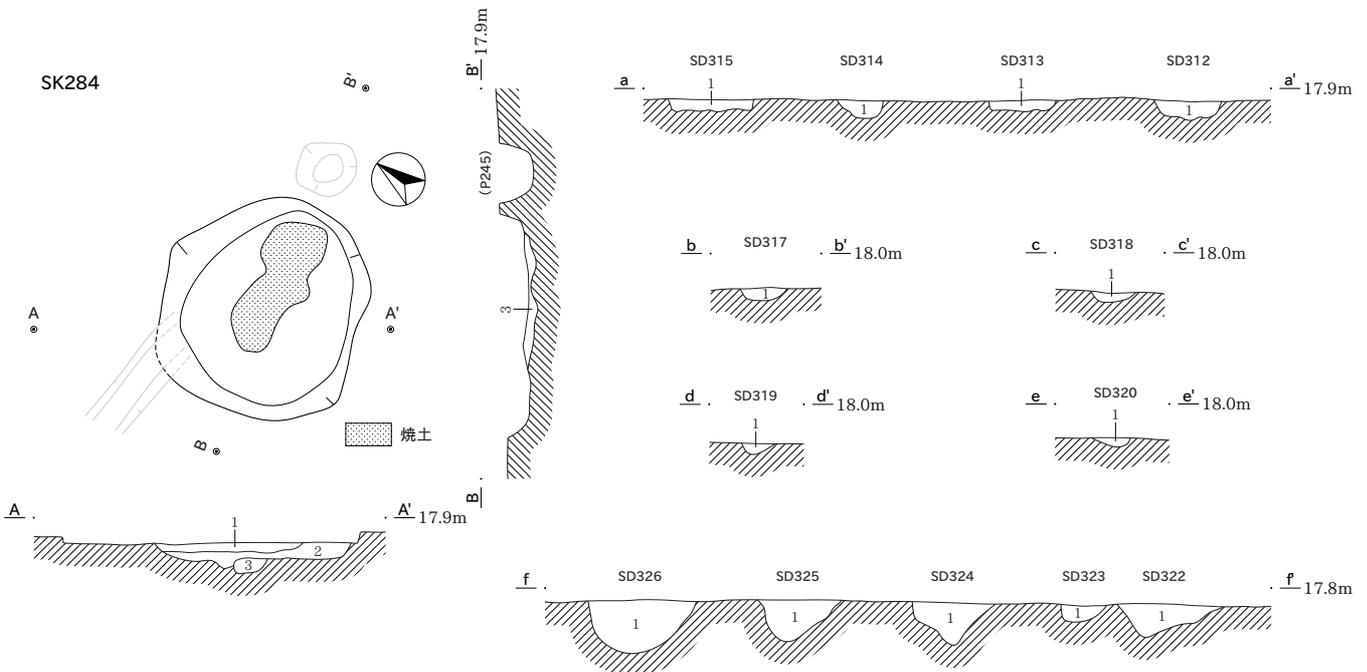
- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ5~10mmの炭化物中量、φ3~5mmの焼土中量、にぶい黄褐色シルトブロック含む。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性弱。φ10~15mmの炭化物多量、φ3~5mmの焼土中量含む。
- 3 にぶい黄褐色粘質シルト しまり弱、粘性中。

SK286

- 1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SK1203・SK400共通

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物少量、酸化鉄少量含む。



SK284

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ3~5mmの炭化物少量、φ5~10mmの焼土含む。
- 3 明赤褐色シルト焼土 しまり強、粘性中。

SD312・SD313共通

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。炭化物なし。灰白色砂質シルトブロック少量含む。

SD314

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量含む。灰白色砂質シルトブロック含む。

SD315

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。

SD317

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ3~9mm角の炭化物微量、φ4~9mmの灰白色砂質シルトブロック含む。

SD318

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。炭化物なし。

SD319・SD320共通

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~2mmの炭化物微量。

SD322

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~12mmの炭化物微量、粒子粗い灰褐色砂質シルト含む。

SD323

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~14mmの炭化物微量、灰白色砂質シルト含む。

SD324

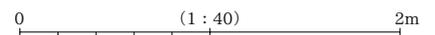
- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物微量含む。灰白色砂質シルトブロック微量含む。

SD325

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ2~16mmの炭化物微量、φ10mm角の炭化物少量、灰白色砂質シルトブロック微量含む。

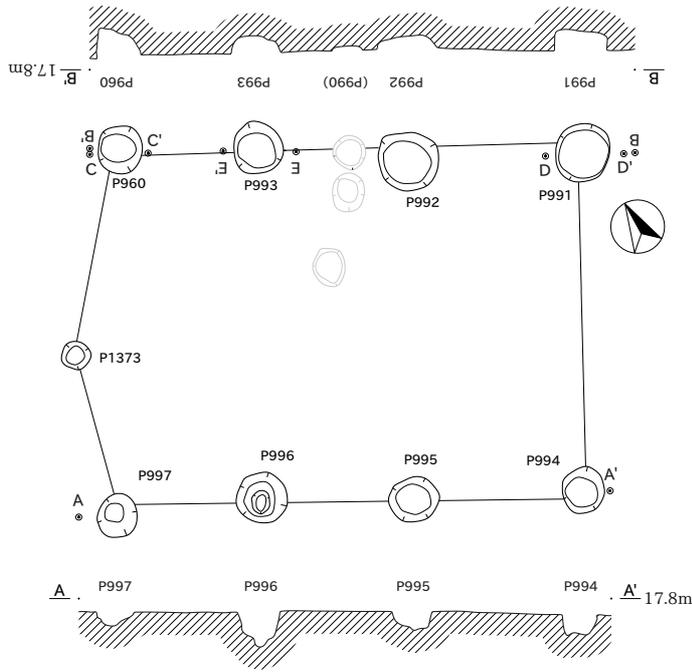
SD326

- 1 灰褐色砂質シルト しまり中、粘性中。φ1~3mmの炭化物微量、灰白色砂質シルトブロック含む。

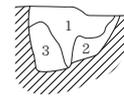




SB961



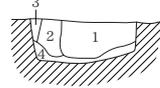
C . P960 . C' 17.8m



P960

- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性中。土師器片含む。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性強。黄褐色シルト含む。
- 3 黒色シルト しまり強、粘性中。φ10~20mmの黄褐色シルト少量含む。

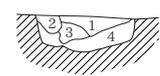
D . P991 . D' 17.8m



P991

- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性なし。φ1~5mmの黄褐色シルト多量含む。
- 2 黒褐色シルト しまり強、粘性なし。φ1~5mmの黄褐色シルト少量含む。
- 3 暗褐色シルト しまり強、粘性弱。黄褐色シルトを含む。
- 4 黒褐色シルト+黄褐色シルト しまり強、粘性中。

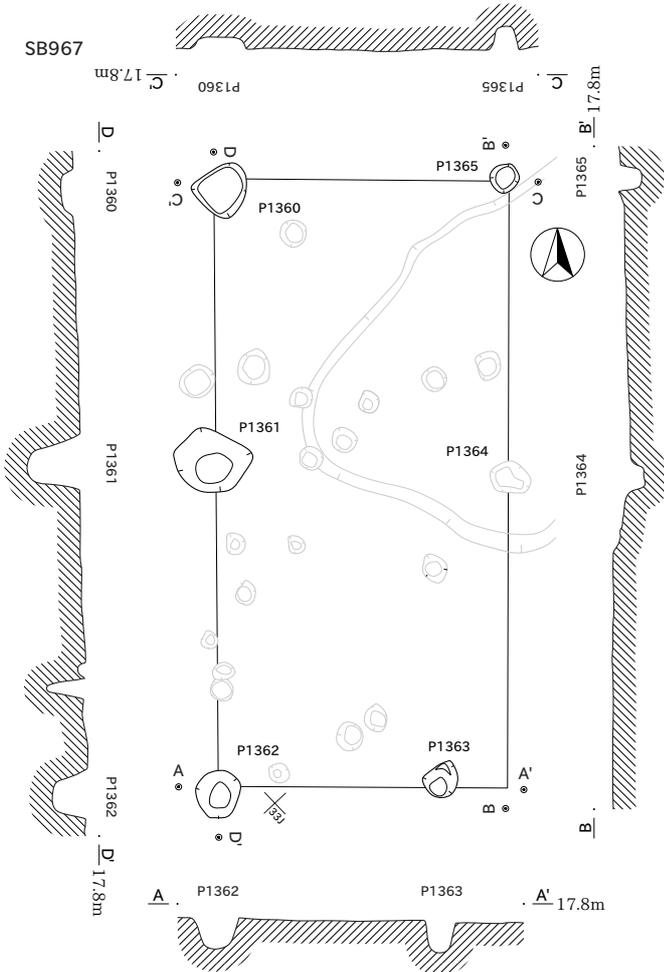
E . P993 . E' 17.8m



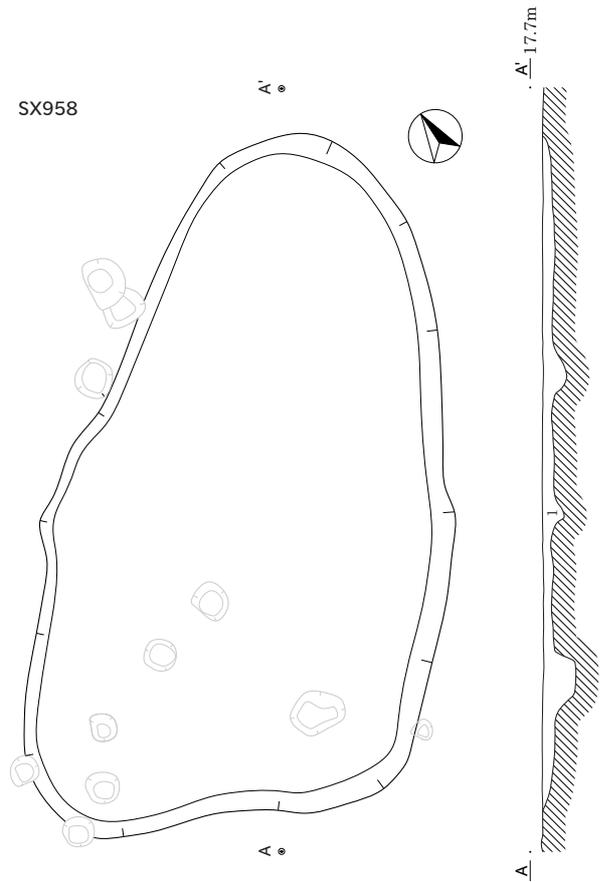
P993

- 1 黒褐色シルト しまり強、粘性なし。φ1~5mmの黄褐色シルト多量含む。
- 2 暗褐色シルト しまり強、粘性なし。
- 3 黒褐色シルト しまり強、粘性なし。φ1~5mmの黄褐色シルト少量含む。
- 4 黄褐色シルト+黒褐色シルト しまり強、粘性中。

SB967



SX958



SX958

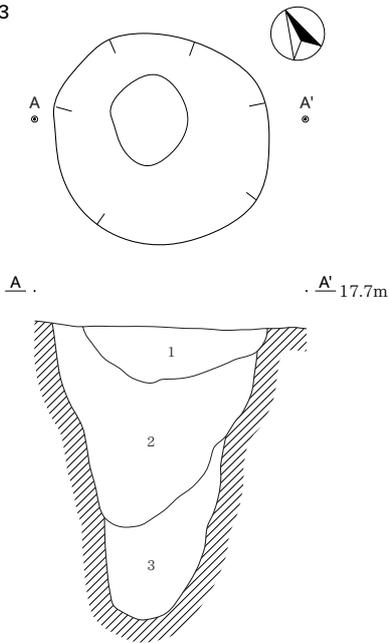
- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

0 (1:40) Pセクション図 2m

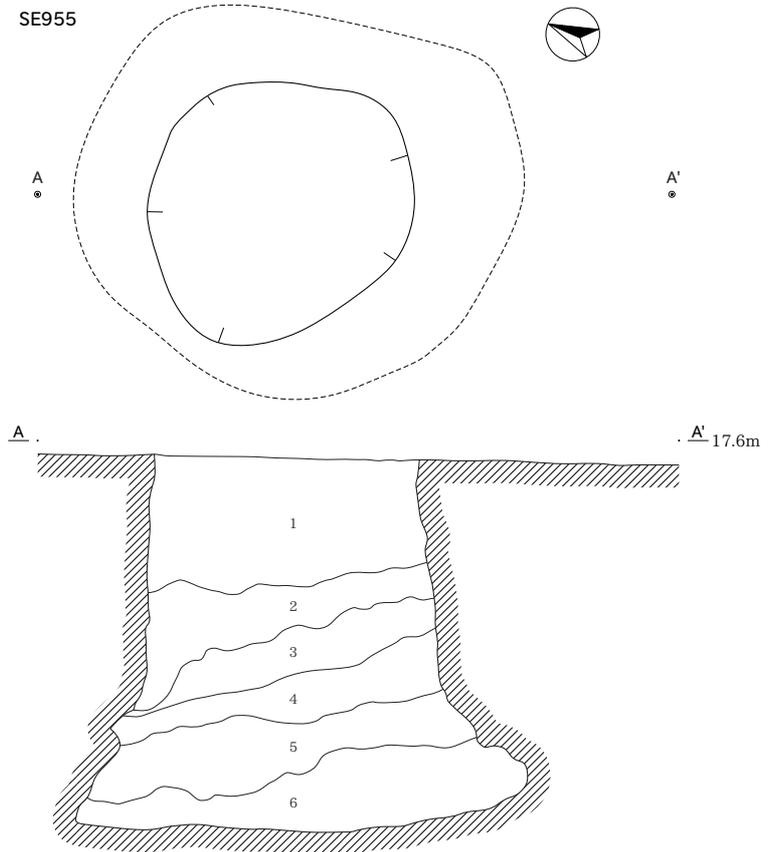
0 (1:60) SX 3m

0 (1:80) SB 4m

SE953



SE955



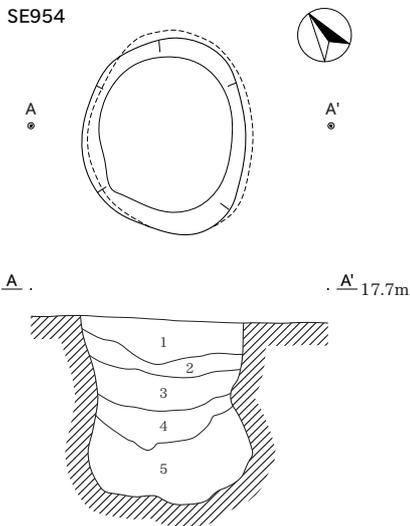
SE953

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SE955

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 3 灰色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
- 4 灰色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
- 5 灰白色シルト しまり中、粘性中。灰色シルトブロック含む。
- 6 暗灰色シルト しまり中、粘性中。

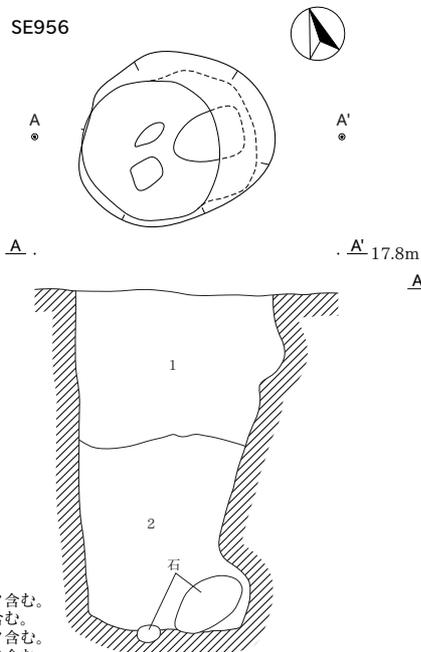
SE954



SE954

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
- 3 黄橙色シルト しまり中、粘性中。褐色シルトブロック含む。
- 4 灰白色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
- 5 灰白色シルト しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。

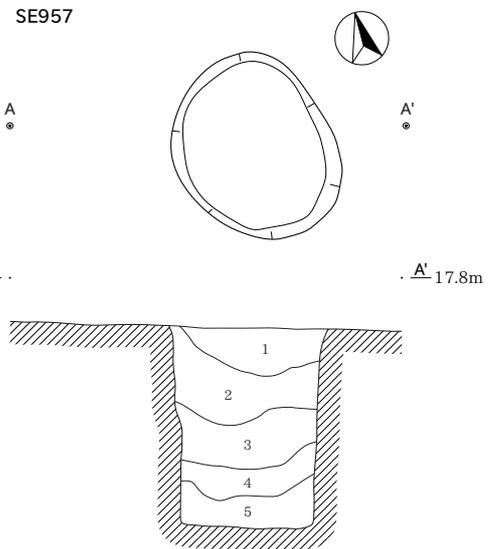
SE956



SE956

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物少量含む。
- 2 黒褐色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物少量含む。

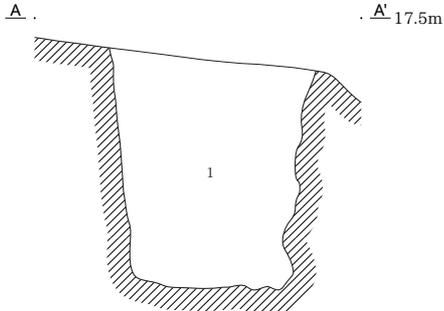
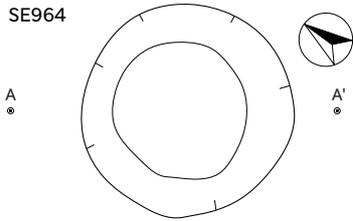
SE957



SE957

- 1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物含む。
- 2 褐灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 3 黒褐色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 4 灰色シルト しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
- 5 暗灰色シルト しまり中、粘性中。

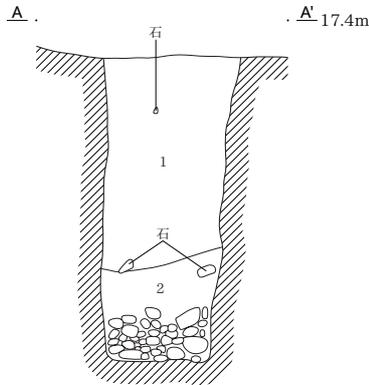
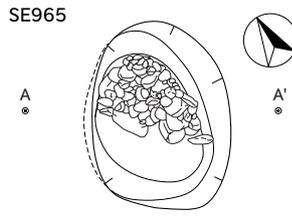
SE964



SE964

1 暗橙灰褐色+暗灰褐色シルト しまり強、粘性中。  
φ5~10mmの炭化物を少量、φ10~30mmの  
黄褐色シルトブロック多量に含む。

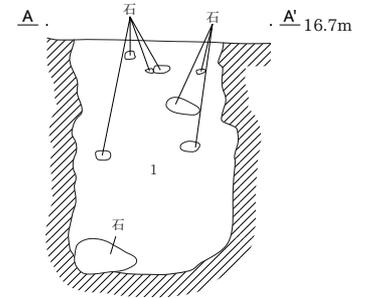
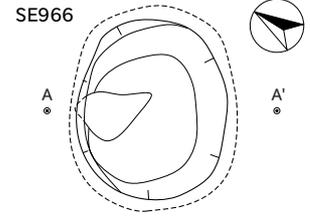
SE965



SE965

1 灰色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。  
2 青灰色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。

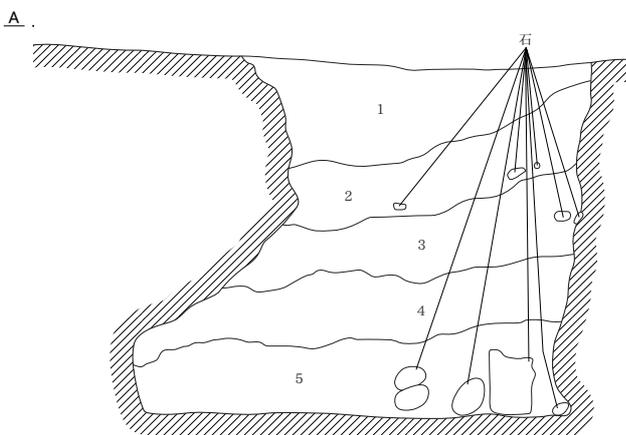
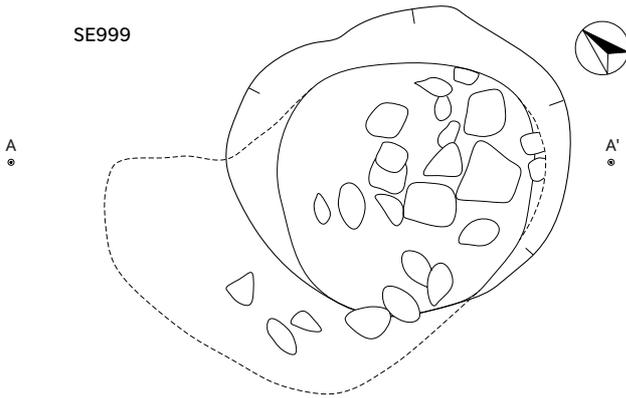
SE966



SE966

1 青灰色シルト しまり中、粘性中。黄褐色シルト  
ブロック含む。

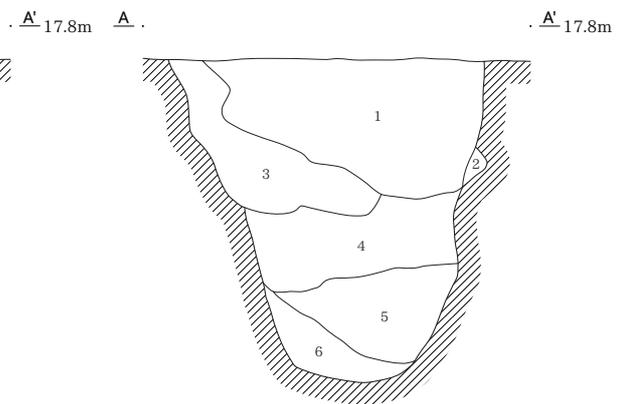
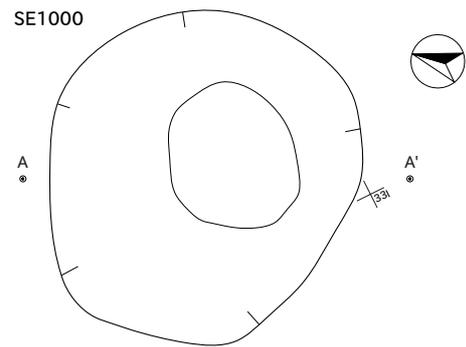
SE999



SE999

1 黒褐色シルト しまり強、粘性中。φ5~10mmの炭化物少量、φ20~100mmの礫、  
黄褐色シルトブロック少量含む。  
2 暗褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~10mmの炭化物少量、φ20~100mmの礫、  
φ30~60mmの黄褐色シルトブロック含む。  
3 黒褐色シルト しまり強、粘性中。φ1~5mmの炭化物少量、φ30~100mmの礫、黄  
褐色シルト崩落土含む。  
4 灰褐色粘土+黒褐色粘土 しまり弱、粘性強。炭化物微量、φ50~100mmの礫、φ20  
~70mmの黄褐色シルトブロック少量含む。  
5 灰白色粘土+黒灰色粘土 しまり弱、粘性強。割石、丸石、火輪、水輪、地輪含む。

SE1000

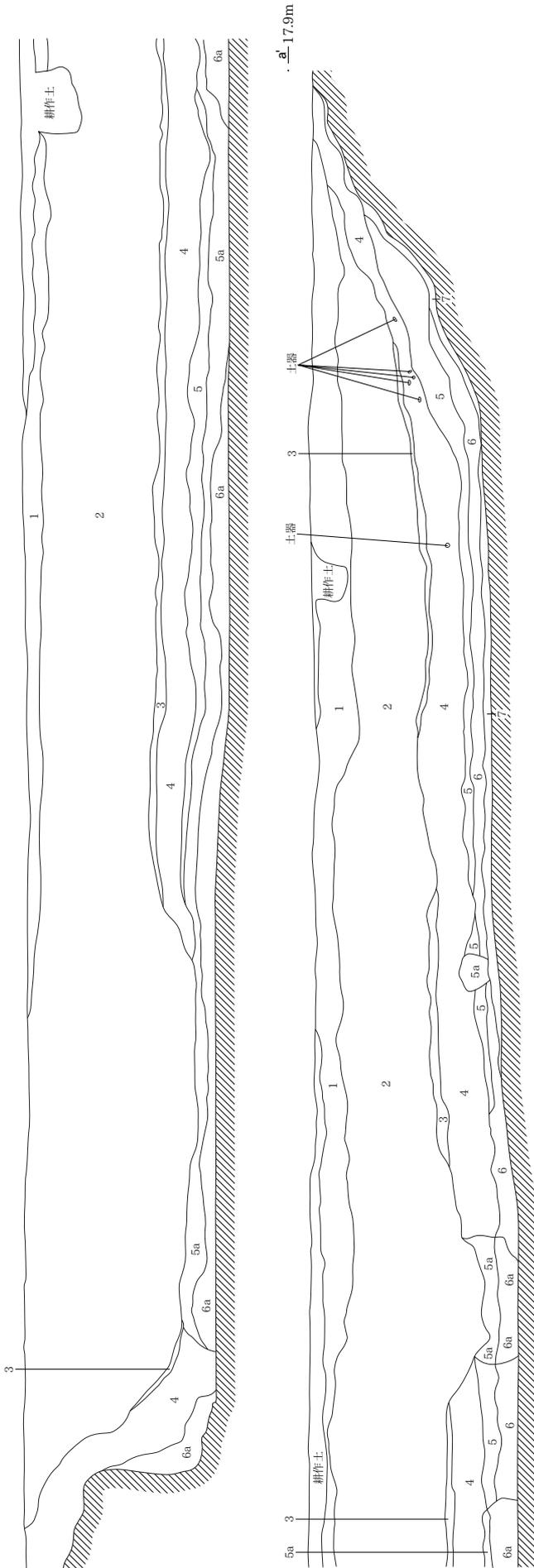


SE1000

1 暗褐色シルト しまり中、粘性中。φ1~5mmの炭化物少量、黄褐色シルトブロック  
中量、暗灰褐色シルト極多量含む。  
2 黄褐色シルト しまり中、粘性中。灰褐色シルト含む。  
3 灰褐色シルト しまり強、粘性中。φ10~20mmの炭化物少量、φ100~200mmの黄  
褐色シルトブロック少量含む。  
4 灰褐色シルト+暗褐色シルト しまり中、粘性中。φ10~20mmの炭化物少量、黄褐  
色シルトブロック少量含む。  
5 暗灰褐色シルト しまり中、粘性中。暗褐色シルト含む。  
6 暗灰橙色シルト しまり中、粘性強。φ300mmの灰白色シルトブロック含む。

SD1220

a.

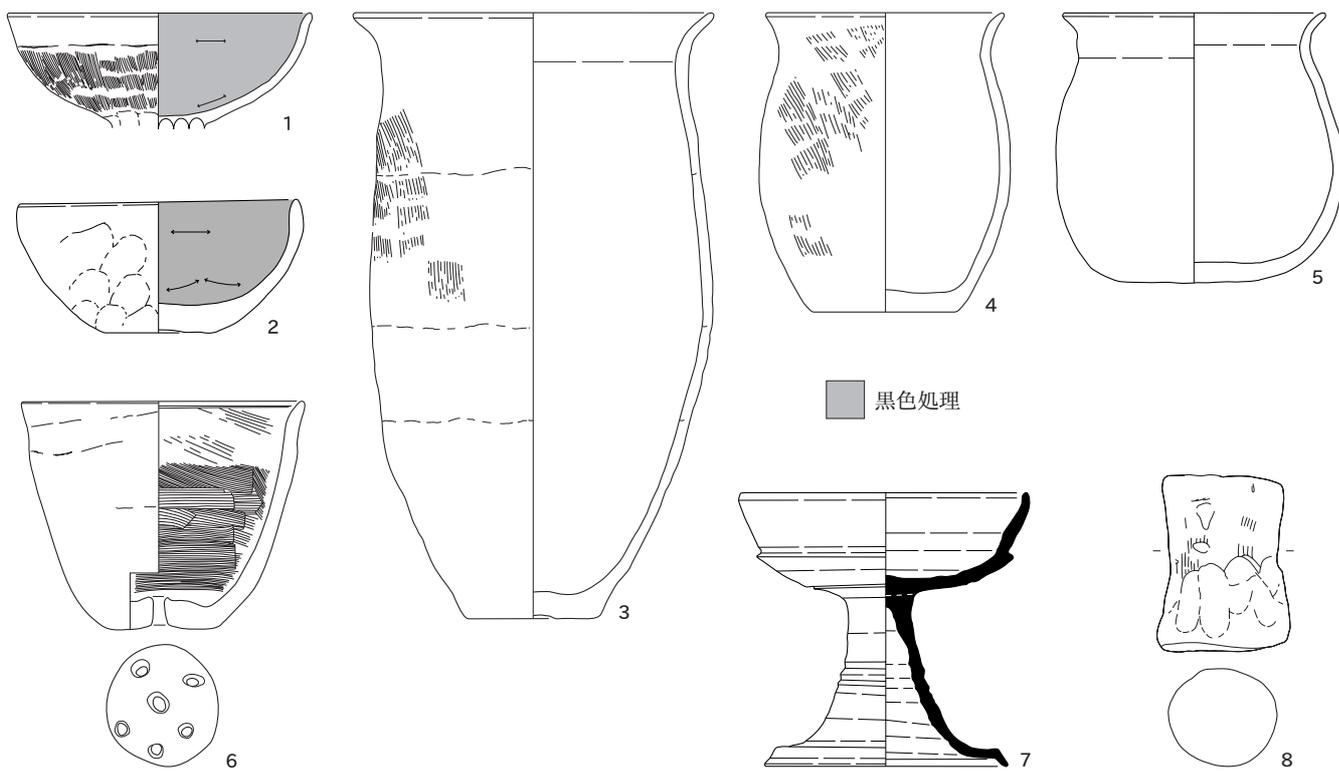


SD1220

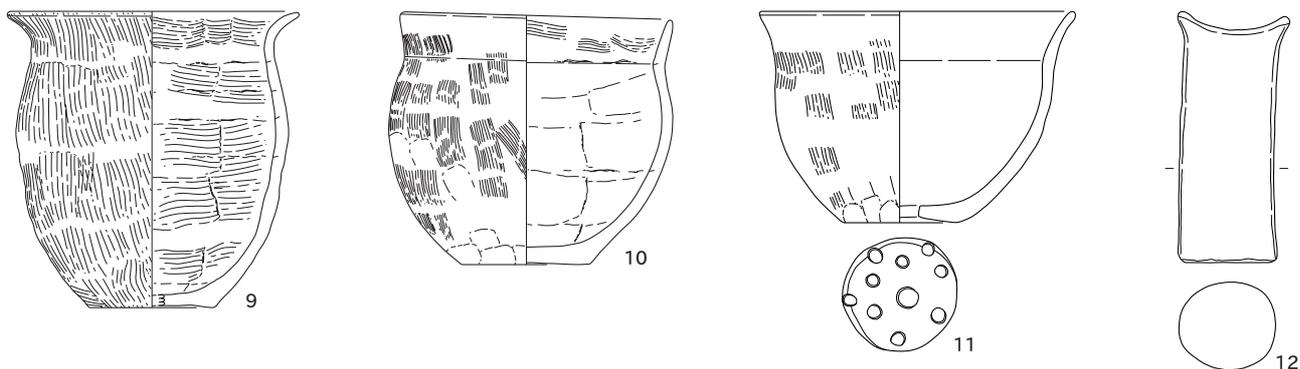
- 1 明褐色砂質シルト しまり中、粘性中、粘性中。植物遺体含む。
- 2 細砂とシルトの互層からなる。棕色細砂+明赤褐色細砂+にぶい、黄褐色細砂 しまり中、粘性なし。φ1~16mmの炭化物微量。φ1~4mmの粗砂を多量含む。(細砂堆積)。灰色シルト+褐灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~16mmの炭化物微量含む。(シルト堆積)
- 3 灰白色シルト しまり弱、粘性強。φ1~5mmの炭化物微量、酸化鉄中量含む。
- 4 紫灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~32mmの炭化物微量含む。
- 5 酸化鉄極多量、須恵器、土師器含む。
- 5a 明紫灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~28mmの炭化物微量、酸化鉄微量含む。
- 6 灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~18mmの炭化物微量、酸化鉄微量含む。
- 6a 青灰色シルト しまり弱、粘性強。φ1~18mmの炭化物微量、酸化鉄微量含む。
- 7 灰白色砂質シルト しまり中、粘性中。炭化物なし。



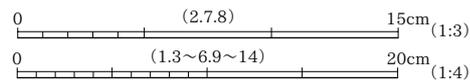
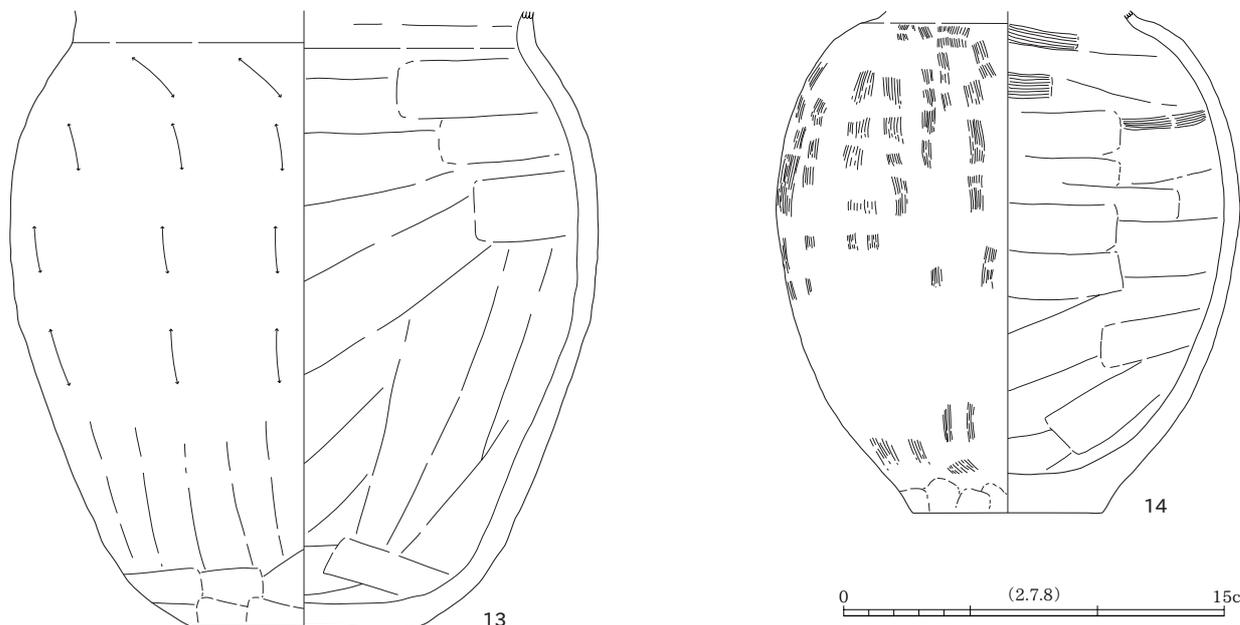
SI1058



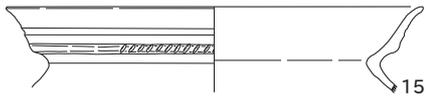
SI1185



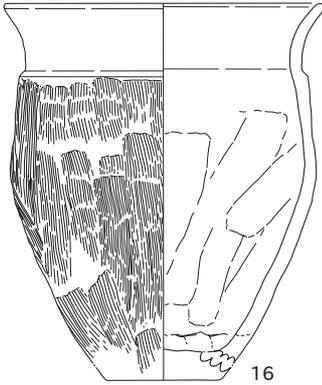
SI570



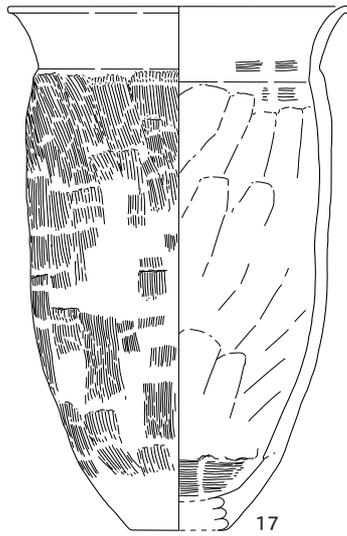
SI570



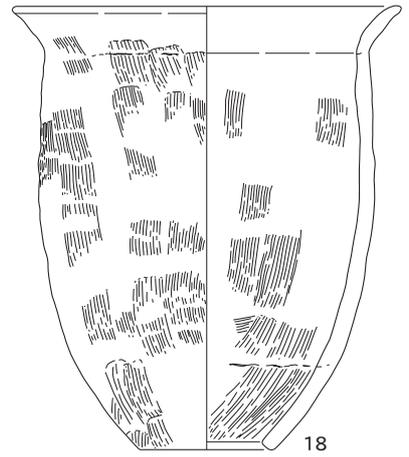
15



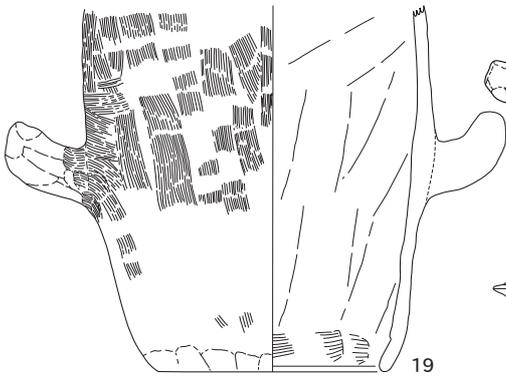
16



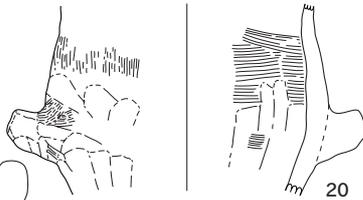
17



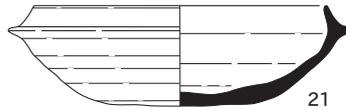
18



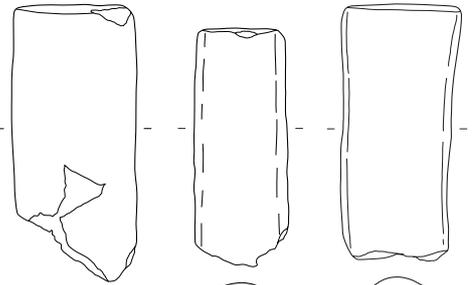
19



20



21

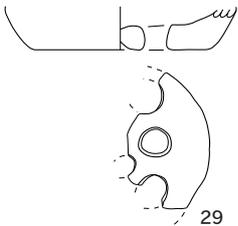


22

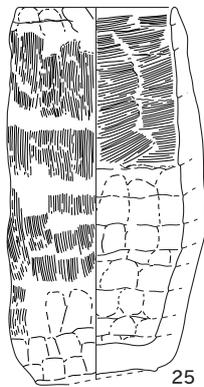
23

24

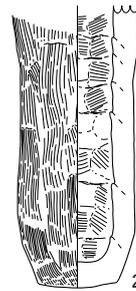
SI1403



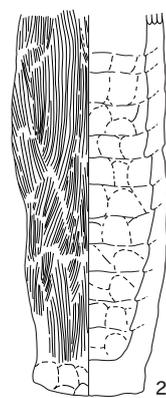
29



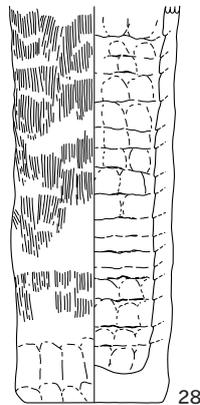
25



26

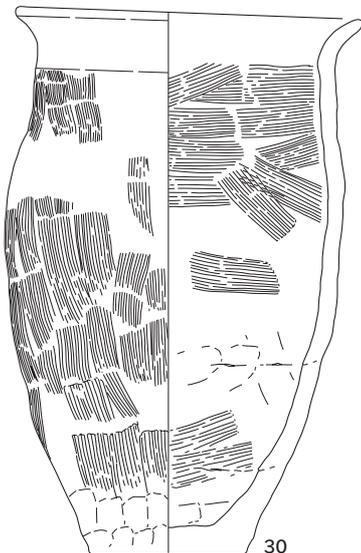


27

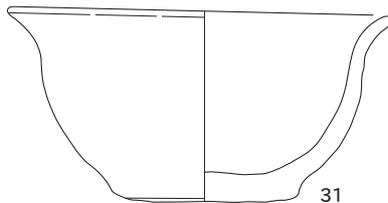


28

SI601



30

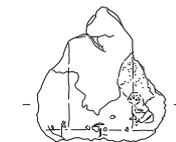


31

SI833



32

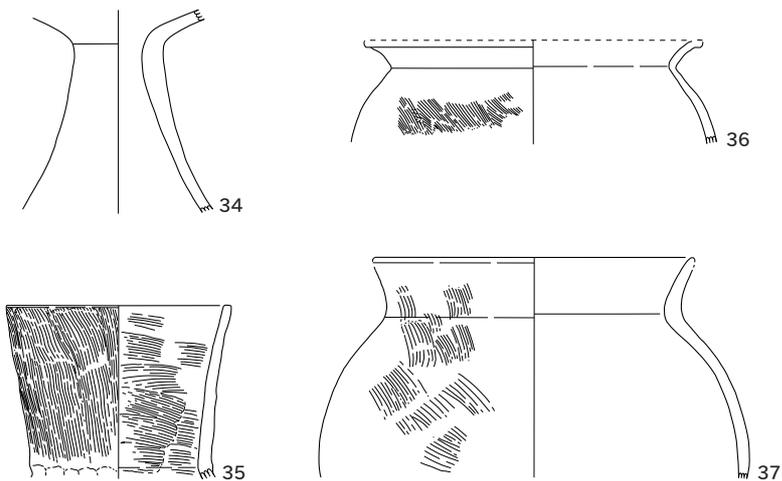


33

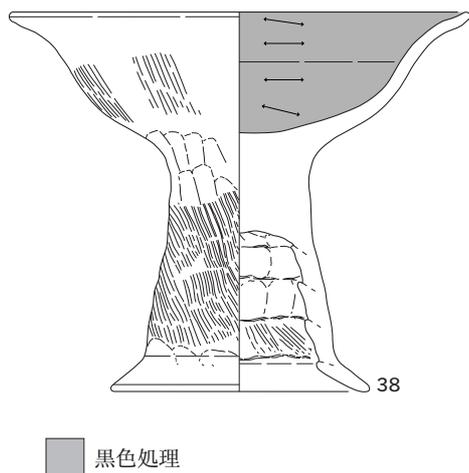
0 (21~24.29.31~33) 15cm (1:3)

0 (15~20.25~28.30) 20cm (1:4)

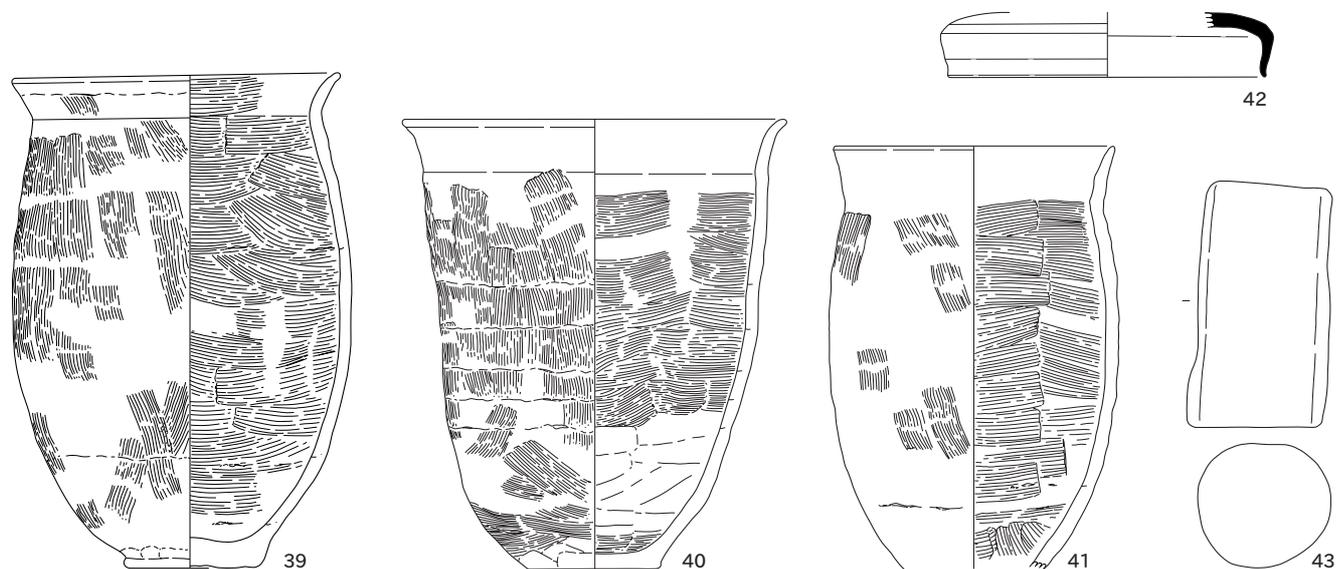
SI1054



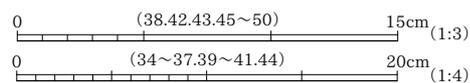
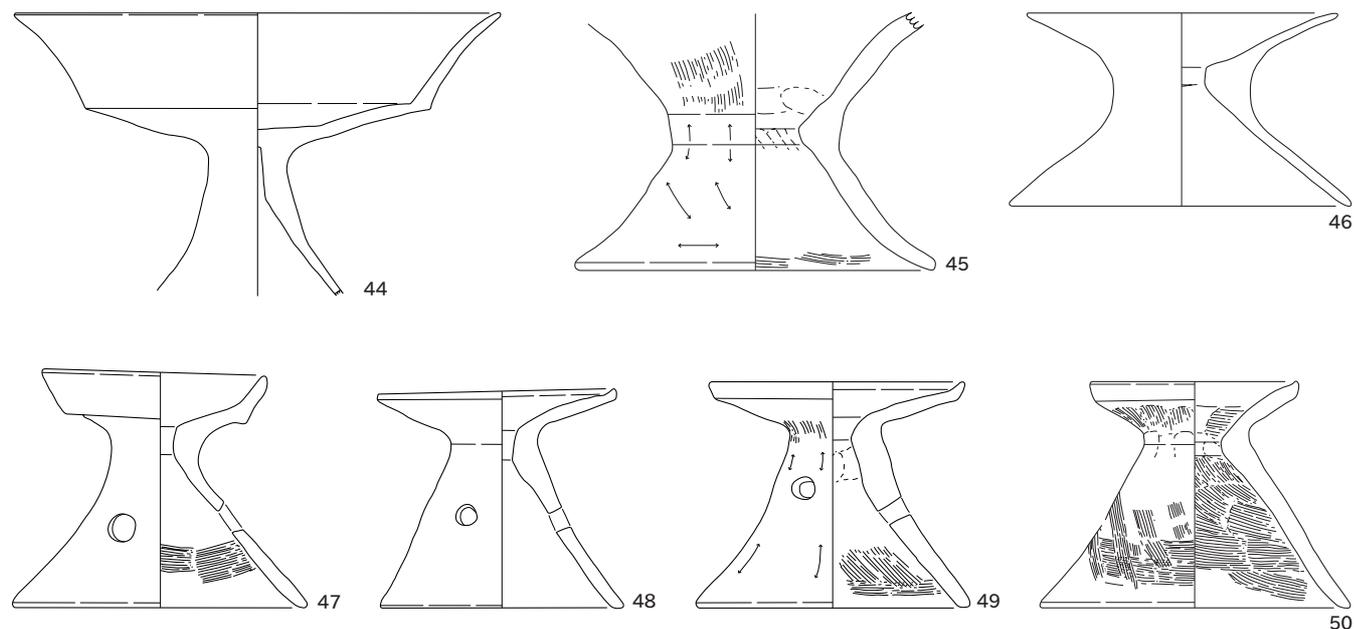
SI930



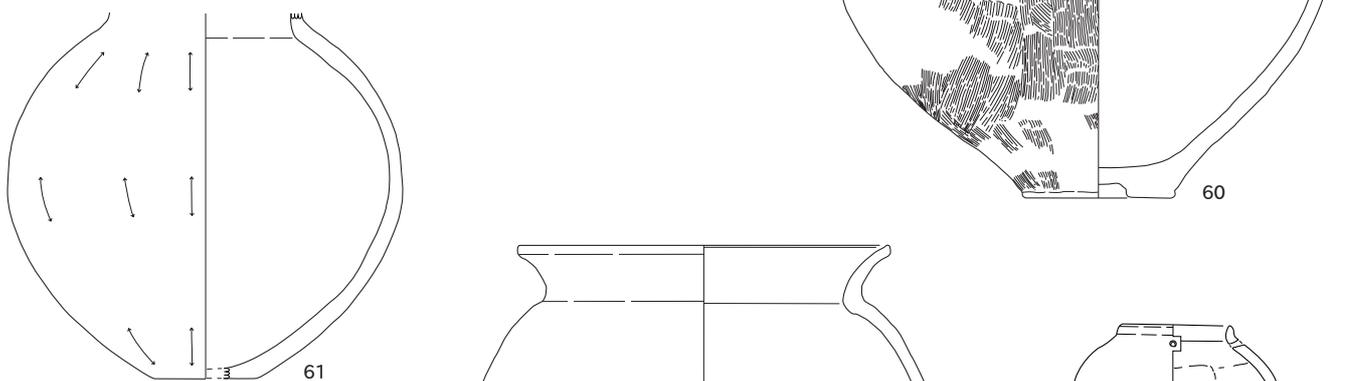
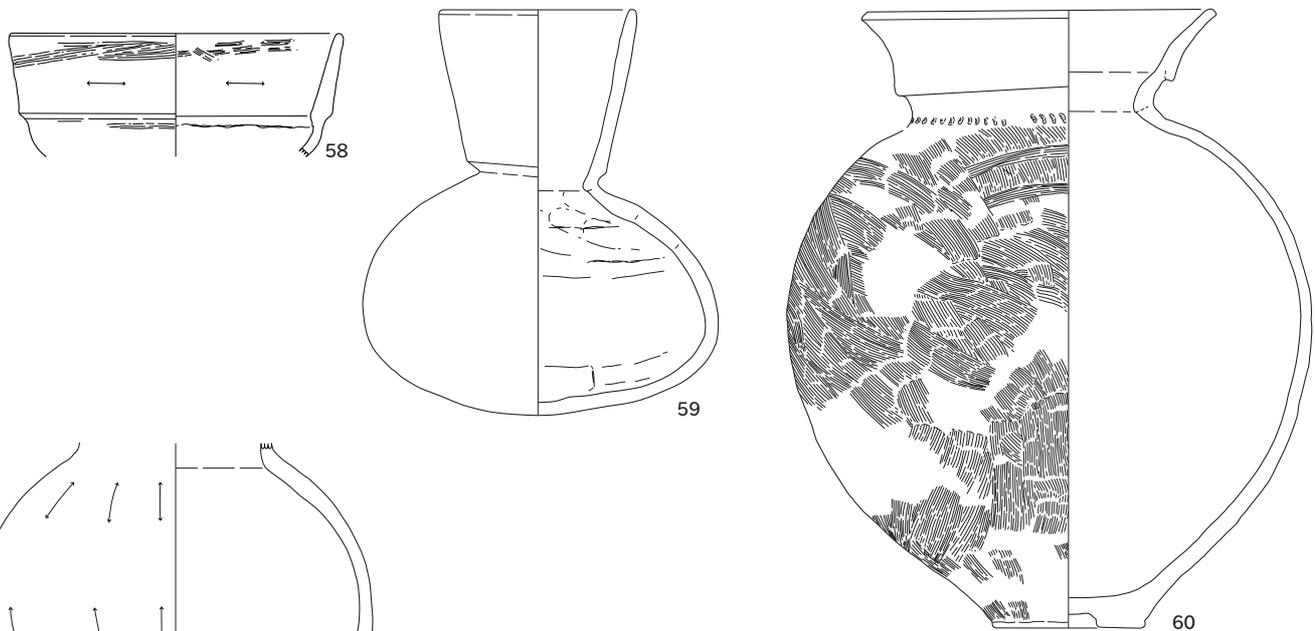
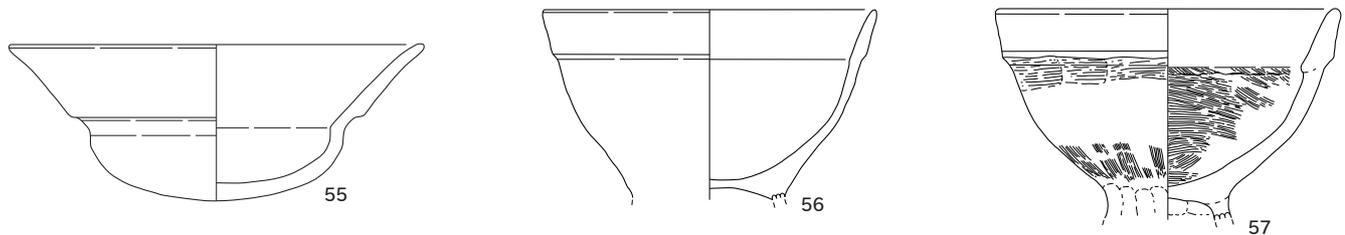
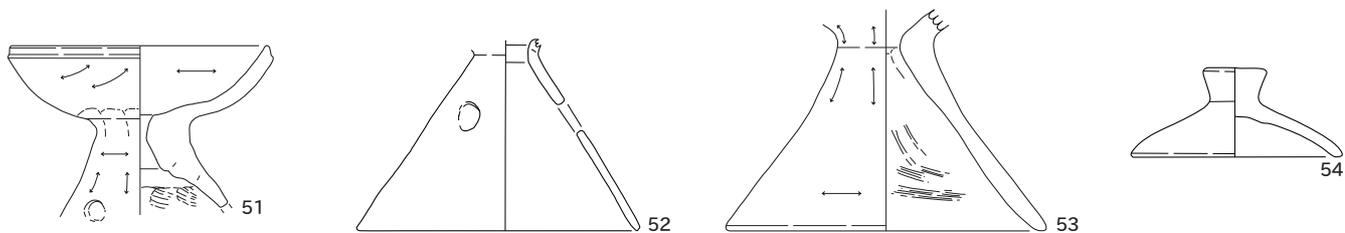
SI931



SI201



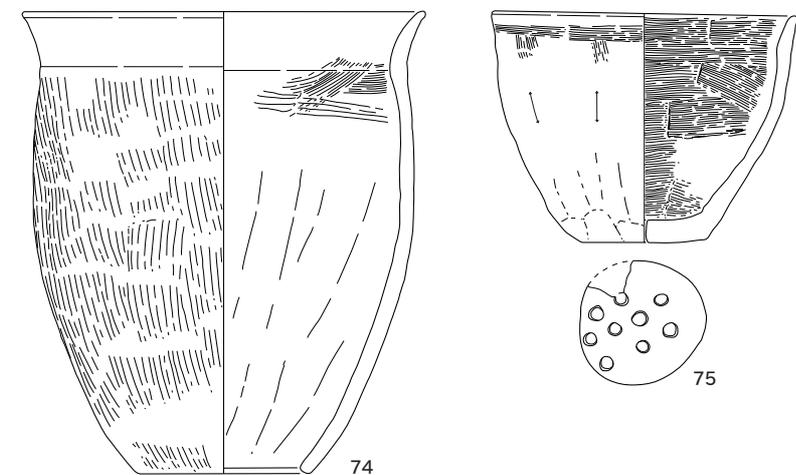
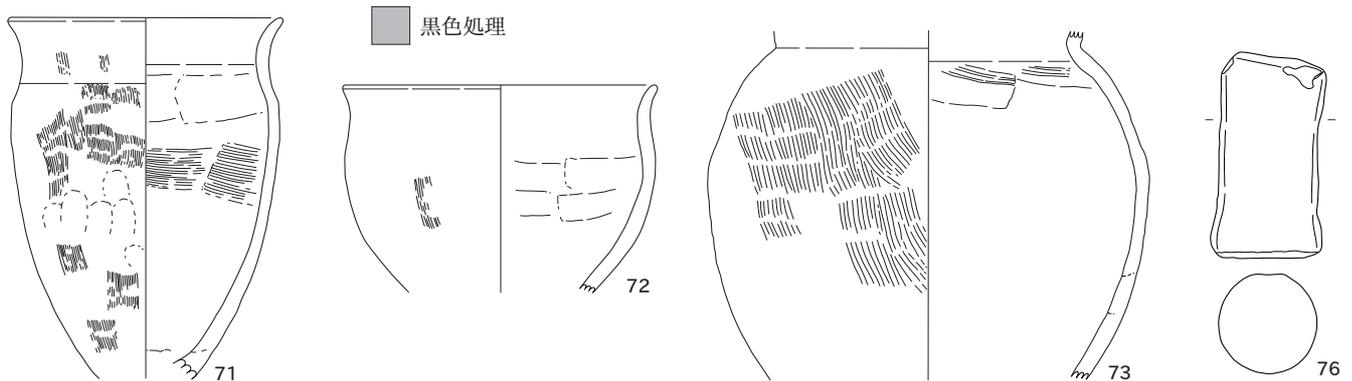
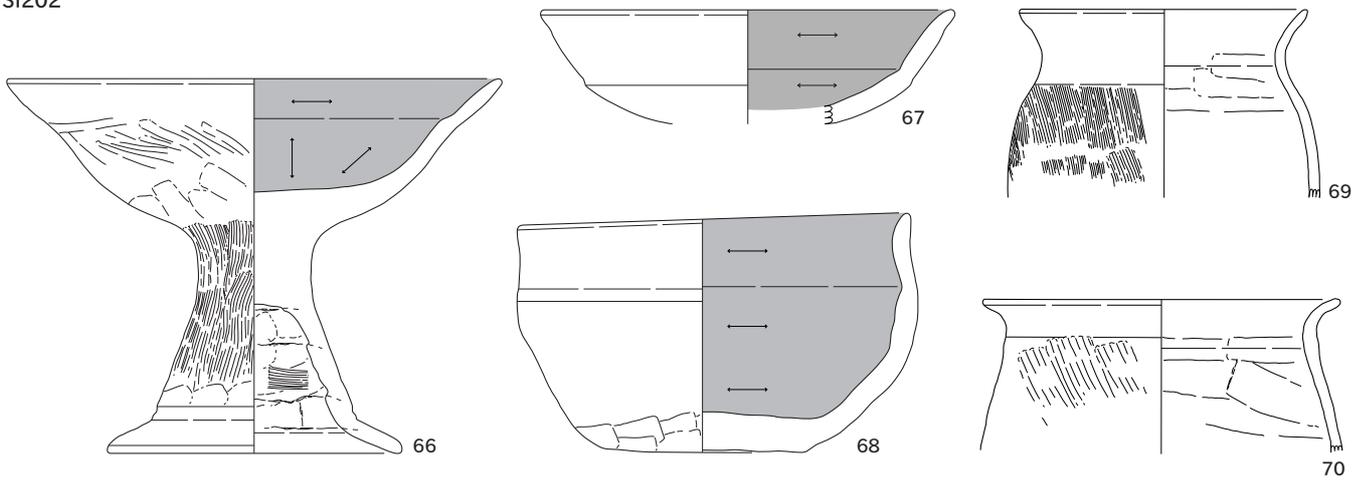
SI201



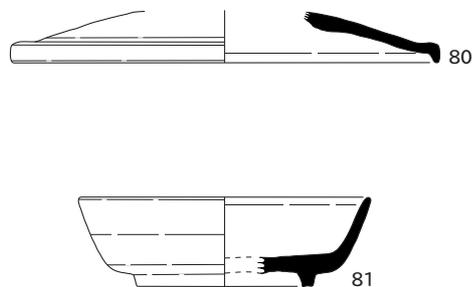
0 (51~59.61~63.65) 15cm (1:3)

0 (60,64) 20cm (1:4)

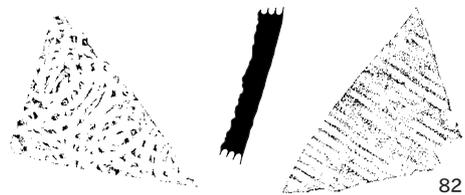
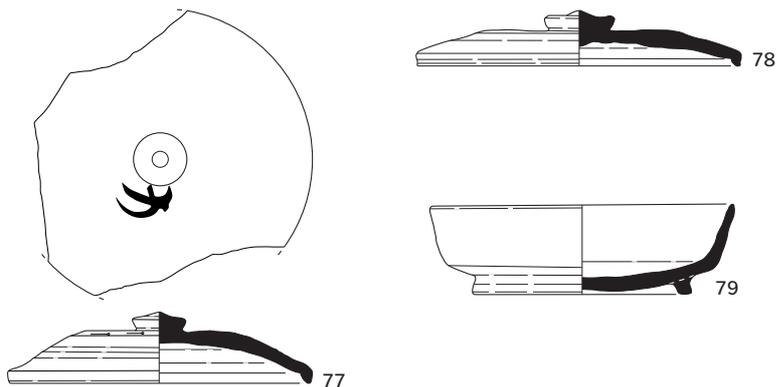
SI202



SI469

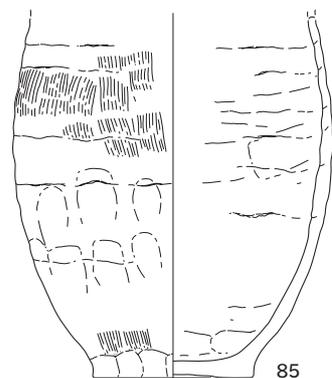
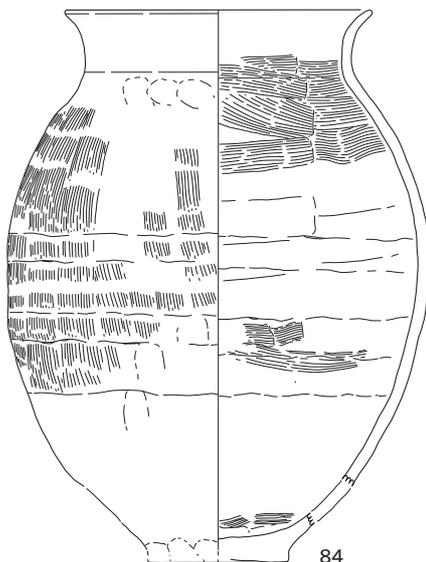
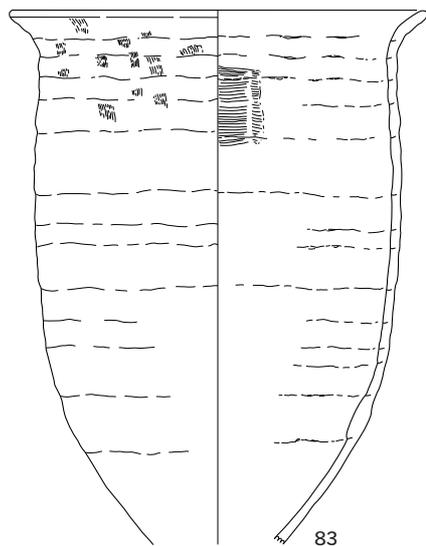


SI871

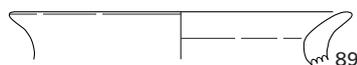
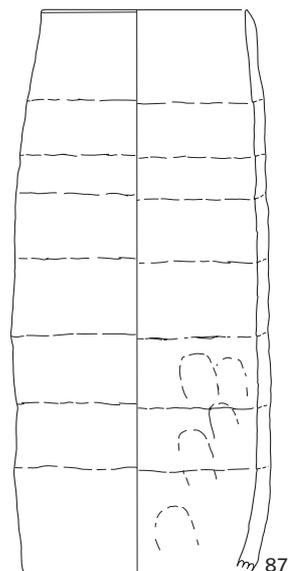
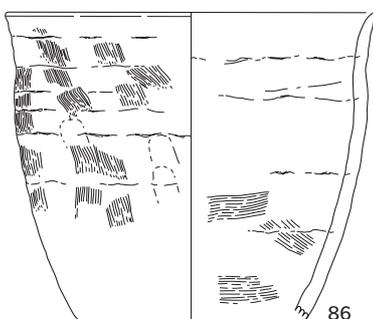
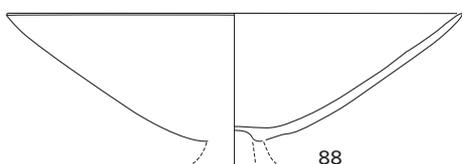


0 (66~68, 76~82) 15cm (1:3)  
 0 (69~75) 20cm (1:4)

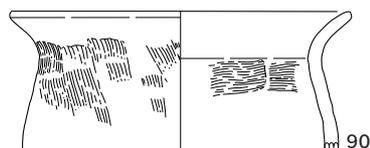
SI848



SI825



SI203



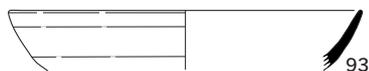
SI847



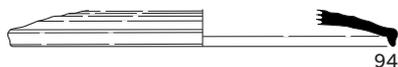
SI1201



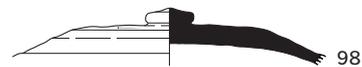
SB1171



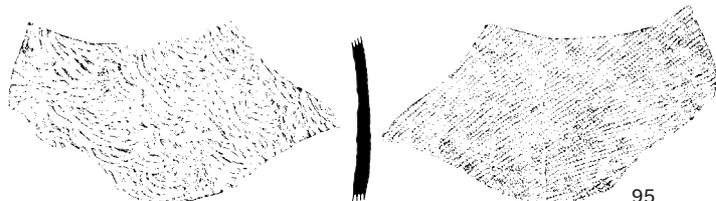
SB1460



SB1513



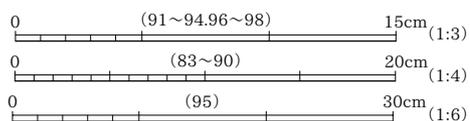
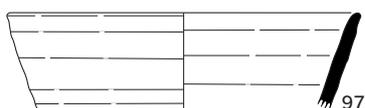
SB928



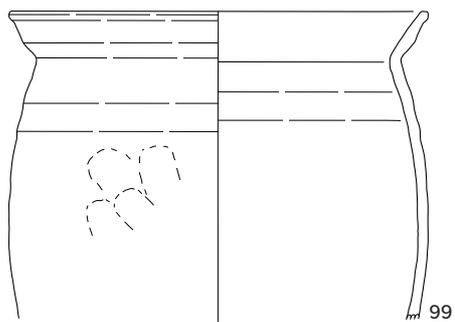
SB945



SB946



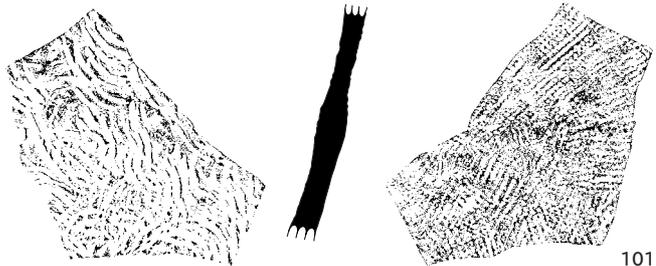
SB938



99

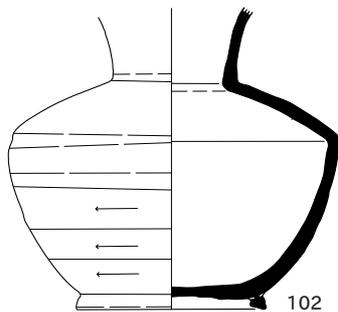


100



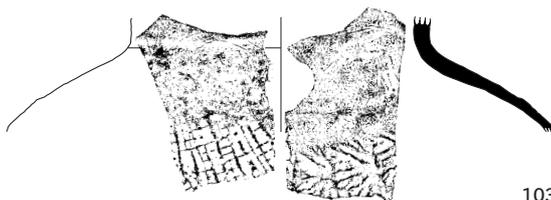
101

SB936



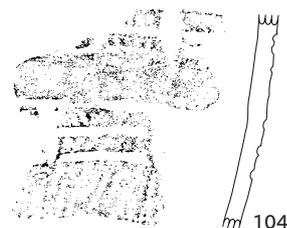
102

SB1578



103

SB270



104

SB300



105

SB370



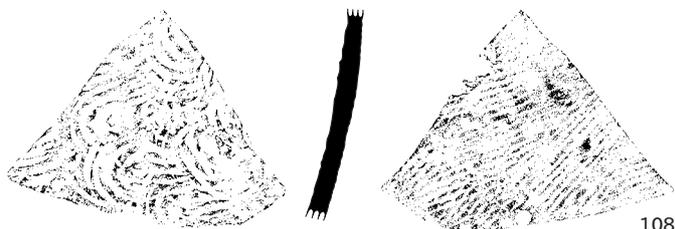
106

SB961



107

SE1077

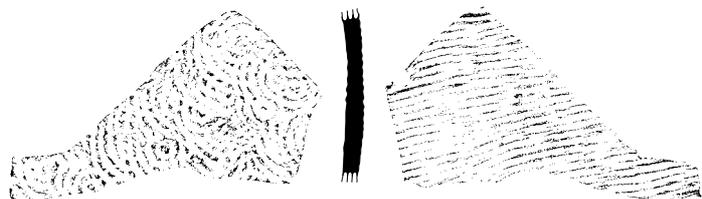


108

SE956

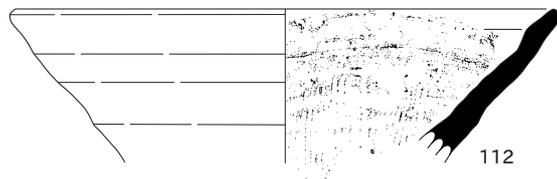


111



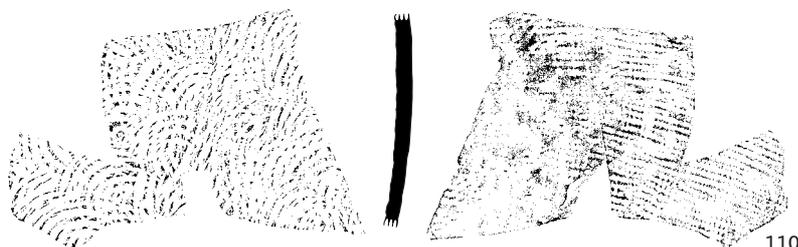
109

SE965

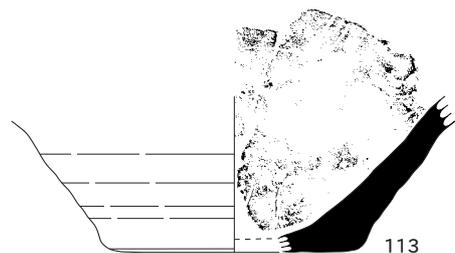


112

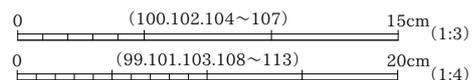
SE953



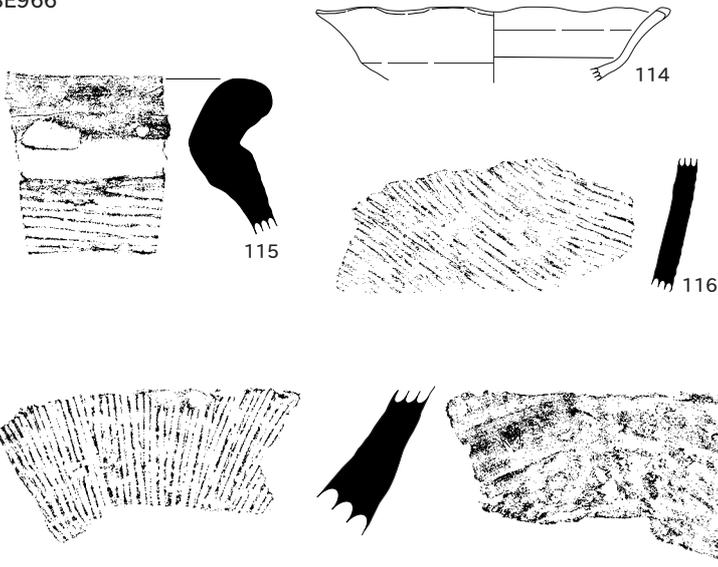
110



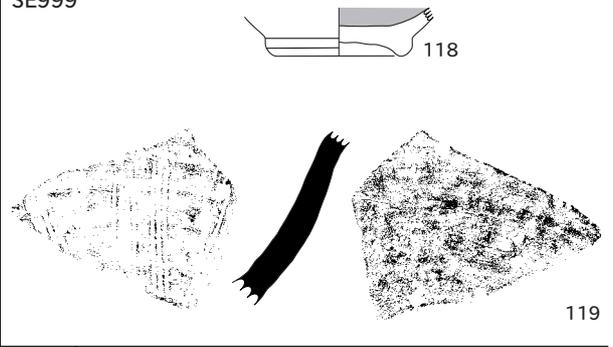
113



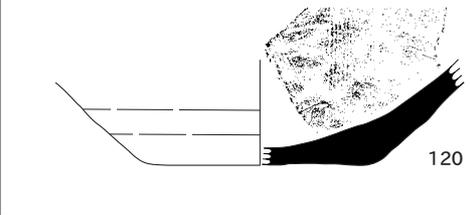
SE966



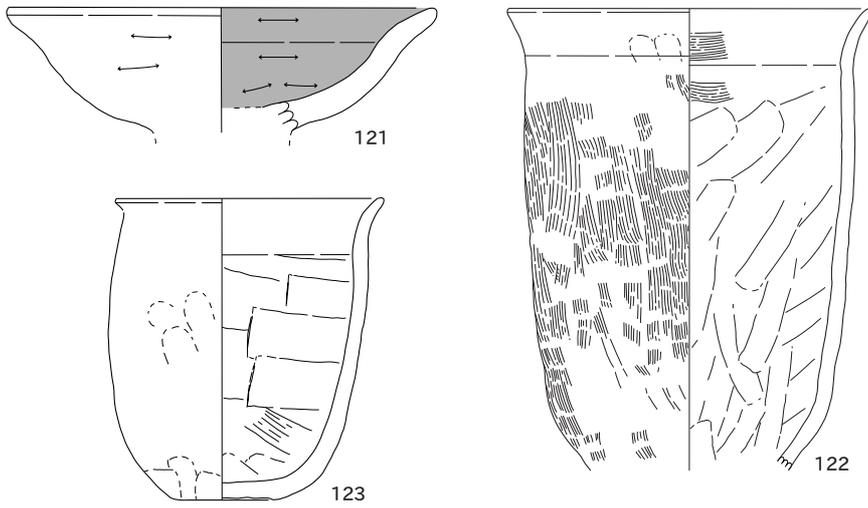
SE999



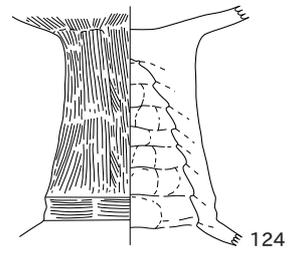
SE1000



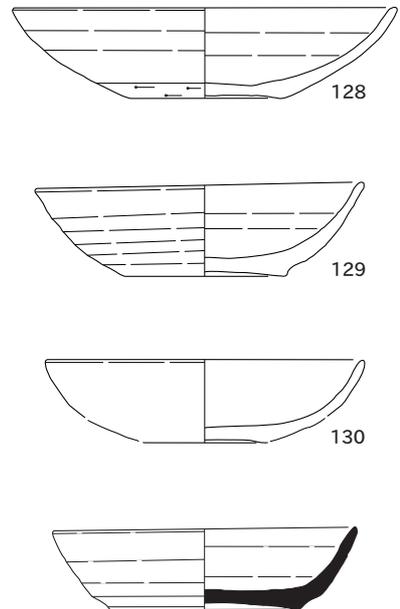
SK1179



SK826

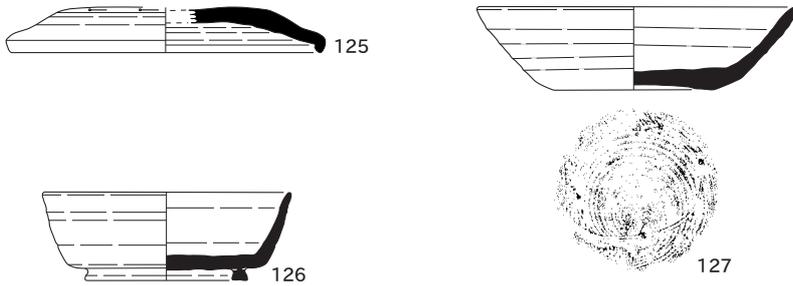


SK297

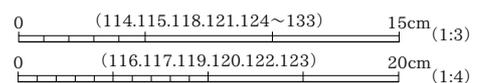
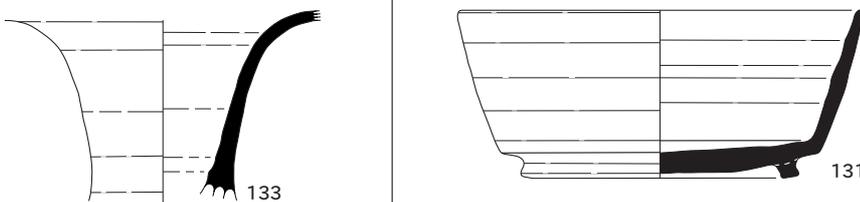


■ 黑色処理

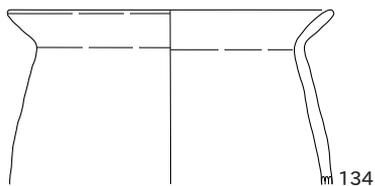
SK929



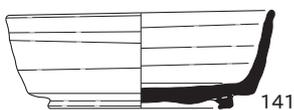
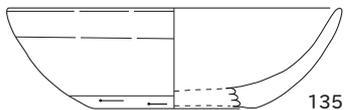
SK354



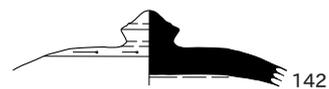
SK889



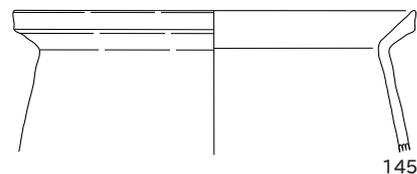
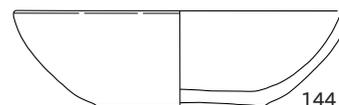
SK1425



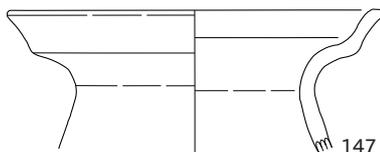
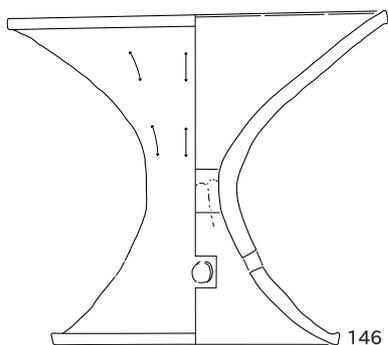
SK844



SK221



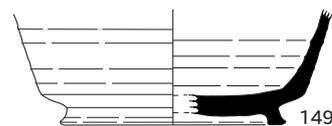
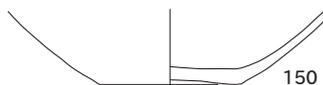
SX958



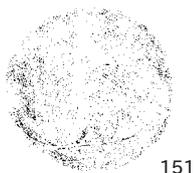
SD789



SD406

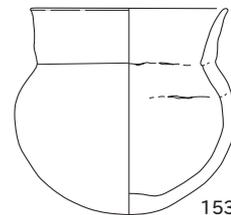
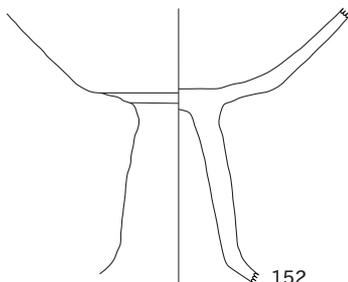


SD845



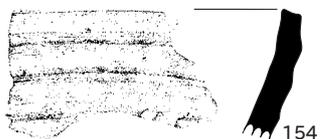
151

SD1551

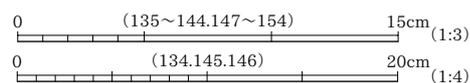


153

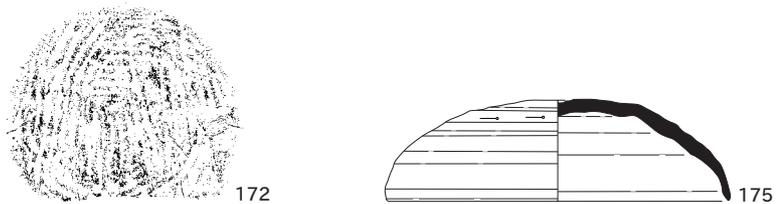
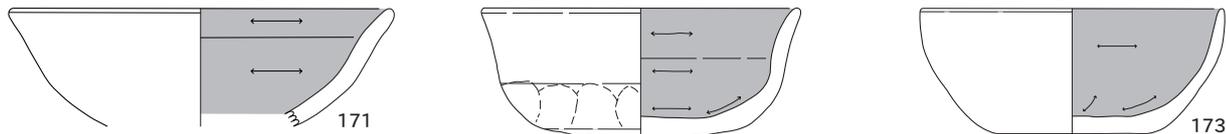
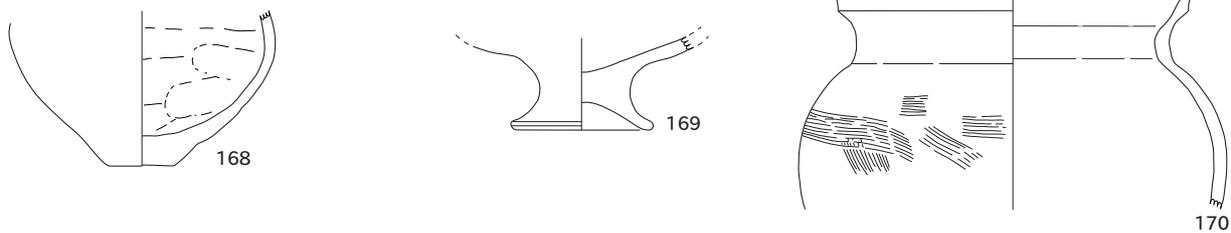
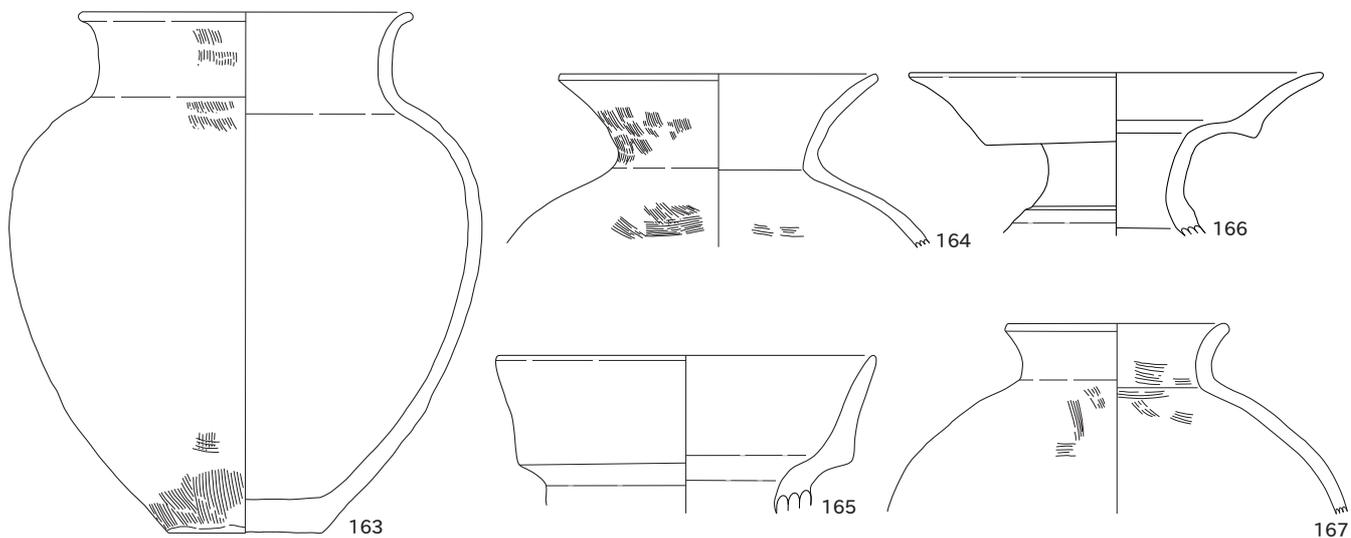
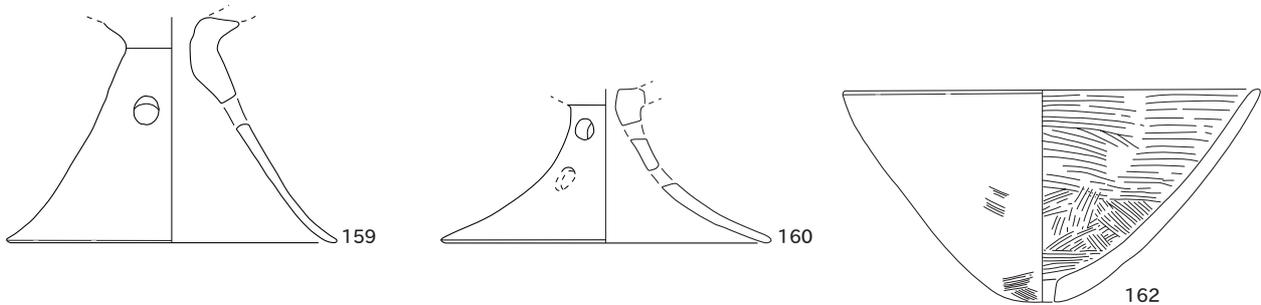
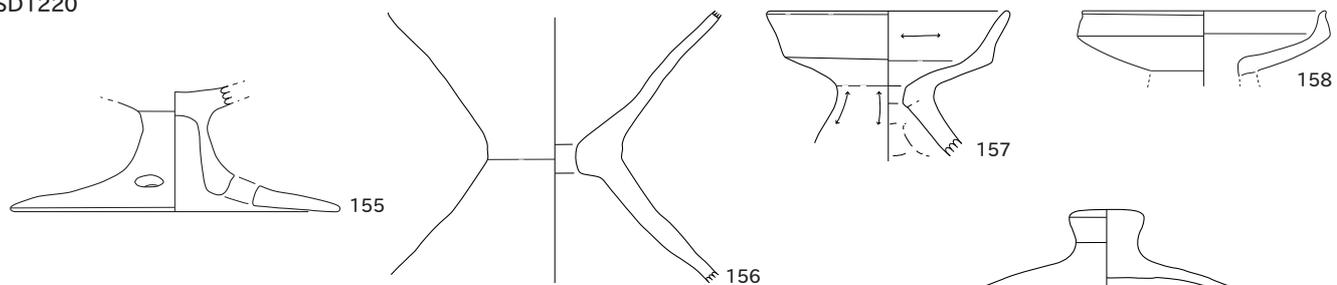
SD312



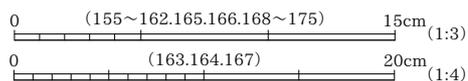
154



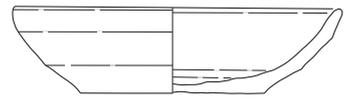
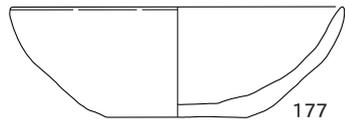
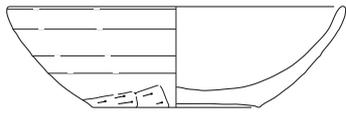
SD1220



■ 黑色処理

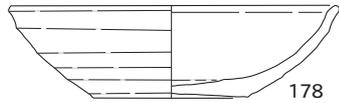


SD1220

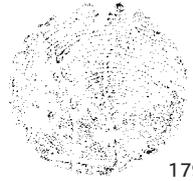


176

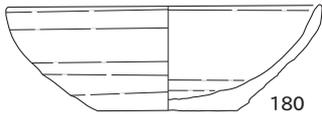
177



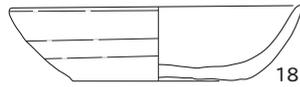
178



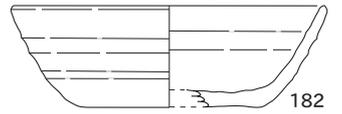
179



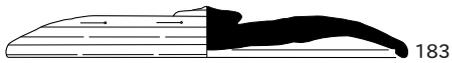
180



181



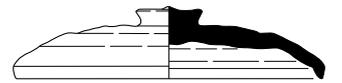
182



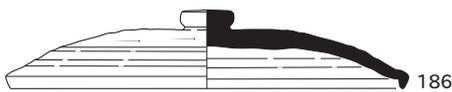
183



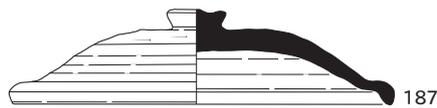
184



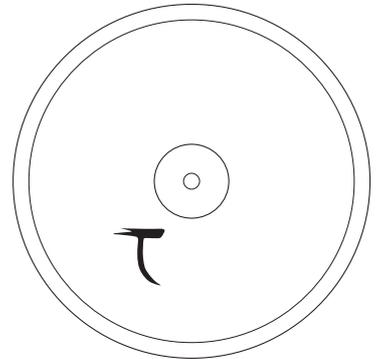
185



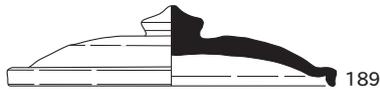
186



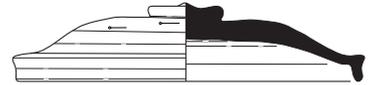
187



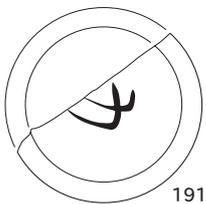
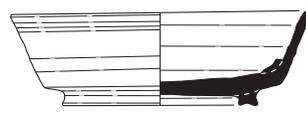
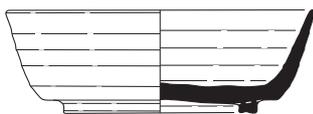
188



189



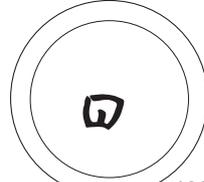
190



191



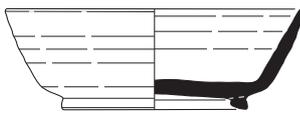
192



193



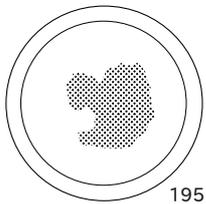
194



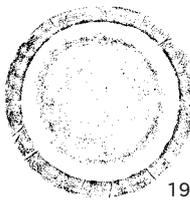
197



198



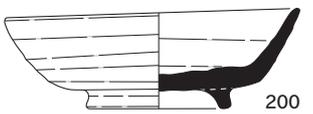
195



196



199

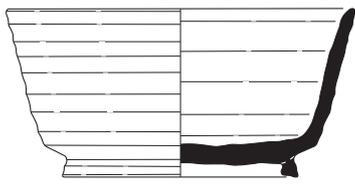


200

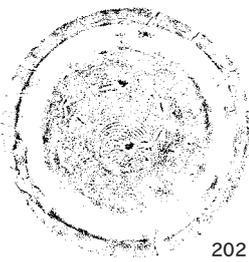
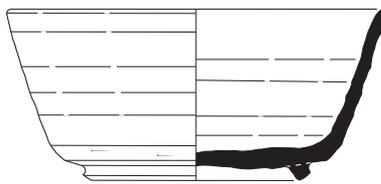
■ 墨 痕

0 15cm (1:3)

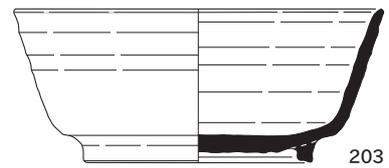
SD1220



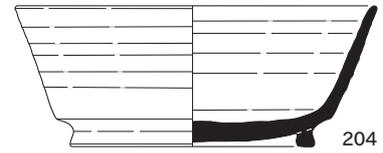
201



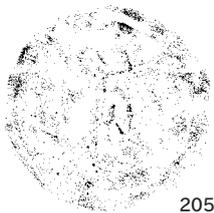
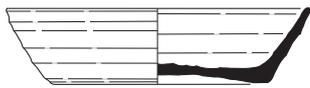
202



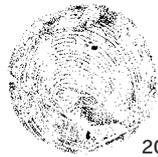
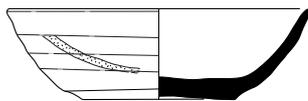
203



204



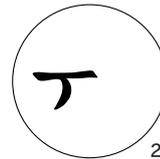
205



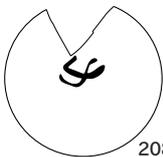
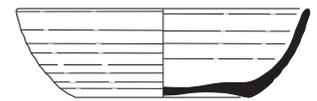
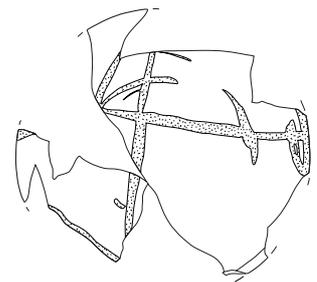
206



207



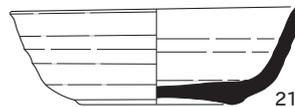
210



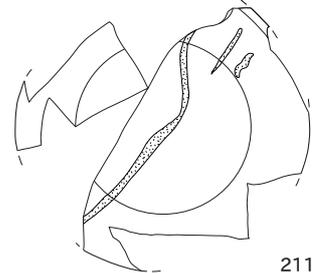
208



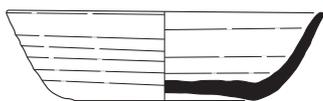
209



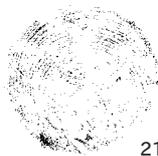
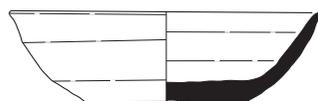
214



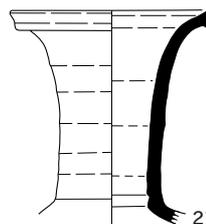
211



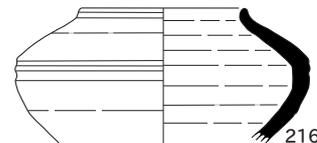
212



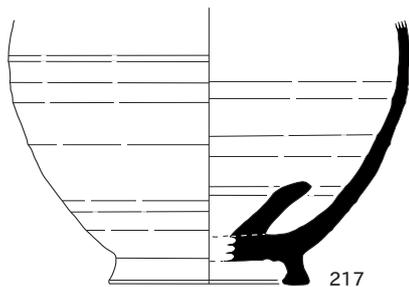
213



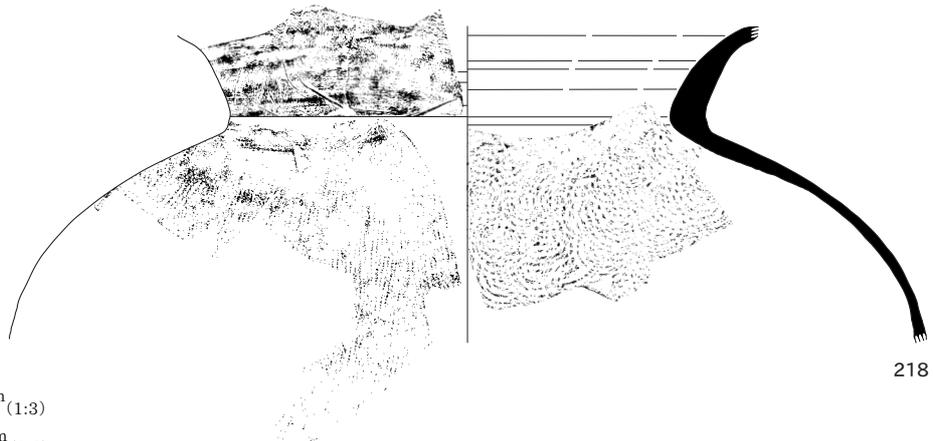
215



216



217

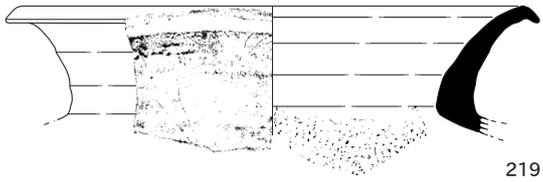


218

■ 火だすき痕

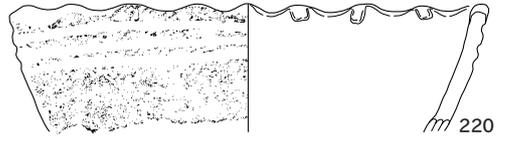
0 (201~217) 15cm (1:3)  
0 (218) 30cm (1:6)

SD1220

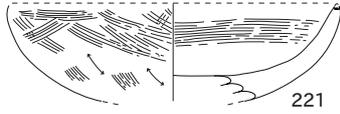


219

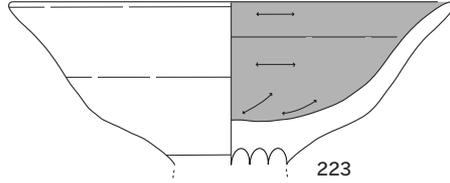
表土



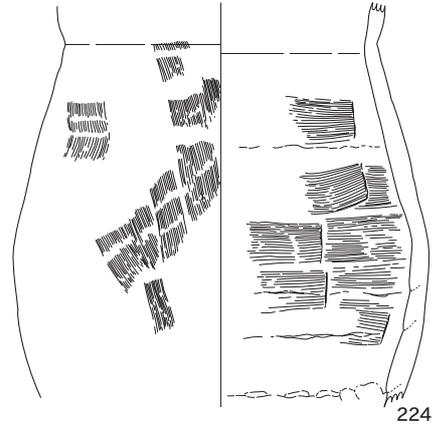
220



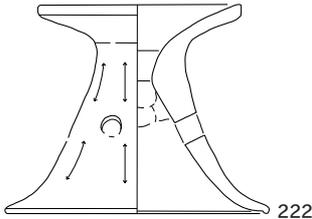
221



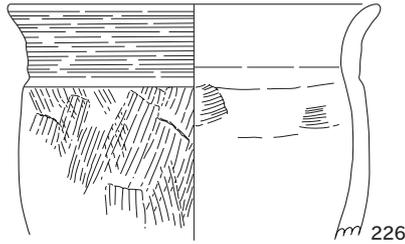
223



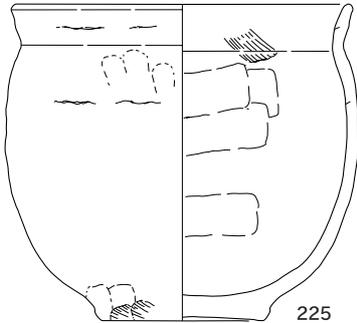
224



222

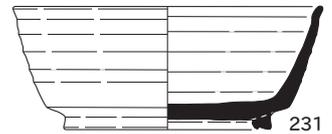


226



225

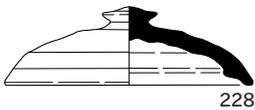
■ 黑色処理



231



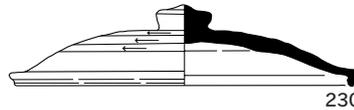
232



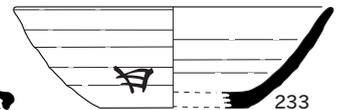
228



229

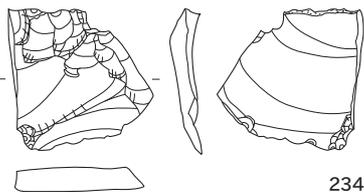


230



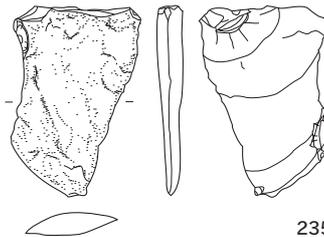
233

SB270



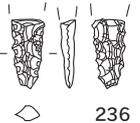
234

SD1220



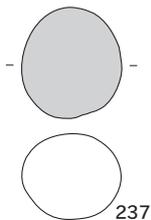
235

表土



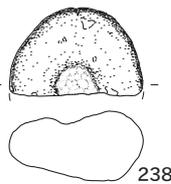
236

SX1268



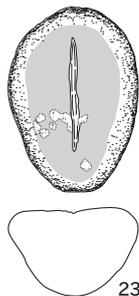
237

SI1185

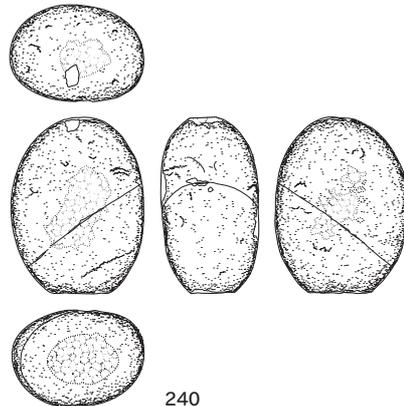


238

SI201

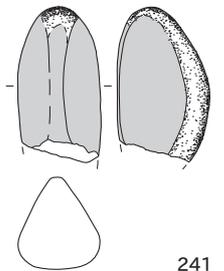


239



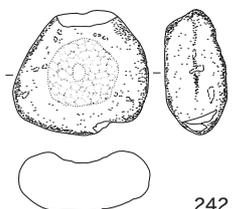
240

SE1564



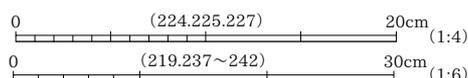
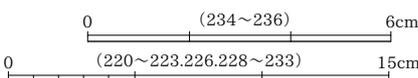
241

SE965

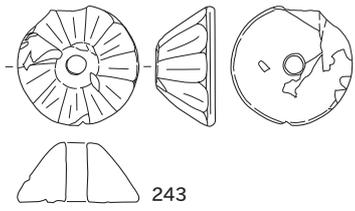


242

■ 敲打痕 ■ 磨痕



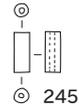
P1251



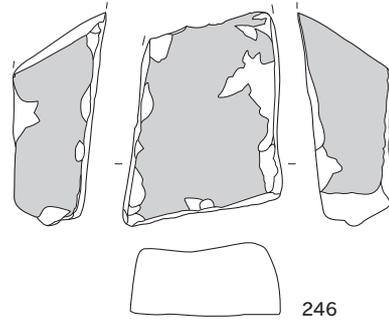
SI201



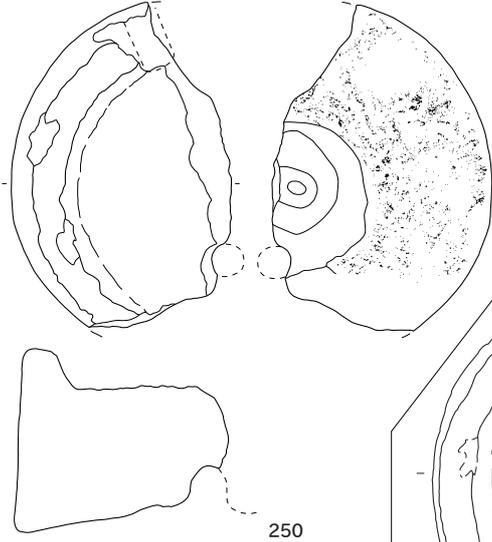
SI202



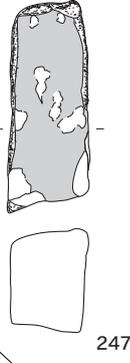
SE1575



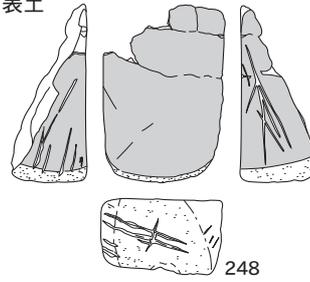
SE965



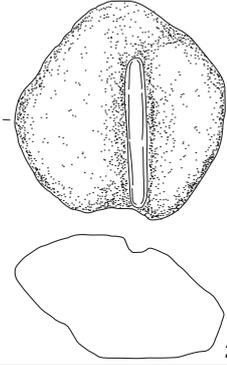
SE999



表土

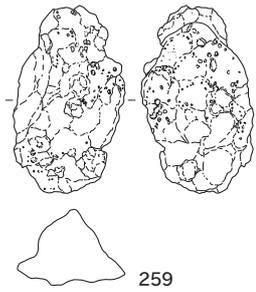


磨痕

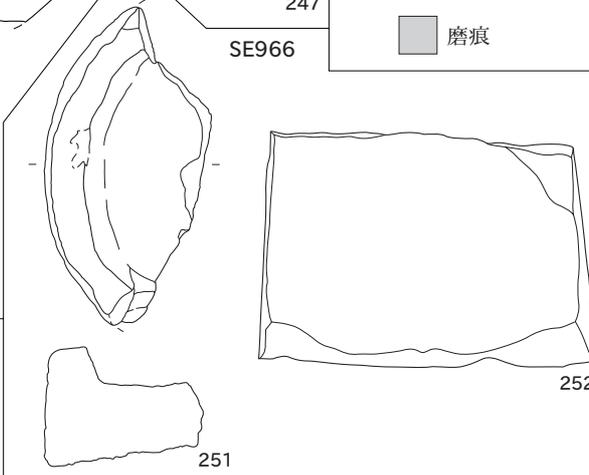
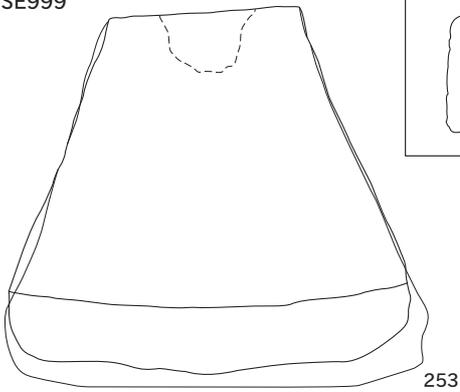


SE966

SI469

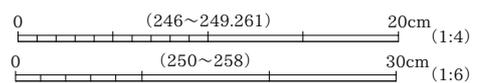
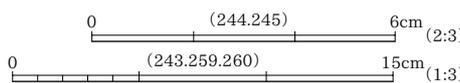
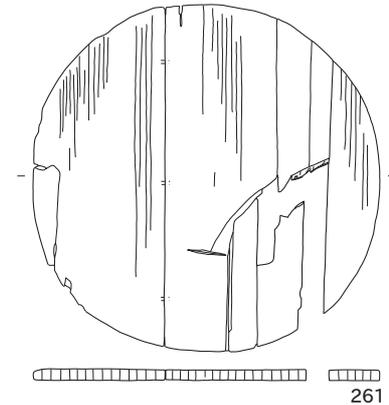
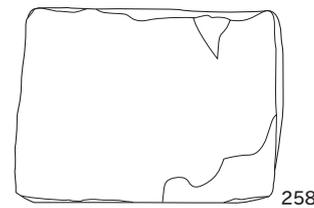
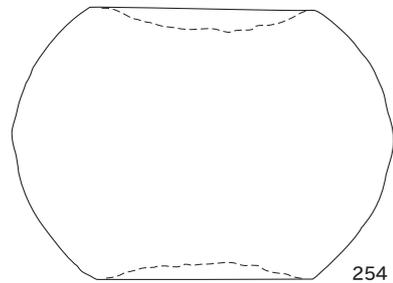
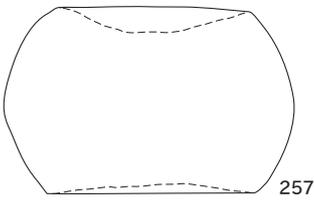
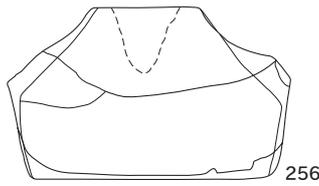
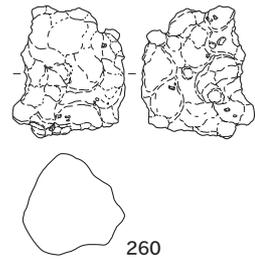


SE999



252

SI833



255



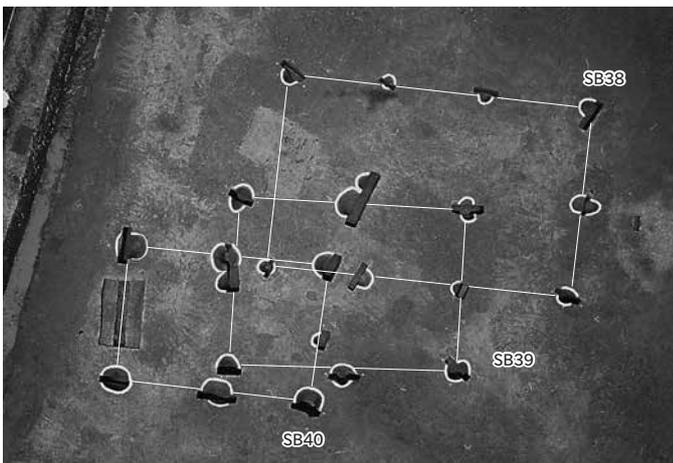
北前田遺跡A地区 全景 (南東から)



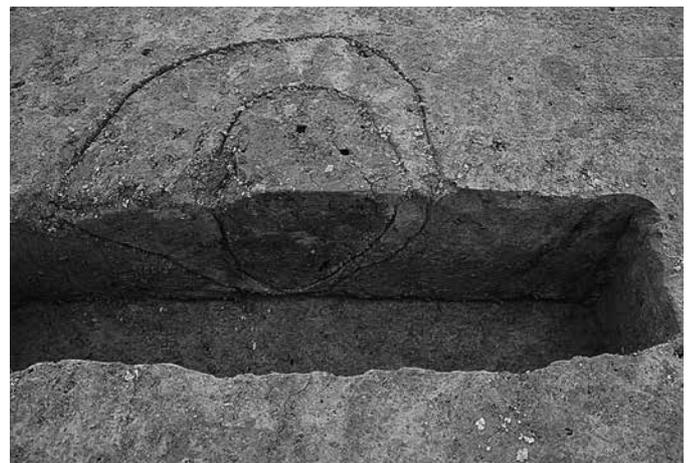
A地区 7F23 基本層序 (北から)



A地区 6A21 基本層序 (南から)



SB38・39・40 完掘 (南から)



SB38-P25 土層断面 (西から)



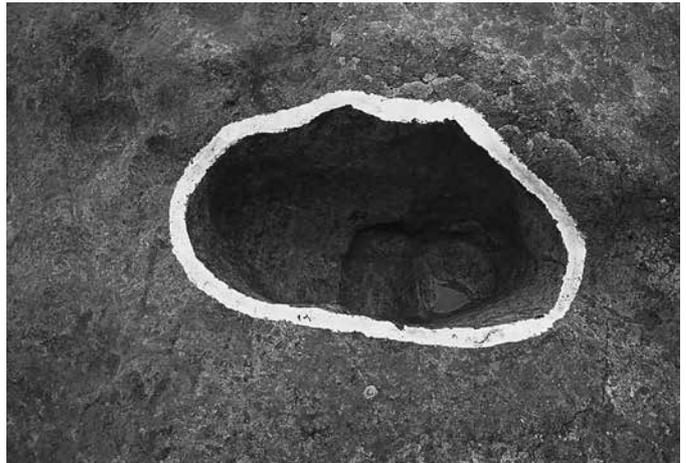
SB39-P18 土層断面 (南から)



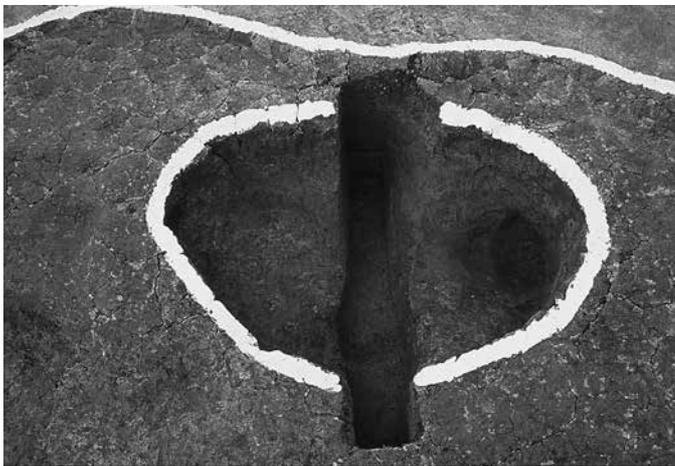
SB40-P37 土層断面 (東から)



SK9 土層断面 (南から)



SK9 完掘 (西から)



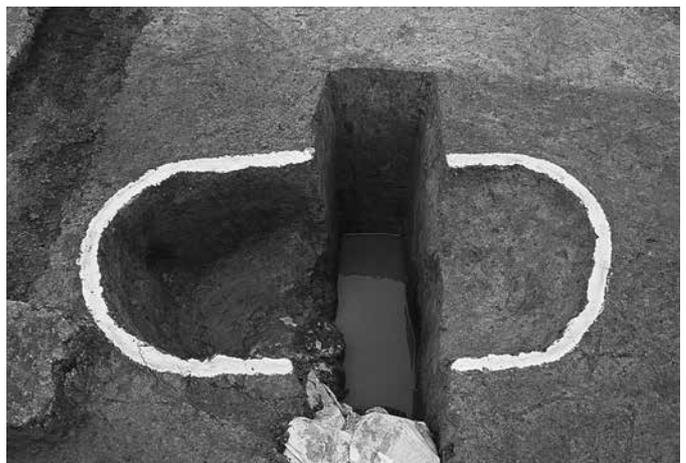
SK13 完掘 (西から)



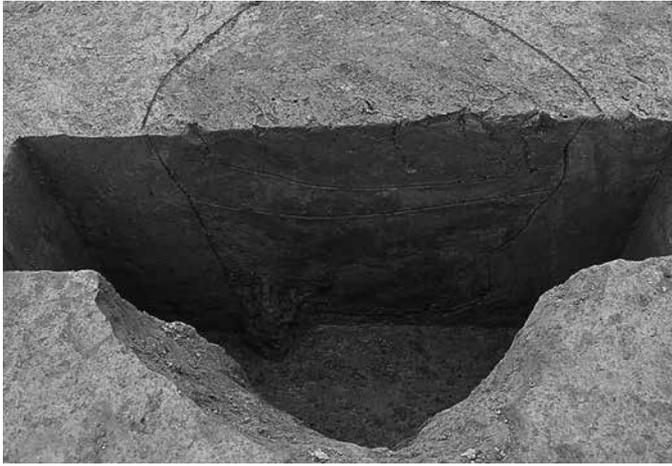
SK14 完掘 (西から)



SK45 土層断面 (南から)



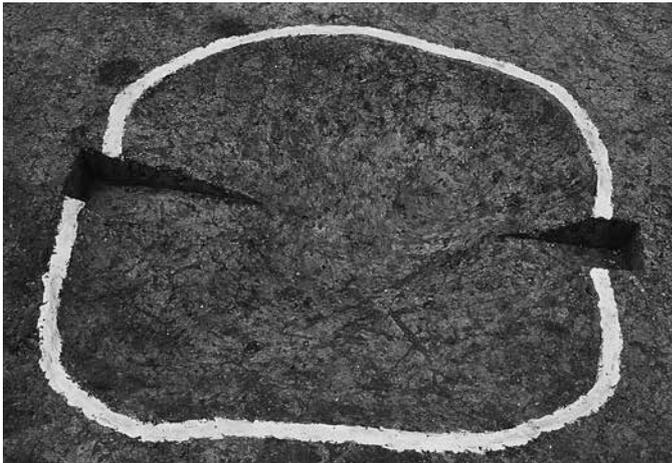
SK15・45 完掘 (西から)



SK41 土層断面（東から）



SK41 遺物出土状況（東から）



SX8 完掘（北から）



SD3 土層断面（北から）



SD4 土層断面（東から）



SD31 土層断面（西から）



SD2 土層断面（北から）



SD5 土層断面（東から）



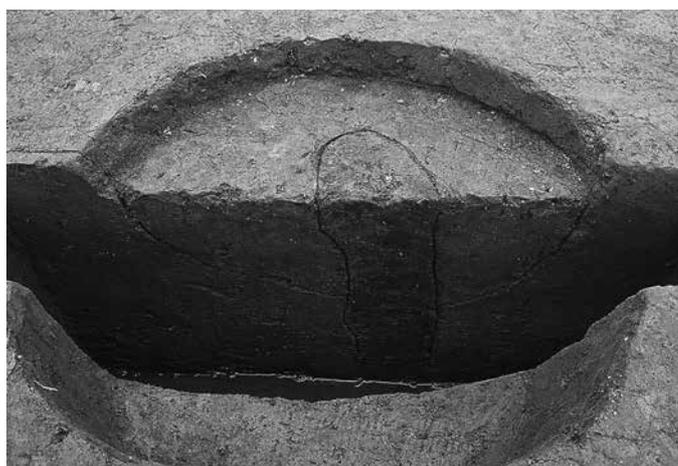
北前田遺跡B地区 全景（南から）



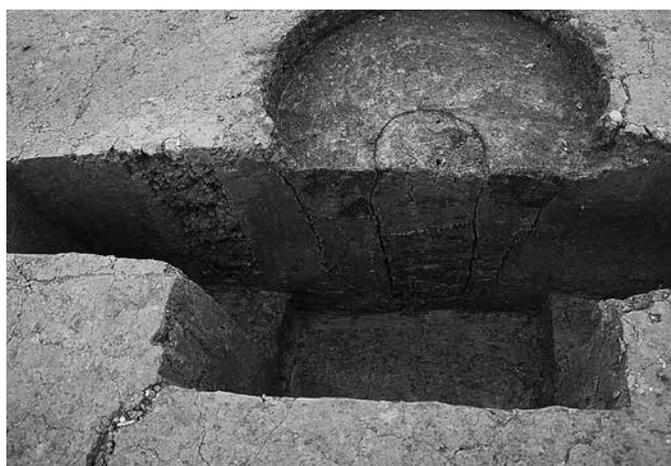
B地区 4R17・18・23 基本層序（南から）



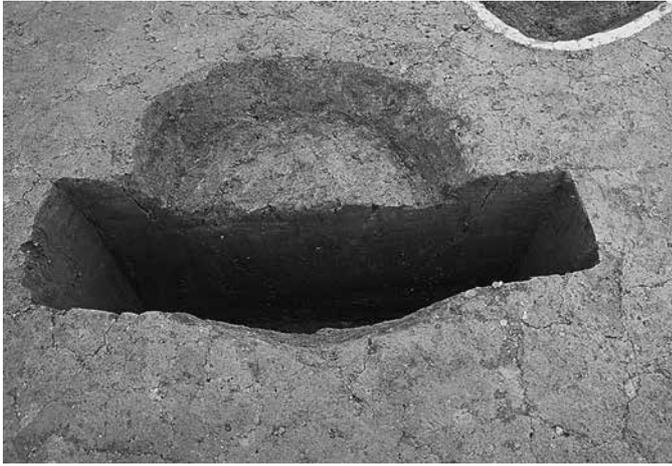
B地区 7P3・7・8 基本層序（南から）



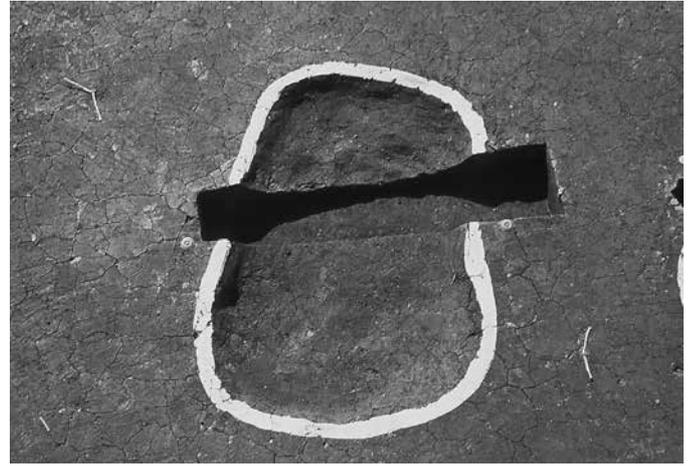
SB98-P63 土層断面（北から）



SB99-P70 土層断面（南から）



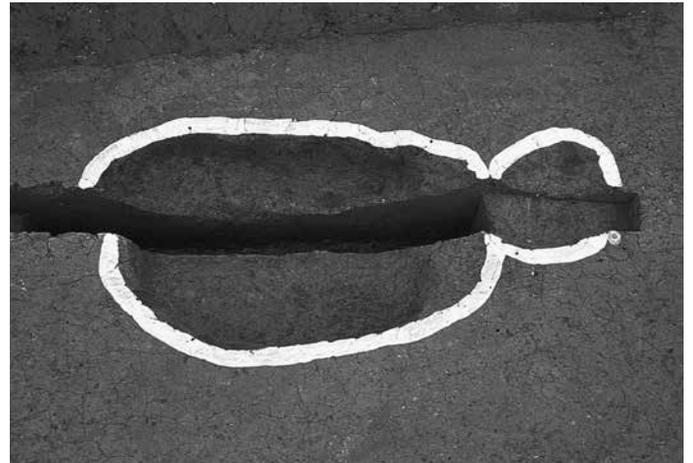
SB100-P80 土層断面 (南から)



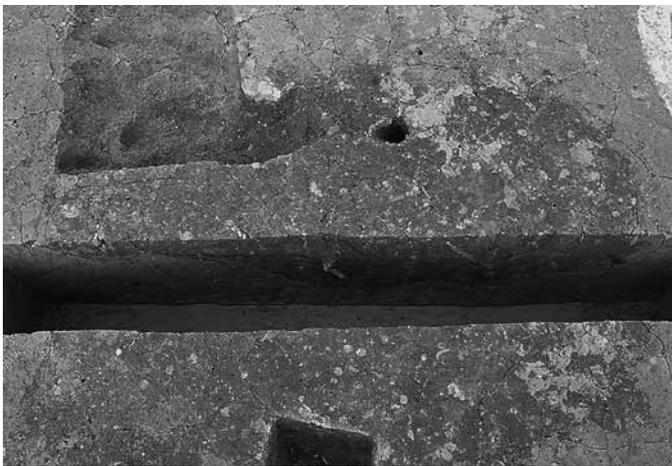
SK57 完掘 (東から)



SK60・P86 土層断面 (南から)



SK60・P86 完掘 (北から)



SK91・SD58 土層断面 (西から)



SK91 完掘 (西から)



SK92・P107 土層断面 (東から)



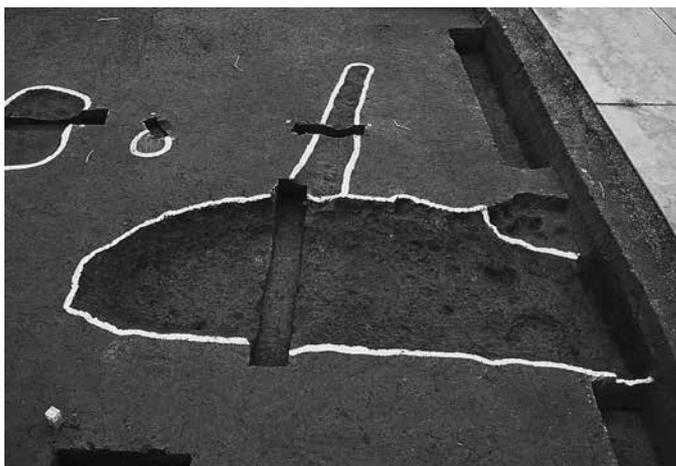
SK105・P106 完掘 (東から)



SX55 土層断面 (南から)



SD54 土層断面 (東から)



SX55 · SD54 完掘 (東から)



SX59 土層断面 (北から)



SX59 完掘 (南から)



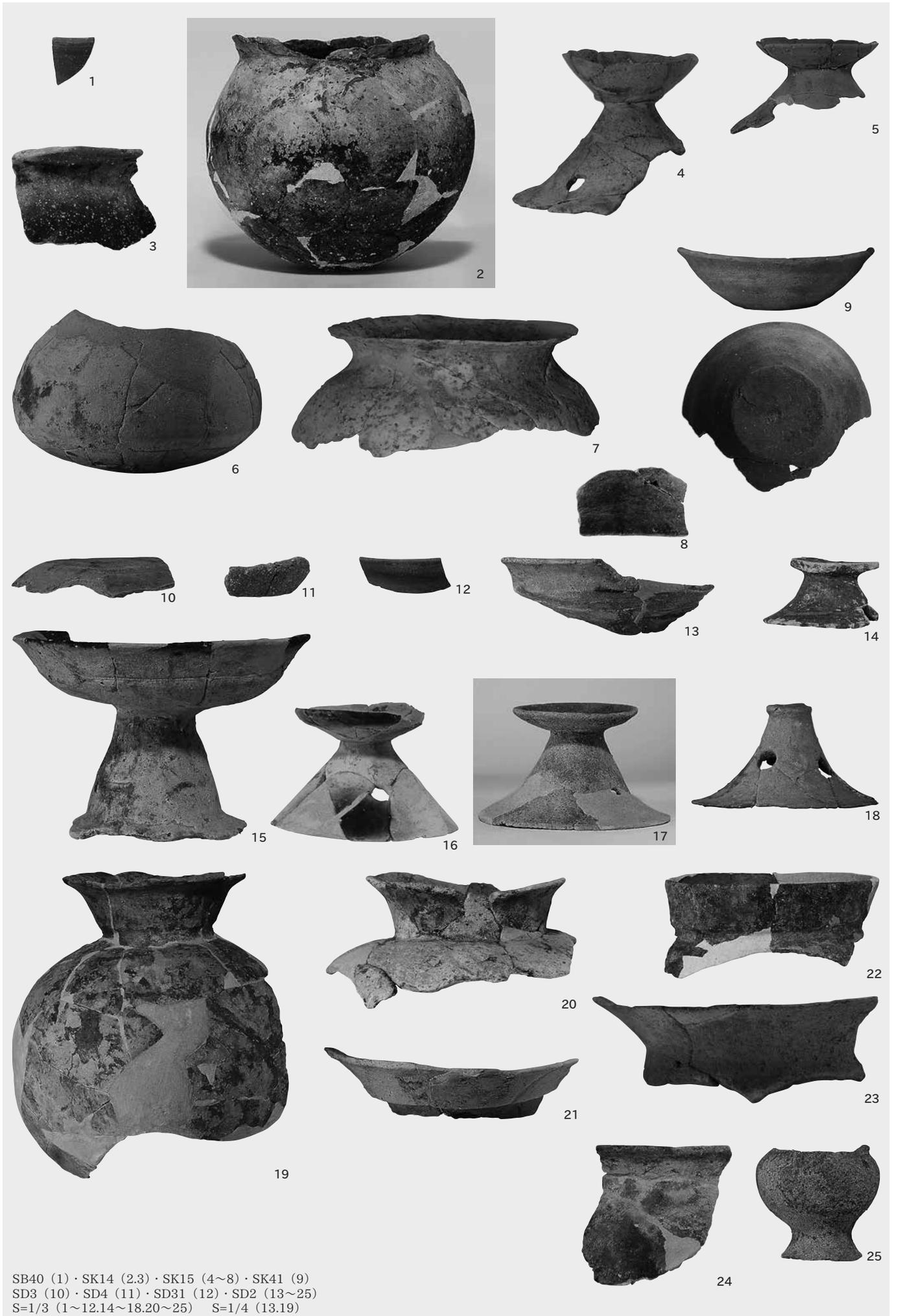
P75 完掘 (西から)



SD51 土層断面 (南から)



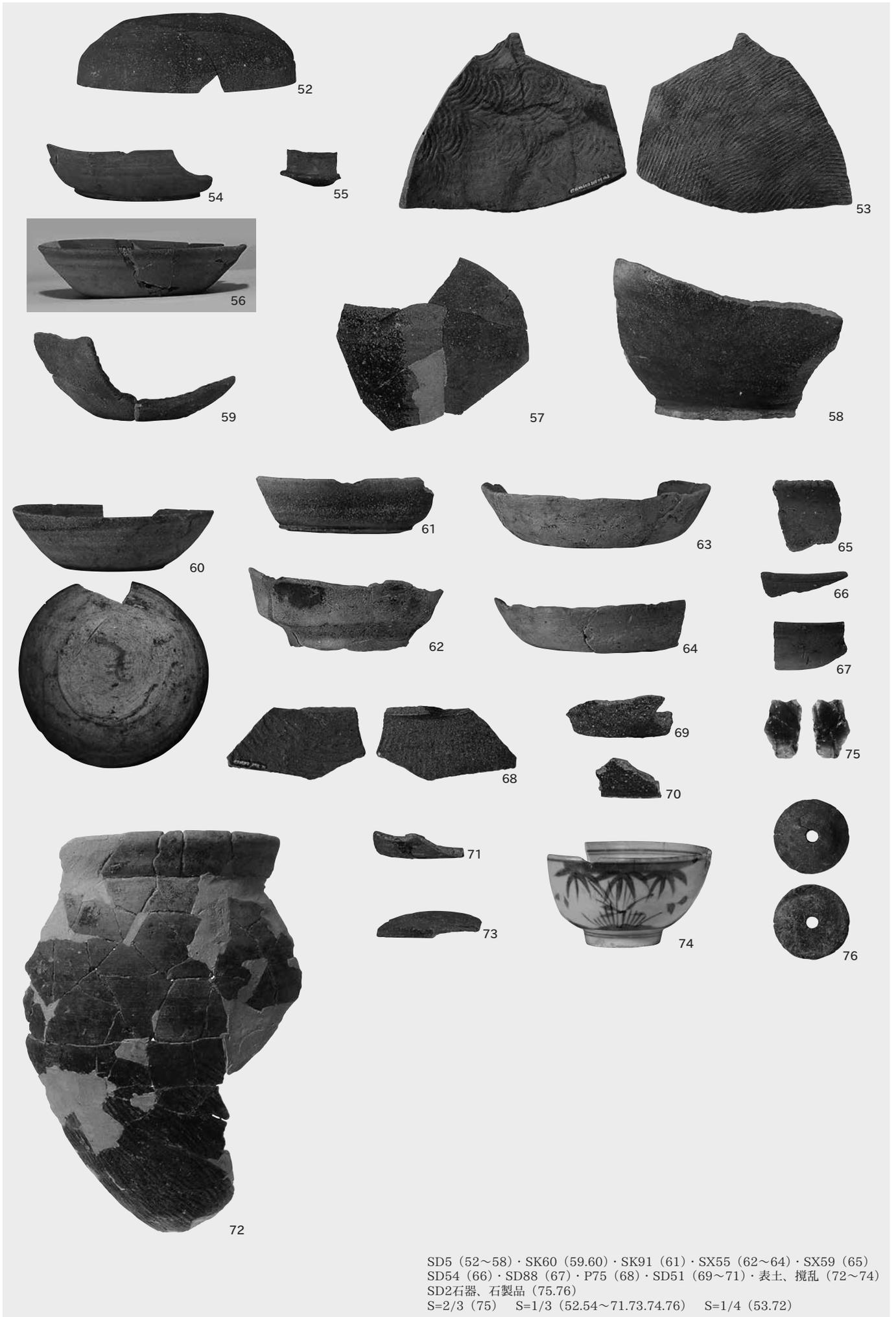
SD51 完掘 (北西から)



SB40 (1)・SK14 (2.3)・SK15 (4~8)・SK41 (9)  
 SD3 (10)・SD4 (11)・SD31 (12)・SD2 (13~25)  
 S=1/3 (1~12.14~18.20~25) S=1/4 (13.19)



SD2 (26~33) · SD5 (34~51)  
 S=1/3 (26~43.45~51)  
 S=1/4 (44)



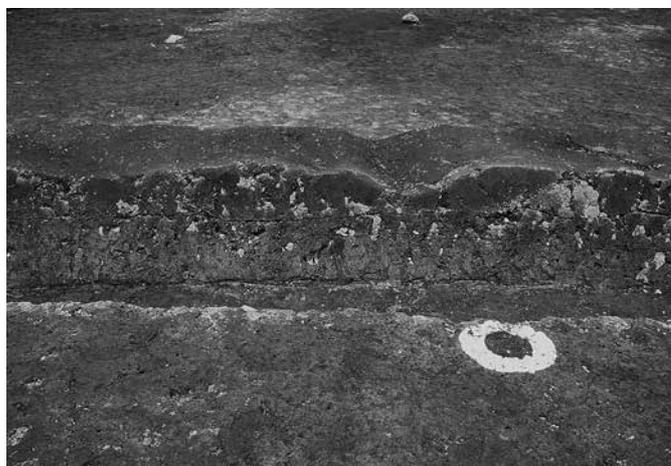
SD5 (52~58)・SK60 (59.60)・SK91 (61)・SX55 (62~64)・SX59 (65)  
 SD54 (66)・SD88 (67)・P75 (68)・SD51 (69~71)・表土、攪乱 (72~74)  
 SD2石器、石製品 (75.76)  
 S=2/3 (75) S=1/3 (52.54~71.73.74.76) S=1/4 (53.72)



北新田遺跡 全景（南西から）



32C16 基本層序（南西から）



29D6 基本層序（南東から）



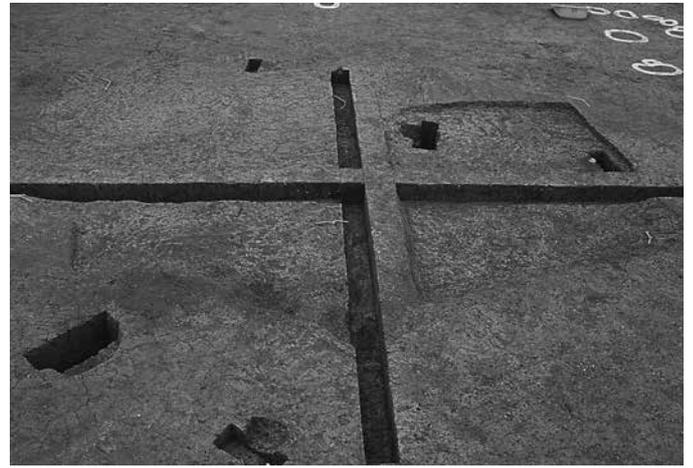
29G5 基本層序（北東から）



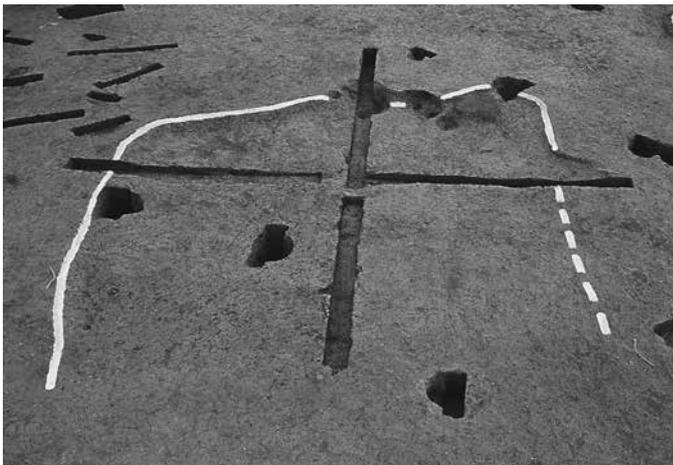
25J17 基本層序（北東から）



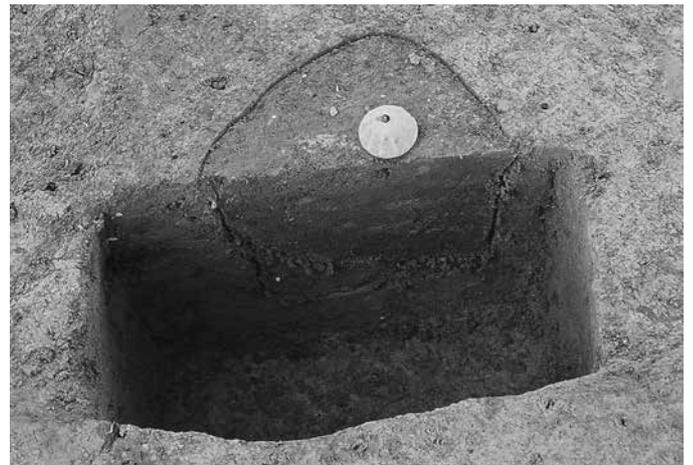
SI1180 土層断面 (南西から)



SI1180 土層断面 (南東から)



SI1180 完掘 (北西から)



P1251 土層断面 (北東から)



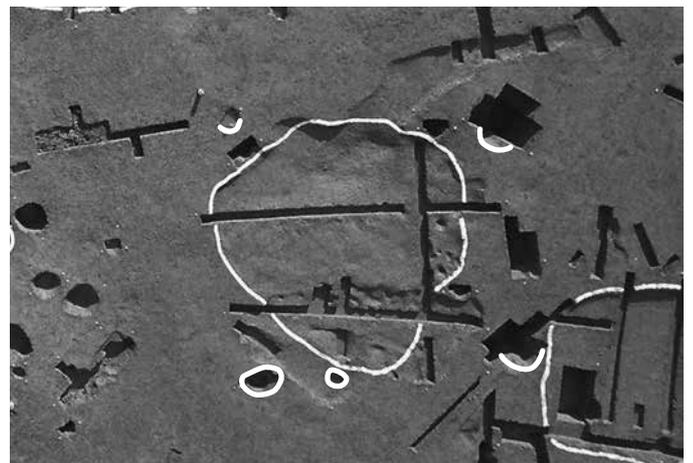
SX1268-P1275 土層断面 (南西から)



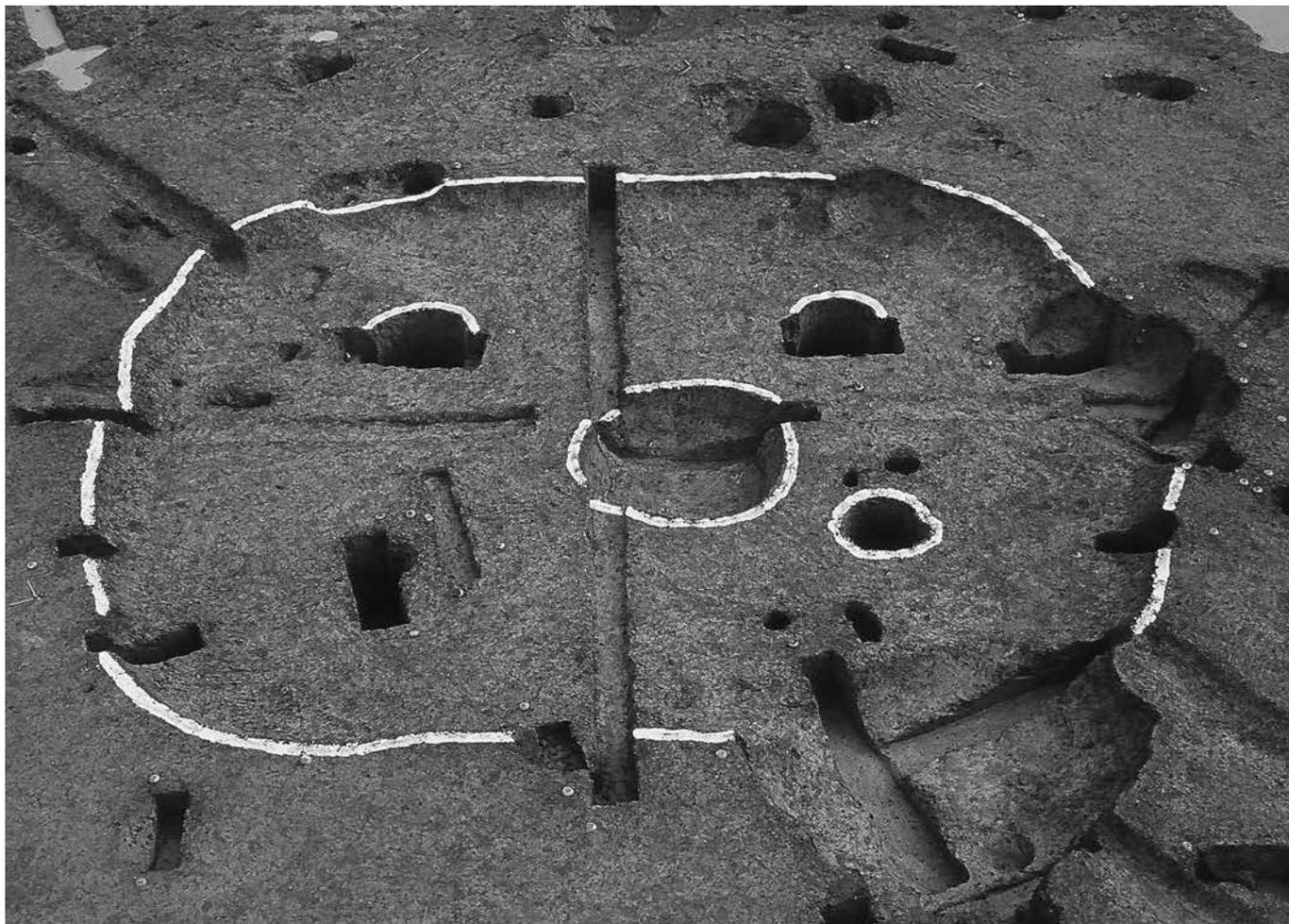
SX1268-P1275 完掘 (北東から)



SX1268-P1274 土層断面 (南東から)



SX1268 完掘 (北から)



SI1058 完掘 (北西から)



SI1058 土層断面 (南西から)



SI1058-SK1255 土層断面 (南東から)



SI1058-P1259 土層断面 (北西から)



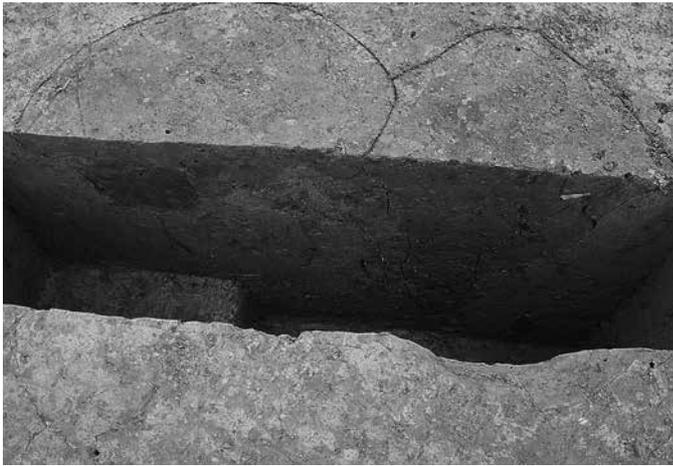
SI1058-P1260 土層断面 (北西から)



SI1058 カマド遺物出土状況（北西から）



SI1058 カマド完掘（北西から）



SI1185-P1055 土層断面（南西から）



SI1185-P1254 土層断面（南から）



SI1185 カマド完掘（西から）



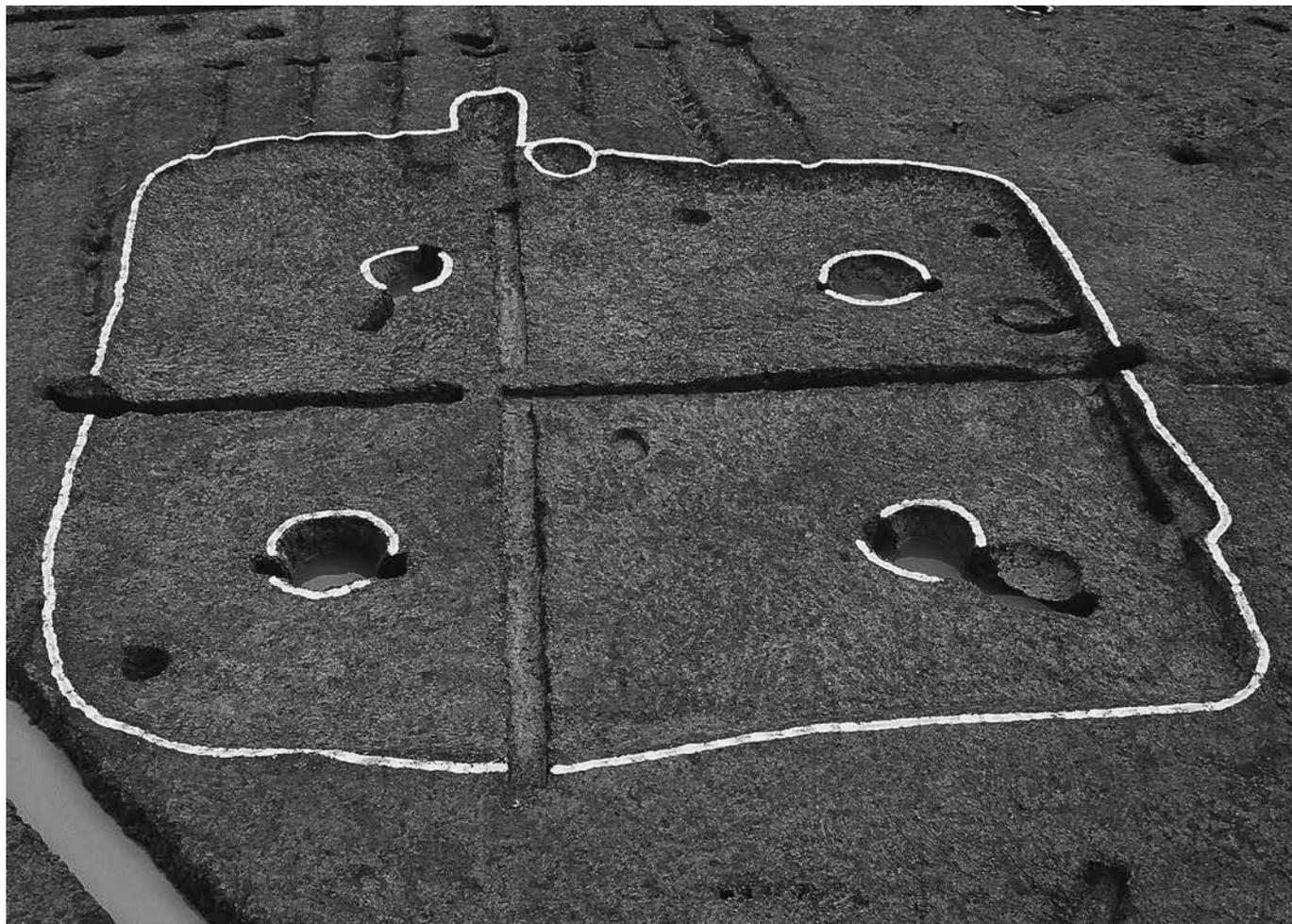
SI1185 完掘（西から）



SI1166 土層断面（西から）



SI1166 完掘（西から）



SI570 完掘 (西から)



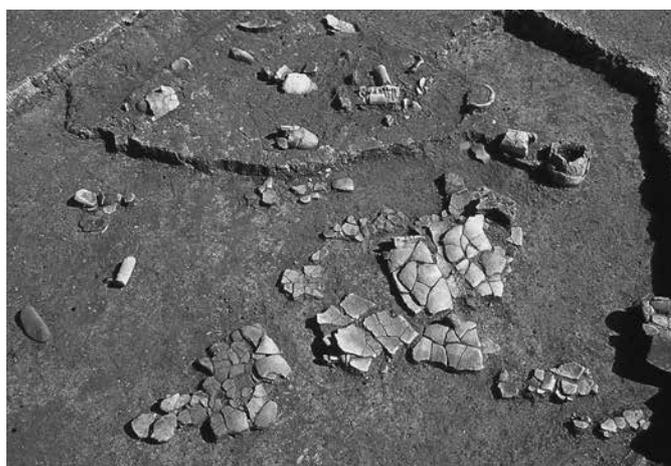
SI570 土層断面 (西から)



SI570-P816 土層断面 (南西から)



SI570-P820 土層断面 (南から)



SI570 遺物出土状況 (南西から)



SI570 遺物出土状況 (南西から)



SI570 カマド検出状況 (西から)



SI570 カマド煙道部土層断面 (西から)



SI570 カマド完掘 (西から)



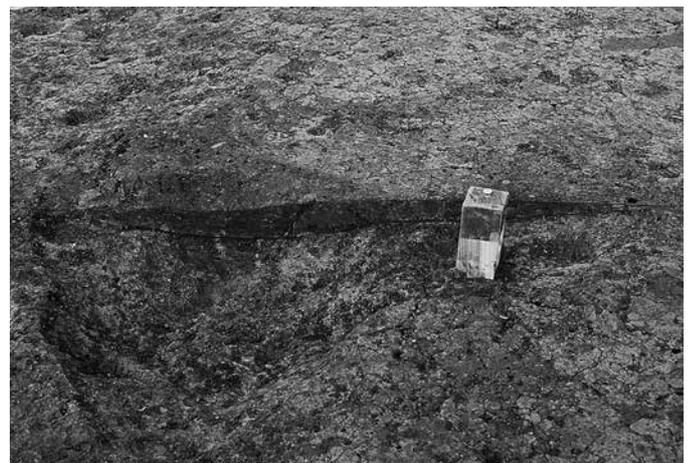
SI1403 土層断面 (東から)



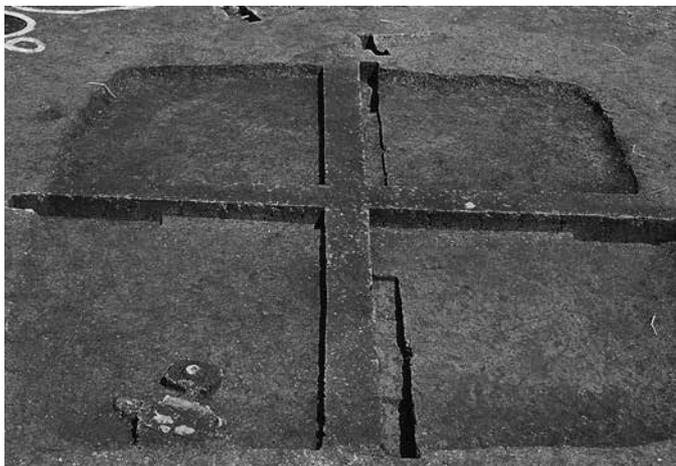
SI1403 完掘 (南から)



SX1418 土層断面 (西から)



SX1419 土層断面 (南から)



SI601 土層断面 (南西から)



SI601 炉検出状況 (南東から)



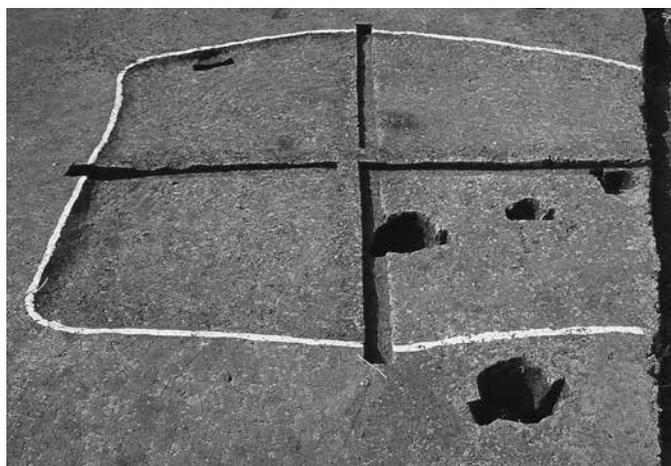
SI601 完掘 (南東から)



SI833 土層断面 (東から)



SI833-SX843 土層断面 (南から)



SI833 完掘 (東から)



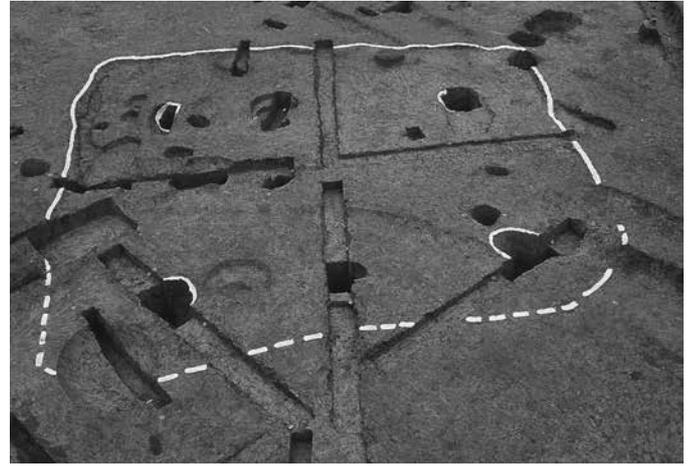
SI1053 土層断面 (南西から)



SI1053-P1175 土層断面 (南西から)



SI1053-P1176 土層断面 (北から)



SI1053 完掘 (北西から)



SI1054 土層断面 (東から)



SI1054 完掘 (北から)



SI930 土層断面 (東から)



SI930 土層断面 (南から)



SI930 カマド土層断面 (西から)



SI930 完掘 (西から)



SI931 土層断面 (南から)



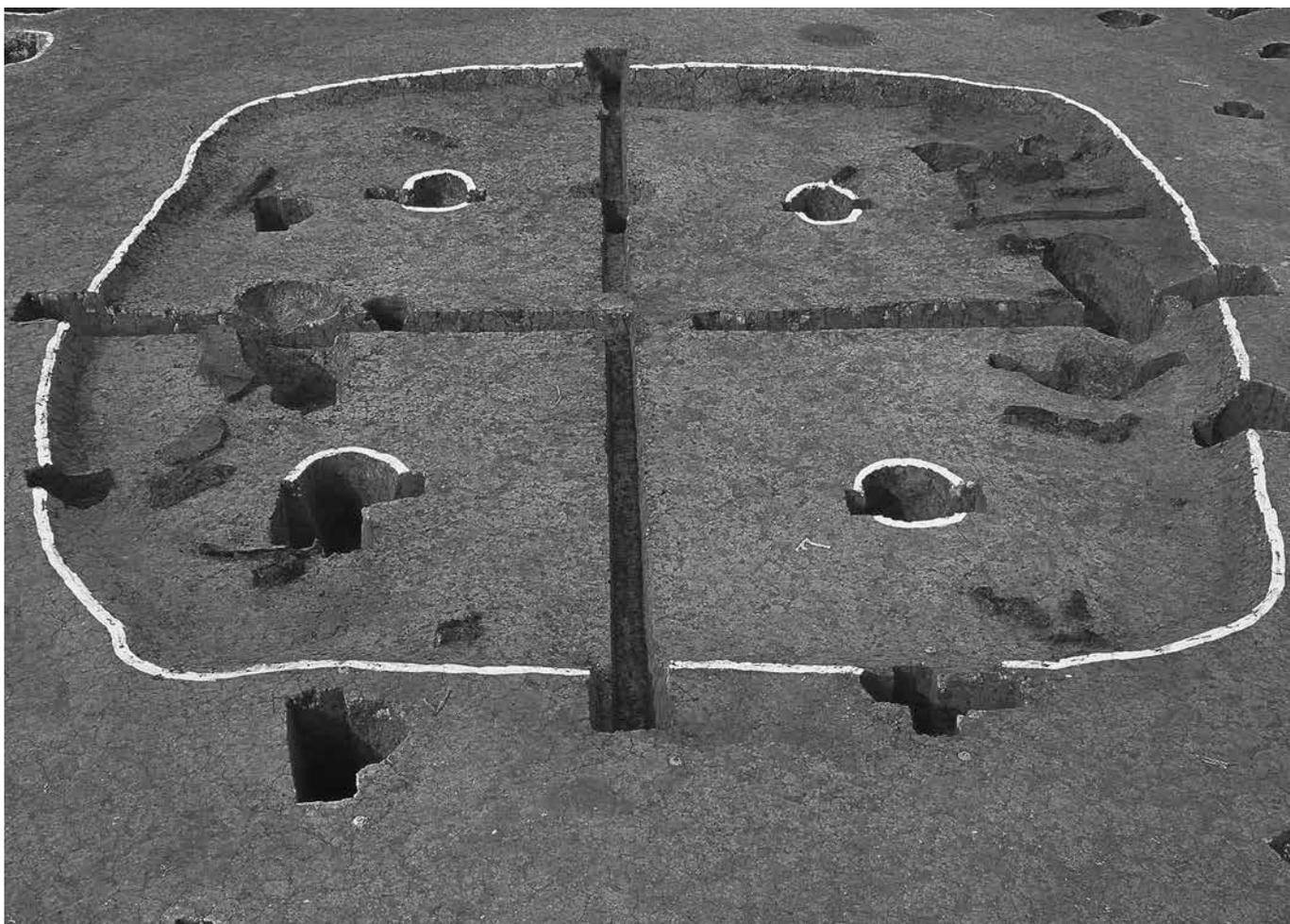
SI931 カマド検出状況 (西から)



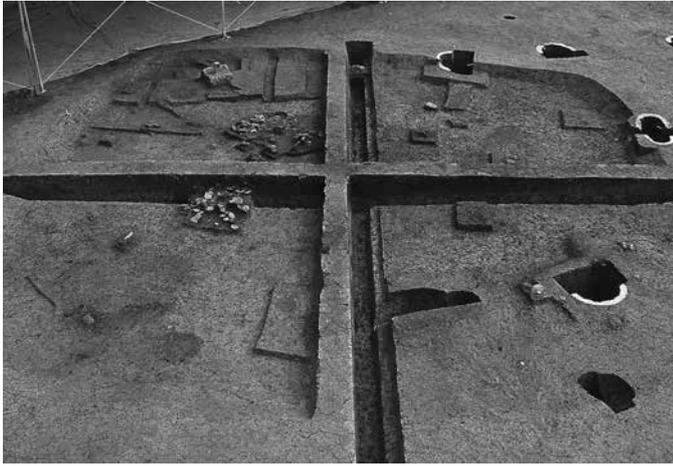
SI931 カマド土層断面 (南から)



SI931 完掘 (西から)



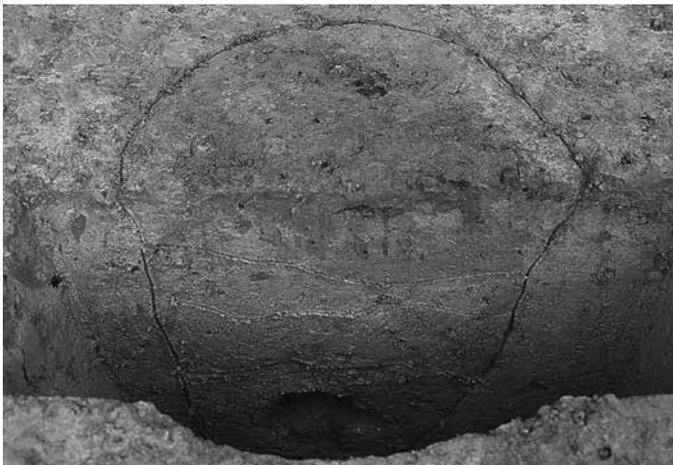
SI201 完掘 (南から)



SI201 土層断面 (西から)



SI201 土層断面 (南から)



SI201-P904 土層断面 (南から)



SI201 遺物出土状況 (西から)



SI202 土層断面 (東から)



SI202 土層断面 (南から)



SI202 遺物出土状況 (南から)



SI202 カマド土層断面 (南から)



S1202 カマド遺物出土状況 (南から)



S1202・SK297 完掘 (西から)



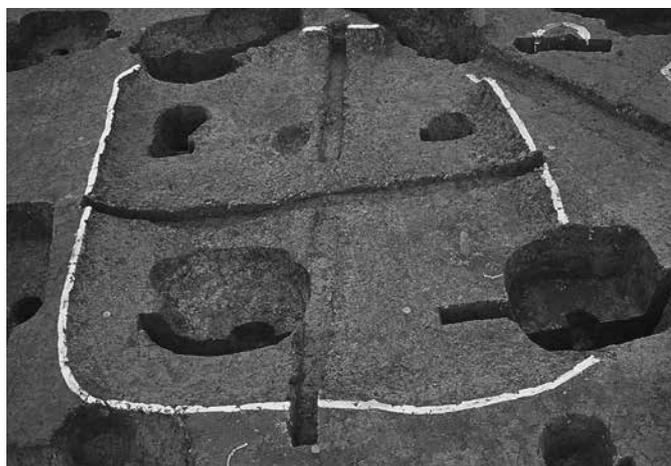
S1811-P891 土層断面 (南から)



S1871-P892 土層断面 (南から)



S1871 土層断面 (西から)



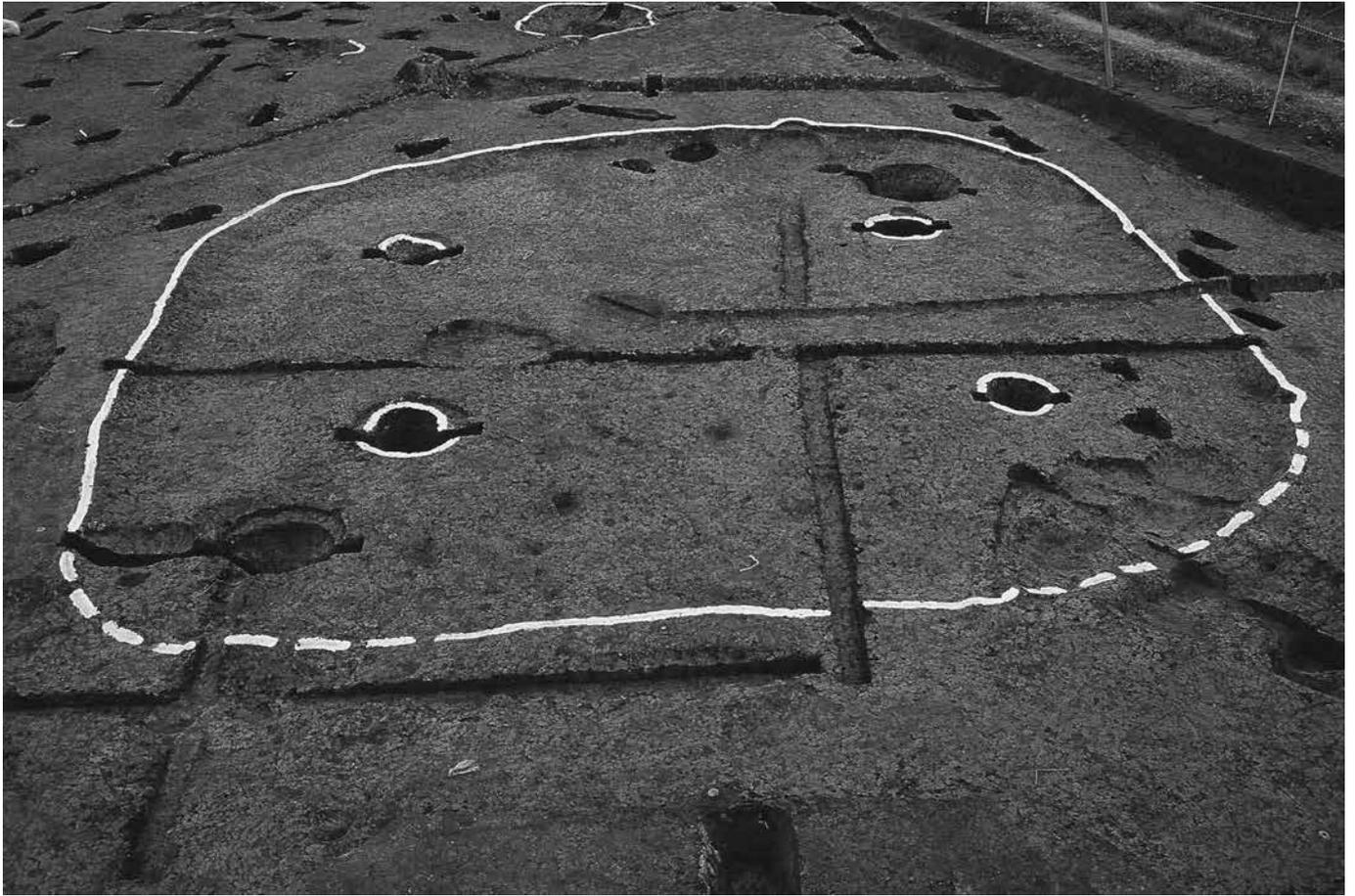
S1871 完掘 (南から)



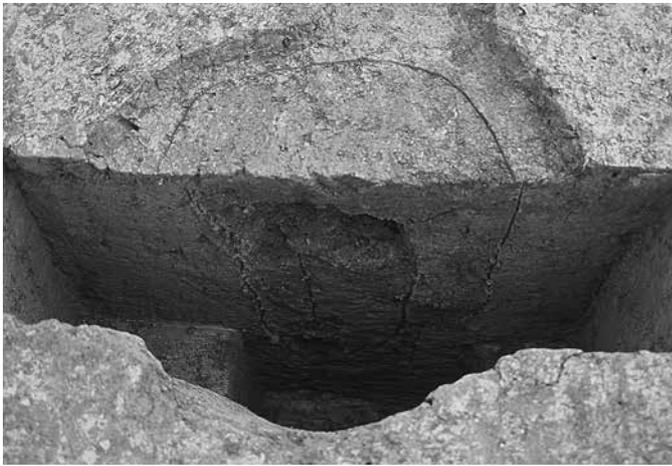
S1469 土層断面 (南から)



S1469 完掘 (西から)



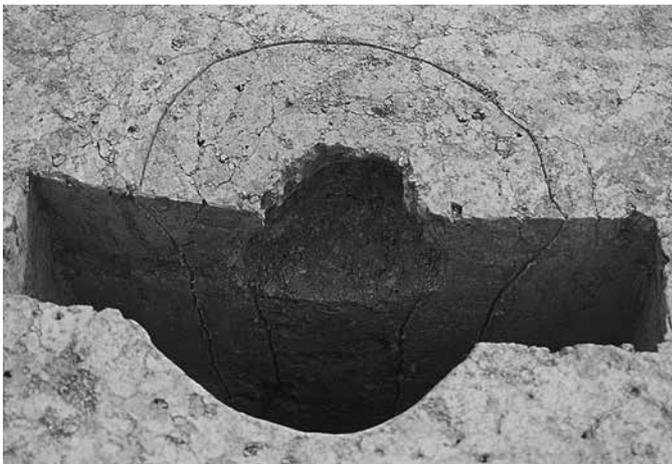
S1848 完掘 (西から)



S1848-P860 土層断面 (西から)



S1848-P861 土層断面 (西から)



S1848-P862 土層断面 (西から)



S1848 カマド周辺遺物出土状況 (西から)



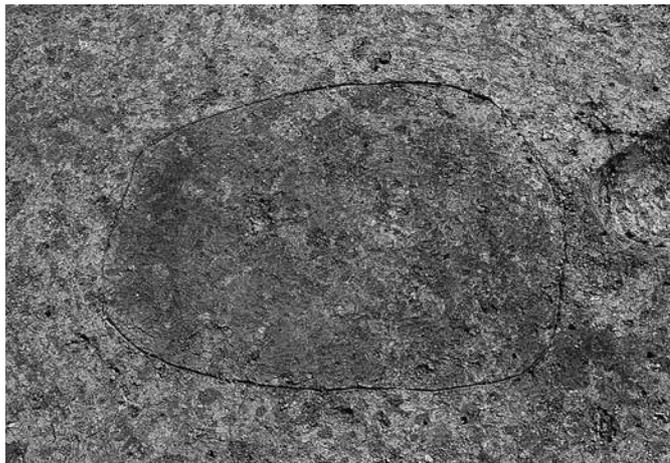
SI848 カマド検出状況（西から）



SI848 カマド土層断面（西から）



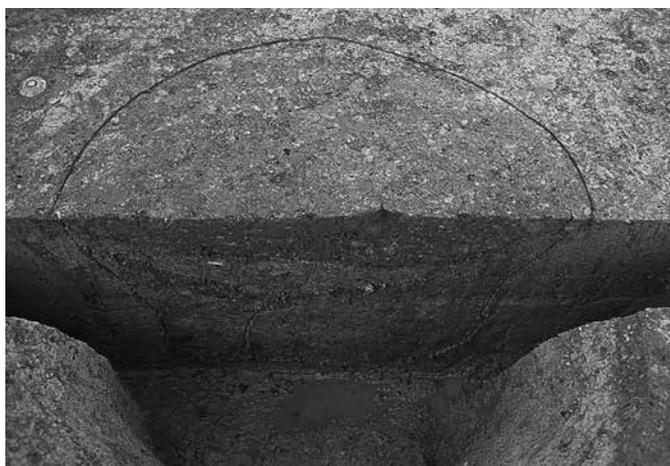
SI848 カマド完掘（西から）



SI848 炉検出状況（西から）



SI848 炉土層断面（西から）



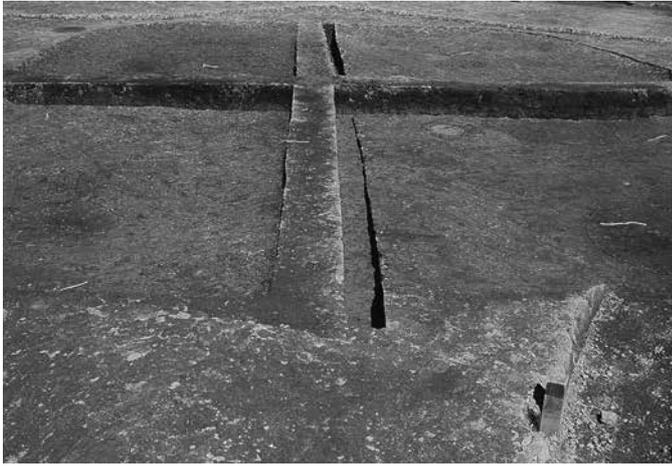
SI848-SK887 土層断面（西から）



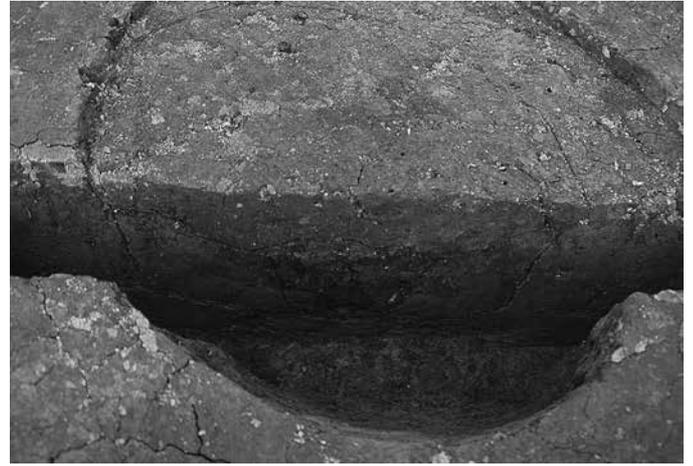
SI847 土層断面（北西から）



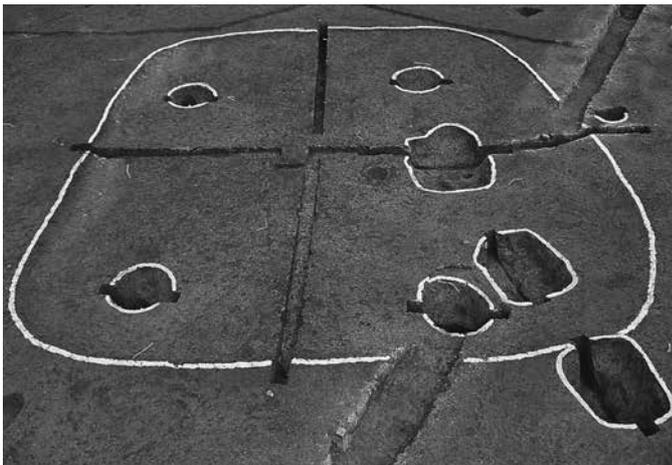
SI847 完掘（南から）



SI825 土層断面 (南から)



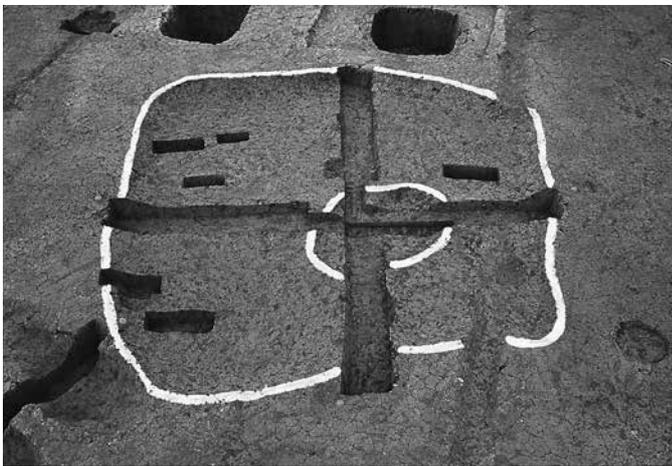
SI825-P830 土層断面 (南から)



SI825 完掘 (南から)



SI1201 土層断面 (南から)



SI1201 完掘 (西から)



SI203-P360 土層断面 (南西から)



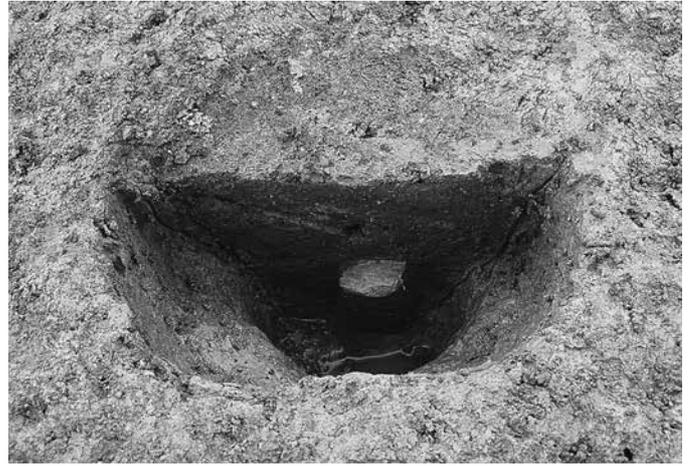
SI203-P364 土層断面 (南西から)



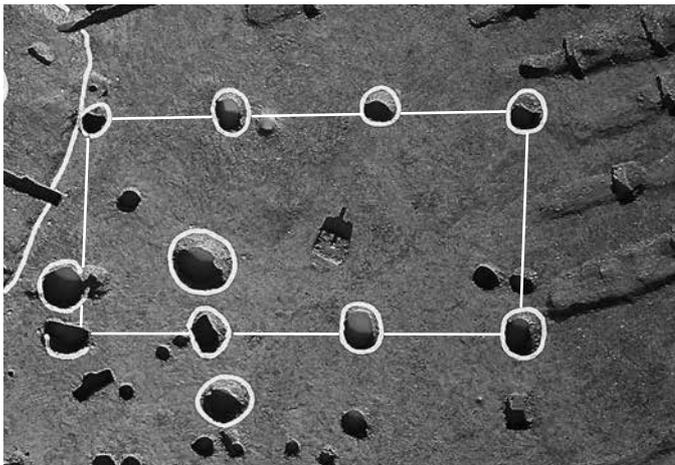
SI203 完掘 (西から)



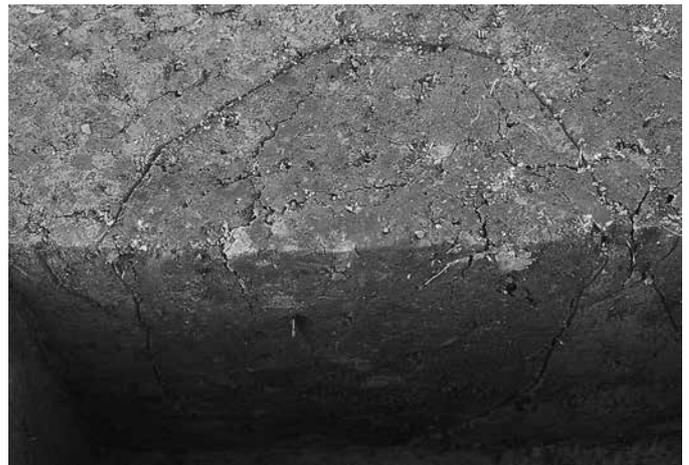
SB622-P624 土層断面 (東から)



SB622-P628 土層断面 (北から)



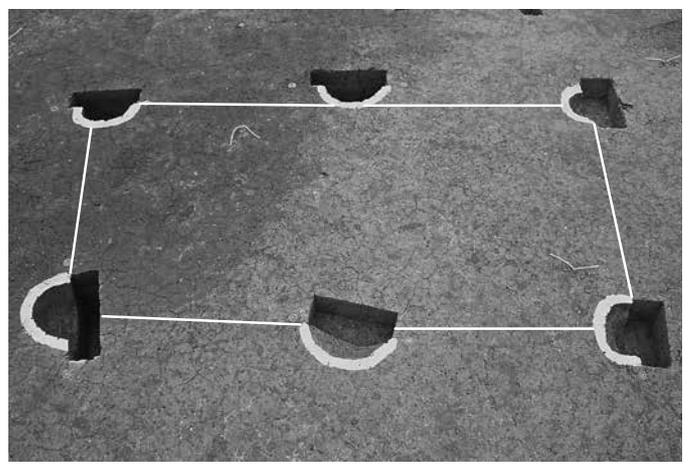
SB622 完掘 (南から)



SB1172-P1084 土層断面 (南から)



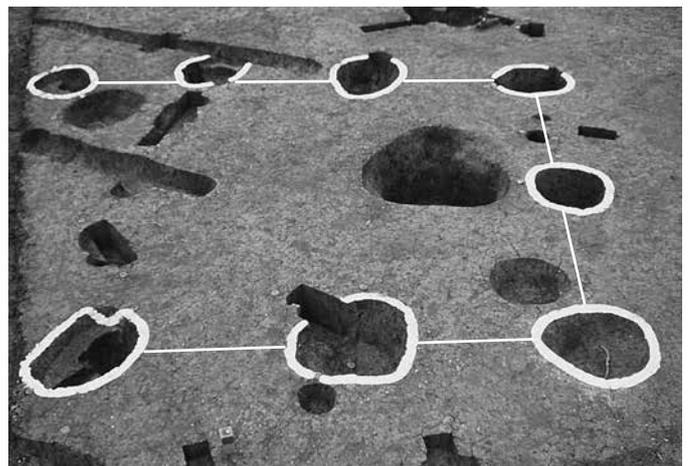
SB1172-P1085 土層断面 (西から)



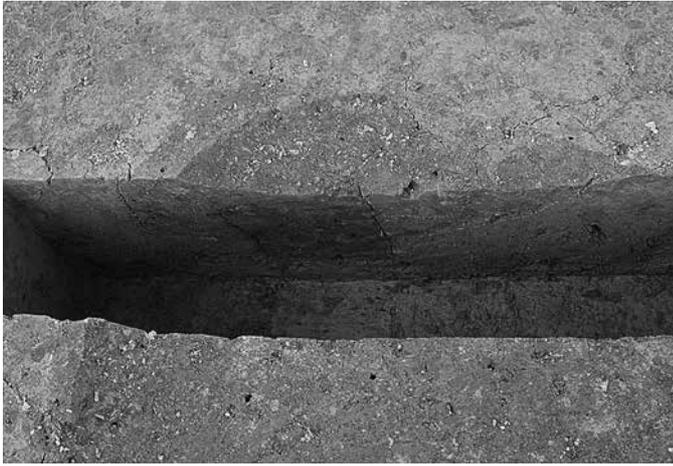
SB1172 完掘 (北から)



SB1171-P1088 土層断面 (西から)



SB1171 完掘 (北から)



SB1042-P1061 土層断面 (南から)



SB1042-P1062 土層断面 (北から)



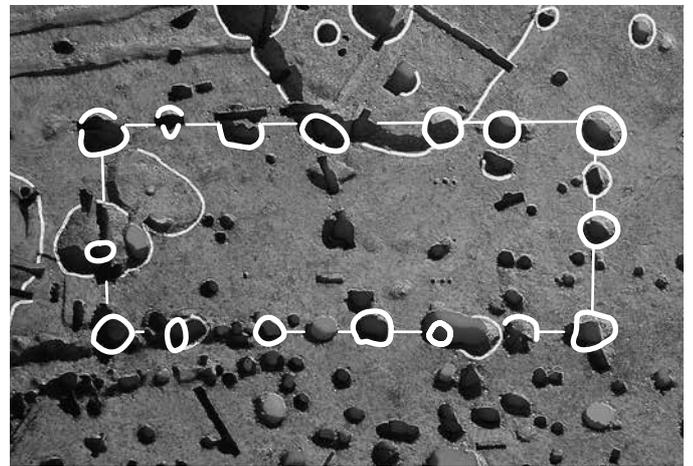
SB1042-P1076 土層断面 (南東から)



SB1042-P1113 · SK1059 土層断面 (東から)



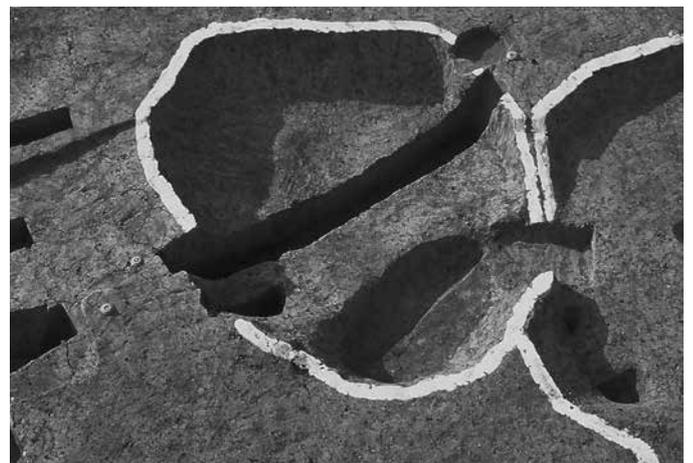
SB1042-P1115 土層断面 (北西から)



SB1042 完掘 (南から)



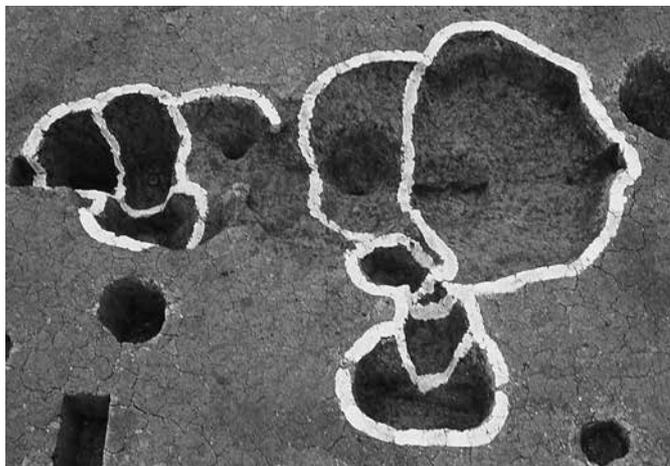
SK1112 土層断面 (西から)



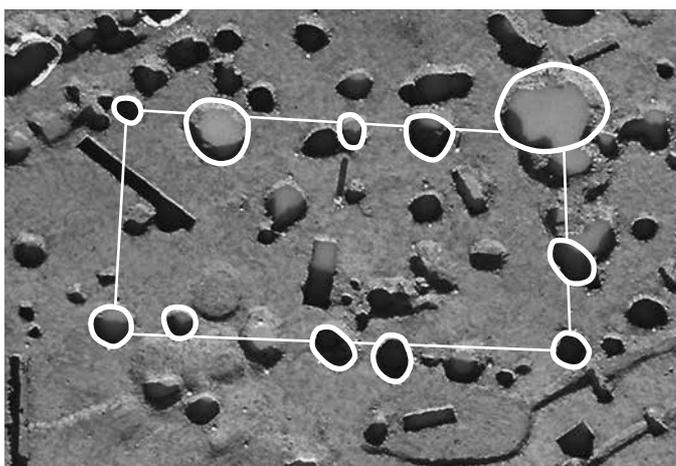
SK1059 完掘 (南から)



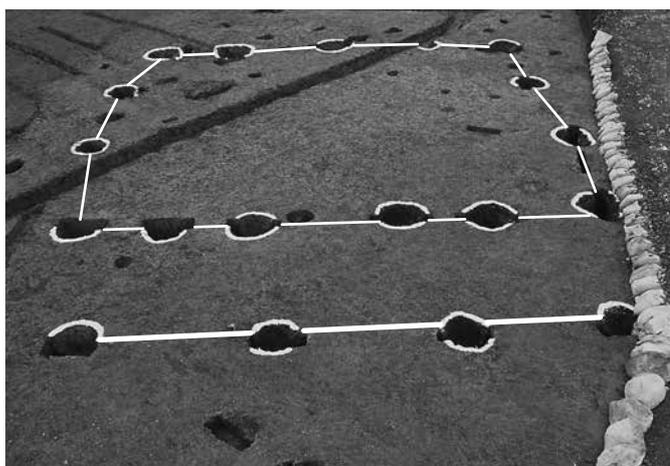
P738・746～748・765・SK750 土層断面（東から）



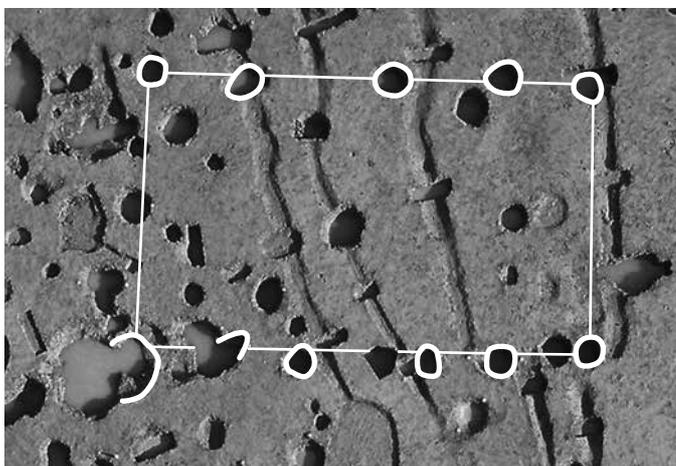
P738・739・746～749・751・765・SK750 完掘（東から）



SB1298 完掘（南から）



SB1460 完掘（南東から）



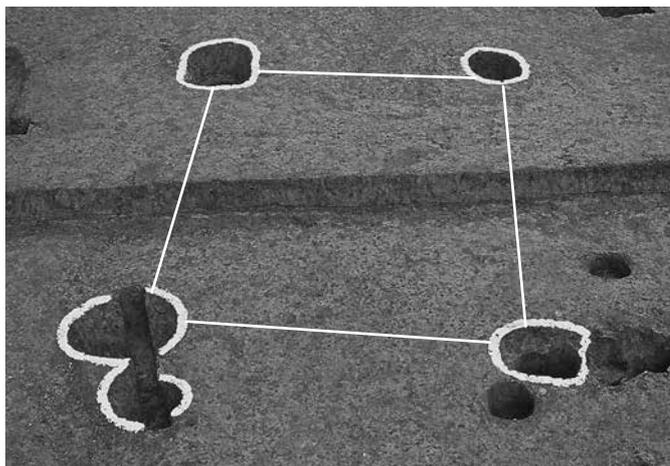
SB1297 完掘（西から）



SB1484-P1468 土層断面（南から）



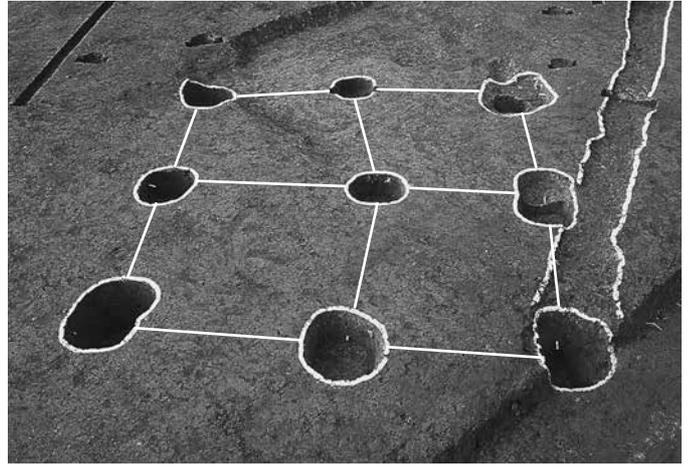
SB1484-P1478 土層断面（南から）



SB1484 完掘（西から）



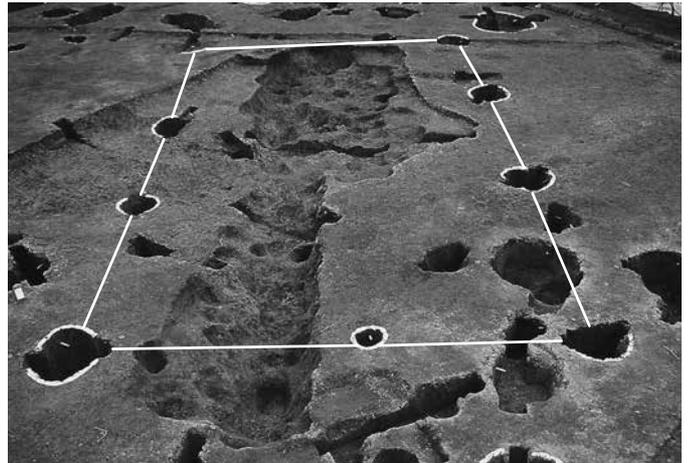
SB1408-P1417 土層断面 (南から)



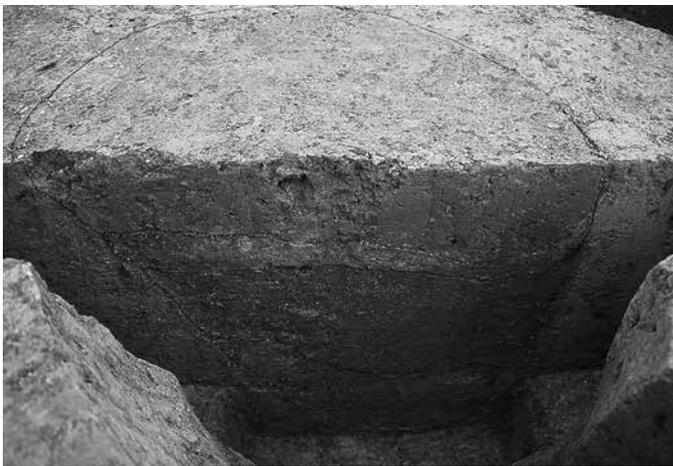
SB1408 完掘 (南から)



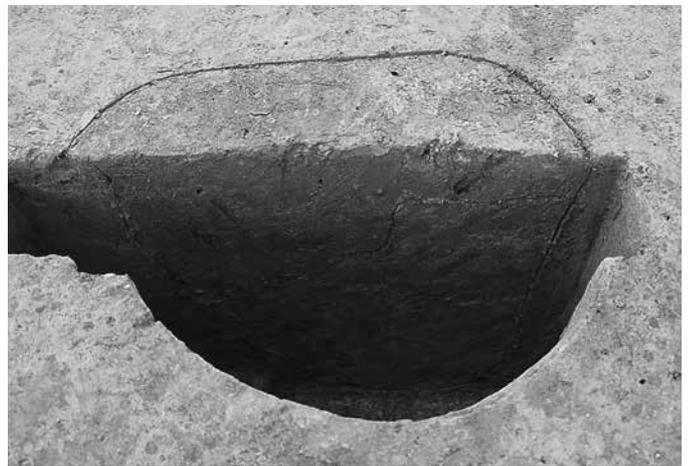
SB811-P530 土層断面 (北西から)



SB811 完掘 (北から)



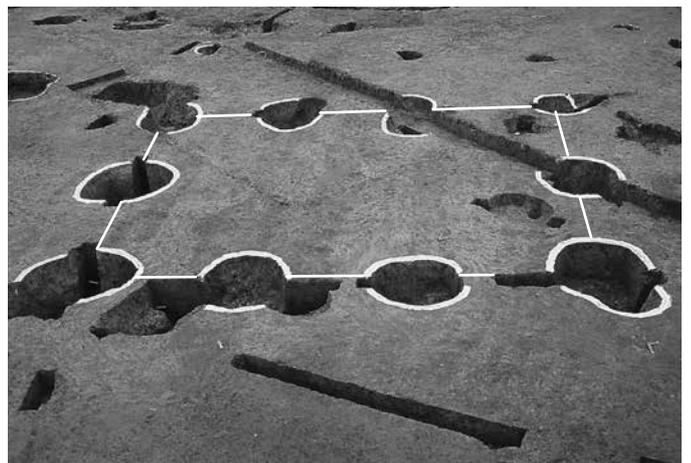
SB928-P920 土層断面 (南から)



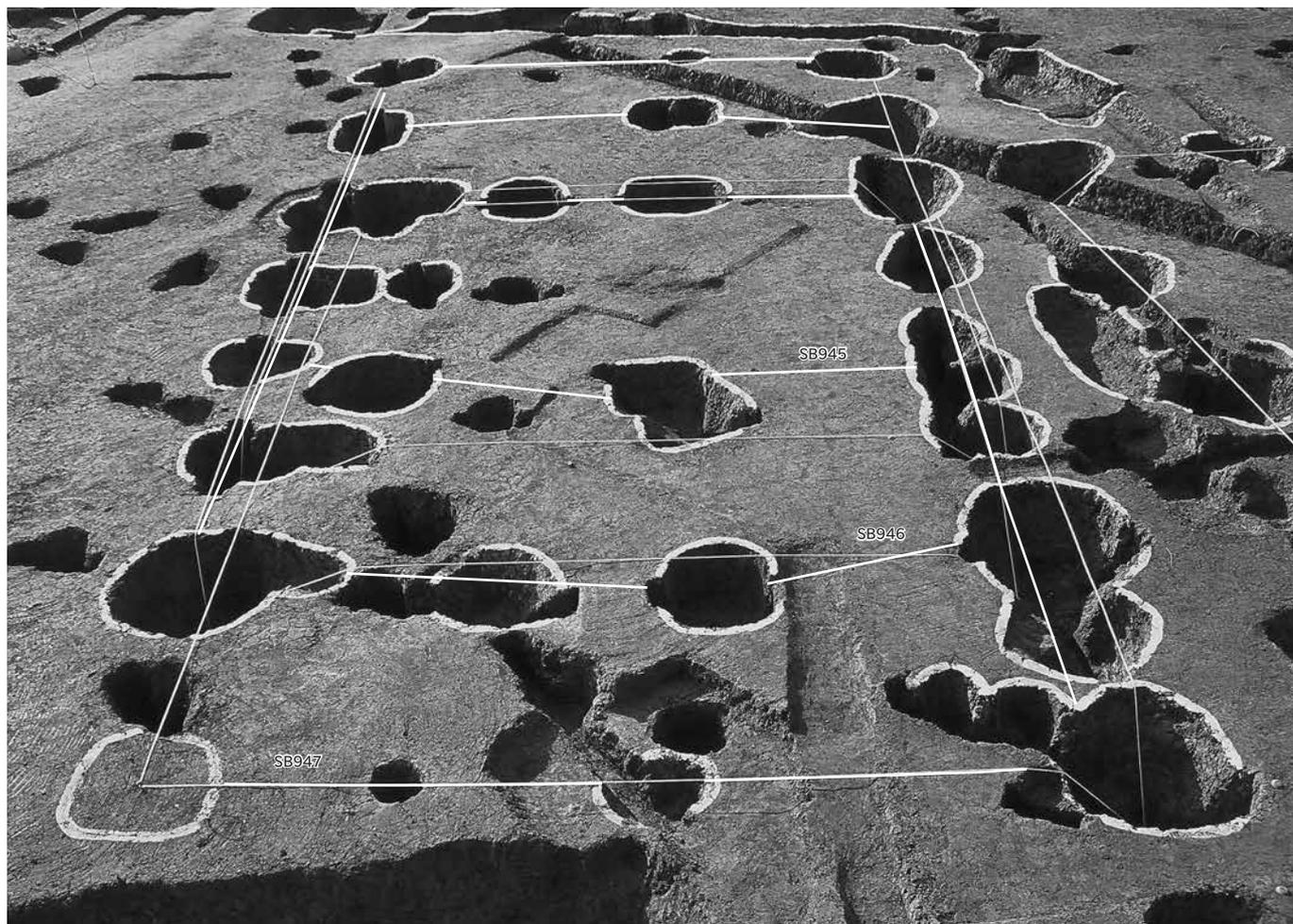
SB928-P924 土層断面 (東から)



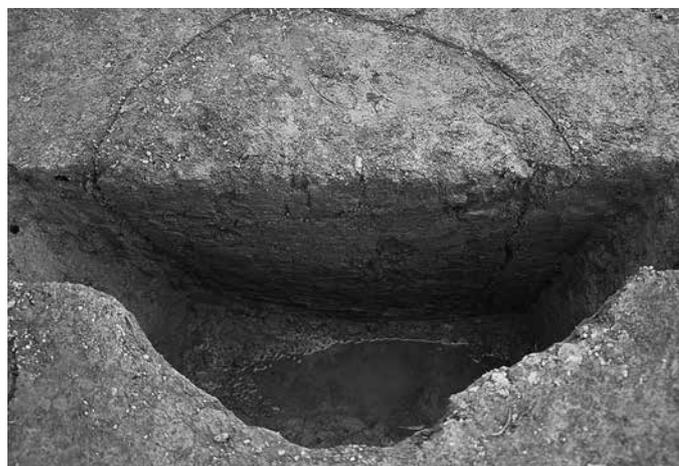
SB928-P925 土層断面 (東から)



SB928 完掘 (東から)



SB945・946・947 完掘（東から）



SB945-P539 土層断面（南西から）



SB945-P788 土層断面（西から）



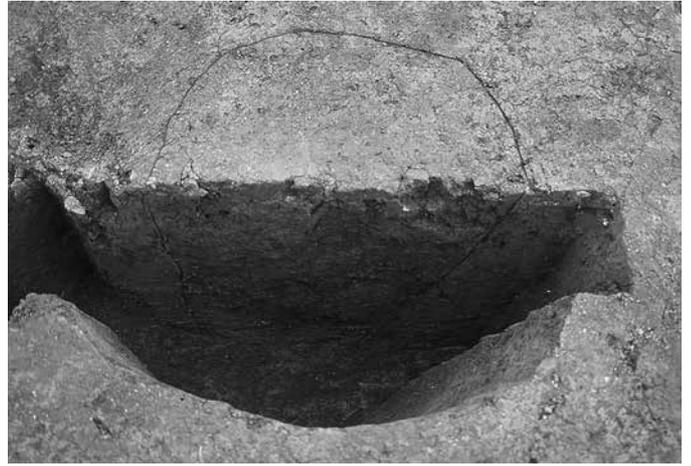
SB946-P543 土層断面（東から）



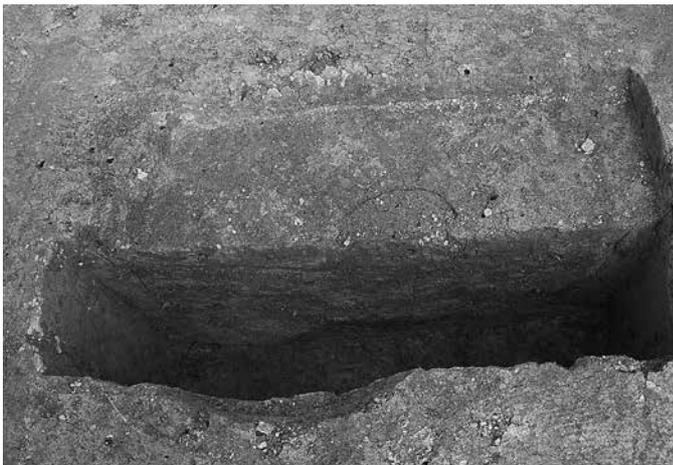
SB946-P587 土層断面（南から）



SB947-P537 土層断面 (東から)



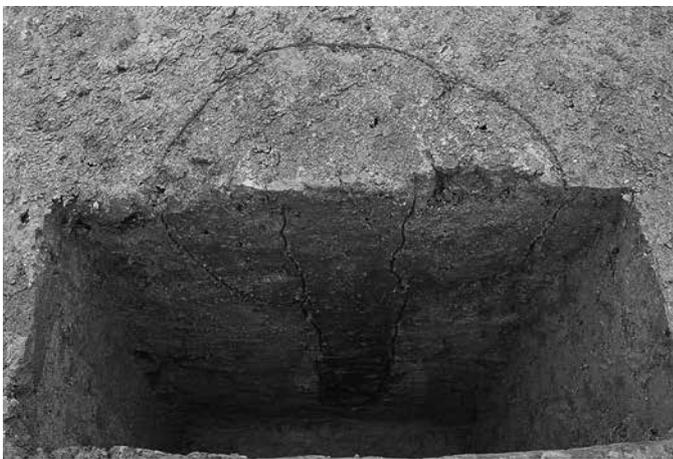
SB947-P949 土層断面 (南から)



SB948-P780 土層断面 (南から)



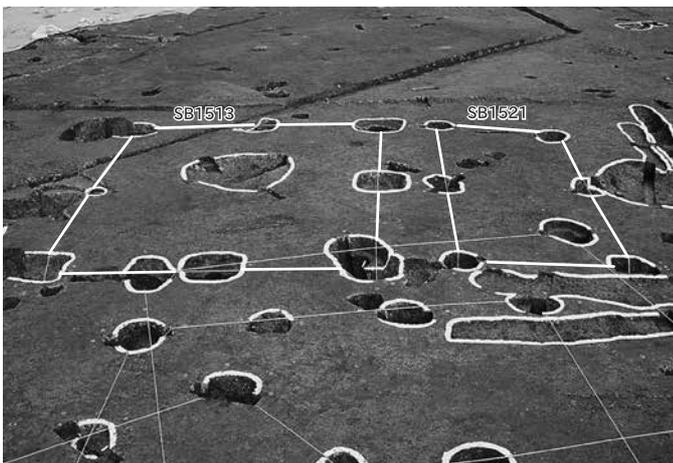
SB948 完掘 (東から)



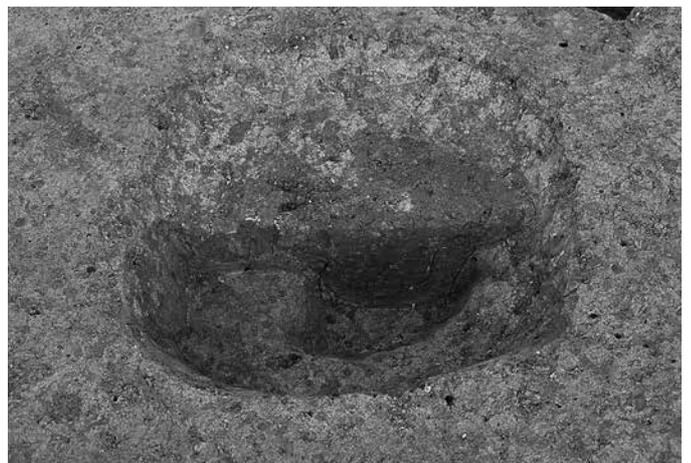
SB1240-P1210 土層断面 (東から)



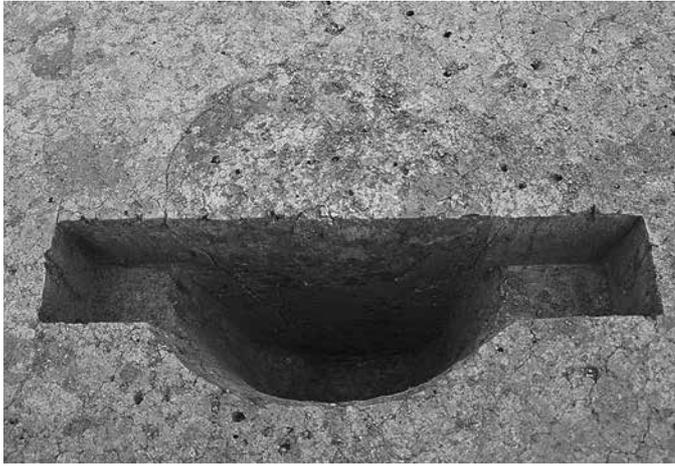
SB1240 完掘 (南から)



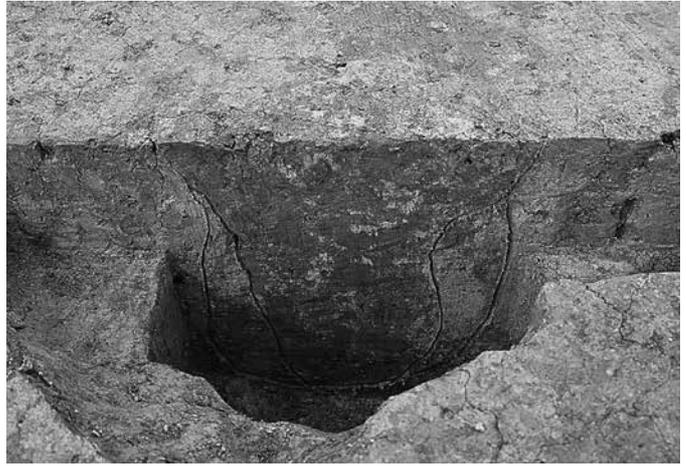
SB1513・1521 完掘 (南から)



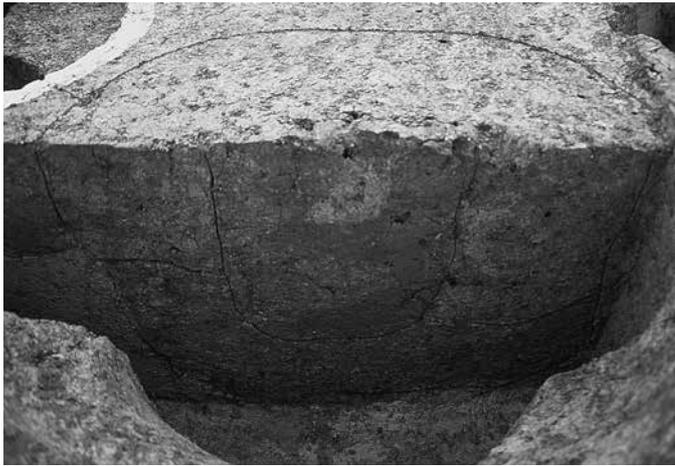
SB1513-P1516 土層断面 (南から)



SB1521-P1525 土層断面 (南から)



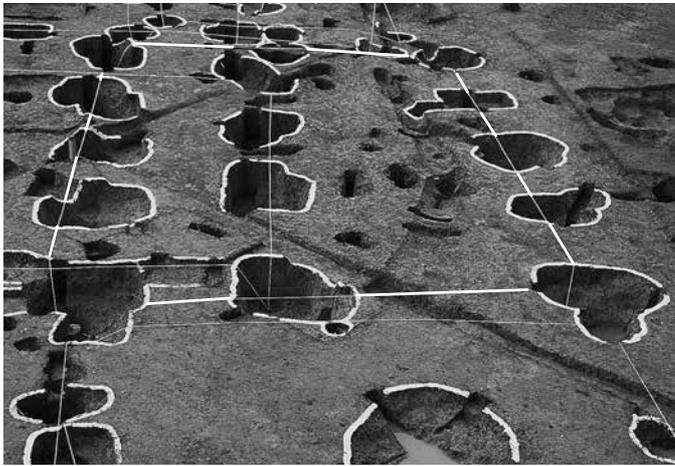
SB1521-P1526 土層断面 (南から)



SB938-P909 土層断面 (東から)



SB938-P1538 土層断面 (南から)



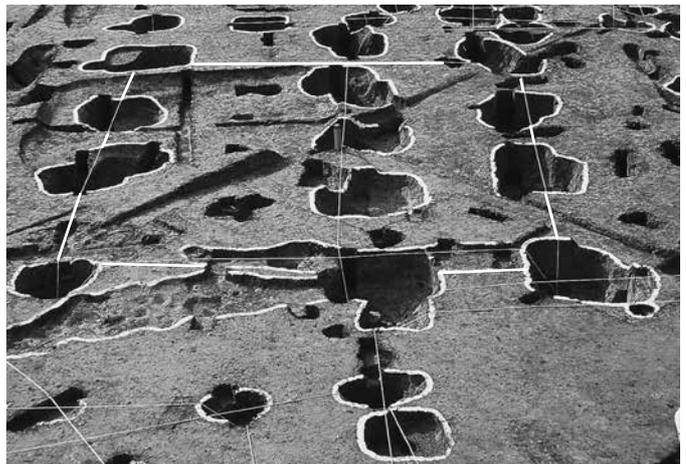
SB938 完掘 (東から)



SB937-P441・442 土層断面 (南から)



SB937-P896 土層断面 (南から)



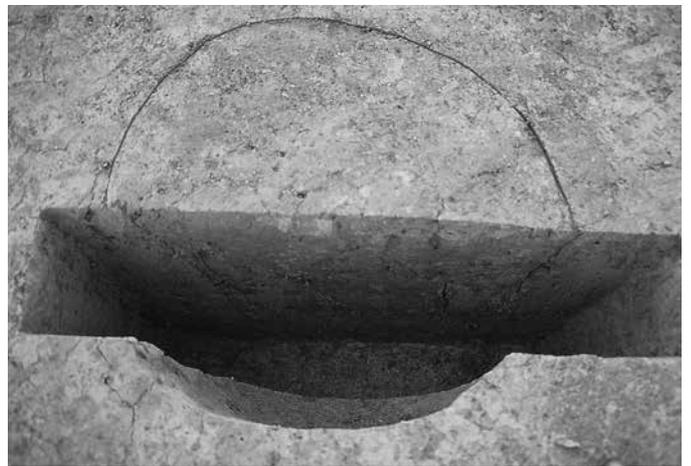
SB937 完掘 (東から)



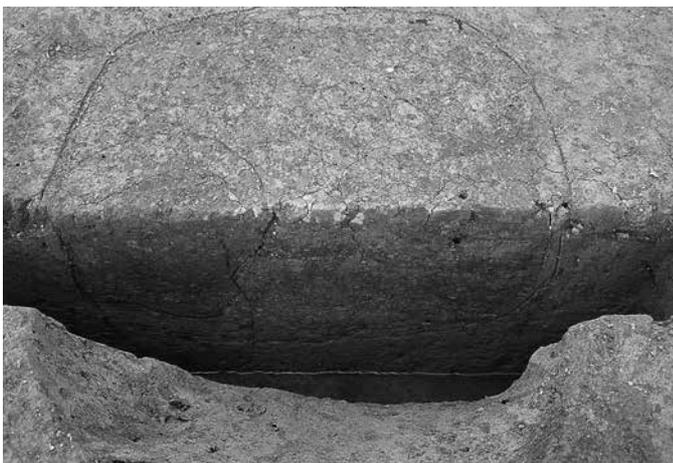
SB935・936 完掘（東から）



SB936-P912 土層断面（東から）



SB935-P911 土層断面（東から）



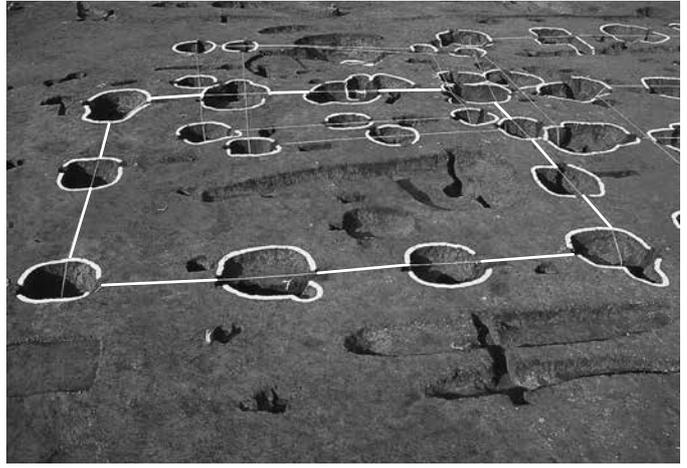
SB884-P873 土層断面（南から）



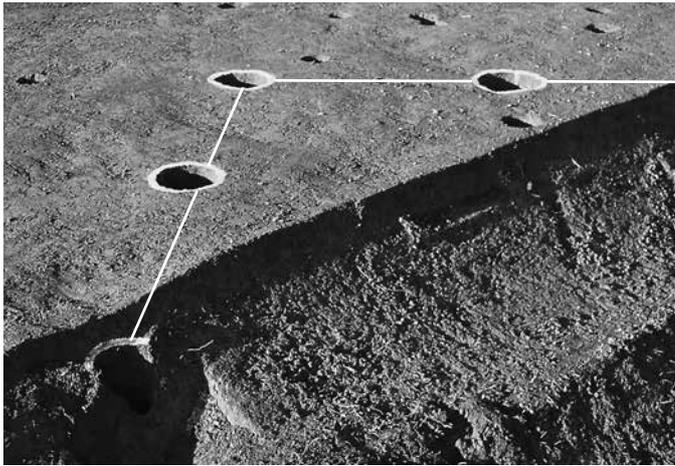
SB884-P874 土層断面（南から）



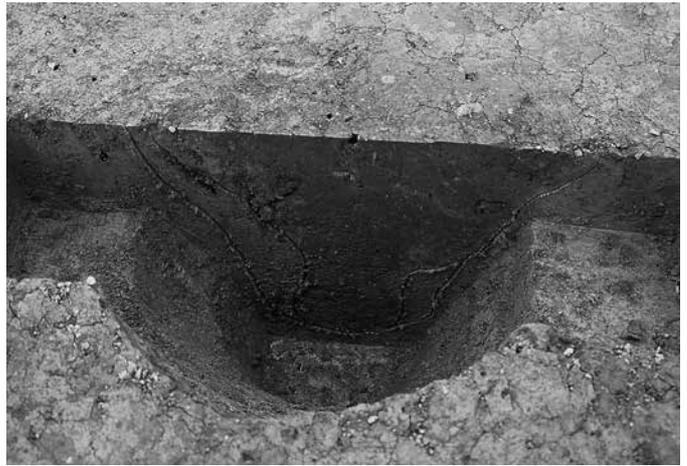
SB884-P875 土層断面 (南から)



SB884 完掘 (南から)



SB962 完掘 (南から)



SB1528-P1530 土層断面 (南から)



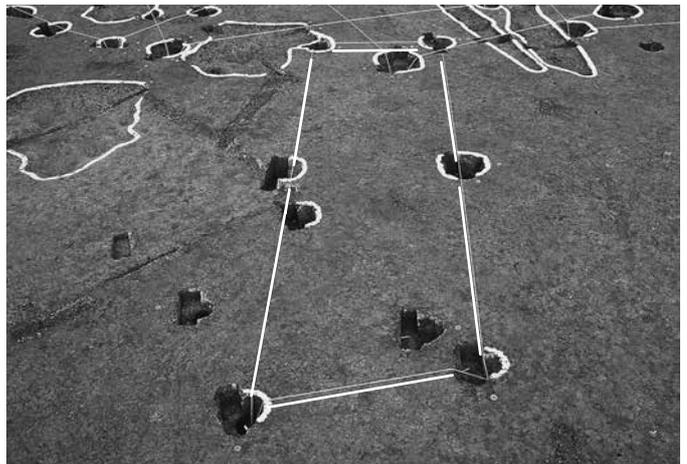
SB1528-P1531 土層断面 (西から)



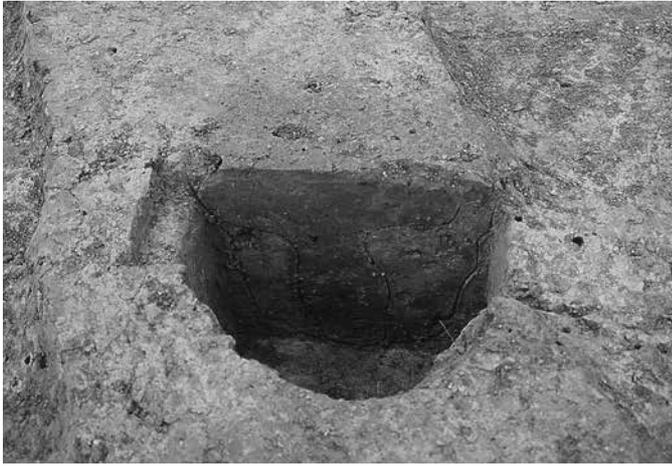
SB1528 完掘 (東から)



SB1507-P1509 土層断面 (南から)



SB1507 完掘 (東から)



SB1444-P1445 土層断面 (南から)



SB1444 完掘 (東から)



SB1430-P1431 土層断面 (南から)



SB1430 完掘 (北東から)



SB1578-P1560 土層断面 (東から)



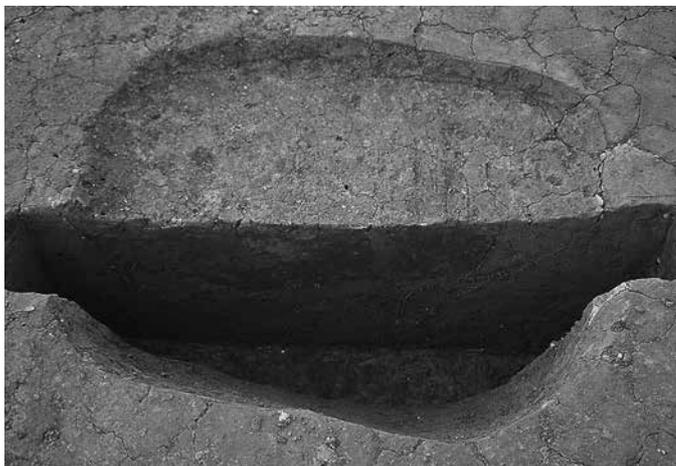
SB1578 完掘 (西から)



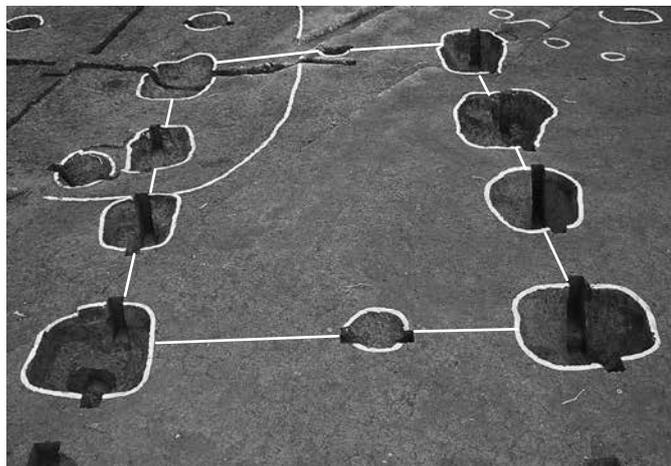
SB842-P834 土層断面 (西から)



SB842-P837 土層断面 (東から)



SB842-P838 土層断面 (東から)



SB842 完掘 (南から)



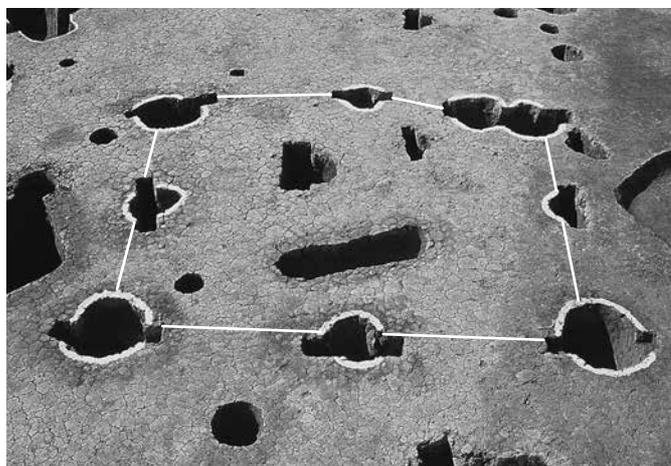
SB270-P268 土層断面 (北から)



SB270 完掘 (北から)



SB250-P222 土層断面 (南東から)



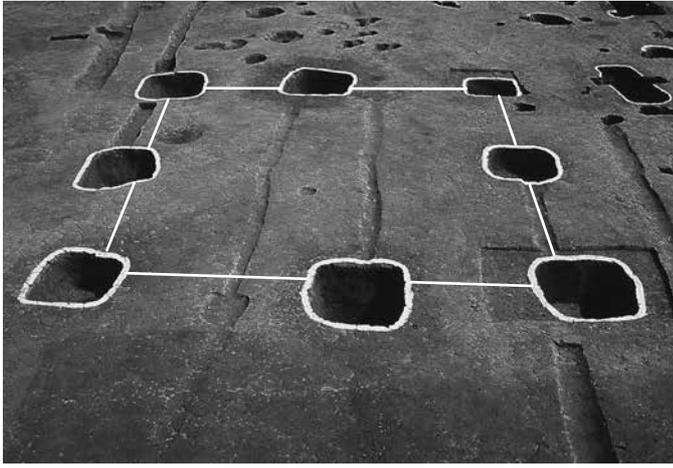
SB250 完掘 (南東から)



SB300-P302 土層断面 (西から)



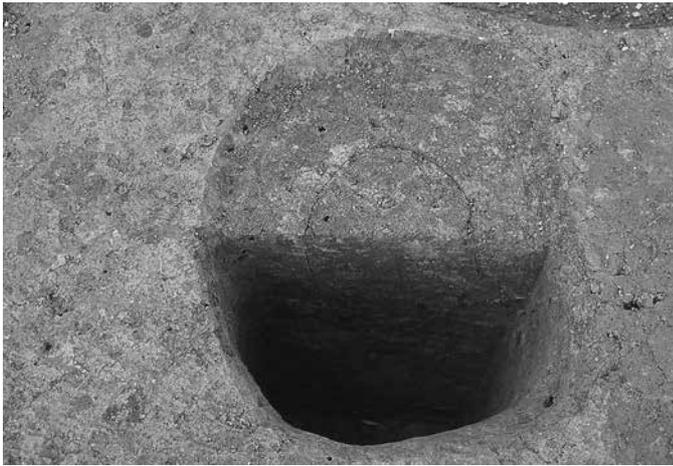
SB300-P308 土層断面 (南から)



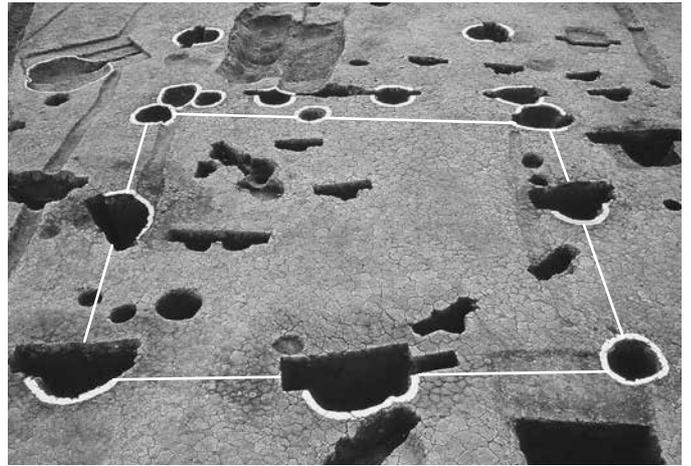
SB300 完掘 (南西から)



SB370-P231・247 土層断面 (西から)



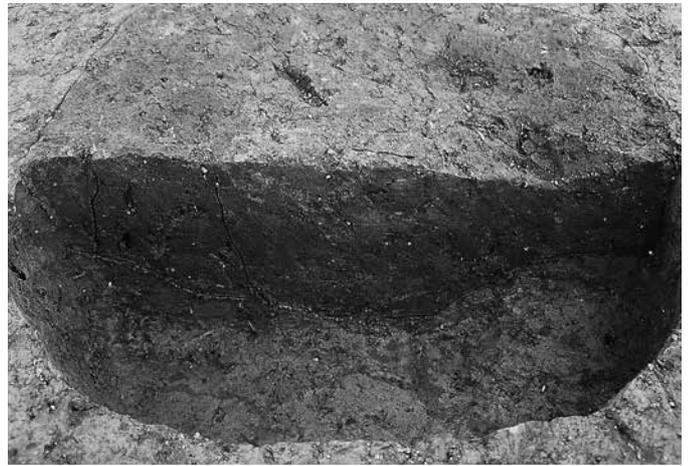
SB370-P258 土層断面 (北から)



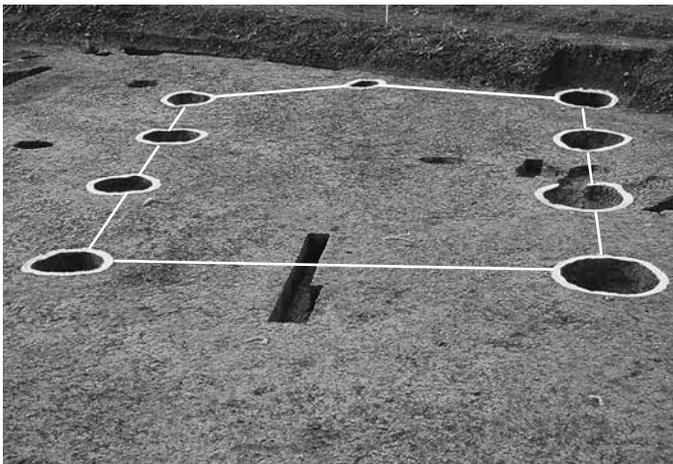
SB370 完掘 (東から)



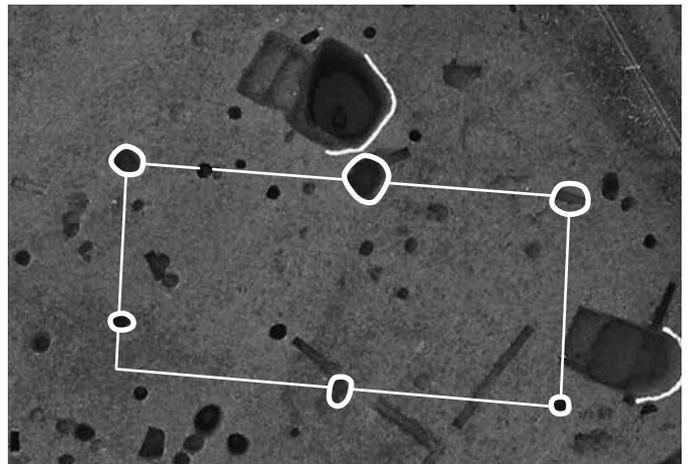
SB961-P960 土層断面 (南東から)



SB961-P991 土層断面 (南西から)



SB961 完掘 (南東から)



SB967 完掘 (東から)



SE1077 土層断面 (南から)



SE1077 遺物出土状況 (南から)



SE870 土層断面 (西から)



SE870 遺物出土状況 (西から)



SE1564 土層断面 (東から)



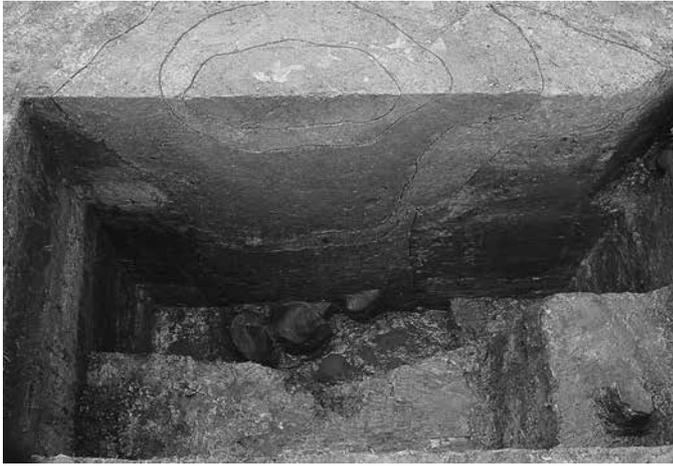
SE1564 遺物出土状況 (東から)



SE1574 土層断面 (南西から)



SE1574 完掘 (南西から)



SE1575 土層断面（北東から）



SE1575 完掘（北東から）



SE1552 土層断面（南から）



SE1552 完掘（南から）



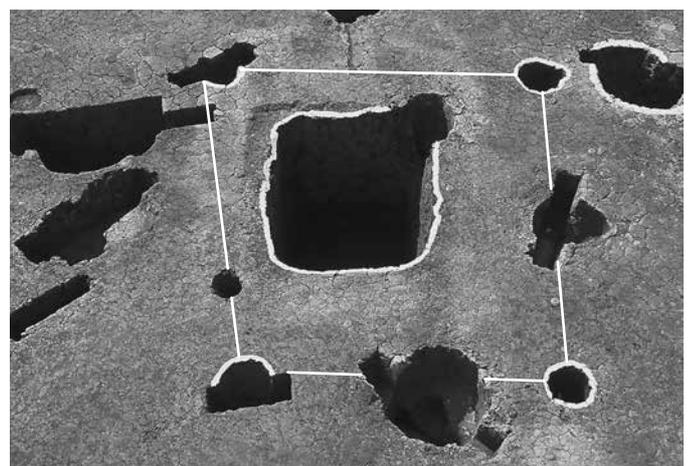
SE296 土層断面（東から）



SE296 遺物出土状況（東から）



SE296 完掘（東から）



SE296・SB1580 完掘（東から）



SE953 土層断面 (南から)



SE953 完掘 (南から)



SE954 土層断面 (南から)



SE954 完掘 (南から)



SE955 土層断面 (南から)



SE955 完掘 (南から)



SE956 土層断面 (南から)



SE956 遺物出土状況 (南から)



SE957 土層断面 (南から)



SE957 完掘 (南から)



SE964 土層断面 (南から)



SE964 完掘 (南から)



SE965 土層断面 (南から)



SE965 遺物出土状況 (北から)



SE966 土層断面 (南から)



SE966 遺物出土状況 (南から)



SE999 土層断面 (南から)



SE999 遺物出土状況 (南から)



SE1000 土層断面 (南から)



SE1000 完掘 (西から)



SK1025 土層断面 (南から)



SK1025 完掘 (北から)



SK1045 土層断面 (東から)



SK1045 完掘 (北から)



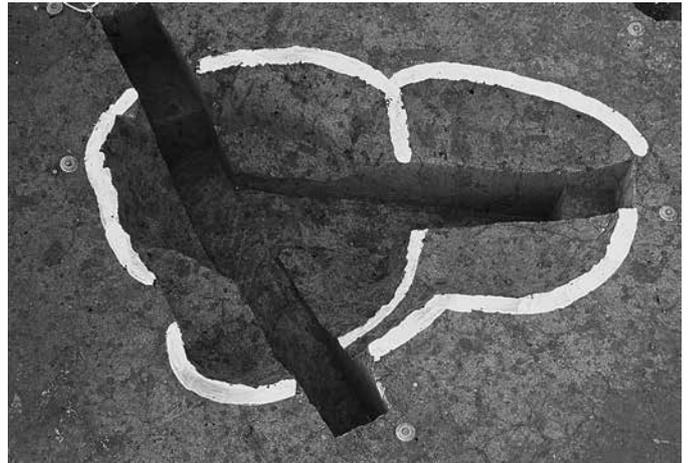
SK1032 土層断面 (南から)



SK1060 土層断面 (北東から)



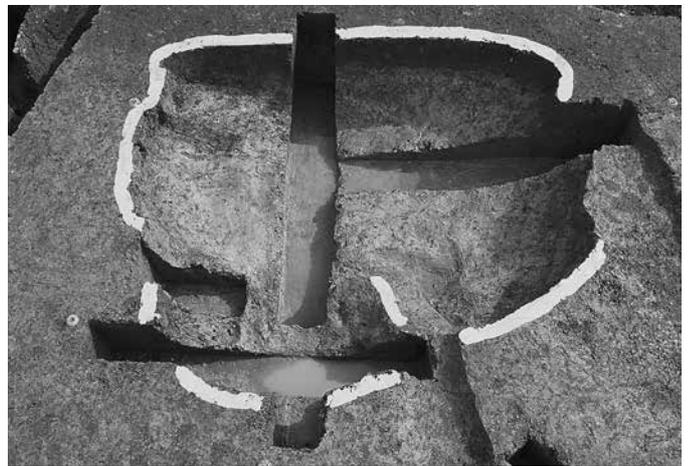
SK1060 完掘 (南から)



SK1071・1069 完掘 (南から)



SK1107・1131 土層断面 (南から)



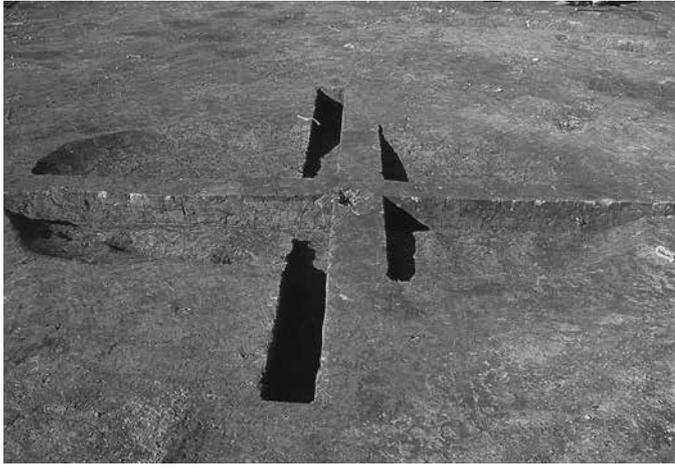
SK1107・1131 完掘 (西から)



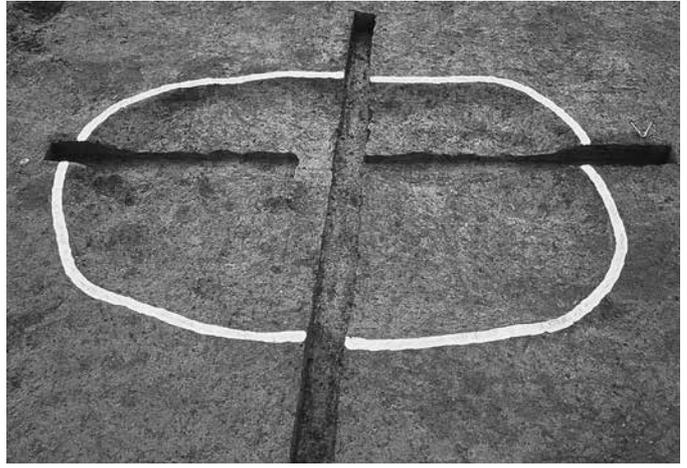
SX1186 土層断面 (南から)



SK1143 完掘 (西から)



SK1177 土層断面 (南から)



SK1177 完掘 (北から)



SK1179 土層断面 (南東から)



SK1179 完掘 (北西から)



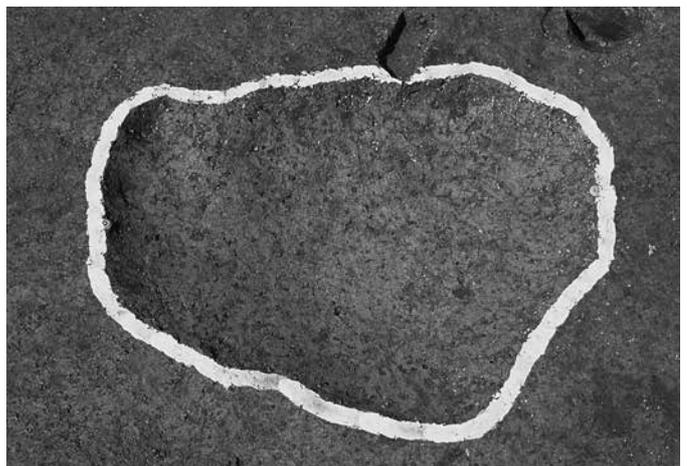
SK1280 土層断面 (西から)



SK1280 完掘 (西から)



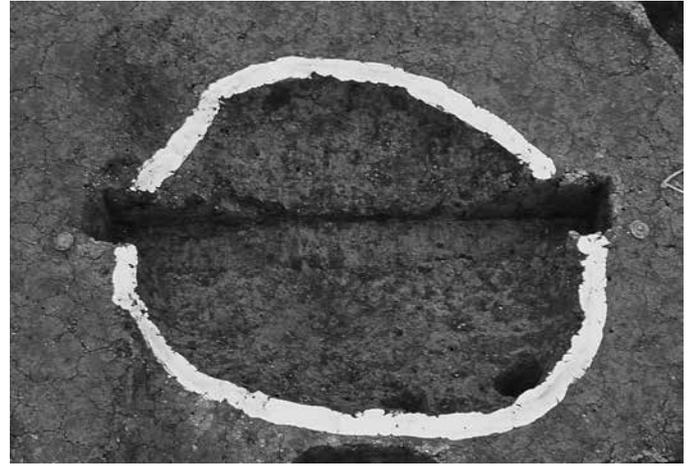
SK613 土層断面 (東から)



SK613 完掘 (東から)



SK615・SD616 土層断面 (西から)



SK615 完掘 (東から)



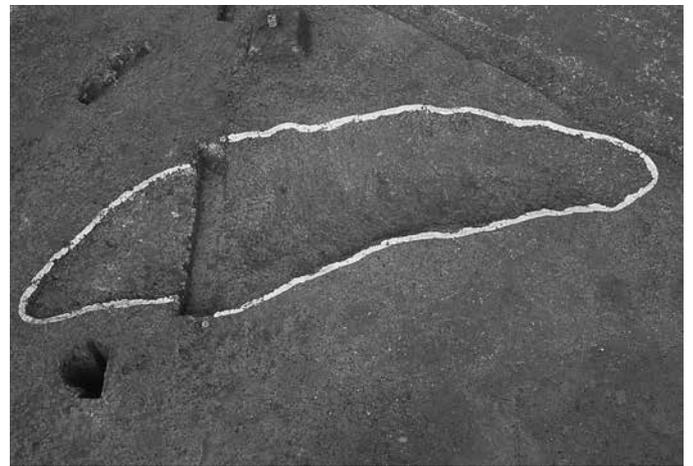
SK466 土層断面 (北西から)



SK466 完掘 (西から)



SK467 土層断面 (北西から)



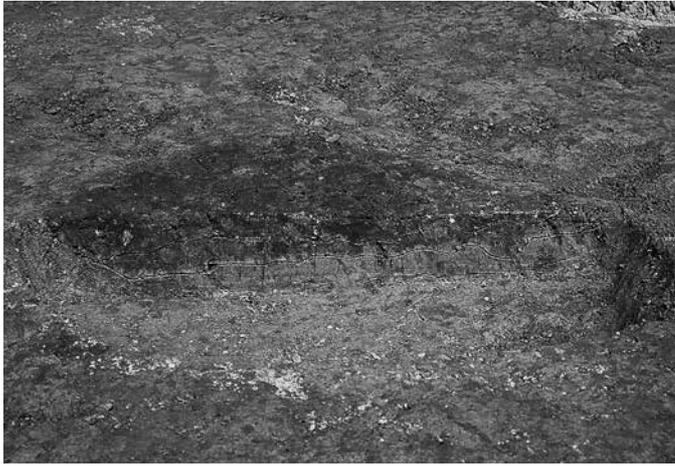
SK467 完掘 (南西から)



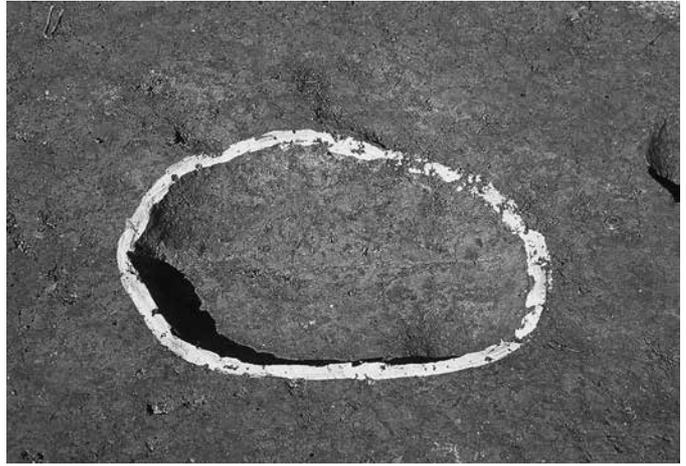
SK468 完掘 (南から)



SK1401 完掘 (南から)



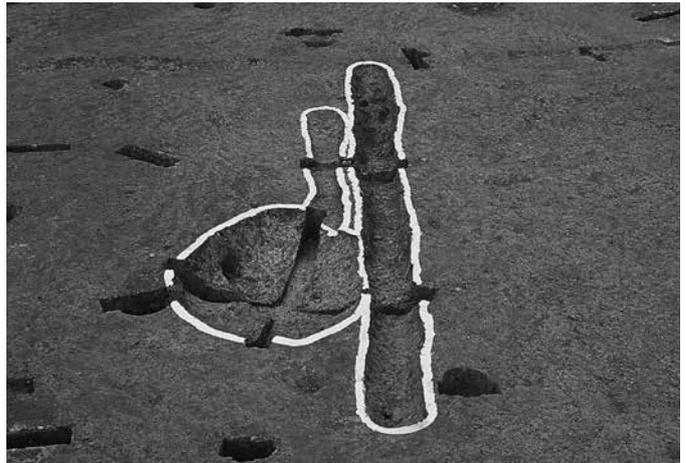
SK1402 土層断面 (南から)



SK1402 完掘 (南から)



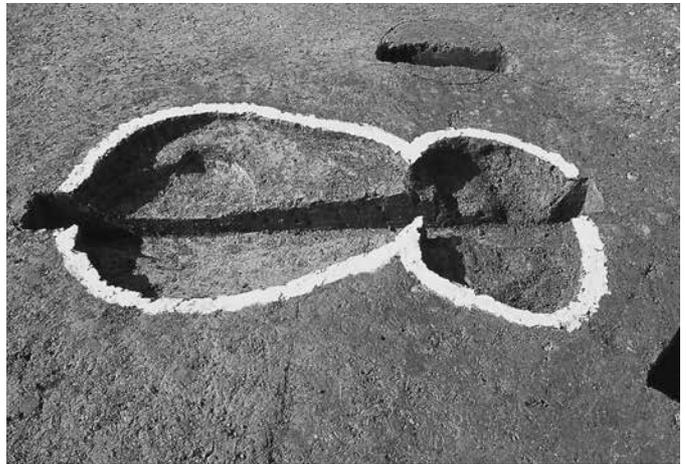
SK1470 土層断面 (南から)



SK1470・SD1475 完掘 (南から)



SK1472 土層断面 (東から)



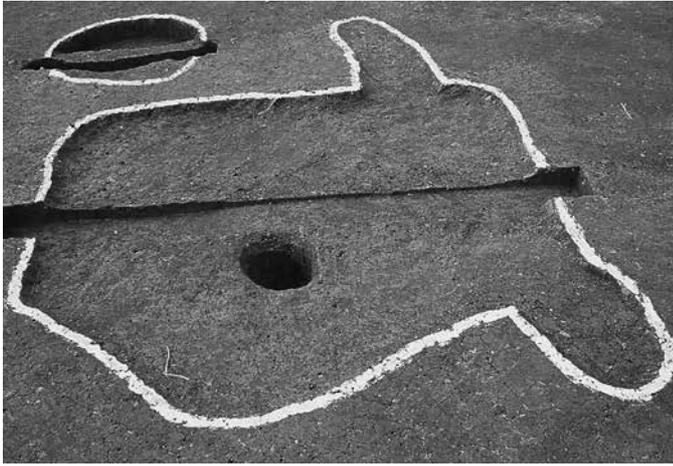
SK1472・P1473 完掘 (南東から)



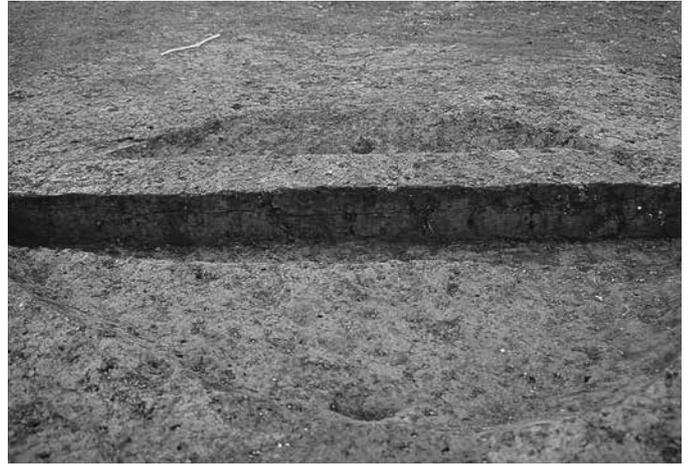
SK821 土層断面 (南東から)



SK823 土層断面 (南東から)



SK821・823 完掘（南東から）



SK824 土層断面（南東から）



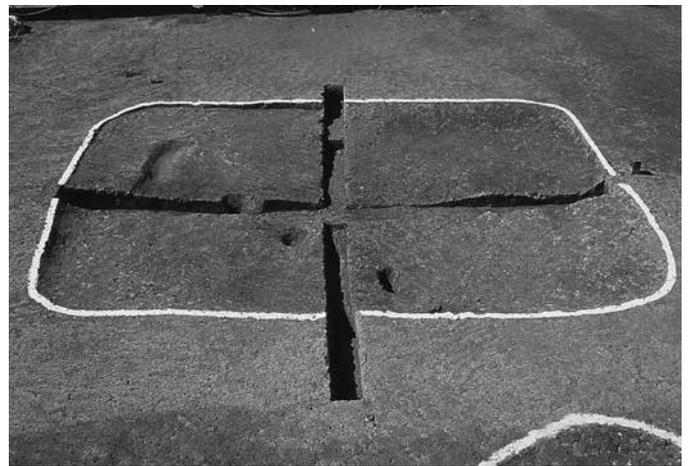
SK824 完掘（南東から）



SK1174 土層断面（南から）



SK826 土層断面（南東から）



SK826 完掘（南東から）



SK822 土層断面（南から）



SK822 完掘（南から）



SK929・SD789 土層断面 (北から)



SK929 土層断面 (南から)



SK951 土層断面 (東から)



SK951 完掘 (東から)



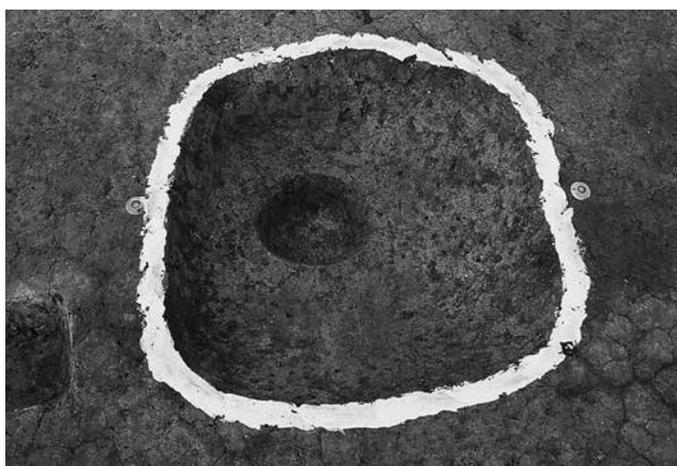
SK297 土層断面 (西から)



SK297 完掘 (北から)



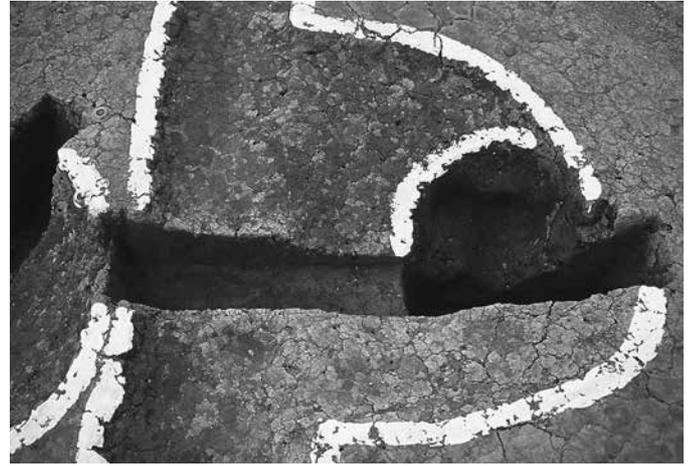
SK354 土層断面 (南から)



SK354 完掘 (南から)



SK409 · SD406 · P411 土層断面 (東から)



SK409 · P411 完掘 (東から)



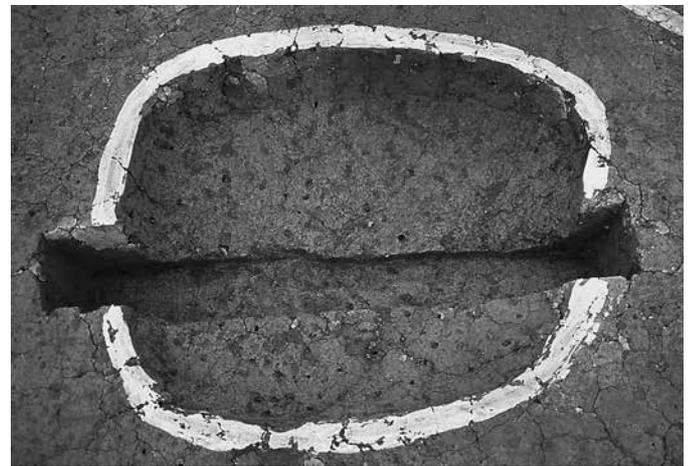
SK428 · SD407 土層断面 (南から)



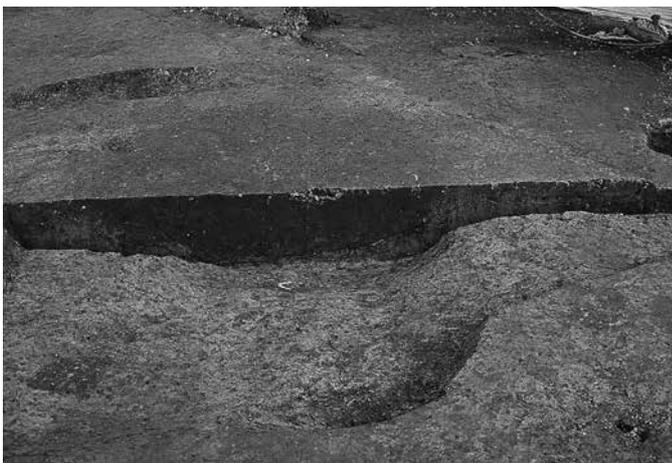
SK428 完掘 (南から)



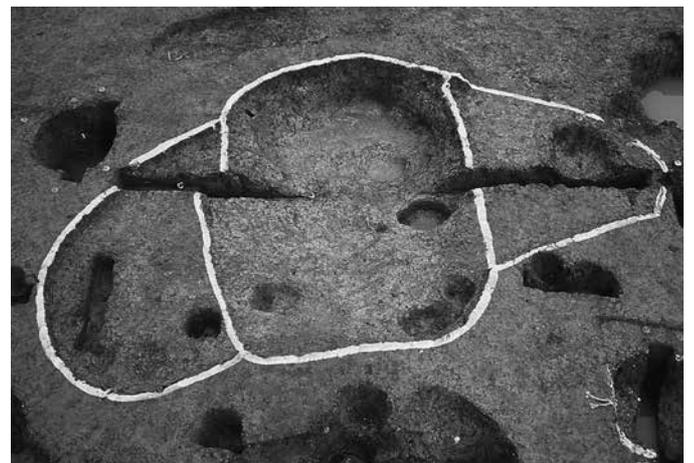
SK885 土層断面 (南から)



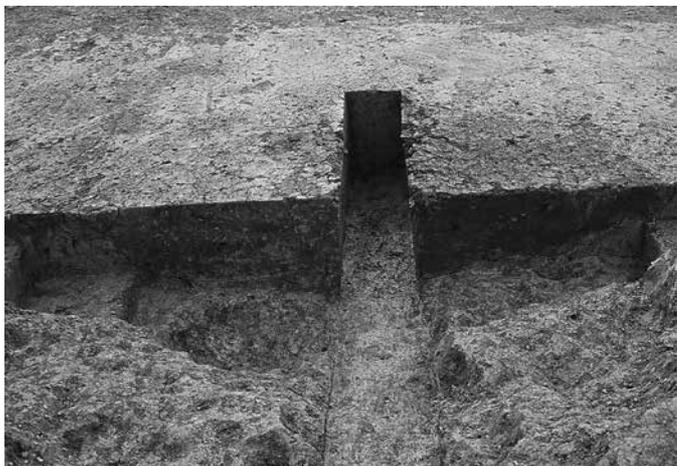
SK885 完掘 (南から)



SK889 · 890 · 915 土層断面 (南から)



SK889 · 890 · 915 完掘 (南から)



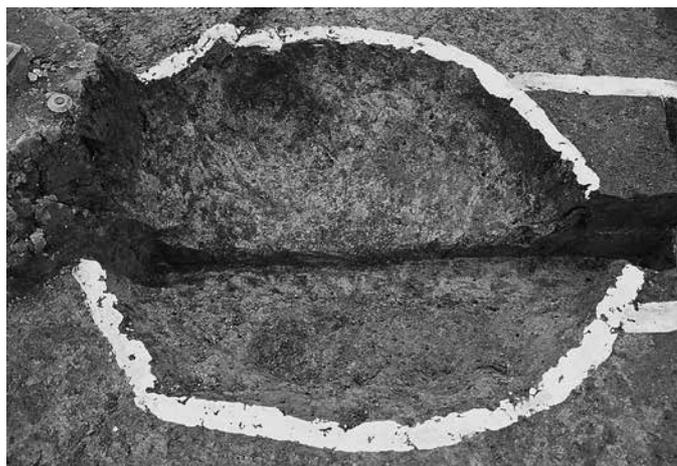
SK1429 土層断面（北東から）



SK1429 完掘（南から）



SK844 土層断面（西から）



SK844 完掘（西から）



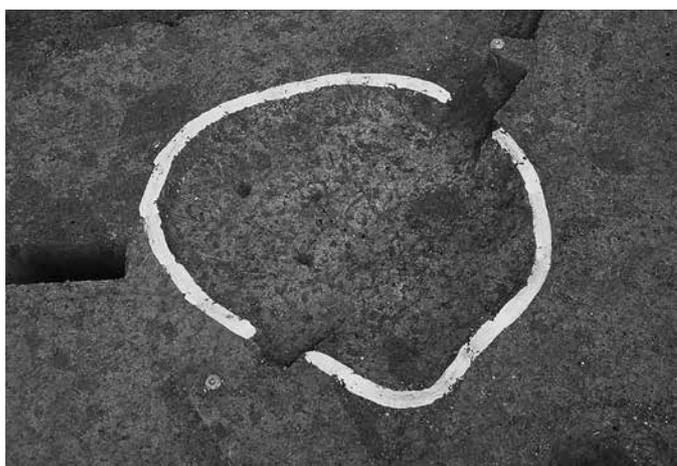
SK857 土層断面（北西から）



SK1425 土層断面（南から）



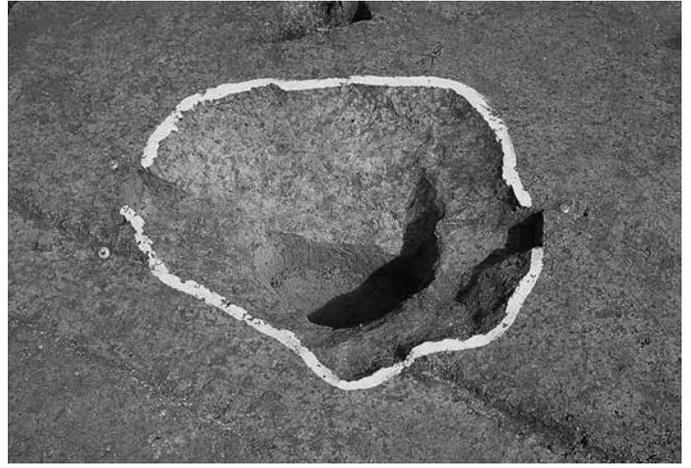
SK1425 遺物出土状況（南から）



SK1425 完掘（南から）



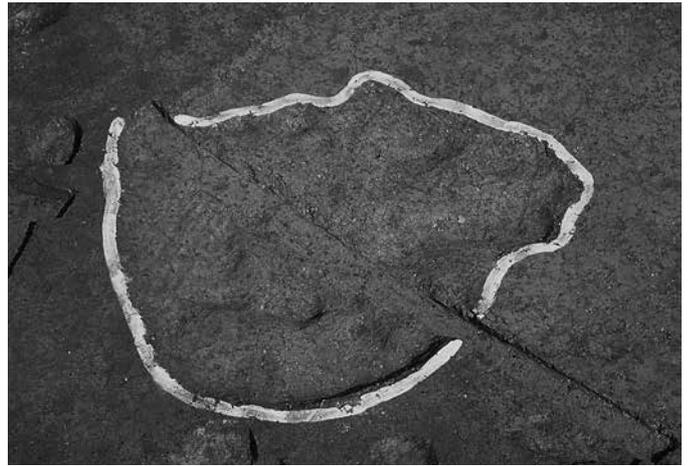
SK1420 土層断面 (南から)



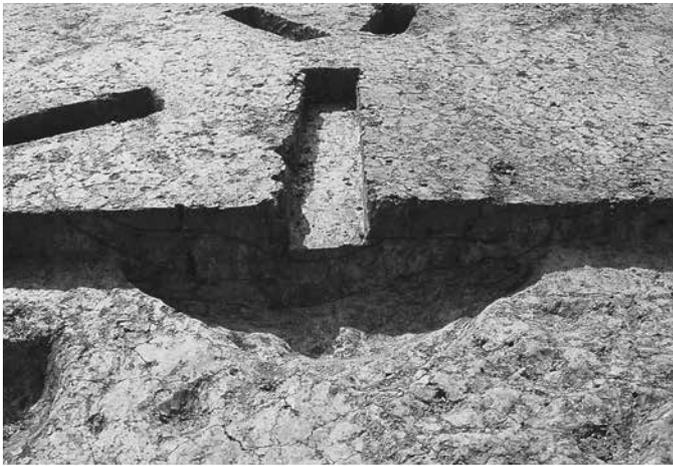
SK1420 完掘 (南から)



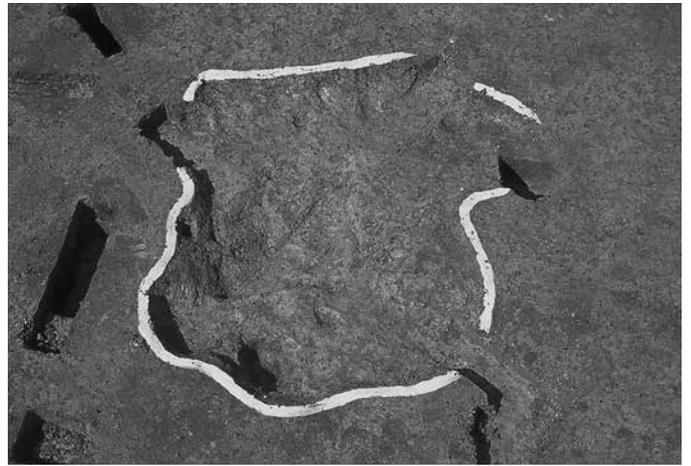
SK1421 土層断面 (北東から)



SK1421 完掘 (南から)



SK1426 土層断面 (東から)



SK1426 完掘 (東から)



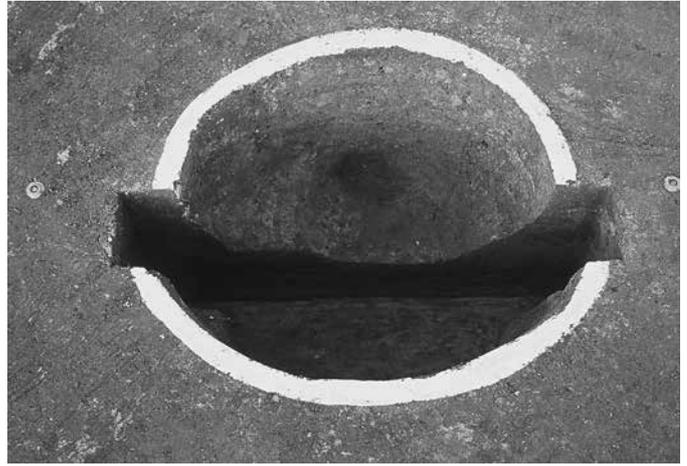
SK1303 土層断面 (南東から)



SK1303 完掘 (南東から)



SK1563 土層断面 (南から)



SK1563 完掘 (南から)



SK206 土層断面 (南から)



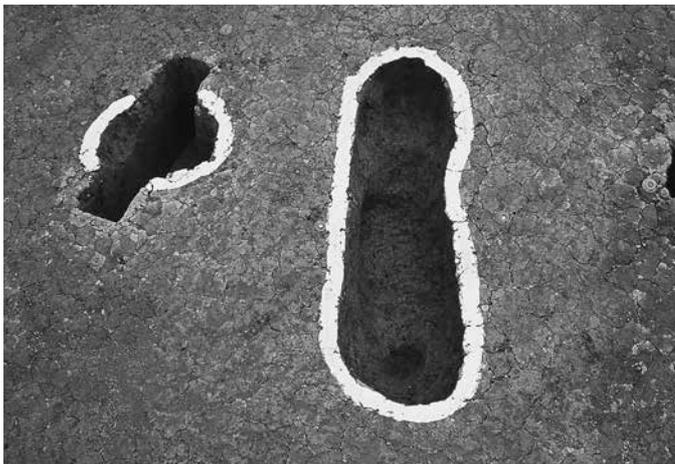
SK221 土層断面 (東から)



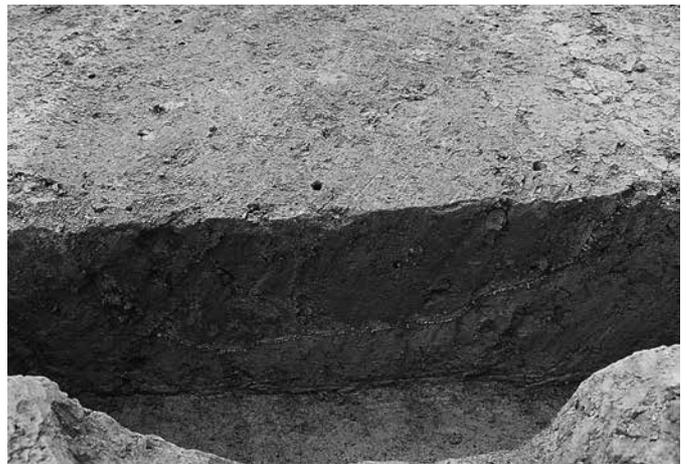
SK221 完掘 (北から)



SK286 土層断面 (北から)



SK286 完掘 (北から)



SK400 土層断面 (東から)



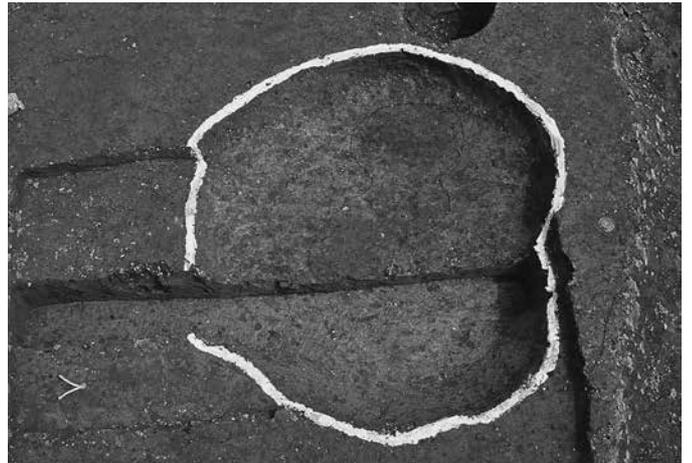
SK1203 土層断面（東から）



SK400・1203 完掘（西から）



SK284 土層断面（南から）



SK284 焼土 検出状況（南西から）



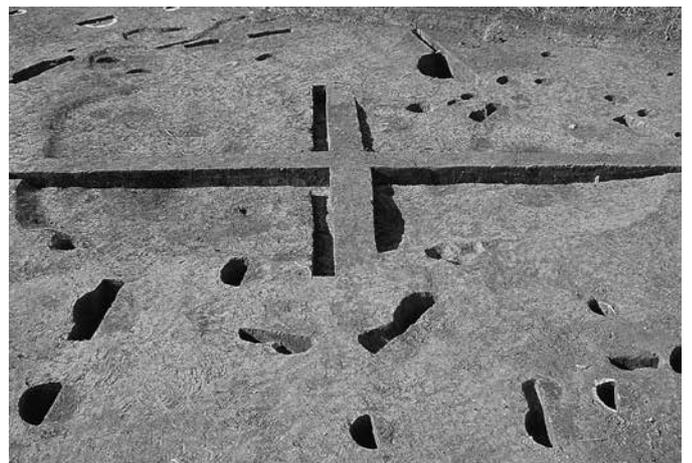
SX886 土層断面（東から）



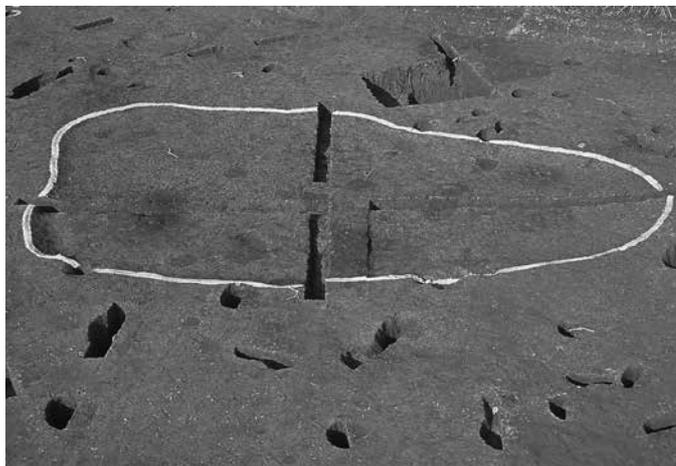
SD900 土層断面（東から）



SX886・SD900 完掘（東から）



SX958 土層断面（南東から）



SX958 完掘 (南東から)



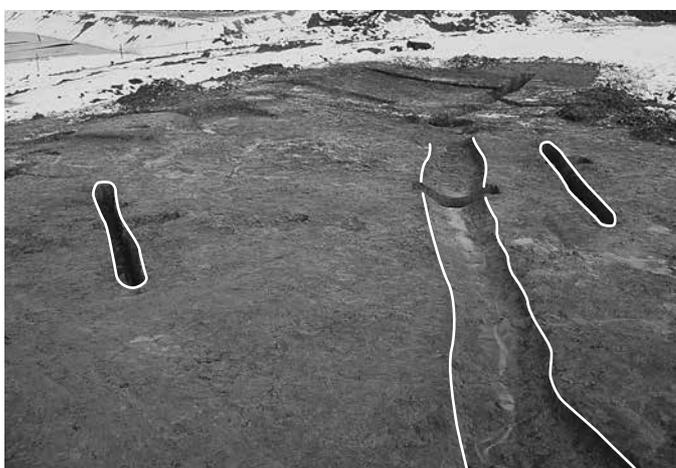
TP1304 土層断面 (南から)



TP1304・SD1551 土層断面 (北から)



TP1305 土層断面 (南から)



TP1304・1305、SD1302 完掘 (南から)



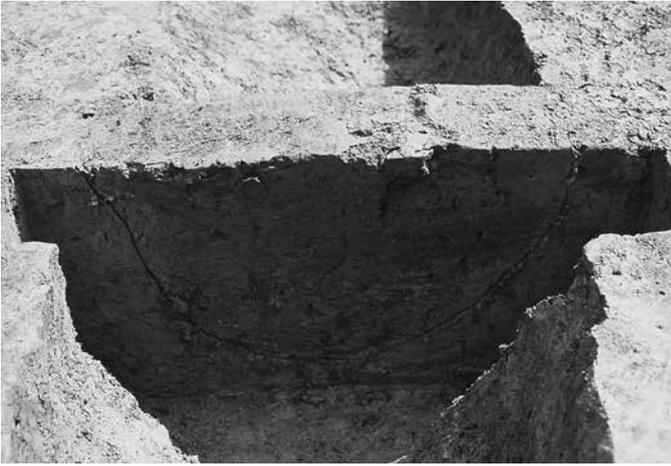
SD782・789、P784 土層断面 (西から)



SD789 土層断面 (南から)



SD913 土層断面 (東から)



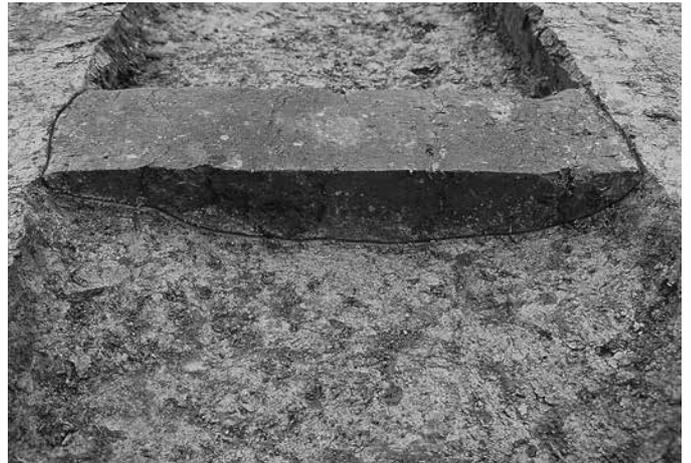
SD866 土層断面 (西から)



SD845 土層断面 (南から)



SD1302 土層断面 (南から)



SD1551 土層断面 (東から)



SD322 土層断面 (南から)



SD1220 土層断面 (南東から)



SD1220 土層断面 (南西から)



SD1220 完掘 (南から)



SI1058 (1~8) · SI1185 (9~12) · SI570 (13~15)  
 S=1/3 (2.7.8) S=1/4 (1.3~6.9~15)



SI570 (16~28) ・SI1403 (29) ・SI601 (30.31) SI833 (32.33) ・SI1054 (34~37)  
 S=1/3 (21~24.29.31~33) S=1/4 (16~20.25~28.30.34~37)



38



39



40



41



42



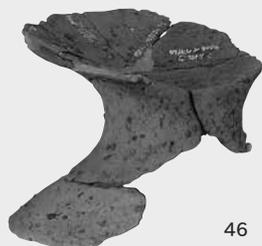
44



43



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55

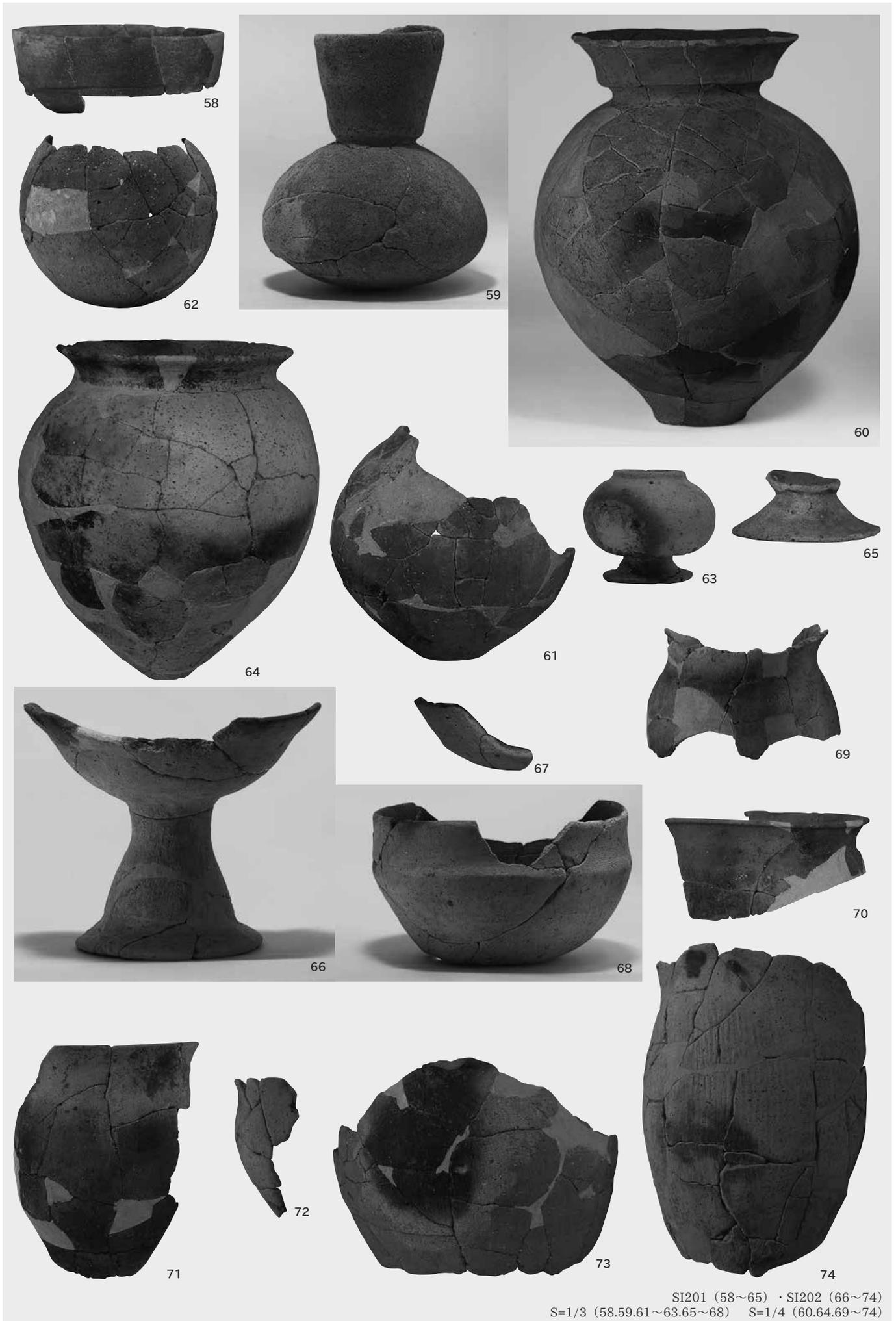


56

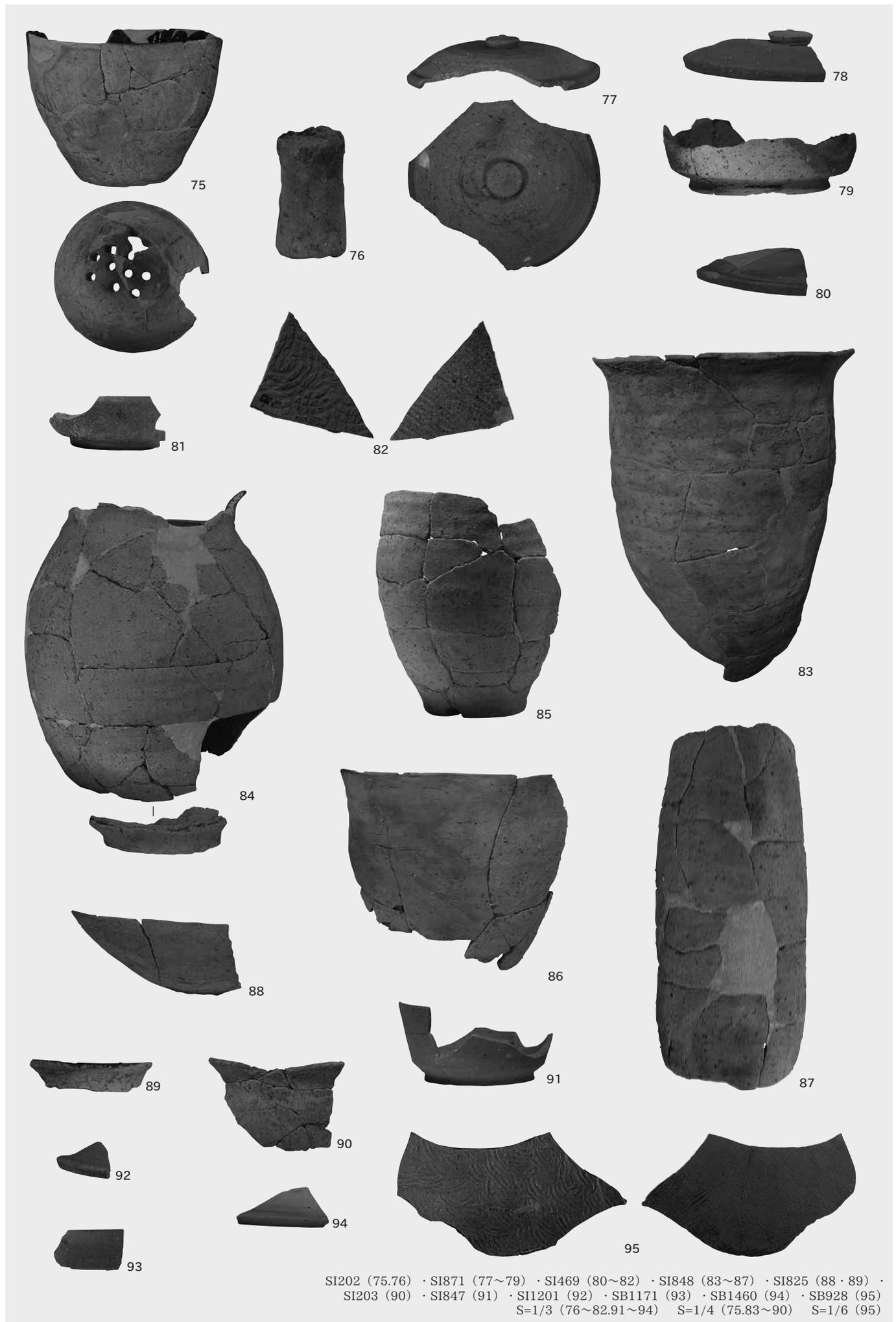


57

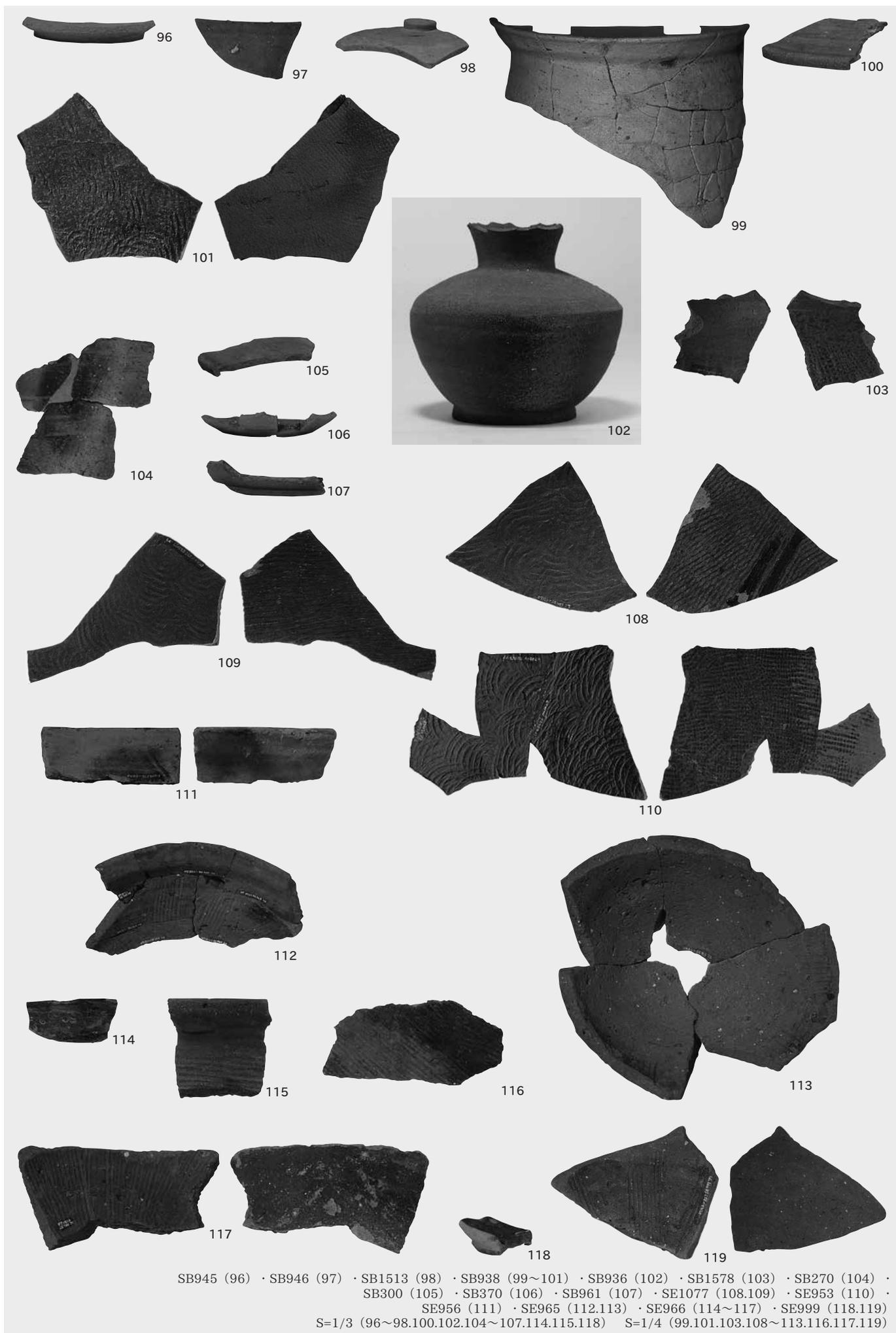
SI930 (38) · SI931 (39~43) · SI201 (44~57)  
 S=1/3 (38.42.43.45~57) S=1/4 (39~41.44)



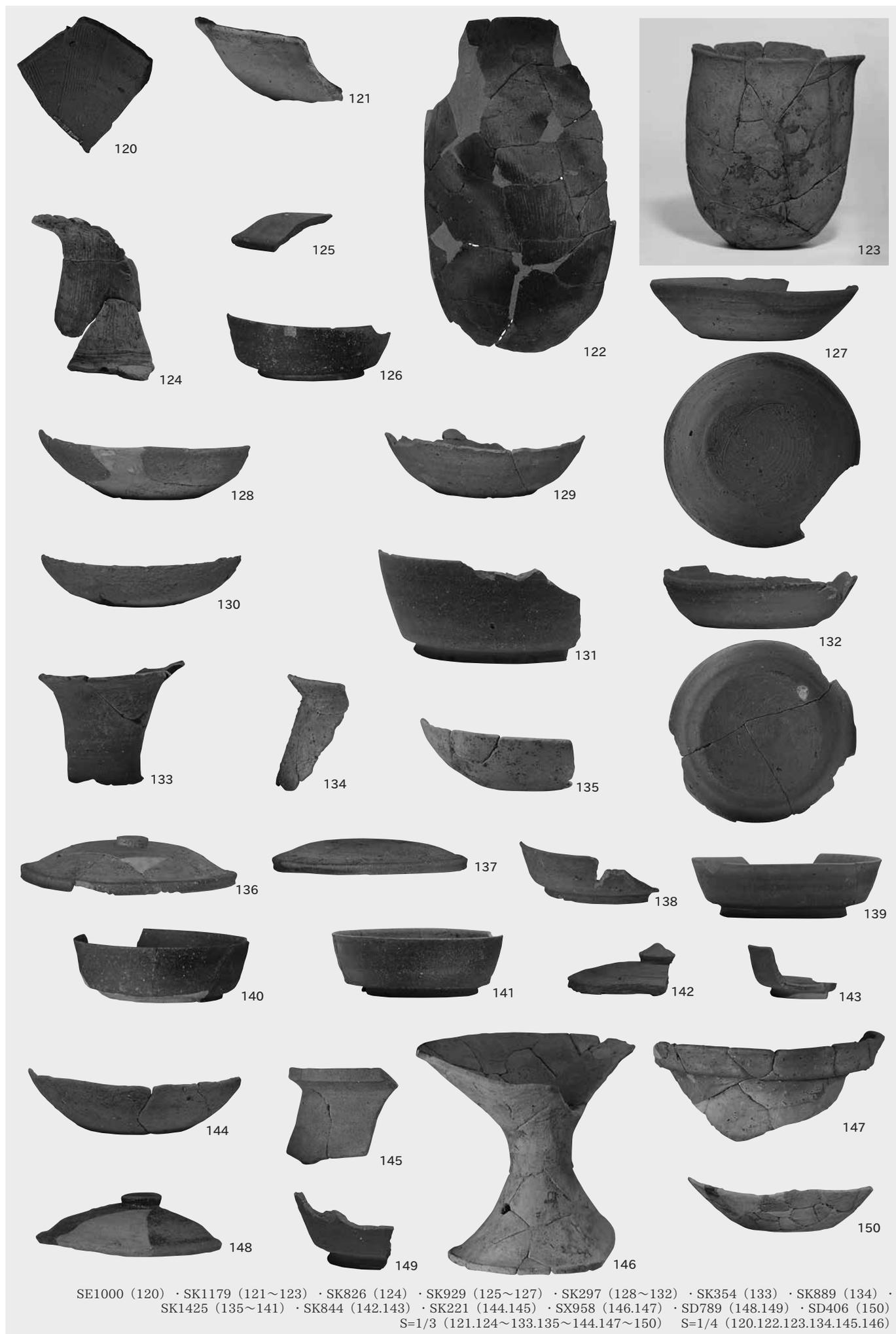
S1201 (58~65) · S1202 (66~74)  
 S=1/3 (58.59.61~63.65~68) S=1/4 (60.64.69~74)



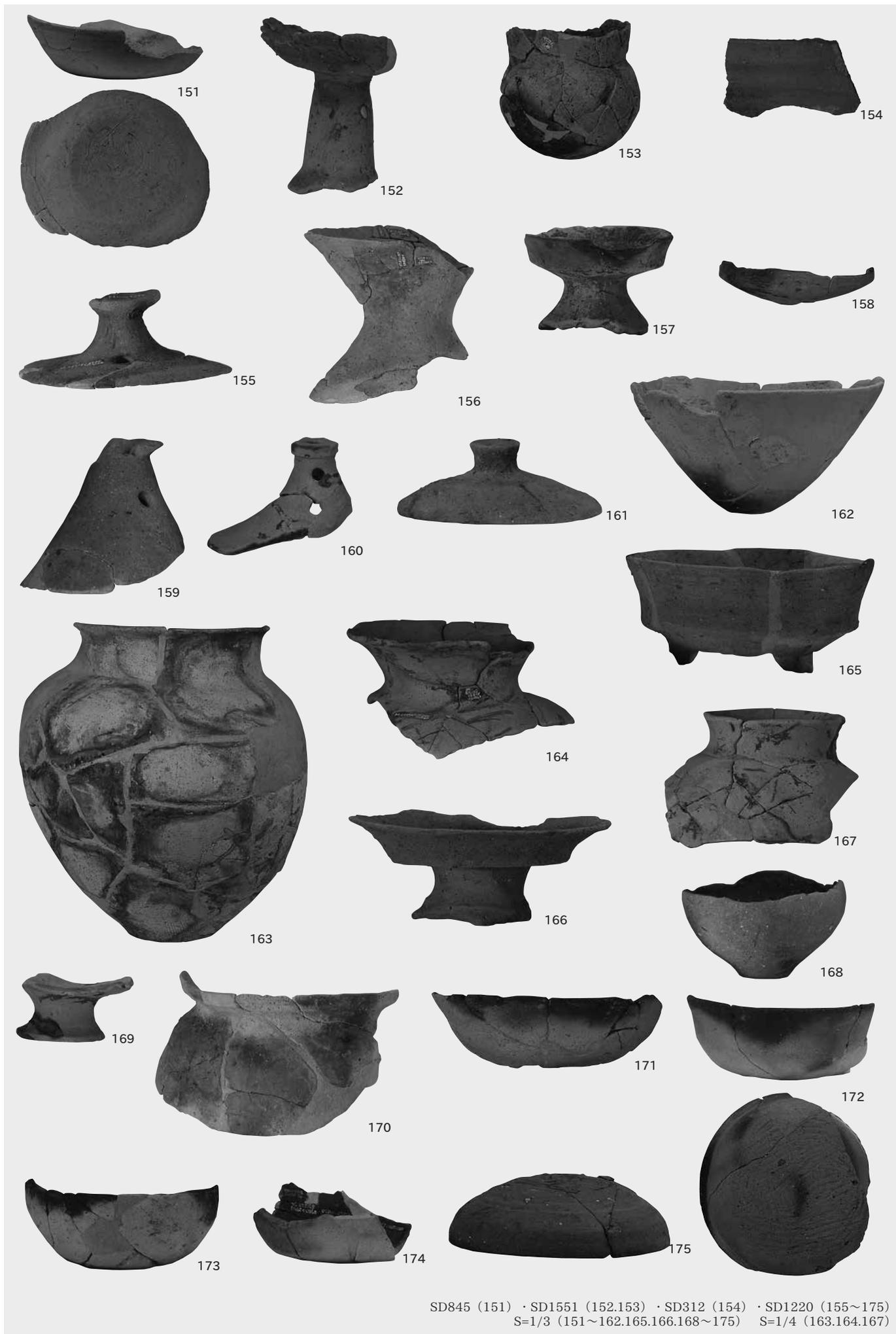
SI202 (75.76) · SI871 (77~79) · SI469 (80~82) · SI848 (83~87) · SI825 (88·89) ·  
 SI203 (90) · SI847 (91) · SI1201 (92) · SB1171 (93) · SB1460 (94) · SB928 (95)  
 S=1/3 (76~82.91~94) S=1/4 (75.83~90) S=1/6 (95)



SB945 (96) · SB946 (97) · SB1513 (98) · SB938 (99~101) · SB936 (102) · SB1578 (103) · SB270 (104) · SB300 (105) · SB370 (106) · SB961 (107) · SE1077 (108.109) · SE953 (110) · SE956 (111) · SE965 (112.113) · SE966 (114~117) · SE999 (118.119)  
 S=1/3 (96~98.100.102.104~107.114.115.118) S=1/4 (99.101.103.108~113.116.117.119)



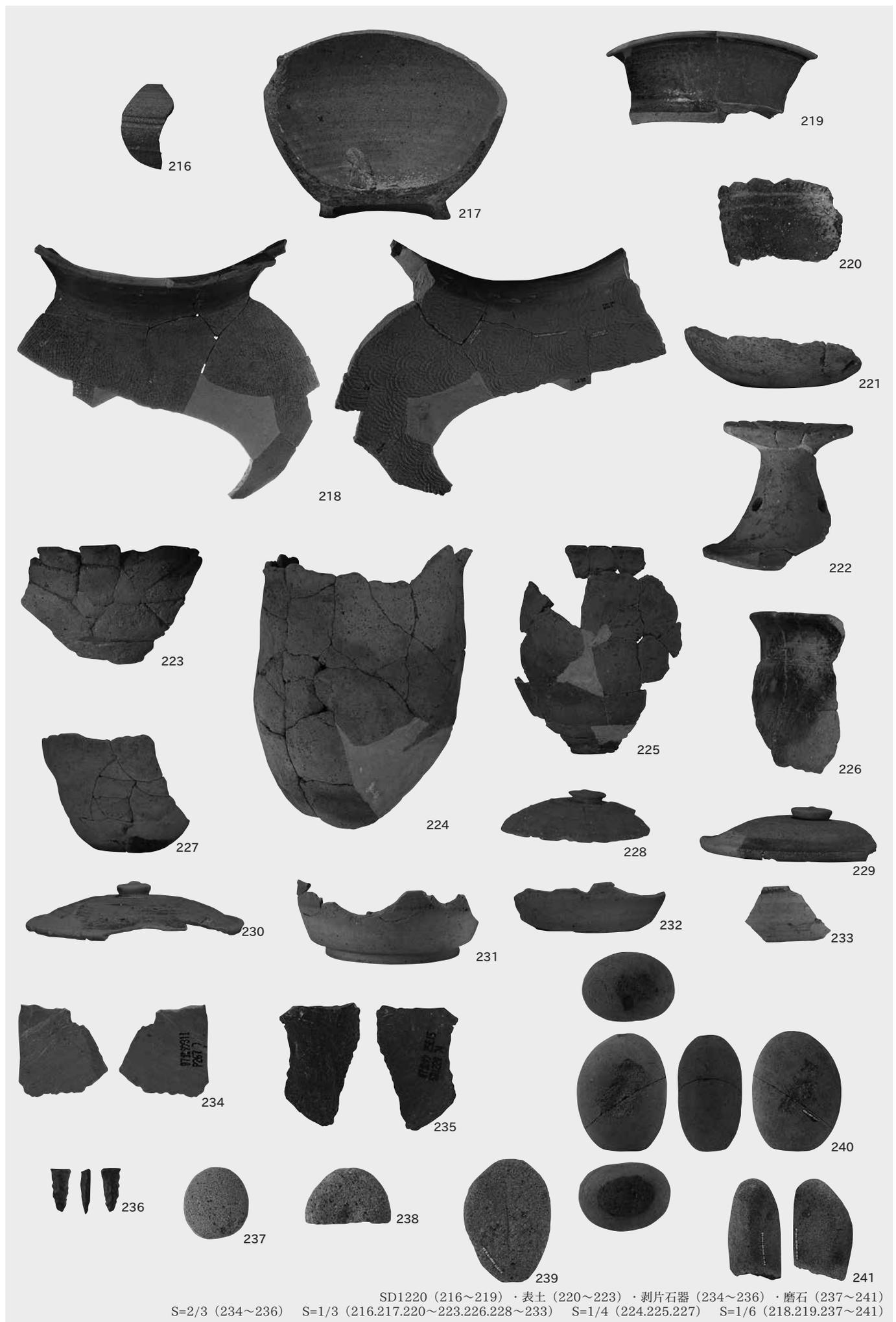
SE1000 (120) · SK1179 (121~123) · SK826 (124) · SK929 (125~127) · SK297 (128~132) · SK354 (133) · SK889 (134) · SK1425 (135~141) · SK844 (142.143) · SK221 (144.145) · SX958 (146.147) · SD789 (148.149) · SD406 (150) S=1/3 (121.124~133.135~144.147~150) S=1/4 (120.122.123.134.145.146)



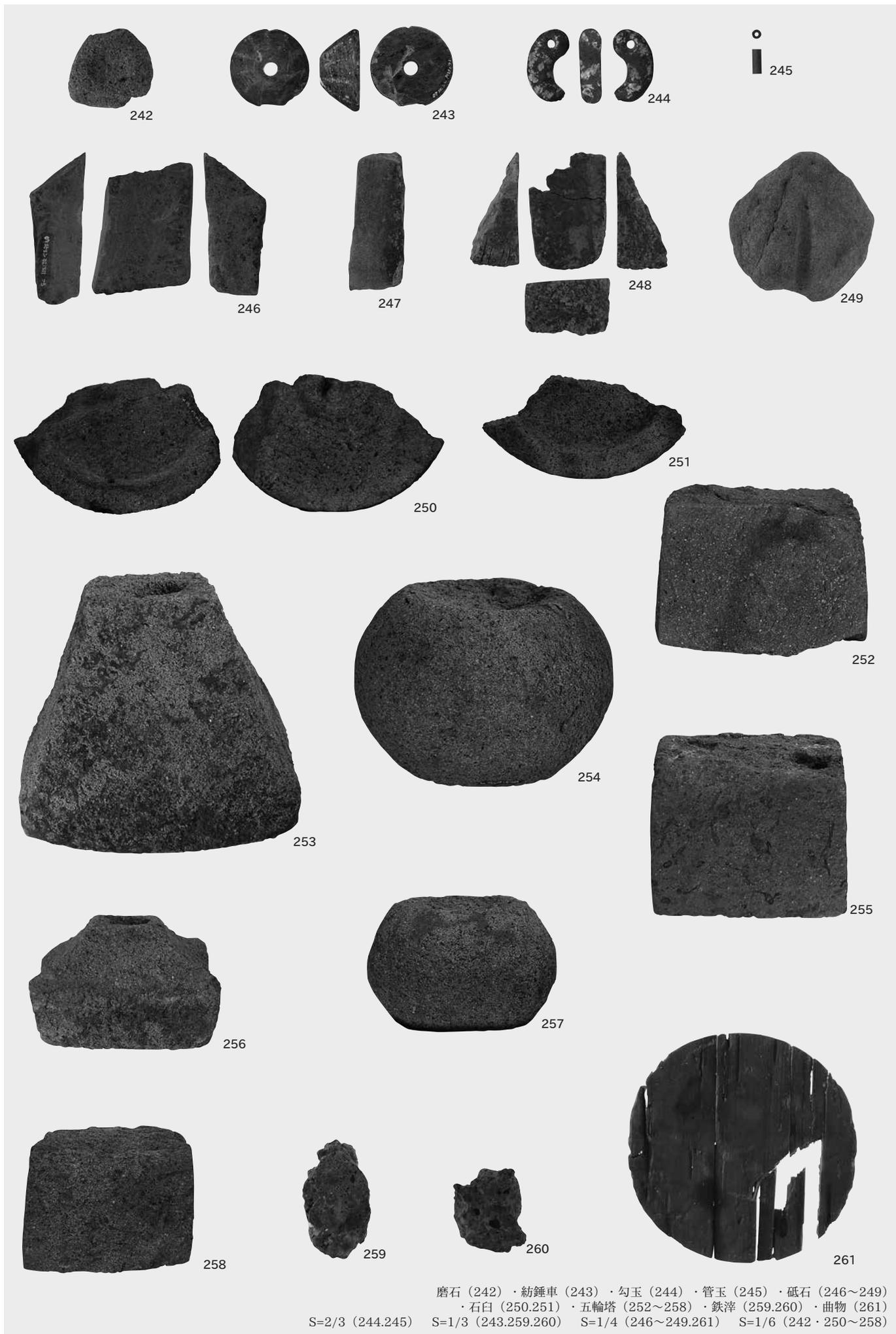
SD845 (151) ・SD1551 (152.153) ・SD312 (154) ・SD1220 (155~175)  
S=1/3 (151~162.165.166.168~175) S=1/4 (163.164.167)



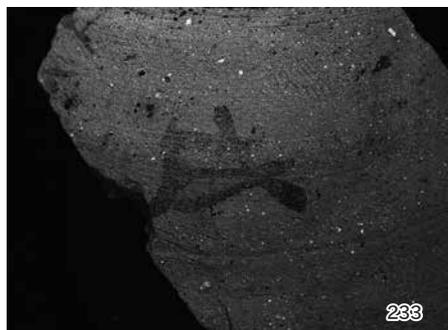
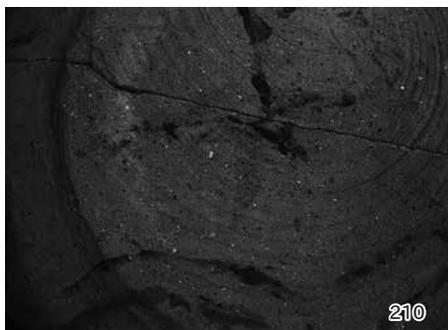
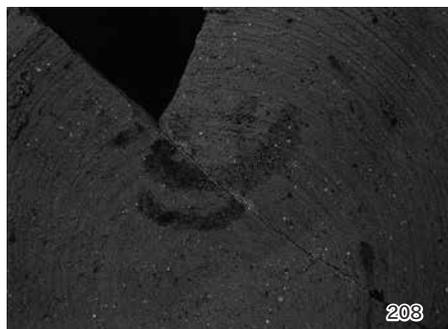
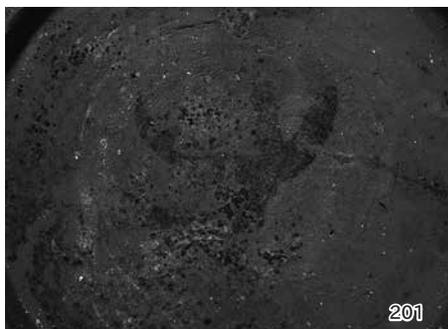
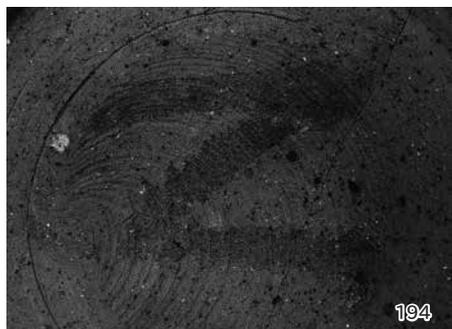
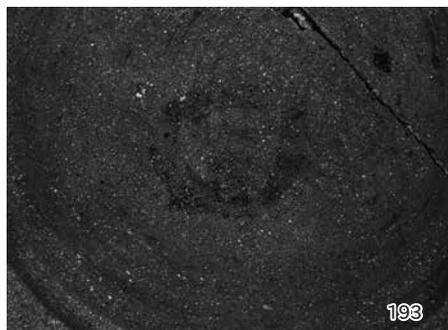
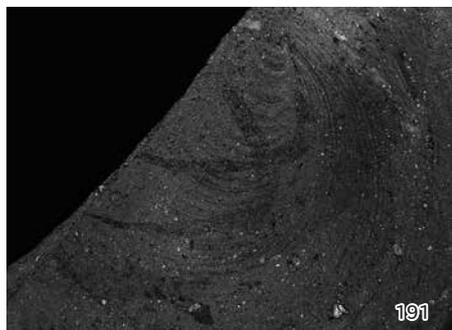
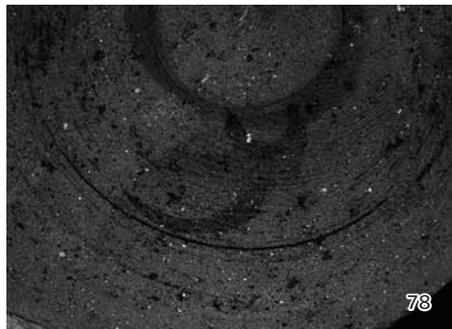




SD1220 (216~219) · 表土 (220~223) · 剥片石器 (234~236) · 磨石 (237~241)  
 S=2/3 (234~236) S=1/3 (216.217.220~223.226.228~233) S=1/4 (224.225.227) S=1/6 (218.219.237~241)



磨石 (242)・紡錘車 (243)・勾玉 (244)・管玉 (245)・砥石 (246~249)  
 ・石臼 (250.251)・五輪塔 (252~258)・鉄滓 (259.260)・曲物 (261)  
 S=2/3 (244.245) S=1/3 (243.259.260) S=1/4 (246~249.261) S=1/6 (242・250~258)



# 報告書抄録

ふりがな	きたまえだいせき いち・きたしんでんいせき いち							
書名	北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ							
副書名	北陸新幹線関係発掘調査報告書							
巻次	X							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第197集							
編著者名	金内 元・小村正之・鈴木文夫・大谷祐司・秋山泰利・本田仁美（株式会社ノガミ）、千葉博俊・斉藤崇人・伊藤良永・馬場健司・高橋 敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）、高橋保雄・田中一穂（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250 (25) 3981							
発行年月日	2008（平成20）年11月28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたまえだいせき 北前田遺跡	にいがたけんじょうえつしおお 新潟県上越市大 あざかみなかた あぎきたまえ 字上中田字北前 だ 田472番地ほか	15222	1502	37度 05分 22秒	138度 43分 42秒	20070425～ 20070801	3,110	北陸新幹線建設
きたしんでんいせき 北新田遺跡	にいがたけんじょうえつしおお 新潟県上越市大 あぎあらまちあぎきたしんでん 字荒町字北新田 313番地1ほか	15222	1503	37度 05分 15秒	138度 14分 30秒	20070709～ 20071206	6,550	北陸新幹線建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
北前田遺跡	集落跡	古墳時代前期 古代（8世紀中葉・ 9世紀中葉～後半・ 10世紀中葉）		掘立柱建物6棟 土坑11基 性格不明遺構3基 溝7条 ピット21基 河川跡3条		弥生土器、土師器、須 恵器、近世陶磁器、剥 片石器、石製紡錘車		古墳時代前期から 古代にかけて、断 続的に小規模な集 落を形成していた 可能性が高い。
北新田遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代前期 古墳時代後期 （7世紀前半～中葉） 古代（9世紀中葉） 中世（13世紀～15 世紀）		竪穴住居21軒 掘立柱建物36棟 井戸の上屋1棟 井戸17基 土坑59基 性格不明遺構3基 陥穴2基 溝142条 ピット871基 河川跡1条		縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、珠洲 焼、青磁、剥片石器、 磨石、勾玉、管玉、石 製紡錘車、砥石、石臼、 五輪塔、鉄滓、曲物		古墳時代前期から 中世にかけての集 落遺跡。特に7世 紀前半～中葉、及 び9世紀中葉に集 落規模が大きくな るものと推定され る。

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第197集  
北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅹ  
北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ

平成20年11月27日印刷  
平成20年11月28日発行

編集・発行 新潟県教育委員会  
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
電話 025(285)5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
電話 0250(25)3981  
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社 ハイングラフ  
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号  
電話 025(233)0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第197集『北前田遺跡Ⅰ 北新田遺跡Ⅰ』 正誤表

頁	位置	誤	正
抄録	北前田遺跡 東経	1 3 8 度 4 3 分 4 2 秒	1 3 8 度 1 4 分 2 2 秒